

青森市埋蔵文化財調査報告書 第65集

雲谷山吹(4)～(7)遺跡

発掘調査報告書

平成14年度

青森市教育委員会

雲谷山吹(4)～(7)遺跡

発掘調査報告書

平成14年度

青森市教育委員会

序

青森市では300を越える遺跡の所在が確認されており、縄文の昔から現在に至るまで自然に恵まれた豊かな住み良い土地であったことが伺い知れます。

長い歴史を経て、現在青森県の県都として、政治、経済の中心地となっている本市が平成10年度には市制施行100周年を迎えました。

その記念施設として、平成11年度に市内雲谷地区の青森公立大学隣接地に「(仮称)青森市芸術創作工房」(現国際芸術センター青森)の建設が計画され、当委員会では、建設予定地につきまして工事着工前の平成12年に試掘調査を実施した結果、これまで遺跡の所在が認められなかった地点から新たに遺構・遺物が確認され、雲谷山吹(4)～(7)の4遺跡の登録をおこないました。

開発計画と埋蔵文化財保護との調整において関係機関と協議し、記録保存のための発掘調査を実施することとなりました。

調査の結果、雲谷山吹(4)～(7)遺跡からは竪穴建物跡や土坑等を検出し、縄文時代と平安時代の集落跡であることが判明しました。

本書は、それらの成果を一冊にまとめたものであります。本書が本遺跡の理解と本市の歴史解明の一助となれば幸いと存じます。

最後となりましたが、本書を刊行できましたことは、ひとえに関係各機関・諸氏のご指導ご助言によるものと、深く感謝の意を表す次第であります。

平成15年3月

青森市教育委員会

教育長 角田 詮二郎

例 言

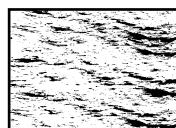
- 1．本書は、青森市（主管課：企画調整課）から青森市教育委員会が委託を受けて、平成12年度に発掘調査を実施した雲谷山吹（4）遺跡（青森県遺跡番号01303）、雲谷山吹（5）遺跡（青森県遺跡番号01304）、雲谷山吹（6）遺跡（青森県遺跡番号01305）、雲谷山吹（7）遺跡（青森県遺跡番号01306）の報告書である。
- 2．本書に記載される内容は、青森市が計画した（仮称）青森市芸術創作工房（現国際芸術センター青森）整備事業予定地内に関する部分についてまとめたものである。
- 3．調査面積は、雲谷山吹（4）遺跡が2,042㎡、雲谷山吹（5）遺跡が859㎡、雲谷山吹（6）遺跡が1,883㎡、雲谷山吹（7）遺跡が378㎡で、総調査面積は5,162㎡である。
- 4．雲谷山吹（4）遺跡・雲谷山吹（5）遺跡・雲谷山吹（6）遺跡・雲谷山吹（7）遺跡は、平成12年度に青森市教育委員会が実施した（仮称）青森市芸術創作工房整備事業予定地内埋蔵文化財試掘調査によって発見され、新規登録した遺跡である。遺跡範囲は通常の表面観察等による遺跡推定範囲とは異なり、試掘調査による内容確認後の範囲である。試掘調査結果については、平成12年度に当委員会が刊行した『市内遺跡発掘調査報告書』（青森市埋蔵文化財調査報告書第59集）に掲載してある。なお、事実内容等の記述については本書が優先する。
- 5．発掘調査は平成12年8月21日～10月14日までの期間で実施し、整理作業については平成13年度に実施した。また、報告書刊行については当初平成13年度に刊行予定であったが、調査原因者である青森市との協議で平成14年度に変更となった。その為、文章の記載内容は基本的に平成13年度時点での情報で、平成14年度時点で一部補稿している。
- 6．発掘調査における測量委託・空中写真・デジタルデータ処理については（株）シン技術コンサルに、遺物自然科学分析についてはパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。また、第2章第2節の土師器・須恵器の胎土分析について青森市埋蔵文化財調査員三辻利一氏（大谷女子大学教授）に依頼した。
- 7．本書の執筆・編集は青森市教育委員会が行い、木村淳一が担当した。また、出土遺物のうち鉄製品・鉄滓の執筆については設楽政健が行った。その他委託・依頼を実施した自然科学分析については、その報告を本書に収めた。
- 8．調査に関わる出土遺物及び記録図面・写真関係資料は、現在、青森市教育委員会で保管している。
- 9．発掘調査及び本書作成にあたり、下記の方をはじめ多くの方々からご指導・ご協力をいただいた。

青森県教育庁文化財保護課（平成12年度：青森県教育庁文化課）、青森県埋蔵文化財調査センター、青森県森林組合連合会、青森市農地林務課、六ヶ所村立郷土館、伊藤武士、岩井浩介、宇部則保、浦田一二三、岡本康嗣、鐘江宏之、工藤清泰、工藤大、黒瀧晴彦、齋藤淳、齋藤由美子、坂下尚子、桜田美和子、佐野忠史、白鳥文雄、神康夫、相馬信吉、高橋総司、土橋弘美、豊島厚子、中嶋友文、成田滋彦、成田誠治、浜田泉、藤原弘明、松橋智佳子、水山昭宏、溝江由里子、山田広美、横山涼子、鷲尾智加子

凡 例

1. 図版番号は、原則的に「図 」とした。また、第 章については執筆者の表記に従った。
2. 用語については本書のみで用いられるものも含まれる。また、本書で用いられる竪穴建物跡という名称は、これまで竪穴住居跡と呼称される遺構と同一の遺構であるが、本調査において居住用以外の可能性も有する遺構も検出していることから本書では竪穴建物跡と呼称した。
3. 遺構の掲載について
 - (1) 方位は国土地理院第X系平面直角座標系に基づく座標北である。
 - (2) 各図の縮尺は以下の通りである。
1/5,000 1/1,200 1/1,000 1/200 1/120 1/60 1/40 1/30
 - (3) 水平基準は海拔高をメートル (m) で表示した。
 - (4) 遺構の略号は、S I = 竪穴建物跡、S B = 掘立柱建物跡、S K = 土坑、S D = 溝跡、S P = ピット、S X = 炉跡・その他の遺構である。
 - (5) 遺構番号については、遺構の種別毎に番号を付した。具体的には遺構の略号 - 番号とした。
(例：第1号竪穴建物跡 = S I - 01)
 - (6) 本書で使われるグリッドについては、青森市が平成12年度に委託を実施した(仮称)芸術創作工房測量業務委託の成果である測量報告書の方眼点測量結果に基づき、現地内に既設の座標杭を利用した。方眼の基準が5 mメッシュであったため、調査における小グリッドも5 mメッシュである。
 - (7) 本書の土層の注記については、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄1993)に準拠した。
 - (8) 遺構の規模については、基本的に長軸×短軸×深さをcmで表示した。このうち深さについては、遺構確認面からの計測値を記した。
 - (9) 竪穴建物跡の主軸方向については、カマドのあるものについては基本的にカマドの主軸方向を代表させた。カマドの主軸方位は、袖部が残存しているものについては両袖、残存していないものについては、火床面の中央線と煙道部の中心線を基準線として真北との振れについて表示した。カマドの残存していない竪穴建物跡の主軸方位については、各壁の中間点を交差させ、南北方向の軸線と真北との振れについて表示した。
 - (10) 本書の遺構図中で使用される網かけ等の指示については以下のとおりである。

炭化物



火床面・焼土(被熱強)



火床面・焼土(被熱弱)



遺物

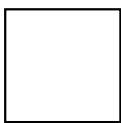
土器
▲鉄製品
石器・石製品
土製品

(11) 竪穴建物跡の表中、土坑・ピットの文および表中で標記されている類型化の記号は当委員会が平成12年度に刊行した『野木遺跡発掘調査報告書』（青森市教育委員会2001）で提示した類型化に基づき提示している。今回土坑・ピットの断面構造について新たに2類の項目を追加している。

1. 竪穴建物跡

平面プラン

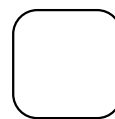
a. 方形



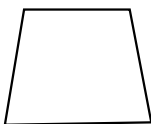
b. 長方形



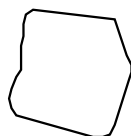
c. 隅丸方形



d. 台形



e. 不整形



断面プラン

a. ほぼ垂直に立ち上がる。



b. 壁上部で緩やかな傾斜が見られる。



c. 壁上部で一部緩やかな傾斜が見られる。



d. 緩やかに立ち上がる。



e. 棚状の段を有する。

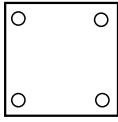


f. 凹凸が激しく、壁・床の明確な区別がつかない。

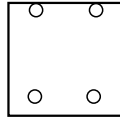


柱穴配置

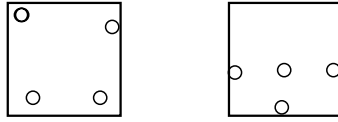
a. 正方形
4本配置



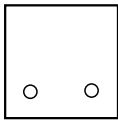
b. 長方形
4本配置



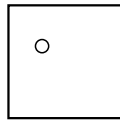
c. 4本配置(その他)



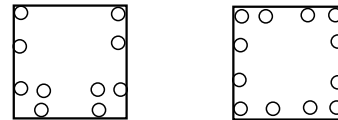
d. 2本配置



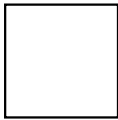
e. 1本配置



f. 支柱穴あり



g. 柱なし

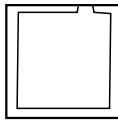


x. 不明

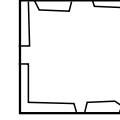


壁溝

a. ほぼ全周



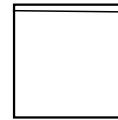
b. 断続的に全周



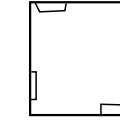
c. コの字に遺存



d. 2壁に遺存



e. 部分的に遺存



f. 壁溝なし



x. 不明



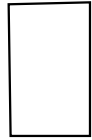
2. 土坑・ピット

平面プラン

a. 方形



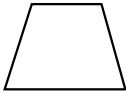
b. 長方形



c. 隅丸方形



d. 台形



e. 不整形 (不整形円形・不整形楕円形等を含む)



f. 楕円形



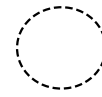
g. 小判形



h. 円形

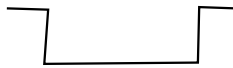


x. 不明



断面プラン

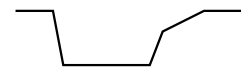
a. ほぼ垂直に立ち上がる。



b. 壁上部で緩やかな傾斜が見られる。



c. 壁上部の一部で緩やかな傾斜が見られる。



d. 緩やかに立ち上がる。



e. 段状に立ち上がる。



f. 袋状に立ち上がる。



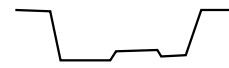
g. V字状に立ち上がる。



h. 掘鉢状に立ち上がる。



i. 凹凸を持つ。



j. 柱穴状を呈する。



3. 遺物の掲載について

(1) 各図の縮尺は以下のとおりである。

土器 1/3 鉄製品 1/2 鉄滓 1/2 羽口 1/4 石器 1/2 石製品 1/4

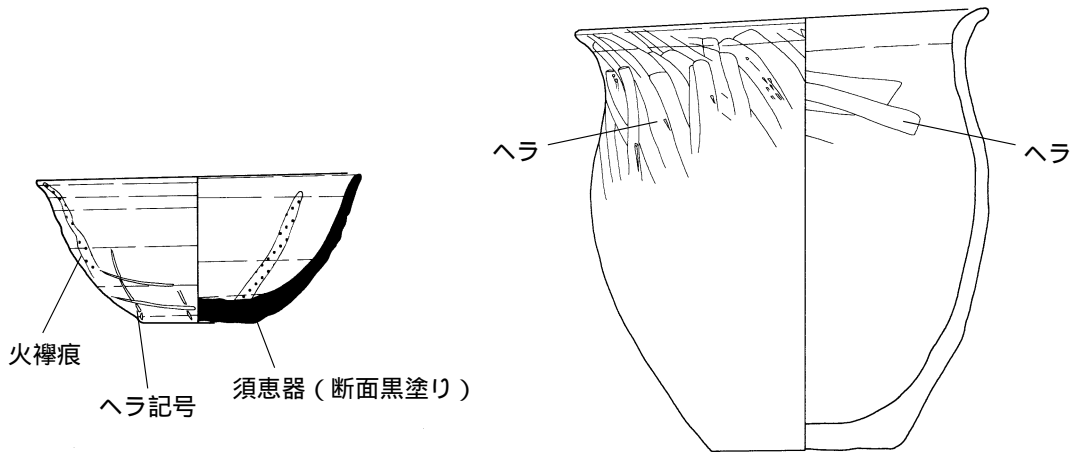
(2) 遺物実測図の表現

土器実測の表現

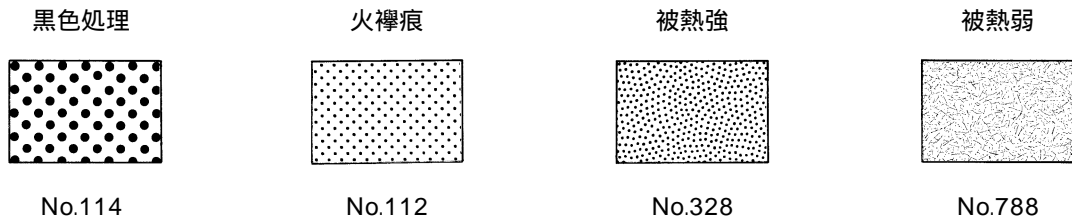
・破片資料についても口径・胴径・底径いずれかが復元可能な資料については、径復元ののち反転実測を行っている。

・本書の図版中で使用される調整表現・スクリーントーンの指示については以下のとおりである。

a. 実測図上の調整表現

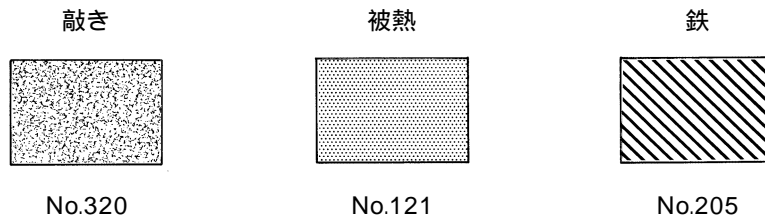


b. 実測図上のスクリーントーン表現



石製品実測の表現

- ・本書の遺物図版中で使用されるスクリーントーンの指示については次のとおりである。



鉄関連遺物実測の表現

- ・炉壁・鉄滓等

鍛冶関連 本遺跡の鍛冶炉については、対面する2方向に羽口が装填され、その垂直方向の何れかが開口すると考えられる。原則として、羽口が装填されていたと考えられる方向を上下としておいた。

- ・鉄製品

錆び膨れと、身の部分を線の太さを使い分けて表現し、表面に付着した炭化物については、鉄滓に付着する炭化物と同様にその木目を表現した。

- ・羽口

実測にあたっては、本遺跡出土羽口に平坦面をもつものが多いことから、平坦面を底とし、炉側を左（先端）、フイゴ側を右（末端）とした。先端において、炉に装填されていた痕跡が確認できるものについては、溶損部分、還元部分、被熱により白変している部分を表現した。断面には、粘土の継ぎ目を実線で表現している。

- ・砥石

砥面が確認できる部分を展開し、付着物については、スクリーントーンで表現した。

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
図版目次	
表目次	
写真図版目次	
第 章 調査経緯	
第 1 節 調査に至る経緯.....	1
第 2 節 調査要項.....	1
第 3 節 受託費.....	3
第 章 遺跡の位置と環境	
第 1 節 遺跡の位置と地理的環境.....	5
第 2 節 歴史的環境.....	6
第 章 調査の概要	
第 1 節 試掘調査.....	9
第 2 節 本発掘調査	10
第 3 節 調査方法	10
第 4 節 地形と層序	11
第 5 節 発掘調査の経過	13
第 6 節 整理作業	13
第 7 節 本書の提示方法	14
第 章 雲谷山吹(4)遺跡	
第 1 節 遺構と遺物	
1. 土坑	17
2. 遺構外出土遺物	19
第 2 節 小結	19
第 章 雲谷山吹(5)遺跡	
第 1 節 遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	49
2. 土坑	51
3. 炉跡	53
4. 掘立柱建物跡	53
5. 遺構外出土遺物	53
第 2 節 小結	54
第 章 雲谷山吹(6)遺跡	
第 1 節 遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	95
2. 土坑	103
3. 溝跡	104

4 . 掘立柱建物跡	105
5 . その他の遺構	105
6 . 遺構外出土遺物	105
第 2 節 小結	106
第 章 雲谷山吹 (7) 遺跡	
第 1 節 遺構と遺物	
1 . 竪穴建物跡	185
2 . 土坑	185
3 . 溝跡	185
4 . その他の遺構	186
5 . 遺構外出土遺物	186
第 2 節 小結	186
第 章 自然科学分析	
第 1 節 雲谷山吹遺跡の自然科学分析	195
第 2 節 雲谷山吹遺跡出土土師器、須恵器の蛍光 X 線分析	229
第 章 統括	
第 1 節 遺構	
1 . 竪穴建物跡	237
2 . 土坑	239
第 2 節 遺物	
1 . 土器	247
2 . 鉄関連遺物	257
結語	273
引用参考文献	274
報告書抄録	275
既刊埋蔵文化財関係報告書一覧	

図版目次

図1	位置図1	4	図46	S X , S B	76
図2	位置図2	5	図47	S B	77
図3	周辺の遺跡位置図	7	図48	遺構外出土遺物	78
図4	雲谷山吹(4)～(7)遺跡遺構配置図	8	図49	雲谷山吹(6)遺跡遺構配置図	91・92
図5	試掘調査トレンチ配置図	9	図50	雲谷山吹(6)遺跡遺構配置図 , 雲谷山吹(7)遺跡遺構配置図	93・94
図6	基本層序図	12	図51	S I - 02 , S K - 04・12 , S X - 03	107
図7	雲谷山吹(4)遺跡遺構配置図	15・16	図52	S I - 02	108
図8	S K	20	図53	S I - 02	109・110
図9	S K	21	図54	S I - 02	111
図10	S K	22	図55	S I - 03	112
図11	S K	23	図56	S I - 03	113
図12	S P	24	図57	S I - 03	114
図13	S P	25	図58	S I - 03	115
図14	S P	26	図59	S I - 03	116
図15	S P	27	図60	S I - 04	117
図16	S P	28	図61	S I - 04	118
図17	S P	29	図62	S I - 04	119
図18	S P	30	図63	S I - 05	120
図19	S P	31	図64	S I - 05	121
図20	S P	32	図65	S I - 05	122
図21	S P	33	図66	S I - 05	123
図22	S P	34	図67	S I - 05	124
図23	S P	35	図68	S I - 05	125
図24	遺構外出土遺物	36	図69	S I - 06	126
図25	雲谷山吹(5)遺跡遺構配置図	47・48	図70	S I - 06	127
図26	S I - 10	55	図71	S I - 06	128
図27	S I - 10	56	図72	S I - 06	129
図28	S I - 10	57	図73	S I - 06	130
図29	S I - 10	58	図74	S I - 06	131
図30	S I - 10	59	図75	S I - 06	132
図31	S I - 10	60	図76	S I - 07	133
図32	S I - 10	61	図77	S I - 08	134
図33	S I - 10	62	図78	S I - 08	135
図34	S I - 11	63・64	図79	S I - 08	136
図35	S I - 11	65	図80	S I - 08	137・138
図36	S I - 11	66	図81	S I - 08	139
図37	S I - 11	67	図82	S I - 08	140
図38	S I - 11	68	図83	S I - 09	141
図39	S I - 11	69	図84	S I - 09	142
図40	S K	70	図85	S I - 09	143
図41	S K	71	図86	S I - 09	144
図42	S K , S P	72	図87	S I - 09	145
図43	S P	73	図88	S I - 09	146
図44	S P	74	図89	S I - 09	147
図45	S P , S X	75			

表 目 次

図90	S K	148	表 1	費用内訳	3
図91	S K	149	表 2	遺跡一覧表	7
図92	S K	150	表 3	雲谷山吹(4)遺跡土坑観察表	37
図93	S K	151	表 4	雲谷山吹(4)遺跡ピット観察表	37
図94	S P	152	表 5	雲谷山吹(4)遺跡縄文土器観察表	40
図95	S P	153	表 6	雲谷山吹(4)遺跡石器観察表	40
図96	S P	154	表 7	雲谷山吹(5)遺跡竪穴建物跡観察表	79
図97	S P	155	表 8	雲谷山吹(5)遺跡土坑観察表	79
図98	S P	156	表 9	雲谷山吹(5)遺跡ピット観察表	79
図99	S P	157	表10	雲谷山吹(5)遺跡炉跡観察表	79
図100	S D	158	表11	雲谷山吹(5)遺跡掘立柱建物跡観察表	80
図101	S B	159	表12	雲谷山吹(5)遺跡縄文土器観察表	80
図102	S X	160	表13	雲谷山吹(5)遺跡平安時代土器観察表	81
図103	遺構外出土遺物	161	表14	雲谷山吹(6)遺跡竪穴建物跡観察表	163
図104	遺構外出土遺物	162	表15	雲谷山吹(6)遺跡土坑観察表	163
図105	S I - 01, S K - 01・S D - 01	187	表16	雲谷山吹(6)遺跡ピット観察表	163
図106	S K - 01・S D - 01	188	表17	雲谷山吹(6)遺跡溝跡観察表	164
図107	S K, S P, S X	189	表18	雲谷山吹(6)遺跡掘立柱建物跡観察表	164
図108	遺構外出土遺物	190	表19	雲谷山吹(6)遺跡その他の遺構観察表	164
図109	遺構外出土遺物	191	表20	雲谷山吹(6)遺跡縄文土器観察表	164
図110	遺構外出土遺物	192	表21	雲谷山吹(6)遺跡石器観察表	164
図111	S I - 06遺構内接合状況	240	表22	雲谷山吹(6)遺跡平安時代土器観察表	165
図112	S I - 09遺構内接合状況	242	表23	雲谷山吹(7)遺跡竪穴建物跡観察表	192
図113	遺構間接合資料	244	表24	雲谷山吹(7)遺跡土坑観察表	192
図114	雲谷地区調査済遺構配置図	245・246	表25	雲谷山吹(7)遺跡ピット観察表	192
図115	縄文土器	248	表26	雲谷山吹(7)遺跡溝跡観察表	192
図116	平安時代土器	255	表27	雲谷山吹(7)遺跡その他の遺構観察表	192
図117	平安時代土器	256	表28	雲谷山吹(7)遺跡縄文土器観察表	192
図118	雲谷山吹(5)遺跡出土鉄関連遺物構成表	259	表29	雲谷山吹(7)遺跡平安時代土器観察表	192
図119	雲谷山吹(6)遺跡出土鉄関連遺物構成表	260	表30	S I - 06遺構内破片接合関係表	241
図120	雲谷山吹(7)遺跡出土鉄関連遺物構成表	261	表31	S I - 09遺構内破片接合関係表	243
図121	鉄関連遺物	262	表32	遺構間接合関係表	243
図122	鉄関連遺物	263	表33	土器組成表	250
図123	鉄関連遺物	264	表34	鉄関連遺物重量計測表	258
図124	鉄関連遺物	265	表35	雲谷山吹(5)-(7)遺跡出土鉄関連遺物観察表	268・269
図125	鉄関連遺物	266				
図126	鉄関連遺物	267				

写真図版目次

写真1 雲谷山吹(4)遺跡(真上).....41	写真44 S I - 10竈遺物出土状況(N).....83
写真2 雲谷山吹(4)遺跡(左), 雲谷山吹(5)遺跡 (右)(真上).....41	写真45 S I - 10竈完掘(N).....83
写真3 S K - 51セクション(S).....42	写真46 S I - 11セクション(N).....84
写真4 S K - 52セクション(S).....42	写真47 S I - 11完掘(N).....84
写真5 S K - 53セクション(W).....42	写真48 S I - 11竈完掘(W).....84
写真6 S K - 54セクション(N).....42	写真49 S I - 11竈煙道部セクション(N E).....84
写真7 S K - 54完掘(N).....42	写真50 S I - 11竈燃焼部遺物出土状況(W).....84
写真8 S K - 55完掘(S).....42	写真51 S K - 20セクション(W).....84
写真9 S K - 58セクション(W).....42	写真52 S K - 22セクション(S).....84
写真10 S K - 59セクション(S).....42	写真53 S K - 23セクション(S).....85
写真11 S K - 60セクション(S).....43	写真54 S K - 24セクション(S).....85
写真12 S K - 61, S P - 180セクション(S).....43	写真55 S K - 26セクション(S).....85
写真13 S K - 62セクション(S).....43	写真56 S K - 27セクション(N).....85
写真14 S K - 63セクション(S).....43	写真57 S K - 28セクション(N).....85
写真15 S K - 65セクション(S).....43	写真58 S K - 29セクション(W).....85
写真16 S K - 66セクション(S).....43	写真59 S K - 30セクション(W).....85
写真17 S K - 67セクション(N).....43	写真60 S K - 31セクション(W).....85
写真18 S K - 67完掘(N).....43	写真61 S K - 32セクション(S).....86
写真19 S K - 68セクション(S).....44	写真62 S K - 34セクション(N E).....86
写真20 S K - 69セクション(E).....44	写真63 S K - 33・35セクション(N).....86
写真21 S K - 70セクション(S E).....44	写真64 S P - 101(T - P i t)セクション(E).....86
写真22 S K - 71セクション(N).....44	写真65 S P - 101(T - P i t)完掘(E).....86
写真23 S K - 71完掘(N).....44	写真66 S B - 02完掘(S).....86
写真24 S K - 72セクション(W).....44	写真67 S X - 06セクション(E).....86
写真25 S K - 72完掘(W).....44	写真68 S X - 06完掘(N).....86
写真26 S K - 73セクション(N W).....44	写真69 S I - 10出土遺物.....87
写真27 S K - 73完掘(N).....45	写真70 S I - 11 出土遺物.....88
写真28 S K - 74セクション(E).....45	写真71 S I - 11, S K, S P出土遺物.....89
写真29 S K - 74完掘(E).....45	写真72 S X, 遺構外出土遺物.....90
写真30 S K - 75セクション(W).....45	写真73 雲谷山吹(6)遺跡(真上).....167
写真31 S K - 76セクション(S E).....45	写真74 雲谷山吹(5)・(6)遺跡から青森公立大学を臨 む(W).....167
写真32 S K - 77セクション(S W).....45	写真75 調査区遠景(W).....168
写真33 S K - 78セクション(N).....45	写真76 雲谷山吹(6)遺跡調査前風景(E).....168
写真34 S K - 78完掘(N).....45	写真77 S I - 02セクション(N).....169
写真35 雲谷山吹(4)遺跡出土遺物.....46	写真78 S I - 02完掘(W).....169
写真36 雲谷山吹(5)遺跡(真上).....82	写真79 S I - 02竈セクション(W).....169
写真37 雲谷山吹(5)遺跡(左), 雲谷山吹(6)遺跡 (中央)(真上).....82	写真80 S I - 02竈煙道部セクション(N).....169
写真38 雲谷山吹(5)遺跡近景(S).....83	写真81 S I - 02竈完掘(W).....169
写真39 S I - 10セクション(S).....83	写真82 S I - 03セクション(W).....169
写真40 S I - 10セクション(S W).....83	写真83 S I - 03完掘(W).....169
写真41 S I - 10完掘(N).....83	写真84 S I - 03竈完掘(W).....169
写真42 S I - 10竈セクション(N).....83	写真85 S I - 04セクション(E).....170
写真43 S I - 10竈セクション(E).....83	写真86 S I - 04完掘(N).....170
	写真87 S I - 05セクション(W).....170

写真88 S I - 05完掘 (W)	170	写真133 S I - 06 出土遺物	179
写真89 S I - 05完掘 (S)	170	写真134 S I - 06 出土遺物	180
写真90 S I - 05竈 1 セクション (W)	170	写真135 S I - 06 ・ 07 ・ 08 出土遺物	181
写真91 S I - 05竈 1 炉壁検出状況 (W)	170	写真136 S I - 08 出土遺物	182
写真92 S I - 05竈 1 完掘 (W)	170	写真137 S I - 08 ・ 09 出土遺物	183
写真93 S I - 05竈 2 セクション (N)	171	写真138 S I - 09 , S K , 遺構外出土遺物	184
写真94 S I - 05竈 2 完掘 (W)	171	写真139 雲谷山吹 (7) 遺跡調査区 (N)	193
写真95 S I - 05竈 2 掘り方 (W)	171	写真140 北西側基本土層 (N)	193
写真96 S I - 06セクション (N)	171	写真141 南側基本土層 (N)	193
写真97 S I - 06完掘 (N)	171	写真142 S I - 01セクション (N)	193
写真98 S I - 06竈セクション (E)	171	写真143 S K - 01セクション (W)	193
写真99 S I - 06竈遺物出土状況 (N)	171	写真144 S K - 02検出状況 (N)	193
写真100 S I - 06竈完掘 (N)	171	写真145 S D - 01セクション (N)	193
写真101 S I - 07セクション (W)	172	写真146 S X - 01セクション (W)	193
写真102 S I - 07完掘 (S)	172	写真147 S D - 01 , 遺構外出土遺物	194
写真103 S I - 08セクション (W)	172	写真148 鉄関連遺物	270
写真104 S I - 08完掘 (W)	172	写真149 鉄関連遺物	271
写真105 S I - 08 P i t 7 遺物出土状況 (W)	172	写真150 鉄関連遺物	272
写真106 S I - 08斜面下粘土検出部分周辺セクション	172		
写真107 S I - 09セクション (S)	172		
写真108 S I - 09セクション (W)	172		
写真109 S I - 09完掘 (W)	173		
写真110 S I - 09竈煙道部セクション (N)	173		
写真111 S I - 09竈完掘 (W)	173		
写真112 S K - 03セクション (W)	173		
写真113 S K - 04 ・ 12セクション (N)	173		
写真114 S K - 05 , S D - 02セクション (S)	173		
写真115 S K - 06セクション (E)	173		
写真116 S K - 07セクション (W)	173		
写真117 S K - 09セクション (E)	174		
写真118 S K - 10セクション (S W)	174		
写真119 S K - 11セクション (N)	174		
写真120 S K - 11完掘 (S)	174		
写真121 S K - 13 , S B - 01 P 2 セクション (W)	175		
写真122 S K - 16セクション (N)	174		
写真123 S K - 17セクション (S)	174		
写真124 S K - 18セクション (W)	174		
写真125 S P - 19 (T - P i t) セクション (N)	175		
写真126 S P - 19 (T - P i t) 完掘 (S)	175		
写真127 S X - 02セクション (N)	175		
写真128 S X - 05セクション (S)	175		
写真129 S B - 01 (S W)	175		
写真130 S I - 02 ・ 03 出土遺物	176		
写真131 S I - 03 ・ 04 ・ 05 出土遺物	177		
写真132 S I - 05 出土遺物	178		

第 章 調査経緯

第 1 節 調査に至る経緯

青森市は、平成10年度に市制施行百周年を迎え、その記念事業の記念施設として「(仮称)青森市芸術創作工房」を位置づけた。青森市企画財政部企画調整課(以下企画調整課)が所管課となり、平成11年1月に整備基本構想を策定し、市内雲谷地区に所在する青森公立大学の隣接部分に建設計画を行い、平成12年度秋には工事着工の計画をした。

開発予定地内には、周知の遺跡が所在していなかったことから、当初遺跡の所在等に関する協議については具体性を帯びないまま計画が進められていたが、予定地内周辺には平成7～8年度および平成11年度に青森市教育委員会(以下当委員会)が発掘調査を実施した桜峯(1)遺跡(青森県遺跡台帳番号01207)ならびに平成11年度の調査の際同時に発掘調査が実施された雲谷山吹(3)遺跡(青森県遺跡台帳番号01285)が所在しており、両遺跡周辺における遺跡所在の可能性が指摘されていた。¹⁾

当初計画の工事着工の3ヶ月前の平成12年7月になって初めて企画調整課と当委員会との具体的協議となり、工事予定地内5,072㎡について7月24日～31日の期間で試掘調査を実施する運びとなった。

調査の結果、すべての工事予定地内から遺構および遺物が検出・出土し、地形ならびに遺構の配置状況から4カ所の埋蔵文化財包蔵地として新規登録を行い、その取扱いについて改めて協議することとなった。

その協議において、企画調整課側の「施設完成時期が平成13年秋という絶対条件に対して変更は困難である」という前提のもと、工事工程との兼ね合いから発掘調査を実施するとしても工事着工時期の平成12年10月中旬までに発掘調査を終了しなければならない方向性となり、当委員会では記録保存のための発掘調査を緊急的に実施することとなった。

ただ、発掘調査の実施にあたって、年度途中の調査計画外の事業であったこともあり、人的確保が難しく、限られた期間内で発掘調査を終了する必然性があったことから、8月21日から10月14日までの期間内で土曜日および祝日を含めた出勤体制で対応することとなった。

予算措置については、発掘調査開始時点については計上費が盛られていなかったため、単費の非計上費で対応し、9月補正後、企画調整課側の要求した計上費として補正対応することとなった。

註1) 青森市教育委員会 2000 「第 章まとめ」『桜峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡』p.30このほかインターネット上の個人のホームページにおいて雲谷地区周辺の遺跡について触れたものが当時公開されていた。

第 2 節 調査要項

1. 調査目的

青森市が計画している(仮称)青森市芸術創作工房整備事業(現国際芸術センター青森)に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行い、地域社会の文化財の活用に資する。

2. 遺跡名及び所在地

も や まがき
雲谷山吹(4)遺跡 (青森県遺跡番号 01303)

ごうしざわ
青森県青森市合子沢字山崎153-1

- 雲谷山吹(5)遺跡 (青森県遺跡番号 01304)
青森県青森市合子沢字山崎152 - 6
- 雲谷山吹(6)遺跡 (青森県遺跡番号 01305)
青森県青森市合子沢字山崎152 - 6
- 雲谷山吹(7)遺跡 (青森県遺跡番号 01306)
青森県青森市合子沢字山崎153 - 1

3. 事業年度 平成12～13年度
4. 発掘調査実施期間 平成12年8月21日～10月14日
5. 整理作業期間 平成13年4月18日～平成14年3月29日
6. 調査面積 5,162㎡(当初調査対象予定面積4,317㎡)
7. 調査委託者 青森市(所管 企画調整課)
8. 調査受託者 青森市教育委員会
9. 調査担当機関 青森市教育委員会生涯学習部文化財課(平成12年度)
青森市教育委員会事務局文化財課(平成13年度)
10. 調査指導機関 青森県教育庁文化課(平成12年度)
青森県教育庁文化財保護課(平成13年度)
11. 調査協力機関 青森県埋蔵文化財調査センター
青森市農地林務課
12. 予算措置 調査委託者側で措置
13. 調査体制

平成12年度(発掘調査)

調査事務局 青森市教育委員会

教育長	池田 敬
生涯学習部長	中西 秀吉
生涯学習部次長	三浦 賢伍
生涯学習部参事 兼文化財課長	遠藤 正夫
文化財課長補佐	蝦名 淳一
主 査	堀谷 久子(庶務担当)
主 事	小野 貴之
〃	木村 淳一(調査担当)
〃	児玉 大成
〃	設楽 政健
調査補助員	内田 祐子
〃	今 直子

平成13年度（整理作業・〔報告書刊行〕作業）

調査事務局 青森市教育委員会

教育長	角田 詮二郎
事務局長	三浦 賢伍（～平成13年5月31日） 大柴 正文（平成13年6月1日～）
事務局参事	
文化財課長事務取扱	遠藤 正夫
文化財課長補佐	工藤 勝則
主 査	堀谷 久子
文化財主事	小野 貴之
”	木村 淳一（担 当）
”	児玉 大成
”	設楽 政健
主 事	松尾 信一郎（庶務担当）
調査補助員（整理）	堀内万里子
整理作業員	小笠原裕子
”	砂沢由紀子
”	土橋 弘美
”	鷲尾智加子

第3節 受託費

発掘調査は平成12年度に実施し、整理作業は平成13年度に実施したため、平成12年度は発掘調査事業費、平成13年度は整理作業・報告書刊行事業費（報告書刊行については次年度へ繰越）、平成14年度は報告書刊行事業費という取扱いになる。

表1 費用内訳

単位：千円

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	合 計	備 考
共済費	96	677	0	773	労働災害保険料、社会保険料、雇用保険（調査補助員）
賃金	1,761	4,710	0	6,471	調査補助員、作業員
報償費	0	20	0	20	分析謝金
旅費	62	77	0	139	勤務地内旅費
需用費	547	124	3,176	3,847	消耗品、印刷製本費
役務費	60	0	95	155	電話料、器材運搬料、現場仮設トイレ汲取料、切手
委託料	24,045	1,936	0	25,981	作業員委託、測量委託、遺物科学分析
使用料及び賃借料	1,438	0	0	1,438	プレハブ借上、重機借上
合計	28,009	7,544	3,271	38,824	

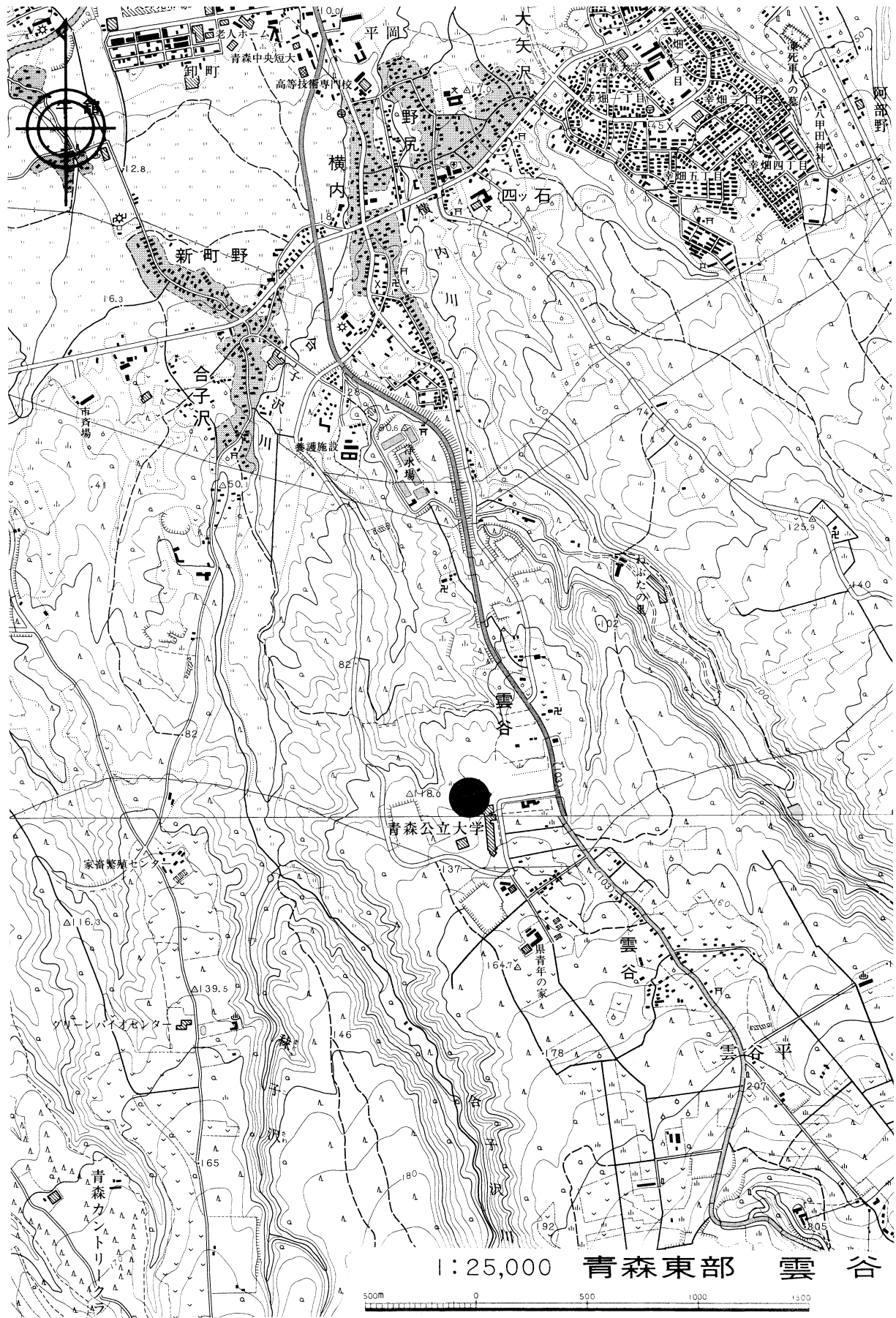


図1 位置図1

第 章 遺跡の位置と環境

第 1 節 遺跡の位置と地理的環境

青森市は、北に陸奥湾を臨み、南には八甲田山がそびえ立つ人口約30万人の青森県の県都である。市の面積は692.40km²を測り、市街地を中心に東西約10km、南北約5kmの青森平野が広がっている。陸奥湾を臨んだ北側以外の部分はU字状に丘陵に囲まれており、北西部は津軽半島の中央をはしる中山山脈からのびる緩やかな丘陵が広がり、西部は海成起源の岡町層ならびに十和田・八甲田山火山噴出物の堆積層を基盤とする緩やかな丘陵地であり、その南端部分には平野部と丘陵地との境に入内断層が走っている。入内断層は西部の丘陵部分と八甲田山火砕流堆積物によって形成された丘陵をも区切っている。南部の丘陵は青森市南部に所在する八甲田山の火砕流堆積物により形成された台地であり、荒川、合子沢川、横内川等八甲田山麓から市街地へ北流する河川により開析が進み、比較的傾斜の緩やかな丘陵が広がっている。

遺跡は八甲田山火砕流堆積物によって形成された台地のうち、合子沢川と横内川に挟まれた丘陵上の青森公立大学の敷地内に所在する。雲谷山吹（4）遺跡は北側にのびる平坦面に近い緩やかな丘陵部分標高122～124m上に位置する。傾斜方向は北ならびに西方向に広がっており、西側の標高115～120m部分には雲谷山吹（5）遺跡が所在する。沢を隔てた南側の標高112～130mの丘陵上には雲谷山吹（6）遺跡が所在し、さらにその南側の緩やかな沢地を挟んだ北西方向にのびる丘陵には雲谷山吹（7）遺跡が所在する。

遺跡周辺には市内と八甲田山を結ぶ国道103号が縦断しており、これまで八甲田山・十和田湖への観光ルート、あるいは雲谷スキー場へのアクセス道路として利用されてきた。その沿線にはその緩やかな地形上に住宅が若干建てられているだけで主に昭和40年代に植林された林地、荒蕪地、果樹園として利用されていた。果樹園については現在のところほとんど廃絶されており、土取りの場所として大きく地形が改変されている地区もある。平成に入って雲谷地区に青森公立大学が設立され、国道103号についてもバイパスが作られ、周辺地域の再開発化が行われており、アパートのほか分譲菜園やレジャー施設等が近年設立されている。発掘調査前の現況は大学敷地内ではあるが、大学建設時点で整備した若干の遊歩道や四阿以外は桜峯（1）遺跡ならびに雲谷山吹（3）遺跡の調査地と同様杉を標徴種とした植林地が主で、白樺等の雑木が部分的に茂った状況であった。ただし、GHQ撮影の航空写真によると戦時中の雲谷の丘陵部分は大規模に畑地等によって土地利用が行われていたことが考えられる。

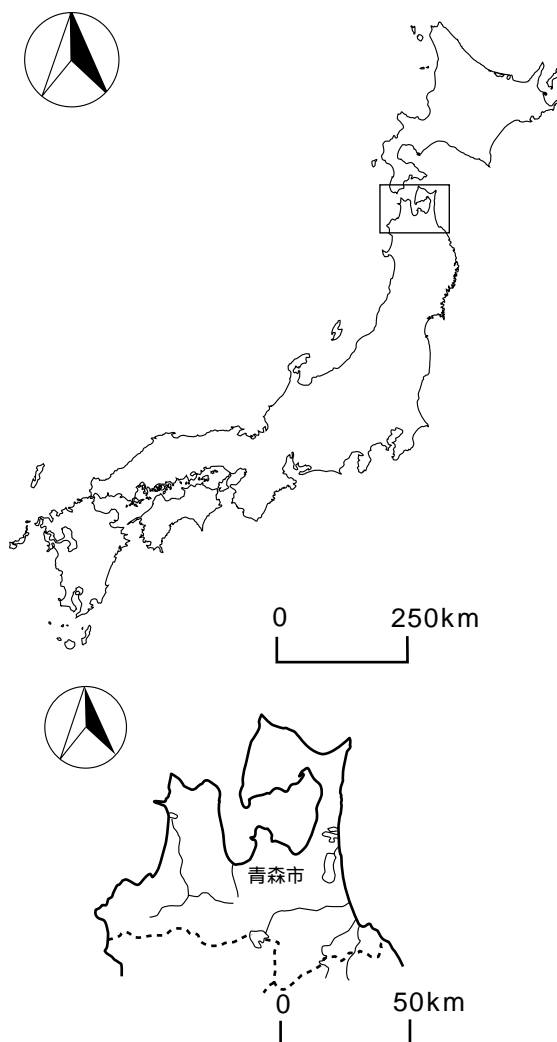


図 2 位置図 2

第2節 歴史的環境

青森市南部の八甲田火砕流堆積物によって形成された丘陵地全体では、近年60箇所を越える遺跡の所在が確認されている。

雲谷山吹(4)～(7)遺跡が所在する合子沢川と横内川に挟まれた丘陵上で人々の営みを示す最古の資料は、縄文時代早期白浜式期段階が出土した横内(1)遺跡である。遺跡は、平野部に近い標高約26m付近に所在し、平成5年度に当委員会が市道改良事業に伴って横内(2)遺跡と併せて発掘調査を実施している。調査の結果、縄文時代前期中葉円筒下層b式期の竪穴住居跡1軒、縄文時代前期末葉円筒下層d₂式期の竪穴住居跡2軒を検出している。隣接地の横内(2)遺跡からは縄文時代前期円筒下層a・b・d₁・d₂式の土器の包含がある土坑が26基検出している(青森市教育委員会1995)。

円筒下層d₂～上層a₁式期を主体とする集落跡は、平成7・8年度ならびに平成11年度に当委員会で調査を実施した桜峯(1)遺跡があげられる。平成7・8年度の第一次調査は、標高100～110m付近の微丘陵頂部から円筒下層d₂～円筒上層a₁式期の竪穴住居跡7軒、該期に属すると思われる土坑50基、埋設土器遺構11基、遺物集中ブロック1ポイントを検出し、小規模ながら標高100mを越える地点で住居+フラスコ状土坑+遺物集中ブロックというセット関係を抑えられた(青森市教育委員会1998)。平成11年度の第二次調査は、土坑4基、ピット16基、溝状遺構1条、焼土遺構1基、その他の遺構3基を検出し、遺物は円筒下層d₁・d₂式を主体とし、それ以外に中期円筒上層a・b・c・e式と大木8式併行、後期十腰内～式、晩期大洞A式併行の遺物が出土している。隣接部分である雲谷山吹(3)遺跡からは遺構の検出は認められなかったが、桜峯(1)遺跡とほぼ同様の構成の遺物の出土があった(青森市教育委員会2000)。

縄文時代中期段階の資料は、前述の桜峯(1)遺跡で触れたように遺物の出土例は認められているが、全般的に該期に伴う遺構の検出例が極端に少なくなる傾向にある。本丘陵上に立地する遺跡のうち該期の遺構は桜峯(2)遺跡から円筒上層d式期の住居跡1軒の検出があるのみである(青森市教育委員会1995)。縄文時代後期以降この丘陵上では縄文時代中期同様に遺物の出土は認められるが具体的な遺構の検出例がほとんどなく様相についても不明な点も多い。縄文時代後期初頭から中葉の十腰内～式期、晩期大洞B・C・A式期、また続縄文の資料についても桜峯(1)遺跡から後北C₁式期の資料の出土例がある。

平安時代に入ると周辺の丘陵では集落の展開が始まるが、本遺跡の調査以前で本丘陵から発掘調査で検出した平安期の建物跡の資料は、横内(2)遺跡から検出した10世紀前半の竪穴建物跡1軒のみであった。桜峯(1)遺跡では土師器・須恵器の出土があり、未調査の遺跡についても分布調査の結果によると平安時代の遺物が採集できる遺跡は数箇所所在しており、他の丘陵と同様の展開であったと推定される。

史料で本丘陵が属する横内地区周辺の記述が見られるのは中世後半以降である。15世紀末に平野部に近い丘陵先端部に横内城が築かれ、16世紀後半に城主堤弾正の統治下において周辺地域の開発の中心域となりえていた。堤弾正が討たれた以後、藩政期には横内城番十人衆が置かれ、外ヶ浜を含めた地区を統治させている。本丘陵を含めた周辺は横内村として治められた。新田開発の対象地区ではあったが、石高は平野部への開墾が進まず、あまり伸びることはなかった。また、本丘陵上部にある雲谷地区には藩政期に津軽藩の牧場が設置され、牧夫として二十数人が居住している。地区の産物として炭・漆等が挙げられている(鈴木1955)。明治に入ると横内村は、廃藩置県に伴い周辺の村を統合して東郡に属しており、昭和30年の市町村合併で現在の青森市に属するまで存在していた。

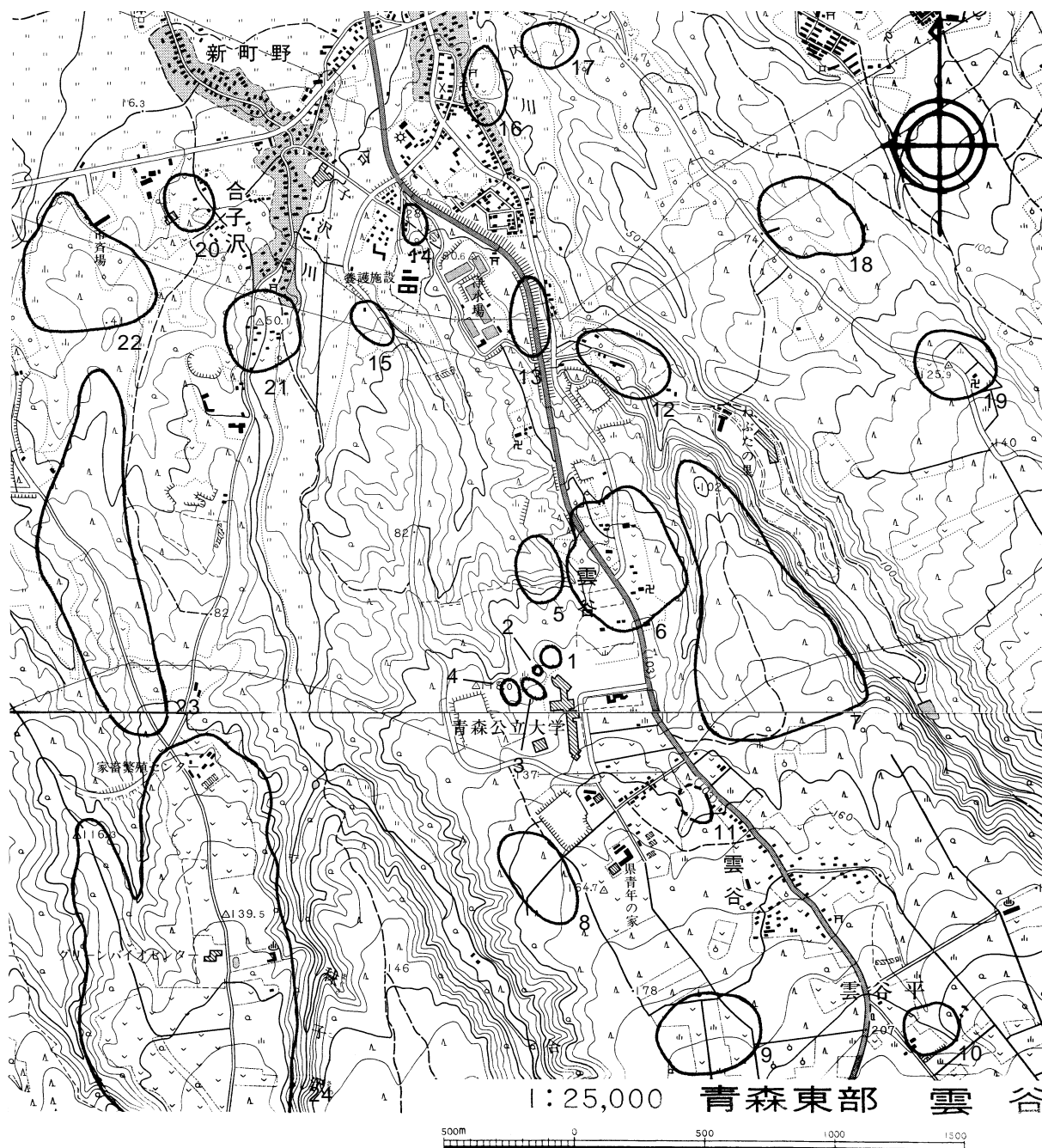


図3 周辺の遺跡位置図

表2 遺跡一覧表

番号	台帳番号	遺跡名	種別	所在地	時期	備考
1	304	雲谷山吹(4)遺跡	集落跡	合子沢字山崎	縄文(中・晩)近代	青森市教育委員会2001
2	305	雲谷山吹(5)遺跡	集落跡	合子沢字山崎	縄文(後・晩)平安	青森市教育委員会2001
3	306	雲谷山吹(6)遺跡	集落跡	合子沢字山崎	縄文(後)平安	青森市教育委員会2001
4	307	雲谷山吹(7)遺跡	集落跡	合子沢字山崎	縄文(前・後)平安	青森市教育委員会2001
5	285	雲谷山吹(3)遺跡	散布地	雲谷字山吹、合子沢字山崎	縄文(前・中)	青森市教育委員会2000
6	207	桜峯(1)遺跡	集落跡	横内字桜峯、雲谷字山吹	縄文(前・中・後・晩)続縄文、平安	青森市教育委員会1998・2000
7	209	鏡山遺跡	散布地	横内字鏡山	縄文(前・中・後)	
8	247	雲谷山崎(1)遺跡	散布地	雲谷字山崎	縄文、平安	
9	263	雲谷山吹(2)遺跡	散布地	雲谷字山吹	縄文	
10	199	雲谷山吹(1)遺跡	散布地	雲谷字山吹	縄文	
11	310	雲谷山吹(8)遺跡	散布地	雲谷字山吹	縄文	青森市教育委員会2001
12	284	横内猿沢(1)遺跡	散布地	横内字猿沢	平安	
13	208	桜峯(2)遺跡	集落跡	横内字桜峯、亀井	縄文(前・中・後)	青森市教育委員会1995
14	164	横内(1)遺跡	集落跡	合子沢字山崎	縄文(早・前)	青森市教育委員会1995
15	206	横内(2)遺跡	集落跡	合子沢字山崎	縄文(前・中)平安	青森市教育委員会1995
16	174	横内城跡	館跡	横内字亀井	中世	青森市教育委員会1987
17	215	四ツ石(3)遺跡	散布地	四ツ石字里見	縄文	
18	028	四ツ石(1)遺跡	散布地	四ツ石字里見	縄文(中・後)	青森市教育委員会1965
19	194	四ツ石(2)遺跡	散布地	四ツ石字里見	縄文(中・後)	
20	261	合子沢松森(1)遺跡	散布地	合子沢字松森	平安	
21	262	合子沢松森(2)遺跡	散布地	合子沢字松森	縄文	
22	161	新町野遺跡	集落跡	野木字山口	縄文(前・中)平安	青森市教育委員会1998・2000
23	210	野木遺跡	集落跡	野木字山口、合子沢字松森	縄文(前・中・後・晩)続縄文、平安	青森県教育委員会1998・1999・2000
24	271	山口遺跡	散布地	野木字山口、合子沢字松森、小畑沢字小杉	縄文(前・後)	

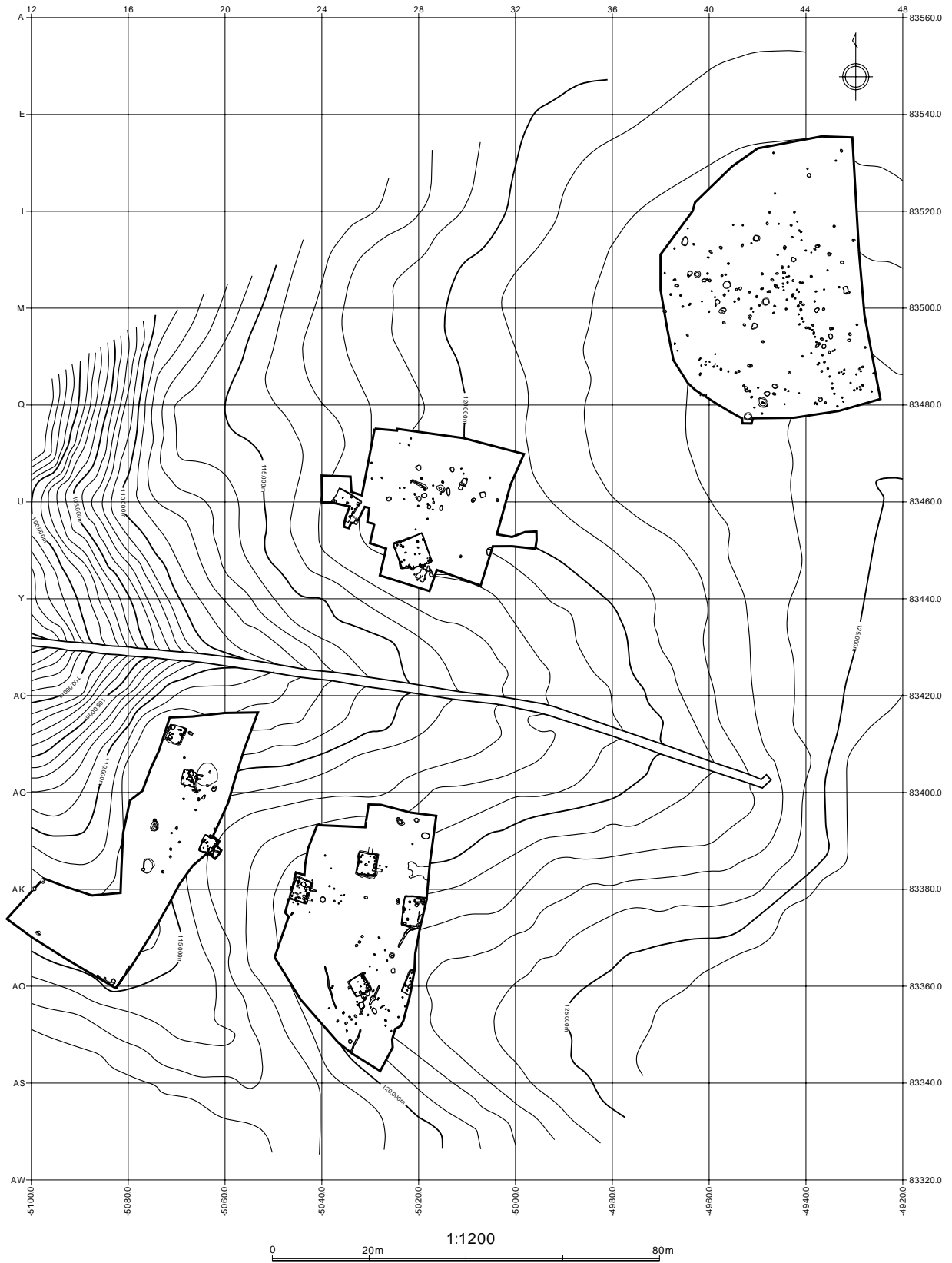


図4 雲谷山吹(4)~(7)遺跡遺構配置図

第 章 調査の概要

第 1 節 試掘調査

試掘調査は、平成12年度に当委員会が行った市内遺跡発掘調査事業の中で「(仮称)青森市芸術創作工房建設予定地内埋蔵文化財確認調査」として平成12年7月24日～31日の期間で実施した。

建設予定の建築物は円形の中央棟、2つの丘陵に橋を渡したような長方形の構築物である作業棟ならびに宿泊棟の3棟で、園路は現地表面をそのまま利用するという前提であったため、調査対象は構造物建設予定地を中心に46カ所のトレンチを設定し、人力ならびに機械力による掘削を行った。

調査の結果、中央棟地区では土坑1基が検出し、縄文時代中期の土器片等が出土した。作業棟地区では竪穴建物跡3軒、土坑5基の遺構が検出し、縄文時代後期の土器及び平安時代の土師器・須恵器が出土した。また、宿泊棟部分では、土坑1基が検出し、縄文時代前期の土器及び平安時代の鉄滓が出土した。地形及び遺構の分布状況から中央棟部分を雲谷山吹(4)遺跡、作業棟の北側について雲谷山吹(5)遺跡、作業棟の南側及び宿泊棟の北側の丘陵の先端部分上を雲谷山吹(6)遺跡、宿泊棟の南端から公立大学敷地内南西側に延びる丘陵について雲谷山吹(7)遺跡として試掘調査の最終日である7月31日に台帳登録した。

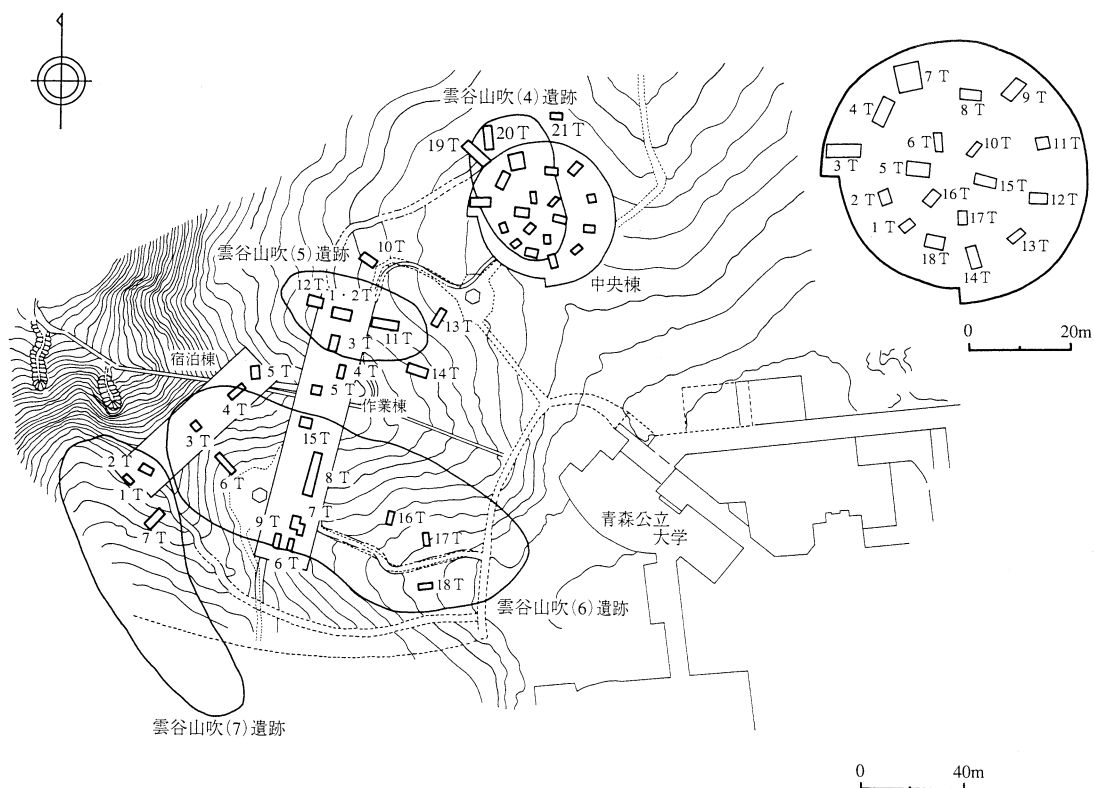


図5 試掘調査トレンチ配置図

第2節 本発掘調査

試掘調査の結果を受けて、青森市企画財政部企画調整課と協議し、遺跡保存の要望をしたが、協議の結果記録保存を前提とした発掘調査の実施となった。調査対象面積は試掘調査の結果を受けて約4,300㎡としたが、発掘調査期間について当初工事着工予定の平成12年10月初旬では想定され得る調査が完了できない事態が予想された。また、年度途中の緊急調査ということで、熟練した作業員等の大部分は既に他遺跡の調査で従事しており、人材確保が難しい状況にあった。

そこで、発掘調査の作業工程を整理し、本調査の発掘期間を平成12年8月21日～10月14日の日曜日を除いた48日間と設定した。調査補助員については当委員会で他遺跡の調査に従事していた2名を緊急的に任用替えして対応し、発掘作業員については5名の熟練した作業員を直営で任用し、それ以外の35名については委託し対応することとした。また、図面作成について直営ではセクション図、竈精査図の作業を主体に行い、平面図作成についてはトータルステーションによる測量図化作業として委託を行い、成果についてはCADデータ以外にイラストレータ形式でのデータ変換も含めたものとした。

第3節 調査方法

本調査にあたり、グリッド杭および水準点については青森市が平成12年4月に委託した「(仮称)芸術創作工房測量業務委託」に基づく成果である4級基準点の測量成果をそのまま基準として用いることにした。現地に打設されていた測量杭の基準は通常青森県内の発掘調査で用いられる4×4m単位の小グリッドではなく、5×5m単位の小グリッドで、南北軸にアルファベット、東西軸に算用数字が付与され、番号等は南北軸では南側に、東西軸では東側に伸びていくに従って大きくなるように付与されていた。グリッドの呼称は南北軸のアルファベットと東西軸のアラビア数字が組み合わされており、具体的にはAA-1のような名称で呼称される。小グリッドの取扱いについては調査時点では具体的に取り扱わず、遺物等もすべてグリッド杭を基準とした座標値で取り扱った。よって、グリッドについては調査報告時点でその座標値を置き換えたものに過ぎないが、グリッドの数値が南東方向に延びていくため、北西隅のグリッド点を小グリッドの区画の呼称として本報告書内では取り扱う。

調査については試掘調査で具体的に堆積状況および土量がわかっていたため、重機による表土処理を行い鋤簾がけにより遺構確認、遺構の掘削、精査という形を基本にして行った。調査予定地の現況が山林で、伐採が必要であったが、試掘調査後の本発掘調査への時間幅が極端に短く、立木の伐採についても調査開始時点で宿泊棟建設予定地の雲谷山吹(7)遺跡と雲谷山吹(6)遺跡の一部のみしか完了されていなかったため、調査の順番を遺跡毎ではなく、立木の伐採単位である建造物毎の調査着手ということになった。そのため、伐採が完了していた宿泊棟部分の雲谷山吹(7)遺跡を一番初めに着手し、雲谷山吹(4)遺跡の調査着手が最後になるという遺跡の登録順との逆順が生じることとなった。木の伐採については青森県森林組合が主導のもと行われ、発掘作業区域とは異なる区域で作業にあたるよう依頼し、木材の搬出等で発掘調査区域の隣接部分を重機が往来する際に作業員の安全面が確保できないと判断された時点では作業員の従事数を制限し、調査にあたった。

各遺構の呼称については竪穴建物跡をSI、土坑をSK、ピットをSP、溝跡をSD、掘立柱建物跡をSB、その他の遺構をSXという略号を付し、確認した順番で算用数字を組み合わせて遺構番号とした。具体的には第1号竪穴建物跡はSI-01という呼称で取り扱い、本報告書内においても遺構番号で標記している。

遺構の精査にあたり、竪穴建物跡は基本的に4分法で土層観察ベルトを残しセクション図を作成したが、

調査区外へ延びるものについては調査区内で観察できるものについてセクション図を作成した。遺物の取り上げについてはトータルステーションによる座標値として取り扱い、標高値はレベルで再度計測している。また、平面図作成においてトータルステーションを利用する場合、前もって測線を遺構にスプレー等で記し、測量させた。竈については10分の1の縮尺で微細図を別途作成し、トータルステーションの成果に合成する形をとった。土坑やその他の遺構については基本的に半裁し、セクションを観察・図面作成した後、残存する土層を除去し精査したが、必要に応じて観察用の土層を掘削前に設けたものもある。セクション図における土層の注記については『標準土色帖』を参照した。

遺物取り上げについては、竈周辺部以外の遺構内出土資料は、基本的にレベルによる水平位置をおさえた後に取り上げ、その地点にコノエWという通常セクションポイント用のマーキングに用いるポイントを置き、掘り下げと共に沈下させ、最終的に遺構測量時点で平面座標をおさえた。室内整理段階で水平値を変換し、遺物の座標値とした。

写真撮影については35mmのモノクローム、リバーサルフィルムの各フィルムを併用し、作業の進展に伴い適宜行った。また、ラジコンヘリによる空中撮影も委託実施した。

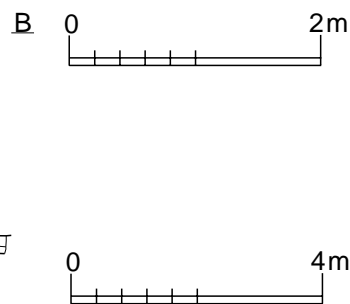
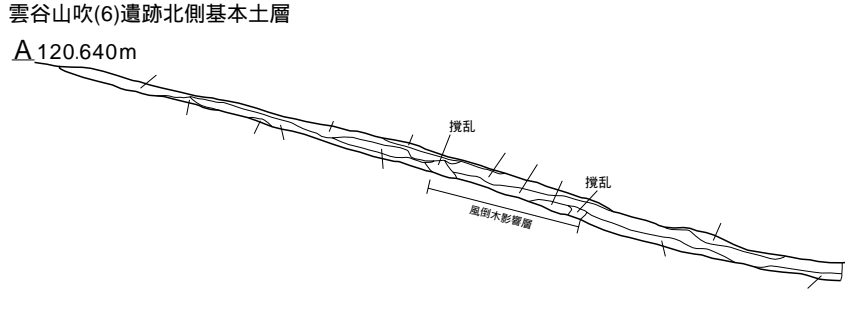
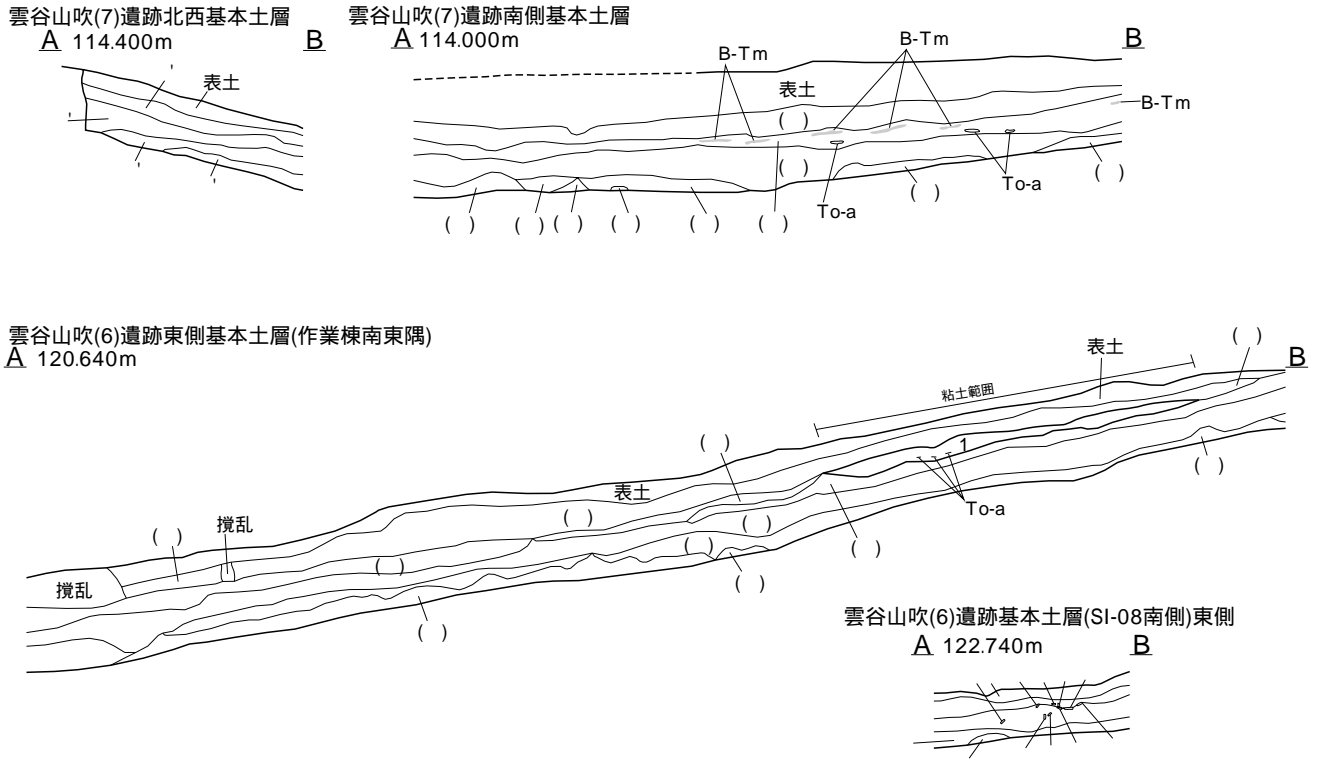
第 4 節 地形と層序

第 4 章第 1 節でも一部述べたが、本遺跡群が所在する雲谷平から延びる合子沢川と横内川に挟まれた丘陵は比較的緩やかな傾斜が基本であるが、本遺跡群の立地部分については一部急傾斜に変化する部分と地境がある。雲谷山吹（4）遺跡は標高122～124mのほとんど平坦面に近い緩やかな地形であり、無遺物層および包含層を掘削後の地形もほとんど現況の地形と変わらない地形である。現表土から地山までの深さは28～51cmを測り、遺物包含層は局所的に認められるのみで地山から7・8cmほどの高さの部分で認められた。遺跡の基盤層である地山の最上層には月見野火山灰層が15～20cmの厚さで堆積し、その下位には大谷火山灰層の堆積が認められる。

雲谷山吹（5）遺跡は、雲谷山吹（4）遺跡の西側の標高115～120mの地点に所在する。西側～南西方向に緩やかに傾斜しているが、包含層除去後の地形は現地形よりもさらに緩やかに南西方向に傾斜しており、雲谷山吹（6）遺跡が所在する丘陵を挟む緩やかな谷地形を形成する。調査区の50m西方からは雲谷山吹（6）遺跡の調査区と同様に急激に傾斜する地形が見受けられる。調査区内の堆積土の大部分は周辺部の植林の影響により削平等の土地改変がなされており、地山までの深さも20～35cm前後と堆積が薄く、地山についても大谷火山灰層が基盤層の最上面である地点があった。

雲谷山吹（6）遺跡は、標高112～130mの北西方向に舌状に延びる丘陵上に所在する。無遺物層および包含層除去後の地形については基本的にほとんど現地形と変わらない傾斜を有する。現表土から地山までの深さは、20～66cmを測り、一部青森公立大学建設時点での四阿および園路の整備による影響が考えられ、土層堆積に大きく影響を与えられた箇所が見受けられる。しかしながら、土層堆積については雲谷山吹（4）・（5）遺跡とも共通性が認められたため、本遺跡の基本層序は他の2遺跡と共通である。

図示した基本層序のうち東側基本土層として図示した土層図は、S I - 08の斜面下で竪穴建物掘削時に出た廃土を投棄した箇所が確認された地点の土層堆積図である。第 1 層と第 1 層として取り扱った粘土の境には十和田 a 火山灰（T o - a）の堆積が認められた。また第 1 層の上位に堆積する第 1 層中から局所的に白頭山 - 苫小牧火山灰（B - T m）の堆積が認められることから平安時代の文化層は第 1 層であると認定できる。斜面頂部で認められた第 1 層中からは縄文時代後期の土器の包含が認められたが、前述の状況を踏まえると平安時代の文化層による影響が考えられる。地山については月見野火山灰層が10～



雲谷山吹(7)遺跡南側基本層序

表土	10YR2/1 黒色土	シルト質、粘性・湿性・しまりなし、木草根混入
第1層	10YR1.7/1 黒色土	シルト質、粘性なし、湿性弱、しまりあり
第2層	10YR2/2 黒褐色土	シルト質、粘性なし、湿性弱、しまり強、上位にB-Tm, 下位にTo-a火山灰混入
第3層	10YR2/1 黒色土	シルト質、粘性なし、湿性弱、しまりややあり、パミス(1~5mm)微量、炭化粒(2mm)微量混入
第4層	10YR3/1 黒褐色土	ローム混じりのシルト、粘性ややあり、湿性弱、しまりなし、ローム粒(2mm)少量
第5層	10YR3/3 暗褐色土	ローム混じりのシルト、粘性・湿性・しまりややあり、礫(15mm)少量、ローム粒(5~10mm)極微量

雲谷山吹(7)遺跡北西側基本層序

表土	10YR2/3 黒褐色土	シルト質、粘性・湿性・しまりなし、木草根混入
第1層	10YR2/2 黒褐色土	シルト質、粘性なし、湿性弱、しまりややあり、パミス粒(5mm)少量混入
第2層	10YR2/3 黒褐色土	シルト質、粘性なし、湿性・しまり弱、ローム粒(1mm)少量混入
第3層	10YR3/1 黒褐色土	ローム混じりのシルト、粘性・しまりややあり、湿性弱、ロームブロック(10~15mm)少量混入
第4層	10YR3/3 暗褐色土	シルト混じりのローム、粘性・湿性・しまりあり、層との混合層、漸移層

雲谷山吹(6)遺跡北側基本層序

第1層	10YR2/2 黒褐色土	シルト質、粘性なし、湿性ややあり、しまり強、炭化粒(1~5mm)少量、パミス(5mm)少量、焼土粒(1mm)微量混入
第2層	10YR3/2 黒褐色土	シルト質、粘性なし、湿性ややあり、しまりあり、ロームブロック(20~40mm)中量、炭化粒(1~5mm)少量、パミス(5~10mm)少量、焼土粒(5mm)中量、B-Tm局所的に混入
第3層	10YR2/3 黒褐色土	シルト質、粘性・湿性ややあり、しまりあり、炭化粒(5~7mm)中量、パミス(2~5mm)中量、焼土粒(1mm)微量、小礫(1~5mm)微量混入
第4層	10YR3/3 暗褐色土	シルト質、粘性・湿性ややあり、しまりあり、炭化粒(1~5mm)少量、パミス(1~3mm)多量、小礫(1~5mm)少量、ローム粒・ロームブロック(1~15mm)中量混入
第5層	10YR2/1 黒色土	シルト質、粘性・湿性・しまりややあり、炭化粒(1~5mm)中量、パミス(1~5mm)少量、ロームブロック(30mm)微量混入
第6層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	シルト質、粘性・湿性あり、しまりややあり、パミスブロック(20~50mm)微量、黒色土中量混入
第7層	10YR4/6 褐色土	シルト質、粘性・湿性・しまりあり、小礫(1mm以下)微量、パミス(1mm)微量、炭化粒(1mm)微量混入

雲谷山吹(6)遺跡東側基本土層

第1層	10YR4/6 褐色土	ローム質、粘性・しまりあり、湿性弱、層下位にTo-a火山灰混入(文化層)
-----	-------------	--------------------------------------

図6 基本層序図

20cm前後堆積しており、その下部には大谷火山灰層が堆積している。竪穴建物跡の床面は大谷火山灰層を掘りこみ形成している。本遺跡の西端は、標高110m付近から急激に傾斜し落ち込み雲谷山吹（5）遺跡の先端部と同様に沢地形を形成する。

雲谷山吹（7）遺跡は、雲谷山吹（6）遺跡より南西方向の標高115～120mの丘陵上に位置する。地形図上では調査区だけの図示であるため丘陵全体の地形を提示できていないが、北北西方向に延びる丘陵で比較的緩やかに傾斜している丘陵地である。雲谷山吹（6）遺跡の所在する丘陵とは現地形で緩やかな沢状の地形が広がっているが、堆積層の掘削後の地形はやや急傾斜な沢地の地形が露出した。調査区の堆積層の厚さについても丘陵頂部に近い側の一部では30cmほどであったが、傾斜部分の堆積は60～110cmと他の調査区に比べ厚い点の特徴である。そのため、堆積土についても他の調査区では確認できない土色が認められたが、基本的に第 層上面の第 層中に十和田 a 火山灰と白頭山 - 苫小牧火山灰の堆積が認められ、北西部分では第 層が欠落していることから第 層が平安時代の生活面であると考えられる。

第 5 節 発掘調査の経過

- 8月21日（月） 発掘作業開始。宿泊棟予定地部分である雲谷山吹（7）遺跡側から表土処理および遺構確認作業を実施。
- 8月23日（火） 一部測量開始。竪穴建物跡1軒確認。雲谷山吹（6）遺跡部分からも建物跡確認。
- 8月25日（金） 作業棟予定地の雲谷山吹（6）遺跡部分について表土処理開始、遺構確認。
- 8月30日（水） 雲谷山吹（6）遺跡の宿泊棟部分の竪穴建物跡精査3軒、作業棟部分竪穴建物跡2軒掘削開始。
- 9月4日（月） 木材伐採の搬出作業に伴い安全確保のため作業員数を減らし調査。
- 9月5日（火） 一部の作業員が作業棟予定地の雲谷山吹（5）遺跡のガラ寄せ、表土掘削を開始。
- 9月13日（水） S I - 05の竪穴精査。調査終了遺構数が竪穴建物跡6軒、土坑8基、ピット22基、溝2条、その他5基、掘立柱建物跡1棟。
- 9月20日（水） 作業棟の橋脚部分4カ所を坪掘り、雲谷山吹（4）遺跡の表土処理開始。
- 9月23日（土） 調査終了遺構数が竪穴建物跡9軒、土坑14基、ピット54基、溝跡3条、その他5基、掘立柱建物跡1棟となる。
- 9月25日（月） 作業棟の雲谷山吹（5）遺跡部分について遺構精査開始。
- 9月26日（火） 雲谷山吹（6）遺跡調査終了。雲谷山吹（4）遺跡について遺構精査開始。
- 10月4日（水） 雲谷山吹（4）遺跡から小規模なピットが多数検出し、図化について難航が予想。
- 10月12日（木） 難航が予想されたピットの図化について目処がたつ。
- 10月14日（土） 調査終了。

第 6 節 整理作業

整理作業のうち、遺構図面については委託業務の中実施したトータルステーションのデータに標高値やセクション図のデータを追加し、平成12年度中に完了している。

遺物整理については平成13年度に遺物の水洗・注記・接合・復元・実測（断面・拓本含む）・トレース・図版作成・写真撮影・収納作業を実施した。

このうち、注記については発掘作業で付与した遺物カードをパソコンに台帳入力し、整理番号を付与し

注記した。1枚のカードで破片が数片～数十片に及ぶ場合整理番号に子番号をさらに付与した。具体的には1776-4のようにカードの整理番号を先に、ハイフン以下はそのカード内の破片番号という扱いにした。この作業で発掘調査時の遺物取り上げの際に番号の重複や欠番について絞り込むことができた。また遺構内出土資料については遺構名についても付与した。それ以外に注記終了段階での確認作業として各破片の重量を確認する作業を実施した。

接合については、遺構毎に接合を試み、接点が認められたものについて随時ノートに記入し、接合関係が把握できるようにした。また、遺物の総出土数が3,000点以下であったことから、遺構間接合の確認についても容易であり、各遺構の接合の確認の後、遺構間の資料についても確認を実施した。

復元については、樹脂系の補填材を利用したが、マスキング等を実施する際注記の項目が剥げ落ちるようなケースがあり、この点については改善の必要性が生じた。この点については次年度以降の他の遺跡の調査での整理作業において改善する予定である。

実測の中で土器については、径の割り出し可能な資料についてできるだけ図化するよう心がけた。径の割り出し困難な資料についても断面と拓本で図化した。それ以外に口縁部残存・底部残存計測法による計測作業を実施した。鉄滓・羽口・砥石等の鉄生産関連資料については野木遺跡と同様の手法で整理を実施した。

トレースについては遺物のみが対象で、等倍及び1/2の縮尺で実施し、1.5倍・2倍・3倍台紙に割り付け図版を作成した。それ以外の遺構図面については測量委託の成果であるデータをパソコン上で編集し図版とした。

収納作業については、掲載遺物を優先に遺構毎に掲載図版の仮割図面のコピーを入れ、遺物と対応できるようにした。

第7節 本書の提示方法

第3節で提示したが、本遺跡群の調査にあたっては、発掘調査開始時点での制限や緊迫した調査工程のなかで、調査の運営がしやすい雲谷山吹(7)遺跡から雲谷山吹(4)遺跡への調査という手順で行ったが、本報告においては遺跡の登録順に提示することとした。遺構番号等の変換については整理作業の混乱を招くため、本報告では調査時に付与した遺構番号で提示する。また、調査時点で遺構の種別認定を替えたものについては変更した種別で遺構を取り扱っている。遺構番号はすべて種別毎に確認順に付与しているため、小規模なピットや土坑等は半裁時点で遺構と認定できない事例などもあったが、その遺構番号については基本的に欠番扱いとしている。そのため、遺構番号の最終番号が本報告で報告した遺構数とは合致しないことをあらかじめお断りしておく。

報告書の記載のうち、土坑の平面形・断面形の形状は凡例に示した類型に基づき記述した。

また、調査でピットとして取り扱った遺構は、ほとんど遺物が伴わず、帰属時期について求められない遺構が数多く、本書では、文書による記述はせずに1/60の平面・断面図の図示と計測値の提示とした。平面形と断面形については土坑と同様の類型に基づき表示した。

本書で掲載した図版のうち、遺構図版については業務委託した測量成果のデータの中で、Adobe社のイラストレータ形式(Ver.8.0)のファイル編集し図版とした。なお、測量成果受領以降に判明した変更点等についてはCADのソフトウェアを持ち合わせていなかったため、イラストレータ形式のみを修正し、CADデータ(DXF形式)については変更を加えていない。

また、自然科学分析のうち鉄滓は雲谷山吹(5)～(7)遺跡から出土した資料を一括して分類し、必要な資料について分析委託を行い、記述に際しても第4章中で統括して記載した。

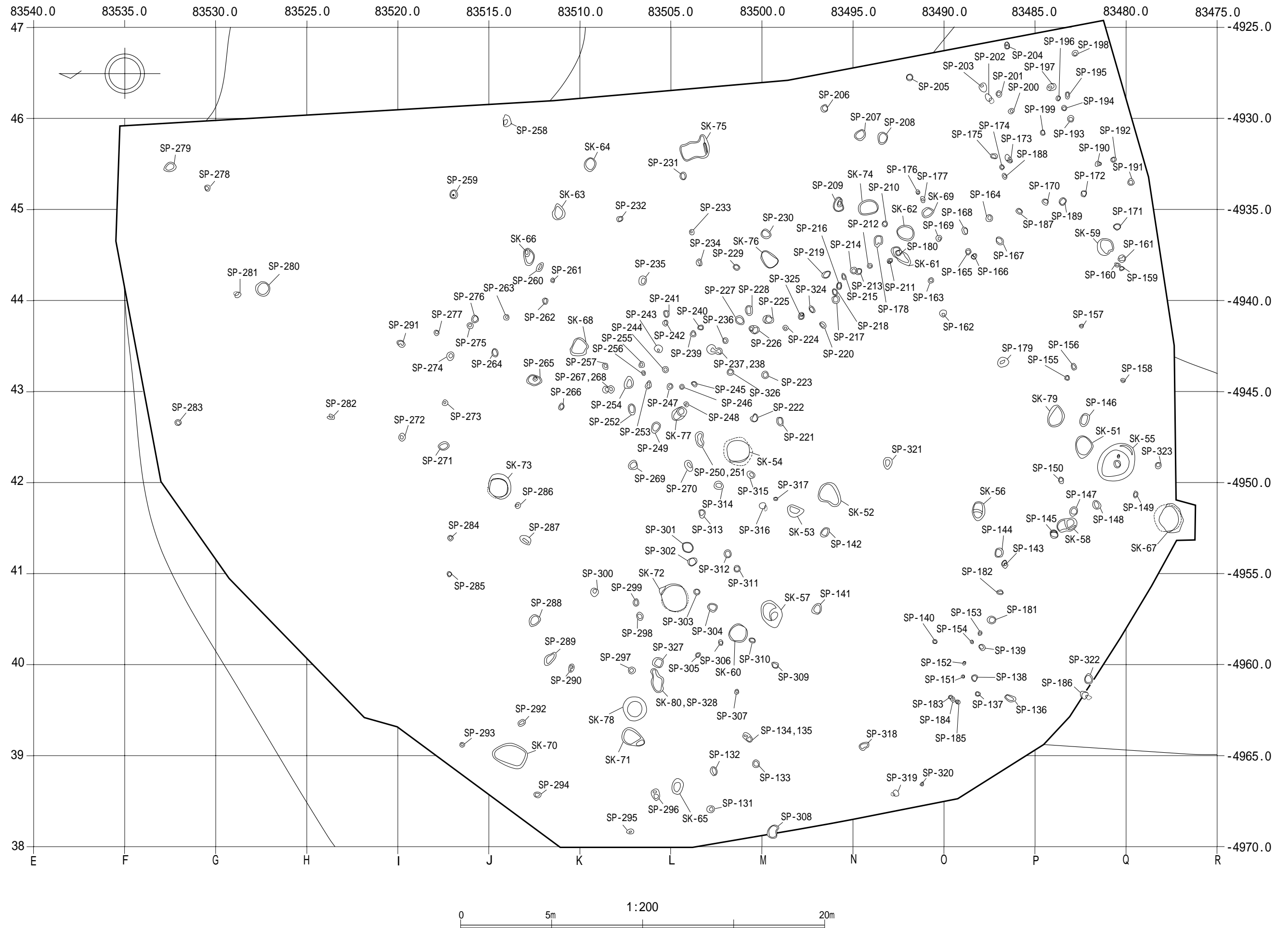


图7 雲谷山吹(4)遺跡遺構配置図

第 章 雲谷山吹(4)遺跡

第1節 遺構と遺物

1. 土坑

S K - 51 (図8、写真3) グリッドP - 42で検出した。規模は125×97×20cmを測り、平面形はe、断面形はhで、堆積土は黒褐色主体の堆積で炭化粒が混入する。

S K - 52 (図8、写真4) グリッドM - 41で検出した。規模は146×117×23cmを測り、平面形はe、断面形はdである。第1層が埋没後の影響層でロームが主に堆積する。

S K - 53 (図8、写真5) グリッドM - 41で検出した。規模は92×65×18cmを測り、平面形はe、断面形はhである。

S K - 54 (図8、写真6・7) グリッドL - 42で検出した。規模は開口部で145×129cm、底面で162×155cm、深さは90cmを測り、平面形はh、断面形はfである。堆積土は底面中央部直上に黒褐色土が堆積しており、壁面よりの部分には側壁側の崩落土の影響かローム質の土層堆積が認められ第4・5層の成層は崩落による堆積である。

S K - 55 (図8、写真8・35) グリッドP・Q - 42で検出した。規模は237×188×36cmを測る。平面形はf、断面形はdで、底面中央に40×39×17cmと21×15×11cmの小ピット2基が伴う。堆積は単層で土坑ならびにピットが同時に埋没している。堆積土中から縄文土器2片(写真35 - 1、35 - 2)が出土している。

S K - 56 (図8) グリッドO - 41で検出した。規模は106×70×32cmを測り、平面形はf、断面形はiである。堆積が不均一で根などによる影響が考えられる。

S K - 57 (図8) グリッドM - 40で検出した。規模は156×110×31cmを測り、平面形はe、断面形はeである。

S K - 58 (図9、写真9) グリッドP - 41で検出した。規模は115×70×25cmを測り、平面形はf、断面形はiである。

S K - 59 (図9、写真10) グリッドP - 44で検出した。規模は92×90×19cmを測り、平面形はe、断面形はhである。

S K - 60 (図9、写真11) グリッドL - 40で検出した。規模は105×103×44cmを測り、平面形はh、断面形はaである。中位にローム粒がレンズ状に堆積しており自然堆積状況を呈する。

S K - 61 (図9、写真12) グリッドN - 44で検出した。S P - 180と重複しており、本遺構の方が新しい。規模は80×58×28cmを測り、平面形はeで、断面形はdである。柱穴状の堆積状況を呈し、第3・4層は裏込土と同様にしまりがある。

S K - 62 (図9、写真13) グリッドN - 44で検出した。規模は100×83×30cmを測り、平面形はf、断面形はaである。

S K - 63 (図9、写真14) グリッドJ - 44・45で検出した。規模は88×71×24cmを測り、平面形はe、断面形はdである。

S K - 64 (図9) グリッドK - 45で検出した。規模は74×63×21cmを測り、平面形はf、断面形はdである。

S K - 65 (図9、写真15) グリッドL - 38で検出した。規模は86×60×23cmを測り、平面形はf、断面形はdである。

S K - 66 (図9、写真16) グリッドJ - 44で検出した。規模は100×61×10cmを測り、平面形はf、断面形はdである。底面の西側隅に40×29×35cmのピット状の落ち込みがあり、堆積状況を判断すると土坑というよりむしろ抜き取り痕を有する柱穴と判断できる。

S K - 67 (図10、写真17・18) グリッドQ - 41で検出した。規模は166×160×90cmを測り、平面形はe、断面形はfである。底面直上に堆積する第6層およびその上層に堆積する第5層は自然堆積状況を呈するが、第5層の上面は壁の崩落による影響を受けており、第1～3層も同様の影響による堆積である。

S K - 68 (図10、写真19) グリッドJ・K - 43で検出した。規模は102×100×17cmを測り、平面形はe、断面形はdである。根による影響が著しい。

S K - 69 (図10、写真20) グリッドN - 44・45で検出した。規模は70×50×20cmを測り、平面形はe、断面形はdである。底面はしまりのあるローム土が堆積しており炭化粒が混入している。上層は黒褐色主体の堆積である。

S K - 70 (図10、写真21) グリッドJ - 38・39で検出した。規模は195×136×15cmを測り、平面形はe、断面形はeである。第3層はロームブロック等を混入する暗褐色主体の堆積土である。

S K - 71 (図10、写真22・23) グリッドK - 39で検出した。規模は135×93×33cmを測り、平面形はe、断面形はbである。

S K - 72 (図10、写真24・25) グリッドK・L - 40で検出した。規模は160×145×82cmを測り、一部壁面が崩落しているため北東壁の形状が突出しているが、もともとは円形を呈していたものと考えられ、(h)で、断面形は同様に(a)であると考えられる。壁面の崩落の影響は第4・6層にも認められ、前述の北東壁の崩落は第3層と第5層の堆積時点で生じている。

S K - 73 (図11、写真26・27) グリッドJ - 41・42で検出した。規模は143×128×64cmを測り、底面の規模は113×100cmを測る。平面形はf、断面形はfで、北壁側がやや入り込むが第3層は壁面の崩落層であると認定でき、もともとは袋状の括れがある形状であったものと考えられる。

S K - 74 (図11、写真28・29) グリッドN - 44・45で検出した。規模は110×80×23cmを測り、平面形はf、断面形はdである。一部根による影響が認められるが基本的に自然堆積状況を呈する。

S K - 75 (図11、写真30) グリッドL - 45で検出した。規模は160×130×24cmを測り、平面形はe、断面形はbであるが、南壁よりの部分には63×15×15cmの溝状の落ち込みがあり、東壁側もその延長線上の部分については広がった形状を呈している。

S K - 76 (図11、写真31) グリッドM - 44で検出した。規模は105×74×20cmを測り、平面形はf、断面形はeであるがやや凹凸が激しい。壁際については褐色土主体の堆積土であり、崩落等による影響であると考えられる。

S K - 77 (図11、写真32) グリッドL - 42で検出した。規模は90×63×34cmを測り、平面形はf、断面形はeである。断面の形状がS K - 66と同様柱穴状の掘り込みであるが、柱穴痕とは明瞭に判断できない。ただ周辺に小ピット群が群在しているため同様の機能を果たした可能性がある。

S K - 78 (図11、写真33・34) グリッドK - 39で検出した。規模は142×129×48cmを測り、平面形はh、断面形はdである。ローム粒を多量、ロームブロック、パミス、炭化粒を少量含む第2層が埋土の主体で人為的に急激に埋め戻されたものと考えられる。

S K - 79 (図11) グリッドP - 42で検出した。規模は124×88×20cmを測り、根による影響で堆積

や断面・平面形状についても影響を受けているが、平面形はe、断面形はeである。

S K - 80（図11）グリッドK - 39で検出した。S P - 328と重複しており、本遺構の方が新しい。規模は、103×74×20cmを測り、平面形はe、断面形はcである。底面及び壁際の堆積土には炭化粒が混入する。

2. 遺構外出土遺物（図24、写真35）

土器ならびに石器8点を図示した。1・2はグリッドP - 41第 層から出土した縄文土器深鉢の口縁部片で、接点は認められないが同一個体の可能性が考えられる資料である。波状口縁で、粘土を貼り付け突起状に口唇部を作出している。1は器壁に撚糸の側面圧痕ならびに馬蹄形状の圧痕が施される。さらに突起の底辺部分には平行に粘土紐が貼られ、その上に山形突起の形状に沿って粘土紐が貼られ、撚糸の側面圧痕が施される。2は波状口縁の口唇部のほとんどが欠損しているが施文手法については1と同様であり、縄文時代中期円筒上層b式に帰属する。3はD区包含層出土の体部片で羽状縄文が施される。胎土には繊維の混入が見られず、縄文時代中期の資料であると考えられる。4はD区包含層出土の鉢形土器の口縁部から体部にかけての資料で、短頸で口縁部には平行沈線が2条施される。外面の体部には地文にはR Lが頸部に近い部分は横走、体部側は縦走させ施されている。また、内外面には微量ではあるが炭化物が付着している。縄文時代晩期後半大洞C₂～A式期に帰属する。5はグリッドM - 40風倒木から出土した台付鉢形土器の底部片で高台径5.6cmを測る。地文にはR L縄文が施され、高台部外面には平行沈線が2条施されており、沈線間は横位に磨かれている。また高台内面側についても丁寧に磨かれている。縄文時代晩期後半の資料であると考えられる。6はD区包含層出土の鉢形土器の底部片で、底径4.4cmを測る。地文にR L縄文が施され、底部直上部分には稚拙な沈線が1条断続的に施されている。体部側の部分に内外面とも煮沸痕が観察され、外面には炭化物が付着している。縄文時代晩期後半に帰属するものと考えられる。7はD区包含層出土の深鉢の体部片で外面の地文にはLが上半部には横走、下半部には縦走させ施されている。また、内面は粗いナデが縦位方向を主体に施されている。外面には黒斑および炭化物付着が観察される。縄文時代晩期に帰属するものと考えられる。8はD区包含層出土の磨製石斧で7.3×3.7×1.2cmを測り、重さは54gを量る。扁平片刃形で背面の柄部末端は製作段階でのつぶれならびに未調整の凹部が観察される。

第2節 小結

雲谷山吹（4）遺跡は、青森市合子沢山崎の青森公立大学の敷地内標高122～124mの山林に所在する。発掘調査は現国際芸術センター青森（仮称青森市芸術創作工房）施設の中央棟の敷地内2,042㎡を調査した。調査の結果土坑30基、ピット198基を検出し、縄文時代中期、縄文時代晩期の土器・石器が出土した。遺構内から出土遺物がほとんどないため、明確な帰属時期の求められる遺構が少なく、またピットについても直列や弧状を呈しているものもあるが、構築物として明確に認定できなかったため、個々の取扱いとした。これらの小ピットは桜峯（1）遺跡（青森市教育委員会2000）や隣接する雲谷山吹（5）・（6）遺跡でも検出しており、雲谷地区の土地利用における特徴である。雲谷は藩政期に牧場として土地利用がなされており、これに関連したことも可能性の一つであるが、今後の周辺部の調査成果に委ねるしかない。

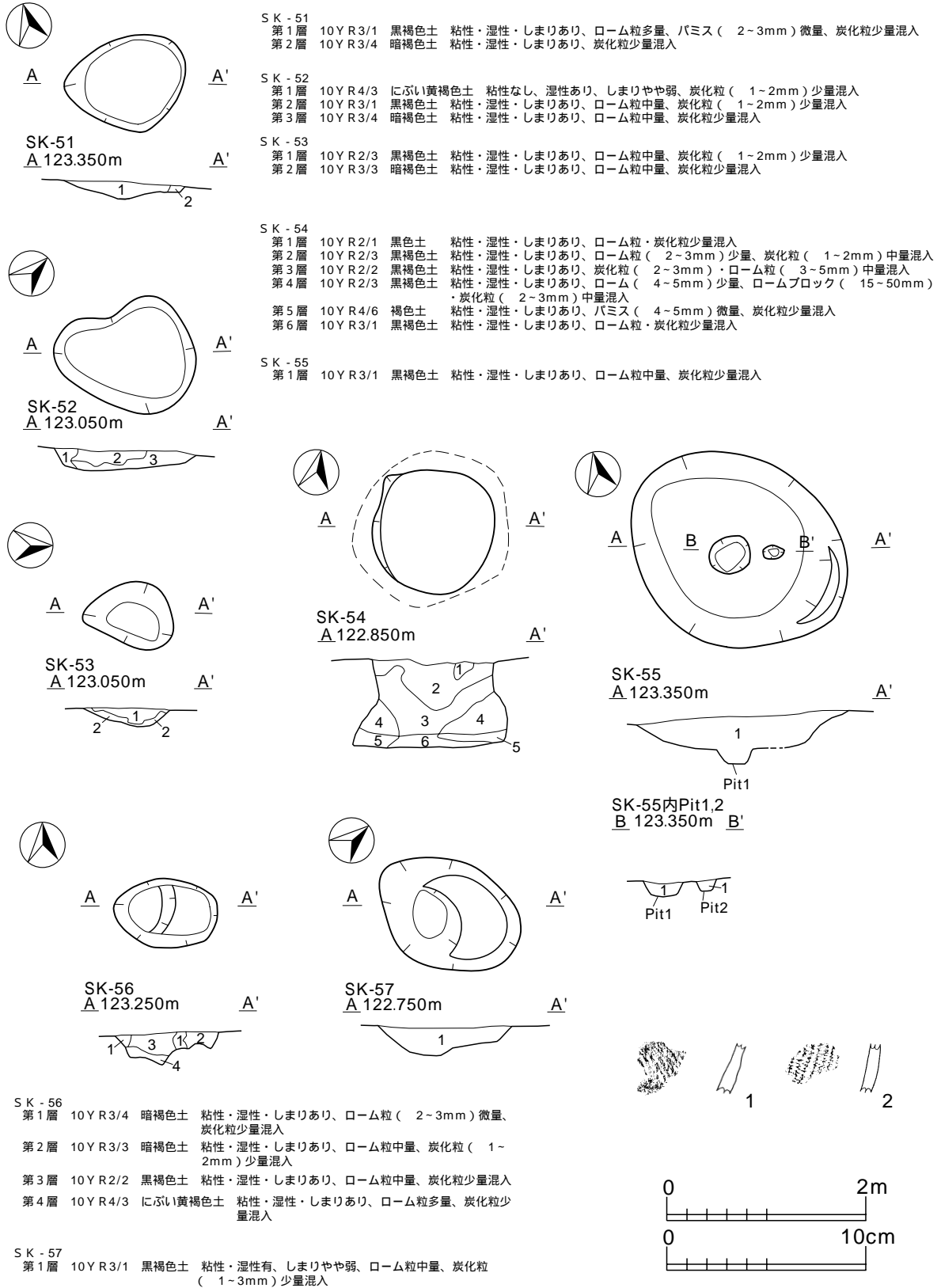
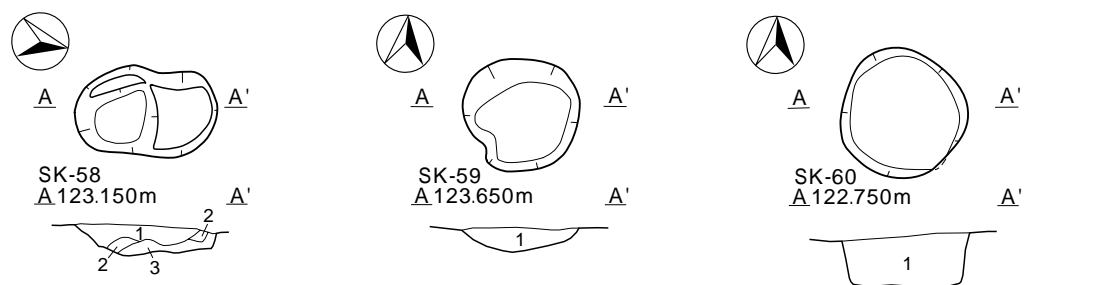
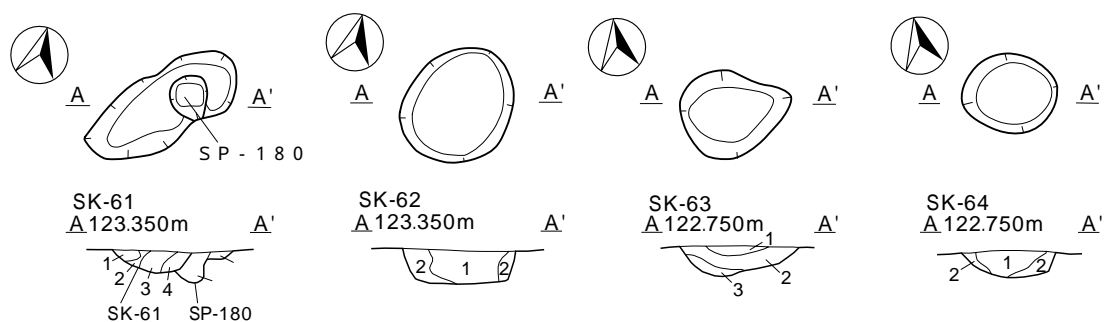


図 8 SK



- SK-58
 第1層 10Y R3/1 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、パミス(3~4mm)・炭化粒少量混入
 第2層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm)・炭化粒少量混入
 第3層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒中量混入
- SK-59
 第1層 10Y R3/1 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒少量混入
- SK-60
 第1層 10Y R3/1 黒褐色土 炭化粒(2~3mm)・ローム粒(3~5mm)・ロームブロック(20~40mm)少量混入



- SK-61
 第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm)・炭化粒少量混入
 第2層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・パミス(2~5mm)・炭化粒少量、パミス(4~5mm)微量混入
 第3層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・パミス(2~5mm)・炭化粒少量混入
 第4層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、パミス(2~4mm)・炭化粒少量混入
- SK-62
 第1層 10Y R3/1 黒褐色土 ローム粒・炭化粒少量混入
 第2層 10Y R2/3 黒褐色土 ローム粒(3~4mm)中量、炭化粒少量混入
- SK-63
 第1層 10Y R2/1 黒色土 粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒・炭化物少量混入
 第2層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒中量混入
 第3層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm)・炭化粒少量混入
- SK-64
 第1層 10Y R3/1 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
 第2層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(3~4mm)・炭化粒(1~3mm)少量混入
- SK-65
 第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~2mm)・ローム粒(2~3mm)少量、ロームブロック(40~50mm)微量混入
 第2層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(3~4mm)中量、炭化粒少量混入
- SK-66
 第1層 10Y R3/1 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
 第2層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
 第3層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm)・炭化粒少量混入
 第4層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量、ローム粒中量混入



図 9 SK

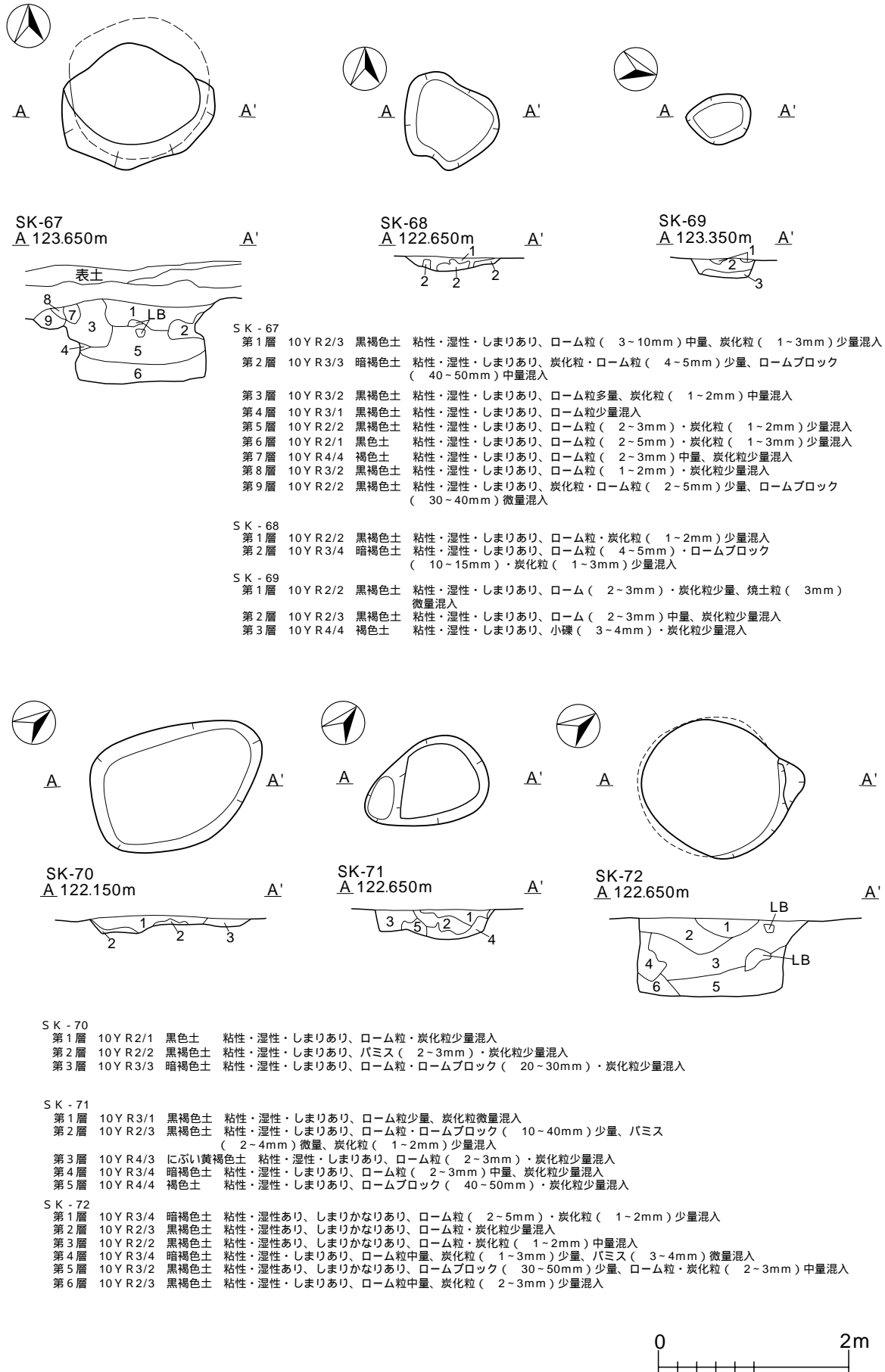
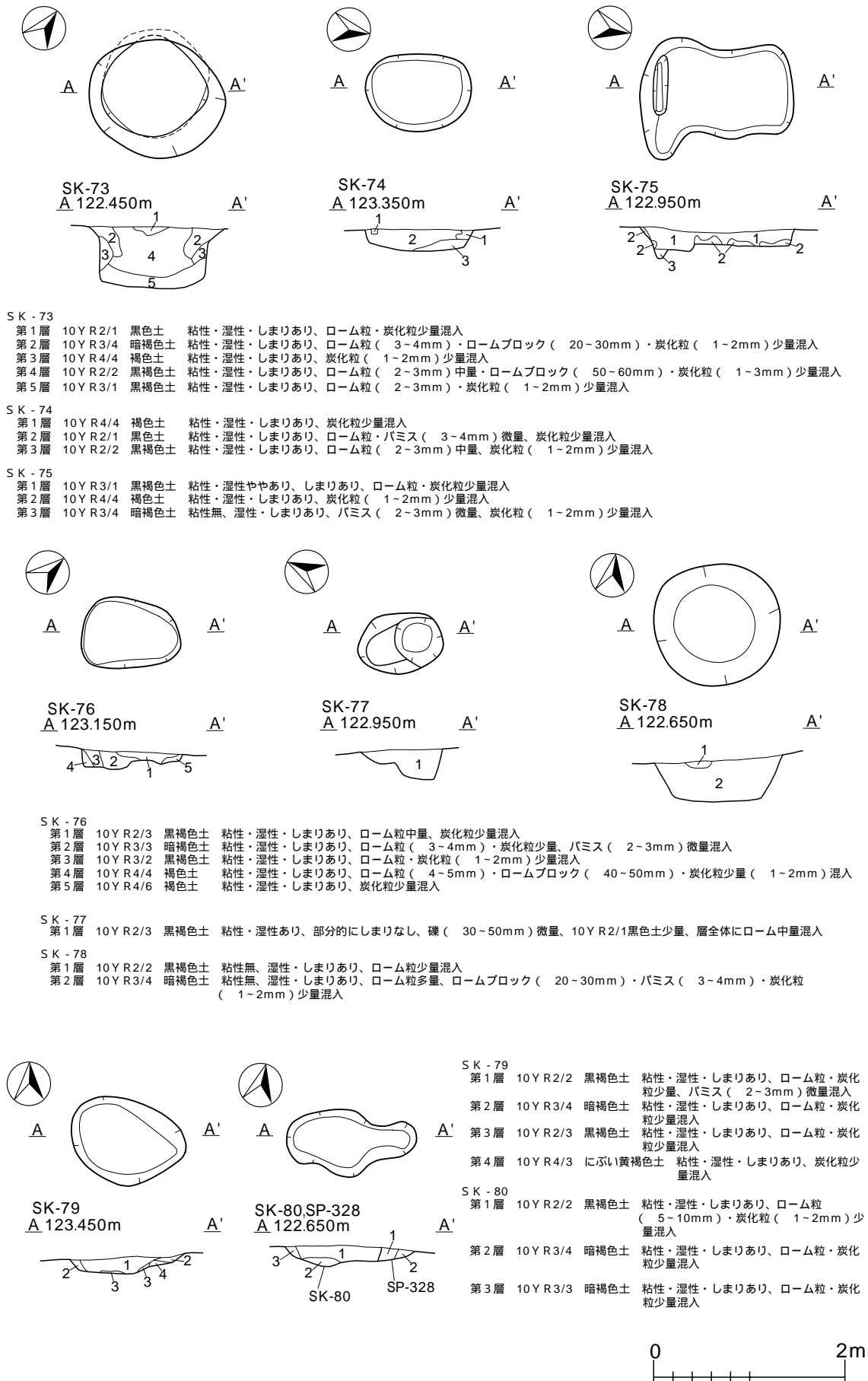


図10 SK



SK-73

- 第1層 10Y R2/1 黒色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- 第2層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(3~4mm)・ロームブロック(20~30mm)・炭化粒(1~2mm)少量混入
- 第3層 10Y R4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~2mm)少量混入
- 第4層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm)中量・ロームブロック(50~60mm)・炭化粒(1~3mm)少量混入
- 第5層 10Y R3/1 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm)・炭化粒(1~2mm)少量混入

SK-74

- 第1層 10Y R4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- 第2層 10Y R2/1 黒色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・パミス(3~4mm)微量、炭化粒少量混入
- 第3層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm)中量、炭化粒(1~2mm)少量混入

SK-75

- 第1層 10Y R3/1 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- 第2層 10Y R4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~2mm)少量混入
- 第3層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性無、湿性・しまりあり、パミス(2~3mm)微量、炭化粒(1~2mm)少量混入

SK-76

- 第1層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒少量混入
- 第2層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(3~4mm)・炭化粒少量、パミス(2~3mm)微量混入
- 第3層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒(1~2mm)少量混入
- 第4層 10Y R4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(4~5mm)・ロームブロック(40~50mm)・炭化粒少量(1~2mm)混入
- 第5層 10Y R4/6 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入

SK-77

- 第1層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性あり、部分的にしまりなし、礫(30~50mm)微量、10Y R2/1黒色土少量、層全体にローム中量混入

SK-78

- 第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性無、湿性・しまりあり、ローム粒少量混入
- 第2層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性無、湿性・しまりあり、ローム粒多量、ロームブロック(20~30mm)・パミス(3~4mm)・炭化粒(1~2mm)少量混入

SK-79

- 第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量、パミス(2~3mm)微量混入
- 第2層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- 第3層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- 第4層 10Y R4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入

SK-80

- 第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(5~10mm)・炭化粒(1~2mm)少量混入
- 第2層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- 第3層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入

図11 SK

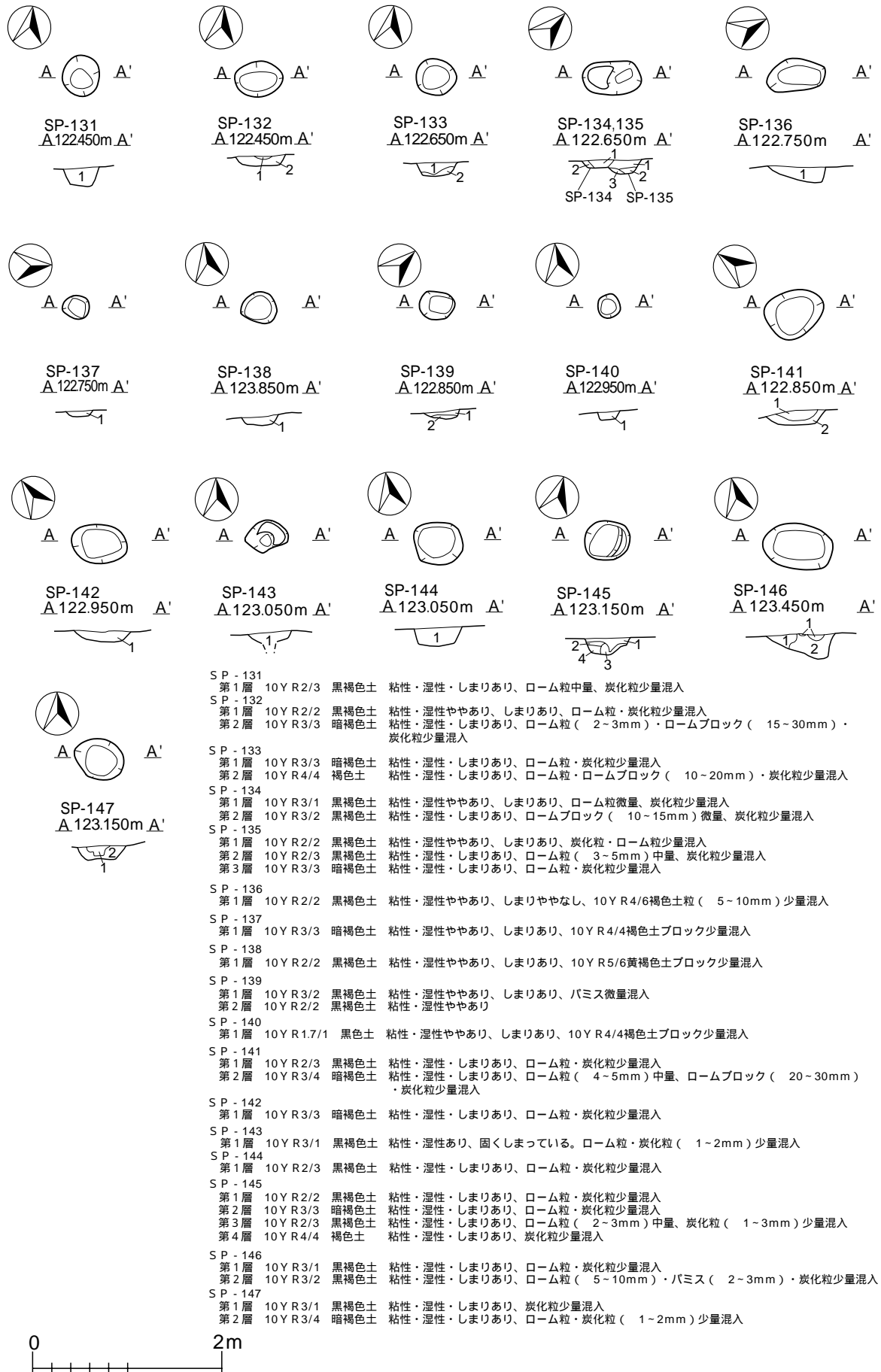


図12 SP

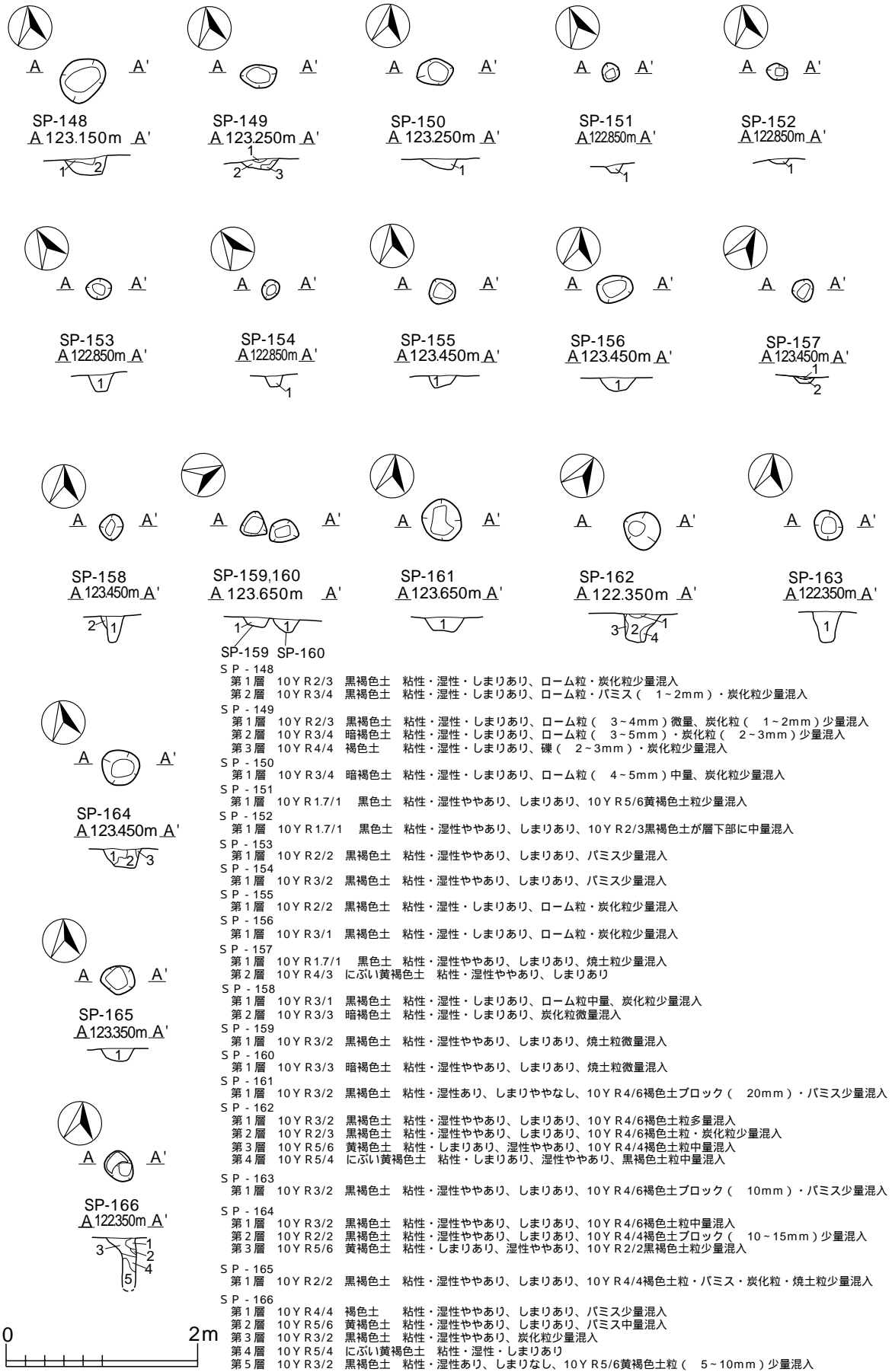
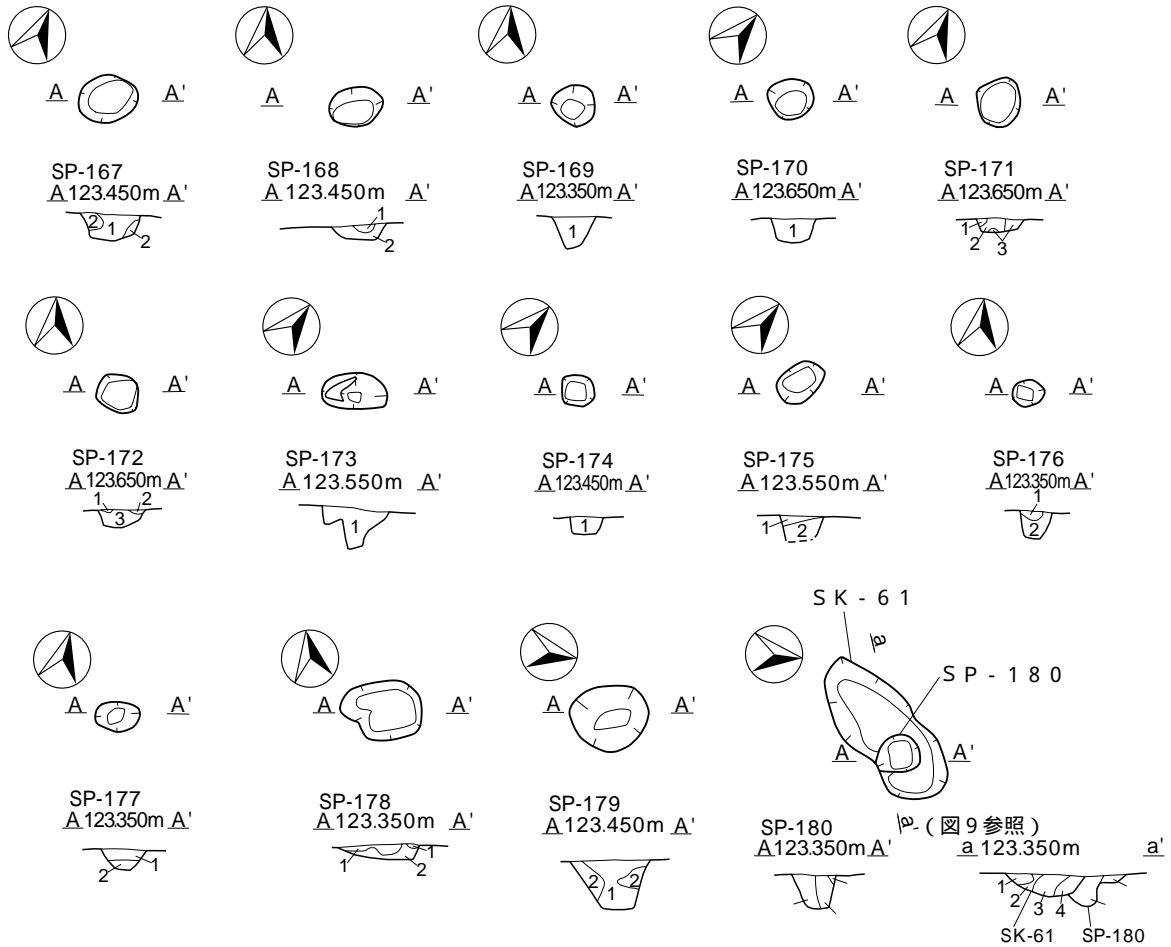
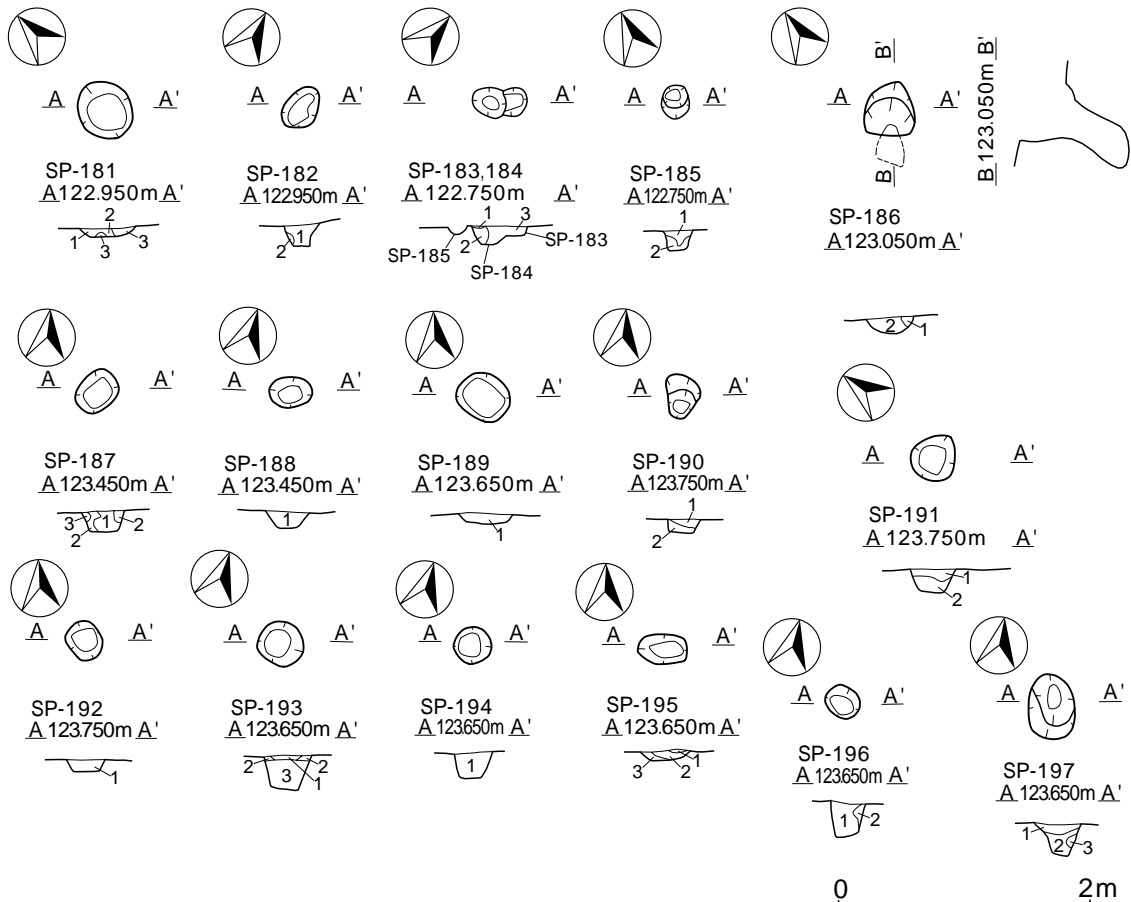


図13 SP



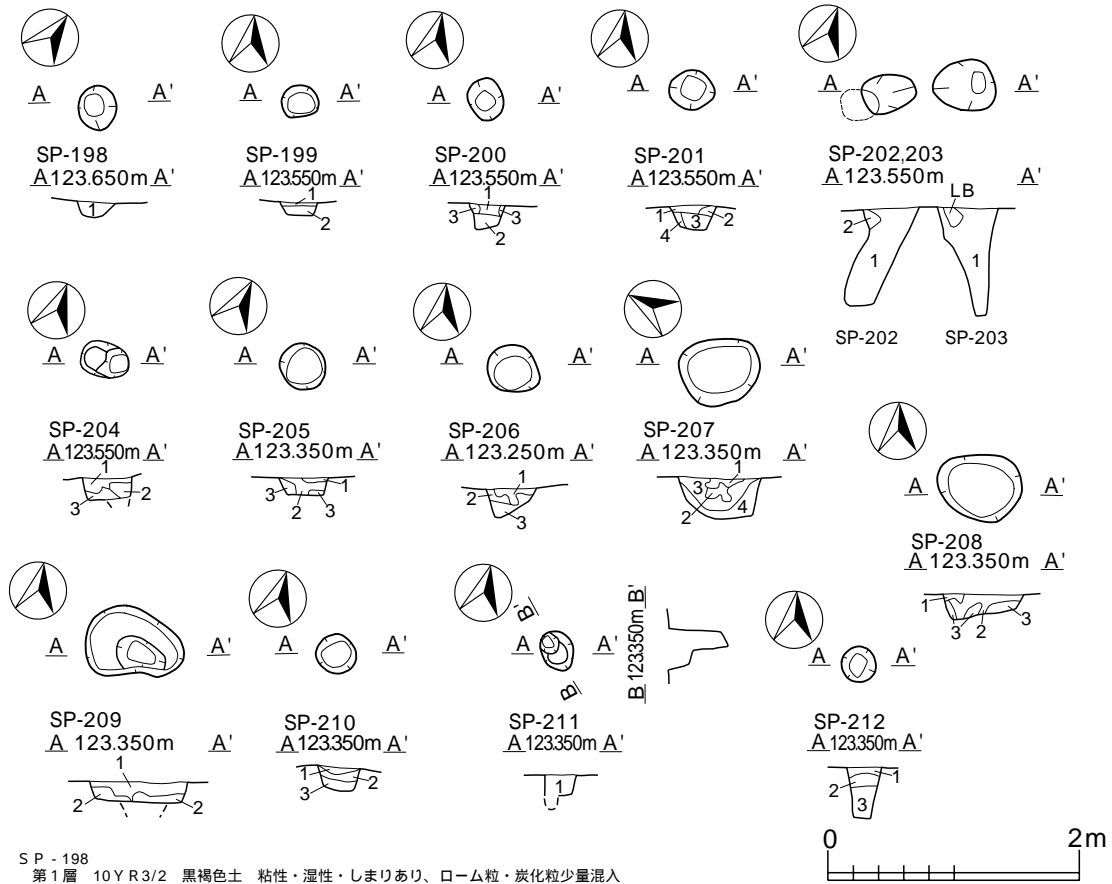
- SP - 167
 - 第1層 10Y R2/1 黒色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり、パミス多量混入
 - 第2層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、パミス中量混入
- SP - 168
 - 第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり、炭化粒・焼土粒微量混入
 - 第2層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり、10Y R4/4・4/6褐色土粒・褐色土ブロック(5~15mm)中量、焼土粒・炭化粒微量混入
- SP - 169
 - 第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・しまりあり、湿性ややあり、10Y R5/4にぶい黄褐色土粒・炭化粒少量混入、層下部に灰少量含む
- SP - 170
 - 第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり、10Y R4/6褐色土粒少量混入
- SP - 171
 - 第1層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり
 - 第2層 10Y R4/6 褐色土 粘性・しまりあり・湿性ややあり、10Y R4/3にぶい黄褐色土粒少量混入
 - 第3層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりやや弱
- SP - 172
 - 第1層 10Y R5/6 黄褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり
 - 第2層 10Y R3/1 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり
 - 第3層 10Y R4/2 灰黄褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり、10Y R5/6黄褐色土ブロック(10mm)・10Y R3/2黒褐色土粒少量混入
- SP - 173
 - 第1層 10Y R2/1 黒色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり、10Y R2/2黒褐色土粒少量混入
- SP - 174
 - 第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり、パミス少量混入
- SP - 175
 - 第1層 10Y R4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり
 - 第2層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、パミス・炭化物微量混入
- SP - 176
 - 第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり、10Y R4/6褐色土粒少量混入
 - 第2層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり、10Y R4/4褐色土粒少量混入
- SP - 177
 - 第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり、10Y R5/6黄褐色土粒少量混入
 - 第2層 10Y R2/1 黒色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり、10Y R4/4褐色土粒少量混入
- SP - 178
 - 第1層 10Y R2/1 黒色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり、炭化粒微量混入
 - 第2層 10Y R4/4 褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり、10Y R2/1黒色土ブロック(10mm)少量、炭化粒微量混入
- SP - 179
 - 第1層 10Y R3/1 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒少量、炭化粒中量混入
 - 第2層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(5~10mm)・パミス(2~3mm)・炭化粒少量混入
- SP - 180
 - 第層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
 - 第層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(3~4mm)・炭化粒少量混入
 - 第層 10Y R4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒微量混入
 - 第層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(5~10mm)中量、炭化粒少量混入

図14 SP



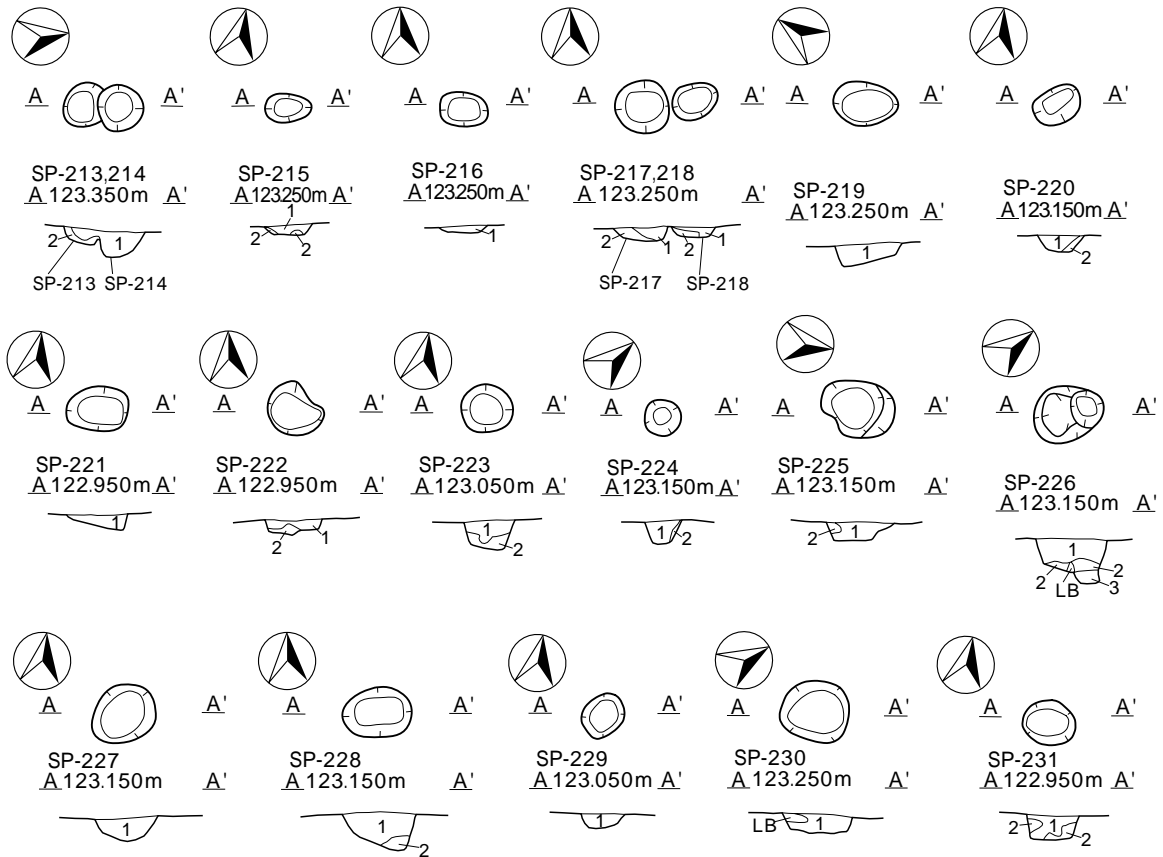
- S P - 181
 第1層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性ややあり、湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
 第2層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性ややあり、湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
 第3層 10Y R4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性・しまりあり、パミス (2~3mm) ・炭化粒 (1~2mm) 少量混入
- S P - 182
 第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量、パミス (2~3mm) 微量混入
 第2層 10Y R4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- S P - 183・184
 第1層 10Y R4/6 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
 第2層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性あり、しまりやや弱、ローム粒 (4~5mm) 多量、炭化粒 (2mm) 少量混入
 第3層 10Y R4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒微量、炭化粒少量混入
- S P - 185
 第1層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
 第2層 10Y R4/6 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- S P - 186
 第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性あり、しまりかなりあり、ローム粒 (3~4mm) 少量、炭化粒微量混入
 第2層 10Y R2/1 黒色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- S P - 187
 第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒少量混入
 第2層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒少量混入
 第3層 10Y R4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- S P - 188
 第1層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒 (1~2mm) ・ローム粒少量、ロームブロック (10~20mm) 微量混入
- S P - 189
 第1層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (2~3mm) ・炭化粒少量混入
- S P - 190
 第1層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒少量混入
 第2層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- S P - 191
 第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
 第2層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒少量混入
- S P - 192
 第1層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- S P - 193
 第1層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (2~3mm) ・炭化粒少量混入
 第2層 10Y R4/6 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
 第3層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒 (1~2mm) 中量、ローム粒 (3~5mm) 少量、ロームブロック (20~30mm) 微量混入
- S P - 194
 第1層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量、焼土粒 (1~2mm) 微量混入
- S P - 195
 第1層 10Y R3/1 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒 (2~3mm) 少量混入
 第2層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒 (1~2mm) 少量混入
 第3層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- S P - 196
 第1層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒 (1~2mm) 少量混入
 第2層 10Y R4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- S P - 197
 第1層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (2~3mm) ・炭化粒少量混入
 第2層 10Y R4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (3~4mm) ・炭化粒 (1~2mm) 少量混入
 第3層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (2~3mm) ・炭化粒少量混入

図15 S P



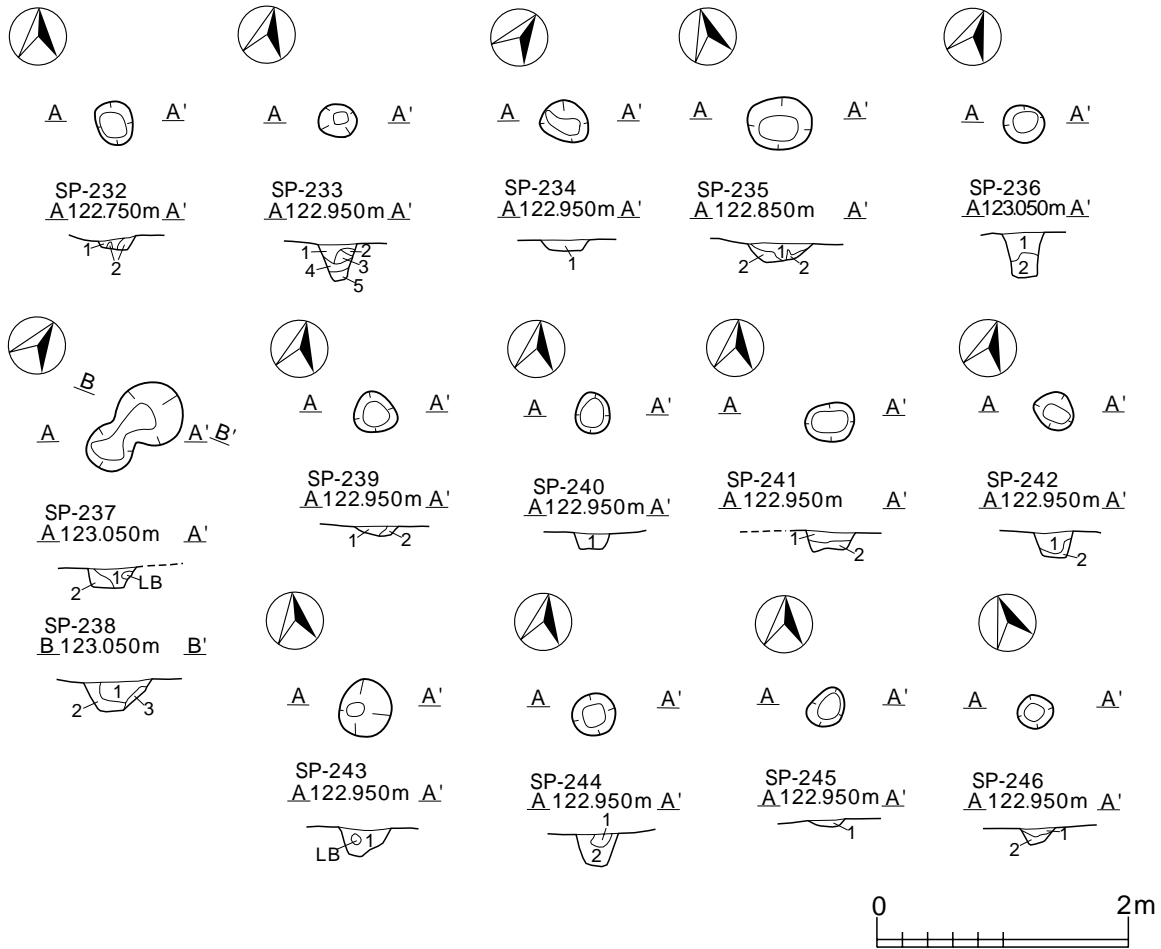
- S P - 198
第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- S P - 199
第1層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性あり、しまりやや弱、ローム粒 (2~3mm)・炭化粒少量混入
第2層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量、パミス (2~3mm)微量混入
- S P - 200
第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (2~3mm)・ロームブロック (30~40mm)・炭化粒少量混入
第2層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒 (1~2mm)少量混入
第3層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、パミス (3~4mm)微量、炭化粒少量混入
- S P - 201
第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性ややあり、湿性・しまりあり、ローム粒 (2~3mm)少量、炭化粒微量混入
第2層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性ややあり、湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒少量混入
第3層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性ややあり、湿性・しまりあり、ローム粒 (2~3mm)中量、炭化粒 (1~2mm)少量混入
第4層 10Y R4/6 褐色土 粘性なし、湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- S P - 202
第1層 10Y R2/1 黒色土 粘性・湿性あり、しまりややあり、層下部にロームブロック (40~50mm)を含む他、ローム粒 (2~3mm)・炭化粒少量混入
第2層 10Y R4/3 にぶい黄褐色土 粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- S P - 203
第1層 10Y R3/1 黒褐色土 粘性・湿性あり、しまりややあり、ローム粒多量、炭化粒少量混入
- S P - 204
第1層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (3~4mm)・炭化粒少量混入
第2層 10Y R4/3 にぶい黄褐色土 粘性ややあり、湿性・しまり有、ローム粒・パミス (4~5mm)微量、炭化粒少量混入
第3層 10Y R4/6 褐色土 粘性無、湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- S P - 205
第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第2層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (3~4mm)・炭化粒少量混入
第3層 10Y R4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (3~4mm)・炭化粒少量混入
- S P - 206
第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (3~4mm)・炭化粒少量混入
第2層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第3層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- S P - 207
第1層 10Y R2/1 黒色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒微量、炭化粒少量混入
第2層 10Y R4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
第3層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (3~6mm)多量、炭化粒 (1~2mm)少量混入
第4層 10Y R4/6 褐色土 粘性・湿性强、しまりあり、炭化粒 (1~2mm)少量混入
- S P - 208
第1層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (4~5mm)・炭化粒少量混入
第2層 10Y R3/1 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (3~4mm)・炭化粒少量混入
第3層 10Y R4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、パミス (1~2mm)微量、炭化粒少量混入
- S P - 209
第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第2層 10Y R4/4 褐色土 粘性無、湿性・しまりあり、ローム粒 (4~10mm)・炭化粒少量混入
- S P - 210
第1層 10Y R3/1 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第2層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (3~4mm)・炭化粒 (1~2mm)少量混入
第3層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒微量、炭化粒少量混入
- S P - 211
第1層 10Y R3/1 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- S P - 212
第1層 10Y R3/1 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒微量、炭化粒少量混入
第2層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (3~4mm)・炭化粒少量混入
第3層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒少量混入

図16 S P



- | | | | |
|---------------|-------------------|--|--|
| S P - 213・214 | | 0 2m | |
| 第1層 | 10Y R 2/2 黒褐色土 | 粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒 (2~4mm) 中量、パミス (2~3mm) 微量、炭化粒少量混入 | |
| 第2層 | 10Y R 3/3 暗褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (4~5mm) 中量、炭化粒少量混入 | |
| S P - 215 | | | |
| 第1層 | 10Y R 3/2 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入 | |
| 第2層 | 10Y R 4/4 褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒微量、炭化粒少量混入 | |
| S P - 216 | | | |
| 第1層 | 10Y R 3/3 暗褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (3~4mm) 少量、炭化粒 (1~2mm) ・パミス (3~5mm) 微量混入 | |
| S P - 217 | | | |
| 第1層 | 10Y R 3/3 暗褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入 | |
| 第2層 | 10Y R 4/4 褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入 | |
| S P - 218 | | | |
| 第1層 | 10Y R 3/4 暗褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入 | |
| 第2層 | 10Y R 4/6 褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入 | |
| S P - 219 | | | |
| 第1層 | 10Y R 3/2 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (2~3mm) ・炭化粒少量混入 | |
| S P - 220 | | | |
| 第1層 | 10Y R 3/2 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入 | |
| 第2層 | 10Y R 3/4 暗褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入 | |
| S P - 221 | | | |
| 第1層 | 10Y R 3/3 暗褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、パミス (3~4mm) ・炭化粒少量混入 | |
| S P - 222 | | | |
| 第1層 | 10Y R 3/3 暗褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・パミス (4~5mm) ・炭化粒 (1~2mm) 少量混入 | |
| 第2層 | 10Y R 4/4 褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (3~4mm) ・炭化粒少量混入 | |
| S P - 223 | | | |
| 第1層 | 10Y R 3/1 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入 | |
| 第2層 | 10Y R 4/4 褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (4~5mm) 微量、炭化物少量混入 | |
| S P - 224 | | | |
| 第1層 | 10Y R 2/2 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入 | |
| 第2層 | 10Y R 3/4 暗褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入 | |
| S P - 225 | | | |
| 第1層 | 10Y R 3/2 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、ロームブロック (10~15mm) 微量、パミス (2~4mm) ・炭化粒少量混入 | |
| 第2層 | 10Y R 4/4 褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入 | |
| S P - 226 | | | |
| 第1層 | 10Y R 2/3 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、パミス (2~3mm) 少量、ローム粒・炭化粒中量混入 | |
| 第2層 | 10Y R 4/3 にぶい黄褐色土 | 粘性ややあり、湿性・しまりあり、ローム粒 (2~3mm) 中量、炭化粒 (1~2mm) 少量混入 | |
| 第3層 | 10Y R 3/2 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒中量混入 | |
| S P - 227 | | | |
| 第1層 | 10Y R 3/2 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまり有、小礫 (2~3mm) ・ロームブロック (30~50mm) 微量、ローム粒・炭化粒少量混入 | |
| S P - 228 | | | |
| 第1層 | 10Y R 3/2 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (2~5mm) 中量、炭化粒少量混入 | |
| 第2層 | 10Y R 2/2 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (2~3mm) 少量、炭化粒中量混入 | |
| S P - 229 | | | |
| 第1層 | 10Y R 3/3 暗褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒 (1~2mm) 少量混入 | |
| S P - 230 | | | |
| 第1層 | 10Y R 4/3 にぶい黄褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (5~10mm) 少量、炭化粒微量混入 | |
| S P - 231 | | | |
| 第1層 | 10Y R 3/3 暗褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入 | |
| 第2層 | 10Y R 4/4 褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入 | |

図17 S P



S P - 232			
第1層	10Y R3/2	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒微量、炭化粒少量混入
第2層	10Y R4/4	褐色土	粘性・湿性・しまりあり、パミス(2mm)微量、炭化粒少量混入
S P - 233			
第1層	10Y R3/3	暗褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・パミス(2~3mm)・炭化粒少量混入
第2層	10Y R5/6	黄褐色土	粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第3層	10Y R3/2	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒少量、炭化粒中量混入
第4層	10Y R4/6	褐色土	粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm)中量、炭化粒少量混入
第5層	10Y R4/4	褐色土	粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒(3~4mm)・炭化粒(1~2mm)少量混入
S P - 234			
第1層	10Y R3/3	暗褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm)・炭化粒少量混入
S P - 235			
第1層	10Y R3/3	暗褐色土	ローム粒・炭化粒少量混入
第2層	10Y R4/4	褐色土	炭化粒少量混入
S P - 236			
第1層	10Y R3/2	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第2層	10Y R2/3	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm)・炭化粒(1~2mm)少量混入
S P - 237			
第1層	10Y R3/2	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm)・炭化粒(1~3mm)少量混入
第2層	10Y R4/4	褐色土	粘性・湿性・しまりあり、小礫(2~3mm)微量、ローム粒・炭化粒(2~3mm)少量混入
S P - 238			
第1層	10Y R2/3	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒少量混入
第2層	10Y R3/3	暗褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒(1~2mm)少量混入
第3層	10Y R4/6	褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~3mm)少量混入
S P - 239			
第1層	10Y R3/2	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒微量、炭化粒少量混入
第2層	10Y R3/3	暗褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm)微量、炭化粒少量混入
S P - 240			
第1層	10Y R2/3	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒少量混入
S P - 241			
第1層	10Y R2/2	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(1~5mm)層全体に中量、パミス(10mm)極微量混入
第2層	10Y R5/6	黄褐色土	粘性・湿性あり、しまりやや強、小礫(1~3mm)少量、パミス(5~15mm)微量混入
S P - 242			
第1層	10Y R2/3	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ロームブロック層全体に中量、小礫(1~2mm)微量混入
第2層	10Y R4/6	褐色土	粘性・湿性あり、固くしまりあり、パミス(5~10mm)少量、小礫(1~2mm)微量混入
S P - 243			
第1層	10Y R2/2	黒褐色土	粘性やや有、湿性・しまりあり、ロームブロック層全体に中量、炭化粒(1~3mm)微量、炭化物(10mm)極微量混入
S P - 244			
第1層	10Y R2/1	黒色土	粘性ややあり、湿性・しまりあり、ローム粒(1~3mm)微量混入
第2層	10Y R2/2	黒褐色土	粘性・湿性あり、固くしまりあり、ロームブロック層全体に中量、小礫(1~2mm)微量混入
S P - 245			
第1層	10Y R2/1	黒色土	粘性・湿性ややあり、非常に固くしまりあり、ローム粒(5~10mm)少量、小礫(5mm)極微量混入
S P - 246			
第1層	10Y R2/1	黒色土	粘性なし、湿性ややあり、しまりなし、ローム粒(1~2mm)層全体に少量散在
第2層	10Y R4/4	褐色土	粘性ややあり、湿性・しまりあり

図18 S P

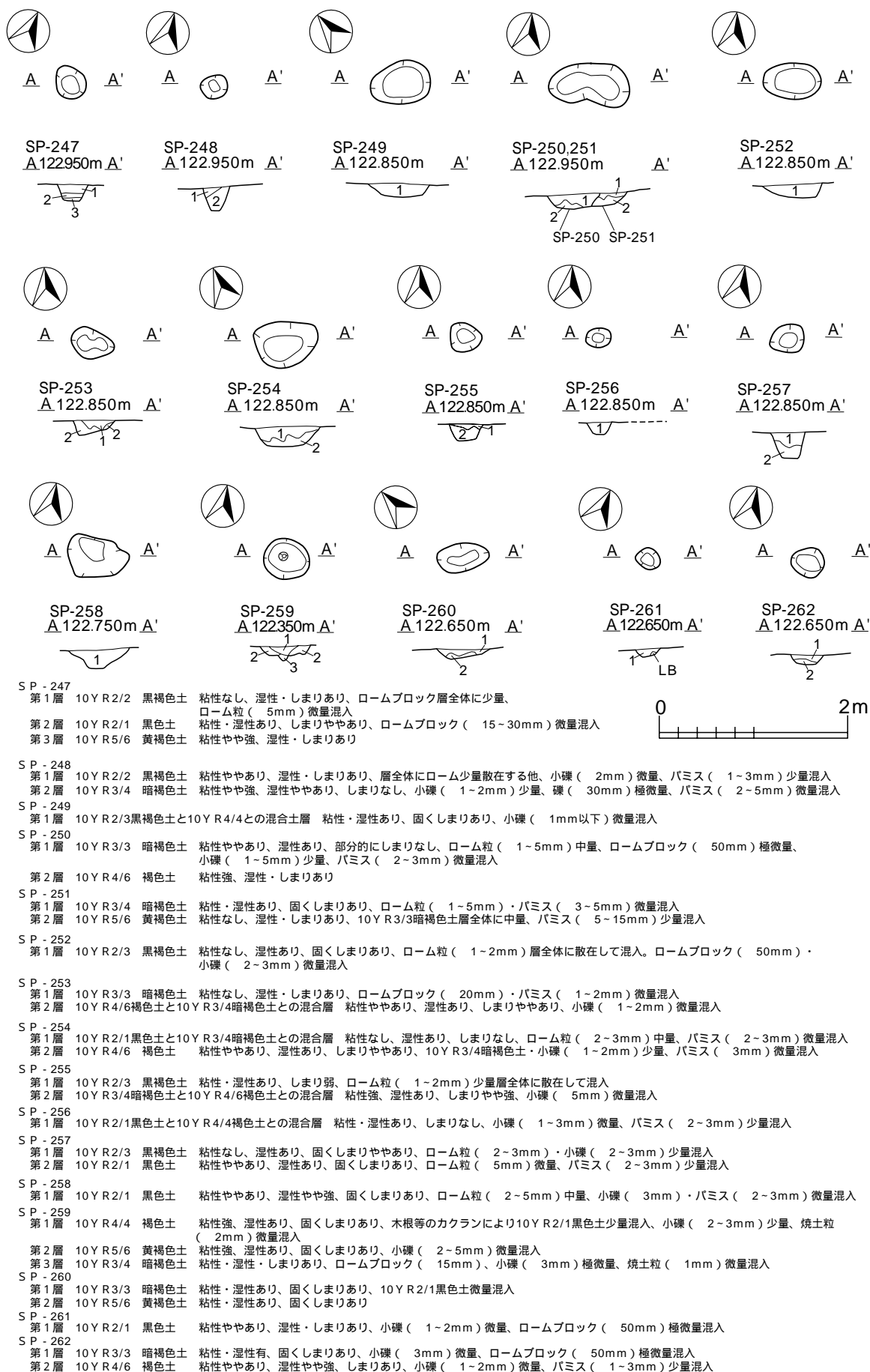


図19 S P

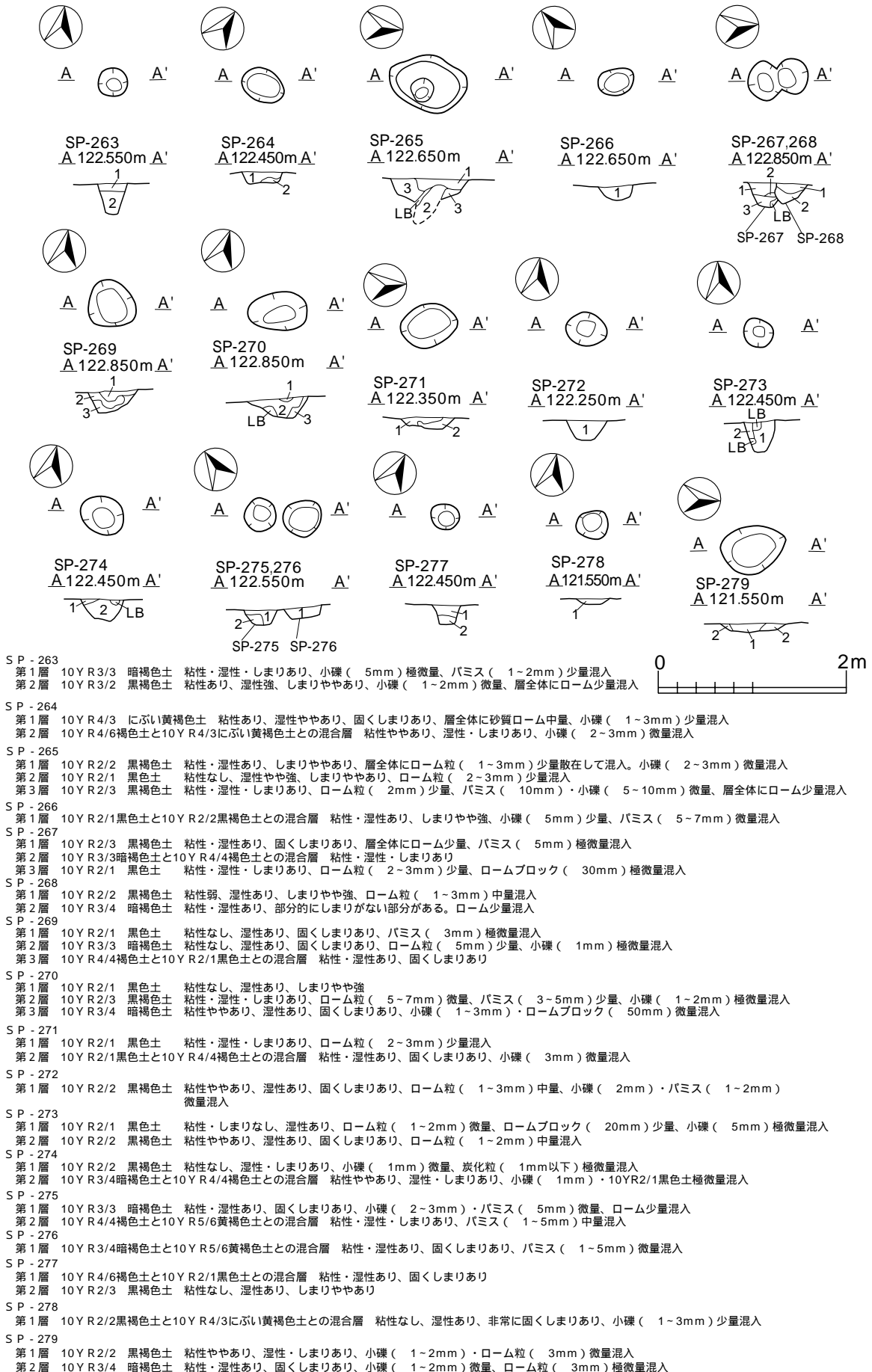
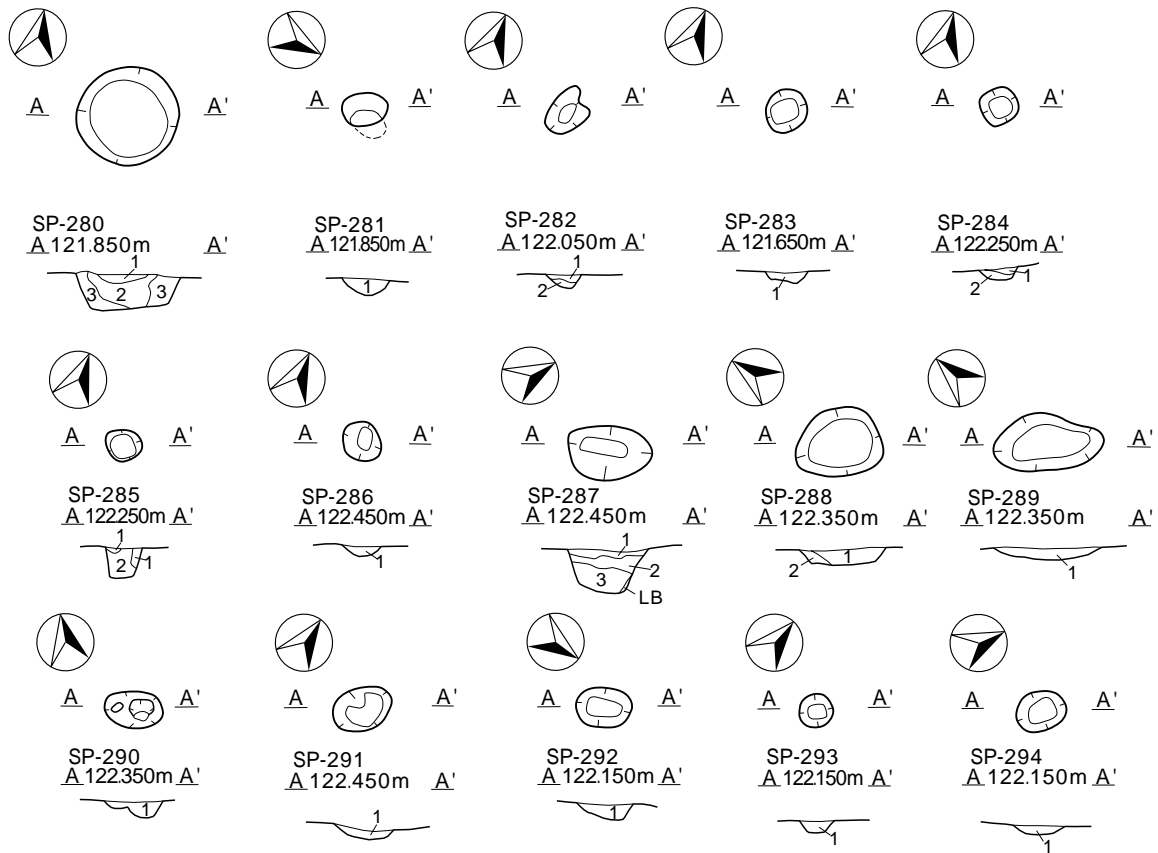


図20 S P



- SP-280
第1層 10Y R2/1 黒色土 粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒 (1~2mm) 層全体に少量散在する
第2層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性ややあり、湿性・しまりあり、ローム粒 (3~5mm) 微量、小礫 (5mm) 極微量混入
第3層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性なし、湿性あり、しまり固くあり、ローム粒 (1~3mm) 中量、小礫 (1~2mm) 極微量混入
- SP-281
第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性あり、部分的にしまりなし、ローム粒 (2~3mm) 微量混入
- SP-282
第1層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性あり、固くしまりあり
第2層 10Y R4/4 褐色土 粘性やや強、湿性・しまりあり、小礫 (1~3mm) 微量混入
- SP-283
第1層 10Y R2/2黒褐色土と10Y R4/4褐色土との混合層 粘性ややあり、湿性あり、固くしまりあり、小礫 (3mm) 微量混入
- SP-284
第1層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり
第2層 10Y R4/4 褐色土 粘性ややあり、湿性强、しまりあり、小礫 (1~2mm) 微量混入
- SP-285
第1層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、小礫 (5mm) 微量混入
第2層 10Y R2/1 黒色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (2~3mm) 少量、小礫 (5mm) 極微量混入
- SP-286
第1層 10Y R2/1 黒色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (1~2mm) 少量混入
- SP-287
第1層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・しまりなし、湿性あり、小礫 (5mm) 極微量混入
第2層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性ややあり、湿性あり、しまりややあり、ローム粒少量、小礫 (1mm) 極微量混入
第3層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性あり、木根等によるカクランで部分的にしまりなし、ローム粒 (5mm) 中量、小礫 (5mm) 極微量混入
- SP-288
第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性あり、しまりなし、ローム粒 (1~3mm) 少量混入
第2層 10Y R4/4褐色土と10Y R2/1黒色土との混合層 粘性・湿性・しまりあり
- SP-289
第1層 10Y R2/1 黒色土 粘性ややあり、湿性あり、固くしまりあり、ローム粒 (2~3mm) 少量、小礫 (3mm) 微量、炭化粒 (5mm) 極微量混入
- SP-290
第1層 10Y R3/3暗褐色土と10Y R2/3黒褐色土との混合層 粘性・湿性あり、しまりややあり、小礫 (2~10mm) 微量混入
- SP-291
第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性あり、固くしまりあり、小礫 (1~2mm) ・炭化粒 (1~3mm) 微量混入
- SP-292
第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- SP-293
第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- SP-294
第1層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- SP-295
第1層 10Y R3/4 暗褐色土 ローム粒・炭化粒少量混入
第2層 10Y R4/4 褐色土 ローム粒中量、パミス (3~4mm) 微量、炭化粒少量混入
- SP-296
第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第2層 10Y R4/6 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入

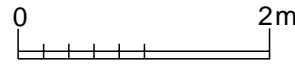
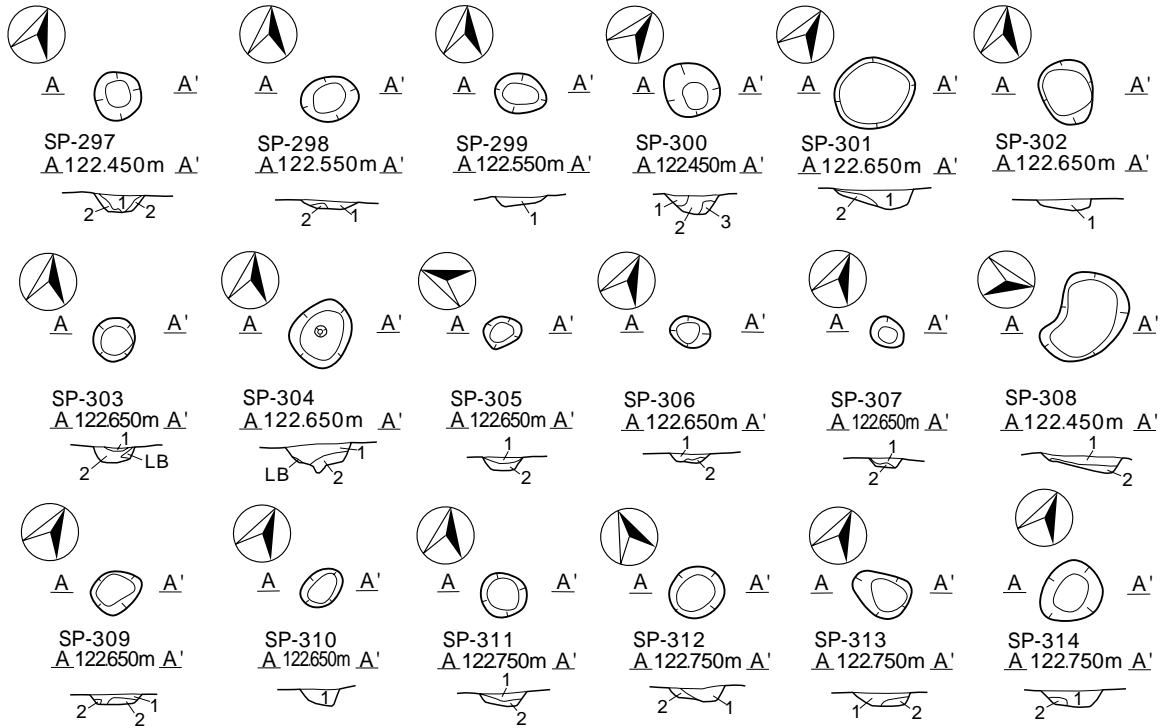


図21 SP



- SP - 297
第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (3~5mm)・炭化粒 (1~2mm)少量混入
第2層 10Y R4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、パミス (2~3mm)微量、炭化粒少量混入
- SP - 298
第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第2層 10Y R4/6 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- SP - 299
第1層 10Y R3/3 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- SP - 300
第1層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性あり、しまりやや弱、ローム粒少量、炭化粒 (1~2mm)微量混入
第2層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
第3層 10Y R3/6 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、小礫 (2~3mm)・炭化粒少量混入
- SP - 301
第1層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりややあり、ローム粒 (1~3mm)少量、小礫 (2~3mm)微量混入
第2層 10Y R4/6褐色土と10Y R2/1黒色土との混合層 粘性・湿性・しまりあり、小礫 (1~2mm)微量混入
- SP - 302
第1層 10Y R4/6 褐色土 粘性・湿性あり、固くしまりあり、パミス (2~3mm)微量混入
- SP - 303
第1層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性なし、湿性あり、しまりややあり
第2層 10Y R4/4 褐色土 粘性・湿性あり、部分的にしまりなし、小礫 (2~3mm)・パミス (5mm)微量混入
- SP - 304
第1層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性無、湿性あり、しまりややあり、パミス (5mm)少量混入
第2層 10Y R4/6褐色土と10Y R3/3暗褐色土との混合層 粘性・湿性あり、固くしまりあり、パミス (2~6mm)中量、小礫 (1~3mm)微量混入
- SP - 305
第1層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (5~10mm)多量混入
第2層 10Y R4/6 褐色土 粘性・湿性强、しまりあり、小礫 (5~10mm)微量混入
- SP - 306
第1層 10Y R2/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第2層 10Y R4/6 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- SP - 307
第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第2層 10Y R4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒少量混入
- SP - 308
第1層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量、パミス (2~3mm)微量混入
第2層 10Y R4/4 褐色土 粘性なし、湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- SP - 309
第1層 10Y R3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第2層 10Y R4/6 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- SP - 310
第1層 10Y R2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- SP - 311
第1層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第2層 10Y R4/6 褐色土 粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒 (5~6mm)・炭化粒少量混入
- SP - 312
第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、小礫 (4~5mm)微量、ローム粒・炭化粒少量混入
第2層 10Y R4/3 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒少量混入
- SP - 313
第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第2層 10Y R4/6 褐色土 粘性無、湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- SP - 314
第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第2層 10Y R3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- SP - 315
第1層 10Y R3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒、ローム粒少量混入
第2層 10Y R4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
第3層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒少量混入
- SP - 316
第1層 10Y R2/3 黒褐色土 粘性・湿性あり、しまりややあり、ローム粒多量、炭化粒少量混入
第2層 10Y R4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第3層 10Y R4/6 褐色土 粘性・湿性あり、しまりややあり、ローム粒 (2~3mm)少量、炭化粒微量混入

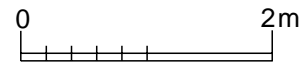
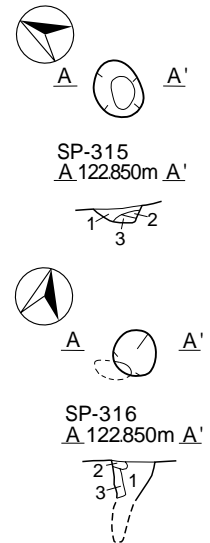
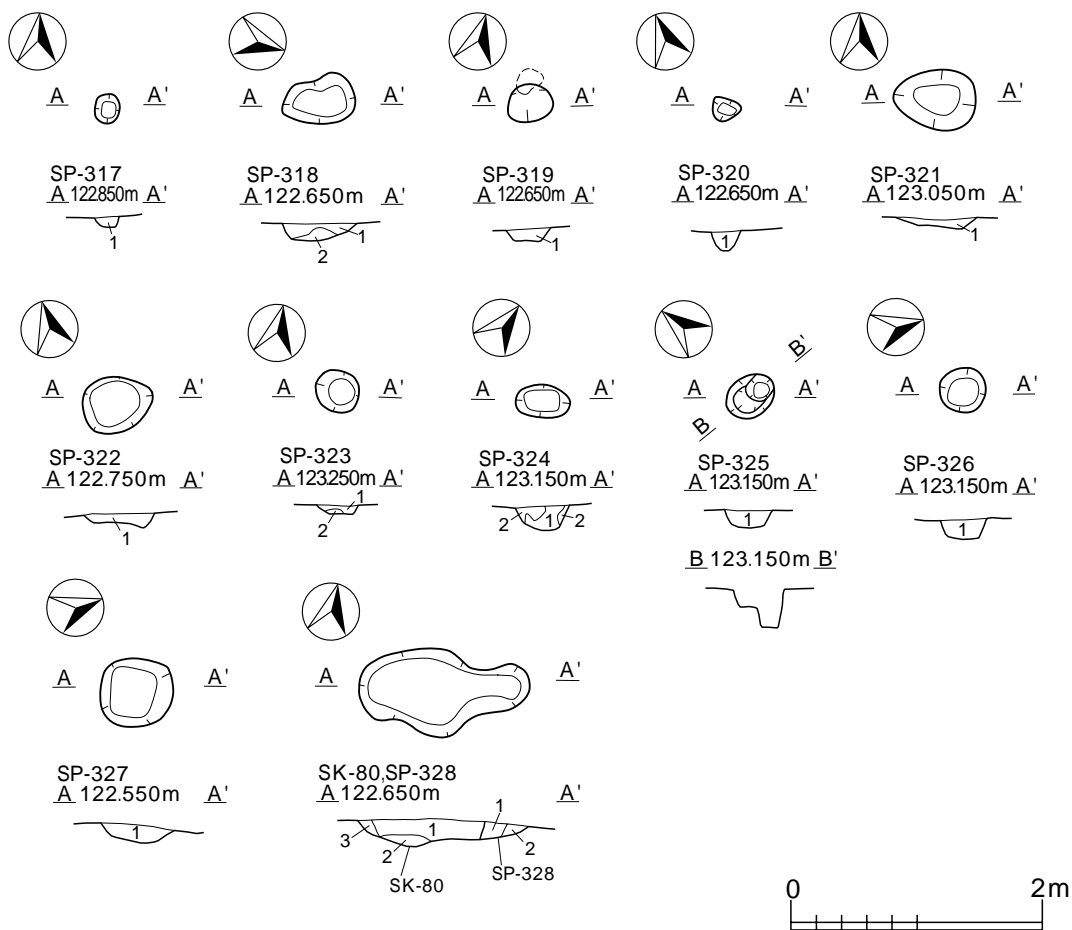


図22 S P



- SP - 317
第1層 10Y R 3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量、パミス (1~2mm) 微量混入
- SP - 318
第1層 10Y R 3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第2層 10Y R 3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒少量混入
- SP - 319
第1層 10Y R 3/2 黒褐色土 粘性・湿性あり、しまりやや弱、ローム粒中量、炭化粒少量混入
- SP - 320
第1層 10Y R 3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・ロームブロック (20~30mm) ・炭化粒 (1~2mm) 少量混入
- SP - 321
第1層 10Y R 3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- SP - 322
第1層 10Y R 2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (2~3mm) ・炭化粒少量混入
- SP - 323
第1層 10Y R 3/3 暗褐色土 粘性・湿性あり、しまりややあり、ローム粒・炭化粒少量混入
第2層 10Y R 4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、パミス (2~3mm) 微量、炭化粒少量混入
- SP - 324
第1層 10Y R 2/3 黒褐色土 粘性・しまりあり、パミス (1~3mm) 少量混入
第2層 10Y R 3/4 暗褐色土 粘性なし、しまりあり、10Y R 4/6褐色土中量、パミス (1~5mm) 少量混入
- SP - 325
第1層 10Y R 2/3 黒褐色土 粘性・しまりあり、パミス (1~5mm) 中量混入
- SP - 326
第1層 10Y R 2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・パミス (2~3mm) ・炭化粒少量混入
- SP - 327
第1層 10Y R 3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (3~5mm) ・炭化粒少量混入
- SP - 328
第1層 10Y R 3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (2~4mm) ・炭化粒 (1~2mm) 少量混入
第2層 10Y R 3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入

図23 SP

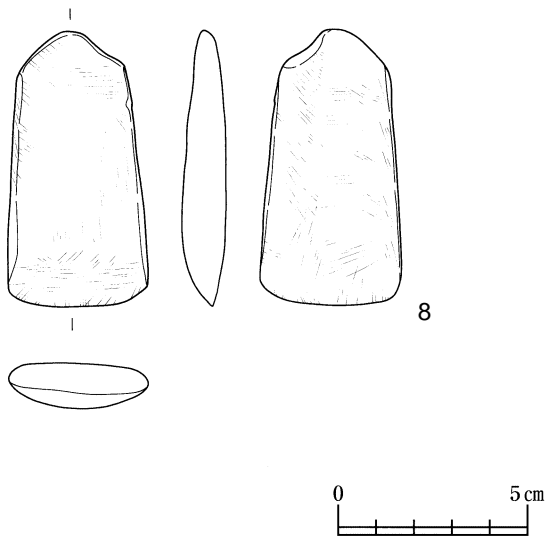
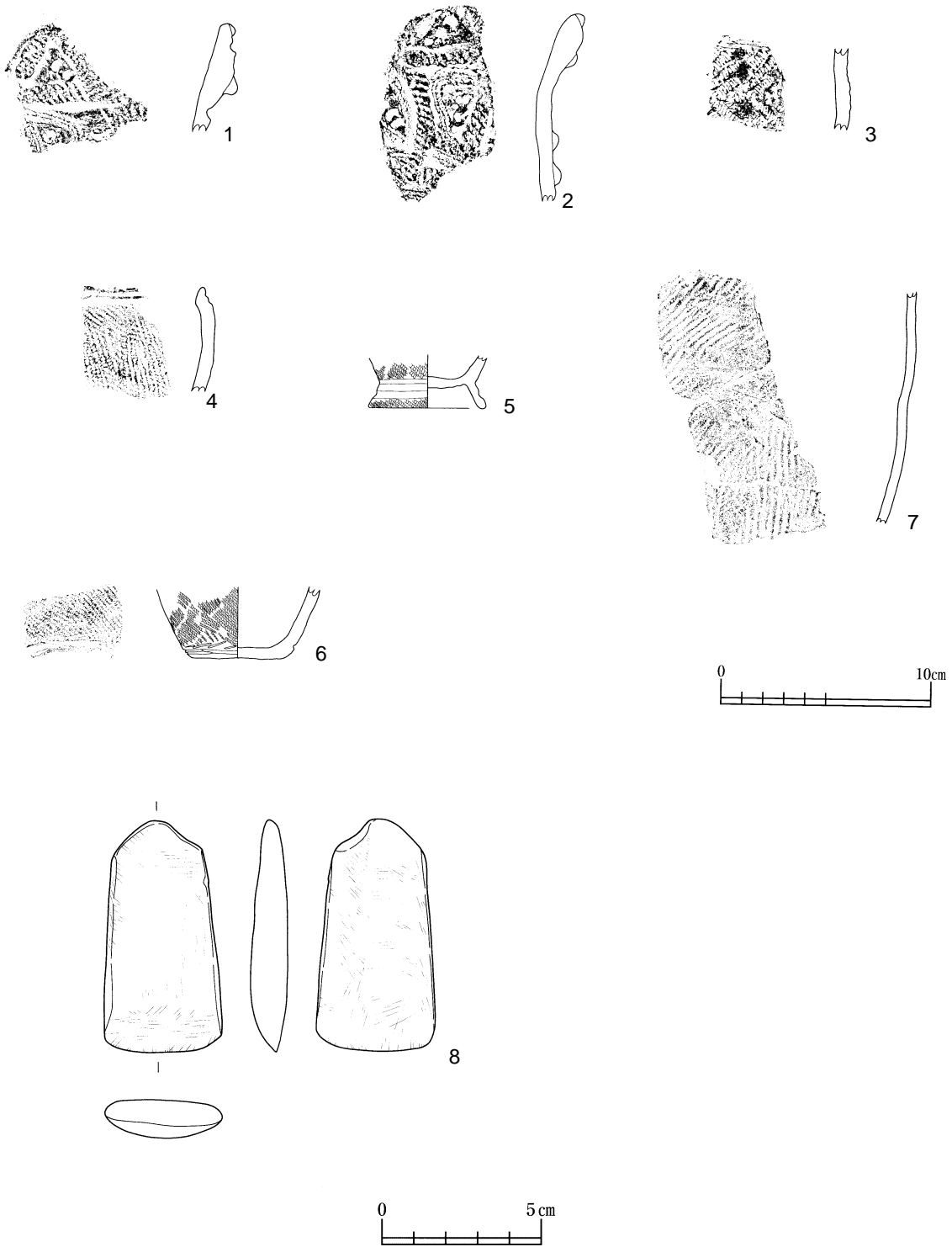


图24 遺構外出土遺物

表3 雲谷山吹（4）遺跡土坑観察表

図版番号	遺構番号	グリッド	重 複	規模 (cm)			平面形	断面形	特記事項	備 考
				長軸	短軸	深さ				
図 8	SK - 51	P - 42		125	97	20	e	h		
図 8	SK - 52	M - 41		146	117	23	e	d		
図 8	SK - 53	M - 41		92	65	18	e	h		
図 8	SK - 54	L - 42		145	129	90	h	f	フラスコ	(底面162×155cm)
図 8	SK - 55	P・Q - 42		237	188	36	f	d		Pit1 = 40×39×17cm、 Pit2 = 21×15×11cm
図 8	SK - 56	O - 41		106	70	32	f	i		
図 8	SK - 57	M - 40		156	110	31	e	e		
図 9	SK - 58	P - 41		115	70	25	f	i		
図 9	SK - 59	P - 44		92	90	19	e	h		
図 9	SK - 60	L - 40		105	103	44	h	a		
図 9	SK - 61	N - 44	SK - 61 > SP - 180	80	58	28	e	d		
図 9	SK - 62	N - 44		100	83	30	f	a		
図 9	SK - 63	J - 44・45		88	71	24	e	d		
図 9	SK - 64	K - 45		74	63	21	f	d		
図 9	SK - 65	L - 38		86	60	23	f	d		
図 9	SK - 66	J - 44		100	61	10	f	d	柱痕	Pit = 40×29×35cm
図10	SK - 67	Q - 41		166	160	90	e	f		
図10	SK - 68	J・K - 43		102	100	17	e	d		
図10	SK - 69	N - 44・45		70	50	20	e	d		
図10	SK - 70	J - 38・39		195	136	15	e	e		
図10	SK - 71	K - 39		135	93	33	e	b		
図10	SK - 72	K・L - 40		160	145	82	(h)	(a)		
図11	SK - 73	J - 41・42		143	128	64	f	f		底面113×100cm
図11	SK - 74	N - 44・45		110	80	23	f	d		
図11	SK - 75	L - 45		160	130	24	e	b		溝状の落ち込み有り
図11	SK - 76	M - 44		105	74	20	f	e		
図11	SK - 77	L - 42		90	63	34	f	e		柱穴？
図11	SK - 78	K - 39		142	129	48	h	d		
図11	SK - 79	P - 42		124	88	20	e	e		
図11	SK - 80	K - 39	SK - 80 > SP - 328	103	74	20	e	c		

表4 雲谷山吹（4）遺跡ピット観察表

図版番号	遺構番号	グリッド	重 複	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備 考
図12	SP - 131	L - 38		43	37	22	f	d	
図12	SP - 132	L - 38		50	37	10	e	d	粒径の大きいロームブロック混入
図12	SP - 133	L - 38		43	40	16	h	d	
図12	SP - 134	L - 39	SP - 134 > SP - 135	35	32	8	g	d	
図12	SP - 135	L - 39	SP - 134 > SP - 135	[33]	34	14	(g)	d	
図12	SP - 136	O - 39		64	34	16	e	g	
図12	SP - 137	O - 39		28	25	5	h	d	
図12	SP - 138	O - 39		37	33	11	e	d	
図12	SP - 139	O - 40		40	30	8	e	d	
図12	SP - 140	N - 40		25	24	8	h	a	
図12	SP - 141	M - 40		60	49	15	e	d	粒径の大きいロームブロック混入
図12	SP - 142	M - 41		60	40	10	f	d	
図12	SP - 143	O - 41		45	31	33	e	j	柱穴の可能性大
図12	SP - 144	O - 41		54	45	19	e	a	
図12	SP - 145	P - 41		47	40	16	f	e	
図12	SP - 146	P - 42		73	38	25	f	e	
図12	SP - 147	P - 41		58	41	17	e	d	
図13	SP - 148	P - 41		50	40	18	e	d	
図13	SP - 149	Q - 41		38	24	10	e	d	
図13	SP - 150	P - 42		40	29	9	e	d	
図13	SP - 151	O - 40		19	18	10	h	d	小柱穴SP - 152 ~ 154と関連し弧状に配置
図13	SP - 152	O - 40		23	15	4	e	d	小柱穴SP - 151、153・154と関連し弧状に配置
図13	SP - 153	O - 40		26	20	17	h	d	小柱穴SP - 151・152・154と関連し弧状に配置
図13	SP - 154	O - 40		20	18	12	f	d	小柱穴SP - 151 ~ 153と関連し弧状に配置
図13	SP - 155	P - 43		26	25	12	e	d	
図13	SP - 156	P - 43		37	27	13	g	h	

雲谷山吹(4)～(7)遺跡

図版番号	遺構番号	グリッド	重 複	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備 考
図13	SP - 157	P - 43		23	23	7	e	d	
図13	SP - 158	P - 43		29	25	28	e	j	柱穴の可能性大
図13	SP - 159	P - 44		26	25	9	e	d	
図13	SP - 160	P - 44		30	23	16	e	d	
図13	SP - 161	P - 44		43	40	15	h	d	
図13	SP - 162	N・O - 43		39	35	30	e	c	柱穴の可能性大
図13	SP - 163	N - 44		30	27	32	h	b	柱穴の可能性有
図13	SP - 164	O - 44		38	35	20	h	d	
図13	SP - 165	O - 44		45	40	13	e	d	
図13	SP - 166	O - 44		34	26	55	e	c	柱穴の可能性大
図14	SP - 167	O - 44		47	38	20	f	a	柱穴の可能性有
図14	SP - 168	O - 44		45	30	10	f	d	
図14	SP - 169	N - 44		35	32	25	e	g	堆積土に灰が混入
図14	SP - 170	P - 45		36	35	18	e	a	
図14	SP - 171	P - 44		36	34	12	e	c	
図14	SP - 172	P - 45		35	30	15	e	c	
図14	SP - 173	O - 45		51	29	38	g	j	柱穴の可能性有
図14	SP - 174	O - 45		25	25	14	c	a	
図14	SP - 175	O - 45		40	27	21	e	a	
図14	SP - 176	N - 45		26	20	22	e	a	柱穴の可能性有
図14	SP - 177	N - 45		45	25	15	g	d	
図14	SP - 178	N - 44		65	46	10	e	c	
図14	SP - 179	O - 43		65	52	40	e	g	柱穴の可能性有
図14	SP - 180	N - 44	SP - 180 < SK - 61	35	[26]	26	(a)	(g)	柱穴の可能性大
図15	SP - 181	O - 40		48	43	8	h	d	
図15	SP - 182	O - 40		37	25	17	f	c	
図15	SP - 183	O - 39	SP - 184 < SP - 183	21	15	8	-	-	SP - 184の抜き取り痕
図15	SP - 184	O - 39	SP - 184 < SP - 183	26	24	15	f	(e)	
図15	SP - 185	O - 39		26	22	17	f	c	小柱穴、SP - 151～154と関連？
図15	SP - 186	P - 39		44	40	87	e	f	斜めに掘り込み
図15	SP - 187	O - 44・45		35	28	16	f	a	柱穴の可能性有
図15	SP - 188	O - 45		34	25	14	f	d	
図15	SP - 189	P - 45		40	36	7	c	d	
図15	SP - 190	P - 45		35	29	10	e	c	
図15	SP - 191	Q - 45		40	35	18	e	d	
図15	SP - 192	P - 45		32	25	9	f	d	
図15	SP - 193	P - 45・46		35	35	28	h	a	柱穴の可能性有、上面に浅い堆積
図15	SP - 194	P - 46		30	30	20	h	a	柱穴の可能性有
図15	SP - 195	P - 46		39	23	7	e	d	
図15	SP - 196	P - 46		26	24	30	e	d	柱穴の可能性大
図15	SP - 197	P - 46		52	36	26	f	c	柱穴の可能性大
図16	SP - 198	P - 46		35	30	22	h	d	
図16	SP - 199	P - 45		29	25	10	e	a	
図16	SP - 200	O - 46		34	26	21	f	c	柱穴の可能性有
図16	SP - 201	O - 46		37	33	20	e	a	柱穴の可能性有
図16	SP - 202	O - 46		40	30	77	e	f	斜めに掘り込み
図16	SP - 203	O - 46		50	40	84	e	g	斜めに掘り込み
図16	SP - 204	O - 46		40	28	25	f	j	
図16	SP - 205	N - 46		37	34	14	h	c	
図16	SP - 206	M - 46		44	40	21	e	g	
図16	SP - 207	N - 45		63	53	32	e	d	
図16	SP - 208	N - 45		67	55	20	e	d	
図16	SP - 209	M - 45		78	55	[40]	e	j	柱穴の可能性大
図16	SP - 210	N - 44		32	28	18	h	a	
図16	SP - 211	N - 44		33	25	45	f	e	柱穴の可能性有
図16	SP - 212	N - 44		27	27	39	h	a	柱穴の可能性有
図17	SP - 213	N - 44	SP - 213 < SP - 214	35	[28]	13	f	d	
図17	SP - 214	M・N - 44	SP - 213 < SP - 214	60	34	20	e	e	
図17	SP - 215	M - 44		36	23	7	g	d	
図17	SP - 216	M - 44		39	28	5	g	d	
図17	SP - 217	M - 43・44		44	44	12	h	d	
図17	SP - 218	M - 44		36	30	7	g	d	
図17	SP - 219	M - 44		51	35	15	f	c	
図17	SP - 220	M - 43		40	28	14	g	d	
図17	SP - 221	M - 42		50	35	4	g	g	
図17	SP - 222	L - 42		45	40	11	e	a	

図版番号	遺構番号	グリッド	重 複	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備 考
図17	SP - 223	M - 43		40	37	23	h	a	
図17	SP - 224	M - 43		29	29	18	h	a	柱穴の可能性有
図17	SP - 225	M - 43		58	45	13	e	c	
図17	SP - 226	L - 43		56	46	35	f	e	柱穴の可能性有
図17	SP - 227	L - 43		55	45	19	f	e	
図17	SP - 228	L - 43		55	40	30	g	g	
図17	SP - 229	L - 44		36	29	11	e	d	
図17	SP - 230	M - 44		55	50	14	e	a	
図17	SP - 231	L - 45		43	35	19	f	a	
図18	SP - 232	K - 44		34	30	11	e	d	
図18	SP - 233	L - 44		31	25	30	h	g	柱穴の可能性有
図18	SP - 234	L - 44		40	31	9	e	d	
図18	SP - 235	K - 44		50	41	16	f	d	
図18	SP - 236	L - 43		31	30	35	h	a	柱穴の可能性有
図18	SP - 237	L - 43	SP - 237 > SP - 238	37	37	15	h	a	
図18	SP - 238	L - 43	SP - 237 > SP - 238	51	[50]	25	h	d	
図18	SP - 239	L - 43		35	32	7	e	d	
図18	SP - 240	L - 43		32	26	13	f	a	
図18	SP - 241	K - 43		40	30	17	f	i	
図18	SP - 242	K - 43		33	27	20	e	a	
図18	SP - 243	K - 43		45	40	22	h	c	
図18	SP - 244	K - 43		35	33	24	h	a	
図18	SP - 245	L - 43		35	25	4	e	d	
図18	SP - 246	L - 43		29	26	11	h	d	
図19	SP - 247	K・L - 43		38	33	17	e	a	
図19	SP - 248	L - 42		30	25	25	c	a	
図19	SP - 249	K - 42		64	45	14	e	d	柱穴の可能性有
図19	SP - 250	L - 42	SP - 250 > SP - 251	56	40	16	f	d	
図19	SP - 251	L - 42	SP - 250 > SP - 251	[40]	45	13	(e)	d	
図19	SP - 252	K - 42		60	40	15	g	c	
図19	SP - 253	K - 43		46	30	15	e	a	
図19	SP - 254	K - 43		66	50	20	e	c	
図19	SP - 255	K - 43		35	32	17	e	a	
図19	SP - 256	K - 43		26	20	12	g	a	
図19	SP - 257	K - 43		40	33	26	e	g	柱穴の可能性有
図19	SP - 258	J - 45		65	44	20	e	h	
図19	SP - 259	I - 45		50	43	10	f	j	中央に小ビット有、 Pit = 9 × 8 × 6cm
図19	SP - 260	J - 44		56	30	10	e	d	
図19	SP - 261	J - 44		24	22	7	c	d	粒径の大きいロームブロック 混入
図19	SP - 262	J - 43・44		33	31	10	e	d	粒径の大きいロームブロック 混入
図20	SP - 263	J - 43		33	33	32	h	a	柱穴の可能性有
図20	SP - 264	J - 43		45	35	13	f	a	
図20	SP - 265	J - 43		83	61	50	e	j	中央のPit傾斜した掘込
図20	SP - 266	J - 42		40	28	14	g	a + d	
図20	SP - 267	K - 43	SP - 267 < SP - 268	44	[33]	26	f	d	柱穴の可能性有、粒径の大きい ロームブロック混入
図20	SP - 268	K - 43	SP - 267 < SP - 268	35	30	21	f	d	やや斜めに傾斜している
図20	SP - 269	K - 42		52	49	23	e	d	
図20	SP - 270	L - 42		62	40	20	f	c	
図20	SP - 271	I - 42		63	45	12	g	d	
図20	SP - 272	I - 42		45	35	20	f	d	
図20	SP - 273	I - 42		34	28	31	f	a	柱穴の可能性大
図20	SP - 274	I - 43		48	39	22	f	d	
図20	SP - 275	I - 43		34	34	16	h	c	
図20	SP - 276	I - 43		47	44	9	e	a	
図20	SP - 277	I - 43		30	26	22	f	c	柱穴の可能性有
図20	SP - 278	F - 45		33	30	5	e	d	
図20	SP - 279	F - 45		67	52	8	e	d	
図21	SP - 280	G - 44		80	76	27	h	d	
図21	SP - 281	G - 44		36	25	[18]	f	h	
図21	SP - 282	H - 42		40	27	9	e	d	
図21	SP - 283	F - 42		35	32	8	h	i	
図21	SP - 284	I - 41		29	27	10	c	d	
図21	SP - 285	I - 40・41		30	25	22	e	a	柱穴の可能性有
図21	SP - 286	J - 41		32	30	6	e	h	

図版番号	遺構番号	グリッド	重 複	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備 考
図21	SP - 287	J - 41		67	43	34	e	d	
図21	SP - 288	J - 40		70	54	12	e	d	
図21	SP - 289	J - 40		87	45	9	e	h	
図21	SP - 290	J - 39		46	30	11	g	e	
図21	SP - 291	I - 43		46	35	13	f	d	
図21	SP - 292	J - 39		45	30	12	g	d	
図21	SP - 293	I - 39		27	27	9	h	d	
図21	SP - 294	J - 38		40	31	7	f	h	
図21	SP - 295	K - 38		40	28	21	f	c	柱穴の可能性有
図21	SP - 296	K - 38		64	44	17	e	e	
図22	SP - 297	K - 39		39	36	13	h	d	柱穴の可能性有
図22	SP - 298	K - 40		45	36	5	f	d	
図22	SP - 299	K - 40		40	33	7	f	d	
図22	SP - 300	K - 40		43	34	14	h	d	
図22	SP - 301	L - 41		64	55	12	h	d	
図22	SP - 302	L - 41		53	42	9	g	a	
図22	SP - 303	L - 40		35	33	11	h	a	
図22	SP - 304	L - 40		55	45	25	e	j	中央に小ビット有、 Pit = 10 x 9 x 8cm
図22	SP - 305	L - 40		30	23	10	e	d	
図22	SP - 306	L - 40		32	24	7	f	d	
図22	SP - 307	L - 39		28	23	6	f	d	
図22	SP - 308	M - 38		79	54	12	e	d	
図22	SP - 309	M - 39・40		37	21	8	e	d	
図22	SP - 310	L - 40		35	26	13	g	a+d	
図22	SP - 311	L - 41		36	36	10	h	d	
図22	SP - 312	L - 41		43	40	12	h	d	
図22	SP - 313	L - 41		46	36	9	e	a+d	
図22	SP - 314	L - 41・42		52	45	12	e	d	
図22	SP - 315	L - 42		45	36	11	f	a+d	
図22	SP - 316	L・M - 41		35	35	65	h	a	斜めに掘り込み
図23	SP - 317	M - 41		23	19	8	c	a	
図23	SP - 318	N - 39		57	40	14	e	a+d	
図23	SP - 319	N - 38		35	29	{ 10 }	e	a+d	斜めに掘り込み
図23	SP - 320	N - 38		21	18	15	e	d	小柱穴、粒径の大きいローム ブロック混入
図23	SP - 321	N - 42		65	48	6	f	d	
図23	SP - 322	P - 39		68	42	11	e	a+d	
図23	SP - 323	Q - 42		34	33	8	h	a+d	
図23	SP - 324	M - 43		44	26	19	g	d	
図23	SP - 325	M - 43		40	31	30	f	e	柱穴の可能性有
図23	SP - 326	L - 43		35	35	16	h	a	
図23	SP - 327	K - 39・40		58	54	14	c	d	
図23	SP - 328	K - 39		{ 40 }	15	{ 13 }	e	d	

表5 雲谷山吹(4)遺跡縄文土器観察表

図	番号	器種	出土地点	層位	部位	色調	施文文様・調整等	時期	備考	整理番号
8	1	深鉢	SK - 55	1	体部	7.5YR6/6	R	縄文	1776 - 4	D - 103
8	2	深鉢	SK - 55	1	体部	7.5YR8/3	RL	縄文	1776 - 8	D - 104
24	1	深鉢	P - 41		口縁部	7.5YR7/4	L圧痕、貼付隆帯	縄文中期		A - 9
24	2	深鉢	P - 41		口縁部	7.5YR7/4	L圧痕、貼付隆帯	縄文中期		A - 10
24	3	深鉢	D区	包含層	体部	7.5YR3/3	羽状縄文	縄文中期	1840 - 2	D - 71
24	4	鉢	D区	包含層	口縁～体部	7.5YR6/4	平行沈線2条、RL	縄文晩期後半	1840 - 1	D - 70
24	5	台付鉢	M - 40	風倒木	体～底部	7.5YR4/4	RL、沈線、台部内面ミガキ	縄文晩期後半		OO - 1
24	6	鉢	D区	包含層	体～底部	7.5YR5/3	RL、沈線、煮沸痕有	縄文晩期後半	1839 - 1	D - 72
24	7	深鉢	D区	包含層	体部	10YR7/3	L横走 縦走、内面粗いナデ	縄文晩期後半	1838 - 2	D - 69

表6 雲谷山吹(4)遺跡石器観察表

図	番号	種別	出土地点	層位	計測値	石質	備考	整理番号
24	8	磨製石斧	D区	包含層	長さ7.3cm、幅3.7cm、厚さ1.2cm、重さ54.0g	細粒凝灰岩	片刃	T - 2



写真1 雲谷山吹（4）遺跡（真上）



写真2 雲谷山吹（4）遺跡（左），雲谷山吹（5）遺跡（右）（真上）

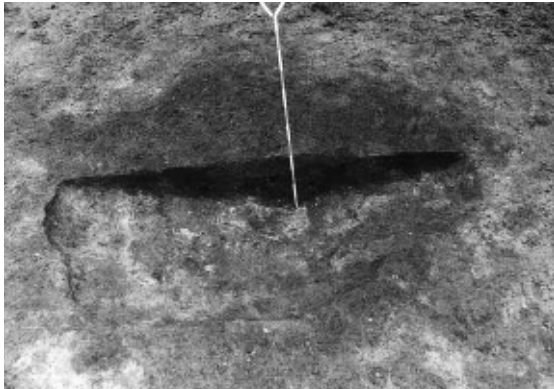


写真3 SK - 51セクション (S)



写真7 SK - 54完掘 (N)

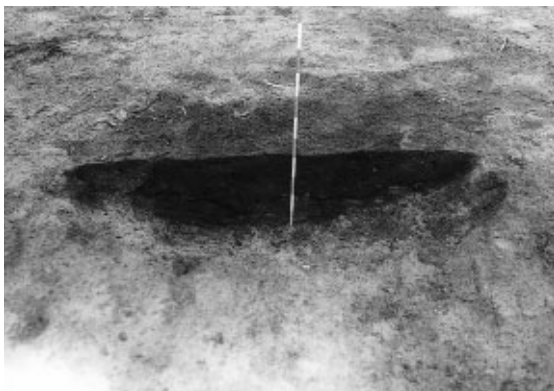


写真4 SK - 52セクション (S)

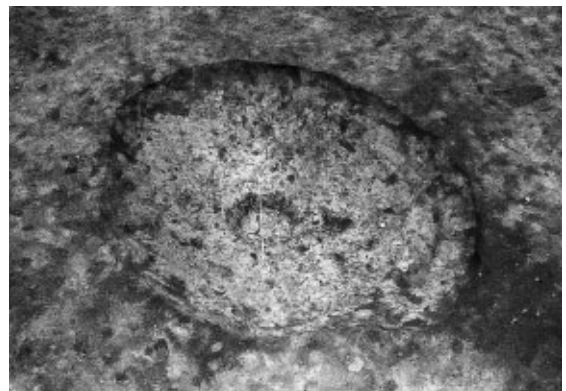


写真8 SK - 55完掘 (S)



写真5 SK - 53セクション (W)

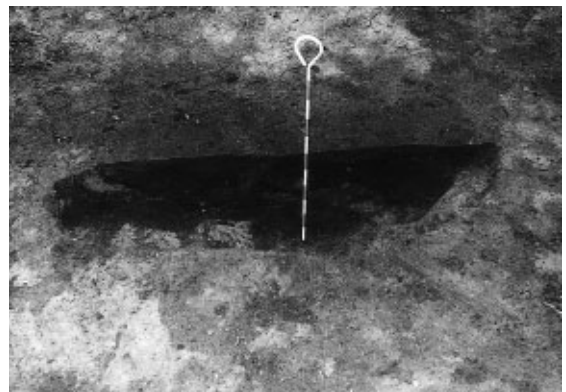


写真9 SK - 58セクション (W)

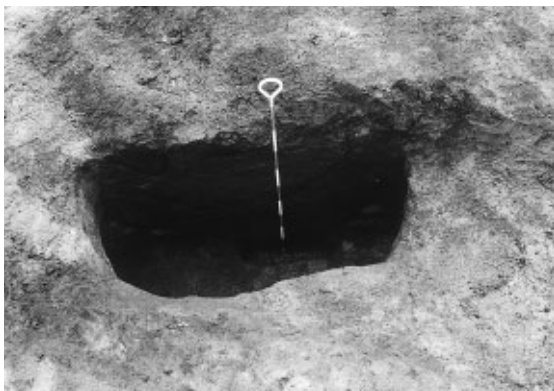


写真6 SK - 54セクション (N)

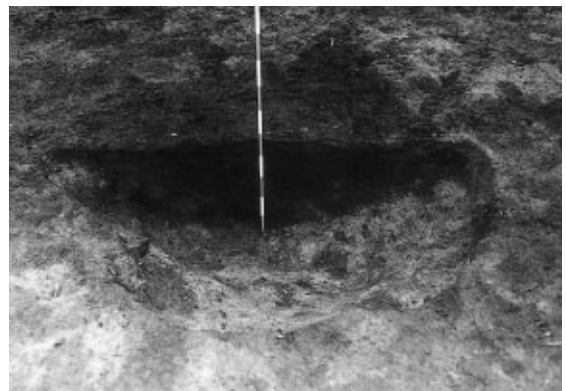


写真10 SK - 59セクション (S)



写真11 SK - 60セクション(S)



写真15 SK - 65セクション(S)

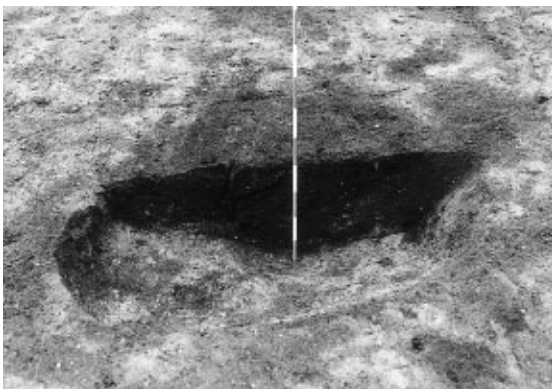


写真12 SK - 61, SP - 180セクション(S)

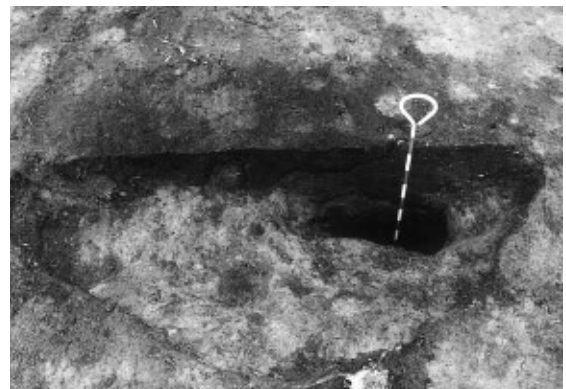


写真16 SK - 66セクション(S)

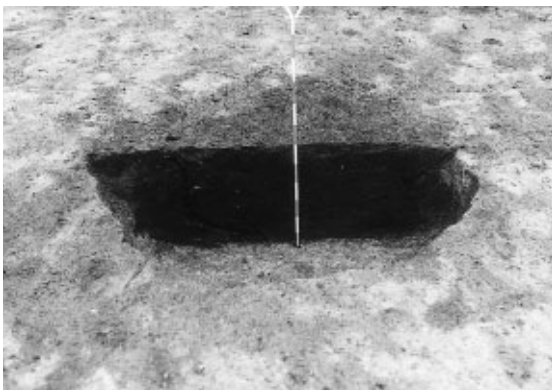


写真13 SK - 62セクション(S)

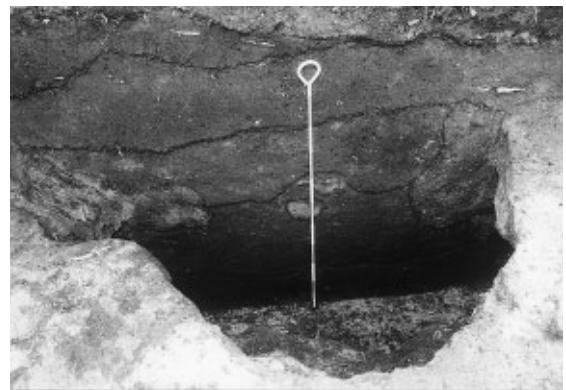


写真17 SK - 67セクション(N)

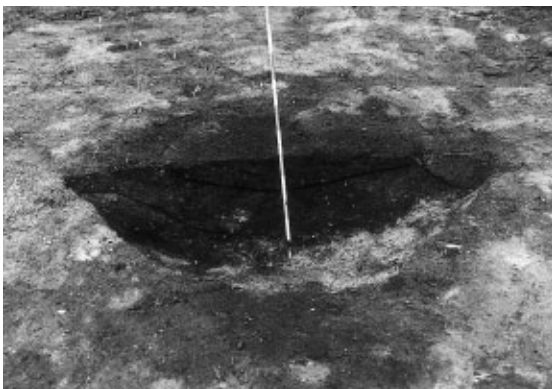


写真14 SK - 63セクション(S)



写真18 SK - 67完掘(N)

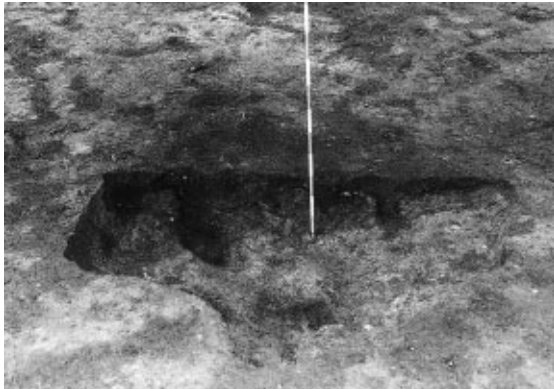


写真19 SK - 68セクション (S)

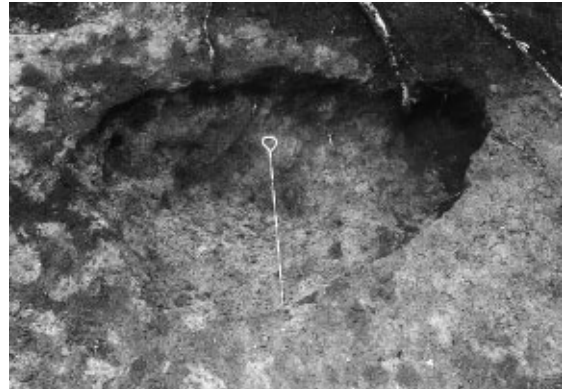


写真23 SK - 71完掘 (N)

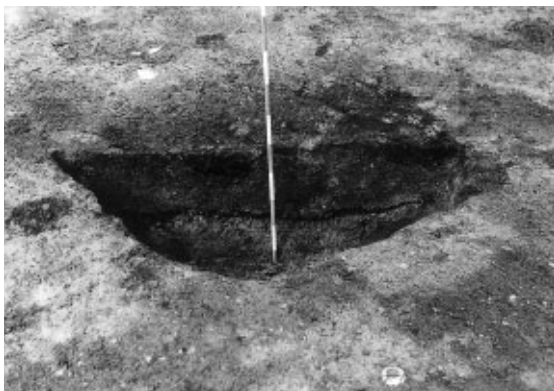


写真20 SK - 69セクション (E)



写真24 SK - 72セクション (W)

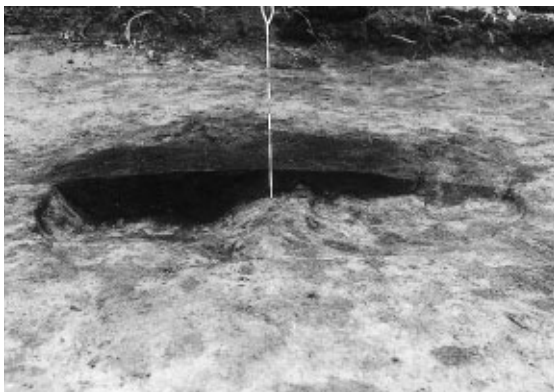


写真21 SK - 70セクション (S E)



写真25 SK - 72完掘 (W)



写真22 SK - 71セクション (N)

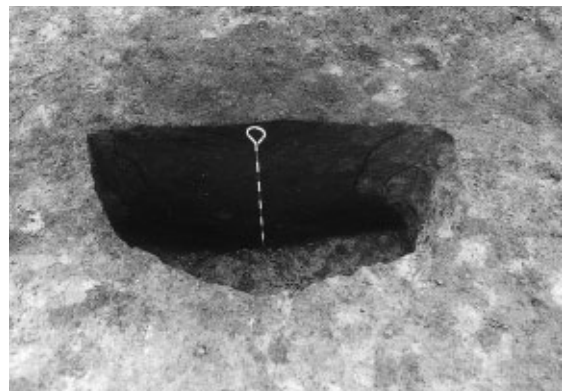


写真26 SK - 73セクション (N W)

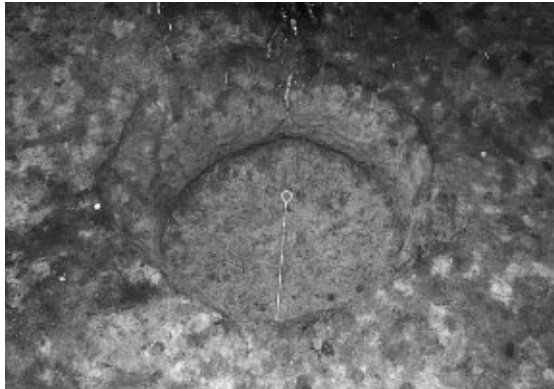


写真27 SK - 73完掘(N)

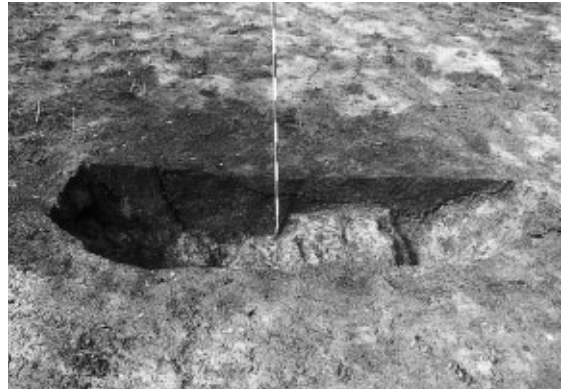


写真31 SK - 76セクション(S E)

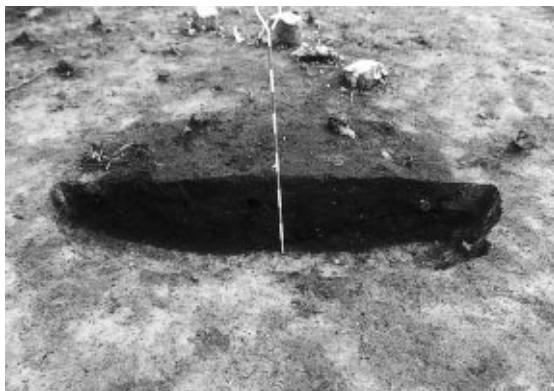


写真28 SK - 74セクション(E)



写真32 SK - 77セクション(S W)



写真29 SK - 74完掘(E)



写真33 SK - 78セクション(N)

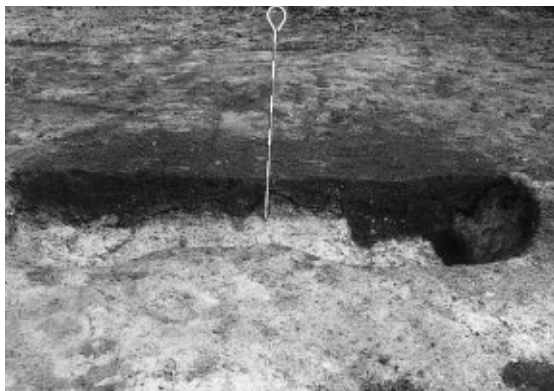


写真30 SK - 75セクション(W)

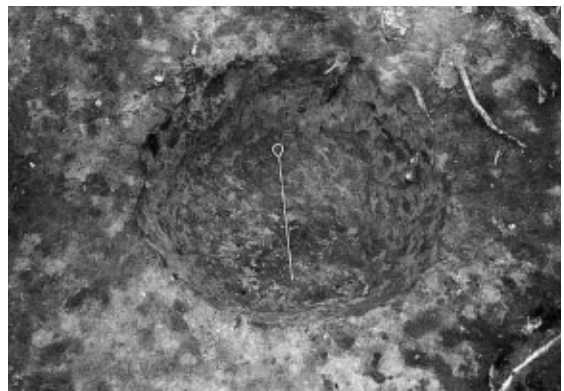


写真34 SK - 78完掘(N)

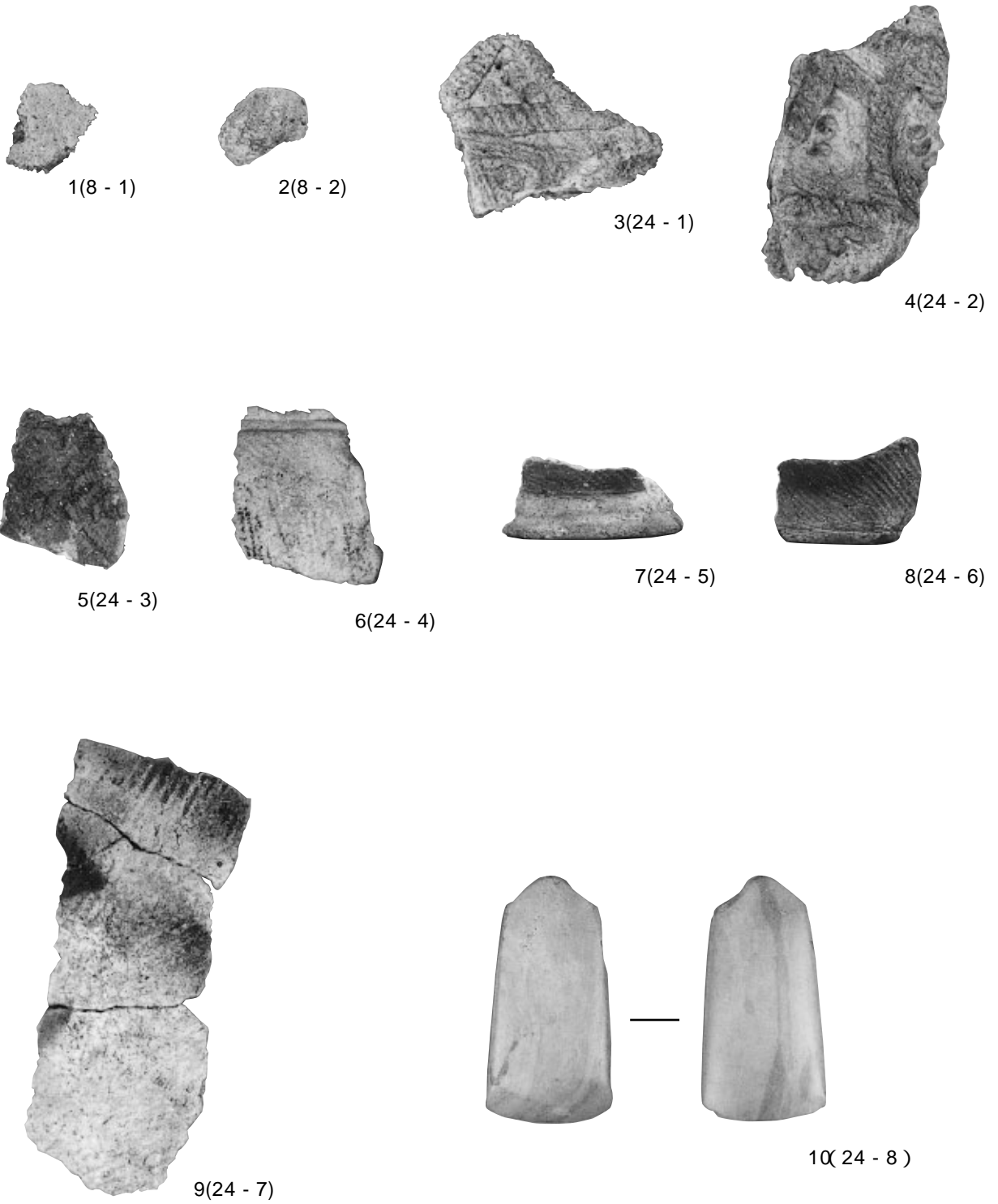


写真35 雲谷山吹(4)遺跡出土遺物

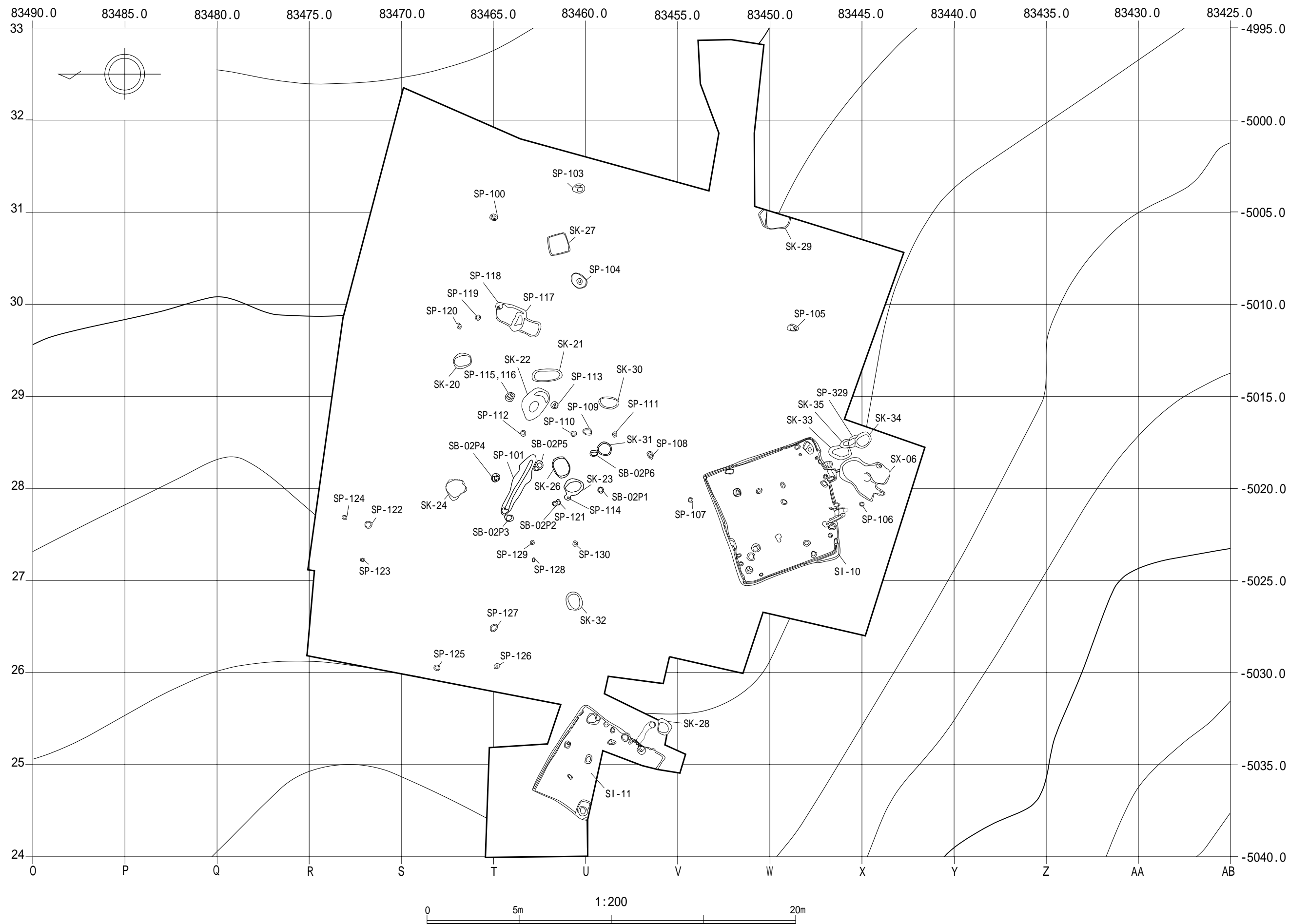


图25 雲谷山吹（5）遺跡遺構配置図

第 章 雲谷山吹(5)遺跡

第1節 遺構と遺物

1. 竪穴建物跡

S I - 10 (図26・27・28・29・30・31・32・33、写真39・40・41・42・43・44・45・69)

グリッドV・W - 27・28で検出した。規模は645×630×50cm、床面積は38.0㎡を測る。平面形は台形を呈し、断面形はほぼ垂直に立ち上がる形状で、南西隅の壁面にはテラス状の浅い段がある。壁溝はほぼ全周するが、竈設置壁側では断続して掘り込まれており、斜面下方側の西壁～南西壁側が深さを持つ。本遺構は竈が2基構築されており、新しい竈は壁位置を変え構築されている。主柱配置は竈寄りの壁際に主柱穴が設置される長方形タイプであると考えられるが、竈移設時点でPit29 Pit 1に位置替えが生じているものと考えられる。また、支柱穴として北壁の両隅の壁溝中にピット痕があり、西壁側にも部分的に浅いピット痕が確認されている。それ以外に建物の中央部に3基、北西壁よりの部分に5基検出し、南壁寄りの部分には小規模なピットが集中して検出している。床面は凸状に中央がやや盛り上がり、西壁寄りの部分では被熱により赤化した部分が1カ所検出している。また斜面の下方側である西壁寄りの部分は最深25cmの掘り方に大谷火山灰層の地山土が充填されており、東壁の壁溝寄りの部分には壁溝の深度とほぼ同様の深さの掘り方に地山土が充填されている。竪穴建物の埋土は6層に分層され、西壁側の第5層の成層は人為的な影響によるもので、基本土層第1層起因の第3層が全体を埋め尽くしている。上位に堆積している第2層はB - T m堆積層でブロック状に流れ込んだ堆積を呈している。

竈は新旧2基検出しており、南壁の東壁寄りの部分の方が古く、西壁寄りの部分の方が新しい。新しい竈の構造は半地下式で、主軸方位はN - 168° - Eである。検出時点で燃焼部付近が北西寄りに潰れた状況で検出しており、残存部の計測値で袖幅〔88〕cm、煙道長49cmを測る。煙道は壁際から緩やかに立ち上がりの壁面に近接した位置に煙出が設置されている。竈の廃絶時点で遺物廃棄が伴っており、一部の遺物が竈脇にあるPit24に流れ込んでいる。竈旧は煙道の一部と火床面のみしか残存しておらず、煙出は隣接するS X - 06に切られているため全容は不明であるが、煙道部の構造は半地下式であると考えられ、主軸方位についてはN - 164° - Eである。

出土遺物は図32に土器22点、図33に鉄滓4点、石製品2点を図示した。出土状況については竈脇Pit24ならびにPit20からの出土中心で、埋土では第3層に集中し廃棄された状況を呈している。1は第5層出土の須恵器坏で、口径12.8cm、器高5.9cm、底径4.6cm、器高指数46、底径指数36を測る。海綿骨針を多量に含む胎土で、体部上半から口縁部にかけてコテなどを利用した回転ナデによる微綾段が顕著な器形である。外面体部下半には倒位の状態で「井」がヘラ書きされており、筆順は縦棒が先で、横棒が後に記入されている。焼成は還元が行き届かず内外面とも口縁部～体部上半のみが濃灰色を呈しているだけで、それ以外の部分にはぶい橙～ぶい赤褐色を呈している。また、内外面とも暗赤褐色を呈する火禱痕が観察される。4は床直P - 51～54ならびにPit12の底面部分から出土した土師器椀で、口径12.3cm、器高6.5cm、底径5.0cm、器高指数53、底径指数41を測る。水肥された精緻な胎土で、外面体部の綾が顕著な器形である。また底部の器壁は極端に薄作りである。外面体部中半には倒位の状態で「×」がヘラ書きされており、筆順は「/」「×」である。焼成は外面に重ね焼き痕が観察さ

れ、内外面とも微粒の黒色付着物が観察される。7は第4層P-46出土の耳皿の口縁部片で残存が極端に低く計測不能である。輝石・長石・石英等を含むボソボソした胎土で色調はにぶい黄橙色を呈する。8は竈左袖側から出土した土師器甕で口径16.6cmを測る。石英・長石・輝石ならびに凝灰質の小礫を含むやや粘りのある胎土で、内面は被熱によるハジケならびに剥落が著しいが、外面については局部的に被熱痕が観察されるのみである。外面は体部下半が横方向のヘラによる調整、体部中半～口縁部にかけては倒位にした状態で縦方向のヘラによる調整である。内面は剥落のため頸部の一部のみしか観察できないが横方向のヘラによる調整である。また、内面の頸部は輪積痕がナデ消されていない。14～22は覆土中に混入していた縄文土器で、14～19は深鉢で縄文時代後期十腰内A式に帰属する。20は櫛歯状沈線が施され、十腰内B式に帰属する。21は壺形土器の口縁部片で、縄文時代晩期後半に帰属する。22については縄文時代晩期に帰属する可能性が考えられる。

S I - 11 (図34・35・36・37・38・39、写真46・47・48・49・50・70・71)

グリッドT・U-24・25で検出した。調査区域外へ延びるため全容は不明であるが、調査区内での検出範囲での規模は〔545〕×〔526〕×62cm、床面積は〔15.9〕m²である。平面形は南西隅が検出していないため推定であるが、方形を呈したと思われる。断面形はほぼ垂直に立ち上がる形状であるが、一部壁上面で緩やかに立ち上がる箇所が観察された。壁溝は調査部分では北壁のみで検出し、北東隅付近では断続した状態で小ピット状の掘り込みを検出した。主柱配置については調査部分では3基の主柱穴(Pit 1・2・3)が検出し、竈寄りの長方形配置であることが考えられる。それ以外にPit 4は抜き取り・埋め戻しが行われた掘り方を有しており、またPit 6・7は柱穴として機能した土層堆積状況を有している。その他竈設置壁寄りにピットを検出した。床面は中央がやや窪む形状で竈設置壁側が若干高くなる。掘り方は斜面に対して下方にあたる北壁ならびに西壁の壁寄りの部分から検出しており、最深40cmの掘り込みを有し、大谷火山灰層と月見野火山灰層ならびに第1層との混合土が充填され、上位に大谷火山灰層のロームが貼られている。竈穴建物の埋土は第1層以下8層に分層され、第1層からB-Tm火山灰を層状に検出した。竈設置壁では壁際の崩落層である第7層の堆積以降廃棄の伴う第5・6層の堆積があり、その上位に堆積する第4層が全体を埋め尽くし、その上位に第2層で埋没を完了させている。この第2・4層はロームが全体的に混入する層で、成層において人為的要因が強い堆積層である。竈は東壁側から1基検出したが、燃焼部において構築材である礫がそのまま残存していることから廃絶時点まで機能した竈であると考えられる。主軸方位はN-132°-E、構造は地下式で、竈右袖側は破損が著しく隣接するPit 1の柱材の抜き取りによる影響で破壊したものと考えられ、Pit 1の堆積層上面において竈の構築土の一部が流れ込んで堆積している。袖部の基部は68cm、煙道長は137cmを測り、煙出は31×30.5cmの円形を呈する。燃焼部は凝灰質の板状の角礫を袖ならびに天井に設け、ロームを貼り付け構築しているが、右袖側は前述の破壊により芯材は検出していない。また支脚と考えられる土師器椀(図36-5)が出土している。火床面は50×32cmの範囲で硬化した被熱面を検出しており、被熱は床下約16cmまで及んでいた。

出土遺物は図37・38に土器25点、図39に鉄滓6点を図示した。出土状況については竈周辺に集中し、埋土では第4・6層主体である。3はPit 7第2層及び遺構外との接合資料の須恵器坏で口径13.6cm、器高5.4cm、底径6.0cm、器高指数40、底径指数44を測る。胎土には海綿骨針、長石・石英、赤色粒が混入し、色調が灰白色を呈するやや軽質な感のある土器である。底径幅が広く、外面の体部は綾段が顕著で、口唇部は内面側を平滑気味に外傾させている。また、体部外面には鉄が付着している。5は竈支脚位置から出土した土師器椀で、口径12.7cm、器高6.4cm、底径4.8cm、器高指数50、底径指数38

を測る。竈支脚として利用されていたため、外面は赤桃色～淡黒青灰色を呈する箇所が観察され油分状の黒色付着物が全体に付着している。また、内面は口縁部が赤橙色を呈する箇所がある。石英を多量に含むやや粘りのある胎土で、焼き歪みによりやや楕円気味の形状を呈する。体部は綾段を有するタイプであるが体部中段に強い綾があり、角度がそこから変化しやや直立気味に開き立ち上がる。また体部上半には倒位に「く」がヘラ書きされている。6はPit7第4層ならびに床面および覆土第4層から出土した土師器碗で口径12.1cm、器高5.8cm、底径5.4cm、器高指数48、底径指数45を測る。石英・輝石等の砂粒を多量、海綿骨針を微量含むやや粘りのある胎土であるが、浸食等により器壁のほとんどが摩滅・退色している。体部に綾段を有するタイプで、口唇部はやや直立に近い形で立ち上がる。また、口唇部内面には油分状の黒色付着物が弧状に付着しており、外面の口唇部の一部にも及んでいる。7は床面及び覆土ならびに遺構外との接合資料の土師器碗で、口径13.4cm、器高5.4cm、底径5.7cm、器高指数40、底径指数43を測る。胎土に砂粒及び骨針を少量含むやや粘りのある胎土で、軽質な感を有する。残存部の約半分が浸食により退色しており白味がかった褐色を呈しているが、にぶい黄褐色がもとの色調であったことが考えられる。体部は開き気味に立ち上がり、口縁部をやや肥厚させ立ち上がる器形で、口唇の一部には粘土を付け足した痕跡が観察され、また見込み部分にはロク口回転の方向とは異なるナデが観察される。体部下半には倒位の状態でヘラ記号「||」が記入されている。図38-16は竈覆土上・4・6層、竈脇Pit9付近の覆土6層出土の土師器甕で、口径21.7cmを測る。川砂などの粒径の大きな砂粒を多量、骨針を微量含むやや粘りのある胎土で、体部と口縁部の径がほぼ変わらないタイプであるが、作りが稚拙で器形に均一性がない。口縁部は肥厚化させ、体部からやや内傾させたのち、つまみ伸ばすように外反させているが、倒位に設置した状態でのヘラの工具の動きが頸部を意識せず口唇部直下まで及んでいる箇所もある。また、体部中半では縦方向ではなく斜め方向へ強く挟むような工具の動きを見せているところもあり、野木遺跡北地区SⅠ-138竈天井部出土資料(青森市教育委員会2001)よりも新段階の資料である。22は竈左袖脇のPit9直上から出土した土師器甕(中甕)で、口径16.3cm、器高17.4cm、底径7.3cmを測る。川砂等の砂粒を多量に含む胎土で、体部中半～底部にかけて被熱による剥落が激しく、また、内面の炭化物付着痕が不整合を生じ、接合破片間で器壁の被熱の度合が大きく異なる資料もあるため、破片化した状態でも被熱を受けた可能性が考えられる。体部中半に最大径を有し、口縁部はつまみ伸ばすように外反させるタイプであるが、16と同様に作りが稚拙で、口縁部を直立気味に口唇のみを折り返すように外反させた箇所が全体の1/3ほど占める。体部の肥幅化は、口縁部直下はヘラによるものであるが、体部中半はナデによるものである。底部は粒子の粗い砂底で、粘土粒が付着した箇所が観察される。23は覆土4層出土の土師器小甕で、口径13.3cmを測る。比較的砂粒の混入量が少なく、海綿骨針を含む粘りのある胎土で、粒子の細かい赤色粒をやや多量に混入する点が他の甕の胎土と異なる点である。最大径が口縁部直下の体部上半にあたり、口縁部は丁寧な横ナデで体部と分けられており、口唇は折り返すように短く外反させている。外面の体部調整は底部側からやや斜め方向に動かし、体部上半で口縁部へ真っ直ぐおろすように角度を変えている箇所も観察される。

2. 土坑

S K - 20 (図40、写真51) グリッドS - 29で検出した。規模は98×83×28cmを測る。平面形はf、断面形はaである。第1層起因の堆積土で上位に堆積する第1層中には粒径の大きなロームブロックが中量含まれている。

S K - 21 (図40) グリッドT - 29で検出した。規模は154×67×21cmを測る。平面形はg、断面形

はcである。中央部は浅い柱穴状の掘り込みが認められる。

S K - 22 (図40、写真52) グリッドT - 28・29で検出した。規模は190×123×41cmを測る。平面形はe、断面形はeである。第3層は第1層起因、第2層は第1層起因の堆積層で、そのまま自然崩落して埋没した堆積層であると判断される。また、第2層直上にはT o - a火山灰が層状に堆積している。

S K - 23 (図40、写真53・71) グリッドT - 27・28で検出した。S P - 114と重複しており、本遺構の方が古い。規模は106×90×45cmを測る。平面形はe、断面形はd + aである。全体的にロームブロックが混入する埋土で、人為的要素を持つ。堆積土中から縄文時代後期十腰内 B式の深鉢片(図42 - 1・2、写真71 - 12・13)が出土している。

S K - 24 (図40、写真54) グリッドS - 27・28で検出した。規模は開口部で117×110cm、底面で106×103cm、深さは50cmを測る。平面形はe、断面形はfである。ロームブロック・ローム粒を含む第1層起因の土層の堆積が認められ、人為的要素を持つ堆積である。

S K - 25 欠番

S K - 26 (図40、写真55) グリッドT - 28で検出した。規模は114×87×12cmを測る。平面形はf、断面形はdである。単層で、第1層起因の土層の堆積が認められた。

S K - 27 (図41、写真56) グリッドT - 30で検出した。規模は111×109×35cmを測る。平面形はa、断面形はaである。本遺構は製炭土坑で、底面ならびに壁面の一部が被熱により赤化しており、底面直上には炭化材(樹種は広葉樹モクレン属)および炭化物が7～10cmの厚さで堆積していた。また、第2層中からB - T m火山灰をブロック状に検出した。

S K - 28 (図41、写真57) グリッドU - 25で検出した。規模は90×78×35cmを測る。平面形はe、断面形はeである。第1層起因の堆積土で、第1層中にはロームブロックおよび焼土ブロックが混入する。

S K - 29 (図41、写真58) グリッドV・W - 30・31で検出した。規模については調査区外へ延びるため、短軸幅は不明であるが、長軸幅180cm、深さ15cmを測る。平面形は(e)、断面形はdである。埋土は調査時の土層番号第3層が最も新しい堆積土で、第1層については掘り方もしくは他の遺構である可能性がある。

S K - 30 (図41、写真59) グリッドU - 28で検出した。規模は110×66×7cmを測る。平面形はg、断面形はdである。ロームブロックが混入する第1層が全体を埋め尽くしており、人為的要素を持つ。

S K - 31 (図41、写真60) グリッドU - 28で検出した。規模は77×73×11cmを測る。平面形はh、断面形はhである。S K - 30同様ロームブロックが主体的に混入し、人為的様相を持つ。

S K - 32 (図41、写真61・71) グリッドT - 26で検出した。規模は102×87×40cmを測る。平面形はf、断面形はjである。壁際の第3層は月見野火山灰層の地山土と第1層との混合土が堆積している。第1層中から縄文土器体部片(図42 - 3、写真71 - 14)が出土しているが、浸食等による摩滅が激しく、混入の要素がある。

S K - 33 (図42、写真63・71) グリッドW - 28で検出した。S K - 35と重複しており本遺構の方が新しい。ただし、本遺構から出土した須恵器口縁部片(図42 - 4、写真71 - 15)とS K - 35出土の体部～底部にかけての資料(図42 - 5、写真71 - 16)は同一個体(図上復元図42 - 6)と判断できる資料である。埋土の成層過程での紛れ込みの可能性が考慮される。規模は122×76×19cmを測る。平面形はe、断面形はdである。遺物は土器以外に含鉄鉄滓が出土している。埋土は焼土ブロック等を混入するローム土主体の堆積で、隣接するS I - 10ないしはS X - 06に関連した可能性を有する。

S K - 34 (図42、写真62) グリッドX - 28で検出した。S P - 329と重複しており、本遺構の方が新

しい。規模は101×76×35cmを測る。平面形はf、断面形はeである。堆積土は第2層が第1層起因、第1層が第2層起因であると判断できる。

S K - 35 (図42、写真63)グリッドW - 28で検出した。S K - 33およびS P - 329と重複しており、新旧関係はS P - 329 < S K - 35 < S K - 33である。切り合いのため平面は一部削平されているが、残存規模については61×〔47〕×24cmを測る。平面形は〔e〕、断面形は〔a〕である。混入物は炭化粒が微量含まれるのみであるが、しまりが強い土質である。

S P - 101 (図43、写真64・65)グリッドT - 27・28で検出した。規模は364×80×124cmを測る。平面・断面形は溝状を呈し、本遺構は溝状土坑である。堆積土は5層に分層され、掘り方は第4・5層にあたる。

3. 炉跡

S X - 06 (図45・46、写真67・68)グリッドW・X - 27・28で検出した。規模は260×210×20cmを測る。平面形は不整形を呈するが、南壁に竈状の突出部を持ち、またその東隅には方形の突出部を持ちピット1基を検出している。断面形は浅い掘り込みではあるが、上面がなだらかに立ち上がる形状を有する。竈状の突出部はにぶい赤褐色土が堆積しており、上層である第1層中に焼土粒が多量に混入していることからこの箇所で燃焼が行われたものと考えられる。また、突出部の隣接部分から羽口1点(図46-3)が出土しているが、鉄生産に関連した鉄滓等の出土は認められなかった。その為、厳密に鉄生産に関する炉跡とは認定できない。

4. 掘立柱建物跡

S B - 02 (図46・47、写真66)グリッドT・U - 27・28で検出した。主軸はN - 16° - W、規模は1×2間で、桁行525cm、梁行230cmを測る。P6が軸線とずれた位置にあり、掘り込みも浅いため、帰属しない可能性も持ち得ている。

5. 遺構外出土遺物(図48、写真72)

図上復元を含め17点図示した。出土位置については全て包含層一括で取り扱っている。縄文時代の帰属資料は1～10で、1は深鉢の口縁部直下の資料で、地文にLR縄文が施され、その上に隆帯が貼られ、燃系Rが2本1単位で押圧されている。手法的には円筒上層d式の特徴を有するが、残存状況が不良であるため縄文時代中期の範疇として取り扱う。2は深鉢の体部片で地文に羽状縄文が施される。1と同様縄文時代中期に帰属する。3は底部資料で底面に原体の押圧が観察される。明確な帰属時期については不明であるが、円筒式であると考えられる。4は深鉢ないしは壺形土器の体部片で下半の文様帯と無文帯の境界位置にあたる。幅の狭い工具により平行沈線が施された後、楕円形文を施文している。5は深鉢の口縁部片で、無文である。調整は外面が横位のミガキ、内面は横方向のナデが施されている。縄文時代後期に帰属する。6は壺形土器の体部下半の資料で、5とは異なりややザラザラした質感を有する胎土である。この胎土の特徴は8～10の資料と同様で、縄文時代晩期に帰属する可能性がある。7は鉢形土器の口縁部片で幅広の沈線文が施されている。縄文時代晩期前半に帰属する。8～10は浅鉢形土器の口縁部資料で同一個体と判断される。口唇部の内面側には鋭利な工具で刺突文と沈線文が施され、外面体部にはLR磨消縄文が施されたのち、沈線文が施される。

平安時代の帰属資料は11～16で、須恵器坏である11と12は、胎土ならびに焼成の特徴から同一個体と判断できる資料で図上復元として13に図示した。図上復元後の法量は口径14.5cm、器高7.0cm、底

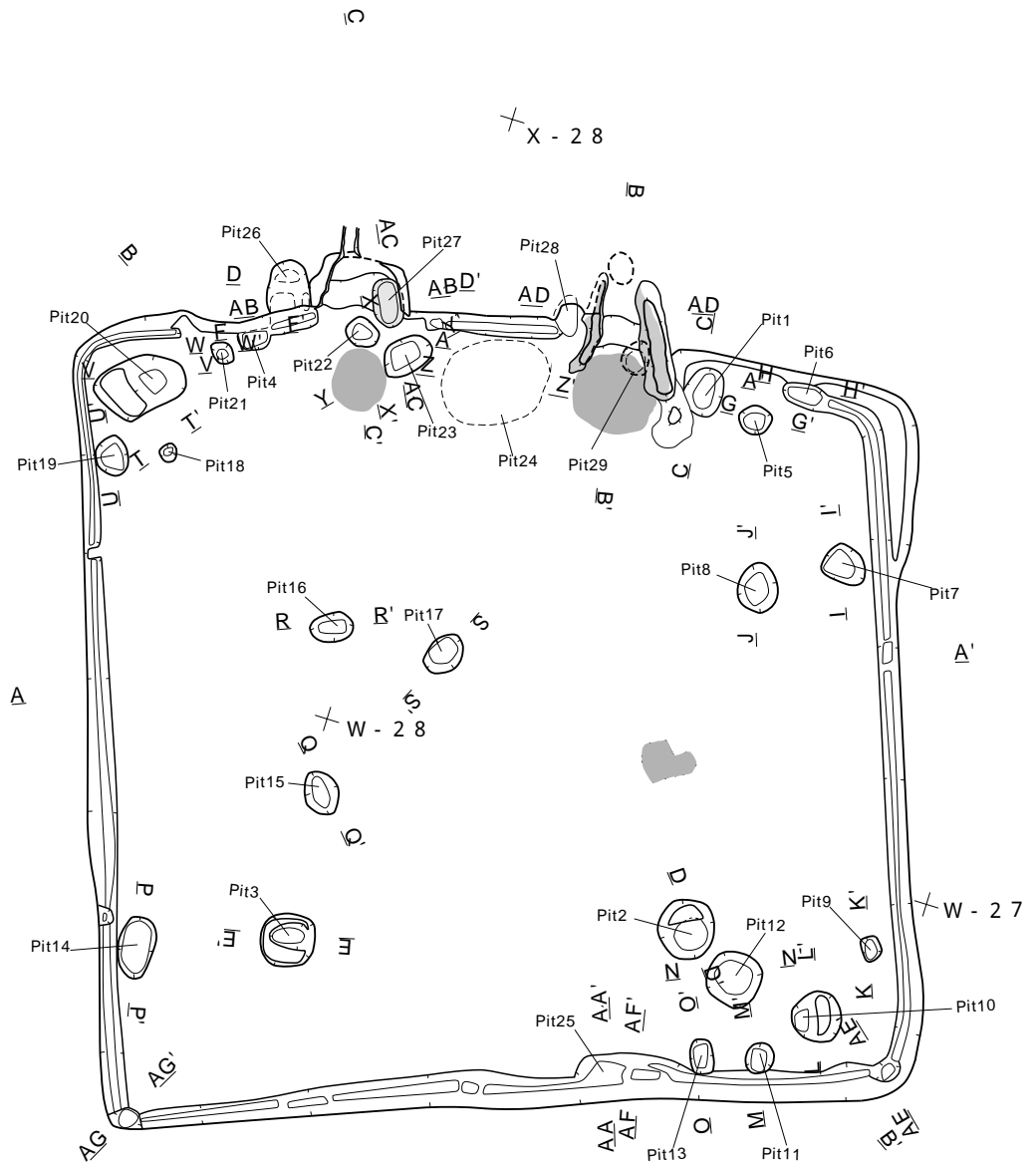
径5.5cm、器高指数48、底径指数38である。淡灰色に近い灰色を呈し、ゴマ粒状の黒色粒が微量混入しており、赤色粒および海綿骨針等も少量混入している。焼成は良好で断面の色調も内外面とほぼ同様の色調を呈している。非五所川原産の可能性ある。14は須恵器長頸瓶の口縁資料で、口径12.6cmを測る。口唇端部は幅が狭いが面取りされており、五所川原産である。15は土師器小甕の口縁部資料で、口径(13.8)cmを測る。口唇部の作りが稚拙で、粘土が隆起した状態でやや丸みを帯びている。外面は縦位、内面は横位のヘラによる調整で、外面は頸部直下で動きが止まっている。16は土師器小甕の底部資料で底径7.2cmを測る。底面は粒子の粗い砂粒が中央を中心にまばらに付着した砂底である。

第2節 小結

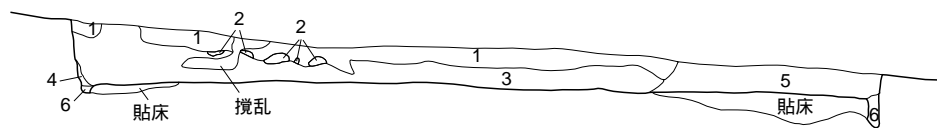
雲谷山吹(5)遺跡は、青森市合子沢山崎の青森公立大学の敷地内標高115～120mの山林に所在する。発掘調査は現国際芸術センター青森(仮称青森市芸術創作工房)施設の作業棟の東側の敷地内859㎡を調査した。調査の結果、竪穴建物跡2軒、掘立柱建物跡1棟、炉跡1基、土坑16基(うち1基はT-Pit)、ピット30基を検出し、縄文時代中～晩期の土器および平安時代の土師器・須恵器ならびに砥石・羽口・鉄滓が出土した。沢を隔てて所在する雲谷山吹(6)遺跡の丘陵上に展開する縄文時代の集落跡ならびに平安時代の集落跡とほぼ同時期の時代構成を有するが、本遺跡は隣接する雲谷山吹(4)遺跡で出土した縄文時代晩期の資料とも比較でき、ある意味時代毎の生活圏の差異の境界の範囲に属する遺跡である。試掘調査では北西方向の丘陵の傾斜が大きく変化する地点が未調査であったため、未確定な部分も否めないが、雲谷山吹(6)遺跡との境界である沢地へ向かう傾斜地ならびに公立大方向へ向かう丘陵の延長部については試掘調査の結果も踏まえるとあまり広がりを持たない点が特徴で、現時点では雲谷山吹(6)遺跡で展開する集落の補完的役割を果たしたに過ぎない位置付けとなる。



雲谷山吹(5)遺跡調査風景



SI-10南北セクション
A 118.419m



SI-10東西セクション
B 118.419m

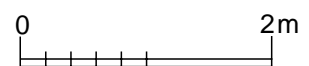
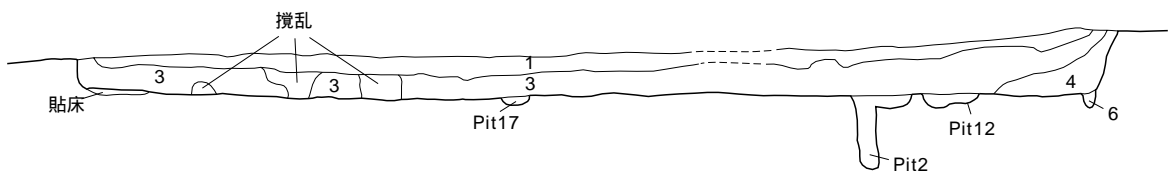
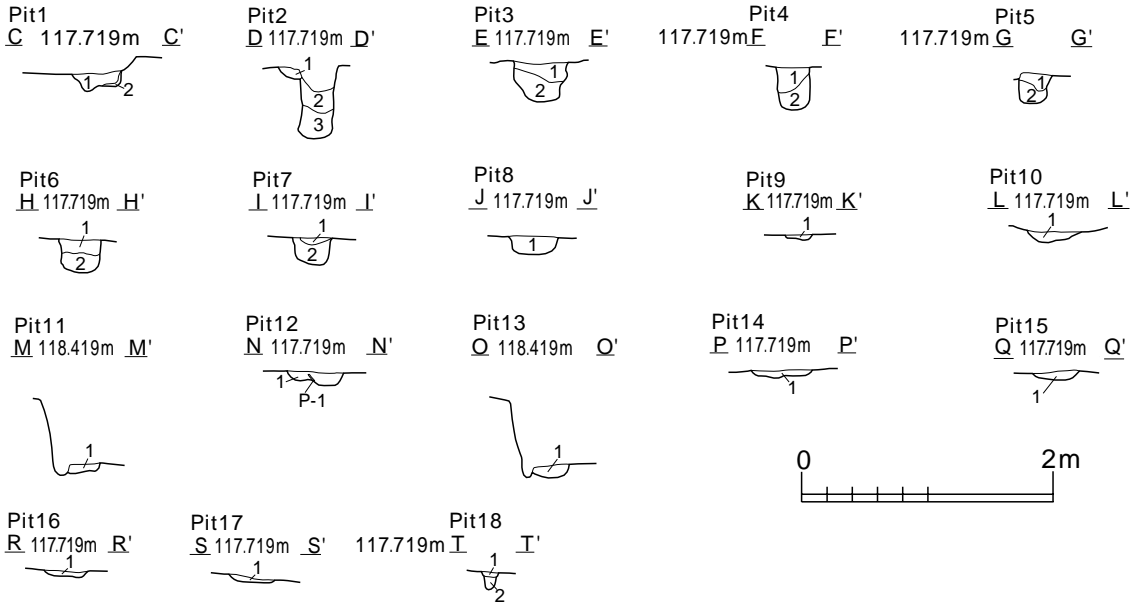


図26 SI - 10

SI-10

第1層	10YR2/1	黒色土	粘性なし、湿性・しまりあり、パミス(1~5mm)・焼土粒(2~4mm)少量、小礫(3~5mm)・炭化粒(1~3mm)微量混入
第2層	B-Tm層		
第3層	10YR3/4	暗褐色土	粘性・しまりややあり、湿性あり、ローム粒(1~5mm)層全体に中量、小礫(5~10mm)少量、炭化粒(1mm)微量混入
第4層	10YR3/3	暗褐色土	粘性ややあり、湿性・しまりあり、パミス(1~3mm)少量、小礫(5mm)微量、炭化粒(5~10mm)中量混入
第5層	10YR4/4	褐色土	粘性・しまりあり、湿性强、パミス(1~5mm)層全体に微量混入
第6層	10YR4/6	褐色土	粘性あり、湿性强、しまりなし、パミス(1mm)少量、パミス(30mm)・炭化粒(5mm)微量、小礫(1~5mm)中量混入
貼床	10YR5/6	黄褐色土	粘性あり、湿性弱、固くしまりあり



SI-10 Pit 1

第1層	10YR3/3	暗褐色土	粘性強、湿性あり、固くしまりあり、焼土粒(5mm)中量混入
第2層	7.5YR4/3	褐色土	粘性・湿性・固くしまりあり、層全体に焼土粒(1~2mm)中量、焼土ブロック(50mm)極微量混入

SI-10 Pit 2

第1層	10YR4/4	褐色土	粘性・湿性・しまりあり、パミス(1mm)・小礫(1~2mm)少量、焼土粒(1mm)極微量混入
第2層	10YR4/6	褐色土	粘性強、湿性あり、固くしまりあり、パミス(1~3mm)微量混入
第3層	10YR5/6	黄褐色土	粘性非常に強く、湿性あり、しまりややあり、パミス(2mm)中量混入

SI-10 Pit 3

第1層	10YR3/3	暗褐色土	粘性なし、湿性あり、しまりややあり、炭化粒(1~5mm)少量、焼土粒(2~3mm)微量混入
第2層	10YR3/4	暗褐色土	粘性ややあり、湿性・しまりあり、ローム粒(1~2mm)層全体に少量、炭化粒(1mm以下)極微量、焼土粒(1~2mm)極微量混入

SI-10 Pit 4

第1層	10YR3/4	暗褐色土	粘性・しまりあり、湿性やや強、パミス(5mm)微量、炭化粒(1~3mm)少量、焼土粒(3mm)極微量混入
第2層	10YR5/6	黄褐色土	粘性・湿性强、しまりややあり、10YR2/1黒色土(10mm)極微量混入

SI-10 Pit 5

第1層	10YR3/4	暗褐色土	粘性ややあり、湿性あり、固くしまりあり、ロームブロック(30mm)極微量、焼土粒(1~2mm)少量混入
第2層	10YR4/6	褐色土	粘性強、湿性あり、非常に固くしまりあり

SI-10 Pit 6

第1層	10YR4/6	褐色土	粘性・しまりややあり、湿性あり、ロームブロック(20mm)極微量混入、木根等によるカクランにより、10YR2/1黒色土を少量含む
第2層	10YR5/6	黄褐色土	粘性強、湿性・しまりあり、ロームブロック(20~50mm)微量混入

SI-10 Pit 7

第1層	10YR3/3	暗褐色土	粘性・湿性あり、固くしまりあり、小礫(1~2mm)極微量混入
第2層	10YR4/4	褐色土	粘性強、湿性あり、しまりなし、焼土粒(1~2mm)微量混入

SI-10 Pit 8

第1層	10YR4/4	褐色土	粘性・湿性・しまりあり、小礫(3~5mm)微量、炭化粒(1~3mm)極微量混入
-----	---------	-----	---

SI-10 Pit 9

第1層	10YR3/4	暗褐色土	粘性強、湿性あり、非常に固くしまりあり、ローム粒(5~6mm)極微量、炭化粒(1~2mm)微量混入
-----	---------	------	---

SI-10 Pit 10

第1層	10YR4/4	褐色土	粘性・湿性・しまりあり、木根等によるカクランにより、10YR2/1黒色土微量混入、パミス(1~2mm)少量、炭化粒(1~3mm)微量混入
-----	---------	-----	--

SI-10 Pit 11

第1層	10YR4/6	褐色土	粘性強、湿性あり、固くしまりあり、炭化粒(1~2mm)・焼土粒(1mm)極微量混入
-----	---------	-----	---

SI-10 Pit 12

第1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	粘性・湿性・しまりあり、パミス(1~2mm)微量、炭化粒(1~3mm)少量混入
-----	---------	---------	---

SI-10 Pit 13

第1層	10YR5/6	にぶい黄褐色土	粘性あり・湿性强、固くしまりあり
-----	---------	---------	------------------

SI-10 Pit 14

第1層	10YR4/4	褐色土	粘性強、湿性あり、固くしまりあり
-----	---------	-----	------------------

SI-10 Pit 15

第1層	10YR4/4	褐色土	粘性強、湿性・しまりあり、炭化粒(1mm以下)極微量、焼土粒(1~2mm)微量混入
-----	---------	-----	---

SI-10 Pit 16

第1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	粘性ややあり、湿性あり、固くしまりあり、炭化粒(1~2mm)微量混入
-----	---------	---------	------------------------------------

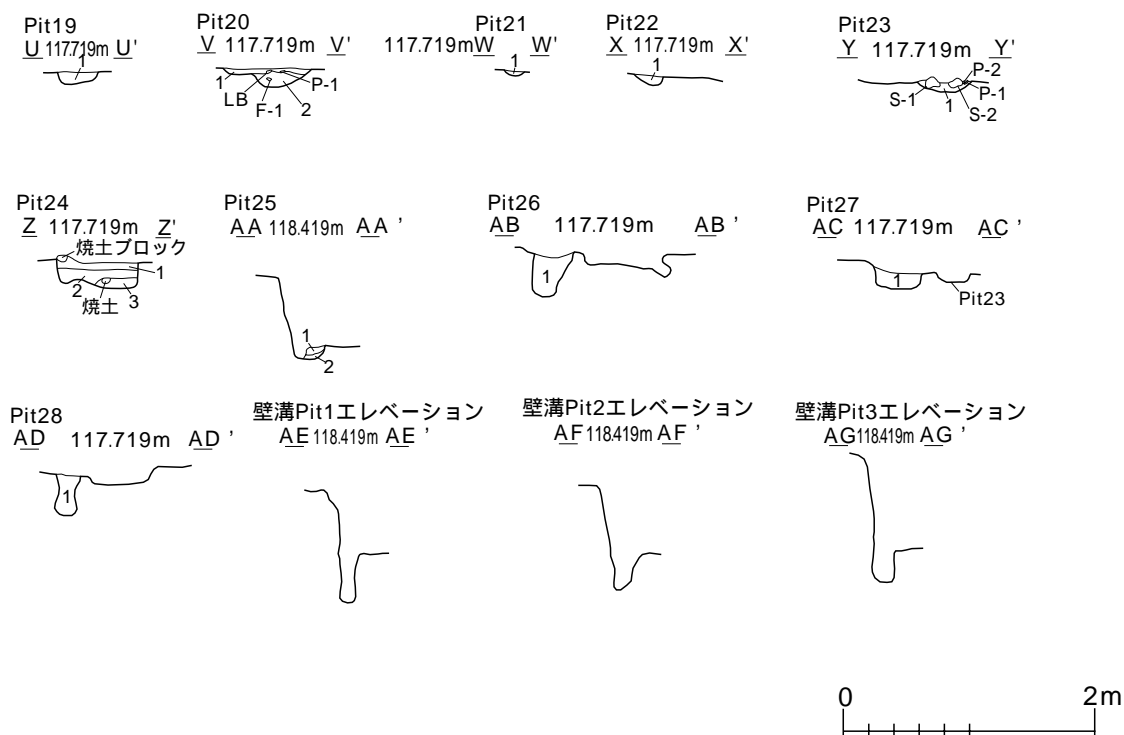
SI-10 Pit 17

第1層	10YR3/4	暗褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(1~3mm)少量、炭化粒(1~2mm)微量混入
-----	---------	------	--

SI-10 Pit 18

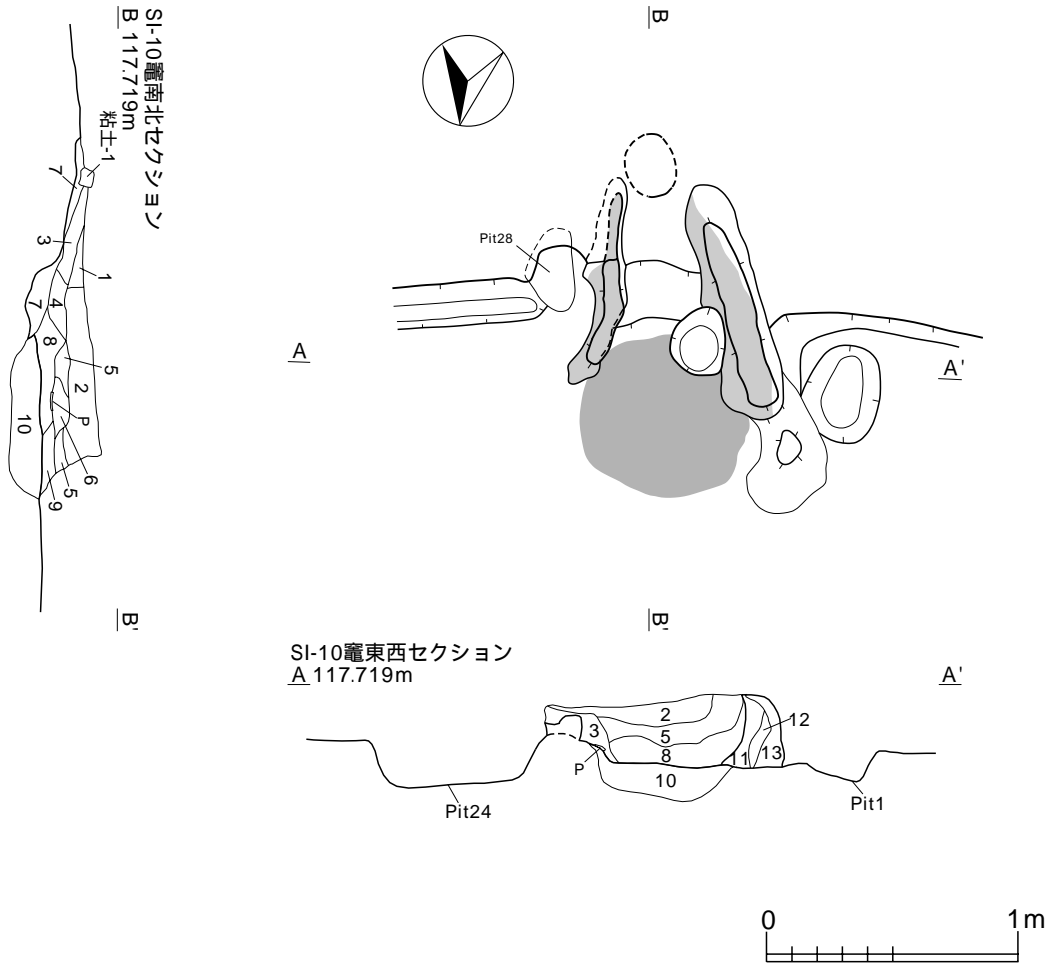
第1層	10YR2/3	黒褐色土	粘性あり、湿性强、固くしまりあり、ローム粒(5mm)極微量、炭化粒(1~2mm)・焼土粒(1mm以下)微量混入
第2層	10YR5/8	黄褐色土	粘性強、湿性やや強、固くしまりあり、木根等によるカクランにより、10YR2/1黒色土極微量混入

図27 SI-10



- SI - 10 Pit 19
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 粘性、湿性、しまりあり、ローム粒(5mm)層全体に中量、炭化粒(1~2mm)少量、焼土粒(1~2mm)微量混入
- SI - 10 Pit 20
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 粘性、湿性、しまりあり、ロームブロック(70mm)極微量、バミス(1~3mm)・炭化粒(1~2mm)微量混入
 第2層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性强、固くしまりあり、焼土粒(1~2mm)少量混入
- SI - 10 Pit 21
 第1層 10YR4/4 褐色土 粘性、湿性、しまりあり、バミス微量、炭化粒(1~2mm)・焼土粒(1mm以下)極微量混入
- SI - 10 Pit 22
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 粘性ややあり、湿性あり、固くしまりあり、炭化粒(1~2mm)極微量、焼土粒(2~3mm)微量混入
- SI - 10 Pit 23
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・しまりあり、湿性ややあり、炭化粒(5mm)微量、焼土粒(2~3mm)少量混入
- SI - 10 Pit 24
 第1層 7.5YR4/4 褐色土 粘性・湿性あり、固くしまりあり、炭化粒(5mm)微量、焼土粒(1~3mm)少量、焼土ブロック層左上部に極微量混入
 第2層 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性あり、固くしまりあり、バミス(1~5mm)少量、焼土粒(3~7mm)微量、焼土ブロック(10~20mm)中量混入
 第3層 7.5YR5/6 明褐色土 粘性なし、湿性ややあり、非常に固く部分的にしまりなし、炭化粒(1~5mm)少量、焼土粒(2~4mm)微量、焼土ブロック(100mm)極微量混入
- SI - 10 Pit 25
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性强、固くしまりあり、ローム粒(1~2mm)微量、ロームブロック(10~30mm)中量、バミス(1mm)極微量混入
 第2層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性强、非常に固くしまりあり
- SI - 10 Pit 26
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性あり、固くしまりあり、バミス(2~3mm)・炭化粒(1~5mm)少量、ロームが層全体に中量、焼土粒(5~10mm)微量混入
- SI - 10 Pit 27
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性あり、しまりややあり、バミス(1~2mm)微量混入
- SI - 10 Pit 28
 第1層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性あり、しまりややあり、ローム粒(2~3mm)・バミス(5mm)少量、炭化粒(1~2mm)微量、焼土粒(1~5mm)極微量混入

図28 SI - 10



SI-10 竈

第1層	10YR2/2	黒褐色土	粘性なし、湿性强、しまりあり、パミス(1~3mm)少量、焼土粒(5mm)極微量混入、層全体にローム粒(1~2mm)を含む
第2層	10YR4/6	褐色土	粘性ややあり、湿性あり、やや固くしまりあり、パミス(3~5mm)・炭化粒(1~3mm)少量、層全体に焼土粒(5mm)中量混入(カマド崩落土)
第3層	5YR3/6	暗赤褐色土	粘性なし、湿性ややあり、固く部分的にしまりなし、ローム粒(1~3mm)微量、炭化粒(5~10mm)少量混入(カマド天井崩落土)
第4層	7.5YR4/6	褐色土	粘性・湿性あり、ややしまりあり、石英(1~2mm)微量、炭化粒(1mm)少量、層の下部に焼土ブロック(15mm)極微量混入
第5層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	粘性・湿性やや強、固くしまりあり、礫(20mm)極微量、炭化粒(1~2mm)少量、焼土粒(1~4mm)微量混入
第6層	5YR3/4暗赤褐色土と5YR4/6赤褐色焼土との混合層		砂質、粘性なし、湿性あり、固くしまりあり、小礫(4mm)微量混入(カマド天井部崩落土)
第7層	10YR4/4	褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ロームブロック(30mm)層の下部に極微量、小礫(1~3mm)微量、焼土粒(5~10mm)少量混入(カマド煙道部)
第8層	10YR3/3	暗褐色土	粘性あり、湿性强、固くしまりあり、砂質、パミス(1~3mm)少量、焼土ブロック(10~30mm)中量混入
第9層	10YR3/2	黒褐色土	粘性なし、湿性强、固くしまりあり、ローム粒(2~4mm)微量、パミス(5mm)極微量、炭化粒(1~2mm)中量、焼土粒(2~3mm)少量混入
第10層	5YR4/4	にぶい赤褐色土	粘性なし、湿性あり、全体的に固いが層の上部のみしまりなし(火床面)
第11層	5YR4/6	赤褐色土	砂質、粘性なし、湿性あり、固くしまりあり(袖)
第12層	5YR5/6	明赤褐色土	粘性ややあり、湿性・しまりあり、層全体に細粒砂中量混入(袖)
第13層	10YR3/4	暗褐色土	粘性・湿性あり、しまりやや強、小礫(1~5mm)微量、細粒砂極微量混入(袖)

図29 SI-10

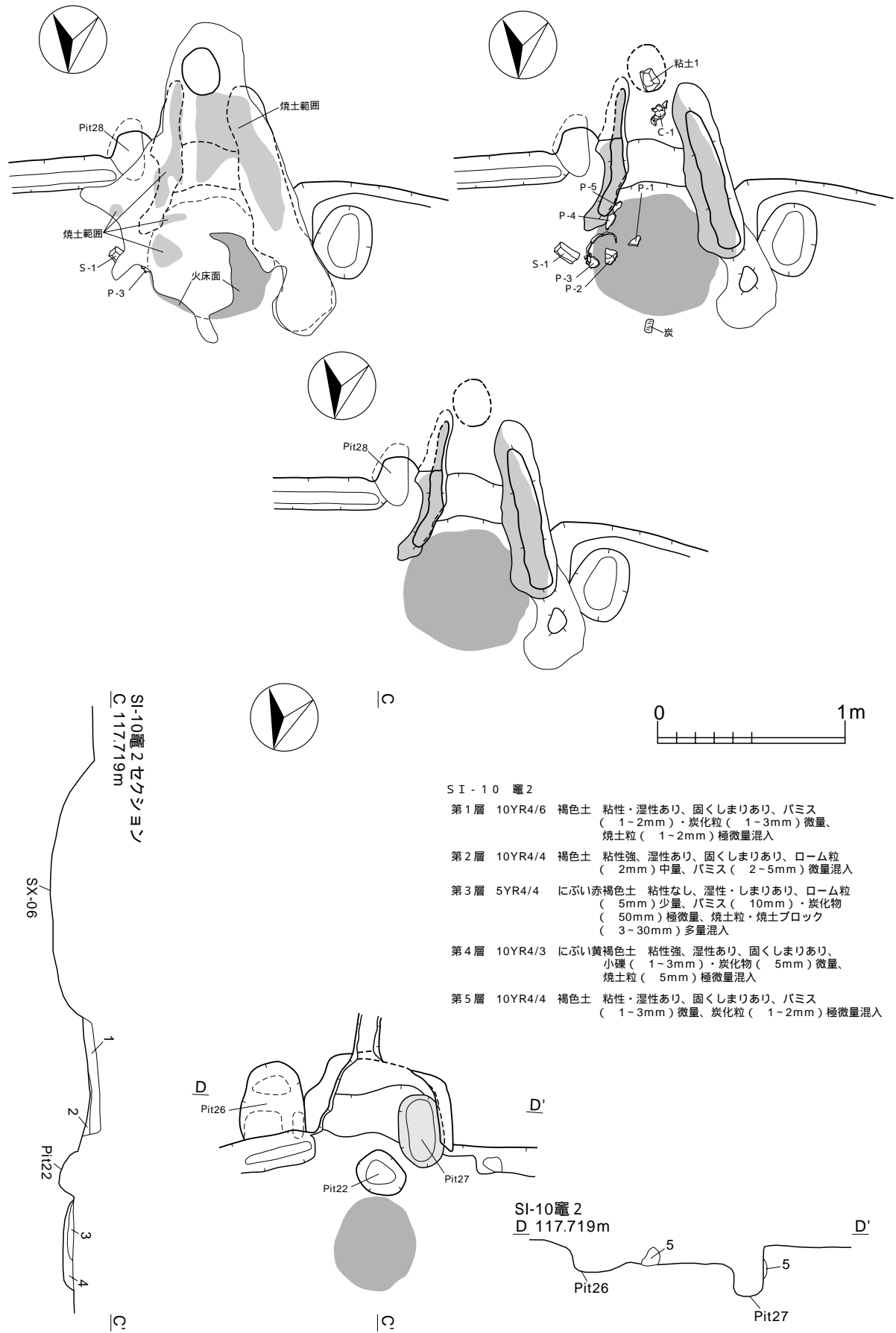
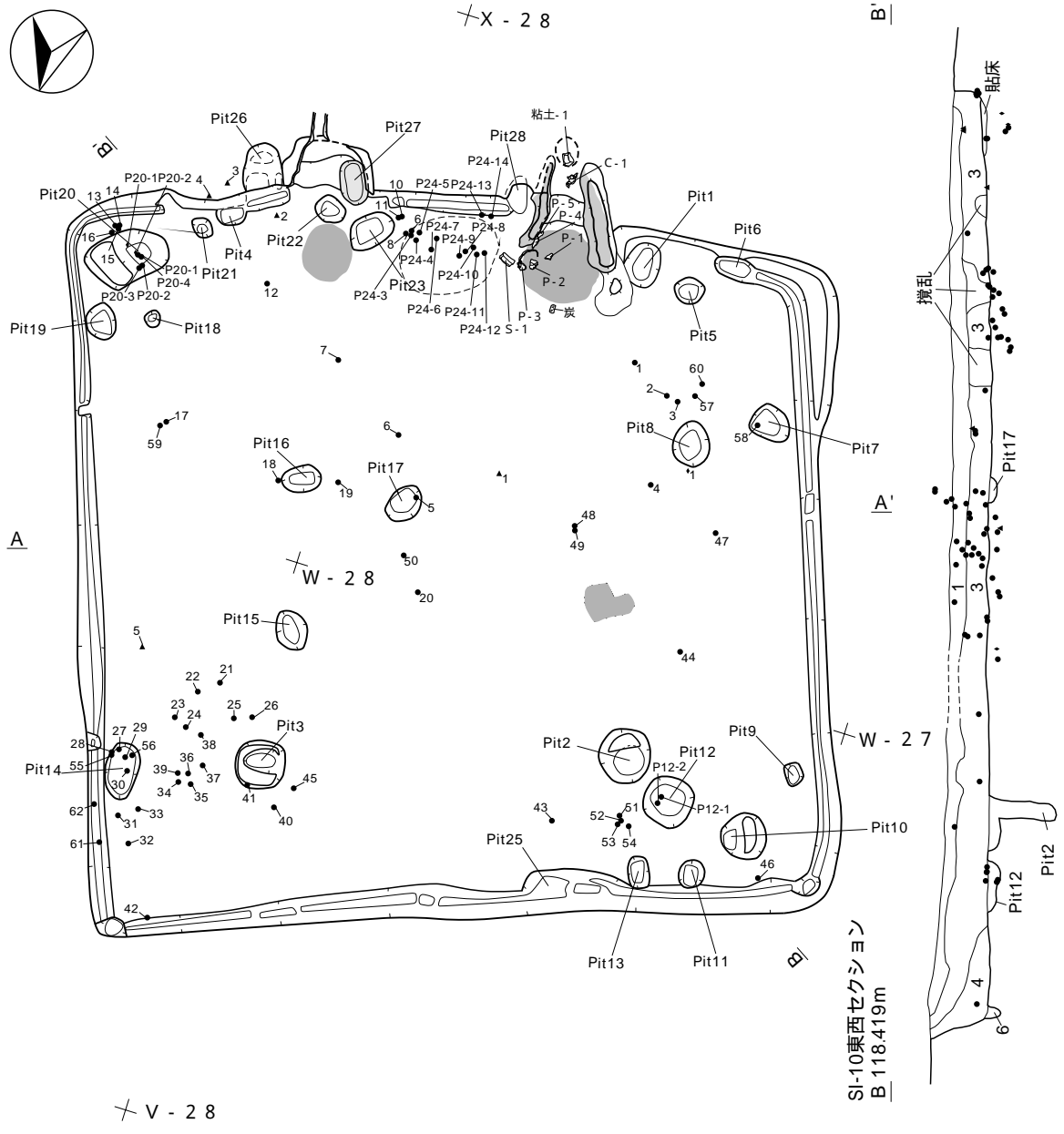


図30 S I - 10



SI-10南北セクション
A 118.419m



図31 SI - 10

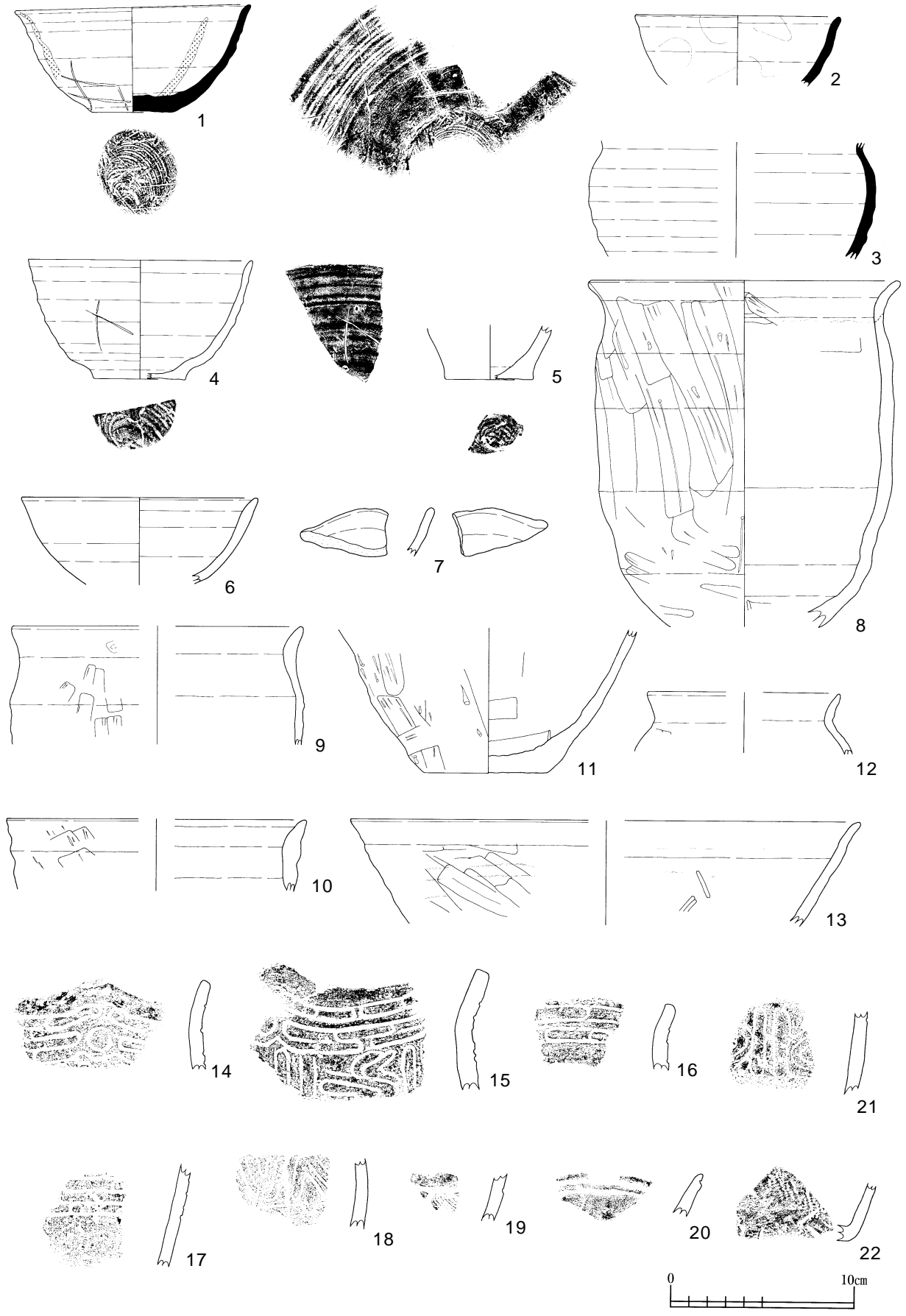


图32 S I - 10

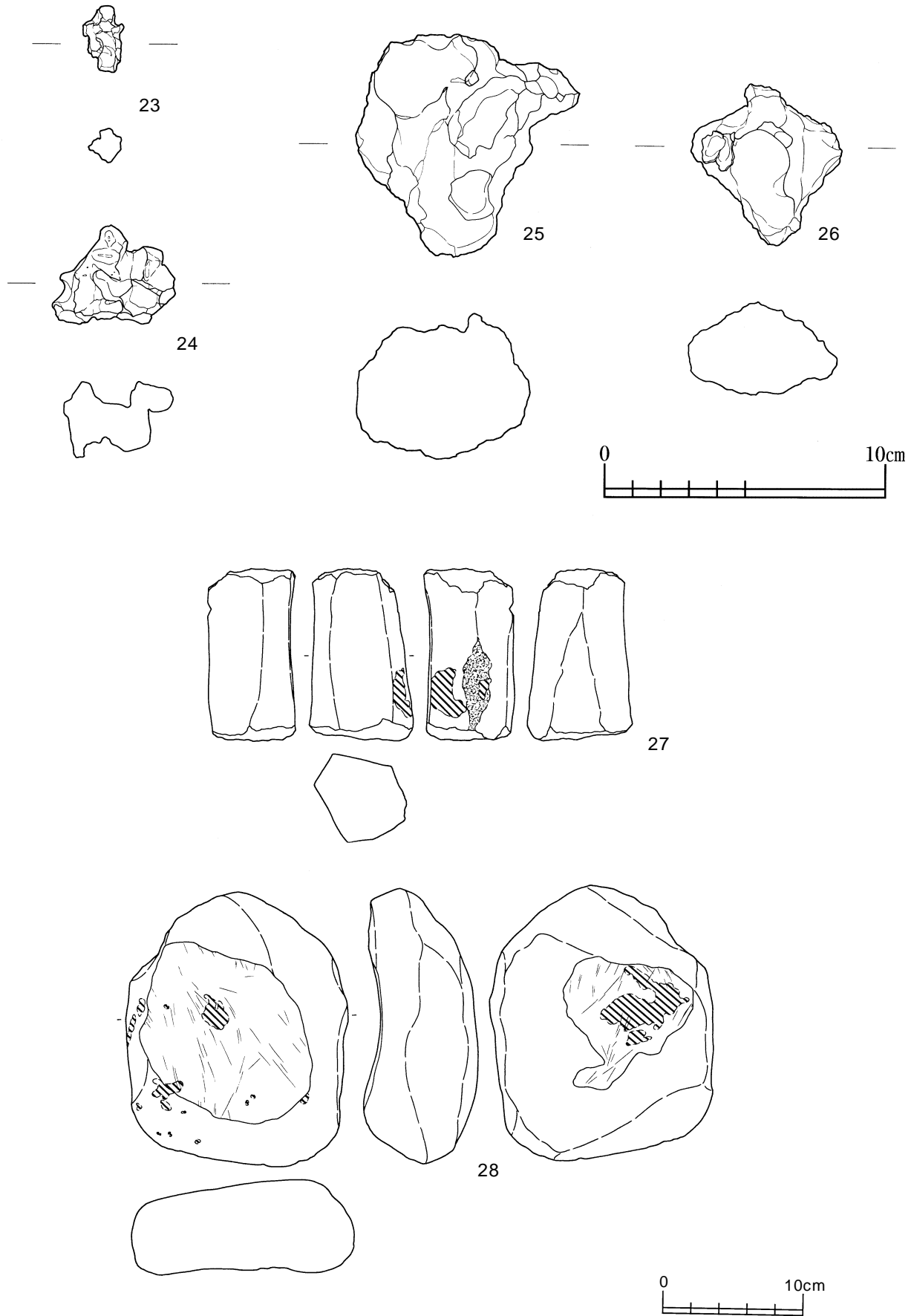
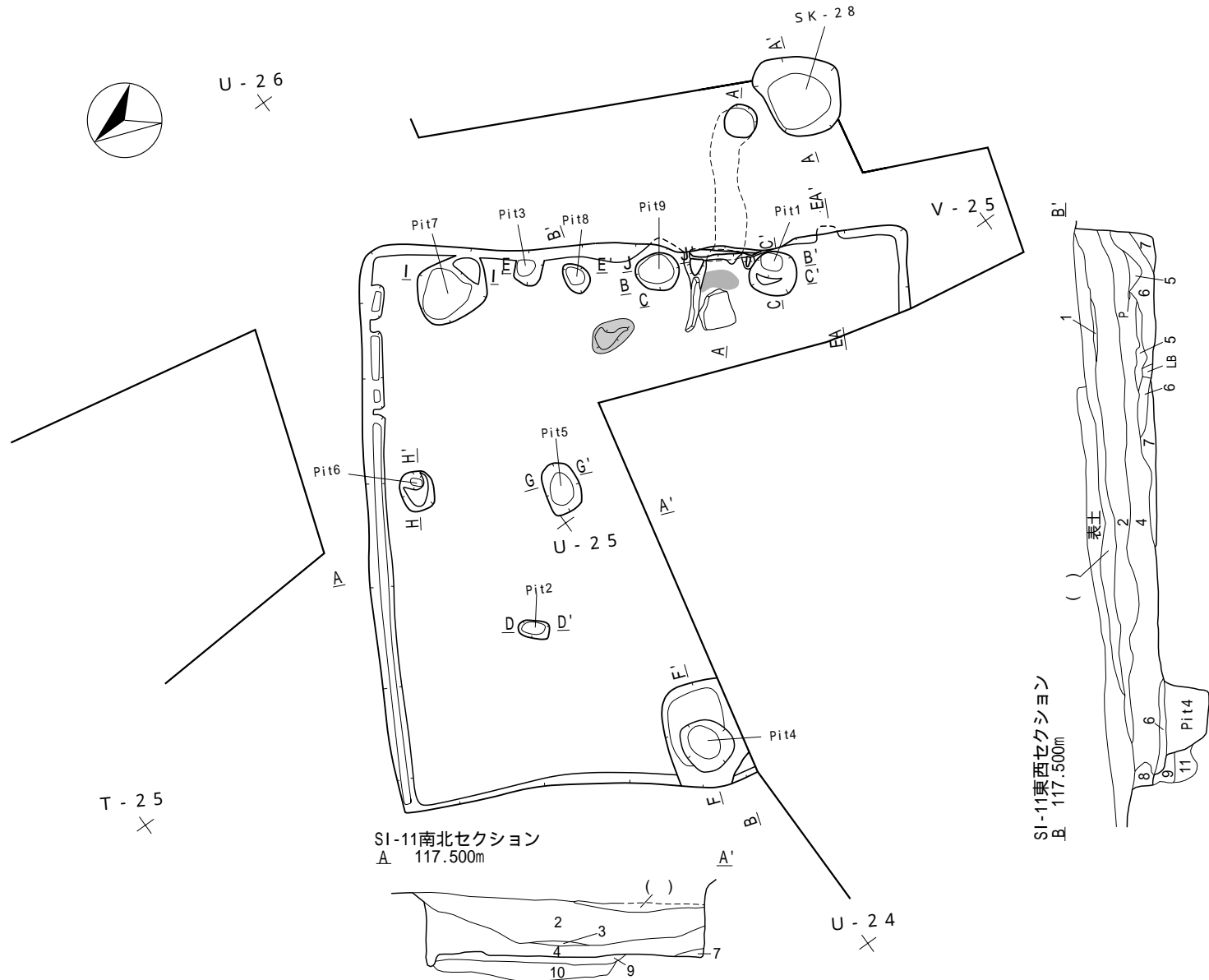
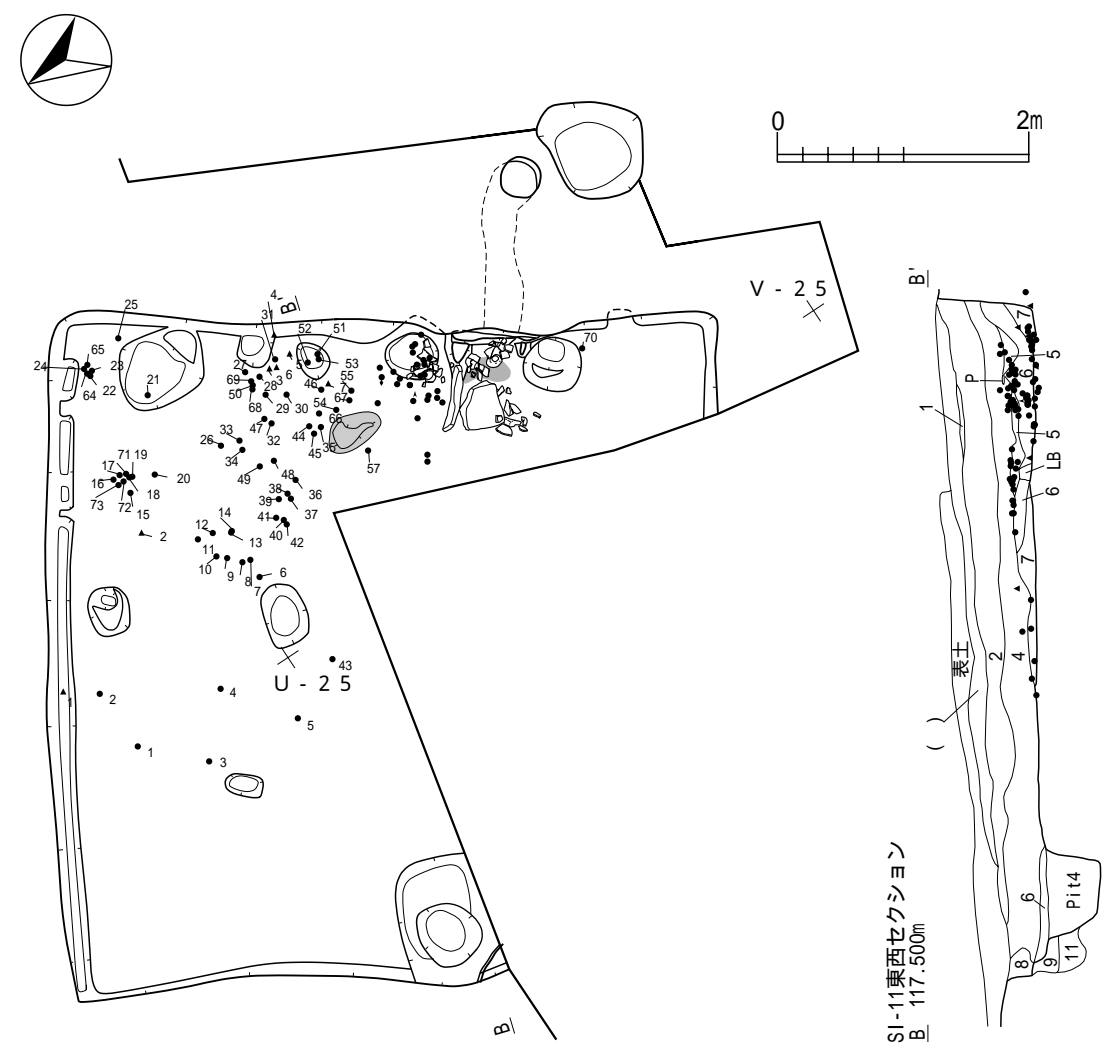


図33 S I - 10



SI-11 Pit 1	SI-11 Pit 4
第1層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性・湿性なし、しまり弱、ロームブロック(30mm)少量混入	第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 パミス・ロームの混合層、粘性ややあり、湿性あり、しまり弱、ロームブロック・パミスブロック(20-50mm)やや多量、小礫(10-15mm)少量、炭化物(2mm)極微量混入
第2層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性・湿性なし、しまり弱、ローム粒(2-5mm)微量混入	第2層 10YR4/4 褐色土 パミス・ロームの混合層、粘性・しまりなし、湿性あり、ロームブロック・パミスブロック(20-50mm)中量、ローム粒(5-10mm)微量混入
第3層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性・湿性なし、しまり弱	第3層 10YR4/6 褐色土 ローム質、粘性・湿性あり・しまり弱
第4層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性・湿性・しまりなし、ローム粒(1mm)中量、炭化粒(2mm)極微量混入	第4層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性・しまりなし、湿性あり、ローム粒(1-2mm)少量混入
第5層 7.5YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性・湿性・しまりなし、ロームブロック(50mm)・炭化粒(2mm)少量混入	SI-11 Pit 5
第6層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 シルト質、粘性・湿性なし、しまり弱、ローム粒(2-5mm)少量、焼土粒(1mm)極微量混入	第1層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ロームブロック(20mm)中量、ローム粒(2mm)少量、焼土粒(5mm)微量混入
SI-11 Pit 2	第2層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性・しまりあり、ロームブロック(20mm)少量、炭化粒(2-5mm)中量混入
第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、炭化粒(2mm)極微量混入	SI-11 Pit 6
第2層 10YR4/6 褐色土 シルト質、粘性・しまりなし、湿性あり、ローム粒(1-2mm)多量混入	第1層 10YR4/4 褐色土 ローム質、粘性・湿性・しまりあり、小礫(5mm)少量混入
第3層 10YR2/2黒暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合層、ローム混じりシルト質・粘性・しまりなし、湿性あり	第2層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、ローム粒(5-10mm)・パミス粒(5mm)少量混入
第4層 10YR4/4 褐色土 ローム質、粘性・湿性あり、しまりなし	SI-11 Pit 7
SI-11 Pit 3・8	第1層 10YR2/1 黒色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり
Pit 3	第2層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(2-5mm)少量、ロームブロック(20-30mm)・炭化粒(2-3mm)微量混入
第1層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性・しまりなし、湿性あり、炭化粒(2mm)・焼土粒(2mm)極微量混入	第3層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり中、ロームブロック(30-80mm)多量混入
第2層 10YR3/2 黒褐色土 シルト質、粘性・しまりなし、湿性あり	第4層 7.5YR4/4 褐色土 ローム質、粘性・湿性あり、しまり弱、炭化粒(5mm)微量混入(土器包含層)
Pit 8	SI-11 Pit 9
第1層 10YR4/4 褐色土 ローム質、粘性・湿性・しまりあり、焼土ブロック(50mm)微量混入	第1層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、炭化粒・焼土粒(5mm)微量混入



SI-11	層	土質	特徴
第1層	10YR2/2	黒褐色土	シルト質、粘性無、湿性あり、しまりややあり、B・Tm火山灰少量混入
第2層	10YR2/2	暗褐色土	ローム混じりシルト質、粘性無、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(2-10mm)少量、ロームブロック(15-20mm)微量、パミス(5mm)微量、炭化粒(5-10mm)微量混入
第3層	10YR3/2	黒褐色土	シルト質、粘性無、湿性あり、しまりややあり、パミス(5mm)微量、炭化粒(2-5mm)極微量混入
第4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ローム混じりシルト質、粘性・しまりややあり、湿性あり、ローム粒(2-10mm)・ロームブロック(15-50mm)・パミス(5mm)中量、炭化物(5-10mm)少量混入
第5層	10YR3/3	暗褐色土	シルト質、粘性無、湿性あり、しまり弱、ローム粒(2-5mm)・ロームブロック(15-20mm)少量、炭化粒(2-10mm)中量、焼土粒(5mm)極微量混入、(カマド部材片焼土混じり粘土)
第6層	10YR3/4	暗褐色土	シルト質、粘性無、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(2-5mm)・ロームブロック(15-20mm)少量、炭化物(2-10mm)微量混入
第7層	10YR3/3	暗褐色土	シルト質、粘性無、湿性あり、しまりややあり、ロームブロック(40mm)微量混入
第8層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ロームとパミスの混合層、粘性ややあり、湿性あり、しまり弱、ロームブロック・パミスブロック(20-40mm)多量混入
第9層	10YR4/6	褐色土	ローム質、粘性・湿性・しまりあり(貼床)
第10層	10YR4/6褐色土	ロームと10YR5/6黄褐色土の混合層	(掘方)
第11層	10YR3/4暗褐色土	ロームと10YR5/6黄褐色土の混合層	(掘方)

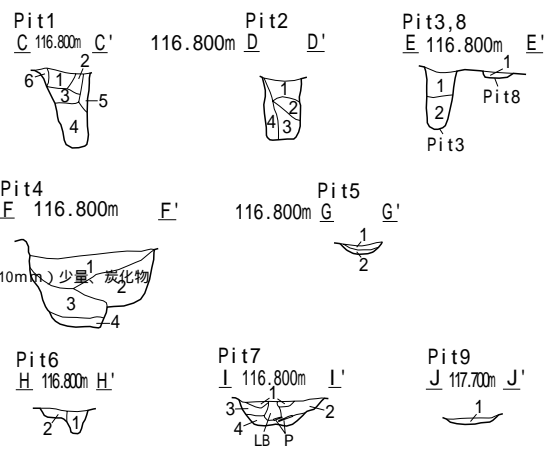
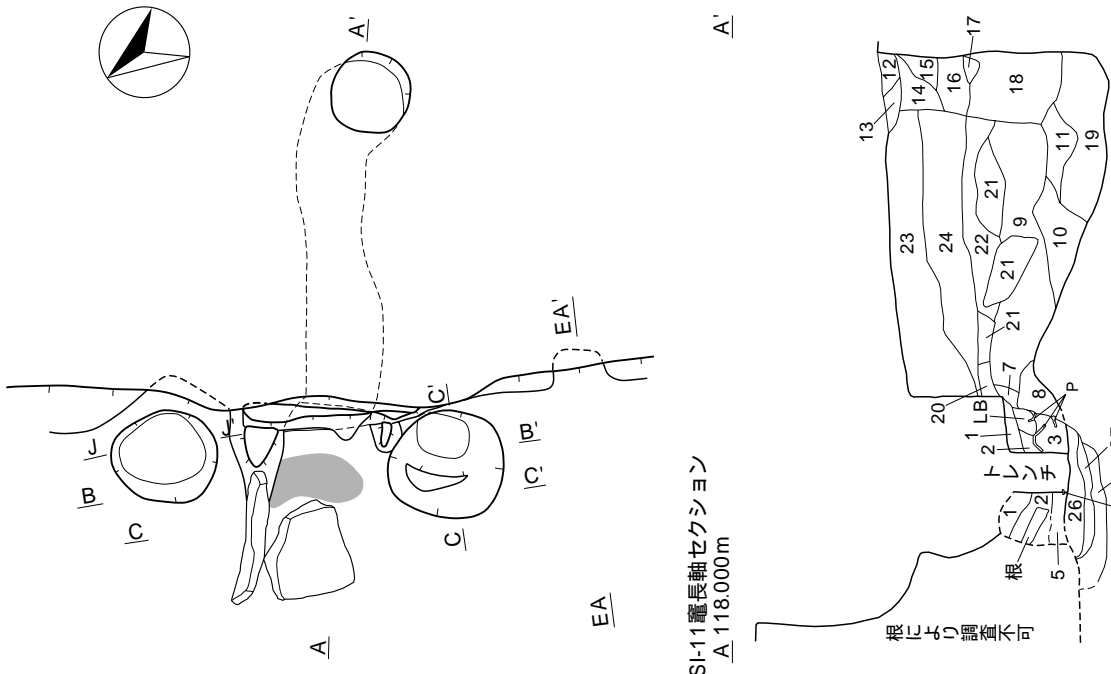
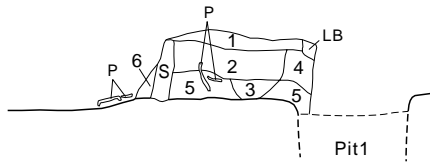


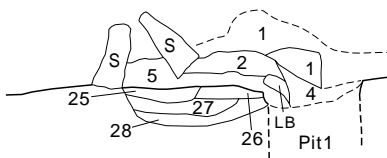
図34 SI-11



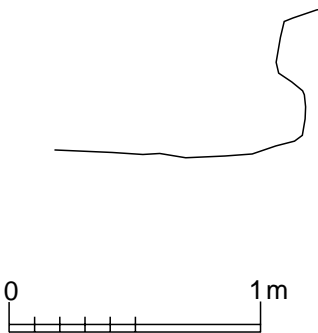
SI-11竈短軸セクション2
B 117.200m



SI-11竈短軸セクション1
C 117.200m



SI-11東南隅壁エレベーション
EA 117.500m

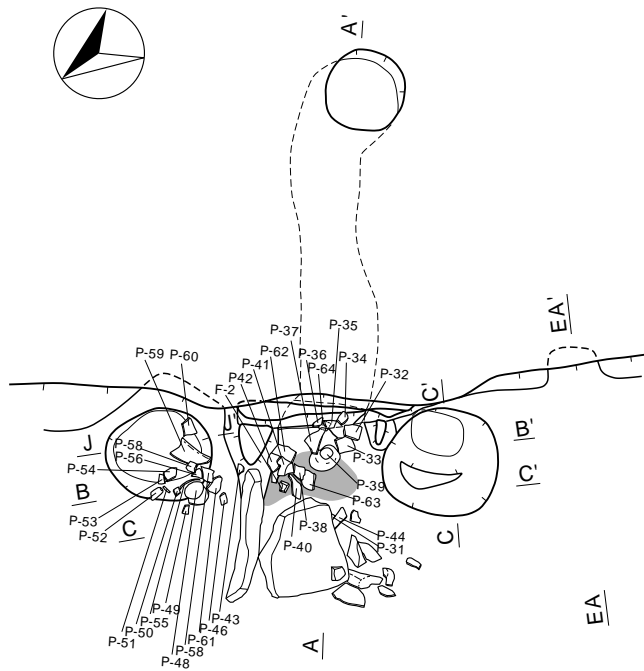


SI-11竈

第1層	10YR3/4	暗褐色土	シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、局所的に褐色土(10YR4/6)をブロック状に多量混入 ローム粒(5-10mm)中量、焼土粒(2-5mm)微量混入
第2層	10YR3/4	暗褐色土	シルト質、粘性・しまりなし、湿性あり、焼土粒(2mm)微量混入
第3層	5YR3/6	暗赤褐色土	シルト質、粘性なし、湿性・しまり弱、焼土ブロック(15-30mm)やや多量混入
第4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	シルト質、粘性なし、湿性・しまり弱、ローム粒(5-10mm)少量混入
第5層	5YR4/4	にぶい赤褐色土	シルト質、粘性なし、湿性弱、しまりややあり、焼土粒(2mm)多量、焼土ブロック(20-50mm)中量混入
第6層	10YR5/6	黄褐色土	バミス混じりローム質、粘性・湿性・しまりあり、小礫少量、焼土多量混入
第7層	10YR4/4	褐色土	ローム質、粘性・しまりあり、湿性ややあり、焼土粒(2-5mm)微量混入
第8層	5YR3/6	暗赤褐色土	シルト質、粘性なし、湿性ややあり、しまり弱、焼土ブロック(50-70mm)中量混入
第9層	7.5YR3/4	暗褐色土	シルト質、粘性・しまりなし、湿性あり、焼土ブロック(50-100mm)少量混入
第10層	7.5YR3/4	暗褐色土	シルト質、粘性・しまりなし、湿性あり、ロームブロック(50-150mm)中量混入
第11層	7.5YR4/6	褐色土	ローム混じりシルト質、粘性ややあり、湿性あり、しまりなし、ロームブロック・焼土ブロック(20-70mm)中量混入
第12層	7.5YR4/4	褐色土	シルト混じりローム質、粘性ややあり、湿性あり、しまり弱
第13層	7.5YR4/3	褐色土	シルト混じりローム質、粘性ややあり、湿性あり、しまり弱、炭化粒(2mm)極微量混入
第14層	5YR4/4	にぶい赤褐色土	シルト混じりローム質、粘性・湿性ややあり、しまり弱、炭化物(20mm)極微量混入
第15層	5YR4/6	暗赤褐色土	シルト混じりローム質、粘性・しまり中、湿性あり
第16層	7.5YR3/3	暗褐色土	シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、炭化粒(2mm)極微量、焼土粒(1-2mm)微量混入
第17層	7.5YR4/3	褐色土	シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ロームブロック(15-20mm)少量混入
第18層	5YR4/3	にぶい赤褐色土	ローム混じりシルト質、粘性ややあり、湿性あり、しまりなし、ローム粒・焼土粒(5-10mm)多量、ロームブロック・焼土ブロック(20-50mm)中量混入
第19層	7.5YR2/3	極暗褐色土	シルト質、粘性・しまりなし、湿性あり、ローム粒・焼土粒(5mm)中量混入
第20層	5YR4/8	赤褐色土	ローム質、粘性弱、湿性・しまりややあり
第21層	7.5YR5/8	明褐色土	ローム質、粘性・湿性あり、しまり弱(崩落地山)
第22層	10YR5/6	黄褐色土	ローム質、粘性・湿性あり、しまりややあり
第23層	10YR5/6	黄褐色土	バミス質、粘性弱、湿性・しまりややあり(月見野火山灰)
第24層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	ローム質、粘性・湿性・しまりあり(大谷火山灰)
第25層	7.5YR4/4	褐色土	ローム質、粘性・湿性・しまりあり、焼土粒(1-5mm)中量混入
第26層	5YR4/8	赤褐色土	硬化したローム質、粘性・湿性なし、しまりあり(硬化している火床面)
第27層	2.5YR4/6	赤褐色土	ローム質、粘性弱、湿性ややあり、しまりなし(焼土層)
第28層	5YR4/6	赤褐色土	ローム質、粘性・湿性あり、しまりややあり(被熱層)

図35 SI-11

S I - 1 1 竈遺物出土状況



S I - 1 1 竈脇出土遺物分布図

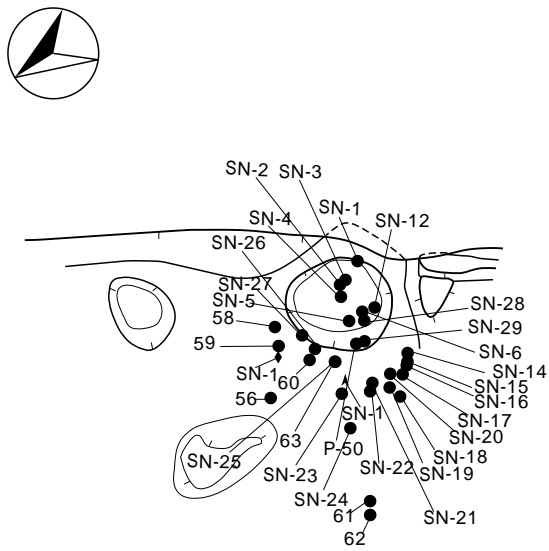


図36 S I - 11

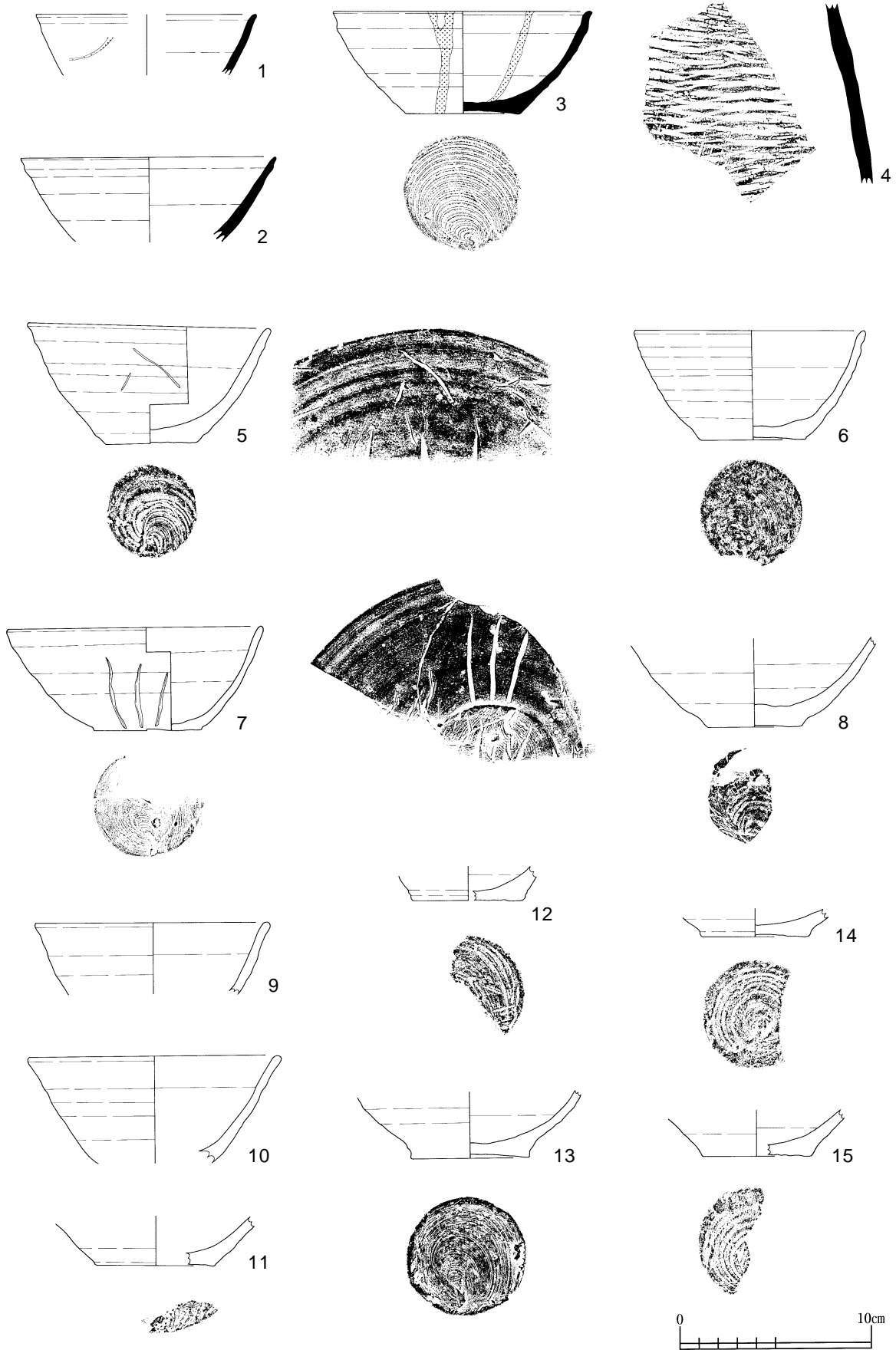


图37 S I - 11

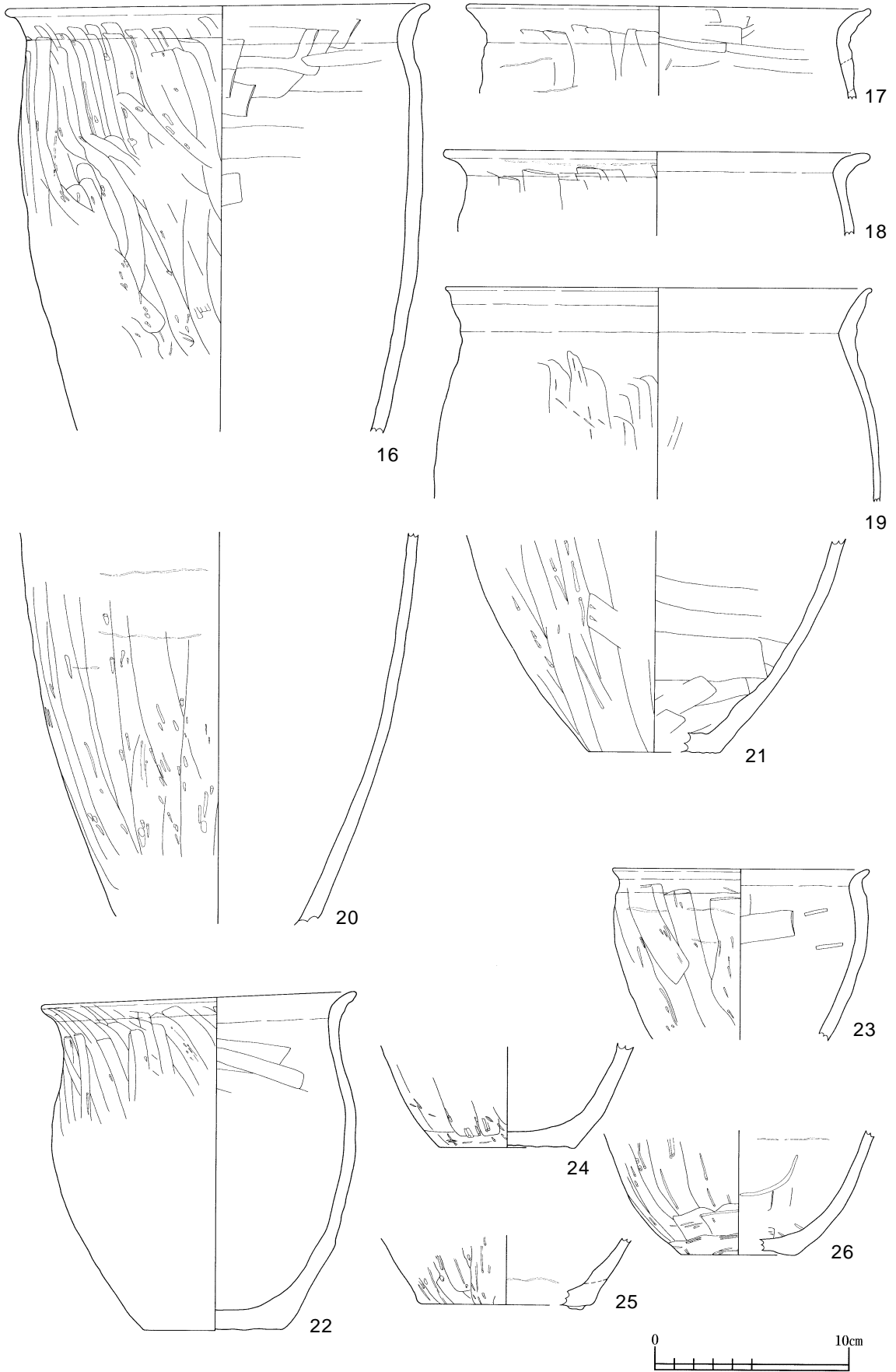


図38 S I - 11

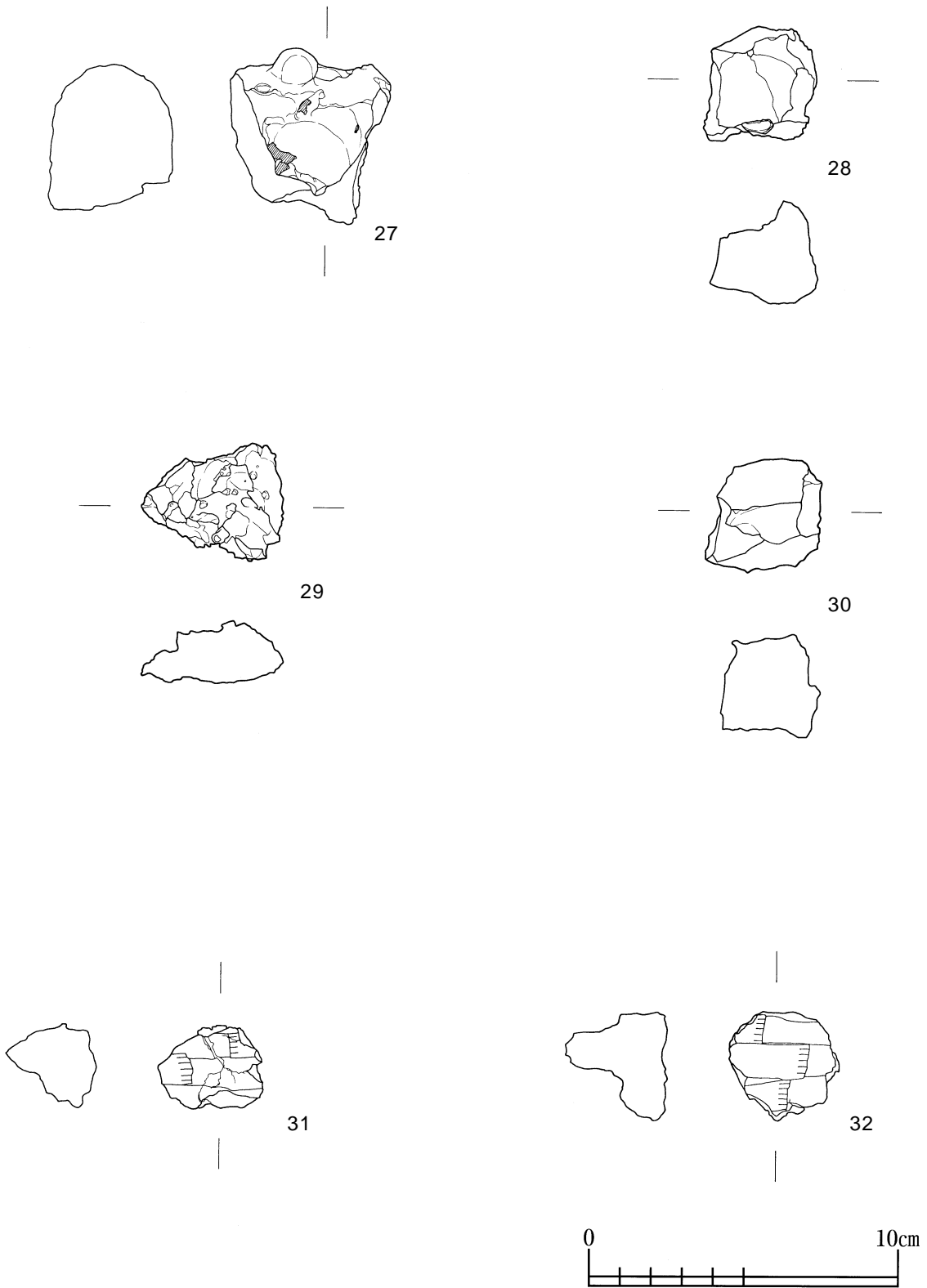
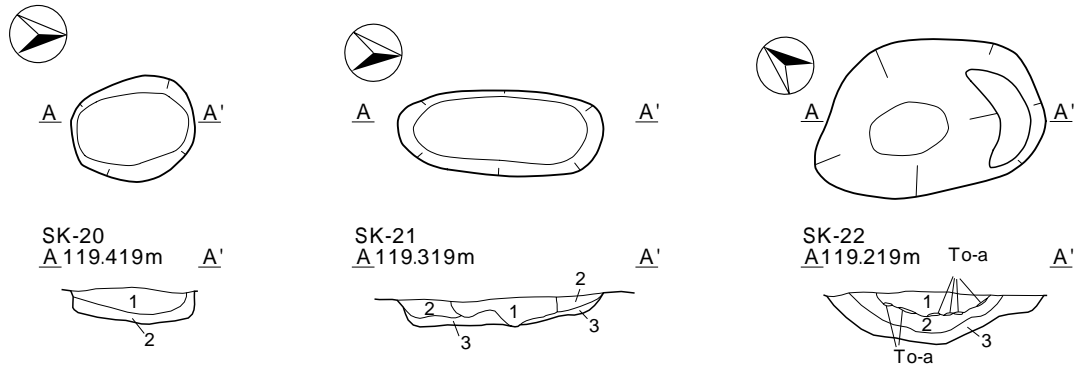
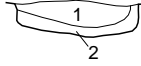


図39 S I - 11



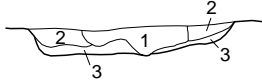
SK-20

A 119.419m A'



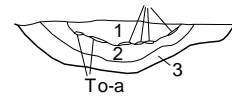
SK-21

A 119.319m A'



SK-22

A 119.219m To-a A'



SK-20

第1層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性ややあり、湿性・しまりあり、ロームブロック(10~25mm)中量、炭化粒(1~5mm)少量、小礫(1~3mm)極微量混入

第2層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性あり、湿性强、しまりややあり、ローム粒(1~5mm)少量、炭化粒(1~2mm)微量混入

SK-21

第1層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性强、しまりあり、ローム粒(1~5mm)少量、炭化粒(1~3mm)微量、小礫(10mm)極微量混入

第2層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性あり、湿性强、しまりややあり、ローム粒(1~3mm)中量、小礫(1~2mm)少量混入

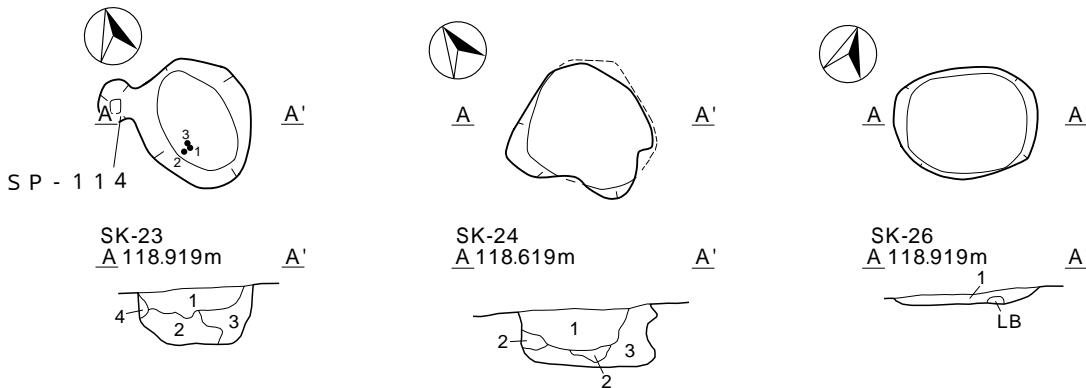
第3層 10YR4/4 褐色土 ローム質、粘性・湿性・しまり強、小礫(1~5mm)極微量混入

SK-22

第1層 10YR2/1 黒色土 シルト質、粘性なし、湿性・しまりあり、炭化粒(1~5mm)中量、小礫(1~2mm)微量、(2~5mm)少量、層利面にTo-a火山灰が帯状に混入

第2層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性・しまり強、ローム粒(1~10mm)・炭化粒(1~3mm)少量、小礫(5~10mm)中量混入

第3層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性・しまり強、ローム粒(1~7mm)少量、炭化粒(1~5mm)・小礫(1mm)微量、(3mm)極微量混入



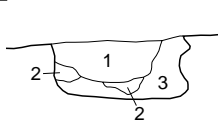
SK-23

A 118.919m A'



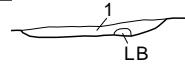
SK-24

A 118.619m A'



SK-26

A 118.919m A'



SK-23

第1層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質、粘性あり、湿性・しまり強、ロームブロック(10~20mm)・炭化粒(1~3mm)微量、小礫(1~3mm)少量混入

第2層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性强、しまり強(1層より硬い)、ロームブロック(30mm)極微量混入、小礫(1~3mm)少量、炭化粒(5mm)微量混入

第3層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性・しまりあり、湿性强、ロームブロック(50mm)極微量、小礫(1~3mm)少量混入

第4層 10YR4/4褐色土と10YR3/3暗褐色土との混合層 シルトとロームの混合土 粘性・湿性强、しまりあり、パミス(2~3mm)微量混入

SK-24

第1層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性・湿性あり、しまりややあり、ロームブロック(15mm)少量、炭化粒(1~2mm)微量、褐色土(10YR4/1)層中央に極微量混入

第2層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性ややあり、湿性・しまりあり、炭化粒(1~2mm)微量、褐色土(10YR5/8)層全体に中量混入

第3層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(5~10mm)中量、炭化粒(1~3mm)・パミス(1mm)少量、(2mm程度)微量混入

SK-26

第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性・湿性あり、しまりややあり、ローム粒(1~3mm)全体に中量、炭化粒(1~3mm)微量混入

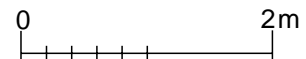


図40 SK

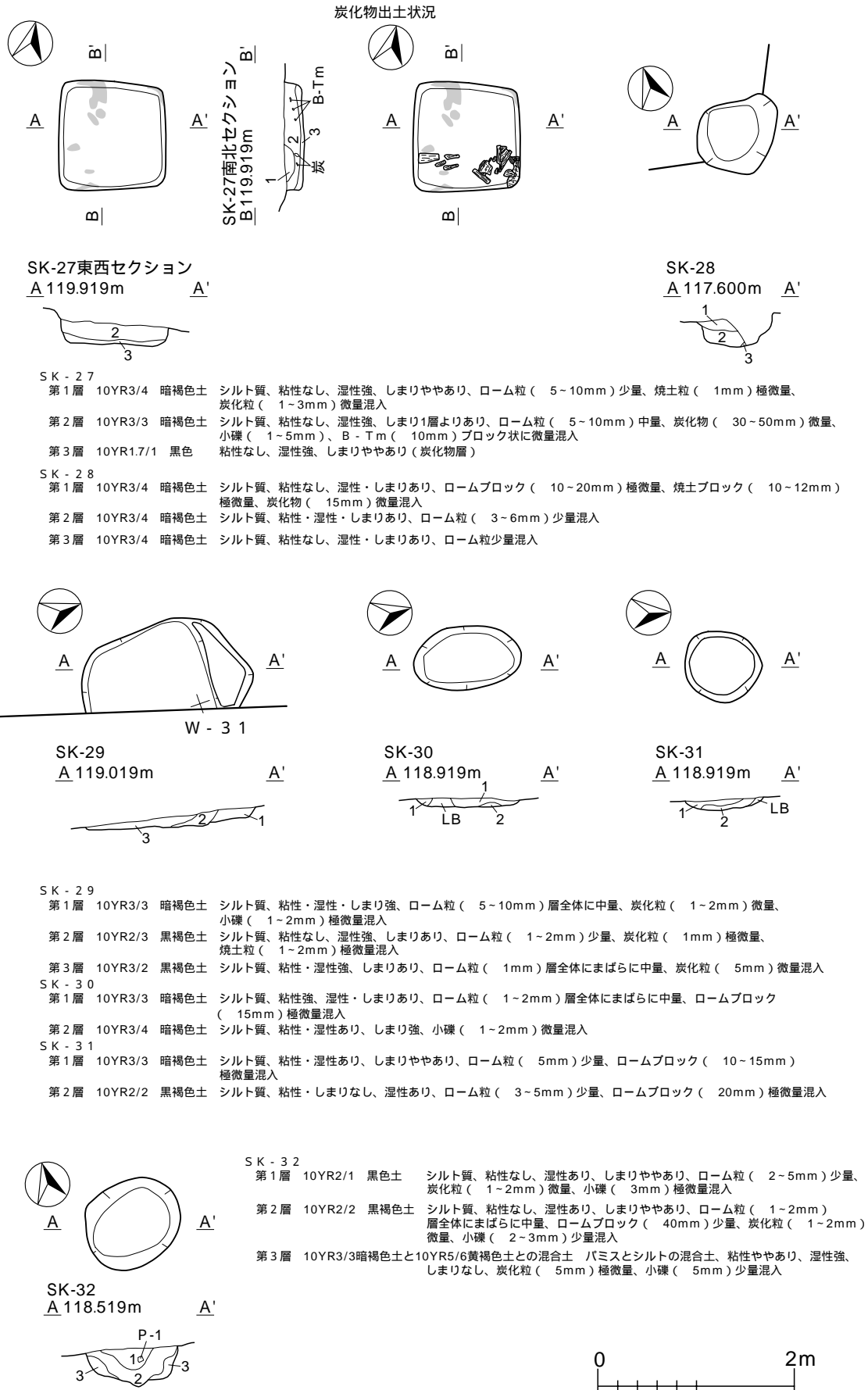
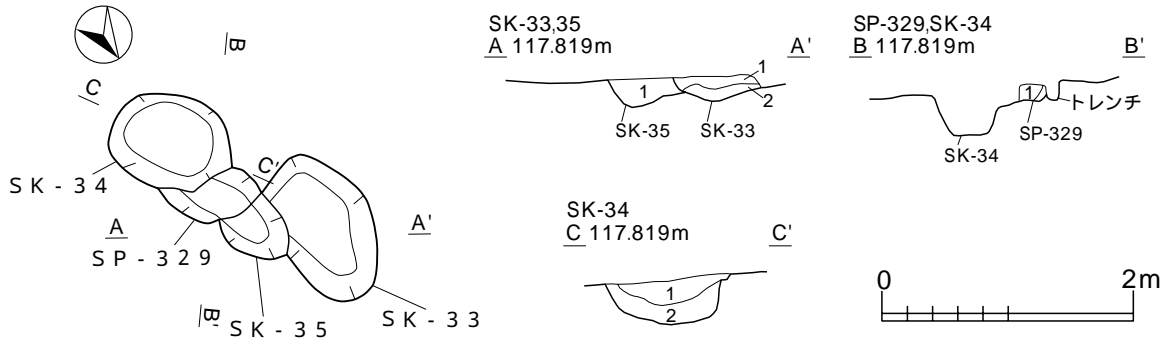


図41 SK



- SK - 33
 第1層 7.5YR4/4 褐色土 ローム質、粘性あり、湿性ややあり、しまり強、焼土粒 (2~15mm) 中量、炭化粒 (1~5mm) 微量、小礫 (2mm) 微量混入
 第2層 7.5YR4/6 褐色土 ローム質、粘性あり、湿性あり、しまり強、ローム粒 (5~10mm) 少量、焼土ブロック (10~20mm) 少量、パミス (1~2mm) 極微量混入
- SK - 34
 第1層 10YR3/2 黒褐色土 シルト質、粘性・湿性・しまりあり、ローム粒 (1~5mm) 少量、炭化粒 (3mm) 微量、パミス (5mm) 微量混入
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム質、粘性強、湿性あり、しまりやや強、ロームブロック (10~15mm) 全体に少量、炭化粒 (5mm) 極微量、パミス (2~3mm) 少量混入
- SK - 35
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性・しまり強、湿性やや強、炭化粒 (1~3mm) 微量混入
- SP - 329
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性・湿性・しまり強、根により一部攪乱、ローム粒 (1~5mm) 少量、炭化粒 (5mm) 極微量、焼土粒 (10mm) 極微量混入

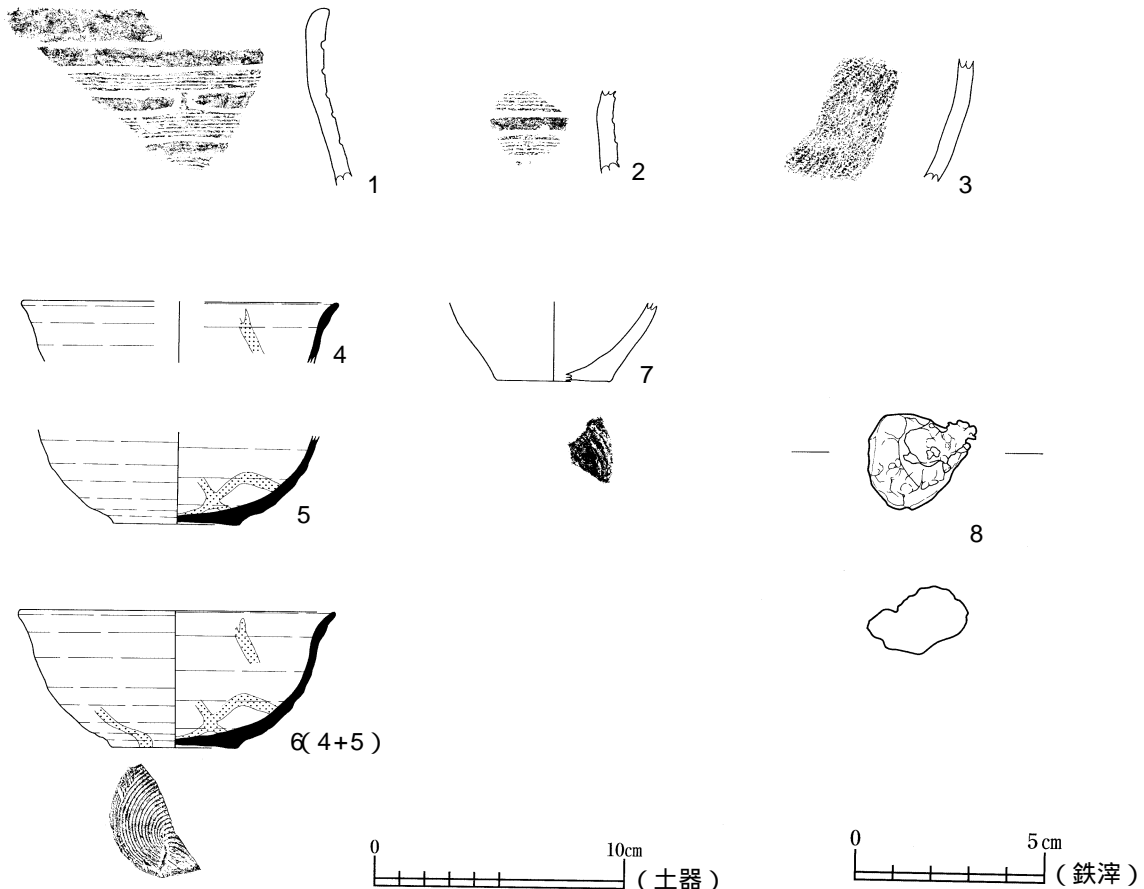
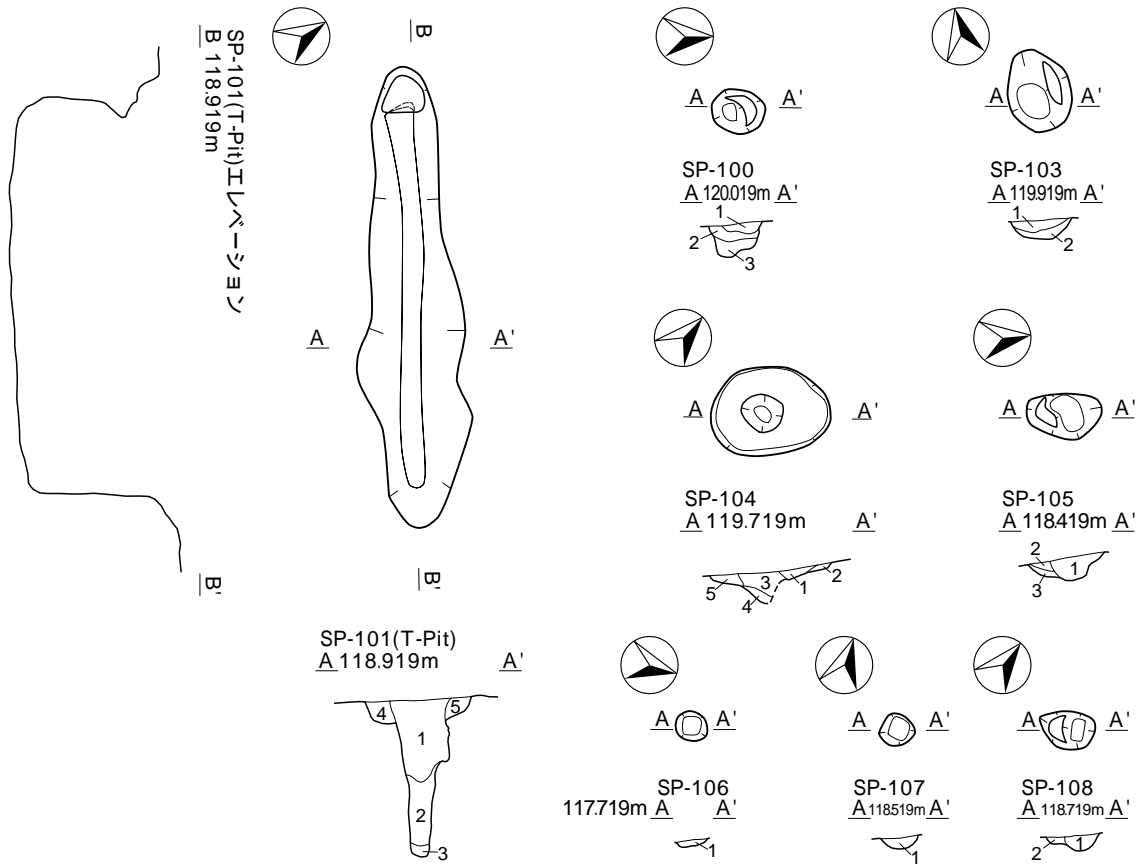


図42 SK , SP



SP-100

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、ローム粒(5-10mm)中量混入
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、ローム粒(5-10mm)少量混入
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、ロームブロック(15-20mm)少量混入

SP-101(T-Pit)

- 第1層 10YR2/1 黒色土 シルト質、粘性なし、湿性ややあり、しまりあり、ローム粒(1-5mm)層全体に少量、ロームブロック(20-50mm)微量混入
- 第2層 10YR4/4 褐色土 ローム質、粘性・湿性あり、しまりややあり、黒色土(10YR2/1)ブロック(55mm)極微量混入
- 第3層 10YR1.7/1 黒色土 シルト質、粘性ややあり、湿性あり、しまりなし、混人物なし
- 第4層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒(5-10mm)中量混入
- 第5層 10YR3/4 暗褐色土 ローム質、粘性・湿性あり、しまりややあり、ローム粒(1-3mm)層全体に中量、ロームブロック(10mm)少量、小礫(2mm)微量混入

SP-103

- 第1層 10YR1.7/1 黒色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、炭化粒(1mm)微量混入
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム混じりのシルト、粘性ややあり、湿性あり、しまり弱、黒色土少量混入

SP-104

- 第1層 10YR3/2 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ロームブロック(10-15mm)少量混入
- 第2層 10YR4/6 褐色土 ローム質、粘性・湿性・しまりあり
- 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム質、粘性・湿性あり、しまり強、炭化粒(2mm)微量混入
- 第4層 10YR4/4 褐色土 ローム質、粘性・湿性あり、しまり強、ロームブロック中量混入
- 第5層 10YR5/6 黄褐色土 ローム質、粘性・湿性・しまりあり、暗褐色土中量混入

SP-105

- 第1層 7.5YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ロームブロック(20-30mm)少量混入
- 第2層 7.5YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱
- 第3層 7.5YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性・しまりなし、湿性あり、ローム粒(5-10mm)少量混入

SP-106

- 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、焼土粒(2-5mm)中量混入

SP-107

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒(5mm)微量混入

SP-108

- 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 シルト質、粘性・しまりなし、湿性あり、ローム粒(5mm)少量、炭化粒(2mm)微量混入

- 第2層 10YR5/6 黄褐色土 ローム質、粘性・湿性あり、しまりややあり、暗褐色土混入

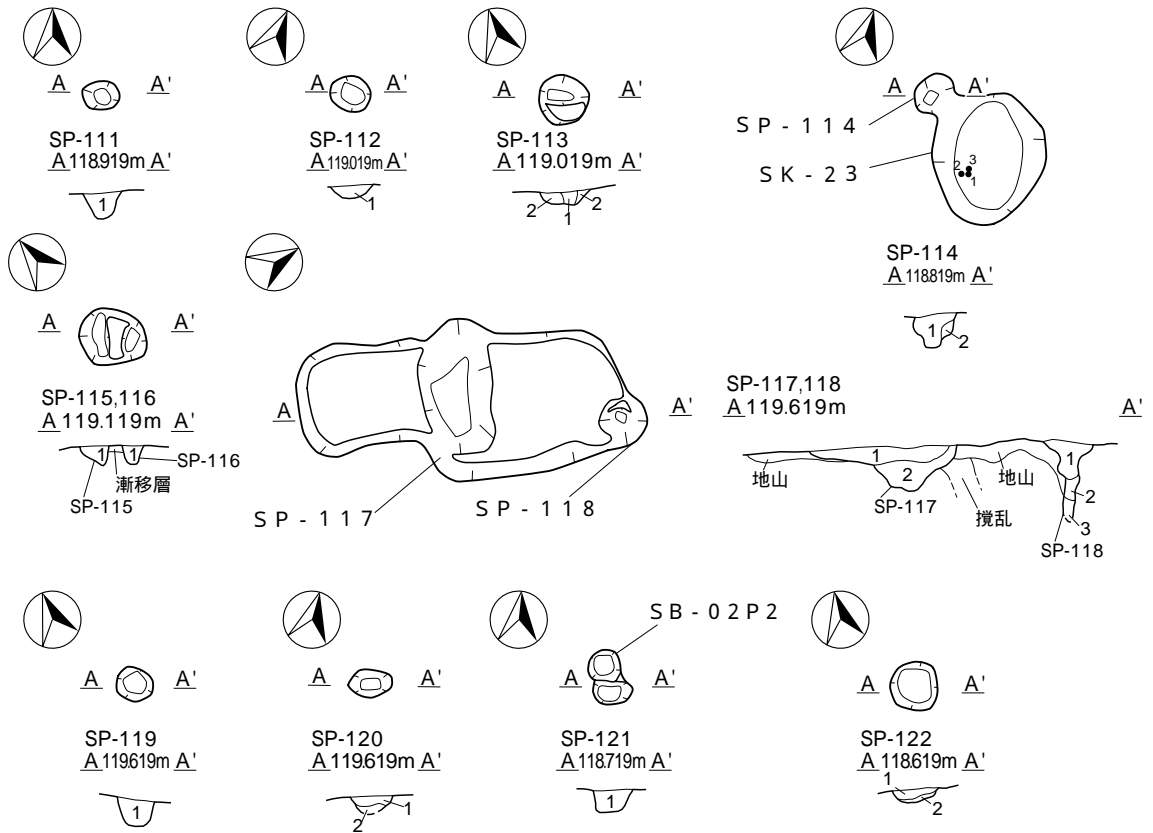
SP-109

- 第1層 10YR3/2 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、小礫(10mm)少量混入

SP-110

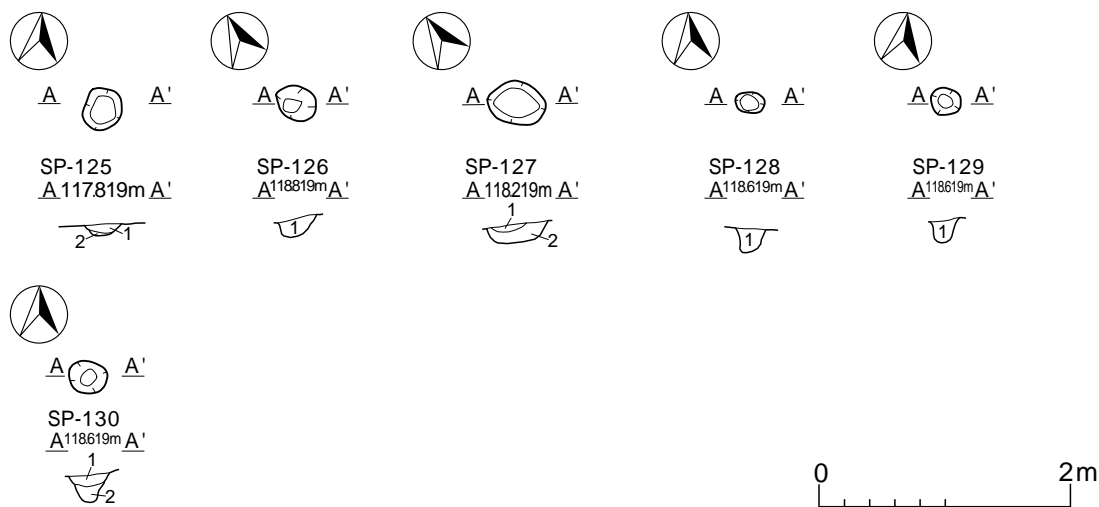
- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(2mm)少量混入

図43 SP

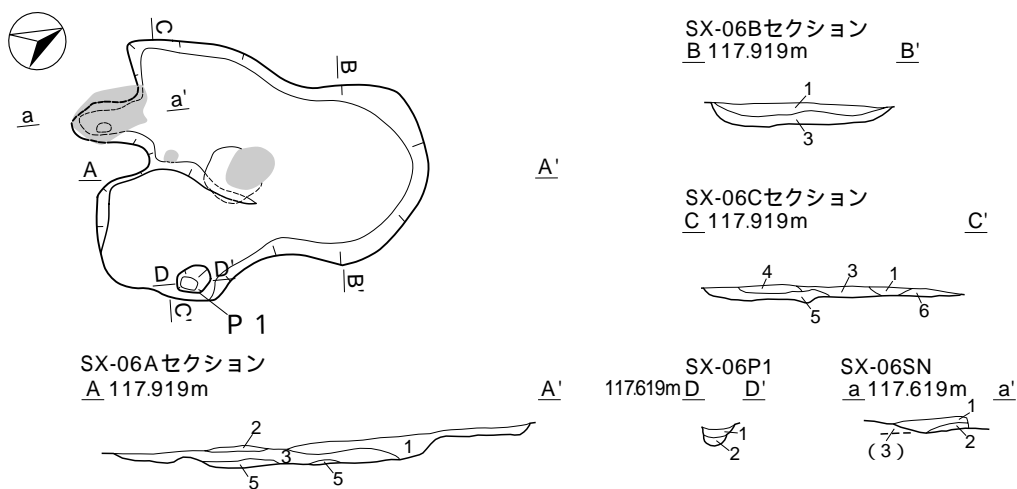


- SP-111
第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、炭化粒(1~5mm)少量混入
- SP-112
第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、ロームブロック(10~50mm)少量、炭化粒(2mm)微量混入
- SP-113
第1層 10YR3/2 黒褐色土 シルト質、粘性・しまりなし、湿性ややあり、ローム粒(5mm)微量混入
第2層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性・しまりややあり、ローム粒(5mm)少量混入
- SP-114
第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(5mm)中量混入
第2層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性・しまりあり、ロームブロック(30mm)多量、炭化粒(1mm)微量混入
- SP-115
第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性・湿性あり、しまり強、ローム粒(5~10mm)多量、パミス(5mm)極微量混入
- SP-116
第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘性強、湿性あり、しまりややあり、黒色土(10YR2/1)少量、パミス(1~2mm)極微量混入
- SP-117
第1層 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(1~2mm)微量、パミス(3mm)極微量混入
第2層 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり、湿性強、しまりあり、ローム粒(1~2mm)・浮石(1~2mm)微量混入
- SP-118
第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘性・湿性あり、しまりややあり、ローム粒(1~5mm)ブロック状に少量、パミス(5mm)微量混入
第2層 10YR4/6 褐色土 粘性・しまり強、湿性あり、層全体がボロボロしている、混入物なし
第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性あり、湿性強、しまりなし、混入物なし
- SP-119
第1層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性あり、しまりややあり、炭化粒(5mm)・パミス(1mm)微量
- SP-120
第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし、湿性あり、しまり強、ロームブロック(50mm)微量、パミス(2mm)極微量混入
第2層 10YR4/6 褐色土 粘性・湿性あり、しまり強、混入物なし
- SP-121
第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、ロームブロック(10~50mm)中量、炭化粒(2mm)微量混入
- SP-122
第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(1~2mm)微量、パミス(1~2mm)極微量混入
第2層 10YR5/8 黄褐色土 粘性・湿性・しまりあり、パミス(1~3mm)少量混入
- SP-123
第1層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・湿性あり、しまりややあり、ローム粒(2mm)微量混入
第2層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、パミス(5~10mm)中量、黒色土(10YR2/1)微量(根による攪乱?)混入
- SP-124
第1層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・しまりややあり、湿性あり、ローム粒(2~5mm)微量、パミス(5mm)極微量混入
第2層 10YR5/8 黄褐色土 粘性・湿性・しまりあり、パミス(2~3mm)少量混入

図44 SP



- SP - 125
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり
 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり
- SP - 126
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(2~5mm)少量混入
- SP - 127
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性ややあり、しまり弱
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(5mm)微量混入
- SP - 128
 第1層 10YR3/2 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、ローム粒(5~10mm)少量混入
- SP - 129
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、ローム粒(5~10mm)中量混入
- SP - 130
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、炭化粒(2mm)微量混入
 第2層 10YR5/6 黄褐色土 ローム混じりのシルト、粘性ややあり、湿性あり、しまり弱



- SX - 06
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、湿性あり、しまり弱
 第2層 5YR4/6 赤褐色土 シルト質、湿性あり、しまり強、焼土ブロック(20mm)少量混入、面的に硬化している
 第3層 10YR3/3 暗褐色土 ローム混じりシルト、湿性あり、しまりややあり、焼土粒(2~5mm)・ローム粒(2~5mm)少量混入
 第4層 5YR4/4 にぶい赤褐色土 シルト質、湿性あり、しまりややあり、焼土ブロック(25~30mm)・焼土粒(5mm)多量混入
 第5層 7.5YR3/4 暗褐色土 シルト質、湿性・しまりあり、焼土粒(1~5mm)少量混入
- SX - 06P1
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりなし、ロームブロック(10~15mm)中量混入
- SX - 06SN
 第1層 5YR4/4 にぶい赤褐色土 ローム質、粘性・しまりややあり、湿性あり、焼土粒(2~5mm)多量混入
 第2層 5YR4/3 にぶい赤褐色土 ローム質、粘性弱、湿性あり、しまりややあり、焼土粒(5mm)中量混入
 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 シルト質、粘性なし、湿性ややあり、しまりなし、炭化粒(5mm)少量混入

図45 SP , SX

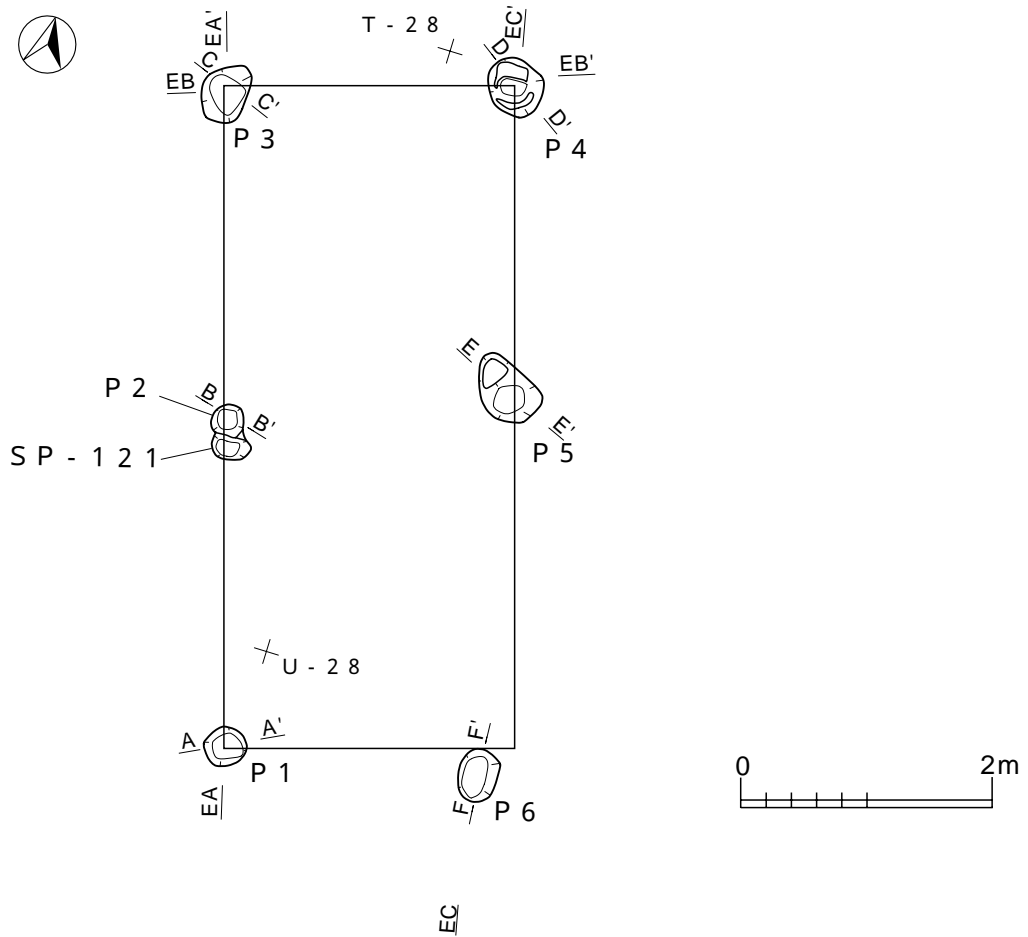
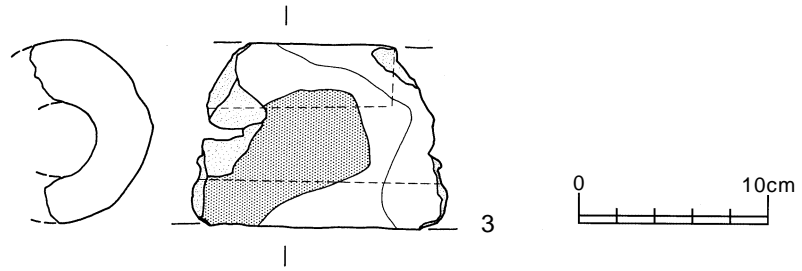
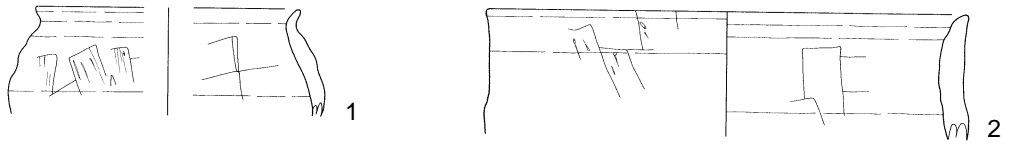
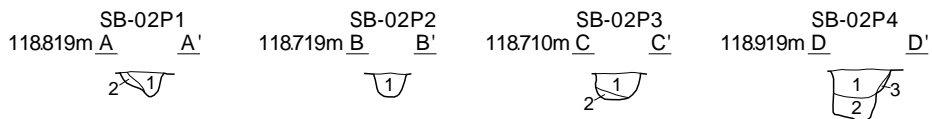
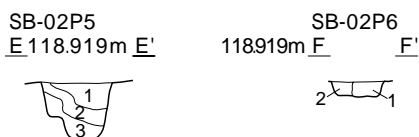


図46 SX , SB

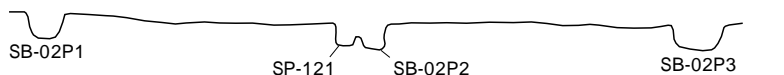


- SB-02P1
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(2~5mm)少量混入
 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ロームブロック(20mm)少量混入
- SB-02P2
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ロームブロック(10mm)少量混入
- SB-02P3
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、ローム粒(2~5mm)少量混入
 第2層 10YR3/2 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、ローム粒(2~5mm)中量混入
- SB-02P4
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、炭化粒(2mm)微量混入
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、パミス(2mm)微量混入
 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱

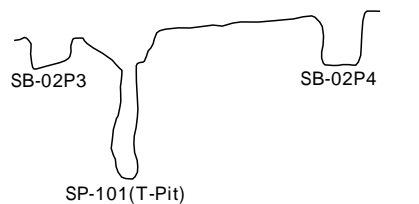


- SB-02P5
 第1層 10YR3/2 黒褐色土 シルト質、粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(5~10mm)微量、パミス(3mm)極微量混入
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性強、湿性やや強、しまりややあり、ローム粒(1~2mm)層全体に少量、炭化粒(1~3mm)微量混入
 第3層 10YR4/4 褐色土 ローム質、粘性あり、湿性強、しまり第2層に比べてあり、ローム粒(5~6mm)少量混入
- SB-02P6
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり
 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、ロームブロック(30mm)多量混入

SB-02Aエレベーション
 EA 118.919m



SB-02Bエレベーション
 EB 118.919m



SB-02Cエレベーション
 EC 118.919m



図47 SB

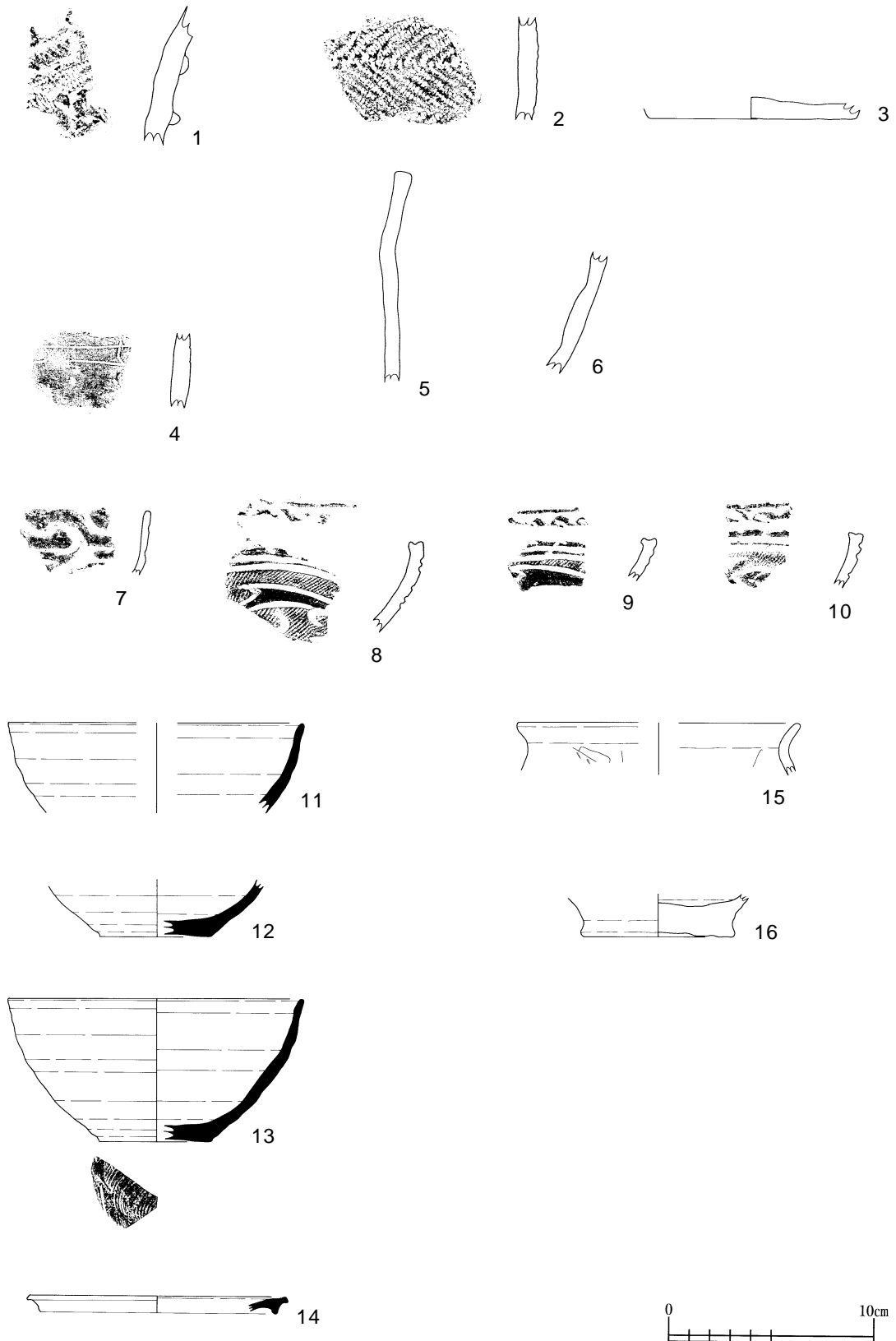


图48 遺構外出土遺物

表7 雲谷山吹（5）遺跡竪穴建物跡観察表

図版番号	遺構番号	グリッド	重複	規模 (cm)			面積 (㎡)	平面 プラン	断面 プラン	柱穴 配置	ピット	土坑	壁溝	その他	堆積 土層	堆積状況	火山灰
				長軸	短軸	深さ											
図26-33	SI-10	V・W-27・28	(SX-06)	645	630	50	38.0	d	a	b	32	-	b	-	6	人為廃棄有	B-Tm
図34-39	SI-11	T・U-24・25		[545]	[526]	62	[15.9]	(a)	[a]	b	6	-	e	-	11	人為廃棄有	B-Tm

表8 雲谷山吹（5）遺跡土坑観察表

図版番号	遺構番号	グリッド	重 複	規模 (cm)			平面形	断面形	特記事項	備 考
				長軸	短軸	深さ				
図40	SK-20	S-29		98	83	28	f	a		
図40	SK-21	T-29		154	67	21	g	c		
図40	SK-22	T-28・29		190	123	41	e	e		To-a
図40	SK-23	T-28・29	SK-23<SP-114	106	90	45	e	d+a		縄文土器出土
図40	SK-24	S-27・28		117	110	50	e	f	フラスコ	底面106×103cm
	SK-25	欠番								
図40	SK-26	T-28		114	87	12	f	d		
図41	SK-27	T-30		111	109	35	a	a	製炭	B-Tm
図41	SK-28	U-25		90	78	35	e	e		
図41	SK-29	V・W-30・31		180	-	15	[e]	d		
図41	SK-30	U-28		110	66	7	g	d		
図41	SK-31	U-28		77	73	11	h	h		
図41	SK-32	T-26		102	87	40	f	j		縄文土器出土
図42	SK-33	W-28	SK-33>SK-35	122	76	19	e	d		
図42	SK-34	X-28	SK-34>SP-329	101	76	35	f	e		
図42	SK-35	W-28	SP-329<SK-35<SK-33	61	[47]	24	[e]	[a]		

表9 雲谷山吹（5）遺跡ピット観察表

図版番号	遺構番号	グリッド	重 複	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備 考
図43	SP-100	S・T-30		42	35	26	e	e	
図43	SP-101	T-27・28		364	80	124	溝状	溝状	TPit (溝状土坑)
	SP-102	欠番							SB-02P5に変更
図43	SP-103	T-31		64	50	15	e	d	
図43	SP-104	T-30		95	70	11	f	j	中央部Pit = 33×30×20cm
図43	SP-105	W-29		60	36	20	e	e	
図43	SP-106	W-27		27	25	5	h	d	
図43	SP-107	V-27		28	24	10	e	h	
図43	SP-108	U-28		44	30	12	e	e	
図43	SP-109	U-28		48	37	5	e	d	
図43	SP-110	T-28		29	29	21	c	a	
図44	SP-111	U-28		29	22	20	f	a+b	
図44	SP-112	T-28		33	28	9	f	d	
図44	SP-113	T-28		40	38	9	h	d	
図44	SP-114	T-27	SP-114>SK-23	35	28	28	f	j	
図44	SP-115	T-28・29		45	22	14	e	g	
図44	SP-116	T-29		30	15	13	f	a	
図44	SP-117	T-29		120	105	33	e	e	
図44	SP-118	T-29・30		40	36	41	f	g	
図44	SP-119	S-29		27	27	24	c	a	
図44	SP-120	S-29		36	22	16	g	h	
図44	SP-121	T-27	SP-121>SB-02P2	32	21	17	e	a	
図44	SP-122	R-27		37	37	11	c	d	
図44	SP-123	R-27		23	18	9	e	a	
図44	SP-124	R-27		27	23	6	f	d	
図45	SP-125	S-26		34	29	8	e	d	
図45	SP-126	T-26		32	25	14	f	a+d	
図45	SP-127	S・T-26		45	35	15	e	a+d	
図45	SP-128	T-27		23	16	21	g	a	
図45	SP-129	T-27		21	15	19	c	a	
図45	SP-130	T-27		32	25	22	f	b	
図42	SP-329	W-28	SP-329<SK-34・35	-	68	15	x	[d]	土師器出土

表10 雲谷山吹（5）遺跡炉跡観察表

図版番号	遺構名	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備 考
図45・46	SX-06	W・X-27・28	260	210	20	SN = 38×55×10cm

表11 雲谷山吹(5)遺跡掘立柱建物跡観察表

図版番号	遺構名	ビット番号	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
図46・47	SB-02	1×2間、桁行525cm、梁行230cm、主軸：N-16' - W					
		P1	U-27・28	34	30	17	
		P2	T-27	26	[22]	19	SP-121と重複
		P3	T-27	54	36	20	
		P4	T-28	46	45	40	
		P5	T-28	60	42	43	
		P6	U-28	41	31	13	

表12 雲谷山吹(5)遺跡縄文土器観察表

図	番号	器種	出土地点	層位	部位	色調	施文文様・調整等	時期	備考	整理番号
32	14	深鉢	SI-10P-41	3	口縁部	10YR4/2	波状口縁、沈線文	縄文後期	1391-1	D-65
32	15	深鉢	SI-10P-28	1	口縁部	10YR4/2	波状口縁、沈線文	縄文後期	1378-1	D-68
32	16	深鉢	SI-10P-37	3	口縁部	10YR4/2	沈線文	縄文後期	1387-1	D-63
32	17	深鉢	SI-10P-55	3	体部	5YR7/4	沈線文	縄文後期	1405-1	D-67
32	18	深鉢	SI-10P-62	壁溝	体部	5YR7/4	沈線文	縄文後期	1412-1	D-66
32	19	深鉢	SI-10P-56	床直	体部	5YR7/4	沈線文	縄文後期	1406-1	D-62
32	20	深鉢	SI-10P-35	3	体部	10YR7/2	沈線文(櫛歯状)	縄文後期	1385-1	D-64
32	21	壺	SI-10P-20	3	口縁部	7.5YR6/4	平行沈線	縄文晩期後半	1370-1	D-60
32	22	鉢?	SI-10P-24	3	底部	10YR8/3	RL	縄文	1374-1	D-61
42	1	深鉢	SK-23P-3	2	口縁部	10YR7/3	沈線文(櫛歯状)	縄文後期	1761-1	D-101
42	2	深鉢	SK-23P-1	2	体部	10YR7/3	沈線文(櫛歯状)	縄文後期	1759-1	D-99
42	3	深鉢	SK-32	1	体部	7.5YR6/6	LR	縄文	1762-1	D-102
48	1	深鉢	C区	包含層	口縁部	7.5YR7/6	LR、貼付、R圧痕	縄文中期	1830-8	D-73
48	2	深鉢	C区	包含層	体部	7.5YR7/6	羽状縄文	縄文中期	1830-14	D-74
48	3	深鉢	C区	包含層	底部	5YR6/6	原体圧痕	縄文中期?	1830-2	D-108
48	4	深鉢or壺	C区	包含層	体部	7.5YR7/4	沈線文	縄文後期	1830-18	D-76
48	5	深鉢	C区	包含層	口縁部	7.5YR6/4	無文(ミガキ)	縄文後期	1830-1・32・56	D-80
48	6	壺	C区	包含層	体部	7.5YR7/3	無文(ミガキ)	縄文晩期	1830-3	D-93
48	7	鉢	C区	包含層	口縁部	10YR4/1	沈線文	縄文晩期前半	1829-4	D-79
48	8	浅鉢	C区	包含層	口縁部	10YR6/2	沈線文、磨削(LR)口唇内部に刺突	縄文晩期後半	1836-17	D-95
48	9	浅鉢	C区	包含層	口縁部	7.5YR6/2	沈線文、磨削(LR)口唇内部に刺突	縄文晩期後半	1830-41	D-77
48	10	浅鉢	C区	包含層	口縁部	7.5YR6/2	沈線文、磨削(LR)口唇内部に刺突	縄文晩期後半	1830-50	D-78



写真36 雲谷山吹(5)遺跡(真上)

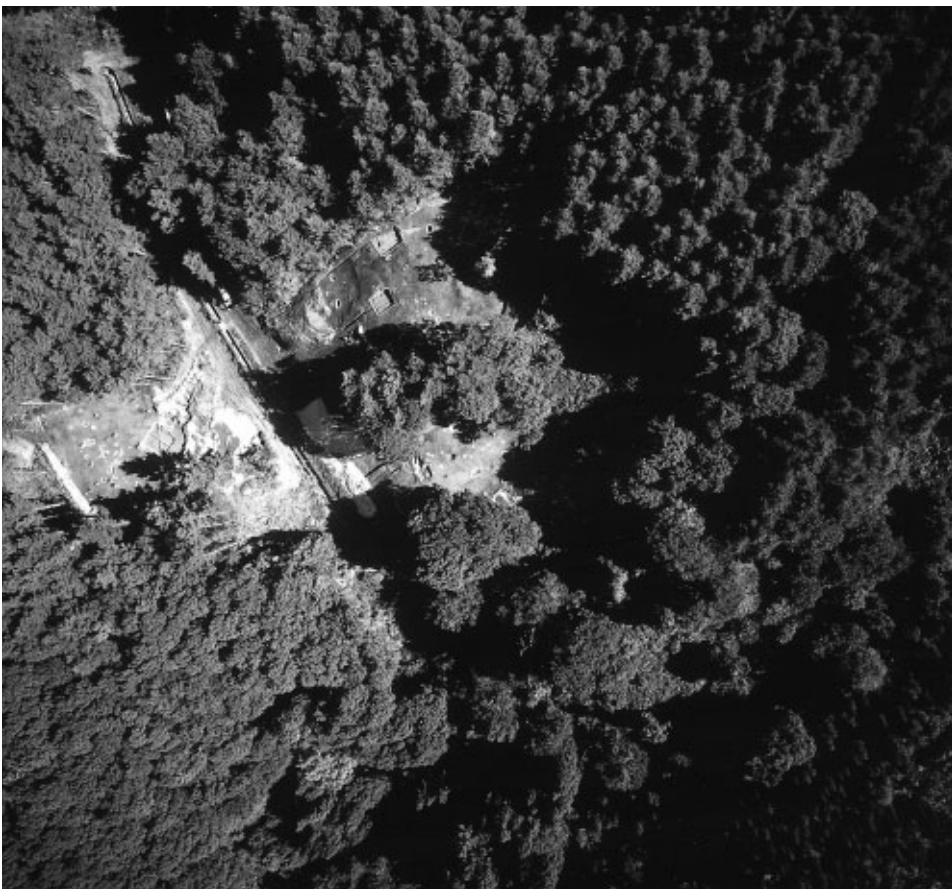


写真37 雲谷山吹(5)遺跡(左), 雲谷山吹(6)遺跡(中央)(真上)



写真38 雲谷山吹(5)遺跡近景(S)

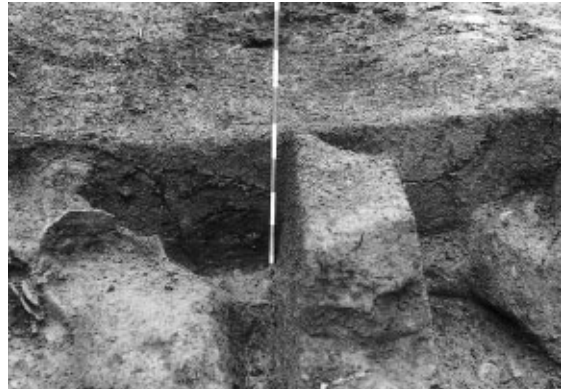


写真42 S I - 10竈セクション(N)



写真39 S I - 10セクション(S)

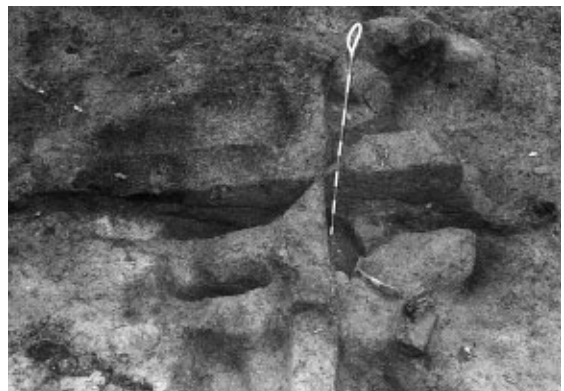


写真43 S I - 10竈セクション(E)



写真40 S I - 10セクション(SW)



写真44 S I - 10竈遺物出土状況(N)



写真41 S I - 10完掘(N)

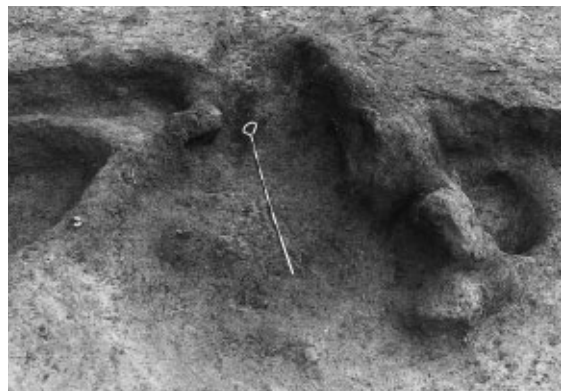


写真45 S I - 10竈完掘(N)



写真46 S I - 11セクション (N)

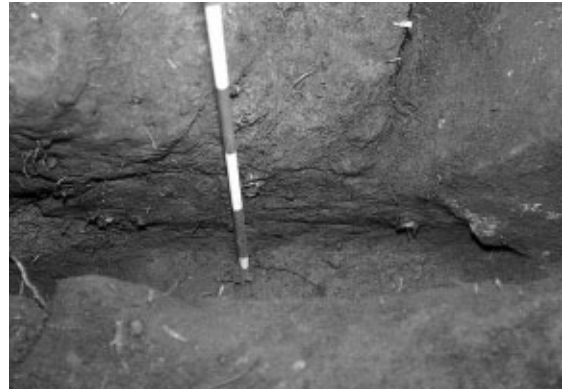


写真49 S I - 11竈煙道部セクション (N E)



写真47 S I - 11完掘 (N)



写真50 S I - 11竈燃烧部遺物出土状況 (W)



写真48 S I - 11竈完掘 (W)

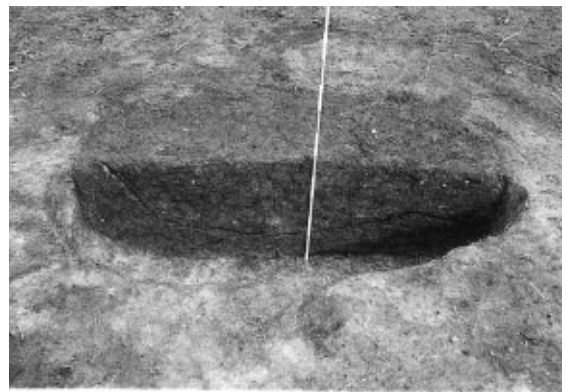


写真51 S K - 20セクション (W)

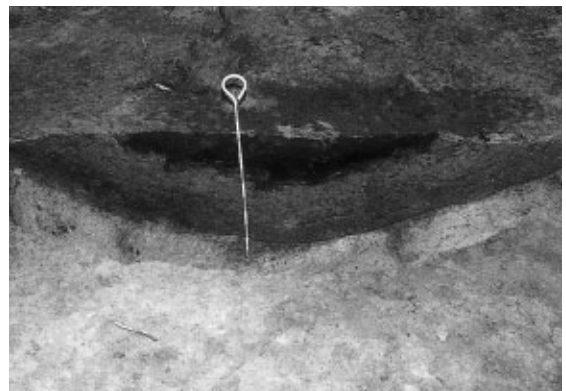


写真52 S K - 22セクション (S)

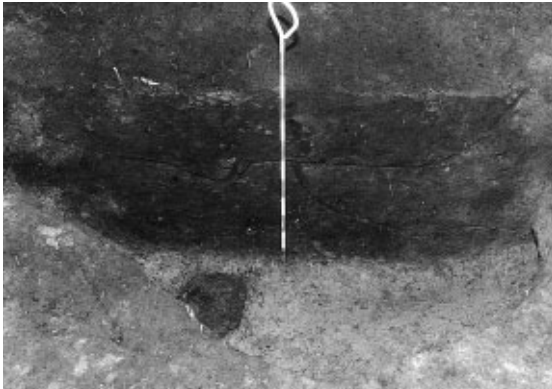


写真53 SK - 23セクション (S)



写真57 SK - 28セクション (N)

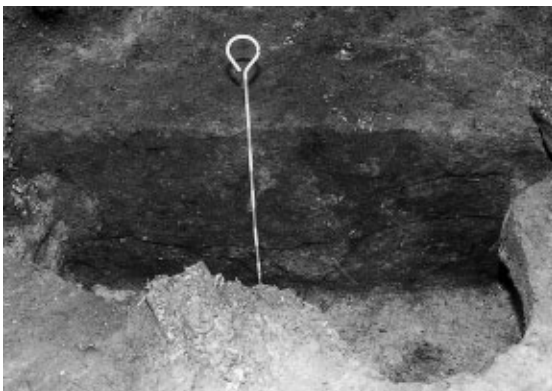


写真54 SK - 24セクション (S)

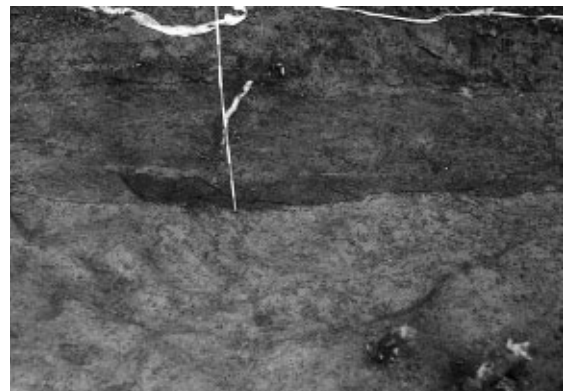


写真58 SK - 29セクション (W)

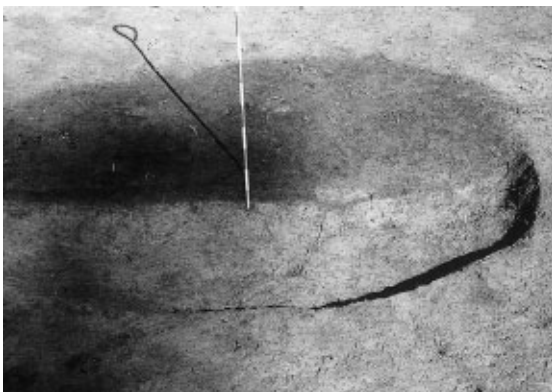


写真55 SK - 26セクション (S)

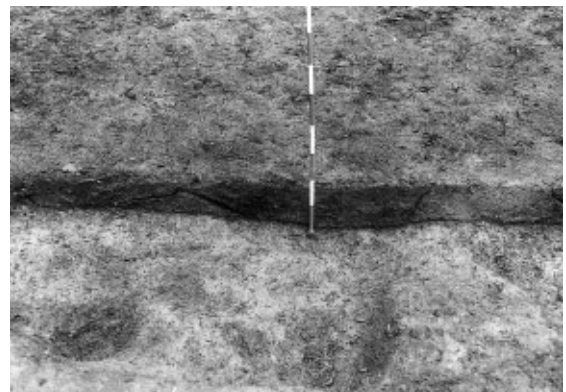


写真59 SK - 30セクション (W)



写真56 SK - 27セクション (N)

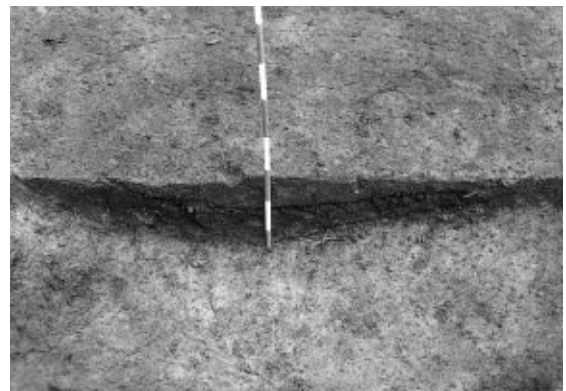


写真60 SK - 31セクション (W)

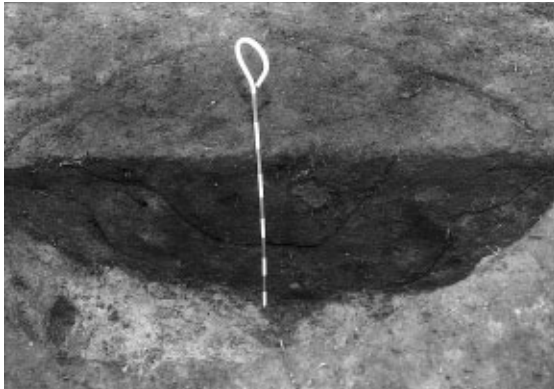


写真61 SK - 32セクション (S)

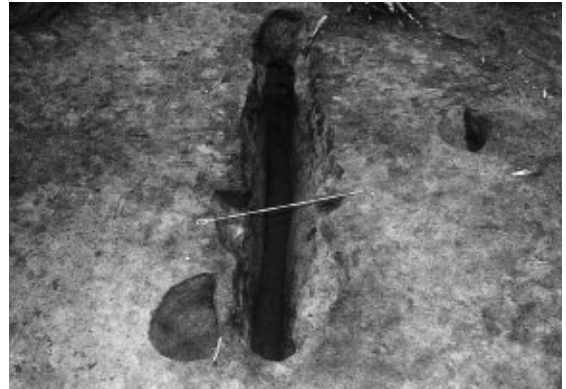


写真65 SP - 101 (T - Pit) 完掘 (E)

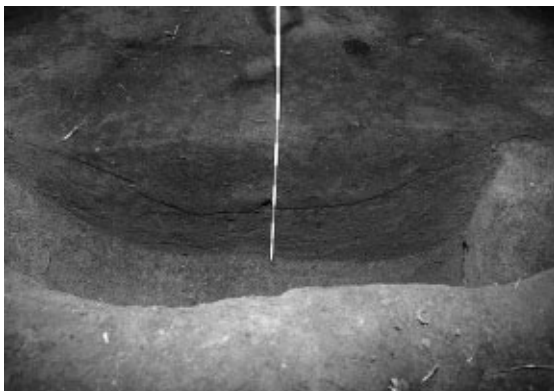


写真62 SK - 34セクション (NE)



写真66 SB - 02完掘 (S)



写真63 SK - 33・35セクション (N)

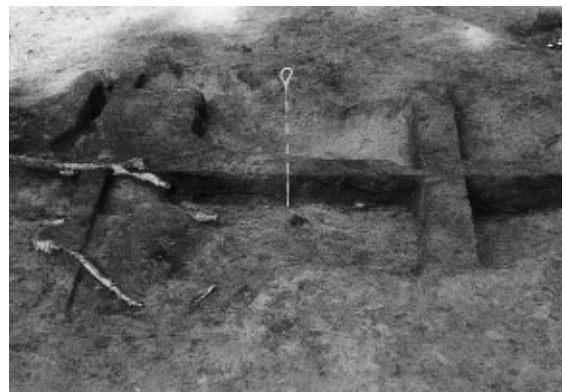


写真67 SX - 06セクション (E)



写真64 SP - 101 (T - Pit) セクション (E)



写真68 SX - 06完掘 (N)

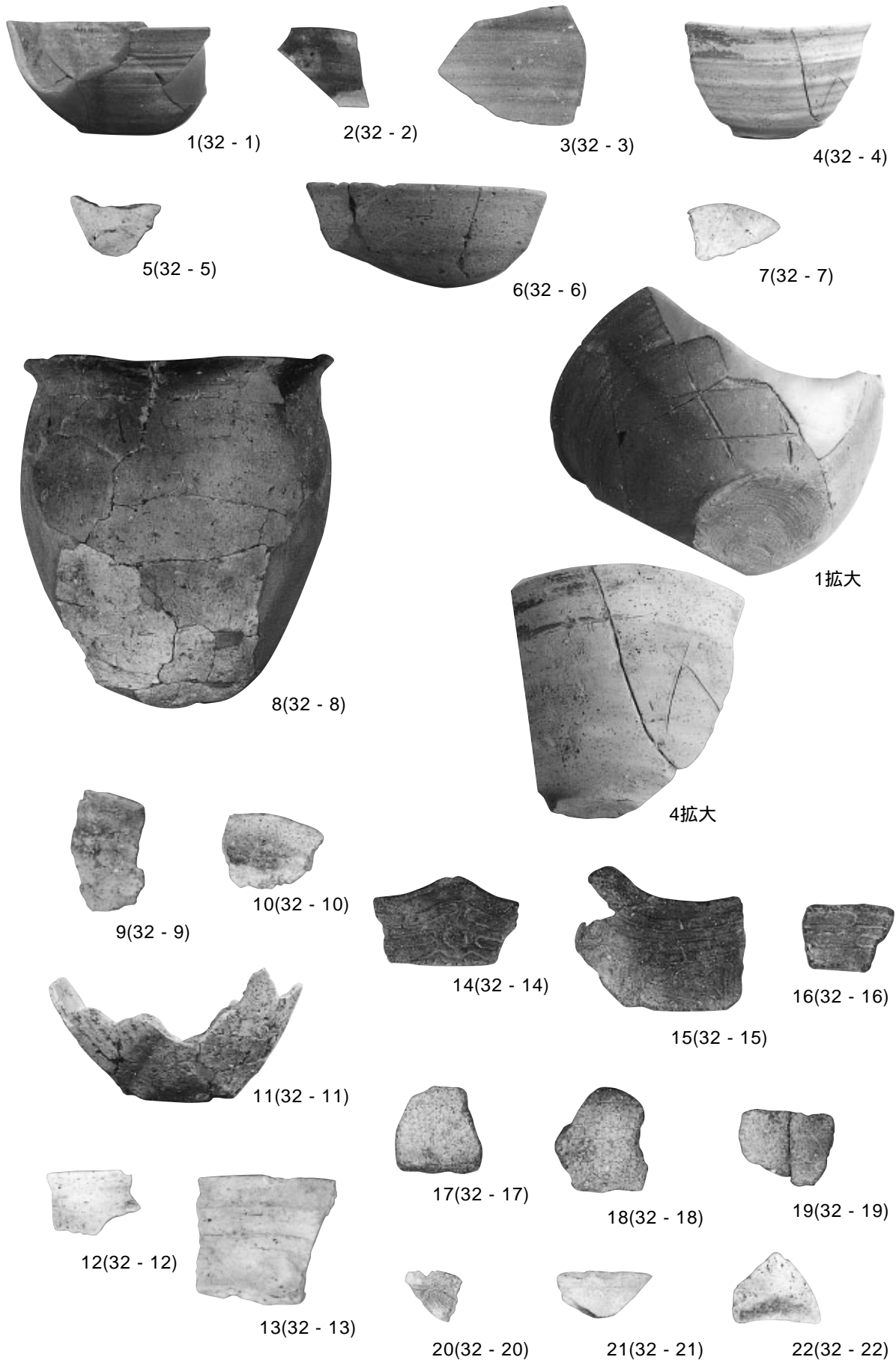
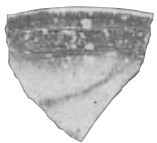


写真69 S I - 10出土遺物

雲谷山吹(4)~(7)遺跡



1(37 - 1)



2(37 - 2)



3(37 - 3)



4(37 - 4)



5(37 - 5)



6(37 - 6)



7(37 - 7)



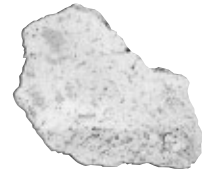
8(37 - 8)



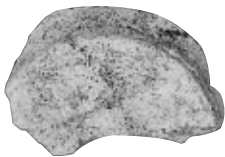
9(37 - 9)



10(37 - 10)



11(37 - 11)



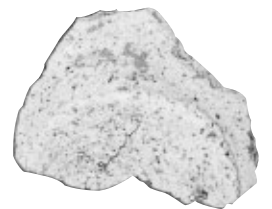
12(37 - 12)



13(37 - 13)



14(37 - 14)



15(37 - 15)



5拡大



7拡大

写真70 S I - 11 出土遺物

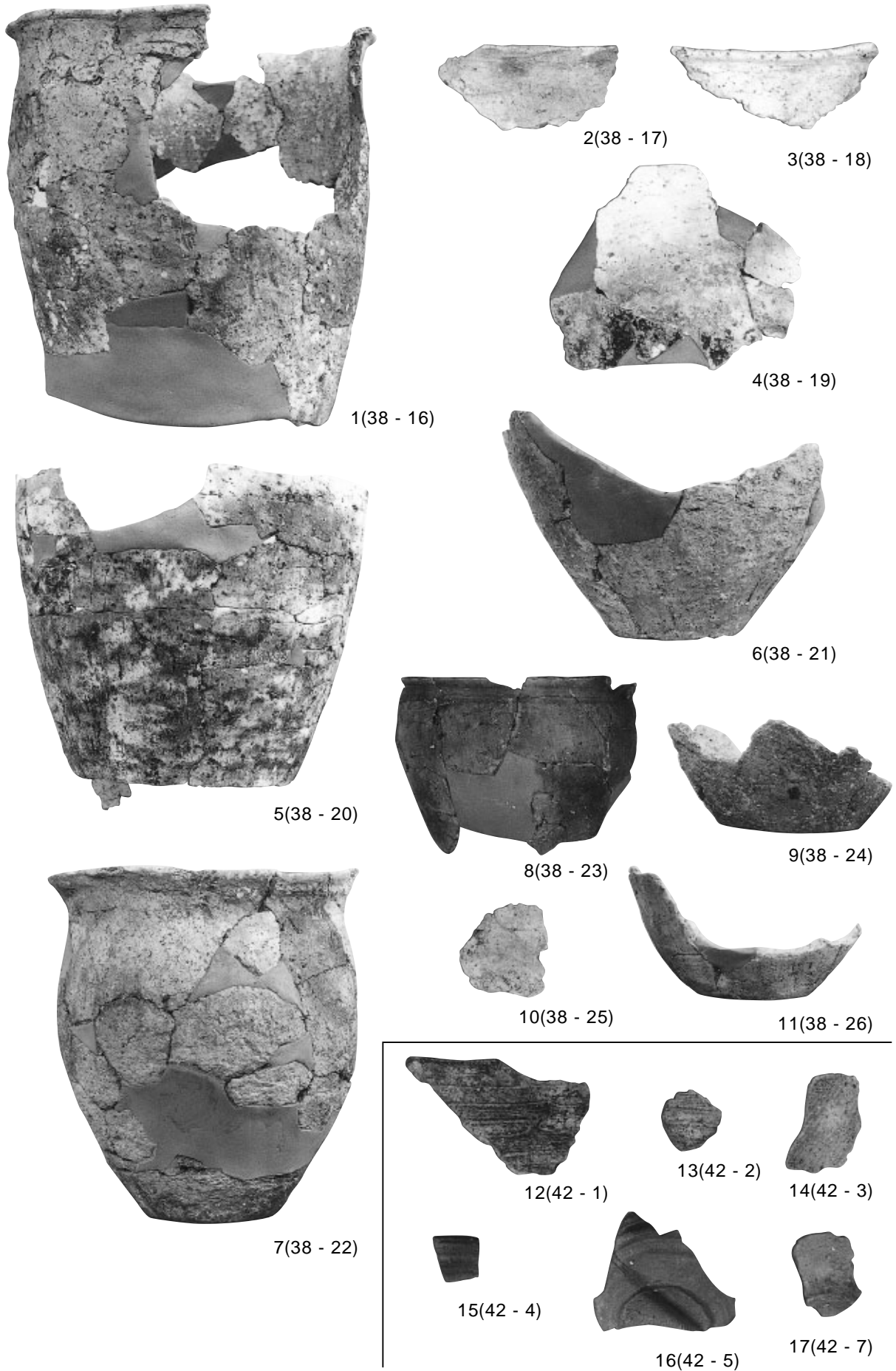


写真71 S I - 11 , S K , S P 出土遺物

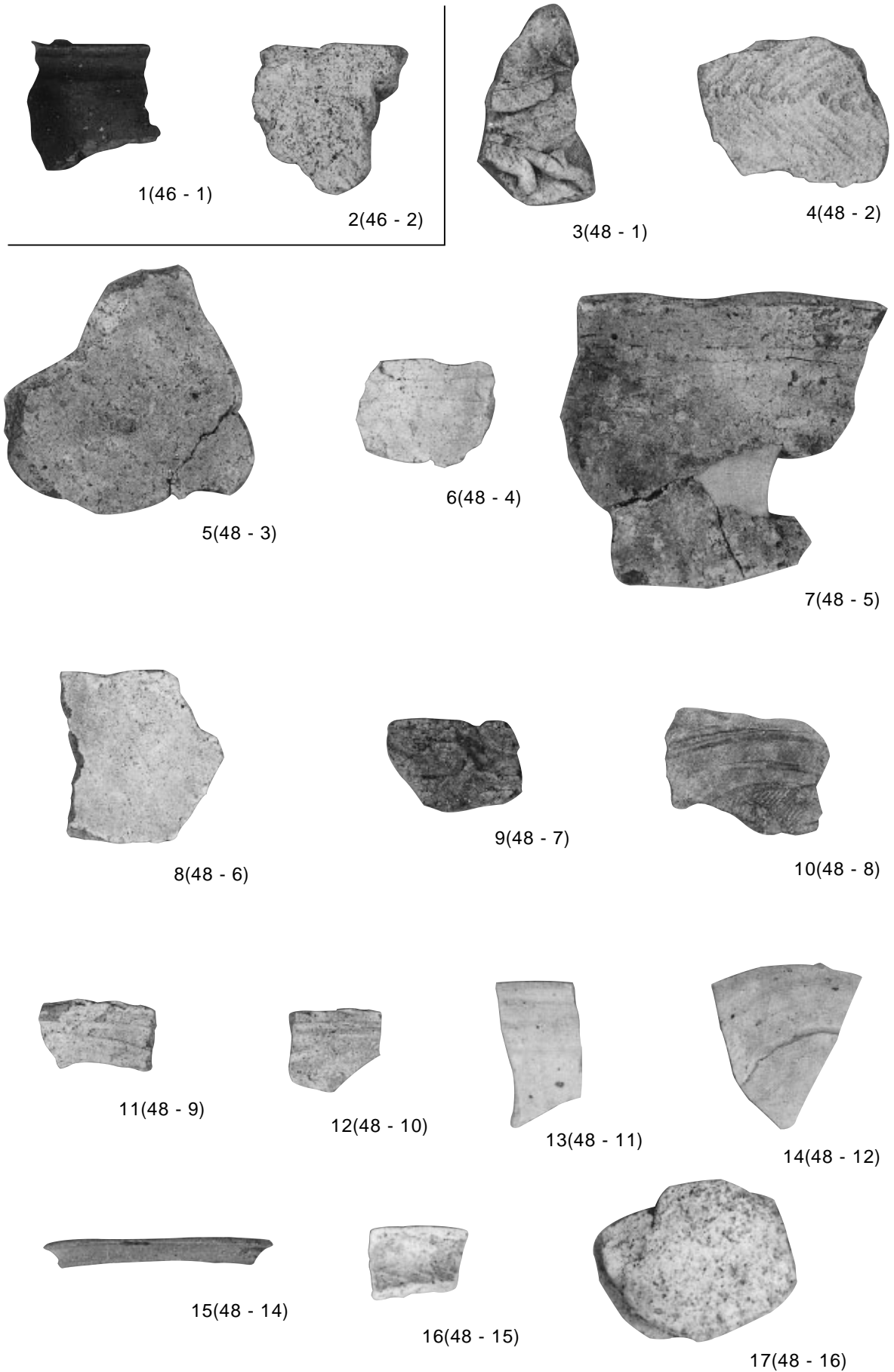


写真72 S X , 遺構外出土遺物



図49 雲谷山吹(6)遺跡遺構配置図

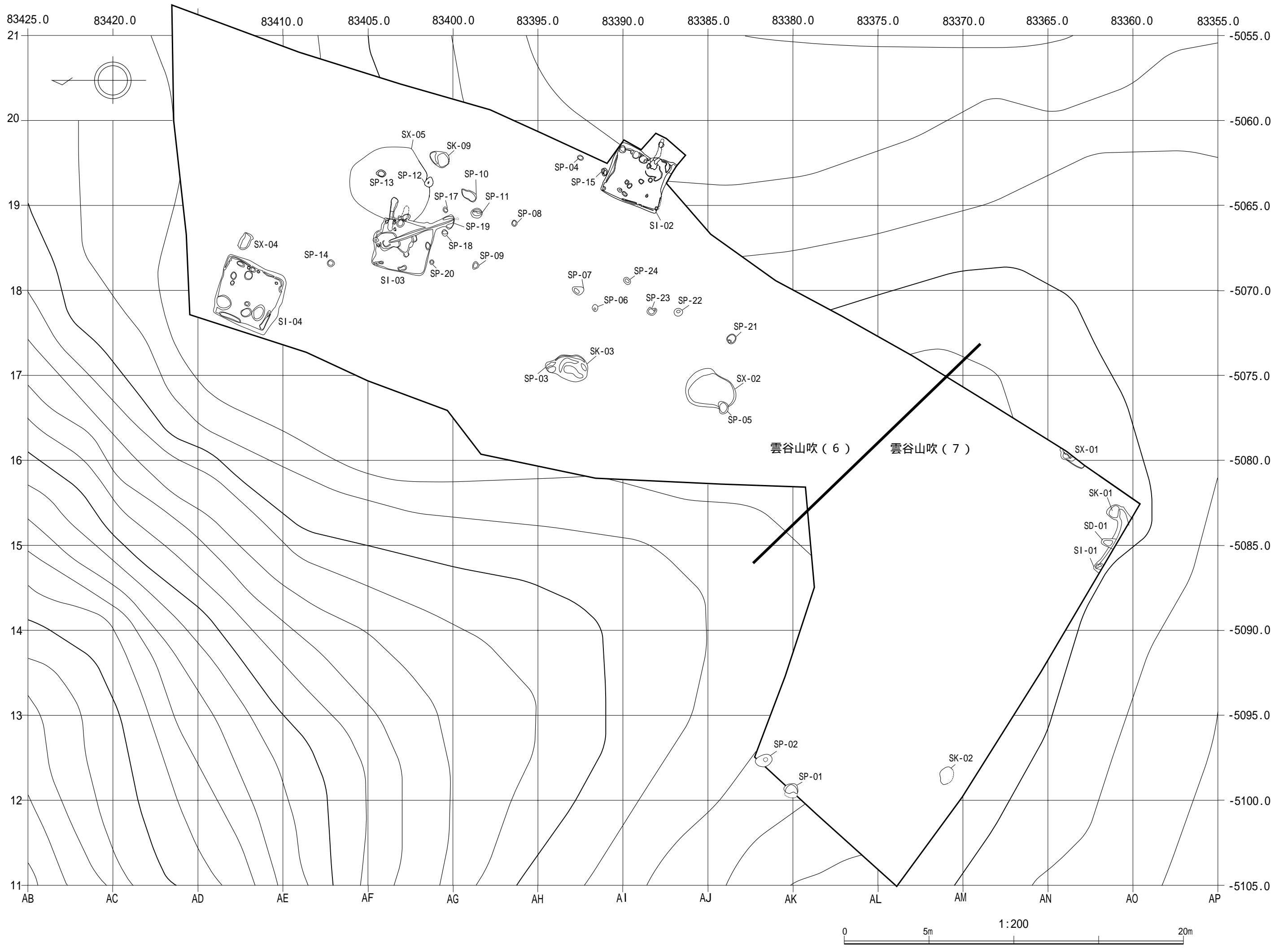


図50 雲谷山吹 (6) 遺跡遺構配置図 , 雲谷山吹 (7) 遺跡遺構配置図

第 章 雲谷山吹(6)遺跡

第1節 遺構と遺物

1. 竪穴建物跡

S I - 02 (図51・52・53・54、写真77・78・79・80・81・130)

グリッドA I - 18、A H・A I - 19で検出した。規模は330×320×60cm、床面積は10.4㎡を測る。平面形は方形を呈し、断面形はほぼ垂直に立ち上がる。南東隅ではS K - 04・12、北東隅でS X - 03と重複しているが、横断面のみの確認で新旧関係の詳細は不明である。壁溝は断続した形で、4壁全てから検出しており、竈設置壁側ではピットに切られて検出している。主柱配置については建物壁の各コーナーからPit 1・2・3・11の4本柱正方形配置が確認されており、それ以外に建物内でPit 5・16が柱穴として機能した可能性が考えられる。また、竪穴建物跡中央から竈設置壁側にかけて掘り込みの浅いピットを10基検出しており、大部分が竪穴建物跡の埋土第3層の堆積時点で埋没しているが、Pit 4については竪穴建物跡中央の竈寄りの部分に貼られた貼り床(第7層)が第1層で堆積していることから貼り床構築前に埋没したピットであることが考えられる。床面はほぼ全域に凹凸な掘り方を有し、大谷火山灰層主体のローム土(第8層)が充填されており、中央がやや窪んだ形状を呈している。硬度については竈設置壁側が固くしまりがある。竪穴建物の埋土は6層に分層され、B - T m火山灰が粒状に混入する大谷火山灰層の地山土起因の第3層が建物全体を埋め尽くしており、その上位に自然堆積で第1層起因の土層が堆積している。

竈は建物東壁側から1基検出しており、それ以外に調査時には右袖脇の掘り込みを竈2として取扱い精査している。構造は地下式で、主軸はN - 92° - Eである。芯材として利用されたと考えられる礫が前庭部脇に散逸した状況で検出しており、構築材であると考えられる凝灰質の砂質土が燃焼部直上に堆積していることが確認されたことから燃焼部は破壊が生じていることが考えられる。残存部の袖幅は28cm、煙道長85cm、煙出開口部幅33×29cmを測る。また、煙道は煙出の開口部東端から23cm奥まで掘り込まれており、大谷火山灰層主体のローム土が充填されている。

出土遺物は第54図に土器8点、鉄滓1点を図示したが、遺物の出土状況についてはほとんどが竈設置壁側のピットならびに竈から破片状態で出土しており、埋土についても土師器甕体部片中心の出土であった。1・6は竈覆土4層から出土したロクロ土師器椀ならびに小甕で、1は口径12.0cm、6は13.6cmを測る。出土位置が竈燃焼部であるためいずれも被熱により色調が桃褐色を呈する部分が観察される。1は口唇内面を面取りすることにより先細りの外反した形状を呈している。6は口縁部の面取りがややルーズで丸みを帯び立ち上がる。2は床直ならびに覆土一括で出土した土師器甕底部で底径8.6cmを測る。出土位置については竈前底部の凝灰質の構築材が散逸する位置の周辺(P - 7・8・13・14)から出土しており、内外面とも被熱により色調が変化しており、さらには体部の破断面が粘土紐の接合痕に沿った部分が主体でその周辺に剥離が観察できることから竈の構築材(支脚の要素も含めて)であった可能性も否定できない。底面には炭化物付着および砂粒付着痕が観察されるが、ヘラによる調整によりナデ消されており、砂粒は残存していない。粘りのある胎土で、やや粒径の大きな小礫が少量、粒径の細かい赤色粒が多量混入する。7はPit 1覆土1層から出土した非ロクロ小甕底部で底径6.4cmを測る。浸食等により器面が脆くなっているが底面は平行脈の木葉痕で、器面調整は外面が横

位、内面は縦位のヘラによる調整である。

S I - 03 (図55・56・57・58・59、写真82・83・84・130・131)

グリッド A F - 18・19で検出した。S P - 19と重複しており、本遺構の方が新しい。また S X - 05として取り扱った T o - a 火山灰が粒状に混入する風倒木を切った形で本遺構は構築されている。規模は328×304×60cm、床面積は8.4㎡を測る。平面形は風倒木周辺が浅く窪んだ落ち込み（埋土は第6・7層に相当）があり、また、北壁側が突出した形状であるが、竪穴建物そのものの掘り込みの形状は隅丸方形を呈し、断面形は壁上部で段状を呈する形状である。主柱配置はPit 1・2・3, 4・10の4本柱であった可能性もあるが、Pit 1を除いて掘り込みが浅く明確ではない。また、竈2使用時点では無柱であった可能性も考慮される。床面は東壁側ではS X - 05の影響があり、斜面下方である西壁側の壁寄りの部分では浅い掘り込みがあり、大谷火山灰層主体のローム土が充填されている。それ以外は大谷火山灰層の地山土を床面としている。中央にはPit 7・9として扱った浅い落ち込みがあり、やや窪んだ形状を呈する。竪穴建物の埋土は5層に分層され、炉壁ブロックを多量に含む第4層が竪穴建物全体を埋め尽くしており、東西壁際で第4層中から焼土粒が面的に検出した。その上位には第1層起因の第3層が堆積しており、層上部にはB - T m火山灰が層状に堆積している。B - T m火山灰は第2層中にも粒状に混入して検出している。また、土層断面状のみでしか確認できなかったが、第2層上面でPit - a、第3層上面でPit - bとして取り扱ったピット2基を検出しており、第2層と第3層の堆積については時間差が生じている。最終的には第1層の堆積で全ての遺構が埋没している。

竈は東壁側から2基検出している。新しい竈は東壁北隅に構築されており、主軸方位はN - 98° - Eである。竈前庭部は礫などとともに多量の土器片が散乱した状態で出土しており、袖は基部のみが残存しているだけで燃焼部は破壊されたものと考えられる。残存部の計測値で袖部幅45cm、煙道長127cmを測る。煙道の構造は半地下式で、建物壁際から38°の角度で立ち上がり、途中で角度を変え浅い落ち込み状に水平に奥壁へ向かう煙出奥壁は一部内側へ入り込む箇所が存在するが大部分は垂直に近い状態で立ち上がる。煙道でも土師器甕（図58 - 4）1点が出土している。竈2は燃焼部火床面がPit 1によって完全に切られており、壁際にピット状の落ち込みがあり、その掘り込みの直下は大谷火山灰層の地山土であったため、竪穴建物跡の精査時には検出できず、S X - 05精査時点で煙道の掘り込みの痕跡を検出したため、土層堆積状況ならびに煙出部の詳細は不明である。煙道の掘り込みの残存部の主軸方位はN - 105° - Eであり、煙道長は90cmを測る。また遺物は出土していない。

出土遺物は第58・59図に土器11点、鉄滓1点を図示した。出土状況については竈周辺が主体で、第1・2層の埋没の後半段階での混入資料が数点ある状況であった。1は竈覆土第3層および第2c層（火床面直上）から出土した土師器椀で、口径12.8cm、器高4.7cm、底径5.2cm、器高指数37、底径指数41を測る。針状輝石・石英・長石等を含むやや粘りのある胎土で、体部に綾段を有するタイプであるが、浅身で口縁部もかなり開き気味に立ち上がる器形である。外面体部は被熱により剥落が生じている。4は竈煙道から出土した土師器甕で口径22.2cmを測る。砂礫を多量に含むやや粘りのある胎土で、浸食等により内面の器壁は脆い状態で剥落が著しい。体部上半に最大径を有するタイプであるが、口縁部は短く口唇が折り返すように短く外反させている。外面のヘラによる調整は口唇直下まで及んでおらず一定ではないが頸部で止められている。5は竈覆土および火床面上出土とS I - 04の覆土出土との遺構間接合資料の土師器甕で、口径25.6cmを測る。砂礫を中量含むやや粘りのある胎土で、器壁にヘラの痕跡が撫でる程度のほとんど残りにくいタイプであるが、4と同様口縁部が開き気味に外反する。内外面の器面は被熱により変色・剥離が生じている箇所があり、特に内面体部中半～下半にかけて状況

が著しい。11は覆土2層出土の縄文土器深鉢の口縁部片で、外面は絡条体側面圧痕が施され、その上に粘土紐の貼付隆帯がなされている。隆帯上にも拵糸の側面圧痕が施されている。口唇部には同様の隆帯が波状に貼られている。

S I - 04 (図60・61・62、写真85・86・131)

グリッドA D・A E - 17・18で検出した。規模は380×370×70cm、床面積は10.7㎡を測る。平面形は台形を呈し、断面形は斜面上方では壁上部に緩やかな立ち上がりを持ち、斜面下方側は緩やかに立ち上がる形状を呈する。壁溝は断続的に各壁4カ所で検出しており、斜面下方側である南壁西隅側が深く、斜面上方側の東壁側はやや浅い掘り込みである。床面は斜面下方側である南壁側に掘り方を持ち、大谷火山灰層主体のローム土が充填されており、貼り床部分は地山のみ部分に比べ若干高い面を持つ。主柱配置は浅い掘り込みのピットがほとんどで、明確な主柱穴として認定できるピットは存在せず不明である。竪穴建物の埋土は8層に分層され、西壁側には大谷火山灰層主体のローム土と一部上面が後世の攪乱を受けているが月見野火山灰層主体のローム土が堆積しており、斜面上方の東壁～南壁東寄りの部分では壁の崩落による堆積以外に大谷火山灰層主体のローム土が流れ込んで堆積している。さらに中央ではロームブロック・焼土ブロック等を含む第1層起因のシルト質土が堆積しており、人為的要因が考慮できる。その上位に堆積する第2層の下部ではB - T m火山灰が層状に堆積しており、第1層起因の黒色土の堆積で埋没が完了している。竈は検出していない。

出土遺物は第62図に土器5点、鉄滓5点を図示したが、出土状況が第4層および第2層中心で、出土資料そのものも破片が主体であることから廃棄によるものと判断され、本遺構の帰属として捉えられる床面直上出土の資料がほとんどないのが特徴である。

S I - 05 (図63・64・65・66・67・68、写真87・88・89・90・91・92・93・94・95・131・132)

グリッドA J・A K - 22・23で検出した。規模は476×380×53cm、床面積は16.4㎡を測る。平面形は長方形を呈し、断面形は垂直に近い形で立ち上がる箇所と緩やかに立ち上がる箇所があり、西壁側は隣接する四阿建設時の影響で壁の一部が破壊されており、精査時点では段状の落ち込みの状態を検出した。壁溝は竈設置壁側である東壁側で一部断続しているがほぼ全周している。主柱配置について本遺構は竈が2基構築されており、同時併存ではなく新旧関係が生じるため主柱穴についても配置換えが行われており、最終時点での主柱穴はPit13・6・8・11の竈設置壁寄りの正方形配置である。また、竈2使用時点ではPit16が主柱穴として利用されたのが確実で、対応するピットについてはPit1・5の可能性が考えられる。また、床面直上から炭化材・炭化物(樹種はクリおよびイネ科タケ亜科)を検出しており、中央周辺で被熱により赤化している箇所がある。床面は斜面下方側である西壁側に掘り方を持ち月見野火山灰層主体の地山土を充填しており、壁際が若干高く中央にかけて若干窪んだ形状を呈する。竪穴建物の埋土は7層に分層され、壁際に第1層起因の第6・7層が流れ込んで堆積しており、その上位にロームブロック・焼土ブロックが混入する第5層が部分的に堆積し、さらに第1層起因のロームブロック等を含む第4層が建物全体を埋め尽くす状況で堆積している。降下火山灰については第2層中からB - T m火山灰が層状に検出している。

竈は東壁側から2基検出し、北壁寄りの部分が新しく、南壁寄りの部分の方が古い。新しい竈の構造は半地下式で、主軸方位はN - 114° - Eである。検出時点で煙道および燃焼部に竈構築材が散逸した状況で検出しており、破壊が生じている。特に右袖側の破損が著しく残存部規模については袖部幅52cm、煙道長122cmを測る。建物壁際から壁面に沿って立ち上がり、途中で40°の角度で外側へ立

ち上がり、さらに壁際から30cmの位置でなだらかに変化する。

竈2は煙道部と燃焼部火床面のみを検出で、煙道部の主軸方位はN - 108° - Eである。また火床面はPit13により切られており、Pit13の堆積土第1層では火床面の破壊された崩落土が混入している。煙道は建物壁際から20°の角度でやや段を持ちながら立ち上がり、構築時点で幅70～83cmの掘り方を有し、第8層が充填され煙道を形成している。煙出開口部は32×30cmの楕円形を呈する。また、火床面の北東方向の前庭部は他の床面に比べ非常に硬化していた。

出土遺物は第67・68図に土器25点、羽口1点を図示した。出土状況は竈設置壁側を中心に床面直上および第4層、ならびに第1・2層の埋土からも一定量の破片の出土が見られており、廃棄の伴った堆積であることが考えられる。3は竈2覆土第6層出土の非口ク口土師器椀で、口径11.6cmを測る。外面は縦位のヘラにより調整されているが、粘土紐の接合痕が残存して観察される。4は竈2覆土第4・6層出土の土師器椀で、口径12.8cm、器高4.6cm、底径5.9cm、器高指数36、底径指数46を測る。石英・長石を中量含むやや粘りのある胎土で、体部に膨らみを持つタイプであるが、器高が低く浅身の形状を呈する。見込み中央の器壁の厚さが最も薄い部分で0.8mmとかなり薄づくりである。器面は被熱により外面の一部は桃褐色、内面は淡黒褐色を呈しており、摩滅が激しいが、外面の体部中半から下半にかけてヘラによる再調整が加えられている。6は第5層出土の土師器椀で、口径12.8cm、器高5.2cm、底径5.3cm、器高・底径指数とも41を測る。砂粒を中量含みバサバサした質感を有し、S I - 03出土の土師器椀(図58 - 1)と同系統の体部に綾段を有するタイプで、口縁部にはタール状の黒色付着物が観察される。7は竈2覆土第6層および覆土出土の口ク口甕で、口径20.2cmを測る。竈出土の破片は被熱により色調が桃褐色を呈する箇所が観察され、覆土出土の破片については内面に炭化物付着が観察されるため破片化した状態で流動していたことが考えられる。口縁部は短く外反し、口縁端部は明確な面を持たずに丸みを帯びている。8は覆土4層出土P - 85とS I - 09覆土中層P - 69との遺構間接合資料の口ク口甕(中甕)で口径15.8cmを測る。S I - 05出土資料については破断面に摩耗が生じており流動の要素も考慮される。石英主体の砂粒を含む橙色を呈する胎土で、口縁端部はやや内傾がかかった状態で面取りされている。9は竈2第2・6層および建物覆土第6層P - 70ならびに竈1建物覆土第2層出土の土師器甕で、口径20.4cmを測る。竈2出土ならびに第6層P - 70出土の資料は被熱を受け剥落が生じているが、建物覆土第2層出土の資料は被熱や剥落は生じておらず、竈2使用時点で既に破片化していたものと考えられる。砂礫を多く含むやや粘りのある胎土で、外面の器面には黒斑が観察される。13は竈2覆土第1・2層出土の甕で口径20.5cmを測る。砂礫を多く含むやや粘りのある胎土で、口唇部が先細りの形状で、体部上半でやや膨らみを持つ器形である。内面の剥落が激しい。20は竈1床面出土の埜で、口径34.0cmを測る。接点は認められなかったが同一の手法・胎土を有する土器片がS I - 06(図75 - 32・33)から出土している。輝石・石英等の砂礫を中量、赤色粒を多量含む粘りのある胎土で、口唇部は先細りの形状で、内傾させており、指頭圧痕が内外面で観察される。外面が縦位、内面が横位主体のヘラによる調整であるが、内面の体部下半は縦位方向の浅いヘラナデによる調整である。22～25は覆土中に混入していた縄文土器で、22・23は縄文時代前期末～中期初頭の深鉢体部、24は後期十腰内式鉢形体部、25は晩期後半に帰属する壺形土器の体部資料である。

S I - 06(図69・70・71・72・73・74・75、写真96・97・98・99・100・133・134・135)

グリッドAN・AO - 25、AO - 26で検出した。規模は380×370×68cm、床面積は12.9㎡を測る。平面形は長方形を呈するが、竈設置壁側である南壁には竪穴建物の埋没以前に掘り込まれた不整形の突出部がある。断面形はほぼ垂直に近い形で立ち上がる。壁溝については竈設置部分では検出しなかった

が、それ以外の部分では断続せずにほぼ竪穴建物を全周する形で検出した。主柱配置は明確に柱穴と認定できるピットを検出しておらず、掘り込みの浅いピットが東壁側から壁面に沿って8基検出している。それ以外に南壁でPit 8、中央にPit 10、西壁側からPit 9を検出したが、それらの中で柱穴として機能した可能性を持つピットはPit 8のみである。床面直上で部分的に炭化材(樹種はイネ科タケ亜科)を検出しているが、床面で被熱による赤化した箇所は竈の火床面以外検出していない。床面は北西側の部分を除き深さ15・6cm程の掘り方を持ち、大谷火山灰層の地山ローム土が充填されている。竪穴建物の埋土は9層に分層され、東壁の壁際において竪穴建物の埋没直後に堆積した第8層が前述の東壁寄りのピット群を同時に埋没させている。また、各壁際の床面直上で確認した第7層は壁際から流入した堆積状況を呈しているが、床面の中央部には堆積が認められず、その部分には第1層起因でロームブロック・ローム粒、焼土粒等を含み人為的要因が考慮される第6層が堆積している。降下火山灰については第2層上面でB-Tm火山灰ブロックが帯状に堆積が認められた。

竈は竪穴建物南壁側から1基検出した。構造は半地下式で、主軸方位はN-160°-Eである。他の建物跡から検出した竈と同様燃焼部周辺の破壊が著しく、特に右袖側は遺物が散乱しているのみで残存していない。煙道長は100cmを測る。煙道は天井が崩落してすべり落ちた堆積状況を呈しており、構造は建物壁際から約20°の角度で立ち上がり、煙出奥壁部分で垂直に近い形で立ち上がっている。

出土遺物は図72・73・74・75に土器33点、図75に鉄製品2点、鉄滓2点を図示した。出土状況については建物東壁側から検出したピットならびに床面直上から第7層にかけて出土しており、埋土各層からも一定量の出土が認められた。全体的に食膳具の出土量が少なく、被熱等によるハジケや剥落が生じており、煮沸具の出土比が多い点が特徴である。6は床直出土のロクロ甕で、口径20.2cmを測る。内外面とも剥落が激しい資料で、体部がやや張った器形である。7は竈覆土第11・17層およびPit 2覆土第1層出土の非ロクロ甕で口径22.8cmを測る。内面の剥落が著しく、外面の口縁部の一部は被熱による変色が観察される。また口縁部に指頭圧痕が観察される。8は竈、Pit 1・2、建物覆土2層出土の甕で口径24.2cmを測る。7と同様内面の剥落が著しく、接合破片間で被熱による色調が不整合を呈している箇所が多く観察される。砂礫を多量に含むやや粘りのある胎土で、赤色粒を中量混入している。基本的に外面は縦位、内面は横位のヘラによる調整であるが、7とは異なり、外面のヘラの動きは頸部で止められておらず口唇部直下まで及んでいる箇所が多い。9は竈、床・床直、覆土第2・7層出土の甕で、口径20.6cm、器高28.6cm、底径6.8cmを測る。口縁部～体部にかけて3/4が欠損している資料で、砂礫を多量に含む胎土で、硬質に焼成されており、器面に淡黒褐色の黒斑が観察される。短頸で、体部中半に最大径を持ち頸部は体部側からのヘラによる調整で基本的に区画されている。底面には粒子の細かい砂粒が全面に付着しており、砂底である。10は床直および覆土2・7層出土の甕で口径19.6cmを測る。焼成が軟質で、外面の口縁部～体部にかけて黒斑が観察される。砂礫を多く含み、海綿骨針が少量混入する。調整が不均一で、体部内面の調整で横方向のヘラナデが稚拙な箇所は直胴気味で、丁寧に撫でられた箇所は体部中半が張る形状を呈している。15は竈および覆土7層出土の甕で、口径20.6cmを測る。砂礫を中量含む粘りのある胎土で、体部中半に最大径を持ち、口縁部は比較的短頸である。外面のヘラによる調整はやや斜め方向の動作をしており、内面についても右下がりの動作を行っている。16は床直出土の甕で、口径20.6cmを測る。摩滅が激しく色調も退色した状況であるが、体部内面にヘラ書きが観察された。17は床直出土の甕(中甕)で、口径16.6cmを測る。砂粒を多量含むやや粘りのある胎土で、10と同様調整が不均一で、口縁部が短く括れる箇所と直立気味に立ち上がる箇所が観察される。体部のヘラの動作も縦位を基本とするが体部中半で斜め方向に抉り込むように動作させている箇所が観察されるなどかなり稚拙な調整である。21は竈ならびに床直出土とS I - 05覆

土出土との遺構間接合資料の甕の体部で、9と同質の胎土ならびに焼成である。外面の器面は黒褐色の黒斑が観察される。22は床直出土とS K - 13覆土第2層出土資料との遺構間接合の甕底部で、底径7.2cmを測る。破片はS K - 13出土資料が主体である。23は床面およびPit 1覆土第2層出土の小甕で、口径13.6cmを測る。砂礫を含むやや粘りのある胎土で、器面は浸食等による摩滅が著しい。口縁部は頸部を強く横位に撫でることによって段状に作り上げており、開き気味に外反する。32・33は竈覆土ならびに床直出土の同一個体と判断できる場で、口径34.0cmを測る。同一個体と判断できる資料はS I - 05の床面および覆土(図68-20)からも出土している。

S I - 07 (図76、写真101・102・135)

グリッドAN・AO-27で検出した。調査区外へ延びるため、検出したのは西壁と南北壁の一部であり、全容は不明であるが、西壁の規模は472cmを測り、床面積については調査部分で〔6.5〕m²を測る。壁溝は調査部分の西壁と北壁で検出しており、南壁側では検出していない。床面は北壁側から中央にかけて北壁の壁溝と同じ深さに浅く掘り方があり、大谷火山灰層の地山ロームが充填されており、やや凹凸がある。主柱配置は不明で、床面上に掘り込まれたピットはいずれも浅く柱穴として認定できない。西壁南隅の壁溝部分に26×19×28cmの柱穴状のピットを検出している。また、調査区外へ延びるが〔80〕×104×23cm土坑1基を検出した。竪穴建物跡の埋土とは異なる堆積土の堆積が認められるため、廃絶以前に埋没していたものと考えられる。竪穴建物の埋土は6層に分層され、ロームブロックを含む第1層起因の第4・5層が竪穴建物を埋め尽くしており、人為的要因が考慮される。その上位に堆積する第1層起因の第3層の堆積土中からB-Tm火山灰ブロックは帯状に、To-a火山灰は粒状に検出した。出土遺物については第75図に2点図示したが、破片資料が多く、ほとんどが床面ならびに第4・5層出土であった。1は覆土第5層出土の土師器椀底部で底径5.5cmを測る。海綿骨針を多量、赤色粒を中量含みザラザラした質感を有する胎土で、同質の胎土を有する個体はS I - 08床直・覆土第6層出土の椀(図80-9)に認められる。体部にやや間隔のあいた綾段を有する。2は覆土第4層出土の縄文土器深鉢の体部資料で単軸絡条体が施されている。

S I - 08 (図77・78・79・80・81・82、写真103・104・105・106・135・136・137)

グリッドAK・AL-27・28で検出した。S I - 07と同様東壁側が調査区外へ延びるため竈や全体形等の詳細は不明であるが、西壁の規模は610cmを測り、床面積は調査部分で〔25.8〕m²を測る。調査部分での重複はS D - 02との切り合い関係があるが、本遺構の方が古い。壁溝は調査部分の南北壁および西壁全てから検出した。斜面下方である北壁側の一部で22cm程の深さを持つ掘り方が検出し、大谷火山灰層の地山ローム土が貼り床として充填されていた。床面は凹凸があり、東壁側の一部は浅い落ち込み状に沈下している。壁面は斜面下方側である北壁は第1層を壁面としており、脆弱であり、壁上面の一部が崩落等により緩やかな傾斜を持つ箇所がある。主柱配置についてはPit 3・6が主柱穴と認定でき、その他各壁の隅に深さ30cm程のピットを検出している。それ以外に壁面に沿って掘り込みの浅いピットが10基(Pit 8はとの2基として認定)、土坑1基を検出した。竪穴建物の埋土は10層に分層され、前述の東壁寄りの浅い落ち込み部分については焼土ブロック・粒が多量に混入する暗赤褐色土の堆積が認められ、延長線上に竈の存在の可能性が考えられる。下層に堆積する第6～8層はロームブロック等を混入する堆積土で、遺物の混入も多量に認められることから廃棄等も含めた人為的要因が考えられる。また、第5層中にB-Tm火山灰ブロックが帯状に堆積が認められた。図49(写真106)に示したグリッドAI・AJ-27・28で検出した粘土範囲は本遺構の建物建設時点で掘削

土を廃棄したものである可能性があり、その粘土部分が図6に示した基本土層の作業棟南東隅と扱っているセクション上で第1層に該当する。粘土の下層にはT o - a火山灰が堆積しており、構築時期はT o - a火山灰降下直後である可能性が高い。類似の火山灰資料としては周堤資料であるがT o - aが周堤下から検出し、B - T m火山灰が堆積層から検出した弥栄平(4)遺跡第17号竪穴住居跡(青森県教育委員会1986)が挙げられる。

出土遺物は第80・81図に土器30点、第82図に羽口2点、鉄滓5点、砥石1点を図示した。1は床直出土の須恵器坏で口径12.5cmを測る。海綿骨針を微量含み断面がサンドイッチ状を呈する五所川原産と考えられる資料で、口縁部には重ね焼き痕が観察される。また口縁端部は面取りされ、平滑な口唇部である。2~7は須恵器甕の体部資料で、4は覆土第6層とS I - 05覆土第6層ならびに雲谷山吹(5)遺跡S I - 11床・床直等との遺構間接合資料で、5は覆土第5・6層、床直とS I - 06覆土第2層との遺構間接合資料である。部位については、2・3が体部下半の資料、4が体部下半~底部にかけての資料、5が体部上半~体部下半にかけての資料、6・7が肩部(体部上半)の資料である。胎土には海綿骨針を基本的に含み、色調は青灰色を呈するものが多く、断面は赤紫褐色を呈するものが多い。また、自然釉が付着した資料(2・4)なども見受けられる。底面部分は交差叩き、体部上半は平行叩き、肩部は交差叩きにより調整されている。ナデ消しにより内面の当て具が判然としないものも含まれるが体部上半~下半にかけての資料には千鳥足状の当て具が観察される。8はPit7覆土第1層出土の土師器椀で、口径12.8cm、器高6.0cm、底径5.2cm、器高指数47、底径指数41を測る。胎土に輝石・石英・長石を含む粘りのある胎土で、器面は浸食等により摩滅・剥離が生じている。底部~体部下半はやや肉厚で、口縁部は器壁が薄くやや開き気味に伸ばすように立ち上がる。9は床直および覆土第6層出土の土師器椀で、口径12.6cm、器高5.5cm、底径5.4cm、器高指数44、底径指数43を測る。S I - 07出土の資料と同質の胎土で、海綿骨針を多量、赤色粒を中量含むザラザラした質感を有する胎土で、器面に幅の広い綾段を有する。被熱によるものなのか、重ね焼きによるものなのか判然としないが、口縁部~体部上半にかけて色調が橙褐色~淡褐色を呈する箇所が観察され、内外面に淡黒褐色の付着物が観察される。14は床直出土の口ク口甕で口径(19.0)cmを測る。破片資料であるため、詳細は不明であるが、口縁端部が面取りにより内傾した形状で、直胴気味の立ち上がりを持つ。19・21は復元径に若干の開きがあるが、胎土の混入物や調整等の特徴から同一個体であると考えられる土師器甕で、口径21.4・21.5cmを測る。砂礫を中量含むやや粘りのある胎土で、外面の体部はやや斜め方向のヘラによる調整で頸部の一部で口縁部直下までヘラが動いている。また、口唇部に打ち欠き痕が観察される。20は床直出土の口ク口小甕の底部資料で、底径7.0cmを測る。礫を中量含むやや粘りのある胎土で、被熱により外面の器壁が剥落し、色調が桃褐色に変色した箇所が観察される。体部下半は横位のヘラ削りが施されている。23~30は混入して出土した縄文土器でいずれも深鉢の体部資料で、23・24は前期末~中期初頭、25~30は後期十腰内 式期に帰属する。

S I - 09(図83・84・85・86・87・88・89、写真107・108・109・110・111・137・138)

グリッドA I・A J - 25・26で検出した。規模は508×415×90cm、床面積は18.5㎡を測る。平面形について南壁側が風倒木により壁面が脆弱で、検出時点で地滑り状の崩落が生じていたため不整形を呈しているが、元々は長方形を呈していたものと考えられ、断面形については南壁以外垂直に近い形で立ち上がり、一部壁上部に緩やかな立ち上がりを持つ箇所がある。また、南壁は脆弱な風倒木による影響部分に大谷火山灰層主体の地山土を壁面に貼り付け補強している箇所が観察された。壁溝は全周する形で検出し、板壁の支柱の設置痕と考えられる掘り込みが壁隅および中央から検出している。掘り方は

建物中央ならびに南北壁際の部分を不整形に掘り込み月見野火山灰層主体の地山土と大谷火山灰層の地山ローム土が充填される箇所があり、局所的に大谷火山灰層主体のロームブロックを含む第 1 層起因の黒褐色土が充填される箇所があり、やや軟弱な箇所がある。主柱配置については竪穴建物内から浅い掘り込みを持つピットを21基検出したが、明確に柱穴として認定できるものはなく不明である。竪穴建物の埋土は19層に分層したが、セクション面が竈の隣接部と南壁の風倒木影響の土層堆積があるため、他の竪穴建物跡の埋土に比べ複雑な堆積を呈している。南壁の崩落等の土層堆積を除いた堆積では第 7・9 層がロームブロック等を混入する人為的要因のある土層堆積で、この堆積により建物跡の大部分は埋没している。その上位に第 1 層起因の第 4 層さらには B - T m 火山灰を粒状に混入する第 3 層の堆積等周辺の土層の流れ込みによる堆積により埋没が完了している。竈は東壁の南壁寄りの部分に構築されており、構造は半地下式で、主軸方位は N - 94° - E である。燃烧部は他の竪穴建物跡と同様に右袖側を中心に欠落しており、残存部分の袖部幅は 86cm、煙道長 118cm を測る。また、煙道部は崩落しているが、煙出開口部は残存しており、38×30cm の楕円形を呈する。支脚設置相当位置から土師器甕底部（調査時遺物番号 S N P - 12、図 87 - 8）が倒位に出土しており支脚として用いられたものと考えられる。煙道は建物壁際から 22° の角度で立ち上がり、煙出部で浅いピット状に掘り込まれているが明瞭な段を持つ訳ではなく平坦気味に奥壁へ向かう。

出土遺物は図 87・88 に 25 点、図 88 に 羽口 1 点、図 89 に 鉄製品 1 点、鉄滓 7 点を図示したが、図 85 を見てわかるように第 10・15 層の堆積面に沿って多量の遺物が出土しており、さらに埋土の上層～下層にかけ万遍なく出土していることがわかる。出土遺物の接合状況も破片資料が主で、接合で完形となりえた資料はなく、堆積状況を踏まえた場合中層までは廃棄の要因、上層は流入の要因が考慮できる。1 は Pit 7 覆土第 3 層出土の須恵器坏で、口径 (11.3) cm を測る。海綿骨針・石英等の砂粒を微量含み、器面の色調は灰色を呈し、器壁は中心部が黄褐色を呈する。内面に暗灰色の火禿痕ならびに外面の口縁端部に暗灰色の重ね焼き痕が観察される。2 は覆土中層 (第 9 層) 出土の須恵器坏底部で、底径 6.0cm を測る。内外面および器壁も灰白色を呈す軽質な感を持つ資料で、胎土中に海綿骨針を含まず、外面の器面に微粒の油分状の黒色付着物が、見込み部分には黄灰色の火禿痕が観察される。外面体部下半はへらにより再調整されている。4 は覆土下層出土の土師器甕で、口径 14.6cm、器高 3.4cm、底径 5.8cm、器高指数 23、底径指数 40 を測る。焼成不良で、白色系のパサパサした質感を有する。器面の摩滅が激しく浸食等による要因が考慮される。器形は底部から逆八字状に開き気味に立ち上がり、口縁部でさらに伸ばし返すように外反させている。5 は床直 (第 15 層) 出土の土師器甕で口径 19.7cm を測る。砂礫を中量含むやや粘りのある胎土で、体部中半に最大径を有するタイプであると考えられる。器面調整は、外面は斜め方向、内面は横位主体のへらによる調整で、内面はくの字状に明確に頸部をつくり上げているが、外面はルーズが括れである。8 は竈支脚として出土した土師器甕底部で、底径 9.0cm を測る。竈支脚として利用されていたため、底面～体部にかけて色調が赤褐色～桃褐色に変色した箇所が観察される。底面は砂粒付着痕が観察されるが、丁寧なへらによるナデによりほとんど砂粒は残存していない。また内外面ともへらによる細かい調整が行われているが、方向についてやや乱方向気味の動きも認められる。体部内面に指頭圧痕が観察された。9 は Pit 1 覆土第 2 層出土の土師器甕 (中甕) で、口径 16.4cm を測る。頸部に補修孔が 1 つ穿たれており、口縁部内面は煮沸痕が観察される。12 は竈火床面直上 P - 13・14・15 から出土した土師器小甕で、口径 11.4cm を測る。底部～体部にかけて欠損しており、内外面の口縁～体部にかけて強い被熱により色調が変化している箇所も見られ、出土位置等も踏まえると支脚を含めた竈の構築材としての可能性も考え得るが断定できない。体部中半に最大径を持ち緩やかな立ち上がりを有する個体で、器面調整は大型品の甕と同様に外面は斜め方向のへら、内面は横

位のヘラによる調整で、体部が膨らんでいる箇所はさらに指によるナデが加えられている。14は覆土下層(第20層)出土の口クロ土師器小甕の底部資料で、底径7.3cmを測る。砂礫を中量含み、外面は被熱により変色している。20・21は小型の鉢形の口縁部資料で、それぞれ13.0cm、13.6cmの口径を測る。口縁部内面に炭化物が付着しており、煮沸痕であると判断される。23は床直出土の小甕底部で底径5.8cmを測る。内面および外面の一部が黒色処理により黒色を呈している。24・25は覆土中に混入していた縄文土器深鉢の体部片でいずれも縄文時代前期末～中期初頭に帰属する。

2. 土坑

S K - 03 (図90、写真112) グリッドA H - 16・17で検出した。S P - 03と重複しており、本遺構の方が新しい。規模は220×156×50cmを測る。平面形はe、断面形はeで、底面はやや凹凸がある。堆積土第4層中からT o - a火山灰を粒状に検出し、第2層中から鉄滓(図93)が出土した。

S K - 04 (図51、写真113) グリッドA I - 19で検出した。S I - 02と重複しているが、断面上で確認したのみで新旧関係については不明である。また、四阿建設時点で破壊を受けており堆積土についても攪乱により底面の炭化物の堆積層のみの検出であった。堆積層中には焼土粒・炭化粒の混入が認められ焼成に関連した遺構であると判断できるが、用途については不明である。

S K - 05 (図90、写真114) グリッドA O - 26で検出した。S D - 02と重複しており、本遺構の方が古い。規模は107×98×26cmを測る。平面形はS D - 02に切られているため詳細は不明であるが、残存部の形状から(c)であると考えられ、断面形はa + dである。図示はしていないが土師器甕小片8片、鉄滓1点出土した。

S K - 06 (図90、写真115) グリッドA Q - 25で検出した。規模は80×72×14cmを測る。平面形はe、断面形はa + dである。底面に焼土粒ならびに炭化粒が付着しており、本遺構で焼成が行われた可能性が考えられる。

S K - 07 (図90、写真116) グリッドA K - 26で検出した。測量委託による平面図作成のミスにより平面図の測量記録が残存しておらず、断面図から長軸規模と深さを復元し、長軸幅〔138〕cm、深さ12cmを測る。第2層で炭化粒および焼土粒を検出し、本遺構で焼成が行われた可能性が高い。

S K - 08 (図91、写真138) グリッドA N - 26・27で検出した。規模は開口部で91×67cm、底面で113×103cm、深さ86cmを測る。平面形はf、断面形はfである。覆土第1層上面から縄文時代後期十腰内 B式期の深鉢破片1点(図93-1、写真138-16)が出土している。

S K - 09 (図91、写真117・138) グリッドA F - 19で検出した。検出時点でS P - 16として精査したが、拡張したためS K - 09として変更した。規模は120×95×43cmを測る。平面形はf、断面形はeである。覆土中から土師器甕底部資料1点(図93-2、写真138-17)が出土した。底径8.6cmを測り、外面の器面は被熱により色調が桃褐色に変色した箇所が観察される。

S K - 10 (図91、写真118) グリッドA O・A P - 26で検出した。規模は132×89×21cmを測る。平面形はgで、断面形はa + dである。第2層は第1層、第1層は第2層起因で、いずれの層にもローム粒・炭化粒が混入している。

S K - 11 (図91、写真119・120・138) グリッドA M - 26で検出した。規模は開口部で103×90cm、底面で121×110cm、深さ111cmを測る。また底面中央に23×21×12cmのピット1基を検出した。平面形はf、断面形はfである。覆土1層から縄文時代後期十腰内 B式期の深鉢破片1点(図93-3、写真138-18)が出土した。

S K - 12 (図51、写真113) グリッドA I - 19で検出した。S I - 02と重複しているが、S K - 04同

様断面上で確認したのみで新旧関係については不明である。上面はS K - 04同様破壊を受けており、掘り込み面については不明であることから深さについても計測不能である。断面形はfで、暗褐色・褐色を呈する土層が交互に堆積する状況である。

S K - 13 (図91、写真121・138)グリッドA O - 25で検出した。S B - 02 P 2と重複しており、本遺構の方が古い。規模は(140)×114×23cmを測る。平面形はg、断面形はaである。覆土2層から土師器片44片が出土し、土師器甕底部はS I - 06出土の破片と接合した(図74 - 22、写真134 - 12)、図93 - 4(写真138 - 19)では土師器甕1点を図示した。口径は18.0cmを測る。頸部の括れが甘く、口縁部内面には煮沸痕が観察される。

S K - 14 (図92)グリッドA K - 23・24で検出した。規模は124×112×24cmを測る。平面形はe、断面形はaである。円形に近い形状ではあるが、東西壁側がやや直線的な形状を呈している。第1・2・5層は壁の崩落土で、ローム粒を少量含んでいる。

S K - 15 (図92)グリッドA K - 27で検出した。規模は121×65×48cmを測る。平面形はg、断面形はeである。第2・3層にロームブロックが混入し、埋め戻しによる人為的要素が考えられる。

S K - 16 (図92、写真122)グリッドA H - 28で検出した。規模は169×126×39cmを測る。平面形はf、断面形はeである。底面は東側の部分が若干高くなっており、その部分のみ第2層が堆積している。

S K - 17 (図92、写真123)グリッドA H - 27で検出した。規模は100×85×25cmを測る。平面形はe、断面形はaである。浅い柱穴状の掘り込みを持ち、西側に堆積している第3層にはロームブロックが若干含まれている。

S K - 18 (図92、写真124)グリッドA H - 27で検出した。規模は197×110×66cmを測る。平面形はe、断面形はeである。底面の形状が不整形で、堆積状況についてもロームブロックが崩落した堆積状況を呈している。

S P - 19 (図55・56、写真125・126)グリッドA F - 18で検出した。S I - 03と重複しており新旧関係については本遺構の方が古く、竪穴建物跡の掘り込みによって北側の約3/4が削平されている。また、竪穴建物跡の床面の部分は大谷火山灰層の地山ローム土が充填されており、本遺構の埋土に影響が生じている。規模は405×43×99cmを測る。平面・断面形とも溝状を呈し、溝状土坑と判断される。

3. 溝跡

S D - 02 (図100、写真114)グリッドA L・A M - 27、A O - 25・26、A P・A Q - 25の3地点で検出した。第1層まで下げた状態で確認しているため、確認時点で断続して検出しているが、同軸線上に位置することから同一の遺構であると判断し取り扱った。検出した部分においてS I - 08ならびにS K - 05と重複しており、本遺構の方が新しい。S I - 08の精査を優先させたため重複部分の平面形等の情報は欠落しているが、S I - 08のCラインのセクション上に現れていないことから北東隅は調査区内が端部で、南西隅は調査区外へ延びる。そのため、規模については調査区内での総延長29m、断続部の規模は5.8m、5.5m、5.1mを測る。最大幅で70cm、深さは29cmを測る。出土遺物はS K - 05の重複部分から土師器甕2片が出土したが、S K - 05の出土遺物の紛れ込みと判断できる。

S D - 03 (図100)グリッドA N・A O - 24で検出した。規模は総延長9.1m、最大幅33cm、深さは17cmを測る。斜面のコンターラインに近いラインを走るが、S D - 02のように断続した同軸の溝は検出しなかった。

4. 掘立柱建物跡

S B - 01 (図101、写真129) グリッド A O - 25・26、A P - 25で検出した。主軸は N - 43° - W、規模は 1 × 2 間で、桁行360cm、梁行390cmを測る。P 2 が S K - 13と重複しており、本遺構の方が新しい。P 1 - P 3 軸のピットは P 4 - P 6 軸のピットに比べ掘り込みが浅い点の特徴である。

5. その他の遺構

S X - 02 (図102、写真127) グリッド A I ・ A J - 16・17で検出した。S P - 05と重複しており、本遺構が古い。規模は303 × 226 × 36cmを測る。平面形は e、断面形は h である。緩やかに掘り込まれており、底面直上に堆積する第 2 層中にはローム粒が中量混入している。

S X - 03 (図51) グリッド A H - 19で検出した。S I - 02と重複しているが、本遺構が断面のみの検出であることから新旧関係の詳細は不明である。規模について判明しているのは深さのみで、66cmを測る。第 2 層中から土師器甕破片 1 点が出土した。

S X - 04 (図102) グリッド A D - 18で検出した。規模は105 × 61 × 13cmを測る。平面形は e、断面形は a + d である。掘り上がりはピット状の形状となったが、確認時点で第 1 層として取り扱った部分に焼土粒・炭化粒が含まれ、掘り込み以外の部分にも散布した状況であった。

S X - 05 (図102、写真128) グリッド A E ・ A F - 18・19で検出した。本遺構は風倒木であり、遺構ではないが、S I - 03建築時点で堆積土が削平されており、さらに土層堆積において上面の第 2 層中から T o - a 火山灰のブロックを検出していることから範囲と土層堆積を記録した。土層堆積図の第 3 層と第 9 層上の破線部は S I - 03の竈の煙道部の掘削による削平である。

6. 遺構外出土遺物 (図103・104、写真138)

図103に土器16点、石器 1 点、図104に鉄滓 2 点を図示した。1 ~ 8 は縄文土器で、1 は円筒下層 d₂ 式 ~ 円筒上層 a 式期の深鉢の体部片で絡条体回転文が施される。2 ~ 5 は縄文時代後期十腰内 A 式期の深鉢の口縁部および体部破片資料で沈線文が施される。6・7 は胎土の特徴から縄文時代後期に帰属するものと考えられる資料で、6 は深鉢の口縁部で地文に L R が施されており、口縁内面は被熱により色調が橙色を呈している。また 7 は底部資料で、同様に L R 縄文が地文に施されており、内面にはススが付着している。8 は縄文時代後期十腰内 B 式期の小型鉢形土器の底部資料で、底径3.0cmを測る。高台状に台部を持ち、台部内面の底面にも沈線文が施されている。9 は表採資料の石匙で7.6 × 3.3 × 1.1cmを測り、重さは14.6 g を量る。石質は珪質頁岩である。10 ~ 17 は平安時代に帰属する土器で、いずれも碎片化した資料である。10 は表採資料の須恵器坏で、口径 (13.0) cm を測る。粒子の非常に細かい長石を微量含む粘りのある胎土で、断面は橙色を呈する。口縁部はつまみ返すように外反させており、内外面とも青黒色の火襷痕が観察され、口縁端部には重ね焼き痕が観察される。11 は宿泊棟東 (A C ・ A D - 20) 包含層出土の須恵器甕で、部位については底部に近い体部下半の資料であると考えられる。海綿骨針を微量含む胎土で、外面は交差叩きによる調整で、内面は千鳥足状の当て具がナデ消されている。12 は宿泊棟東 (A C ・ A D - 20) 包含層出土の黒色土器椀で、口径 (11.5) cm を測る。外面の器面は被熱により色調が変色し、摩滅の度合いも激しい。内面は横位のヘラミガキで精緻に磨かれている。13 は B 区南側地点包含層出土の土師器椀で、口径 (11.0) cm を測る。器面の摩滅が激しく、破断面も摩耗が著しい状態で流動の要因が強い資料である。14 は A C - 19 P - 14 出土の土師器甕で、小型品の可能性も持ちうるが復元径で口径 (18.0) cm を測る。非ロクロで口縁端部を面取りして作り上げているようであるが、碎片資料であるため詳細は不明である。内外面とも黒色化しており、S I -

09出土の小甕（図88 - 23）と同質の資料であるものと考えられる。15は表採資料の土師器甕で口径（18.0）cmを測るが、残存率が悪く14と同様小型品である可能性も持ちうる資料である。口唇部のみをつまみ返すように外反させた資料で、口縁内面には煮沸痕が観察される。16はB区南側地点包含層出土の土師器甕底部で、底径8.4cmを測る。砂礫を中量含むやや軽質な胎土で、器面の摩滅・剥落が著しい。底面は砂底である。17はB区南側地点包含層出土の土師器甕で、底径7.1cmを測る。16と同様砂礫を中量含む胎土で、16に比べ粘りがある。底面は無調整であるが、斜行線がヘラ書きされている。

第2節 小結

雲谷山吹（6）遺跡は青森市合子沢山崎の青森公立大学の敷地内標高112～120mの山林に所在する。発掘調査は現国際芸術センター青森（仮称青森市芸術創作工房）施設の作業棟の西側の敷地部分と宿泊棟の西側の丘陵部分の敷地内1,883㎡を調査した。調査の結果竪穴建物跡8軒、土坑17基（うち1基は溝状土坑）、ピット86基、溝跡2条、掘立柱建物跡1棟、その他の遺構3基（風倒木は除く）を検出し、縄文時代前期末～中期初頭、中期中葉、後期の土器・石器および平安時代の土師器・須恵器ならびに羽口・鉄滓が出土した。縄文時代については前期末～中期の資料は散布地的様相を呈するが、後期十腰内式期についてはフラスコ状土坑2基が該期に該当し、試掘調査において青森公立大学寄りのトレンチ18Tから多量の後期の土器片が出土していることなども併せると本調査区より標高のさらに高い標高125m地点周辺に集落が存在する可能性が考えられる。また、該期の遺物は隣接する雲谷山吹（5）遺跡からも出土しており、沢を隔ててはいるが生活圏としての同一の位置づけがなされるものと判断できる。

平安時代についてはT o - a火山灰降下後に構築されたと認定できる竪穴建物跡が2軒（S I - 03・08）あり、廃絶後の埋土中にB - T m火山灰の堆積が認められる。出土遺物について接合できない破片化した状況で出土する資料が多く廃棄の要素が多分にも認められる資料群である。縄文時代後期と同様に平安時代でも地点の離れた雲谷山吹（5）遺跡と雲谷山吹（6）遺跡の遺構間で接合関係が認められるなど沢地を隔てた生活圏と認定できる資料があり、今後の集落立地等の検討において集落としてのユニットや境界の検討の一資料を提供することができた。



雲谷山吹（6）遺跡調査風景

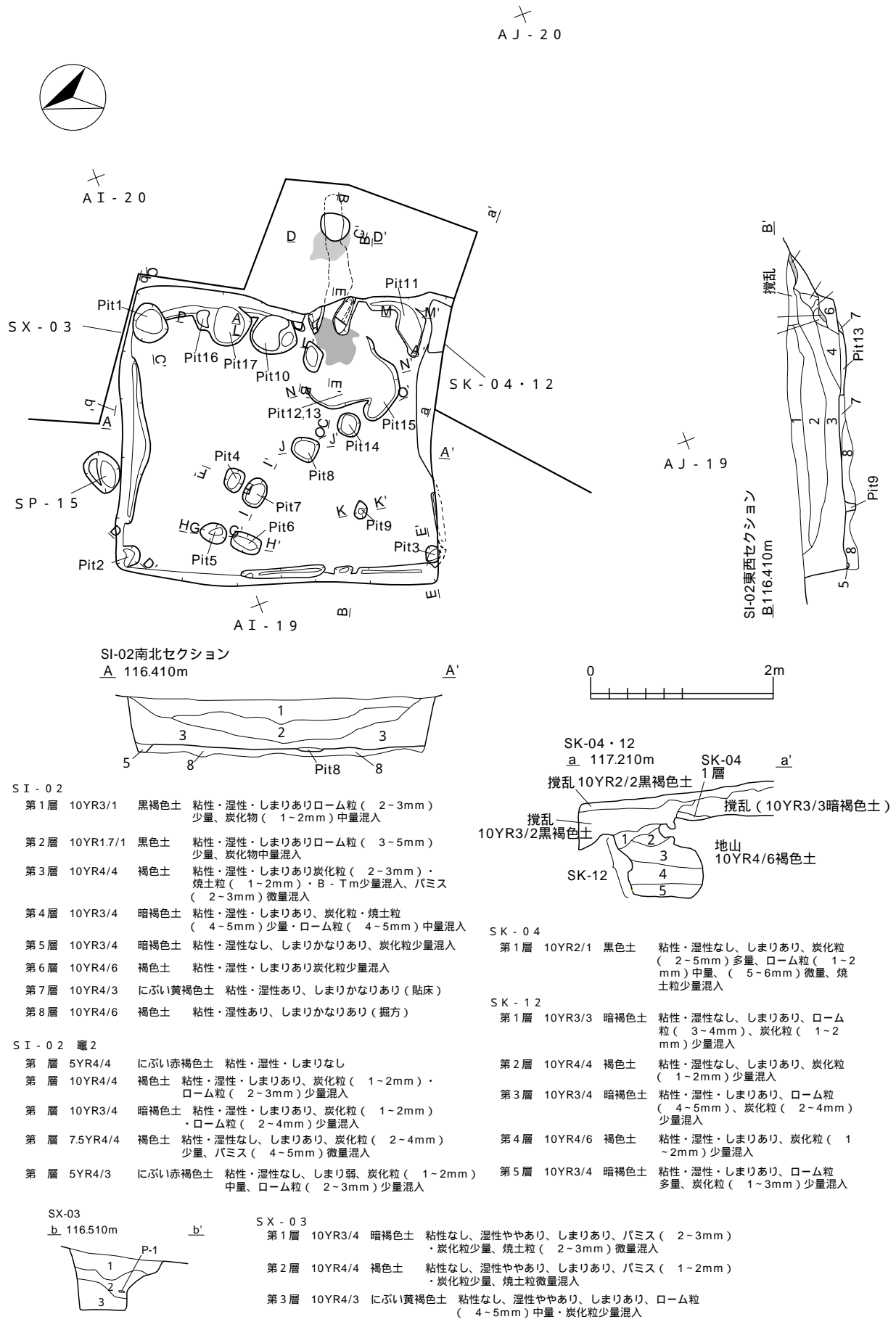
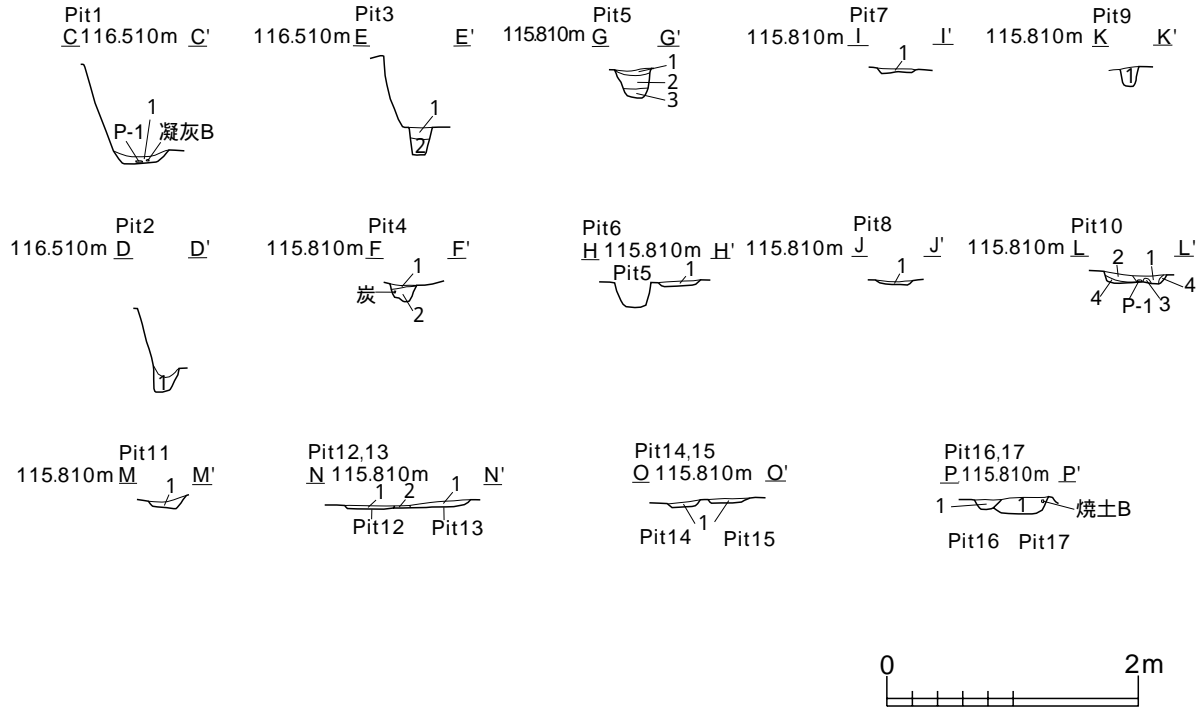
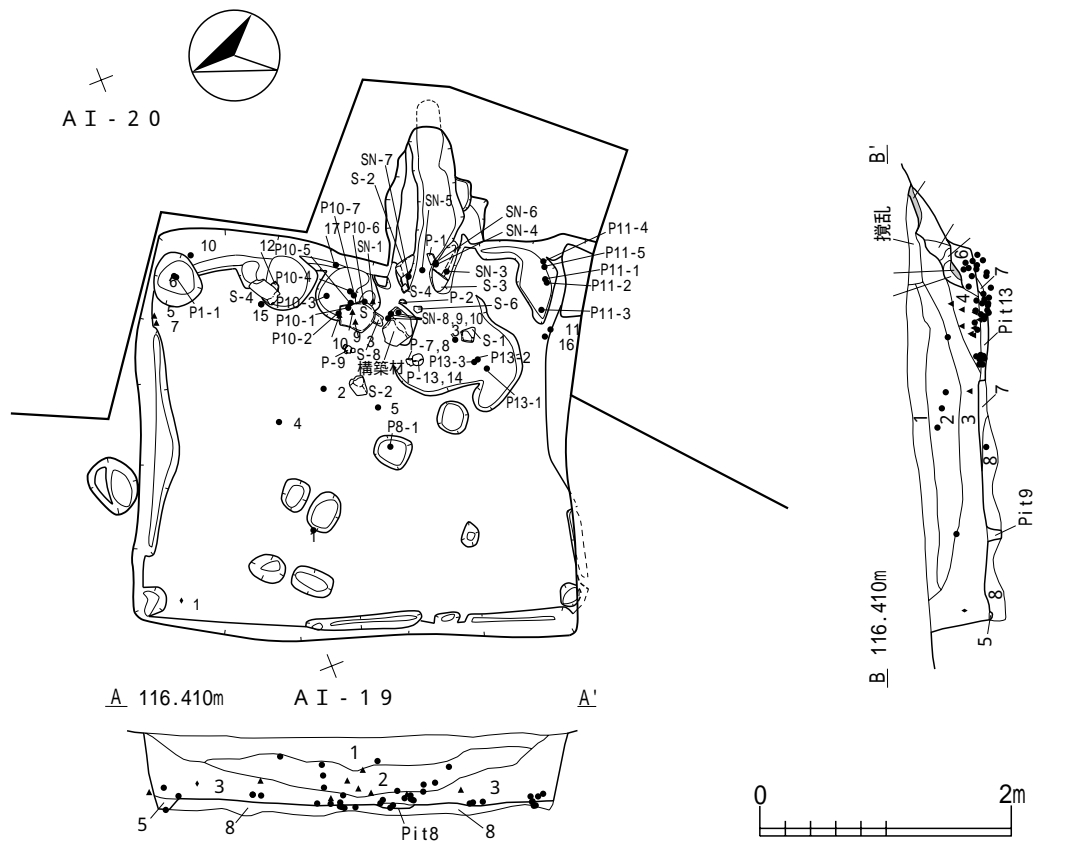


図51 SI-02, SK-04・12, SX-03



SI - 02 Pit 1			
第1層	10YR3/4 暗褐色土	粘性・湿性あり、しまりかなりあり、炭化粒(3-5mm)中量、焼土粒(2-3mm)微量、ローム粒少量混入	
SI - 02 Pit 2			
第1層	10YR4/4 褐色土	粘性強、湿性・しまりあり、ローム粒(2-3mm)多量、炭化粒少量混入	
SI - 02 Pit 3			
第1層	10YR4/6 褐色土	粘性・湿性あり、しまりかなりあり、ローム粒・ロームブロック(5-15mm)・炭化粒少量混入	
第2層	10YR4/4 褐色土	粘性なし、湿性・しまりあり、炭化粒・ローム粒少量混入	
SI - 02 Pit 4			
第1層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	粘性・湿性あまりなし、しまりかなりあり、炭化粒(1-3mm)中量・ローム粒(2-4mm)少量混入	
第2層	10YR4/6 褐色土	粘性・湿性ややあり、しまりかなりあり、炭化粒(1-3mm)少量混入	
SI - 02 Pit 5			
第1層	10YR4/4 褐色土	粘性・湿性なし、しまりかなりあり、炭化粒少量、パミス(2-3mm)・焼土粒微量、ローム粒(3-4mm)中量混入	
第2層	10YR4/6 褐色土	粘性・湿性あり、しまりかなりあり、炭化粒(1-2mm)少量混入	
第3層	10YR4/4 褐色土	粘性・湿性あり、しまりかなりあり、炭化粒少量混入	
SI - 02 Pit 6			
第1層	10YR4/4 褐色土	粘性・湿性なし、しまりかなりあり、炭化粒・焼土粒少量、パミス(2-3mm)微量ローム粒(2-5mm)中量混入	
SI - 02 Pit 7			
第1層	10YR4/4 褐色土	粘性・湿性なし、しまりかなりあり、炭化粒・焼土粒少量、ローム粒(2-3mm)中量、パミス(3-4mm)微量混入	
SI - 02 Pit 8			
第1層	10YR3/4 暗褐色土	粘性・湿性なし、しまりかなりあり、炭化粒(2-4mm)少量、ローム粒(3-4mm)中量、パミス(2-3mm)微量混入	
SI - 02 Pit 9			
第1層	10YR4/6 褐色土	粘性・湿性あり、しまりかなりあり、炭化粒少量混入	
SI - 02 Pit 10			
第1層	10YR5/4 にぶい黄褐色土	粘性・湿性なし、しまりかなりあり、ロームブロック(10-15mm)中量、炭化粒(1-2mm)・焼土粒・パミス(2-3mm)少量混入	
第2層	10YR4/4 褐色土	粘性・湿性ややあり、しまりかなりあり、ローム粒(2-5mm)中量、パミス(2-3mm)・炭化粒(2-3mm)・焼土粒(3-4mm)少量混入	
第3層	10YR3/4 暗褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒・ローム粒少量混入	
第4層	10YR4/6 褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒・ローム粒少量混入	
SI - 02 Pit 11			
第1層	10YR3/4 暗褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(2-3mm)微量、焼土粒(2-4mm)少量、ローム粒(3-4mm)中量混入	
SI - 02 Pit 12			
第1層	10YR3/3 暗褐色土	粘性・湿性あり、しまりかなりあり、炭化粒(2-3mm)・焼土粒少量、ローム粒(3-5mm)中量混入	
SI - 02 Pit 13			
第1層	10YR3/4 暗褐色土	粘性・湿性あり、しまりかなりあり、炭化粒少量、焼土粒(1-2mm)微量、ローム粒(4-5mm)中量混入	
第2層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	粘性・湿性あり、しまりかなりあり、炭化粒(2-3mm)中量、焼土粒(2-3mm)少量、ローム粒(3-6mm)微量混入	
SI - 02 Pit 14			
第1層	10YR3/4 暗褐色土	粘性ややあり、湿性なし、しまりかなりあり、炭化粒(3-4mm)少量、ローム粒(2-3mm)中量混入	
SI - 02 Pit 15			
第1層	10YR3/4 暗褐色土	粘性ややあり、湿性なし、しまりかなりあり、炭化粒(2-3mm)少量、ローム粒(2-3mm)中量混入	
SI - 02 Pit 16			
第1層	10YR4/4 褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1-3mm)中量、焼土粒(1-2mm)・ローム粒(2-3mm)少量混入	
SI - 02 Pit 17			
第1層	7.5YR4/4 褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(4-10mm)・焼土粒(3-4mm)中量、パミス(2-3mm)少量混入	

図52 SI - 02



SI-02 竈

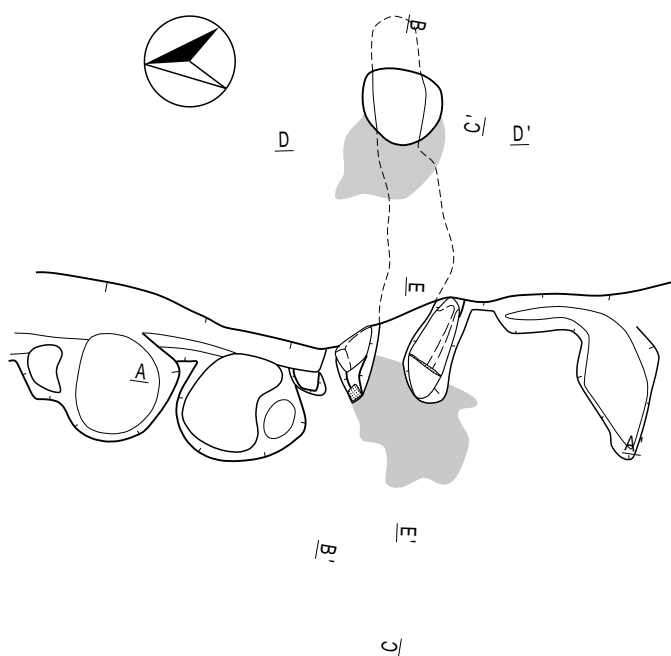
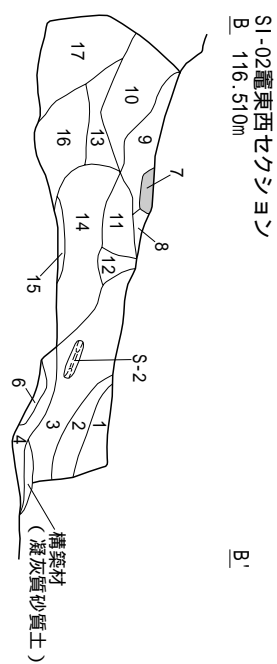
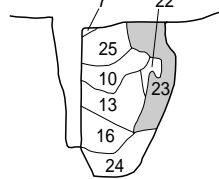
第1層	10YR1.7/1	黒色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(2-3mm)・ローム粒(3-5mm)少量混入
第2層	10YR4/4	褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(2-3mm)少量、ローム粒(2-3mm)中量混入
第3層	10YR3/4	暗褐色土	粘性・湿性・しまりあり、微量、ローム粒(3-5mm)中量混入
第4層	5YR4/4	にぶい赤褐色土	粘性なし、湿性ややあり、しまりあり、炭化粒・ローム粒少量、焼土粒(1-3mm)中量混入
第5層	5YR4/6	赤褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒・焼土粒(4-5mm)少量混入
第6層	7.5YR4/4	褐色土	砂質、粘性・湿性なし、しまりあり、炭化粒・ローム粒(2-3mm)・焼土粒(2-5mm)少量混入
第7層	5YR3/6	暗赤褐色土	粘性・湿性なし、しまり弱、炭化粒少量混入
第8層	10YR3/3	暗褐色土	粘性・湿性なし、しまり弱、ローム粒(2-4mm)中量混入
第9層	10YR3/4	暗褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒中量、焼土粒少量混入
第10層	7.5YR3/4	暗褐色土	粘性・湿性あり、しまりやや弱、炭化粒中量、焼土粒(2-4mm)少量混入
第11層	10YR4/6	褐色土	粘性・湿性ややあり、しまり弱、炭化粒(2-3mm)少量、焼土粒(2-3mm)微量混入
第12層	5YR4/4	にぶい赤褐色土	粘性・湿性ややあり、しまりあり、炭化粒少量混入
第13層	7.5YR3/3	暗褐色土	粘性なし、湿性あり、しまり弱、炭化粒(2-3mm)中量、焼土粒(2-5mm)・ローム粒(1-2mm)少量混入

第14層	7.5YR3/3	暗褐色土	粘性・湿性なし、しまりあり、層全体に焼土ブロック(15-50mm)多量混入、炭化粒(2-3mm)少量混入
第15層	5YR3/6	暗赤褐色土	粘性・湿性なし、しまりかなりあり
第16層	7.5YR4/3	褐色土	粘性なし、湿性あり、しまりややあり、焼土ブロック(30-60mm)多量、炭化粒(1-3mm)中量、ローム粒(3-5mm)少量混入
第17層	7.5YR4/4	褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒・焼土粒(1-2mm)・ローム粒少量混入
第18層	7.5YR4/4	褐色土	粘性・湿性あり、しまりかなりあり、炭化粒(2-5mm)・焼土粒(2-4mm)少量混入
第19層	10YR4/6	褐色土	砂質、粘性・湿性あり、しまりかなりあり、炭化粒・焼土粒(2-4mm)少量混入
第20層	10YR4/6	褐色土	粘性・湿性なし、しまりかなりあり、30-50mmの構築材(凝灰質砂質土)ブロック・炭化粒(3-4mm)少量混入
第21層	5YR5/6	明赤褐色土	粘性なし、湿性ややあり、しまりかなりあり、炭化粒・焼土粒(4-5mm)少量混入
第22層	7.5YR3/3	暗褐色土	粘性・湿性なし、しまりあり、層全体に焼土ブロック(30-40mm)多量混入
第23層	5YR3/6	暗赤褐色土	粘性・湿性なし、しまりあり
第24層	7.5YR4/4	褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量・焼土粒(4-5mm)中量、焼土ブロック(40-50mm)少量混入
第25層	5YR3/6	暗赤褐色土	粘性・湿性なし、しまりかなりあり、固い焼土がブロック状に混入
第26層	5YR3/6	暗赤褐色土	粘性・湿性なし、しまりかなりあり、パミス(2-3mm)少量混入

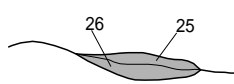
SI-02 竈2

第1層	10YR1.7/1	黒色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(2-3mm)・ローム粒(3-5mm)少量混入
第2層	10YR4/4	褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(2-3mm)少量、ローム粒(2-3mm)中量混入
第3層	10YR3/4	暗褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1-3mm)・焼土粒(2-3mm)少量、パミス(3-4mm)微量、ローム粒(3-5mm)中量混入
第4層	7.5YR3/4	暗褐色土	粘性・湿性なし、しまりあり、炭化粒微量混入
第5層	7.5YR4/4	褐色土	粘性・湿性ややあり、しまりあり、炭化粒(1-2mm)少量混入
第6層	7.5YR4/3	褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒・焼土粒・ローム粒少量混入
第7層	7.5YR4/4	褐色土	粘性・湿性あり、しまりかなりあり、炭化粒(2-5mm)・焼土粒(2-4mm)少量混入
第8層	5YR4/4	にぶい赤褐色土	粘性なし、湿性あり、しまりかなりあり、焼土粒少量、炭化粒(1-2mm)微量混入
第9層	10YR4/6	褐色土	砂質、粘性・湿性あり、しまりかなりあり、炭化粒・焼土粒(2-4mm)少量混入
第10層	5YR3/4	暗赤褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒・焼土粒(3-6mm)少量混入、ローム層中量混入
第11層	7.5YR3/3	暗褐色土	粘性・湿性なし、しまりあり、層全体に焼土ブロック(30-40mm)多量混入

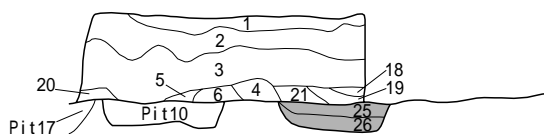
SI-02竈南北セクション
D 116.510m



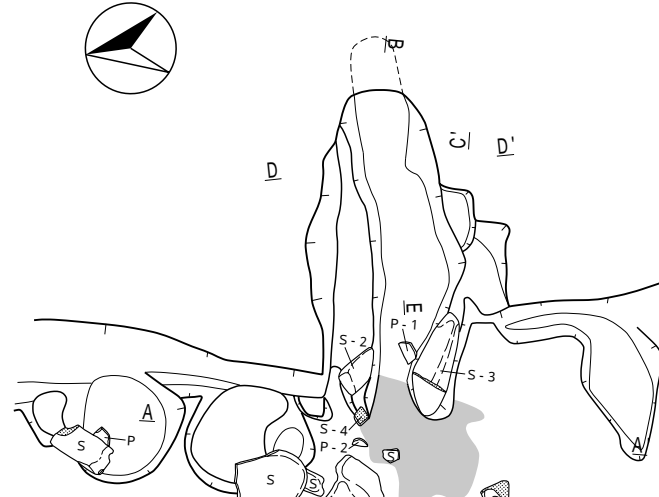
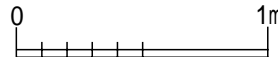
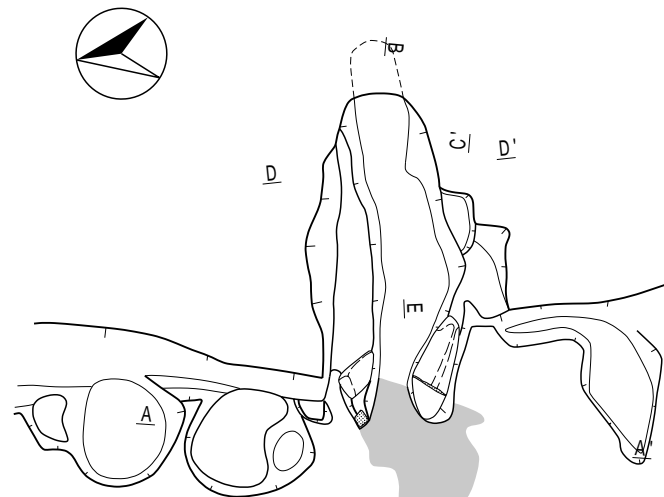
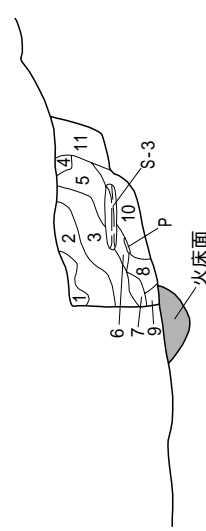
SI-02竈火床面セクション
E 116.110m



SI-02竈南北セクション
A 116.110m



SI-02竈2東西セクション
C 116.510m



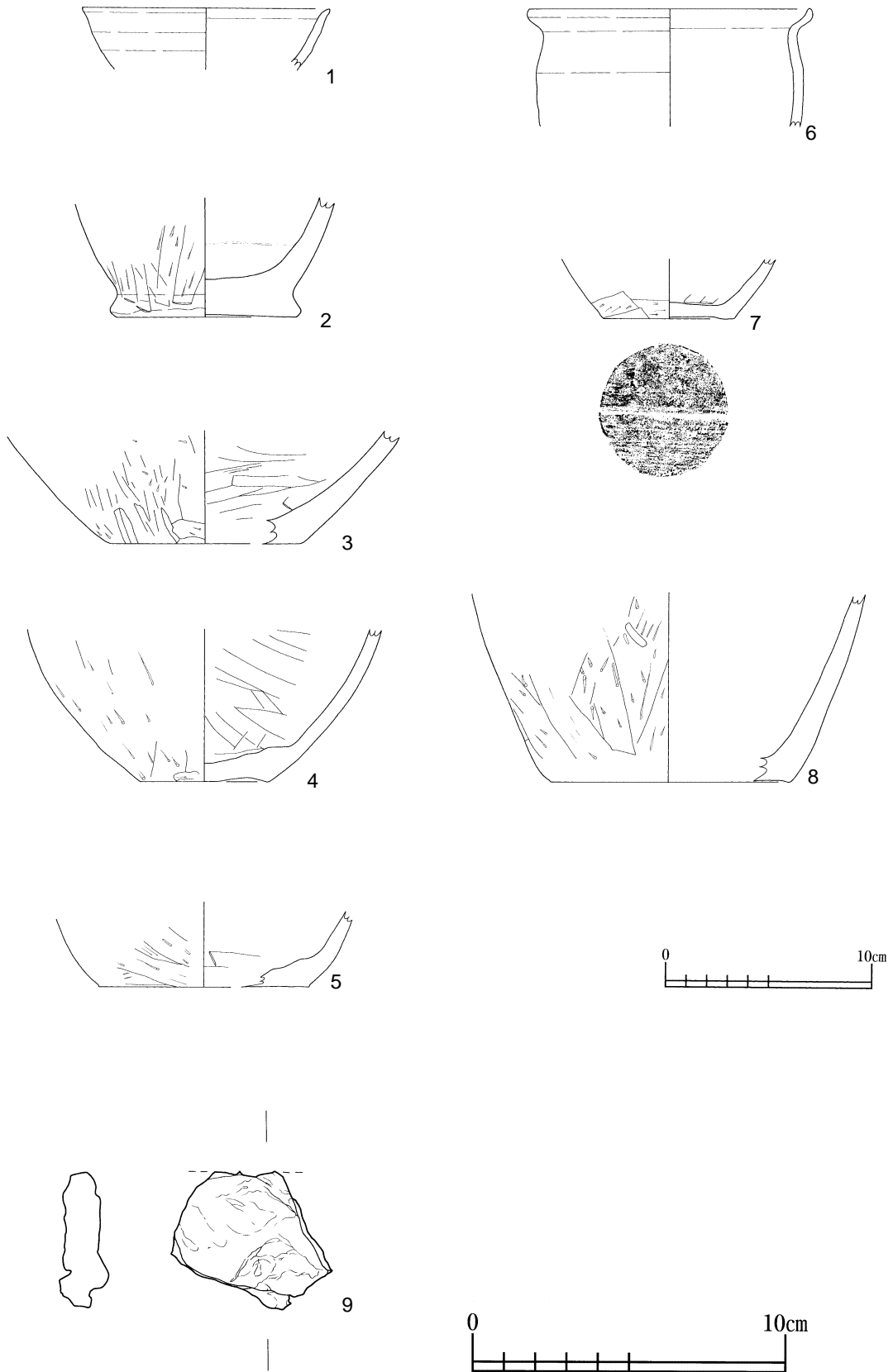
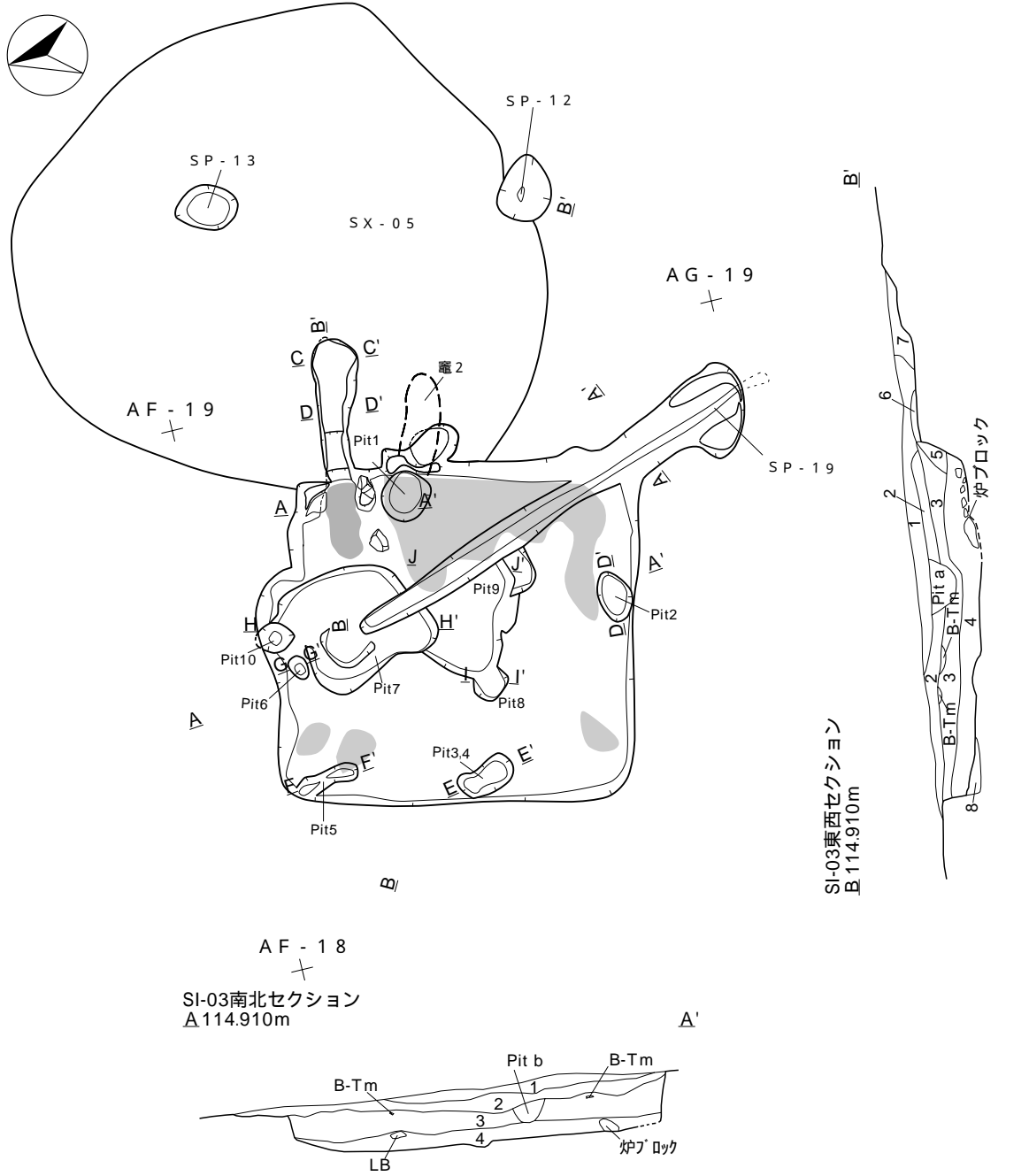


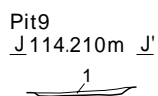
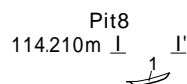
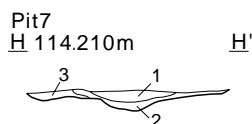
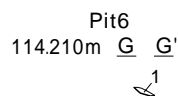
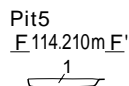
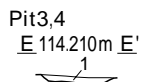
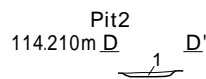
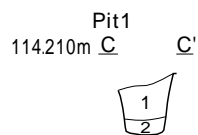
图54 S I - 02



SI-03

第1層	10YR3/1	黒褐色土	シルト質、粘性なし、湿性弱、しまりあり、ローム粒(5-10mm)少量混入
第2層	10YR1.7/1	黒色土	シルト質、粘性なし、湿性ややあり、しまりあり、B-Tm粒状に少量混入
第3層	10YR3/4	暗褐色土	シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、炭化粒(2-5mm)微量、層上部にB-Tm層状に中量混入
第4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	シルト質、粘性なし、湿性・しまりややあり、炭化粒(2-5mm)・ローム粒(5-10mm)中量、焼土粒(5mm)少量、炉壁ブロック(200-300mm)多量混入
第5層	10YR3/3	暗褐色土	シルト質、粘性なし、湿性・しまりあり、炭化粒(2mm)極微量混入
第6層	7.5YR4/4	褐色土	ローム混じりシルト質、粘性ややあり、湿性なし、しまりあり、木根混入
第7層	10YR3/2	黒褐色土	シルト質、粘性・湿性なし、しまりあり、ロームブロック(50mm)微量混入
第8層	7.5YR4/6	褐色土	ローム質、粘性・湿性・しまりあり(貼床)
Pit a	10YR2/2	黒褐色土	シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、炭化粒(2mm)微量混入
Pit b	10YR2/3	黒褐色土	シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(5mm)中量混入

図55 SI-03

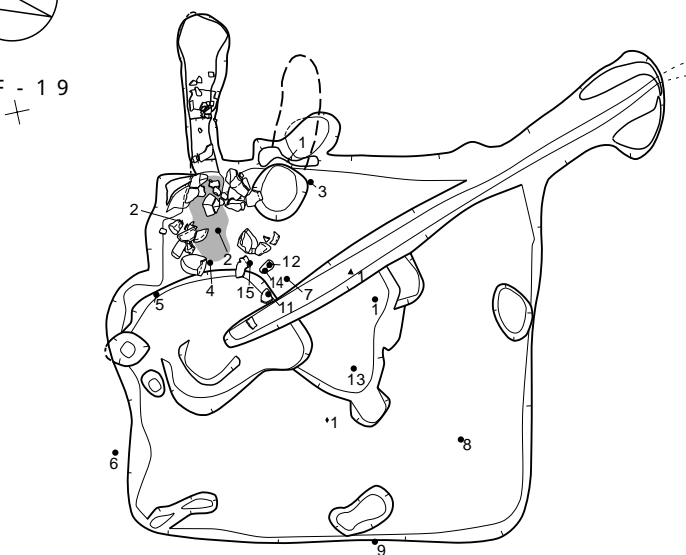


- SI - 03 Pit 1
第1層 10YR4/4 褐色土 ローム質、粘性ややあり、湿性ややあり、しまりなし、ロームブロック(20mm)中量混入
第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム質、粘性・湿性・しまりややあり、ローム粒(2-5mm)少量混入
- SI - 03 Pit 2
第1層 10YR4/6 褐色土 ローム質、粘性・しまりあり、湿性ややあり、炭化粒(2-10mm)微量混入
- SI - 03 Pit 3・4
第1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム質、粘性・しまりあり、湿性ややあり、ローム粒(2mm)微量混入
- SI - 03 Pit 5
第1層 10YR4/4 褐色土 ローム質、粘性ややあり、湿性・しまりあり、炭化粒(2mm)微量、ローム粒(2-5mm)少量混入
- SI - 03 Pit 6
第1層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、炭化粒(2mm)極微量混入
- SI - 03 Pit 7
第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム質、粘性ややあり、湿性あり、しまりなし、焼土ブロック(20-30mm)多量、青灰色ブロック(20-40mm)中量混入、パミスが層上部に堆積する
第2層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性・しまりなし、湿性あり、炭化粒(2mm)極微量・焼土粒(5mm)微量混入
第3層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、炭化粒(2mm)少量混入
- SI - 03 Pit 8
第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム質、粘性・湿性ややあり、しまりあり、炭化粒(2mm)極微量、ローム粒(5-10mm)少量混入
- SI - 03 Pit 9
第1層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、炭化粒(2-5mm)中量、ローム粒(2-5mm)少量混入

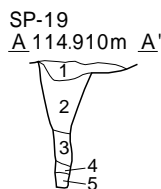


AF - 19

AG - 19

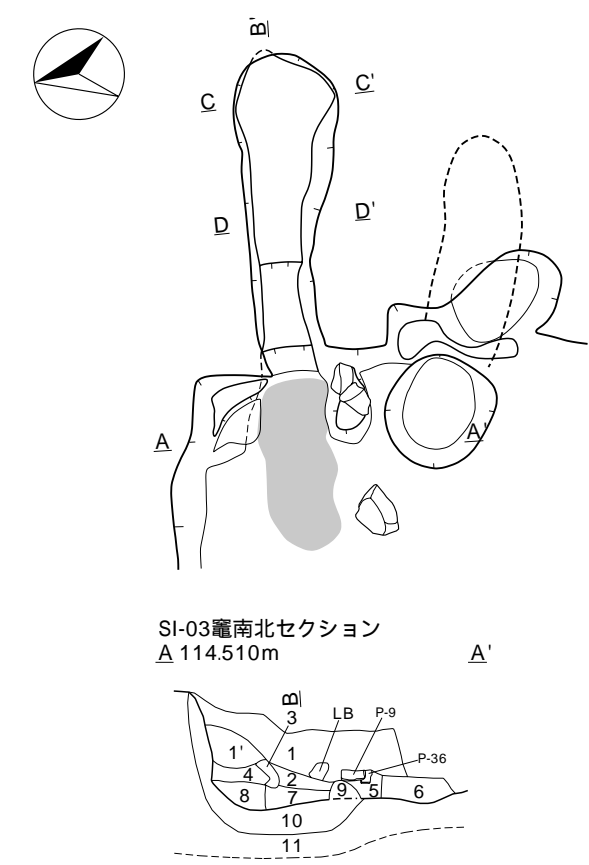


AG - 18

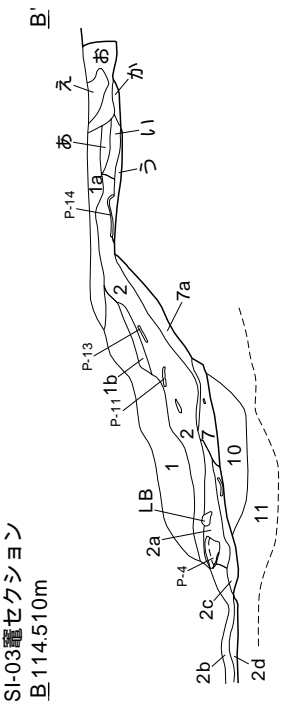
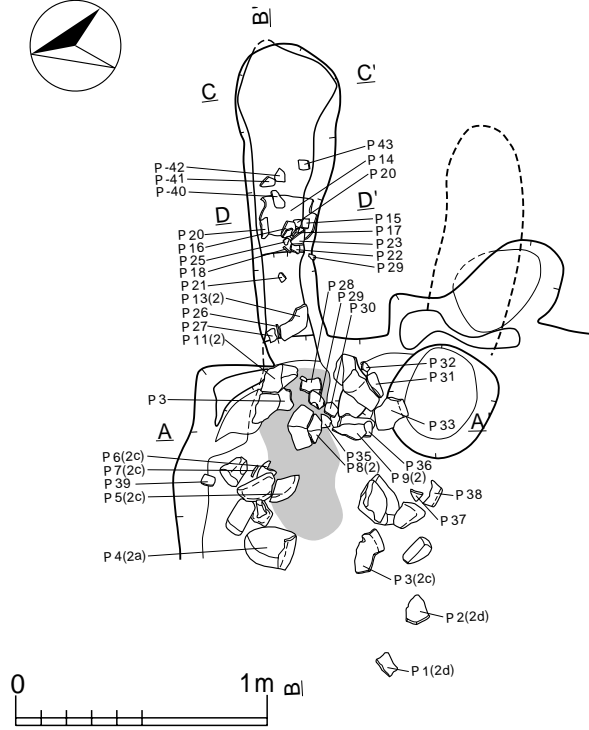


- SP - 19
第1層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性ややあり、しまりあり、炭化粒(5mm)微量、ローム粒(2-5mm)少量混入
第2層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性ややあり、しまりあり、炭化粒(5mm)微量、ローム粒(3-6mm)少量、ロームブロック混入
第3層 10YR4/6 褐色土 ローム質、粘性・しまりあり、湿性ややあり、ローム粒(3-6mm)・炭化粒(3-6mm)微量、ロームブロック混入
第4層 10YR4/6 褐色土 ローム質、粘性・しまりあり、湿性ややあり、炭化粒(2-4mm)極微量混入
第5層 10YR5/6 黄褐色土 ローム質、粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1-3mm)極微量混入

図56 SI - 03



SI-03竈南北セクション
A 114.510m



SI-03竈煙出セクション
C 114.610m

SI-03竈煙道セクション
D 114.610m

SI - 03 竈

第1層	7.5YR4/4	褐色土	ローム質、粘性・湿性・しまりややあり、カヤ状炭化粒(2-5mm)・ロームブロック(10-15mm)微量、焼土化した炉壁ブロック(10mm)少量混入
第1a層	10YR3/3	暗褐色土	シルト質、粘性・湿性なし、しまりややあり、焼土粒(2mm)微量混入
第1b層	7.5YR3/2	黒褐色土	シルト質、粘性・しまりなし、湿性あり、焼土粒(2-5mm)中量混入
第1'層	10YR4/6	褐色土	ローム質、粘性・湿性・しまりややあり、炭化粒(2mm)極微量、壁際に炉壁(50-70mm)中量混入
第2層	7.5YR4/3	褐色土	バミス質、粘性・しまり弱、湿性ややあり、炭化粒(2mm)微量・焼土化した炉壁ブロック(20-50mm)・ロームブロック(20-30mm)中量混入
第2a層	7.5YR3/4	暗褐色土	バミス質、粘性・しまりなし、湿性ややあり、炭化粒(5mm)・焼土ブロック(100mm)微量混入
第2b層	7.5YR4/3	褐色土	ローム質、粘性・しまり・湿性あり、焼土粒(2mm)微量混入
第2c層	7.5YR4/6	褐色土	バミス質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、焼土粒(2-5mm)少量混入
第2d層	7.5YR4/6	褐色土	
第3層	7.5YR5/6	明褐色土	ローム質、粘性あり、湿性弱、しまりややあり、小礫(5-10mm)微量混入
第4層	7.5YR4/3	褐色土	ローム質、粘性ややあり、湿性・しまり弱、焼土粒(5-10mm)多量混入
第5層	7.5YR4/2	灰褐色土	バミス質、粘性・しまりなし、湿性弱、焼土ブロック(20-50mm)中量混入
第6層	10YR3/3	暗褐色土	シルト質、粘性・しまりなし、湿性弱、焼土化した炉壁ブロック(20mm)少量、アーク(10-15mm)中量混入
第7層	7.5YR4/3	褐色土	シルト質、粘性なし、湿性・しまりややあり、炉壁、土器片含む
第7a層	5YR3/6	暗赤褐色土	ローム質、粘性・しまりあり、湿性ややあり
第8層	5YR3/6	暗赤褐色土	ローム質、粘性・しまりあり、湿性なし
第9層	5YR4/8	赤褐色土	ローム質、粘性・湿性あり、しまり弱、焼土粒(10mm)中量混入
第10層	2.5YR3/6	暗赤褐色土	ローム質、粘性・湿性なし、しまり弱、火床面硬質化
第11層	7.5YR4/6	褐色土	ローム質、粘性・湿性あり、しまりややあり、(SX-0.5の影響層)
お層	10YR4/6	褐色土	ローム質、粘性・湿性・しまりあり、焼土粒(5-10mm)中量、小石等少量混入
か層	5YR3/6	暗赤褐色土	ローム質、粘性・しまりあり、湿性ややあり
き層	7.5YR3/4	暗褐色土	シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、炭化粒(1-7mm)少量、焼土粒(5mm)微量混入
く層	7.5YR2/3	極暗褐色土	シルト質、粘性・しまりなし、湿性あり

図57 SI - 03

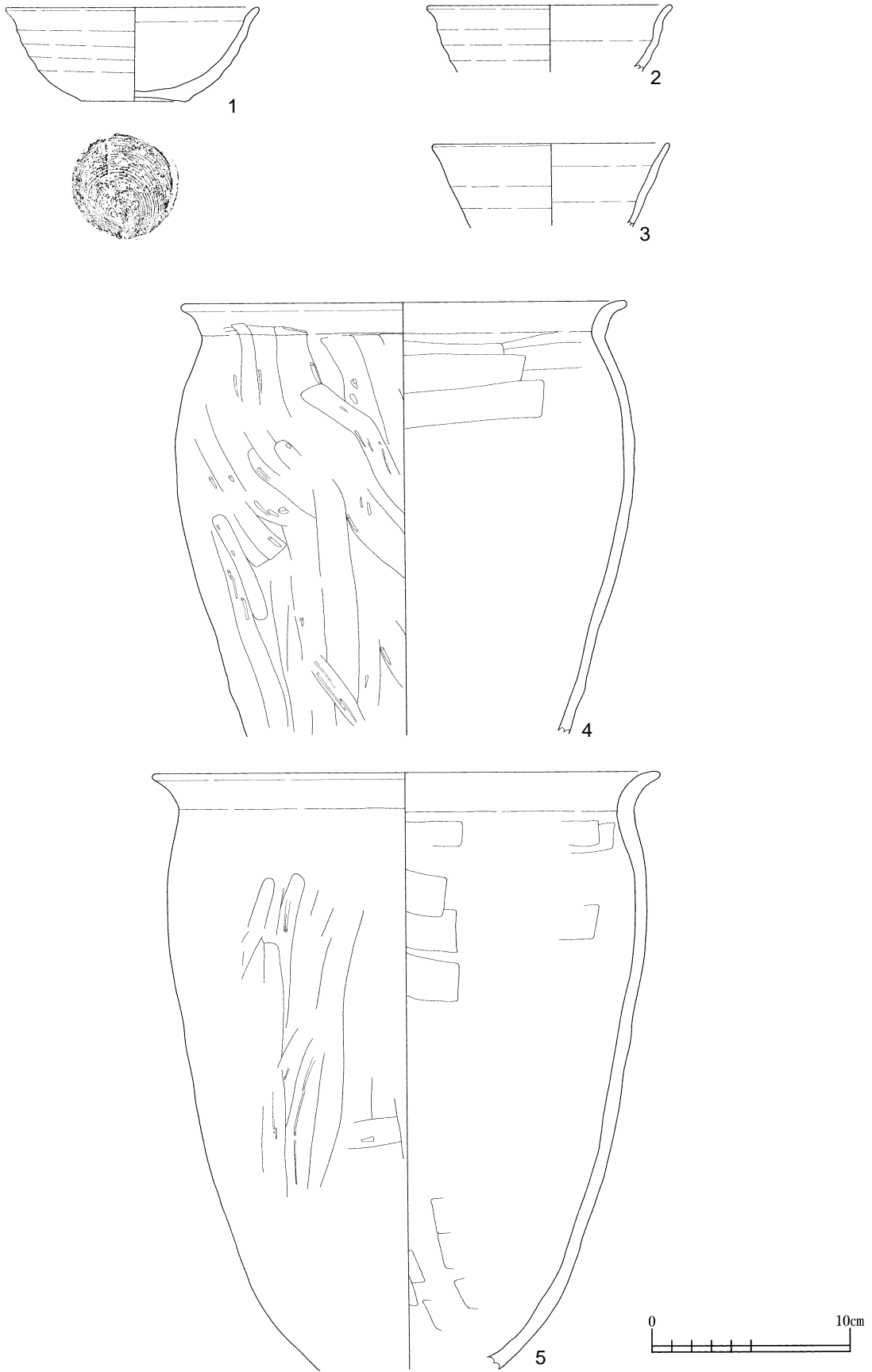


图58 S I - 03

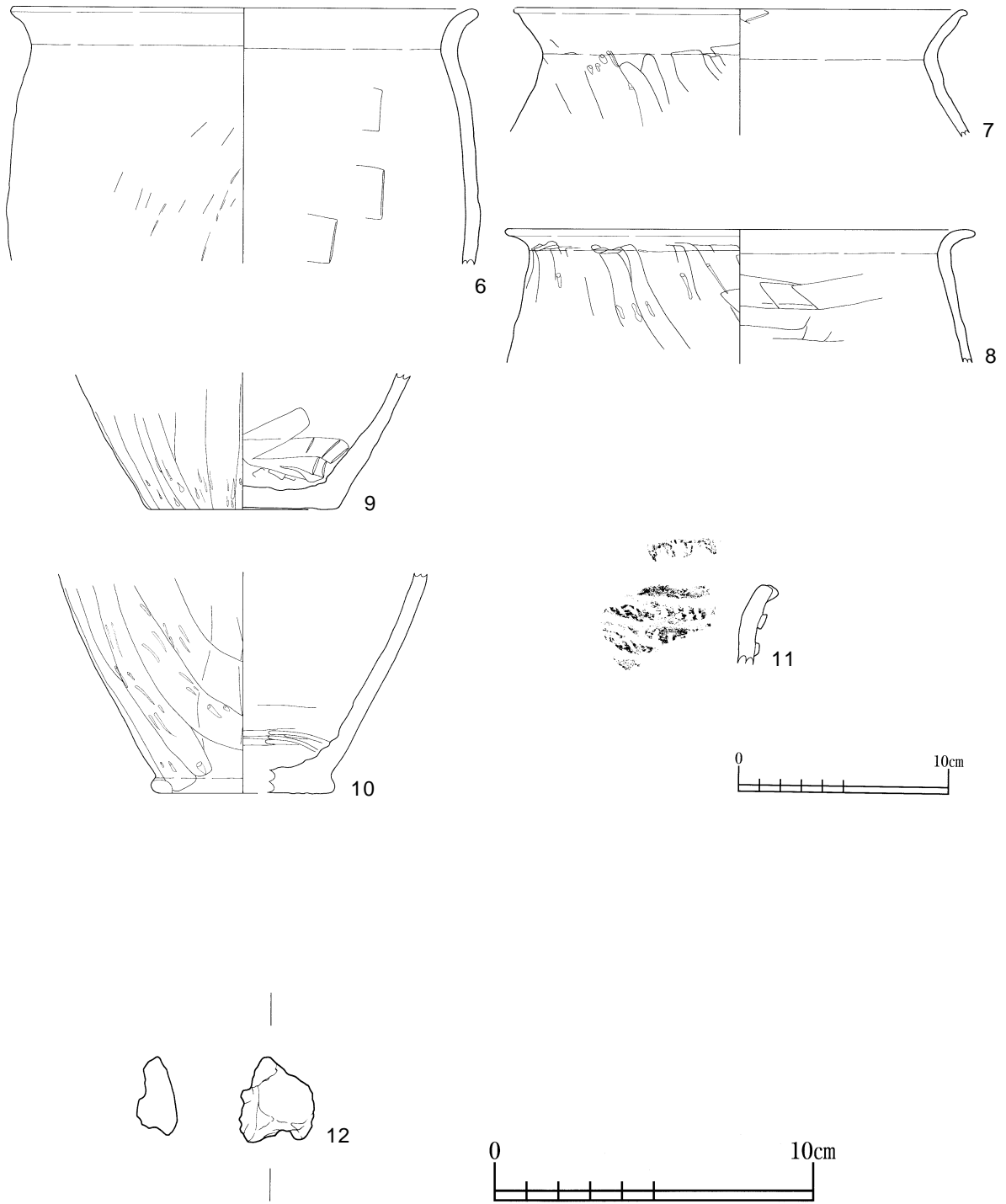
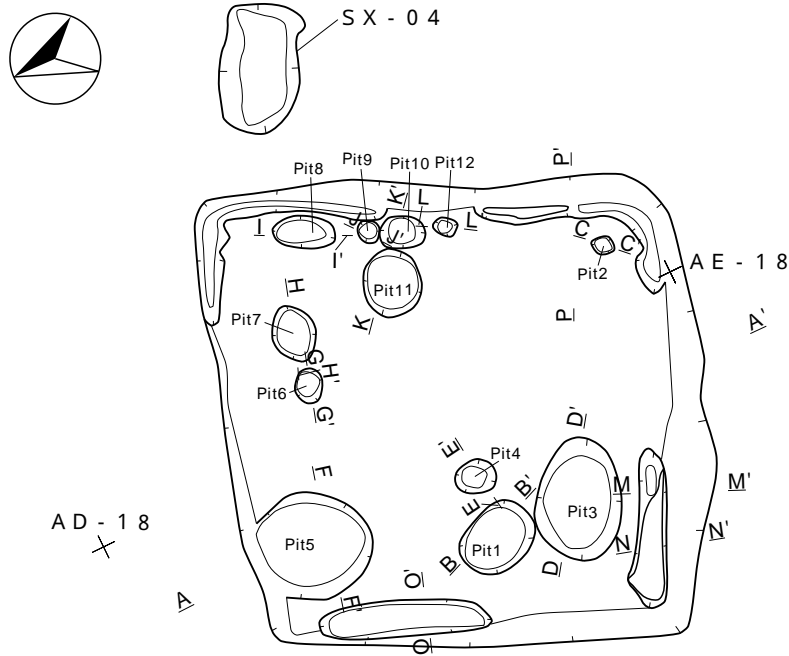
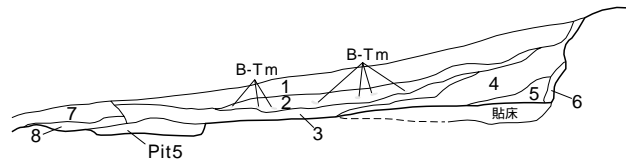
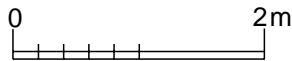


図59 S I - 03



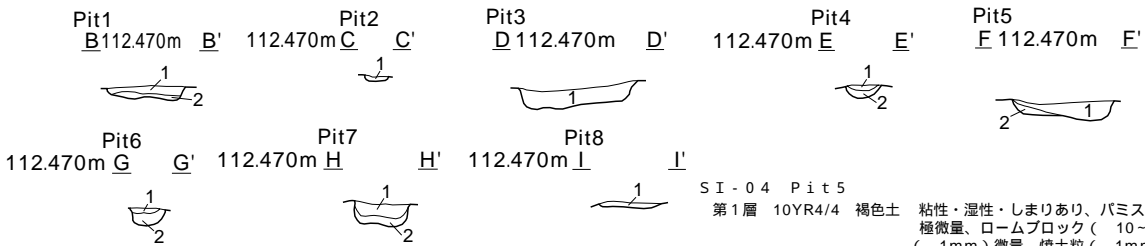
SI-04南北セクション
A 113.270m



SI - 04

- 第1層 10YR1.7/1 黒色土 シルト質、粘性なし、湿性ややあり、しまりややあり、ローム粒(1-5mm)少量、炭化粒(2mm)極微量、焼土粒(1mm)微量混入
- 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性・しまりあり、B-Tm帯状に混入、炭化粒(1-5mm)少量、パミス微量混入
- 第3層 10YR4/2 灰黄褐色土 シルト質、粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1-10mm)中量、焼土粒(2-5mm)少量、焼土ブロック(20mm)微量、パミス極微量混入
- 第4層 10YR4/6 褐色土 ローム質、粘性強、湿性あり、固くしまりあり、ローム(7.5YR4/4)少量、炭化物(10mm)微量混入
- 第5層 7.5YR4/4 褐色土 ローム質、粘性・湿性強、固くしまりあり

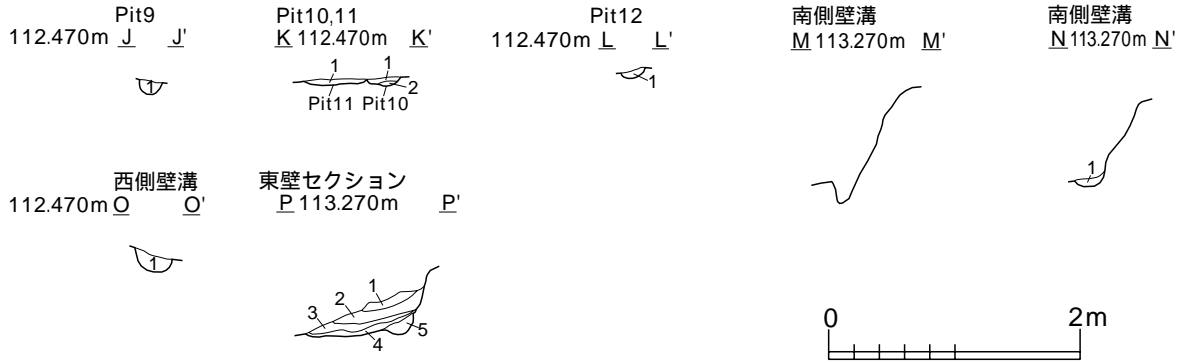
- 第6層 7.5YR4/6褐色土と10YR2/1黒色土との混合層 粘性・湿性あり、しまり下層にいくにつれて弱くなる。
- 第7層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘性・湿性・しまりややあり、根クランによる黒色土(10YR2/1)が層上部に少量混入
- 第8層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり、パミス(1mm)極微量混入
- 貼床 10YR5/6 黄褐色土 ローム質、粘性・湿性強・しまりあり、小礫(1-3mm)微量混入



- SI - 04 Pit 1
第1層 10YR4/6 褐色土 粘性・湿性なし、固くしまりあり、ロームブロック(10-20mm)少量、炭化粒(1mm)極微量混入
第2層 10YR5/6 黄褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(5mm)少量、パミス(1mm)極微量混入
- SI - 04 Pit 2
第1層 7.5YR4/6 褐色土 粘性・湿性強、しまりややあり
- SI - 04 Pit 3
第1層 7.5YR5/6 明褐色土 粘性あり、湿性強、固くしまりあり、ロームブロック(70mm)極微量、炭化粒(1mm)少量混入
- SI - 04 Pit 4
第1層 10YR4/6 褐色土 粘性・湿性あり、固くしまりあり、パミス(1mm)極微量混入
第2層 7.5YR5/6 明褐色土 粘性・湿性あり、固くしまりあり

- SI - 04 Pit 5
第1層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、パミス(20mm)極微量、ロームブロック(10-20mm)少量、炭化粒(1mm)微量、焼土粒(1mm)極微量混入
第2層 10YR4/6 褐色土 ローム層
- SI - 04 Pit 6
第1層 10YR4/6 褐色土 粘性・湿性あり、固くしまりあり、パミス(1mm)極微量混入
第2層 10YR4/6 褐色土 ローム層
- SI - 04 Pit 7
第1層 10YR4/6 褐色土 粘性・湿性ややあり、固くしまりあり、パミス(1-3mm)少量混入
第2層 7.5YR4/6 褐色土 ローム層
- SI - 04 Pit 8
第1層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性なし、しまりあり、パミス(1mm)・炭化粒(1mm)極微量混入

図60 SI - 04



SI - 04 Pit 9

第1層 10YR4/6 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、パミス (1mm) 極微量混入

SI - 04 Pit 10

第1層 10YR4/6 褐色土 粘性ややあり、湿性・しまりあり、炭化粒 (1mm)・パミス (1mm以下) 極微量混入

第2層 7.5YR4/6 褐色土 ローム質、粘性・湿性強、固くしまりあり

SI - 04 Pit 11

第1層 10YR4/6 褐色土 粘性ややあり、湿性・しまりあり、炭化粒 (1~5mm) 少量混入

SI - 04 Pit 12

第1層 7.5YR4/6 褐色土 粘性・湿性強、固くしまりあり、パミス (1mm) 極微量混入

SI - 04 南側壁溝

第1層 10YR2/3黒褐色土と10YR4/4褐色土との混合土 粘性あり、湿性・しまりややあり、石英 (細粒) 微量混入

SI - 04 西側壁溝

第1層 10YR4/4 褐色土 粘性強、湿性あり、固くしまりあり、炭化粒 (1mm) 微量混入

SI - 04 東壁セクション

第1層 10YR4/4 褐色土 ローム質、粘性・湿性強、固くしまりあり

第2層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ロームブロック (10~15mm)・炭化粒 (1mm) 微量混入

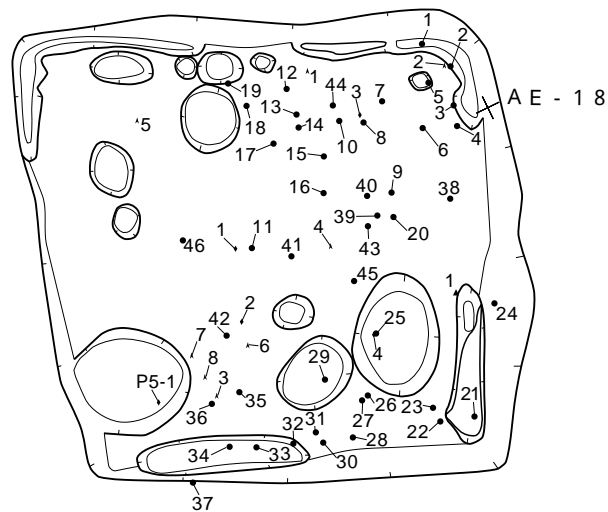
第3層 7.5YR4/4 褐色土 ローム層 粘性あり、湿性強、しまりややあり、炭化粒 (1~2mm) 微量混入

第4層 7.5YR4/4 褐色土 ローム層、粘性・湿性強、固くしまりあり

第5層 10YR4/6 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、パミス (1~5mm) 微量、炭化粒 (1mm) 極微量混入



AD - 18



SI-04南北セクション
A 113.270m

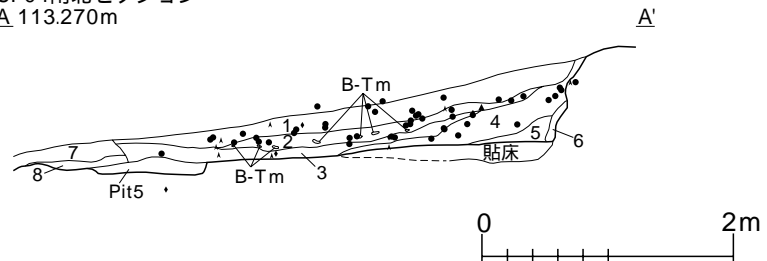


図61 SI - 04

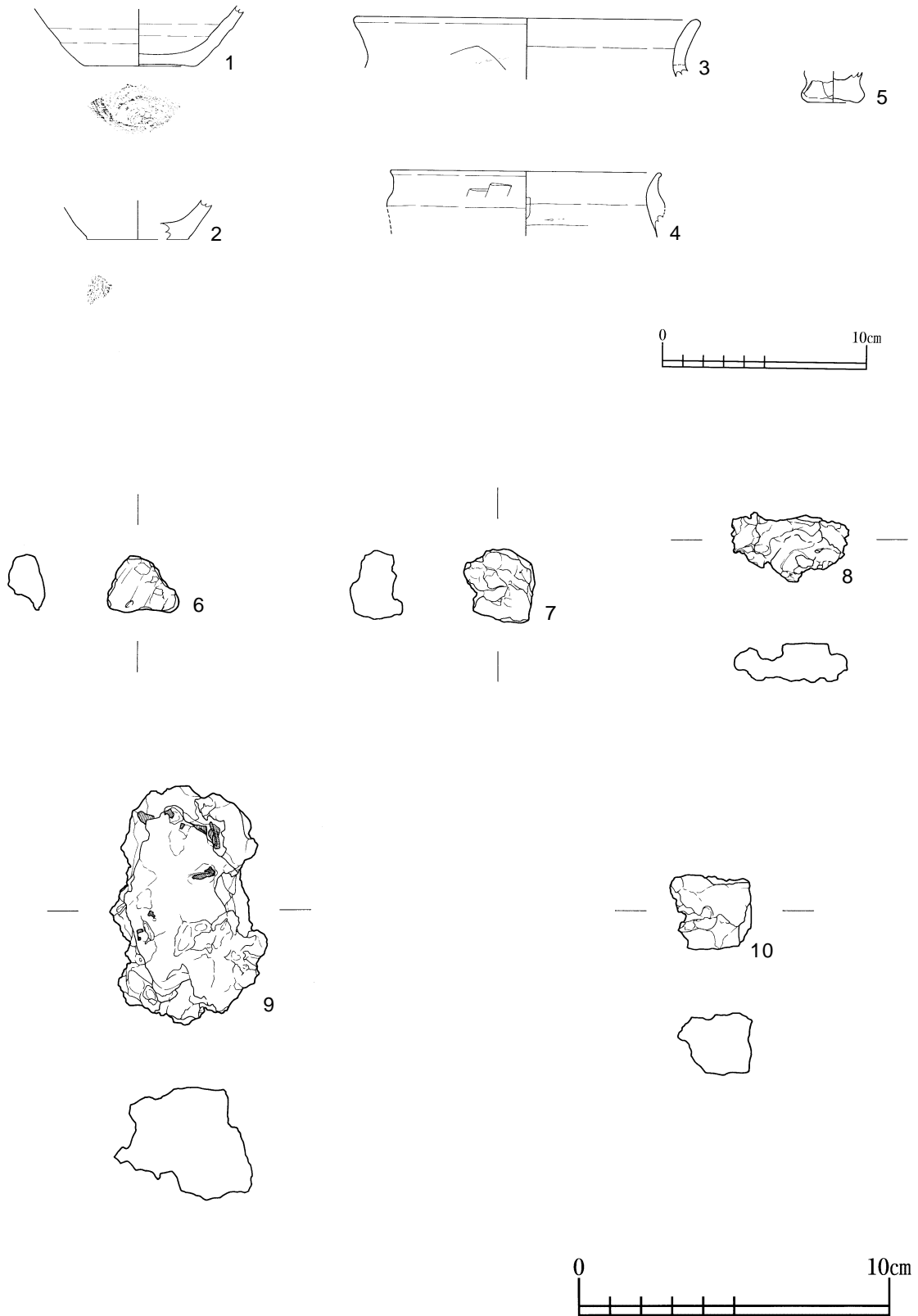
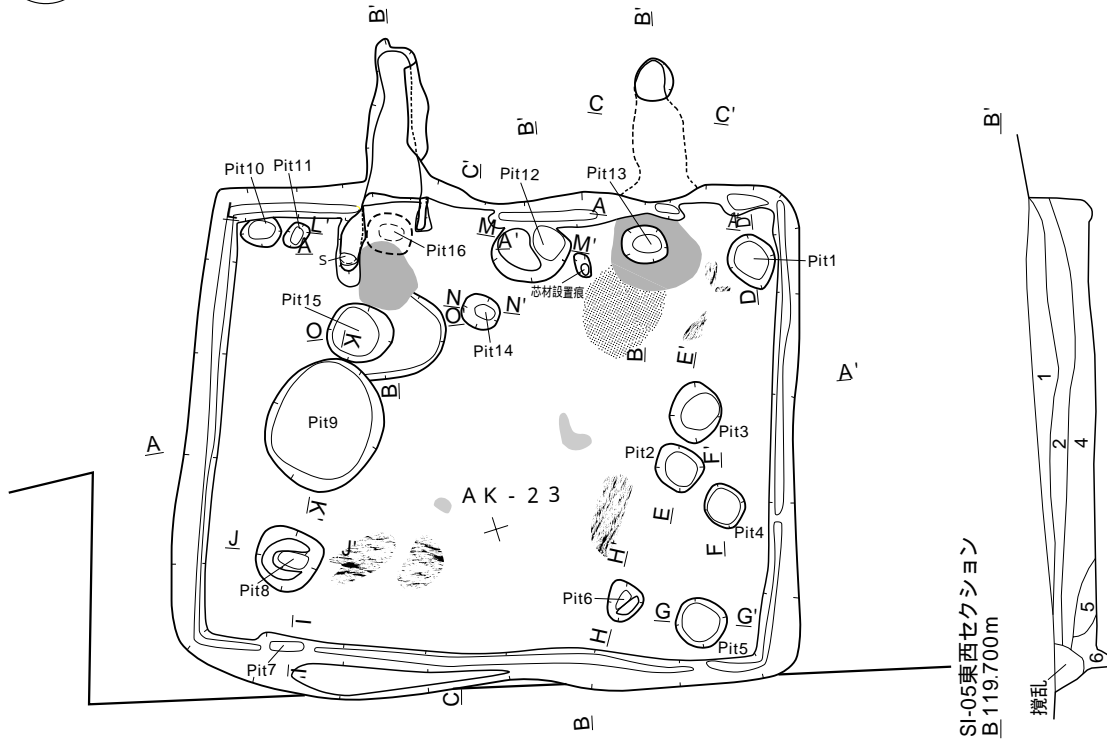


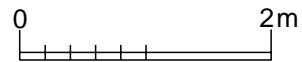
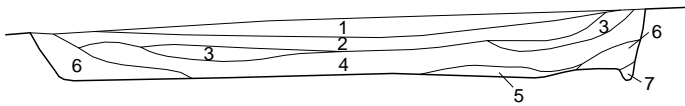
图62 S I - 04



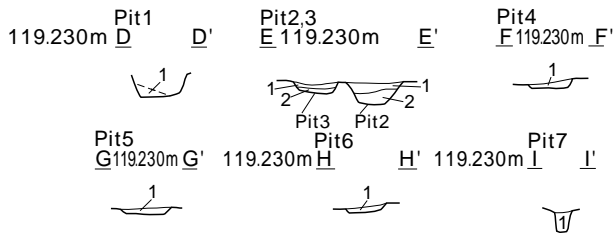
A K - 2 4



SI-05南北セクション
A 119.700m



SI-05エレベーション
C 119.730m



SI - 05 Pit 1

第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム質、粘性・しまり弱、湿性あり、炭化粒(5mm) 微量、ローム粒(2~5mm) 少量混入

SI - 05 Pit 2

第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム混じりシルト質、粘性弱、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(2~5mm) 少量混入
第2層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性弱、湿性あり、しまりややあり、炭化物(20mm) 極微量、焼土粒(5mm) 微量混入

SI - 05 Pit 3

第1層 7.5YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、炭化粒(2mm) 微量、焼土粒(5~10mm) 多量混入
第2層 10YR4/6 褐色土 ローム質、粘性・湿性・しまりあり、焼土粒(2mm) 少量混入

SI - 05

第1層 10YR2/1 黒色土 シルト質、粘性なし、湿性弱、しまりややあり、木草根上面に混入

第2層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性弱、しまりややあり、粒状のB-Tm(2~15mm) 層状に微量、炭化粒(2mm) 極微量混入

第3層 10YR3/2 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性・しまり弱、ローム粒(5~10mm) 中量、炭化粒(2~5mm) 少量混入

第4層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性・しまり弱、ローム粒(2~10mm) 中量、ロームブロック(20~50mm) ・炭化粒(2~10mm) 少量混入

第5層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性弱、しまりややあり、ローム粒(1~2mm) ・ロームブロック(100~150mm) ・焼土ブロック(50mm) 微量、炭化粒(2mm) 極微量、炭化材(70mm) 少量混入

第6層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性・しまり弱、ローム粒(2~5mm) 少量混入

第7層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性・しまり弱、ローム粒(2~5mm) 少量混入

第a層 10YR5/6 黄褐色土 パミス質、粘性・湿性なし、しまり弱、炭化粒(5mm) 微量混入

SI - 05 Pit 4

第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム質、粘性弱、湿性・しまりあり、焼土粒(2~5mm) 中量混入

SI - 05 Pit 5

第1層 10YR4/3にぶい黄褐色土と10YR3/1黒褐色土と混合土 ローム混じりシルト質、粘性ややあり、湿性あり、しまり弱


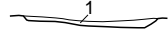
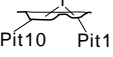


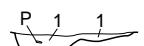
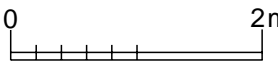
SI - 05 Pit 6

第1層 7.5YR3/4 暗褐色土 ローム混じりシルト質、粘性ややあり、湿性あり、しまり弱

SI - 05 Pit 7

第1層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、礫(50mm)、ローム粒(2~5mm) 中量混入

図63 SI - 05

- | | | |
|---|--|--|
| <p>Pit8
J 119.230m J'</p>  | <p>Pit9
K 119.230m K'</p>  | <p>SI - 05 Pit 8
第1層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(2-5mm)少量混入
第2層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱
第3層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱
ローム粒(2-10mm)中量混入
第4層 10YR4/6 褐色土 ローム質、粘性・湿性あり、しまりややあり</p> |
| <p>Pit10.11
L 119.230m L'</p>  | <p>Pit12
M 119.230m M'</p>  | <p>SI - 05 Pit 9
第1層 7.5YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、炭化粒(2-5mm)中量、炭化粒(2mm)微量混入</p> <p>SI - 05 Pit 10
第1層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、焼土ブロック(50mm)微量混入</p> |
| <p>Pit14
N 119.230m N'</p>  | <p>Pit15
O 119.230m O'</p>  | <p>SI - 05 Pit 11
第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、炭化粒(2mm)・焼土粒(2mm)微量混入</p> <p>SI - 05 Pit 12
第1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム混じりシルト質、粘性・しまり弱、湿性あり、ローム粒(5-10mm)少量、焼土粒(2mm)極微量混入</p> |
| <p>0 2m</p>  | | <p>SI - 05 Pit 13
第1層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、焼土粒(火床面カクラン粒、5-10mm)中量混入
第2層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、焼土粒(10mm)少量混入</p> <p>SI - 05 Pit 14
第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(2mm)微量混入</p> <p>SI - 05 Pit 15
第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、湿性あり、しまりややあり、粘性なし、炉壁破片・焼土粒(5mm)・炭化粒(10mm)中量混入</p> |

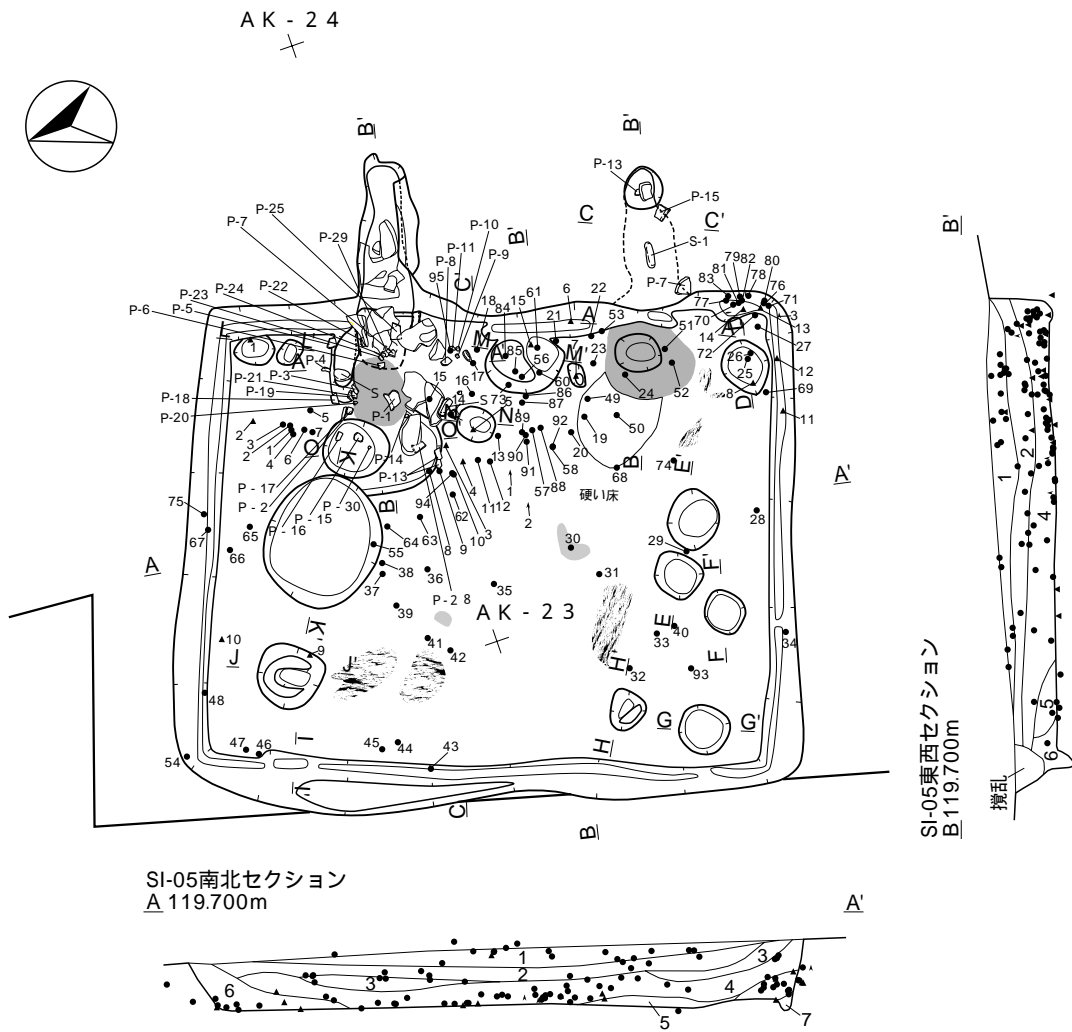
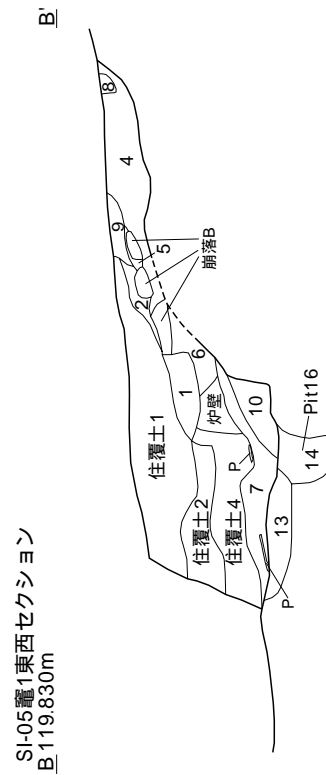
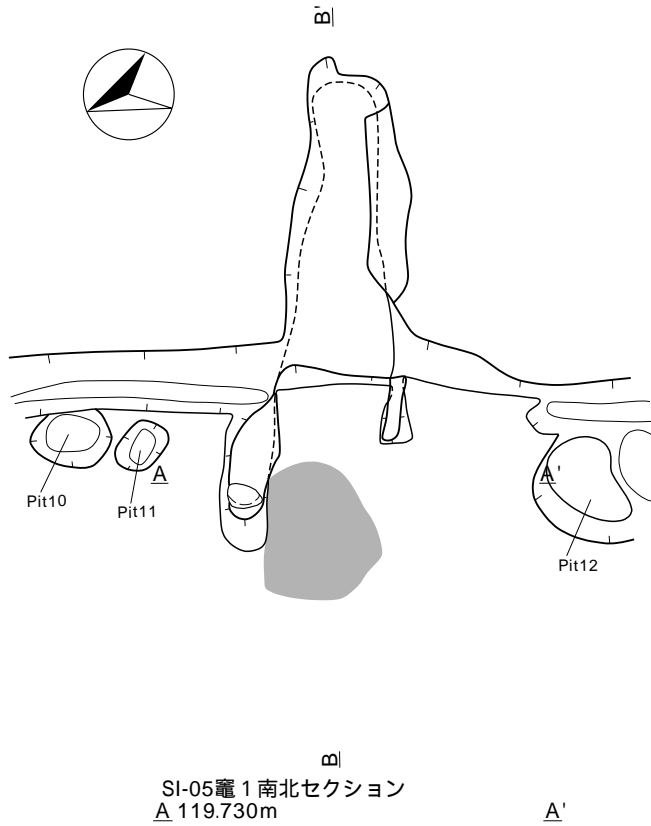
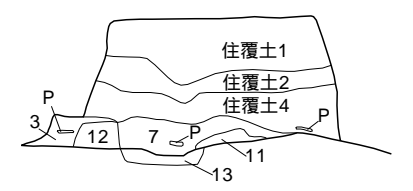


図64 SI - 05

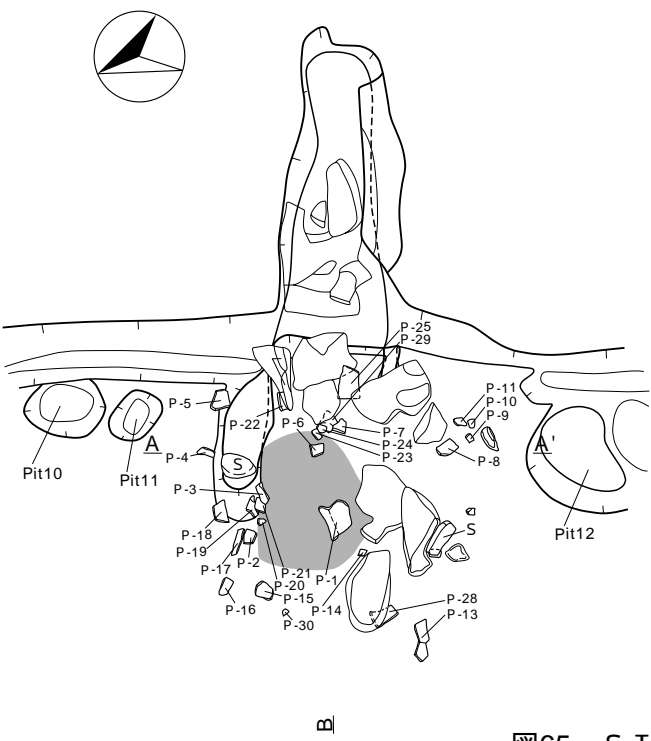


SI-05竈1 南北セクション
A 119.730m

SI-05竈1 東西セクション
B 119.830m



B



B

SI - 05 竈1		
第1層	10YR2/3 黒褐色土	シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、ロームブロック(20mm)・焼土粒(10~15mm)微量混入
第2層	7.5YR2/3 極暗褐色土	シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、炉壁構築用ロームブロック(15~20mm)少量、炉壁構築用ローム粒(5mm)微量混入
第3層	7.5YR3/3 暗褐色土	シルト質、粘性なし、湿性ややあり、しまり弱、焼土粒(5mm)少量混入
第4層	10YR3/3 暗褐色土	シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(10mm)・炭化粒(1mm)・焼土粒(5mm)極微量混入
第5層	7.5YR3/4 暗褐色土	シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり弱、ローム粒(2~5mm)・崩落ブロック(70~100mm)少量混入
第6層	7.5YR2/3 極暗褐色土	シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、炉壁構築用ロームブロック(15~20mm)中量、炉壁構築用ローム粒(5~10mm)少量混入
第7層	7.5YR4/6 褐色土	シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、焼土ブロック(10~15mm)中量混入
第8層	10YR4/6 褐色土	ローム質、粘性・しまりややあり、湿性あり、パミス(10mm)少量混入
第9層	7.5YR3/4 暗褐色土	ローム混じりシルト質、炉壁構築用ロームブロック(15~20mm)多量、焼土粒(2~10mm)少量混入
第10層	10YR2/3 黒褐色土	シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、焼土粒(5mm)・ローム粒(5~10mm)中量混入
第11層	10YR3/4 暗褐色土	シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(5~10mm)中量混入
第12層	7.5YR4/4 褐色土	シルト混じりローム質、粘性・湿性・しまりあり、焼土粒(5mm)中量混入
第13層	2.5YR4/6 赤褐色土	ローム質、粘性・湿性なし、しまりあり、火床面
第14層	7.5YR2/3 極暗褐色土	シルト質、粘性なし、湿性・しまりややあり(Pit16フク土)

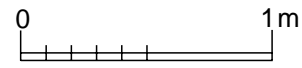


図65 SI - 05

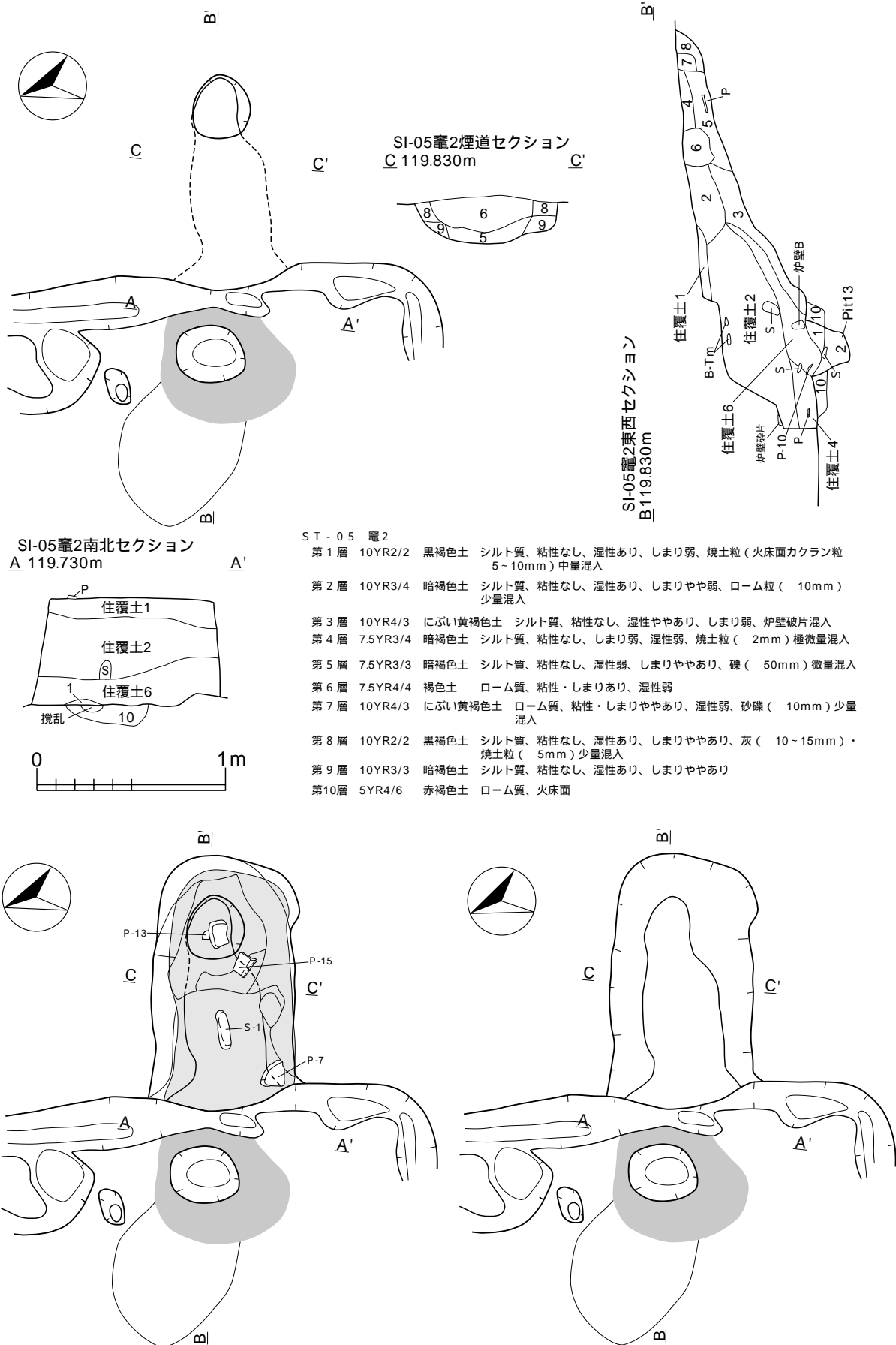


図66 S I - 05

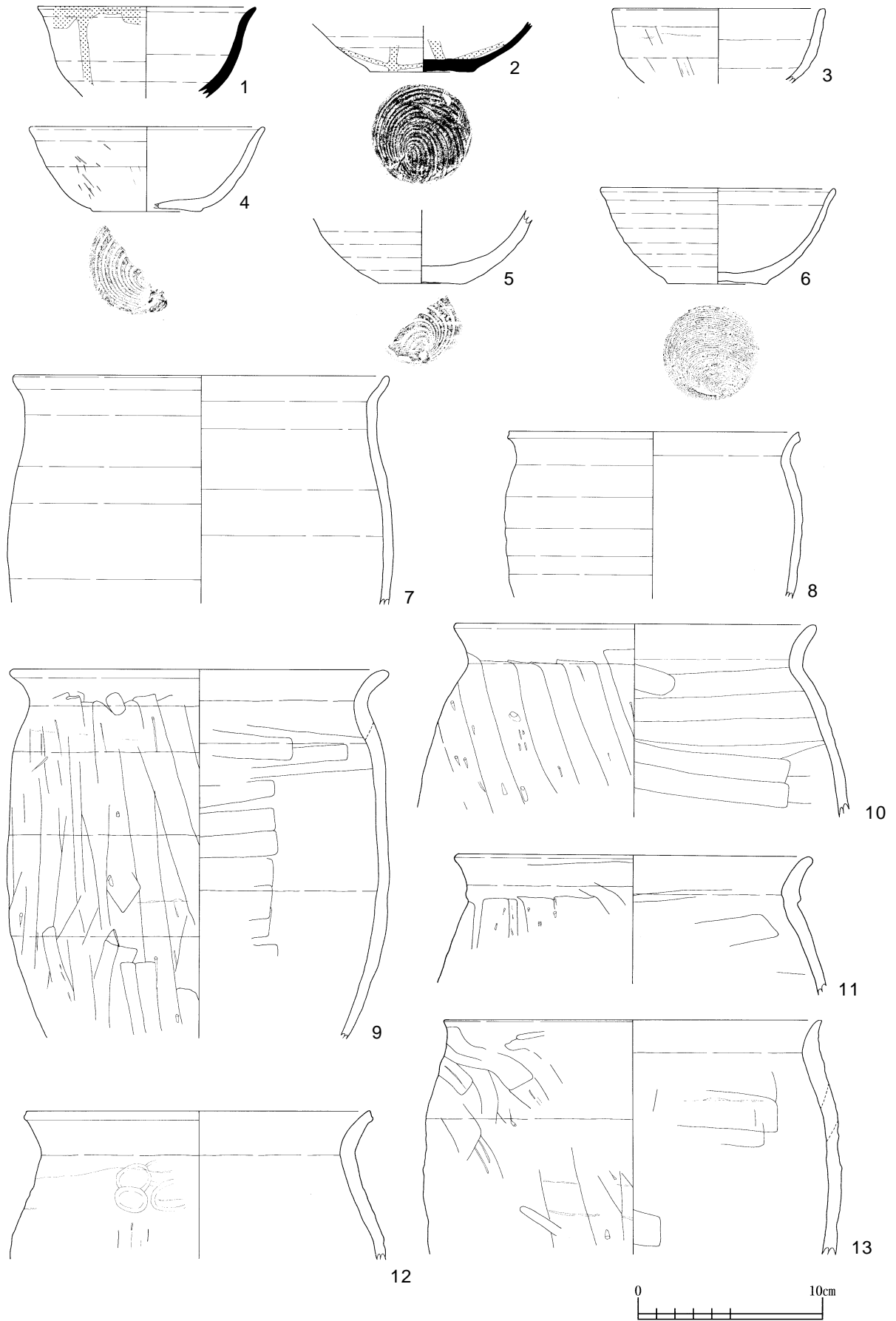


図67 S I - 05

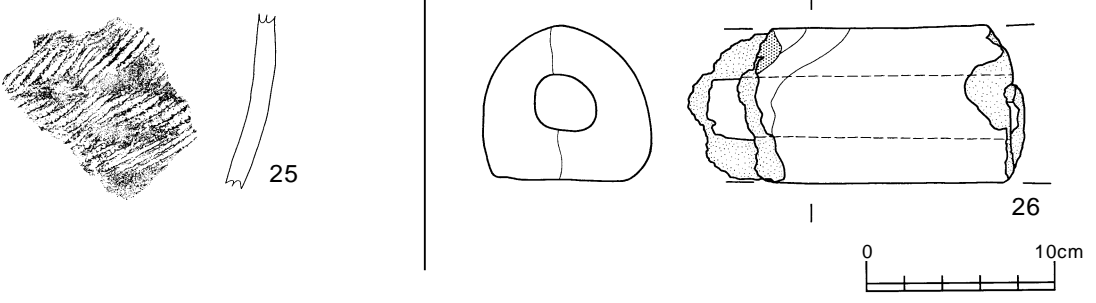
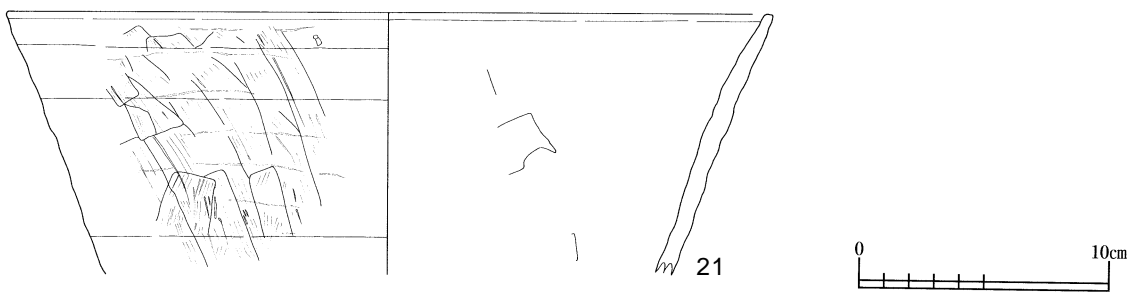
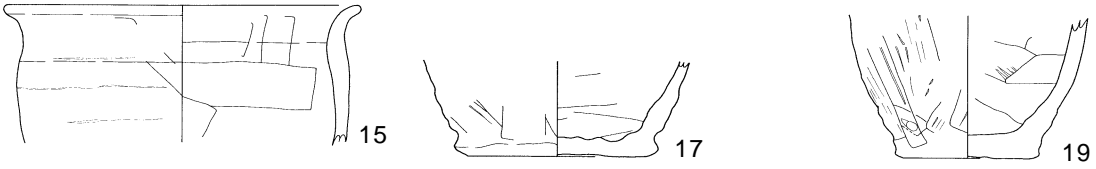
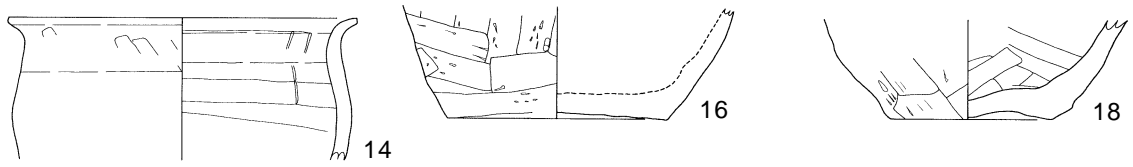
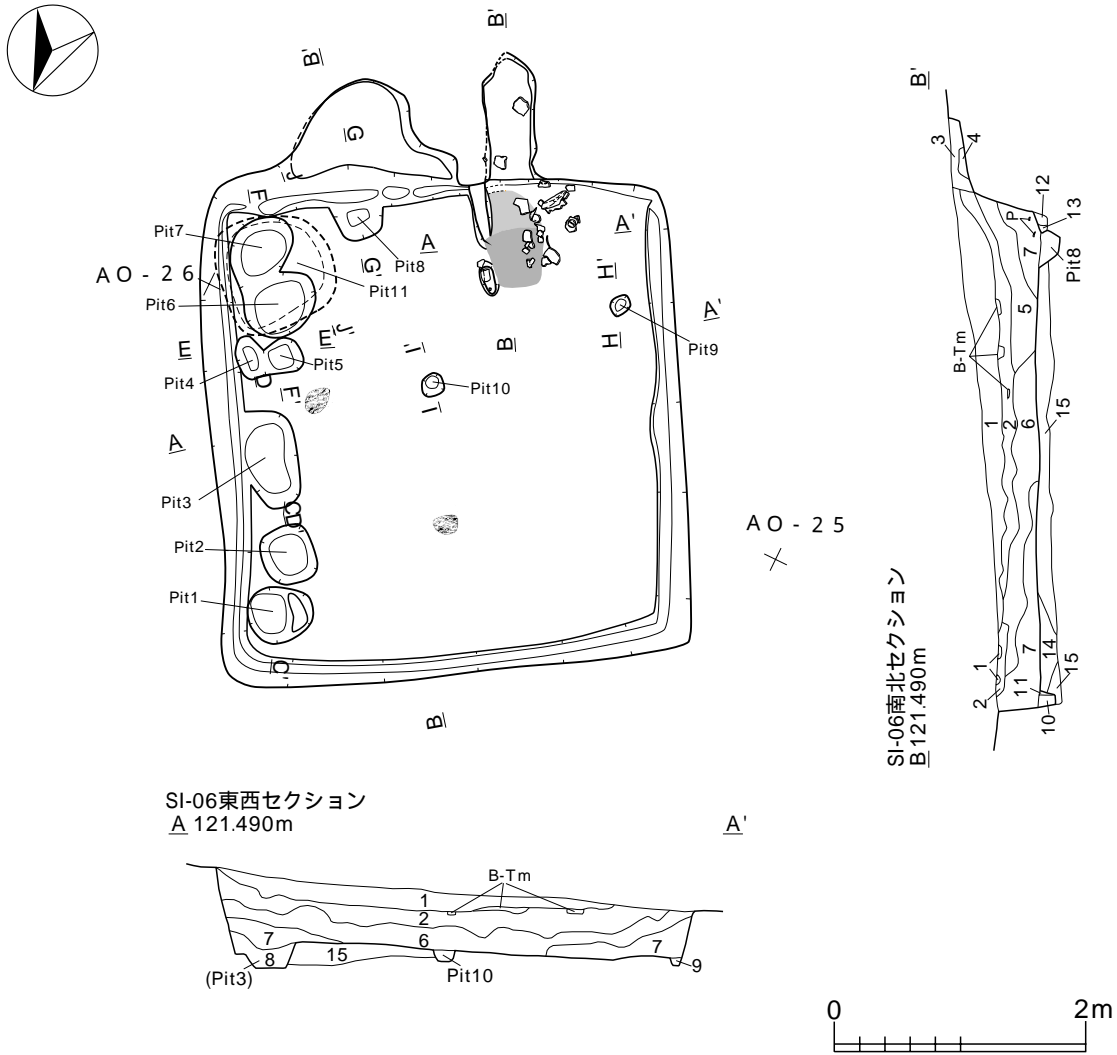


图68 S I - 05



SI-06

- | | | | |
|------|-----------|------|---|
| 第1層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 粘性・湿性あり、しまりやや弱、ローム粒(2~4mm)少量、パミス(3~4mm)微量、炭化粒少量混入 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒、炭化粒(1~3mm)中量、パミス(2~5mm)・ローム粒(2~3mm)少量混入、帯状およびブロック状のB-Tm含む |
| 第3層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~5mm)・炭化粒少量混入 |
| 第4層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~2mm)少量・パミス(2~3mm)微量混入 |
| 第5層 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒中量、パミス(2~3mm)・ローム粒(2~3mm)少量、焼土粒(2~3mm)・炭化粒(4~5mm)微量混入 |
| 第6層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(4~5mm)多量、ロームブロック(10~15mm)中量、ロームブロック(30~40mm)少量、パミス(2~4mm)微量、炭化粒(1~3mm)中量混入 |
| 第7層 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(3~6mm)・炭化粒(2~3mm)少量混入 |
| 第8層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(4~6mm)少量、炭化粒(2~3mm)中量、焼土ブロック(5~10mm)微量混入 |
| 第9層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(2~3mm)中量混入(壁溝) |
| 第10層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(3~5mm)・炭化粒少量混入(壁溝) |
| 第11層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~2mm)少量混入(壁溝) |
| 第12層 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~2mm)中量・ローム粒(2~3mm)少量混入(壁溝) |
| 第13層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化物少量混入(壁溝) |
| 第14層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 粘性・湿性あり、しまりかなりあり、ローム粒(4~5mm)中量、炭化粒(2~3mm)少量混入(貼床) |
| 第15層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 粘性・湿性あり、しまりかなりあり、パミス(1~2mm)・炭化粒微量混入 |

図69 SI-06

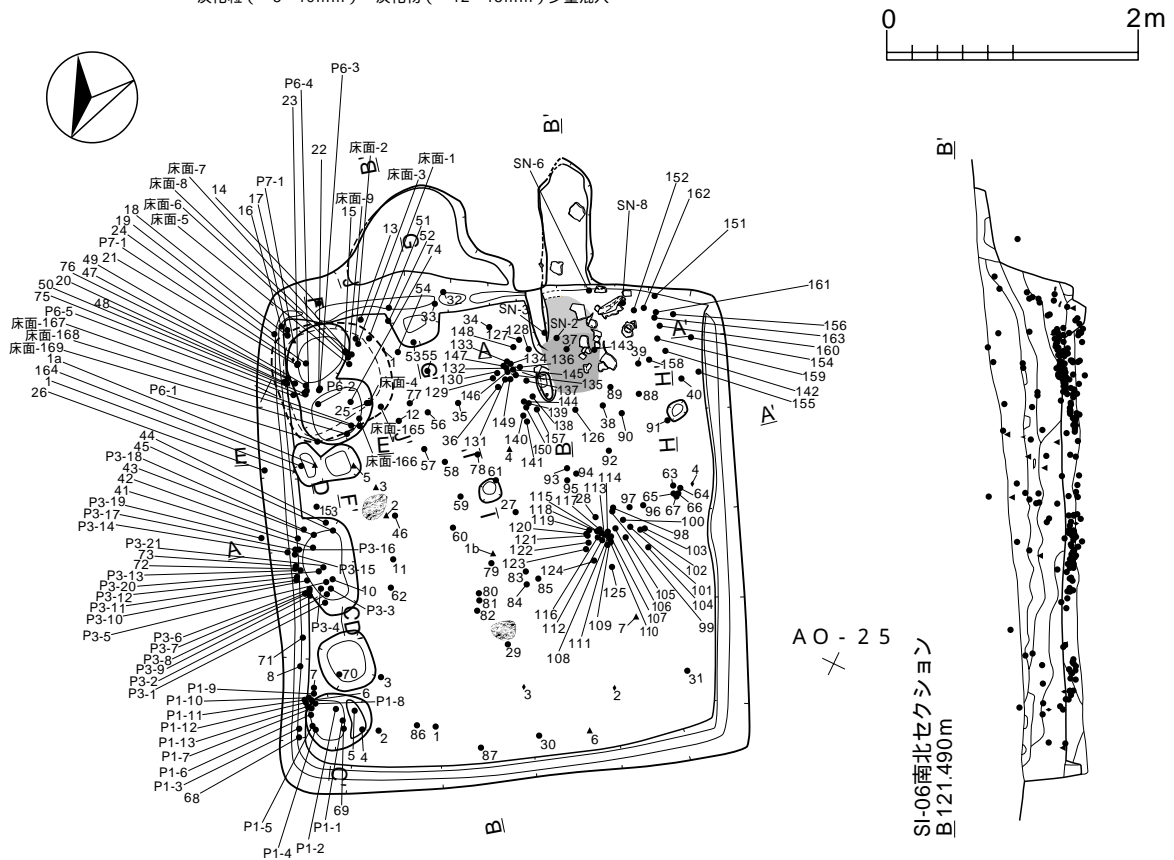
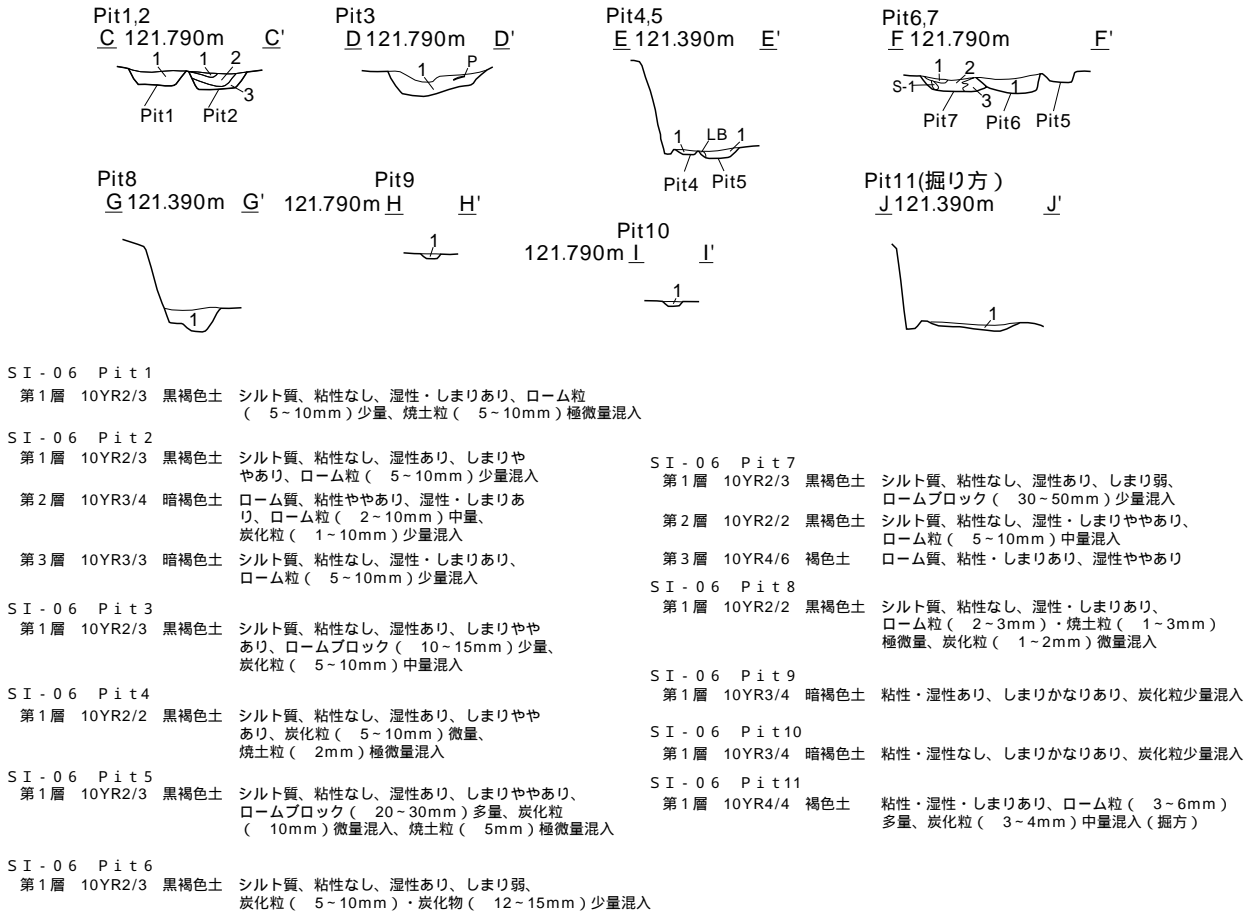
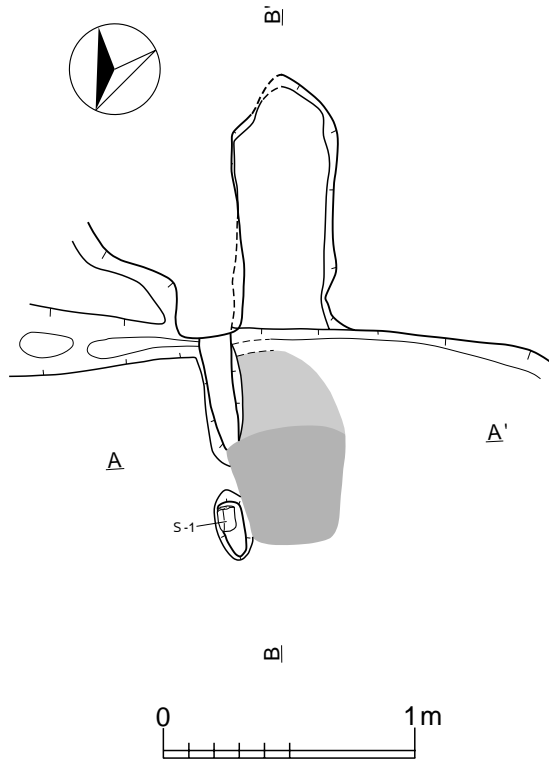
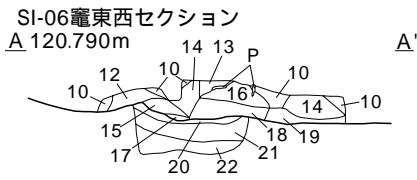
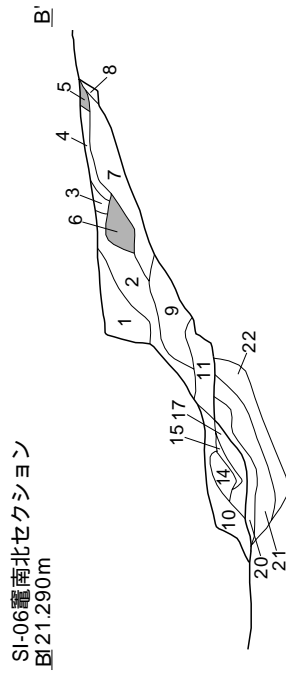
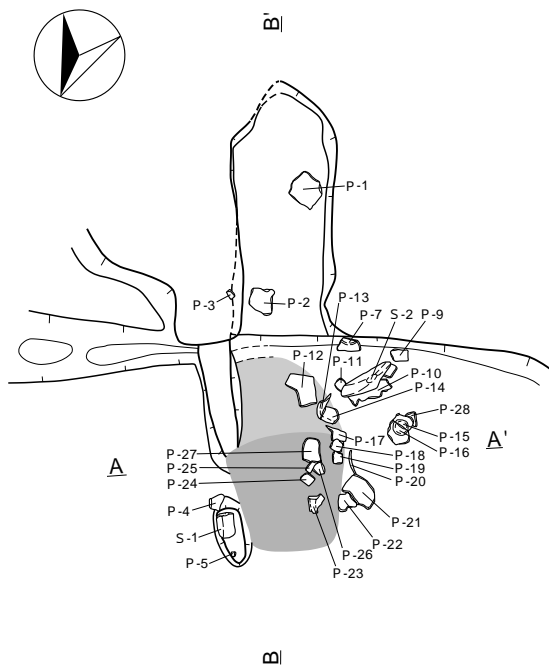


図70 SI-06



SI-06 竈

第1層	10YR2/2	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(3~4mm)・炭化粒少量混入
第2層	10YR2/3	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(0.5~10mm)・炭化粒・焼土粒(2~3mm)少量混入
第3層	10YR3/4	暗褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒微量混入
第4層	7.5YR3/4	暗褐色土	粘性なし、湿性・しまりあり、炭化粒少量、焼土粒(2~3mm)中量混入
第5層	5YR3/3	暗赤褐色土	粘性・湿性なし、しまりあり
第6層	5YR3/6	暗赤褐色土	粘性・湿性あり、しまり弱、炭化粒中量混入
第7層	7.5YR3/3	暗褐色土	粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒・焼土粒(3~4mm)少量混入
第8層	10YR4/4	褐色土	粘性・湿性あり、しまりやや弱、ローム粒中量混入
第9層	5YR4/4	にぶい赤褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量、焼土粒(4~5mm)多量混入
第10層	10YR3/4	暗褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量、ローム粒(5~10mm)微量混入
第11層	10YR3/4	暗褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~2mm)・焼土ブロック(11~20mm)少量、焼土粒(4~5mm)中量混入
第12層	7.5YR3/4	暗褐色土	粘性・湿性なし、しまりあり、ローム粒(4~5mm)・焼土粒(2~3mm)・炭化粒少量混入
第13層	7.5YR4/6	褐色土	粘性・湿性・しまりあり
第14層	7.5YR5/8	明褐色土	粘性なし、湿性・しまりあり、バミス(3~4mm)微量・炭化粒(1~2mm)・焼土粒(2~4mm)少量混入(構築材の崩れたもの)
第15層	7.5YR3/3	暗褐色土	粘性なし、湿性・しまりあり、焼土粒(5~10mm)・焼土ブロック(10~15mm)多量、炭化粒(1~2mm)少量混入
第16層	5YR4/4	にぶい赤褐色土	粘性・湿性・しまりあり、焼土粒(2~3mm)少量混入
第17層	10YR3/2	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒・焼土粒(1~6mm)少量混入
第18層	5YR4/4	にぶい赤褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒・焼土粒(3~4mm)少量混入
第19層	7.5YR4/3	褐色土	粘性・湿性ややあり・しまりあり、炭化粒少量、焼土粒(1~2mm)中量混入
第20層	2.5YR4/6	赤褐色土	粘性・湿性なし、しまりかなりあり、焼土粒中量混入(火床面)
第21層	5YR3/6	暗赤褐色土	粘性・湿性ややあり、しまりあり、炭化粒少量混入(火床面)
第22層	5YR4/4	にぶい赤褐色土	粘性・湿性・しまりあり、バミス(2~3mm)微量混入(火床面)

図71 SI-06

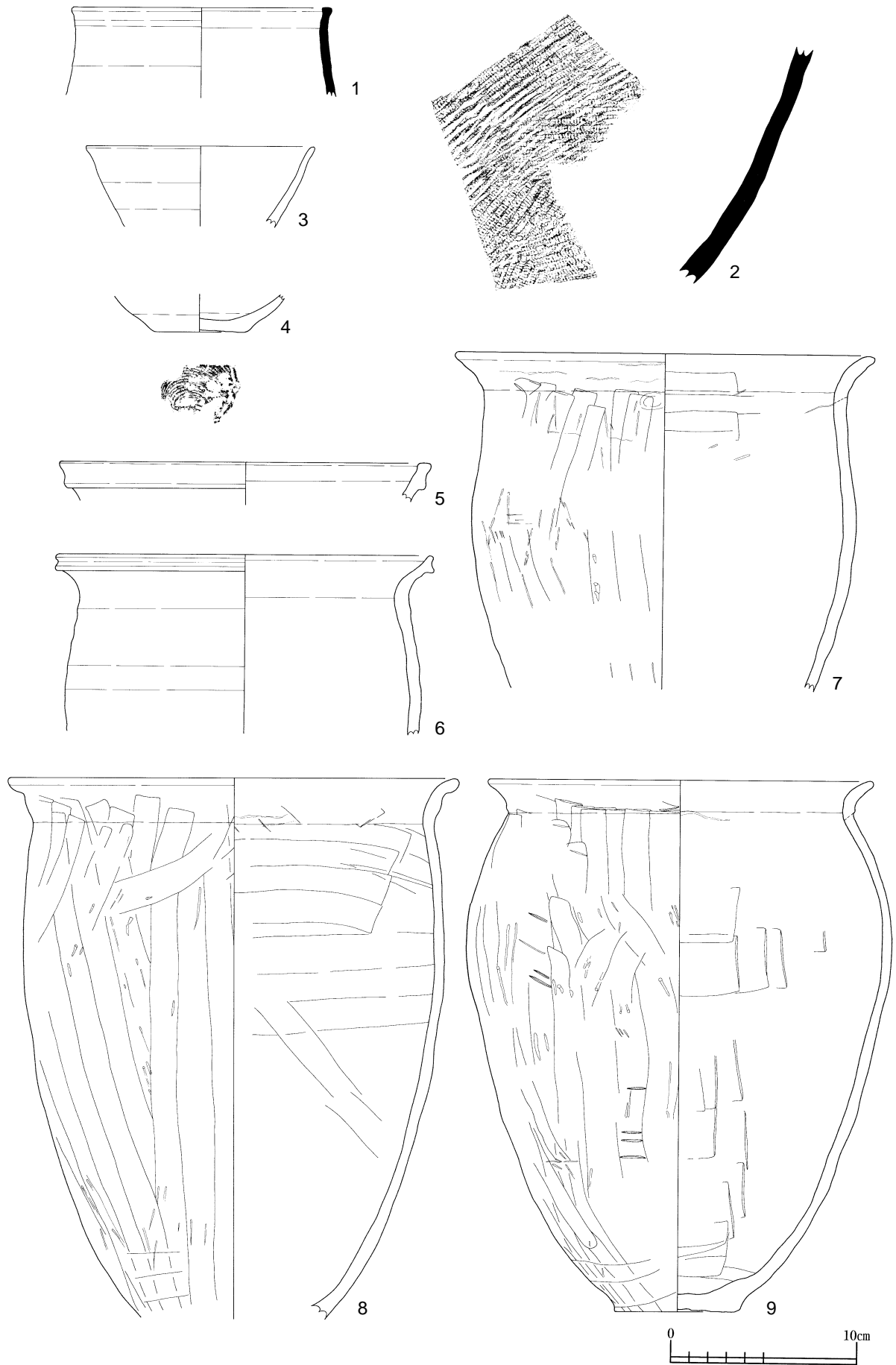


图72 S I - 06

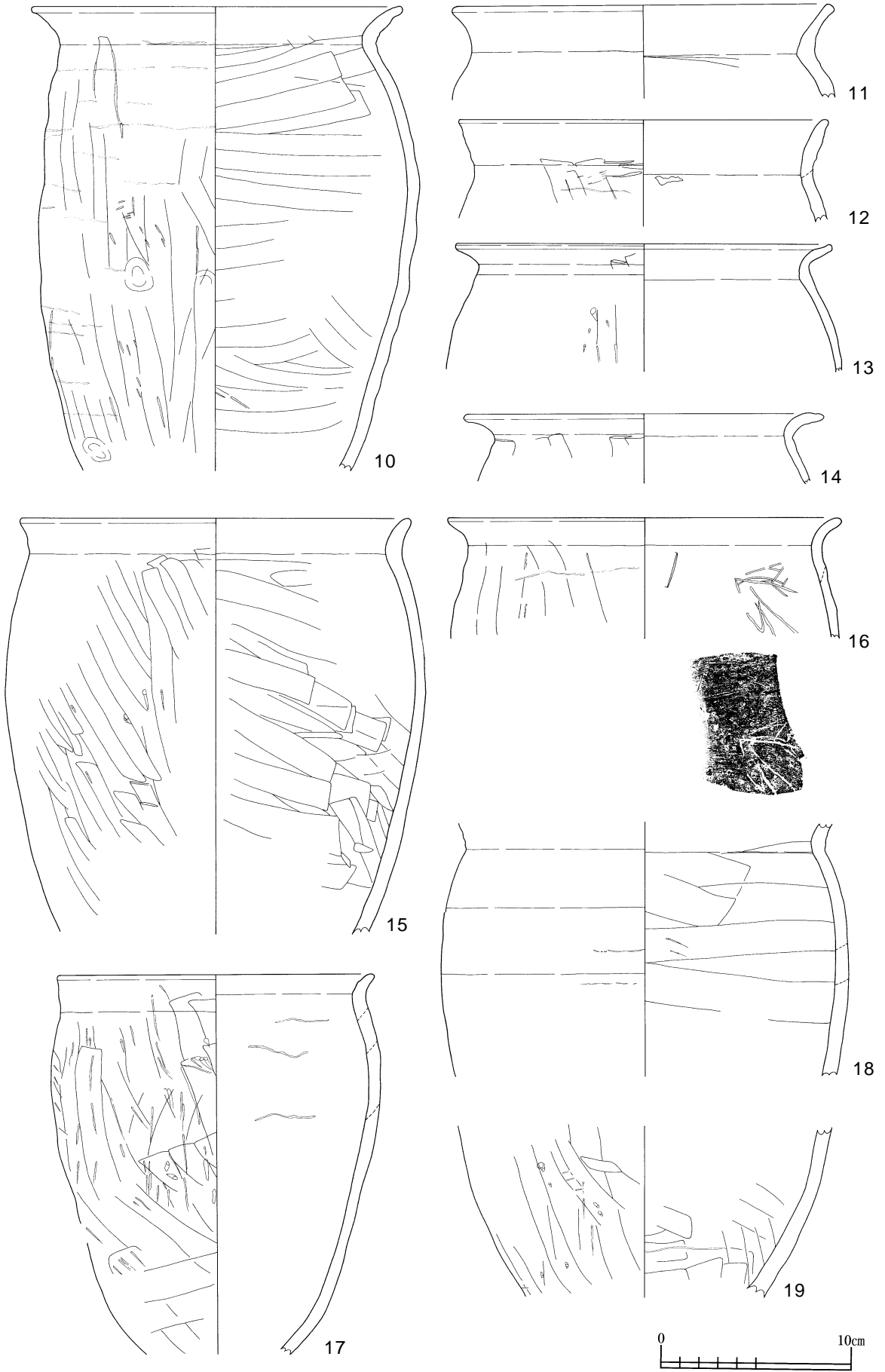


图73 S I - 06

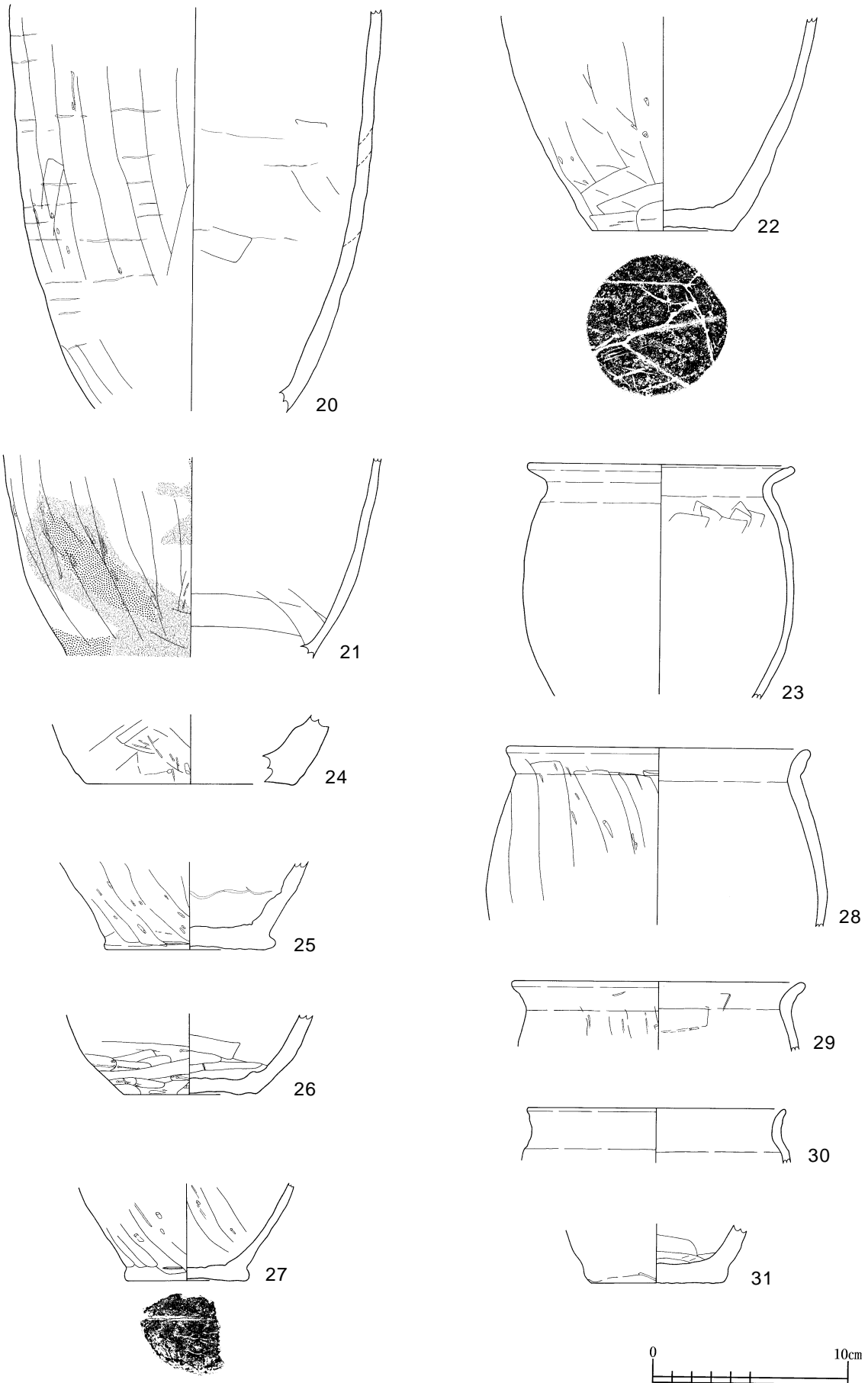


图74 S I - 06

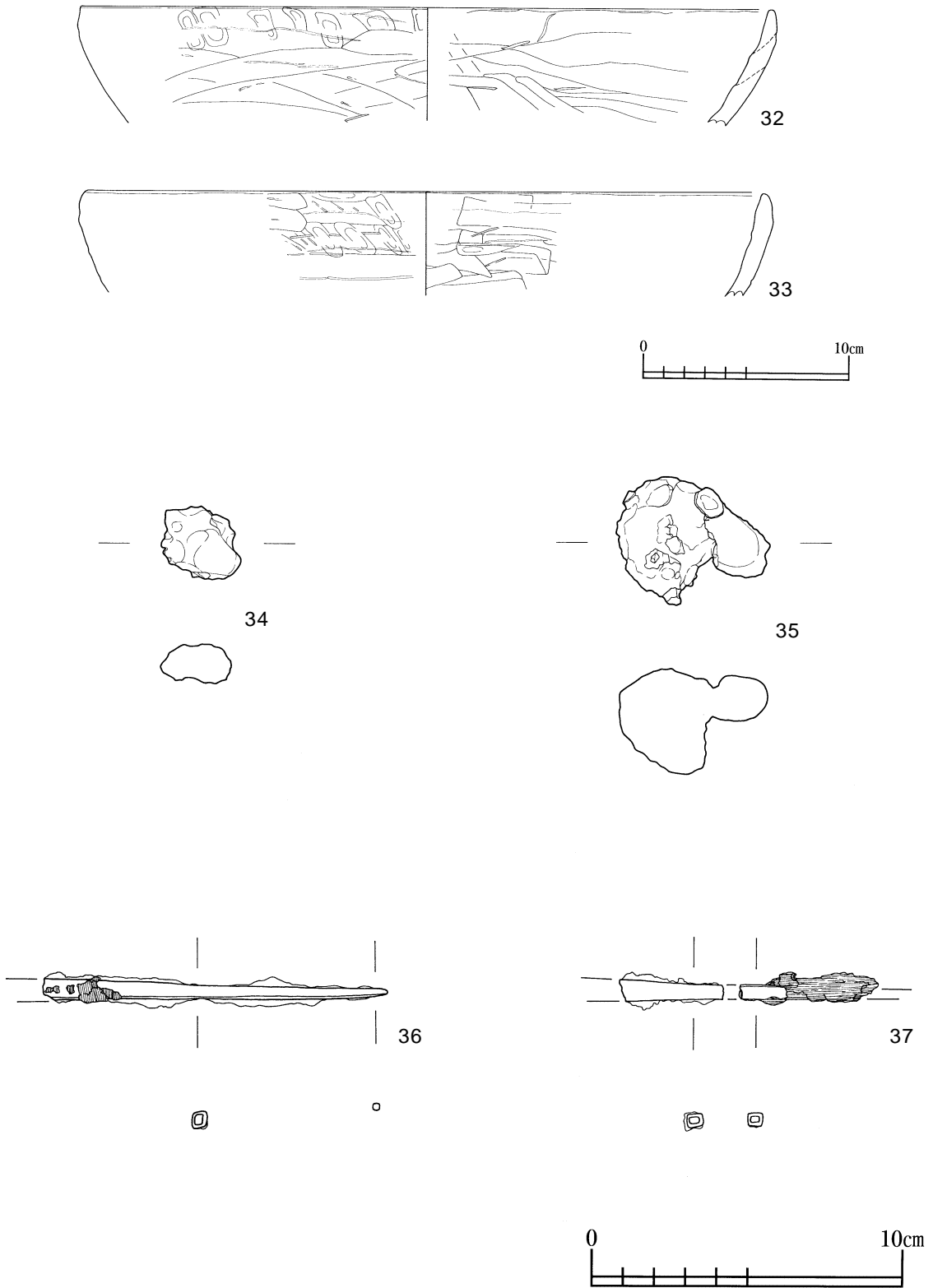
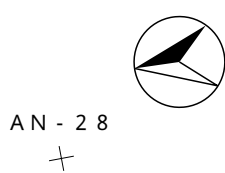
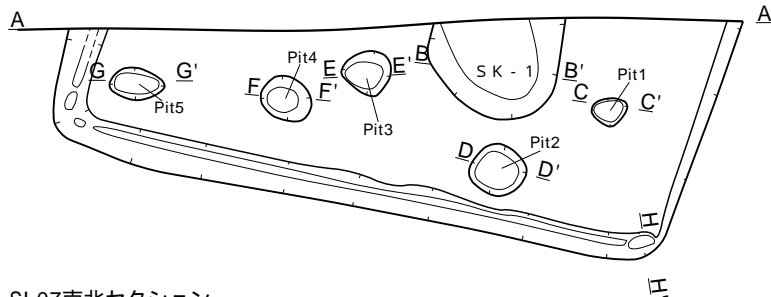


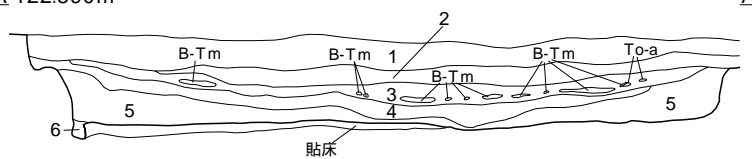
图75 S I - 06



AO-28
+

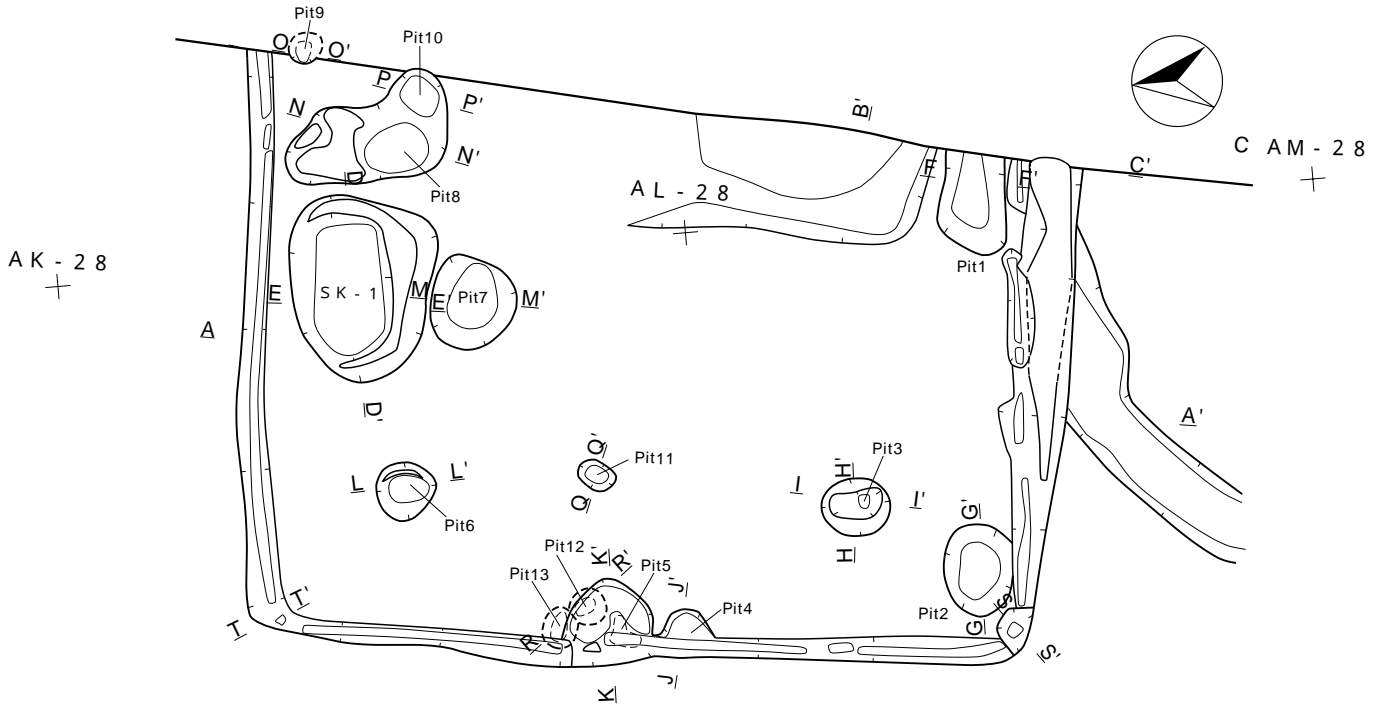


SI-07南北セクション
A 122.890m

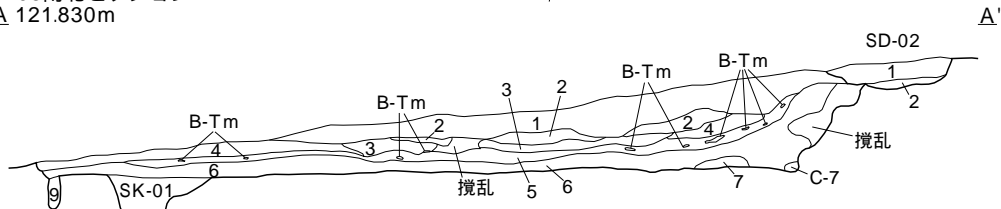


SI-07	層	色	説明	位置	断面
SI-07	第1層	10YR2/2 黒褐色土	シルト質、粘性なし、湿性ややあり、しまりなし、バミス(1-7mm)・ローム粒(1mm)少量混入	SK-01 B 122.090m	B' 122.090m C' 1
	第2層	10YR2/1 黒色土	シルト質、粘性なし、湿性・しまりややあり、小礫(1-5mm)・ローム粒(3mm)微量混入	Pit2 122.090m D	D' 122.090m E E' 1
	第3層	10YR2/3 黒褐色土	シルト質、粘性ややあり、湿性・しまりあり、ローム粒(1mm)・小礫(1-5mm)少量、バミス(5mm)・炭化粒(1mm)極微量混入、To-a粒状に、B-Tmブロック状に混入	Pit4 122.090m F	F' 122.090m G G' 1
	第4層	10YR3/3 暗褐色土	シルト質、粘性ややあり、湿性・しまりあり、ローム粒ブロック状に中量、バミス(1-5mm)・炭化粒(1mm)微量、焼土粒(3mm)極微量混入	SI-07壁溝 122.890m H	H' 1
	第5層	10YR3/4 暗褐色土	シルト質、粘性・湿性强、しまりあり、ローム粒・ロームブロック(1-30mm)中量、小礫(1-3mm)微量、バミス極微量、炭化粒(1-5mm)極少量混入		
	第6層	10YR4/6 褐色土	粘土質、粘性・湿性强、しまりやや強		
	貼床	10YR4/6 褐色土	粘土質、粘性強、湿性あり、固くしまりあり、バミス(1-2mm)中量、黒色土(1-2mm)少量混入		
SI-07 SK-1	第1層	10YR2/1 黒褐色土	シルト質、粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒・ロームブロック(1-15mm)少量、バミス(5mm)・炭化粒(1mm)極微量混入		
	第2層	10YR2/2 黒褐色土	シルト質、粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒(1-10mm)微量、炭化粒(3mm)・バミス(1mm)極微量混入		
SI-07 Pit 1	第1層	10YR3/3 暗褐色土	粘土質、粘性ややあり、湿性なし、固くしまりあり、炭化粒(1mm)・焼土粒(1mm)極微量混入		
	第2層	10YR4/4 褐色土	粘土質、粘性強、湿性あり、固くしまりあり、バミス(1-3mm)微量、炭化粒(1mm)・焼土粒(1-3mm)極微量混入		
SI-07 Pit 2	第1層	10YR3/4 暗褐色土	粘土質、粘性ややあり、湿性あり、固くしまりあり、ローム粒(1mm)微量混入		
	第2層	10YR4/4 褐色土	粘土質、粘性強、湿性あり、固くしまりあり、バミス(1-3mm)微量、炭化粒(1mm)・焼土粒(1-3mm)極微量混入		
SI-07 Pit 3	第1層	10YR3/2 黒褐色土	シルト質、粘性・しまりあり、湿性强、ローム粒(2-5mm)・焼土粒(1-3mm)少量、炭化粒(3mm)極微量混入		
	第2層	10YR2/2 黒褐色土	シルト質、粘性・しまりややあり、湿性あり、ローム粒(1mm)少量、バミス(1mm)・炭化粒(2mm)極微量混入		
SI-07 Pit 4	第1層	10YR2/2 黒褐色土	シルト質、粘性・しまりややあり、湿性あり、ローム粒(1mm)少量、バミス(1mm)・炭化粒(2mm)極微量混入		
	第2層	10YR2/3 黒褐色土	粘土質、粘性強、湿性あり、固くしまりあり、ローム粒(2mm)少量、炭化粒(15mm)極微量混入		
SI-07 Pit 5	第1層	10YR2/3 黒褐色土	粘土質、粘性強、湿性あり、固くしまりあり、バミス(1-2mm)・炭化粒(1mm)極微量混入		
	第2層	10YR3/4 暗褐色土	やや粘土質、粘性あり、湿性强、しまりなし、炭化粒(2mm)・バミス極微量混入		

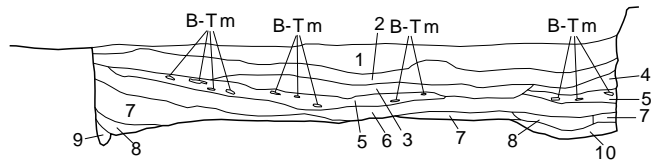
図76 SI-07



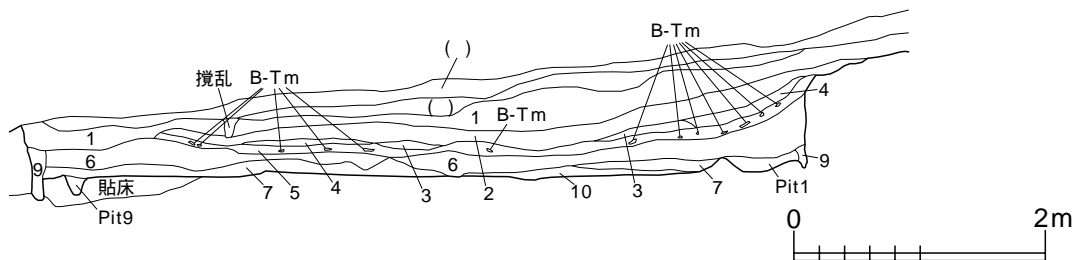
SI-08南北セクション
A 121.830m



SI-08東西セクション
B 121.830m



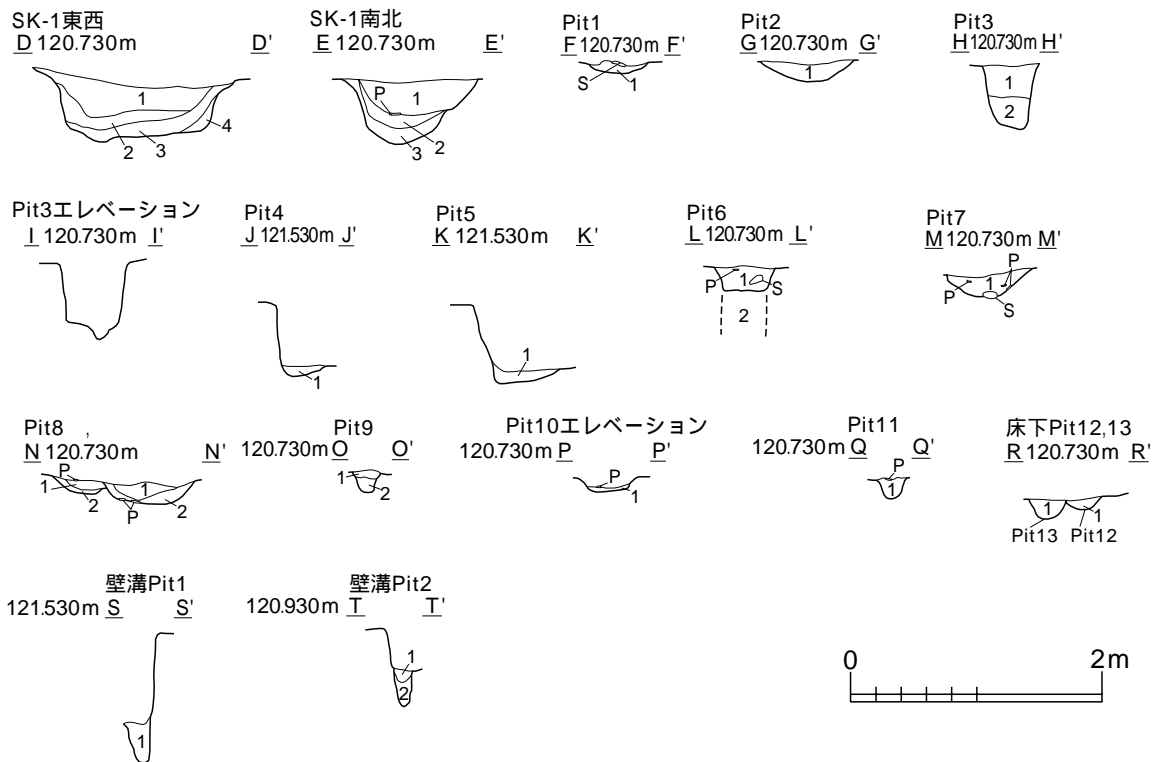
SI-08調査区外壁セクション
C 122.150m



SI-08

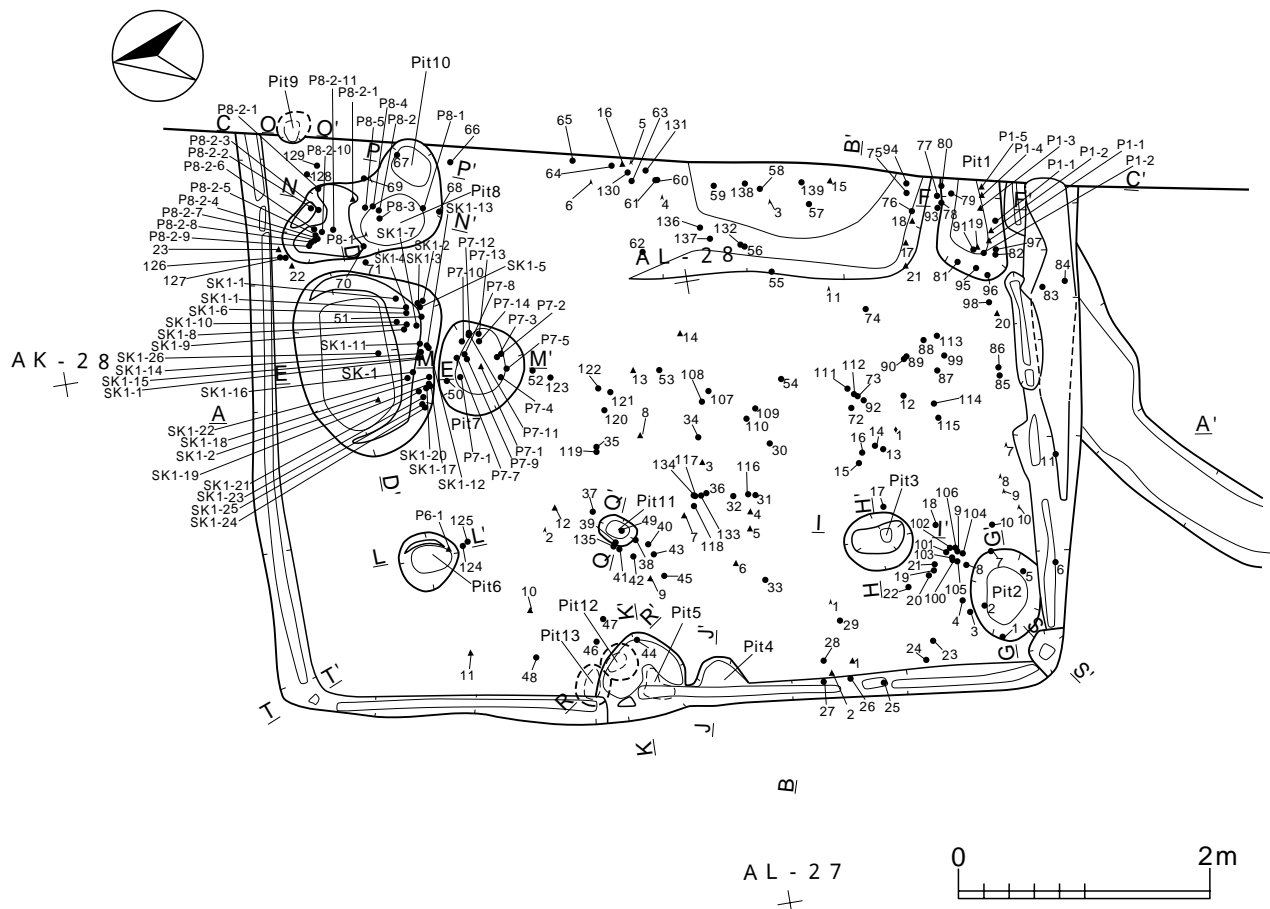
- | | | | |
|--------------------------------------|---|--------------------------------------|---|
| 第1層 10YR1.7/1 黒色土 | シルト質、粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒(1~5mm)・パミス(1~3mm)微量混入 | 第7層 10YR3/3 暗褐色土 | 粘性ややあり、湿性强、固くしまりあり、ローム粒・ロームブロック(1~20mm)中量、炭化物(10mm)極微量、炭化粒(1~5mm)少量混入 |
| 第2層 10YR2/2 黒褐色土 | シルト質、粘性ややあり、湿性・しまりあり、炭化粒(3~5mm)・ローム粒(1~3mm)少量、焼土粒(1mm)・小礫(1~2mm)微量混入 | 第8層 10YR3/2黒褐色土とローム(10YR4/6褐色土)との混合土 | 粘性・湿性あり、固くしまりあり |
| 第3層 10YR2/1 黒色土 | 粘性・しまりなし、湿性あり | 第9層 10YR3/4 暗褐色土 | 粘性ややあり、湿性强、しまりなし |
| 第4層 10YR2/3 黒褐色土 | シルト質、粘性あり、湿性强、しまりややあり、炭化粒(1~3mm)少量、焼土粒(1mm)微量、パミス(1~3mm)・小礫(1~2mm)極微量混入 | 第10層 5YR3/3 暗赤褐色土 | 粘性なし、湿性ややあり、しまりあり、ローム粒(1~5mm)中量、パミス(50mm)微量、炭化粒(3mm)少量、焼土粒・焼土ブロック(1~30mm)ブロック状に多量混入 |
| 第5層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 | 粘性なし、湿性あり、しまりややあり、B-Tm(1~50mm)帯状に多量混入 | 貼床 10YR4/6 褐色土 | 粘性・湿性强、固くしまりあり、10YR3/3 暗褐色土少量、小礫(1~3mm)中量混入 |
| 第6層 10YR3/4暗褐色土とローム(10YR4/6褐色土)との混合土 | 粘性・湿性强、しまりあり、パミス(5~10mm)・炭化粒(1~10mm)少量混入 | | |

図77 SI-08

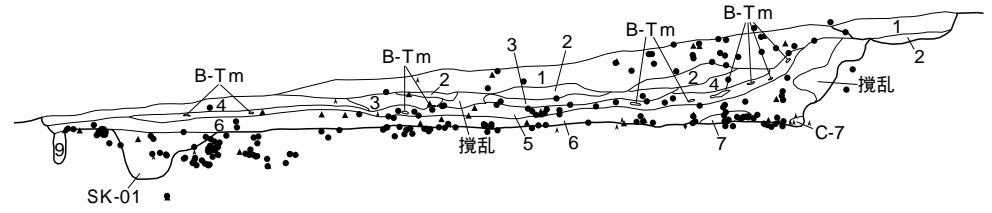


SI - 08 SK - 1	第1層 10YR2/2 黒褐色土	シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ローム粒・ロームブロック(5-15mm)多量、炭化粒(5mm)少量、焼土粒(2mm)極微量混入	SI - 08 Pit 8	第1層 10YR2/3 黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(2-5mm)微量、焼土粒(5mm)中量混入
	第2層 10YR2/1 黒色土	シルト質、粘性なし、湿性・しまりややあり、ローム粒(1-3mm)・焼土粒(2-3mm)極微量、パミス(1-3mm)微量混入		第2層 7.5YR3/4 暗褐色土	粘性なし、湿性あり、固くしまりあり、焼土粒(1-10mm)多量混入
	第3層 10YR3/4 暗褐色土	シルト質、粘性なし、湿性ややあり、しまりなし、ローム粒(1-3mm)中量、ロームブロック(20mm)極微量、炭化粒(1-2mm)少量混入	SI - 08 Pit 9	第1層 10YR2/2 黒褐色土	シルト質、粘性ややあり、湿性あり、しまりなし、ローム粒(1-3mm)微量混入
	第4層 10YR2/3 黒褐色土	シルト質、粘性ややあり、湿性・しまりあり、ローム粒(1-3mm)中量混入		第2層 10YR2/1 黒色土	シルト質、粘性ややあり、湿性あり、しまりなし、ローム粒(1-5mm)少量、パミス(1mm)極微量混入
SI - 08 Pit 1	第1層 10YR2/3 黒褐色土	シルト質、粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(1-5mm)中量、小礫(3mm)少量、焼土粒(1-3mm)微量混入	SI - 08 Pit 10	第1層 10YR3/3 暗褐色土	シルト質、粘性ややあり、湿性あり、しまりややあり、炭化粒(2-4mm)微量、焼土粒(1-2mm)少量混入
SI - 08 Pit 2	第1層 10YR2/1 黒色土	シルト質、粘性・しまりややあり、湿性あり、ロームブロック(10-30mm)中量、炭化粒(5mm)・焼土粒(1mm)微量混入	SI - 08 Pit 11	第1層 10YR4/4 褐色土	粘性強、湿性あり、固くしまりあり、炭化粒(1-3mm)・パミス(1-3mm)微量、焼土粒(1mm)極微量混入
SI - 08 Pit 3	第1層 10YR4/4 褐色土	粘性ややあり、湿性あり、しまりなし、層全体に黒色土粒(1-3mm)中量混入	SI - 08 Pit 12	第1層 10YR4/6褐色土と10YR3/3暗褐色土との混合土	粘性・湿性強、しまりあり、パミス(1-5mm)中量混入
	第2層 7.5YR4/6 褐色土	ローム質、粘性強、湿性あり、しまりややあり、パミス(1-5mm)微量混入	SI - 08 Pit 13	第1層 10YR4/4褐色土と10YR3/3暗褐色土との混合土	粘性・湿性強、しまりややあり
SI - 08 Pit 4	第1層 10YR3/4 暗褐色土	シルト質、粘性ややあり、湿性・しまりあり、ローム粒(2-5mm)中量、炭化粒(5-9mm)少量、焼土粒(1-2mm)極微量混入	SI - 08 壁溝 Pit 1	第1層 10YR4/4 褐色土	粘性ややあり、湿性あり、しまりなし、ローム粒(1-3mm)多量、パミス(1-2mm)微量混入
SI - 08 Pit 5	第1層 10YR3/4 暗褐色土	シルト質、粘性あり、湿性強、しまりややあり、ローム粒(1-10mm)中量、パミス(1-2mm)・焼土粒(2mm)微量、炭化粒(2-5mm)少量混入	SI - 08 壁溝 Pit 2	第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	粘性ややあり、湿性あり、しまりなし、ローム粒(1-5mm)中量混入
SI - 08 Pit 6	第1層 10YR3/3 暗褐色土	シルト質、粘性・湿性強・しまりあり、ローム粒(1-5mm)全体に中量、炭化粒(5-10mm)微量、層の上部にB-Tm(5mm)・焼土粒(1-3mm)極微量混入		第2層 10YR4/4 褐色土	粘性あり、湿性強、しまりなし、ローム粒(1-8mm)多量、パミス(1-3mm)少量混入
SI - 08 Pit 7	第1層 10YR3/4 暗褐色土	シルト質、粘性なし、湿性強、しまりあり、ロームブロック(10mm)・焼土粒(1-2mm)微量、炭化粒(1-5mm)極微量混入			
SI - 08 Pit 8	第1層 10YR3/4 暗褐色土	粘性ややあり、湿性あり、固くしまりあり、ロームブロック(10-15mm)少量、パミス(1-3mm)極微量、焼土粒(1-5mm)微量混入			
	第2層 10YR2/2 黒褐色土	粘性ややあり、湿性・しまりあり、焼土ブロック(10-15mm)中量、焼土粒(1-10mm)少量混入			

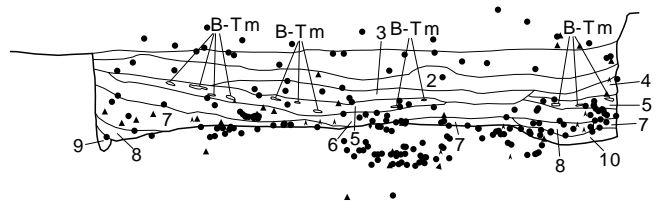
図78 SI - 08



A 121.830m



B 121.830m



C 122.150m

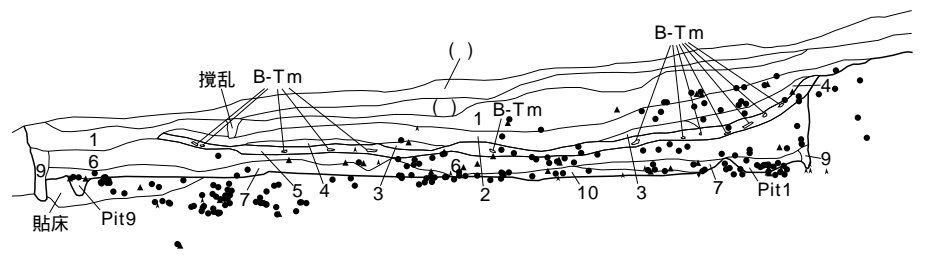
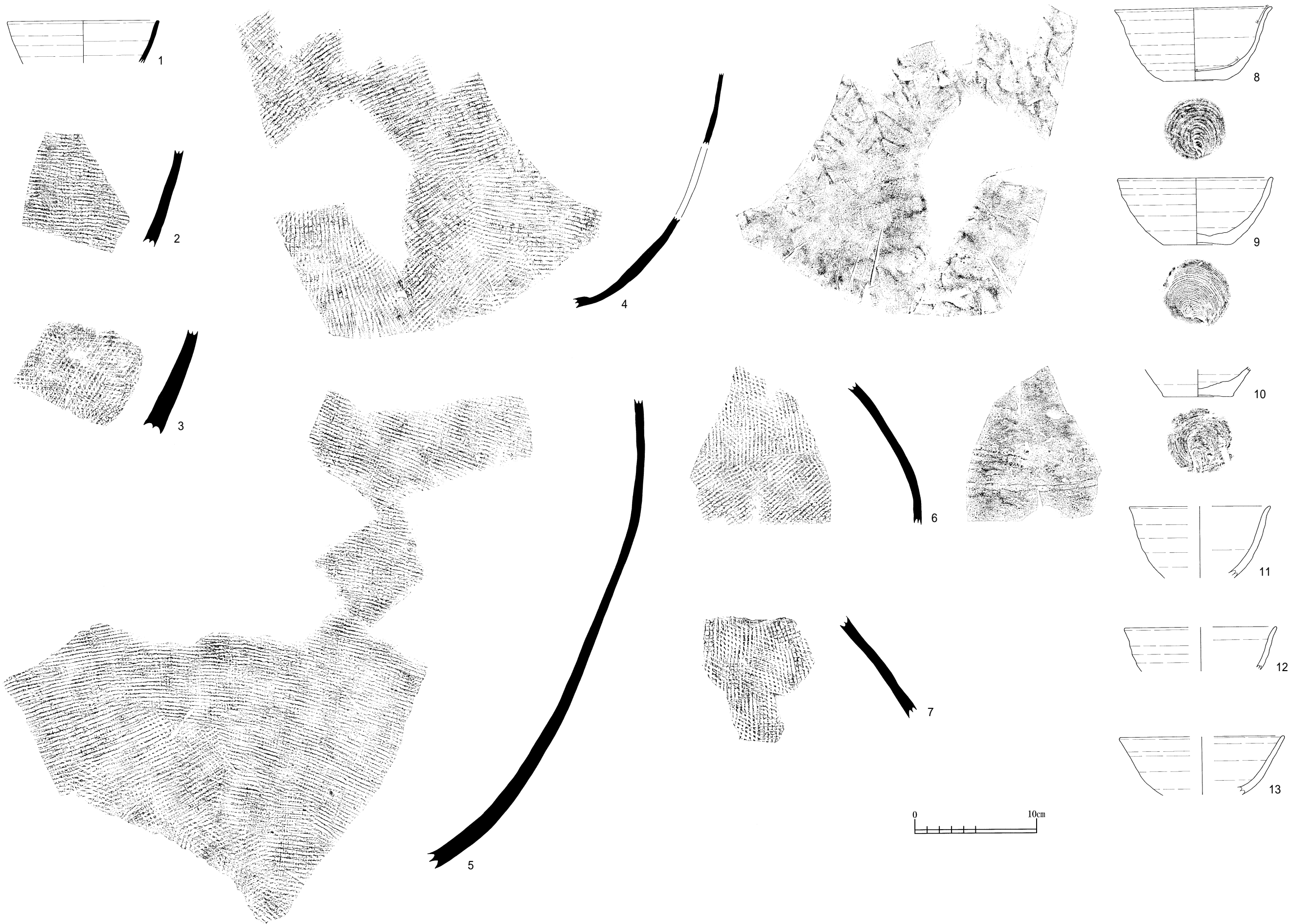


図79 S I - 08



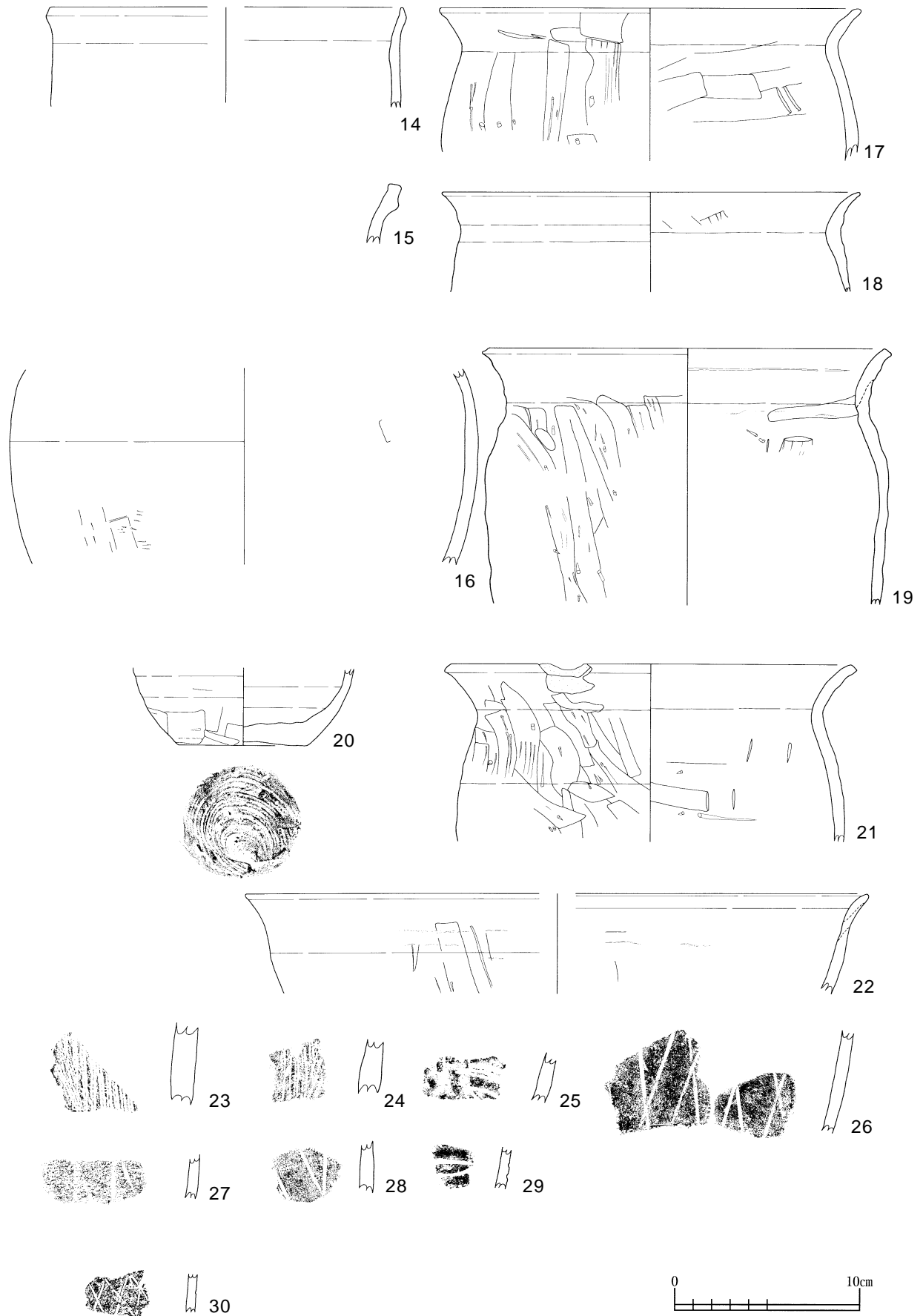


图81 S I - 08

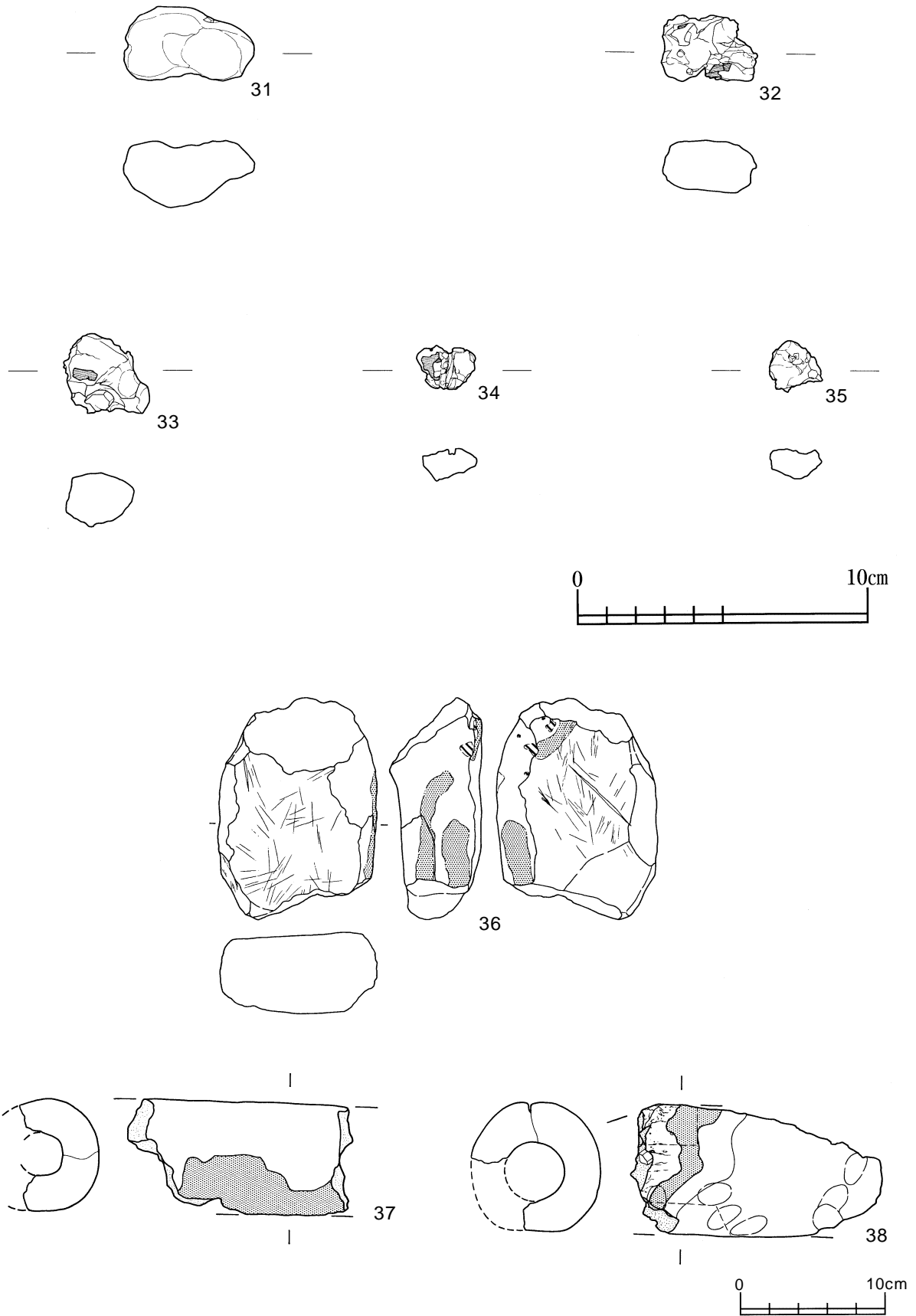
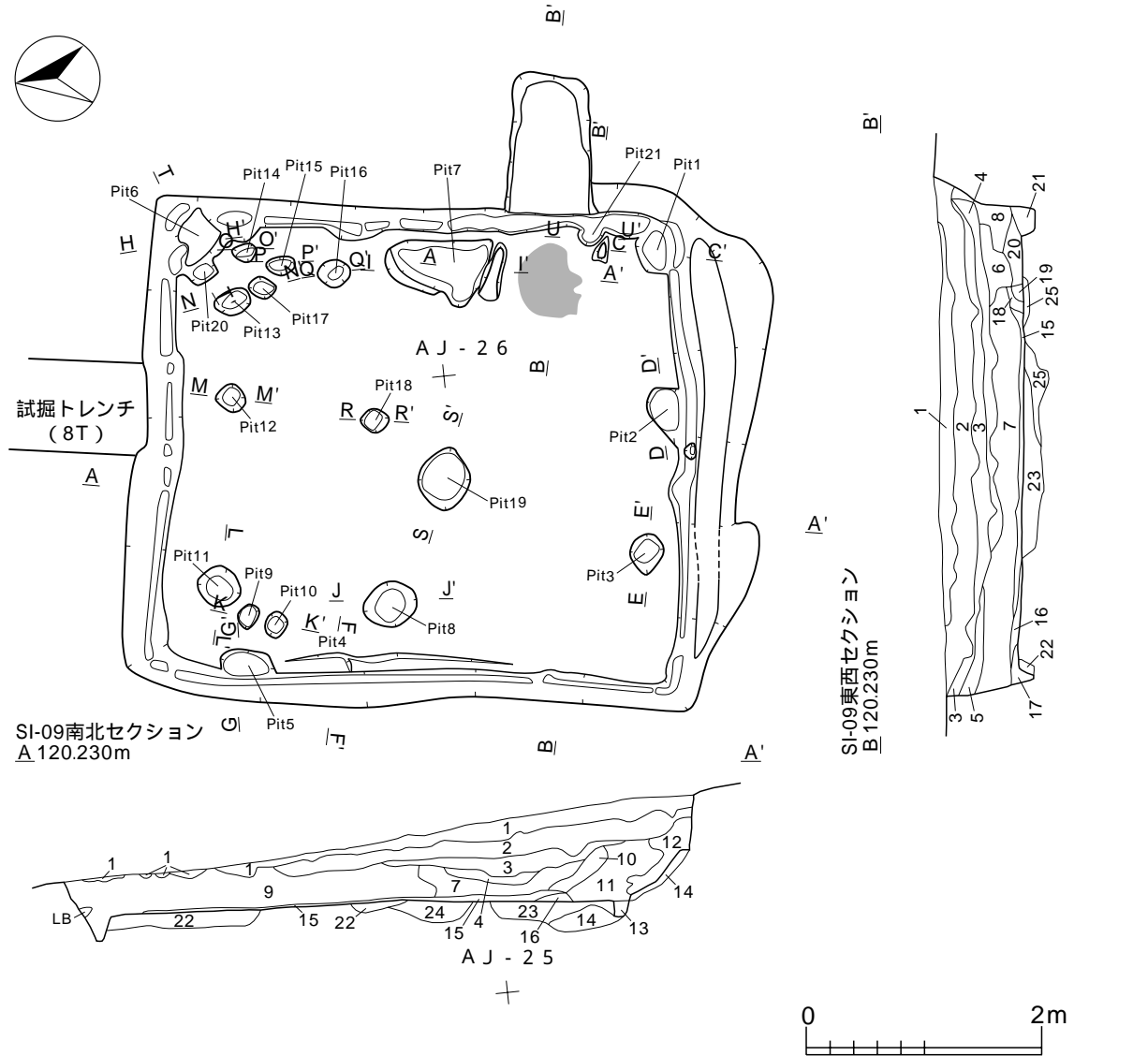


図82 S I - 08



SI - 09

第1層	10YR1.7/1	黒色土	粘性・湿性ややあり、しまりあり、ローム粒少量混入	第15層	10YR3/2	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm)・焼土粒(2~3mm)少量、炭化粒(2~5mm)多量混入
第2層	10YR2/2	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(3~5mm)・焼土粒少量、炭化粒中量混入	第16層	7.5YR3/4	暗褐色土	粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
第3層	10YR3/1	黒褐色土	粘性・湿性強、しまりやや弱、ローム粒少量、炭化粒中量混入、B-Tm(40~50mm)が少量点状する	第17層	10YR3/4	暗褐色土	粘性・湿性強、しまりややなし、ローム粒(4~5mm)微量、炭化粒(1~2mm)少量混入
第4層	10YR3/2	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(4~5mm)・炭化粒(1~2mm)少量混入	第18層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	粘性・湿性なし、しまりあり、炭化粒少量混入(構築材)
第5層	10YR2/3	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入	第19層	5YR5/6	明赤褐色土	粘性・湿性なし、しまりあり、炭化粒少量混入(焼土層・構築材)
第6層	10YR3/4	暗褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~5mm)中量、ロームブロック(40~50mm)・炭化粒少量、焼土粒(2~3mm)微量	第20層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	粘性・湿性あり、しまりかなりあり、炭化粒少量混入
第7層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	粘性強、湿性・しまりあり、炭化粒中量混入	第21層	10YR3/4	暗褐色土	粘性・湿性あり、しまり弱、ローム粒少量、炭化粒(2~3mm)中量、焼土粒(2~3mm)微量混入(壁溝)
第8層	10YR2/3	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒多量、炭化粒(1~2mm)中量混入	第22層	10YR5/6	黄褐色土	粘性ややあり、湿性なし、しまりかなりあり、炭化粒(1~3mm)・パミス(4~5mm)少量混入(貼床)
第9層	10YR3/3	暗褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(4~5mm)多量、ロームブロック(40~50mm)少量、炭化粒(2~3mm)中量混入	第23層	10YR4/6	褐色土	粘性・湿性あり、しまりかなりあり、炭化粒(1~2mm)・パミス(2~3mm)少量混入(貼床)
第10層	10YR3/3	暗褐色土	粘性・湿性あり、しまりやや弱、ローム粒(3~4mm)多量、炭化粒(2~3mm)少量混入	第24層	10YR2/3	黒褐色土	粘性ややあり、湿性なし、しまりあり、ローム粒多量、炭化粒(1~2mm)中量混入(掘方)
第11層	10YR4/6	褐色土	ローム質、粘性・湿性あり、しまりかなりあり	第25層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	粘性・湿性あり、しまりかなりあり、ローム粒(3~5mm)・炭化粒(3~5mm)中量混入(掘方)
第12層	10YR2/1	黒色土	粘性・湿性ややあり、しまりあり、ローム粒・炭化粒(1~2mm)少量混入				
第13層	10YR4/4	褐色土	粘性・湿性あり、しまりなし、炭化粒(1~2mm)少量混入(壁溝)				
第14層	10YR3/2	黒褐色土	粘性・湿性・しまりあり、ローム粒多量、炭化粒少量混入				

図83 SI - 09

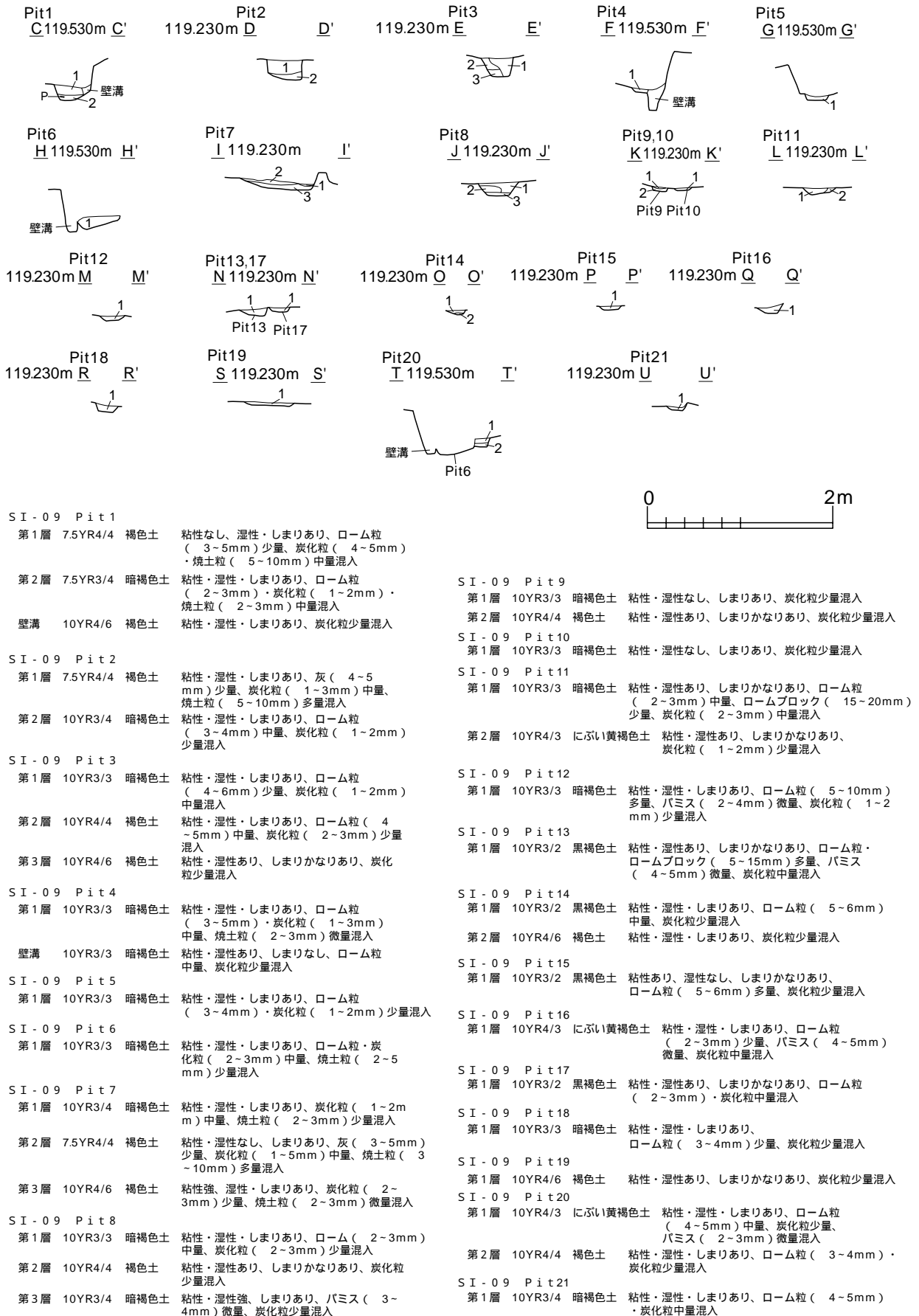


図84 S I - 09

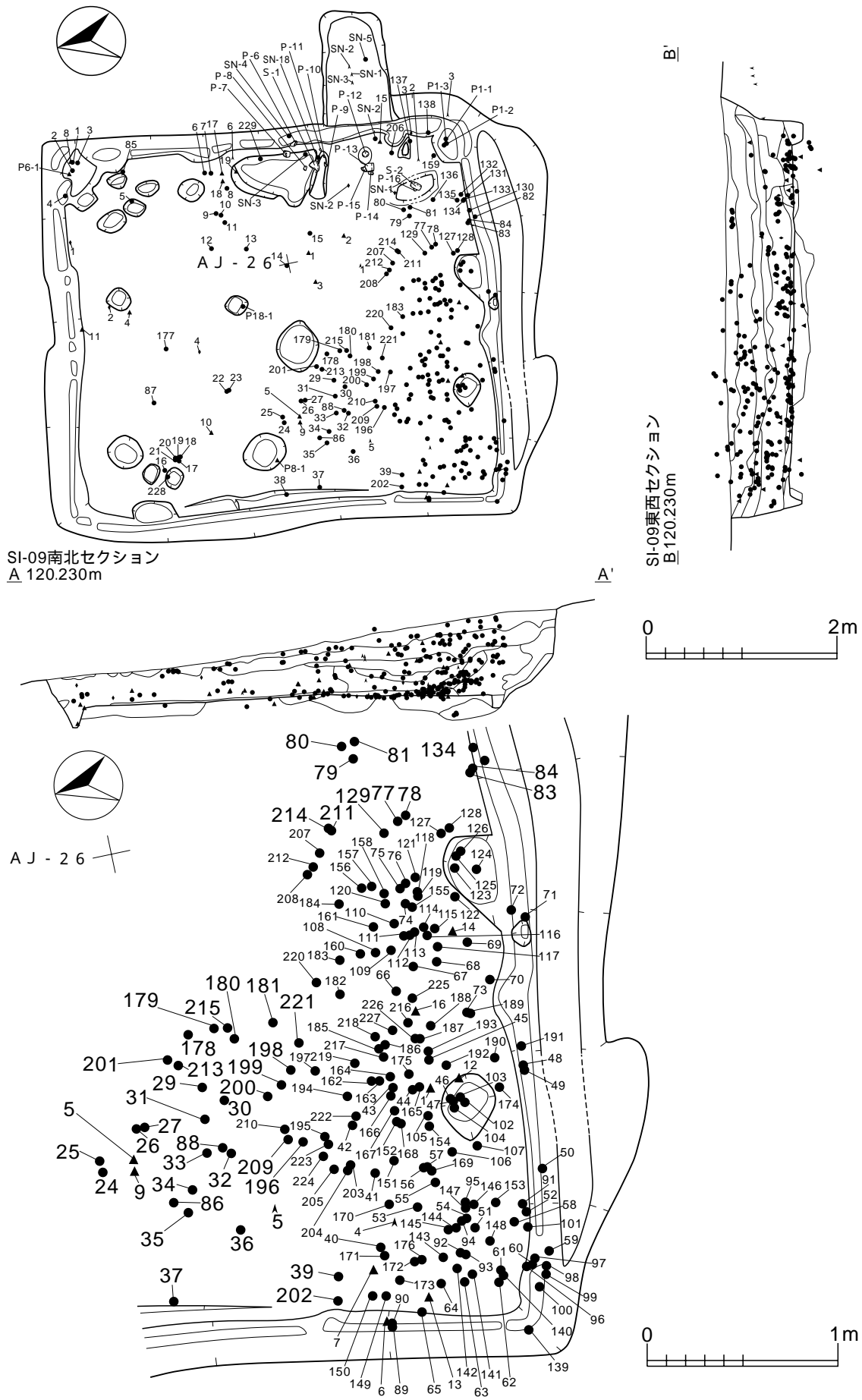


図85 S I - 09

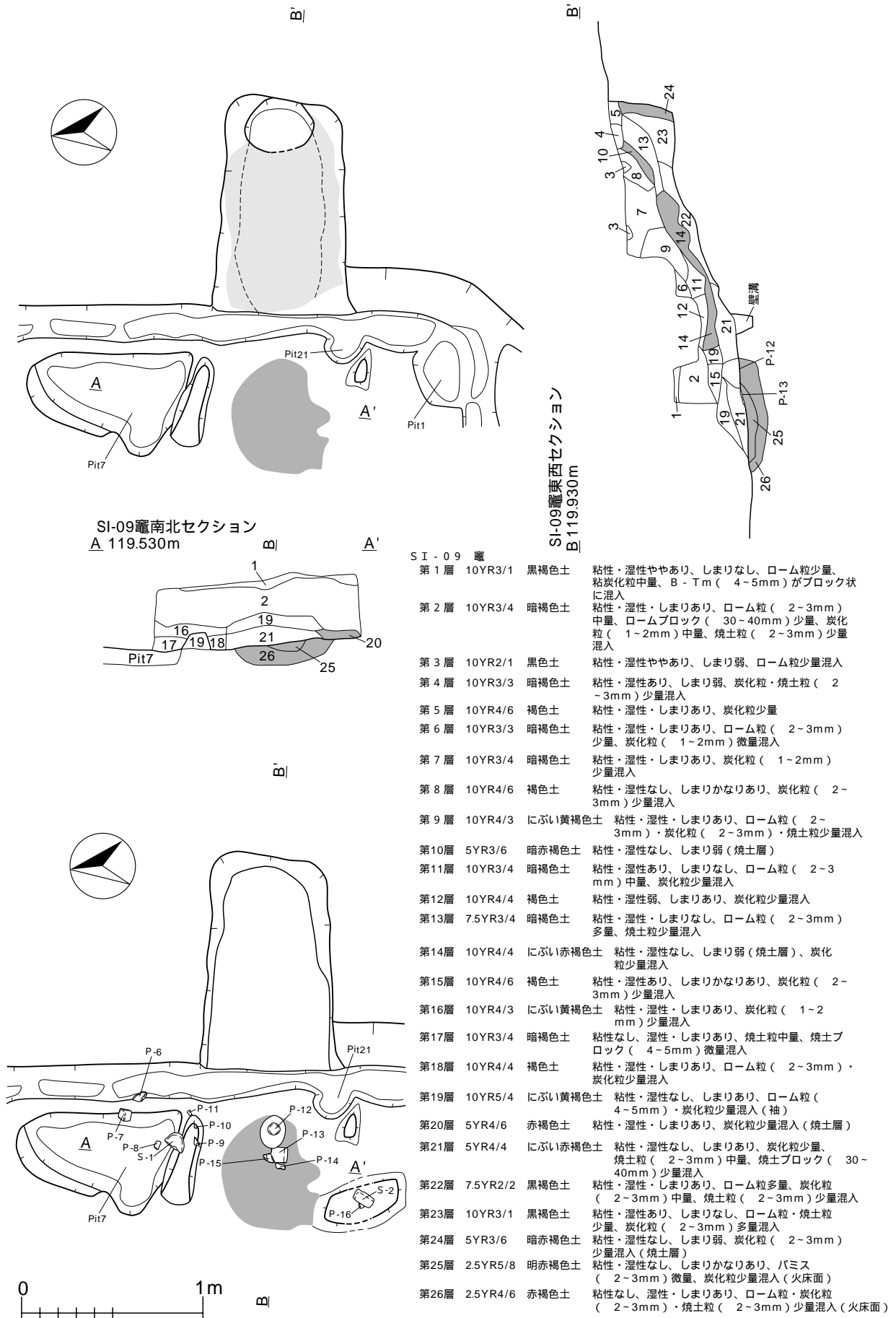


図86 SI-09

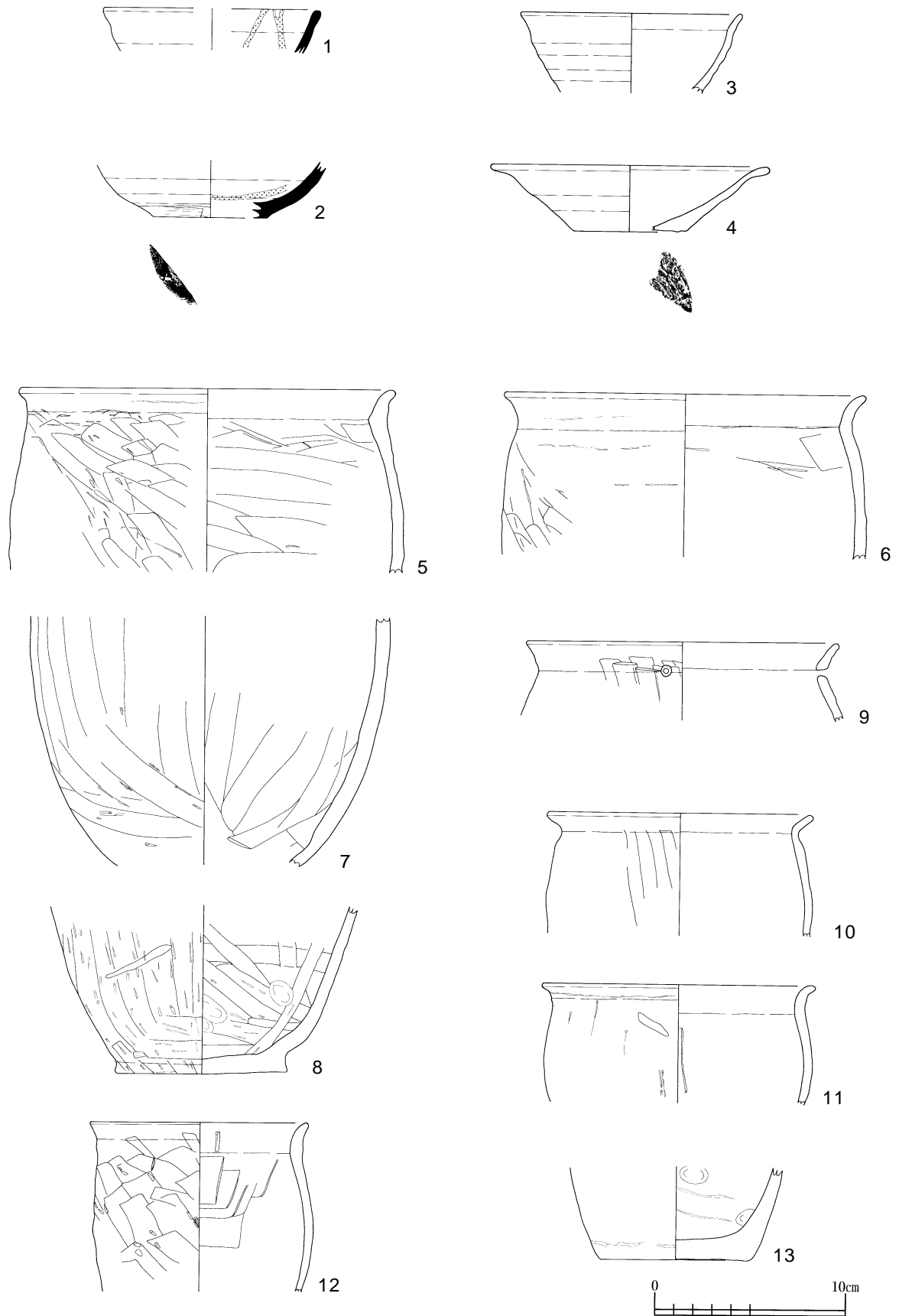


图87 S I - 09

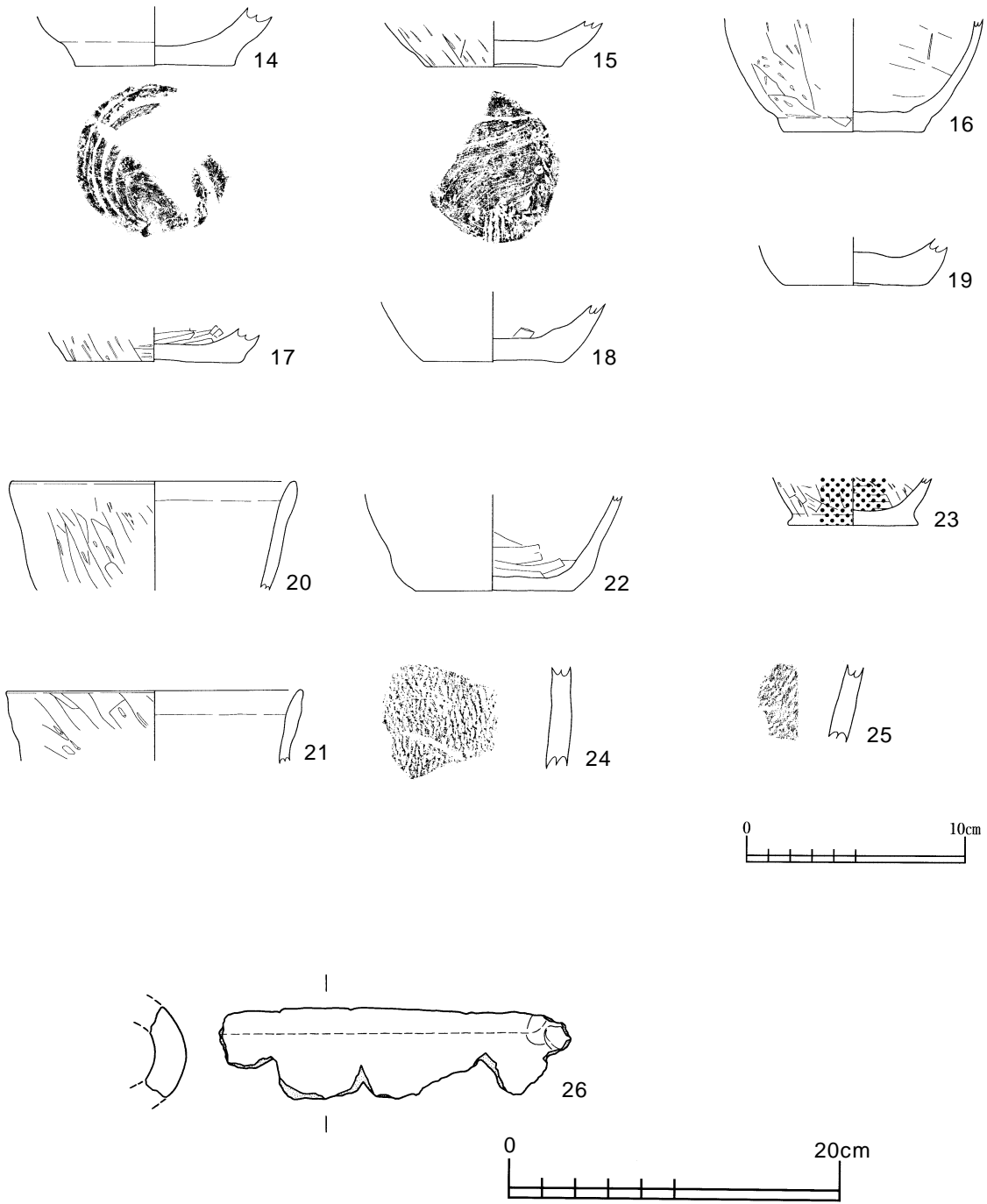


図88 S I - 09

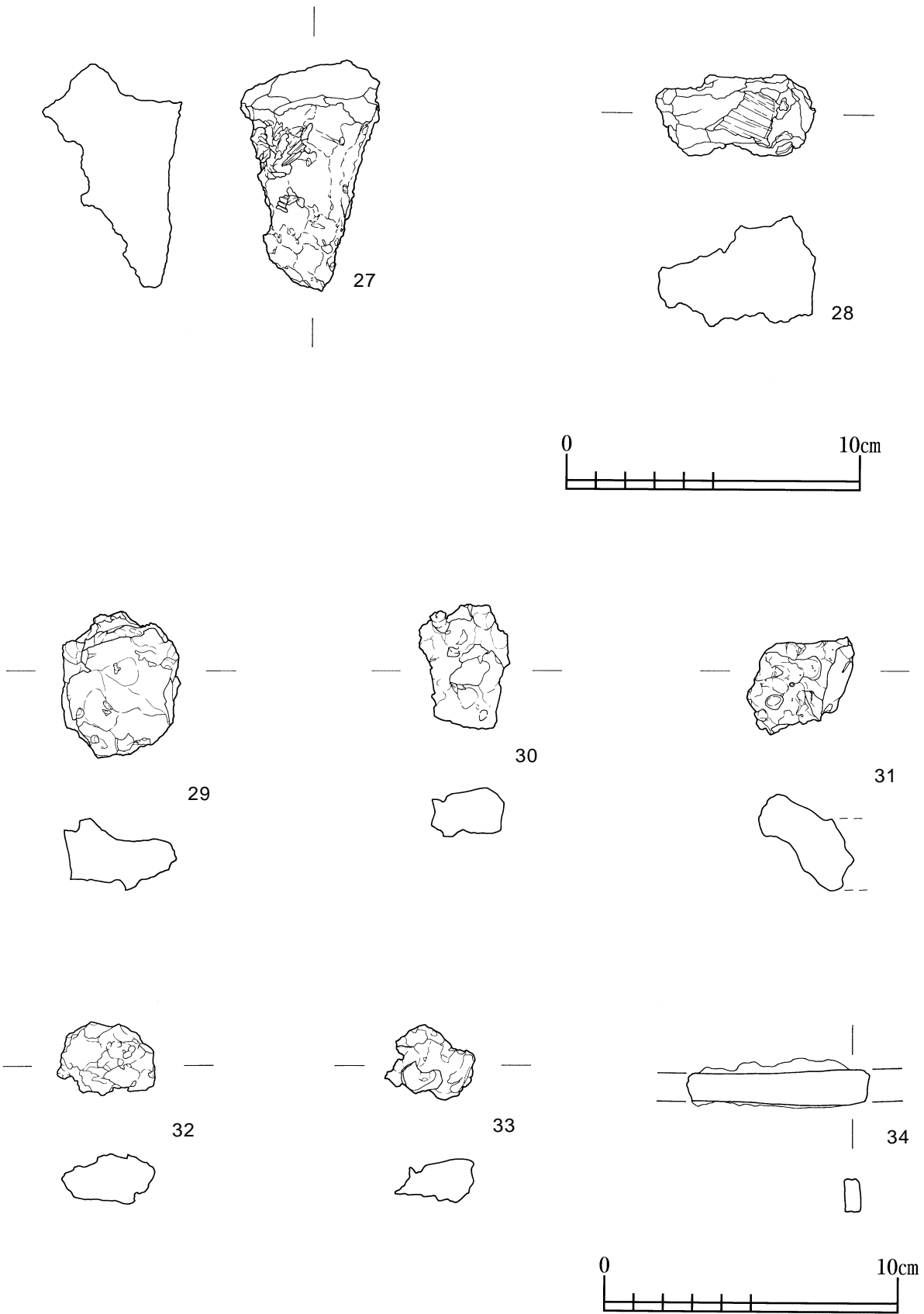
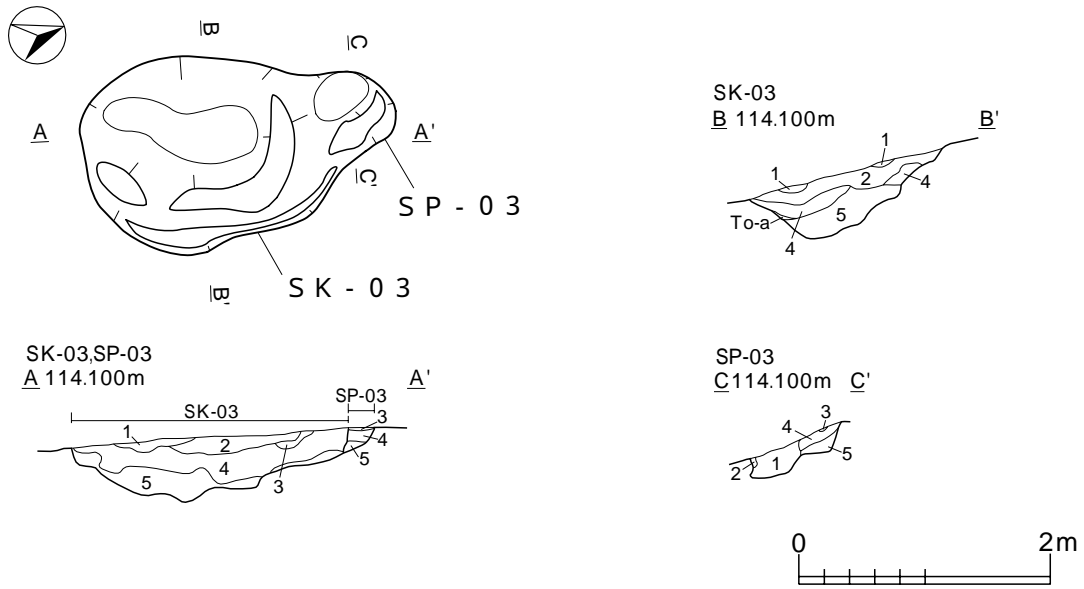


图89 S I - 09

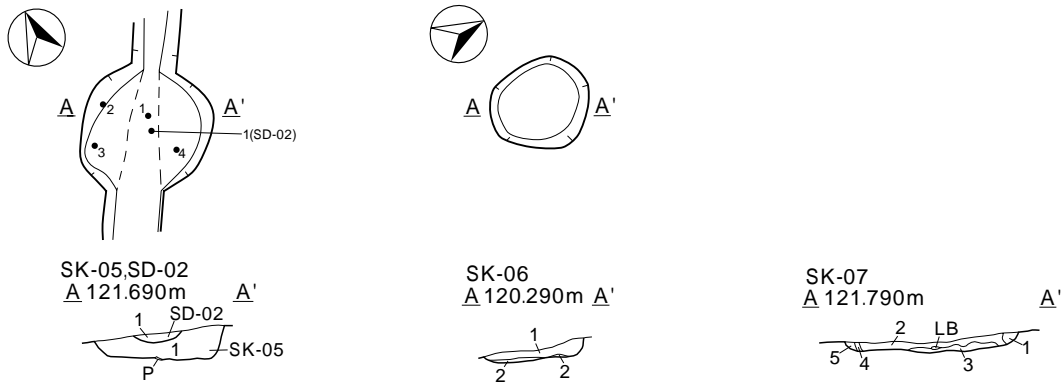


SK - 03

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりやや弱、炭化粒(2~3mm)少量、ローム粒少量混入
- 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性弱、しまりあり、炭化粒少量、ローム粒(3~4mm)少量混入
- 第4層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~4mm)中量、ローム粒(3~5mm)少量、To-a火山灰微量混入
- 第5層 10YR4/6 褐色土 粘性・湿性あり、しまりかなり強、炭化粒(1mm)少量混入

SP - 03

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒・ローム粒(2~3mm)少量混入
- 第2層 10YR4/4 褐色土 粘性あり、湿性なし、しまりかなりあり、炭化粒(1~2mm)少量混入
- 第3層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- 第4層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性・しまりあり、湿性なし、炭化粒(1~2mm)・ローム粒少量混入
- 第5層 10YR4/6 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1mm)少量混入



SK - 05

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ロームブロック(10~30mm)中量、炭化粒(5mm)・焼土粒(10mm)微量混入

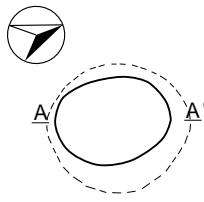
SK - 06 (底面に焼土粒ならびに炭化粒が少量附着している)

- 第1層 10YR2/1 黒色土 シルト質、粘性・湿性あり、しまりなし、焼土粒(1~5mm)・パミス(5mm)微量混入
- 第2層 10YR4/4 褐色土 ローム質、粘性・しまり強、湿性あり、焼土粒(1~3mm)少量、炭化粒(1mm)微量混入

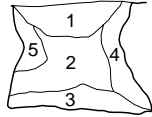
SK - 07

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘性・湿性なし、しまりあり、炭化粒(1~2mm)中量、ローム粒(4~5mm)少量混入
- 第2層 10YR3/2 黒褐色土 粘性ややあり、湿性なし、しまりあまりなし、ローム粒(2~3mm)中量、炭化粒(3~4mm)多量、焼土粒(1~2mm)微量混入
- 第3層 10YR4/6 褐色土 粘性・湿性なし、しまりあり、炭化粒(1~2mm)少量、パミス(2~3mm)微量混入
- 第4層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性なし、しまりあり、炭化粒・ローム粒少量混入
- 第5層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性なし、しまりあり、焼土粒(2~3mm)微量、炭化粒・ローム粒(4~5mm)少量混入

図90 SK

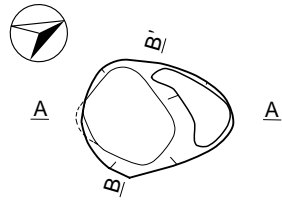


SK-08
A 122.190m A'



SK-08

- 第1層 10YR1.7/1 黒色土 シルト質、粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(1~10mm)少量、ロームブロック(10~40mm)ブロック状に少量、パミス(1~2mm)微量、炭化粒(1mm)極微量混入
- 第2層 10YR3/2 黒褐色土 シルト質、粘性・しまりあり(根による攪乱が一部あり)、湿性強、ローム粒(1~3mm)少量、パミス(5mm)極微量、炭化粒(1mm)極微量混入
- 第3層 10YR2/1 黒色土 シルト質、粘性・しまりややあり、湿性強、ローム粒(3~5mm)少量、パミス(2mm)極微量混入
- 第4層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(1~2mm)中量、パミス微量混入
- 第5層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質、粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(1~2mm)中量、礫(3mm)微量、炭化粒(1~2mm)極微量混入



SK-09
A 116.410m A' B 116.410m B'

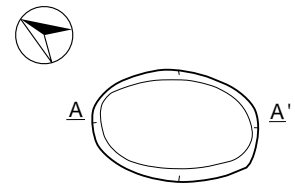


SK-09(旧SP-16)

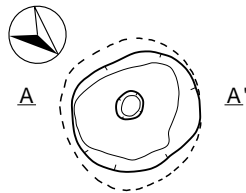
- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~2mm)少量、ローム粒少量混入
- 第2層 10YR4/6 褐色土 粘性あり、湿性弱、しまり強、ロームブロック層
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~2mm)少量、ローム粒(3~4mm)少量、パミス(4~5mm)微量混入

SK-10

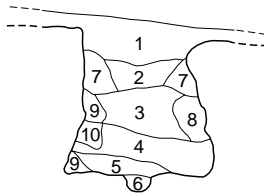
- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト質、粘性・しまりややあり、湿性あり、パミス(1~10mm)微量、ローム粒(1~5mm)中量、炭化粒(1~3mm)微量、焼土粒(1~3mm)極微量混入
- 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム質、粘性・湿性あり、しまり強、ローム粒(1~5mm)少量、炭化粒(1mm)極微量、小礫(5mm)微量、パミス(5mm)極微量混入



SK-10
A 121.590m A'



SK-11
A 122.130m A'

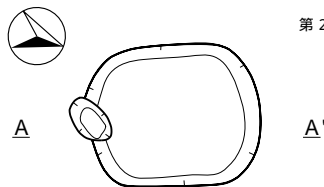


SK-11

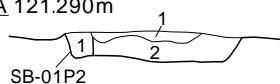
- 第1層 10YR1.7/1 黒色土 シルト質、粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(1~5mm)ブロック状に少量、焼土粒(1~10mm)中量、炭化粒(1mm)少量、礫(15mm)微量、小礫(10mm)微量混入
- 第2層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質、粘性・湿性ややあり、しまり強、焼土粒(1~5mm)少量、炭化粒(1~3mm)少量、小礫(1~3mm)極少量、パミス(10~15mm)微量混入
- 第3層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性・湿性あり、しまりややあり、ローム粒(1~5mm)ブロック状に微量、炭化粒(1~2mm)中量、小礫(5mm)微量、B-Tm火山灰(5mm)粒状に微量混入
- 第4層 10YR2/1 黒色土 シルト質、粘性あり、湿性強、しまり一部が強く他の部分はややあり、ローム粒(5~10mm)中量、炭化粒(1~3mm)微量、焼土粒(1~2mm)極微量混入
- 第5層 10YR3/4暗褐色土と10YR4/4褐色土との混合土 ローム混じりのシルト、粘性・湿性強、しまりなし
- 第6層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘土質、粘性・湿性強、しまりなし
- 第7層 10YR3/4 暗褐色土 粘土質、粘性・湿性あり、しまりややあり、ローム粒・ブロック(1~40mm)ブロック状に中量、炭化粒・物(5~30mm)微量、パミス(5~15mm)少量、小礫(30mm)極微量混入
- 第8層 10YR3/3 暗褐色土 粘土質、粘性・しまり強、湿性あり、ローム粒・ブロック(5~50mm)層立面に帯状に多量、炭化粒(1~5mm)微量、焼土ブロック(20mm)極微量混入
- 第9層 10YR4/4 褐色土 粘土質、粘性強、湿性あり、しまりややあり(層の下部の一部がしまり強)、パミス(5mm)少量混入
- 第10層 10YR4/6褐色土と10YR3/4暗褐色土との混合土 粘土質、粘性・湿性強、しまりなし

SK-13

- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(5~10mm)中量、炭化粒(2~3mm)少量、焼土粒(1~2mm)微量混入
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(4~6mm)中量、炭化粒(3~5mm)中量、焼土粒少量(3~4mm)混入



SK-13.SB-01P2
A 121.290m A'



SB-01P2

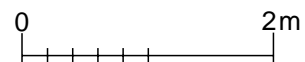
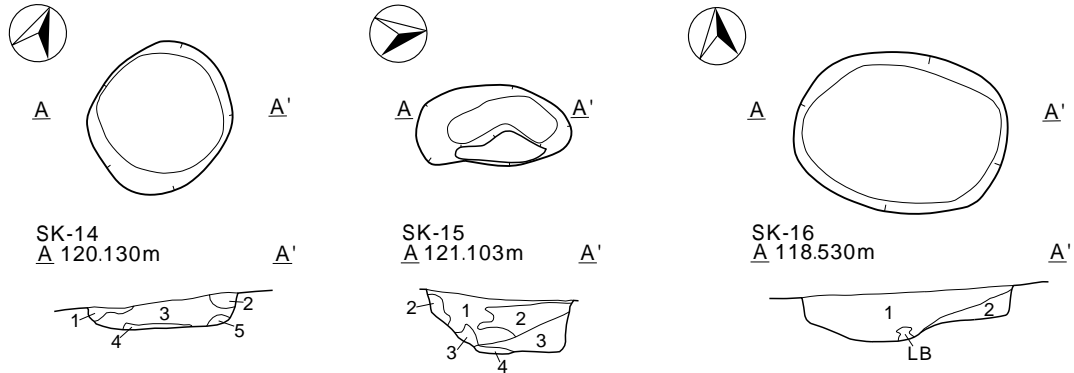


図91 SK



SK-14

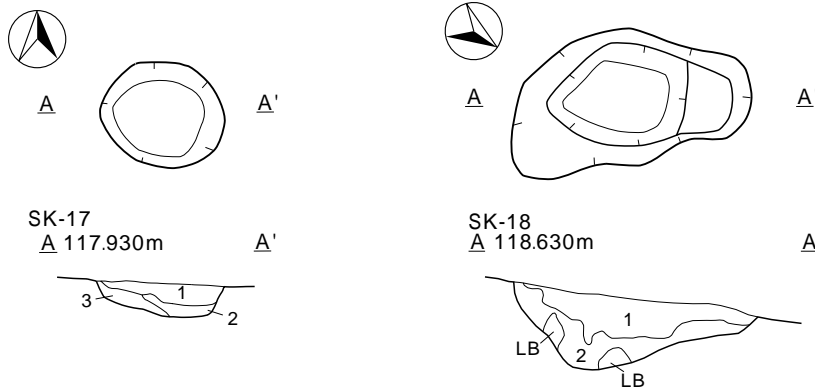
- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性なし、しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性なし、しまりあり、ローム粒・炭化粒(2~3mm)少量混入
- 第3層 10YR3/1 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒(1~2mm)中量混入
- 第4層 10YR2/3 黒褐色土 粘性・湿性なし、しまりあり、ローム粒(2~3mm)中量、炭化粒少量混入
- 第5層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性なし、しまりあり、炭化粒・ローム粒(3~4mm)少量混入

SK-15

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり
- 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ロームブロック(50~100mm)中量混入
- 第3層 10YR5/6 黄褐色土 ローム質、粘性・湿性あり、しまり弱、ロームブロック(50~100mm)多量混入
- 第4層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム質、粘性・しまりややあり、湿性あり、ローム粒(5~10mm)中量混入

SK-16

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・湿性あり、しまりやや弱、炭化粒・ローム粒少量混入
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・パミス(2~3mm)少量、炭化粒(1~2mm)中量混入



SK-17

- 第1層 10YR3/1 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、パミス(3~4mm)微量、炭化粒・ローム粒少量混入
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・パミス(2~3mm)・炭化粒(1~2mm)少量混入
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~2mm)・ロームブロック(10~15mm)少量混入

SK-18

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm)少量、炭化粒中量混入
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm)中量、炭化粒(1~2mm)・ロームブロック(30~50mm)少量混入



図92 SK

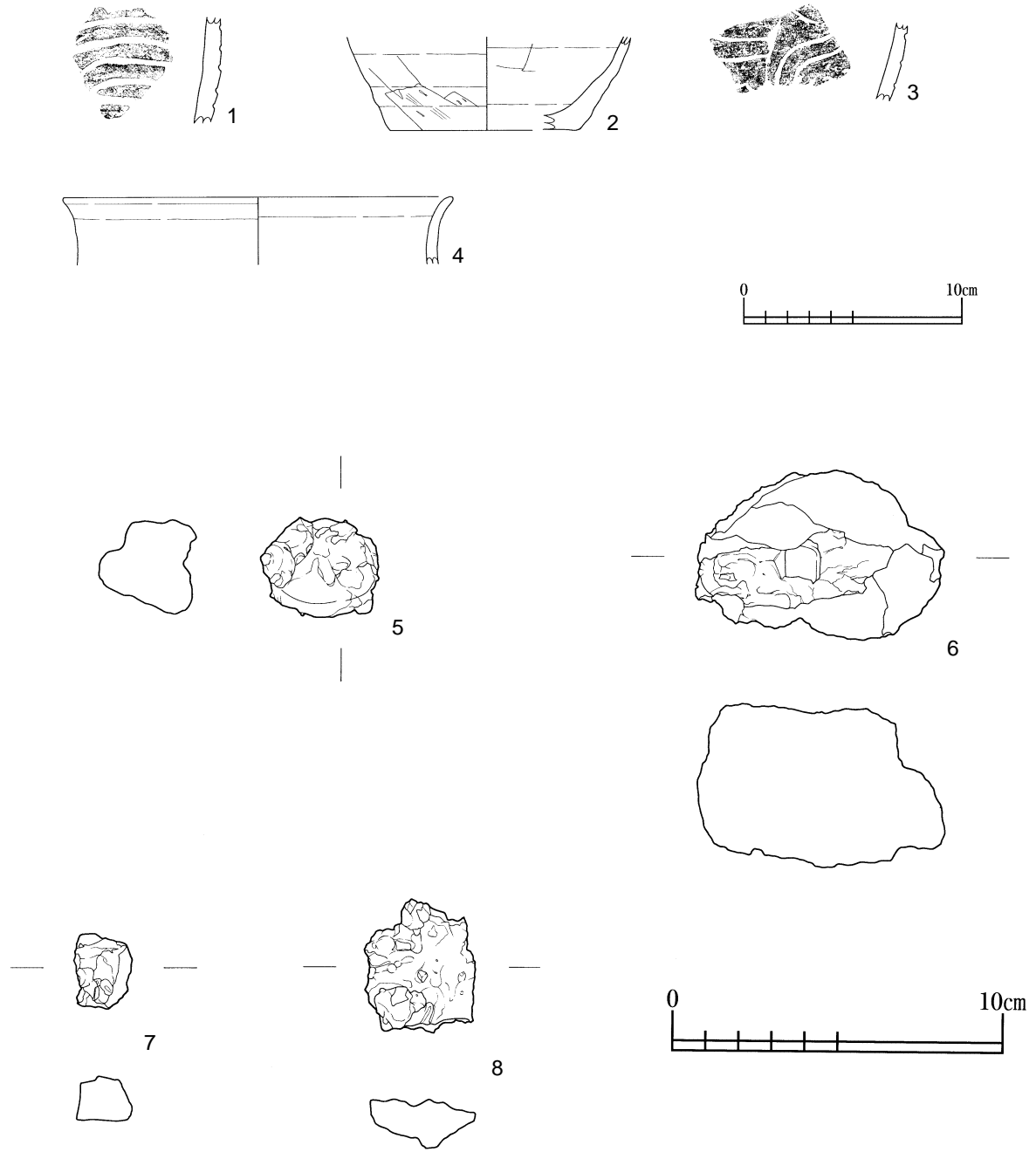
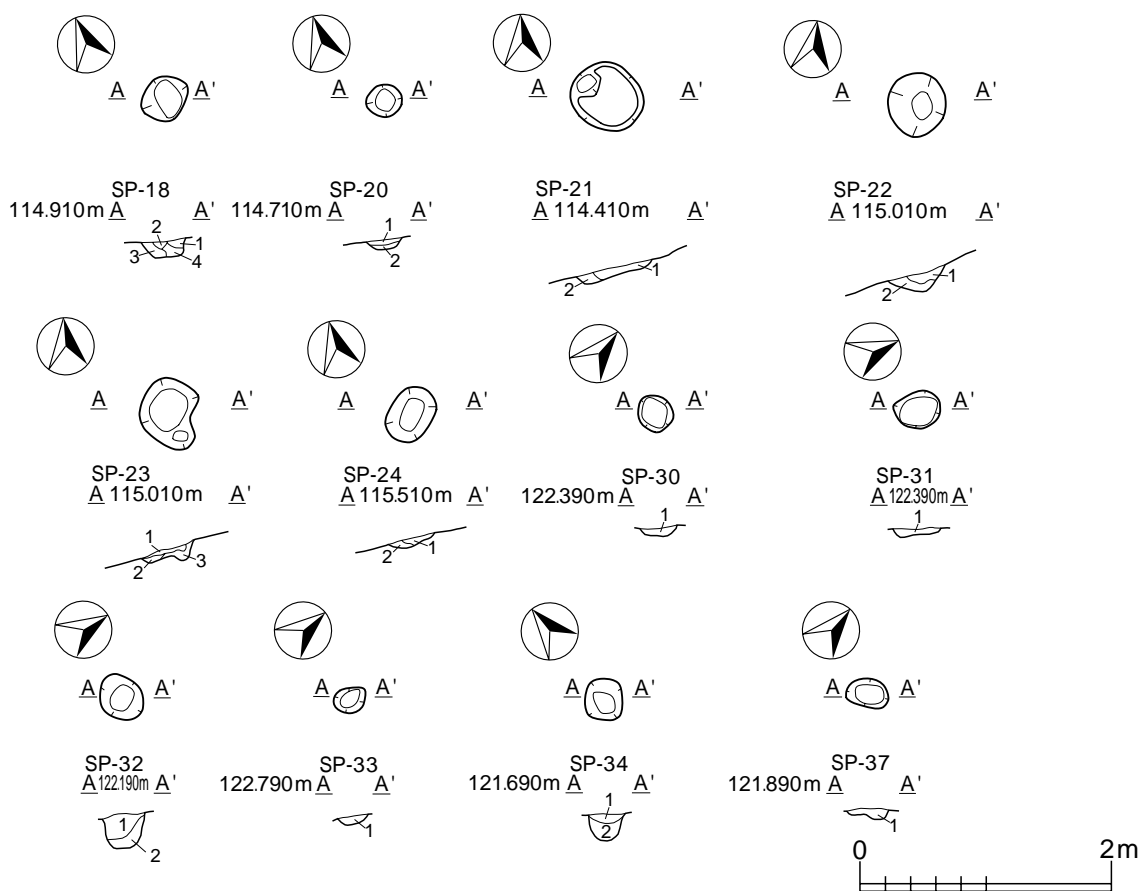


図93 S K



図94 SP



- SP - 18
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘性・湿性あり、しまりややあり、炭化粒・ローム粒(4~5mm)少量混入
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性あり、しまりややあり、炭化粒・ローム粒微量混入
 第3層 10YR3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒・ローム粒(2~3mm)少量混入
 第4層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量、ローム粒(2~3mm)微量混入
- SP - 20
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒・ローム粒(1~2mm)少量
 第2層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- SP - 21
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、炭化粒・ローム粒少量混入
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、ローム粒少量混入
- SP - 22
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、にぶい黄褐色土(10YR4/3)ブロック状に少量混入
 第2層 10YR2/1 黒色土 粘性・湿性ややあり、黒褐色土(10YR2/2)ブロック状に中量混入
- SP - 23
 第1層 10YR3/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、暗褐色土(10YR4/3)ブロック状に少量混入
 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性ややあり、ロームブロック(10mm)混入
 第3層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性あり、黒褐色土粒少量混入
- SP - 24
 第1層 10YR2/1 黒色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり
 第2層 10YR1.7/1 黒色土 粘性・湿性ややあり、しまり弱、ローム粒少量混入
- SP - 30
 第1層 10YR2/1 黒色土 シルト質、湿性・しまりあり、粘性なし、ローム粒(5mm)微量混入
- SP - 31
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質、湿性・粘性なし、しまり強、炭化粒(1mm)極微量、小礫(5mm)微量混入
- SP - 32
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(1~5mm)中量、小礫(3mm)微量混入
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質、粘性なし、しまり1層よりなし、湿性あり、ローム粒(1~3mm)少量、炭化物(10mm)・小礫(1~3mm)微量混入
- SP - 33
 第1層 10YR2/1 黒色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり強、ローム粒(1~10mm)・炭化粒(1~2mm)少量、焼土粒(1mm)・小礫(1mm)微量混入
- SP - 34
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、湿性・しまりあり、粘性ややあり、ローム粒・ロームブロック(1~30mm)多量、炭化粒(1mm)微量混入
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質、粘性あり、湿性強、しまりややあり、ローム粒(1mm)少量、炭化粒(1~5mm)・焼土粒(1mm)微量混入
- SP - 37
 第1層 10YR2/1 黒色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり強、ローム粒(1~10mm)・礫(2~20mm)中量混入

図95 SP

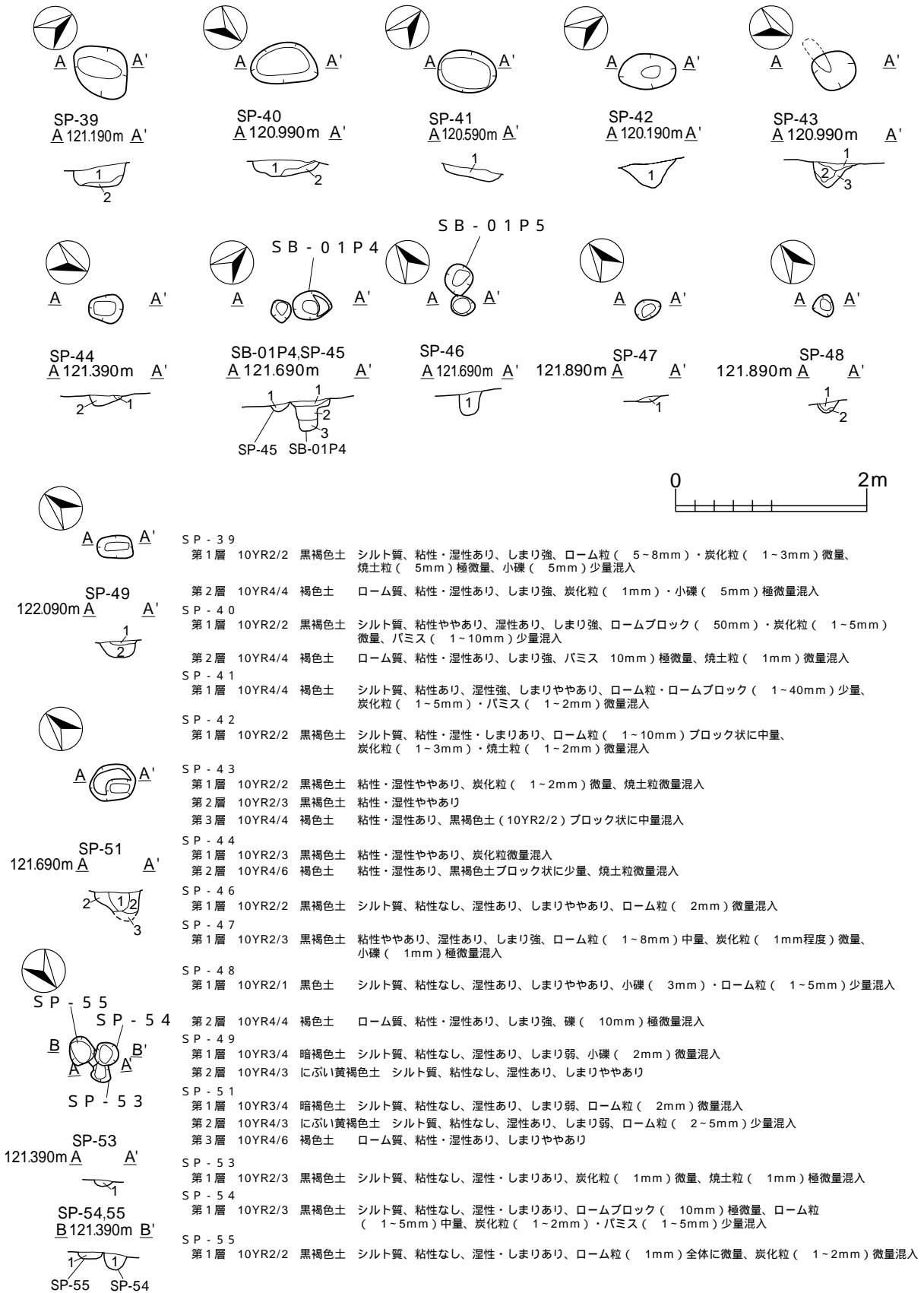


図96 SP

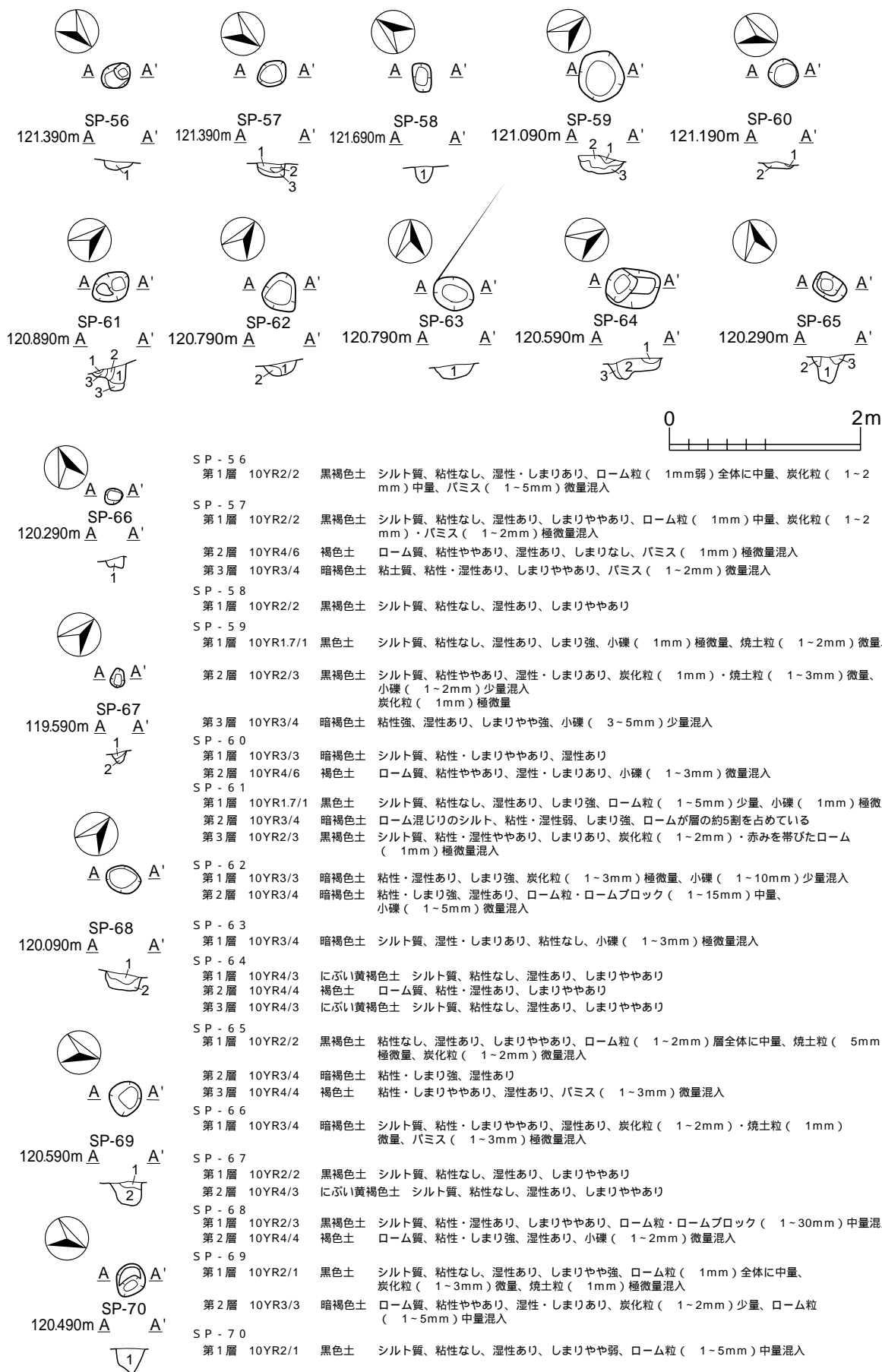
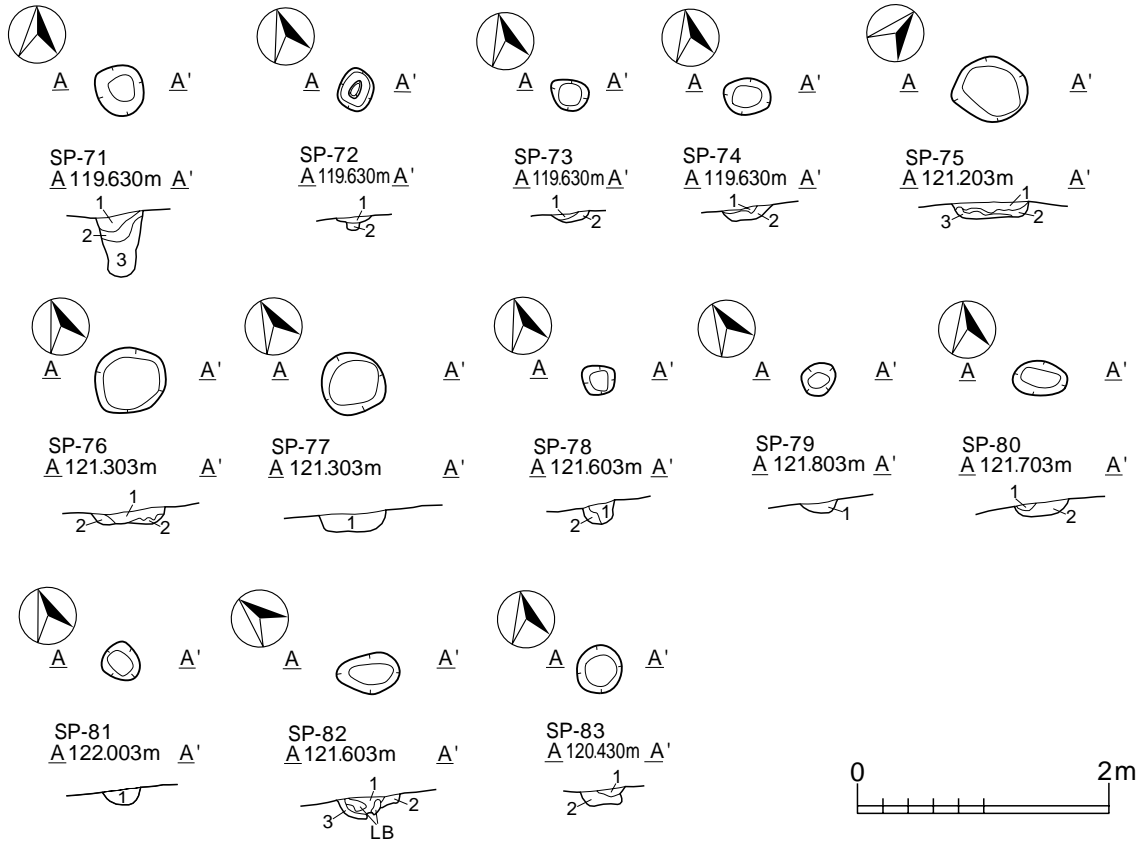


図97 S P



SP-71

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(1~2mm)少量、(8~10mm)微量混入
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(1~2mm)少量、(2~5mm)中量、炭化粒(1~2mm)少量混入
- 第3層 10YR3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(4~5mm)少量、炭化粒(1~2mm)中量混入

SP-72

- 第1層 10YR2/1 黒色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまり強、焼土粒(1~5mm)微量、小礫(10mm)極微量混入
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性なし、しまりあり、小礫(1mm)微量混入(掘り過ぎ) 10YR4/6 褐色土

SP-73

- 第1層 10YR2/1 黒色土 シルト質、粘性やや弱、湿性なし、しまりややあり、ローム粒(1~10mm)層全体に中量混入(層の両端に集中)
- 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性なし、しまりややあり

SP-74

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性やや弱、しまりあり、ローム粒(1~5mm)少量混入
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性やや弱、湿性なし、しまり強、焼土粒(1~2mm)極微量、小礫(1~3mm)微量混入

SP-75

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし、湿性ややあり、ロームブロック少量、パミス粒微量混入
- 第2層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性ややあり、パミス粒少量混入
- 第3層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘性・湿性ややあり、暗褐色土(10YR3/4)中量混入

SP-76

- 第1層 10YR3/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、炭化粒(1~2mm)微量、パミス粒・ロームブロック少量混入
- 第2層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘性・湿性ややあり

SP-77

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、ロームブロック・パミス中量、炭化粒少量混入

SP-78

- 第1層 10YR3/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、ロームブロック中量混入
- 第2層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性ややあり、黒褐色土(10YR3/2)ブロック少量混入

SP-79

- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性ややあり、ロームブロック少量、炭化粒微量混入

SP-80

- 第1層 10YR3/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、ロームブロック中量、パミス少量混入
- 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性ややあり、パミスブロック中量、パミス粒少量混入

SP-81

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、ロームブロック・パミス少量、炭化粒微量混入

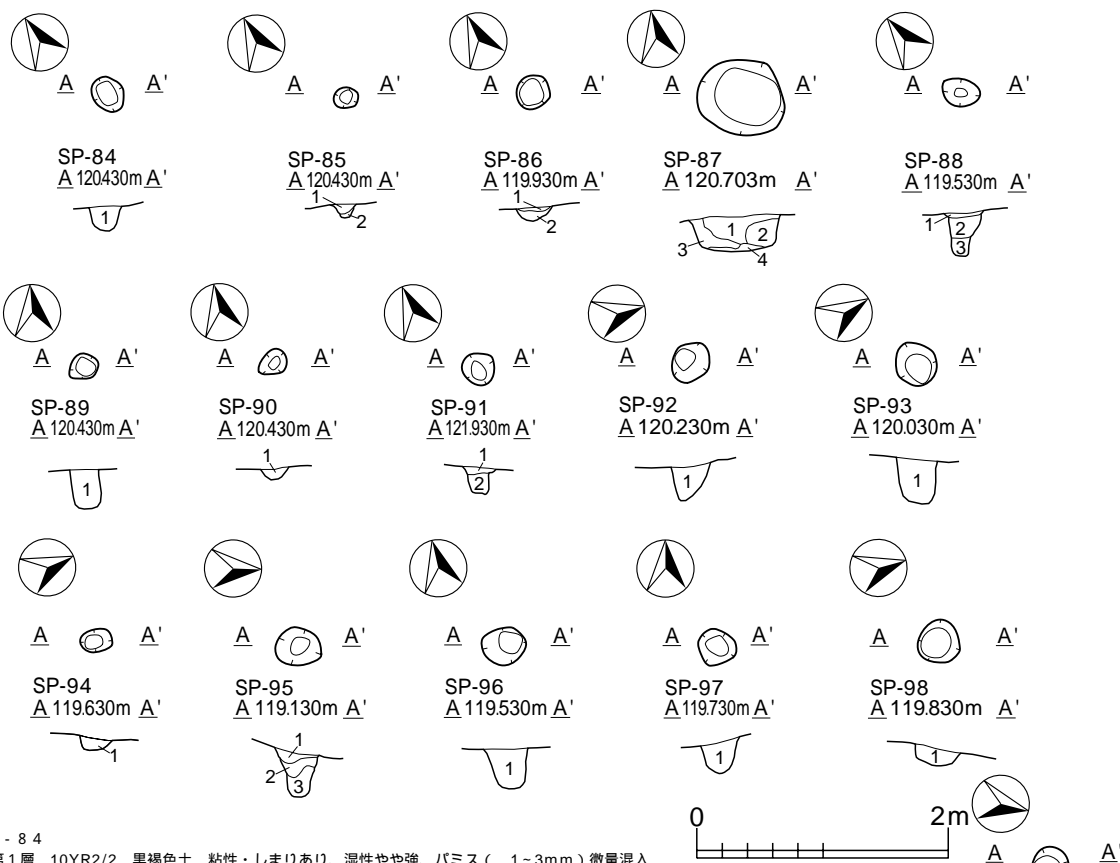
SP-82

- 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性ややあり、炭化粒・パミス粒少量混入
- 第2層 10YR3/2 黒褐色土 粘性・湿性ややあり、ロームブロック少量混入
- 第3層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性ややあり
- LB 10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘性・湿性ややあり

SP-83

- 第1層 10YR2/1 黒色土 粘性なし、湿性・しまりあり、ロームブロック(30mm)極微量混入
- 第2層 10YR4/4 褐色土 粘性なし、湿性・しまりあり、パミス(5mm)微量混入

図98 SP



- SP-84
A 120.430m A'
- SP-85
A 120.430m A'
- SP-86
A 119.930m A'
- SP-87
A 120.703m A'
- SP-88
A 119.530m A'
- SP-89
A 120.430m A'
- SP-90
A 120.430m A'
- SP-91
A 121.930m A'
- SP-92
A 120.230m A'
- SP-93
A 120.030m A'
- SP-94
A 119.630m A'
- SP-95
A 119.130m A'
- SP-96
A 119.530m A'
- SP-97
A 119.730m A'
- SP-98
A 119.830m A'
- SP-99
A 118.930m A'
- SP-84
第1層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・しまりあり、湿性やや強、パミス(1~3mm)微量混入
- SP-85
第1層 10YR2/1 黒色土 粘性・しまりあり、湿性やや強
第2層 10YR3/4 暗褐色土 粘性あり、湿性やや強、しまりややあり、パミス(1~3mm)微量、炭化粒(1mm)極微量、小礫(1~2mm)少量混入
- SP-86
第1層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(3~4mm)少量、炭化粒微量混入
第2層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(5~6mm)少量、炭化粒(2mm)微量混入
- SP-87
第1層 10YR2/3 黒褐色土 シルト質、粘性なし、湿性・しまりややあり、焼土ブロック(50mm)微量混入
第2層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性・しまりややあり、焼土粒(2mm)微量混入
第3層 10YR3/4 暗褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ロームブロック(50mm)中量混入
第4層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(5~10mm)多量混入
- SP-88
第1層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量、ローム粒少量混入
第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性なし、しまりあり、ロームブロック(40~60mm)中量、炭化粒少量混入
第3層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性なし、しまりあり、ローム粒(2~3mm)・炭化粒(2~3mm)少量混入
- SP-89
第1層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒・ローム粒少量混入
- SP-90
第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(2~3mm)少量、ローム粒(4~5mm)微量混入
- SP-91
第1層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒(1~2mm)少量混入
第2層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒(1~2mm)少量混入
- SP-92
第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~2mm)・パミス(4~5mm)少量、ローム粒少量混入
- SP-93
第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、パミス(4~5mm)・炭化粒(1~2mm)・ローム粒少量混入
- SP-94
第1層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~2mm)中量、ローム粒少量混入
- SP-95
第1層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒・ローム粒少量混入
第2層 10YR2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒少量混入
第3層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒少量混入
- SP-96
第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm)・ロームブロック(10~15mm)少量、炭化粒中量混入
- SP-97
第1層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性あり、しまり弱、炭化粒(2~3mm)・ローム粒少量混入
- SP-98
第1層 10YR2/1 黒色土 粘性・湿性あり、しまりややあり、炭化粒(1~2mm)・ローム粒少量混入
- SP-99
第1層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒少量混入
第2層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒中量、炭化粒(2~3mm)少量混入
第3層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~2mm)少量、ローム粒(1~2mm)中量混入

図99 S P

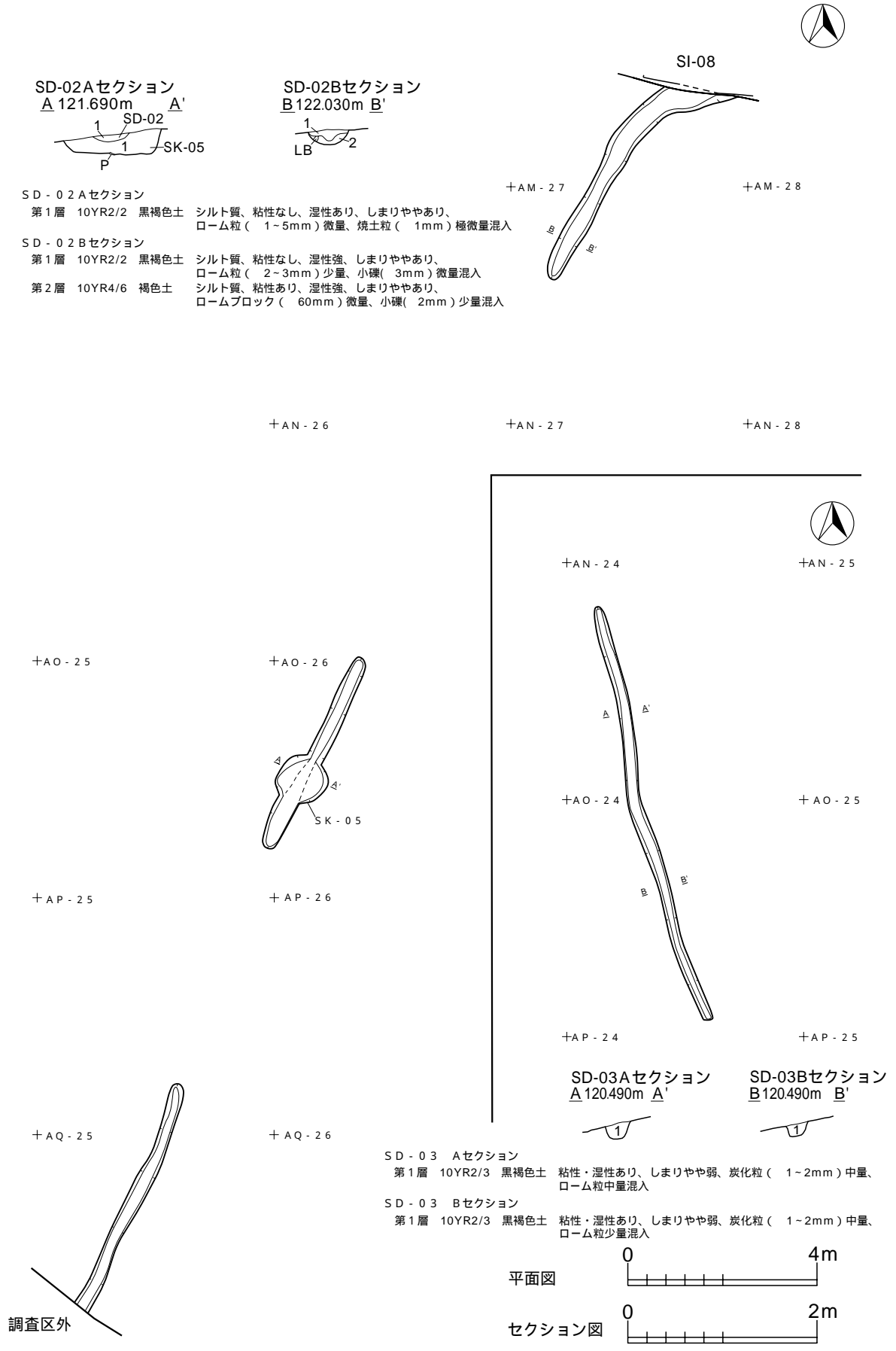
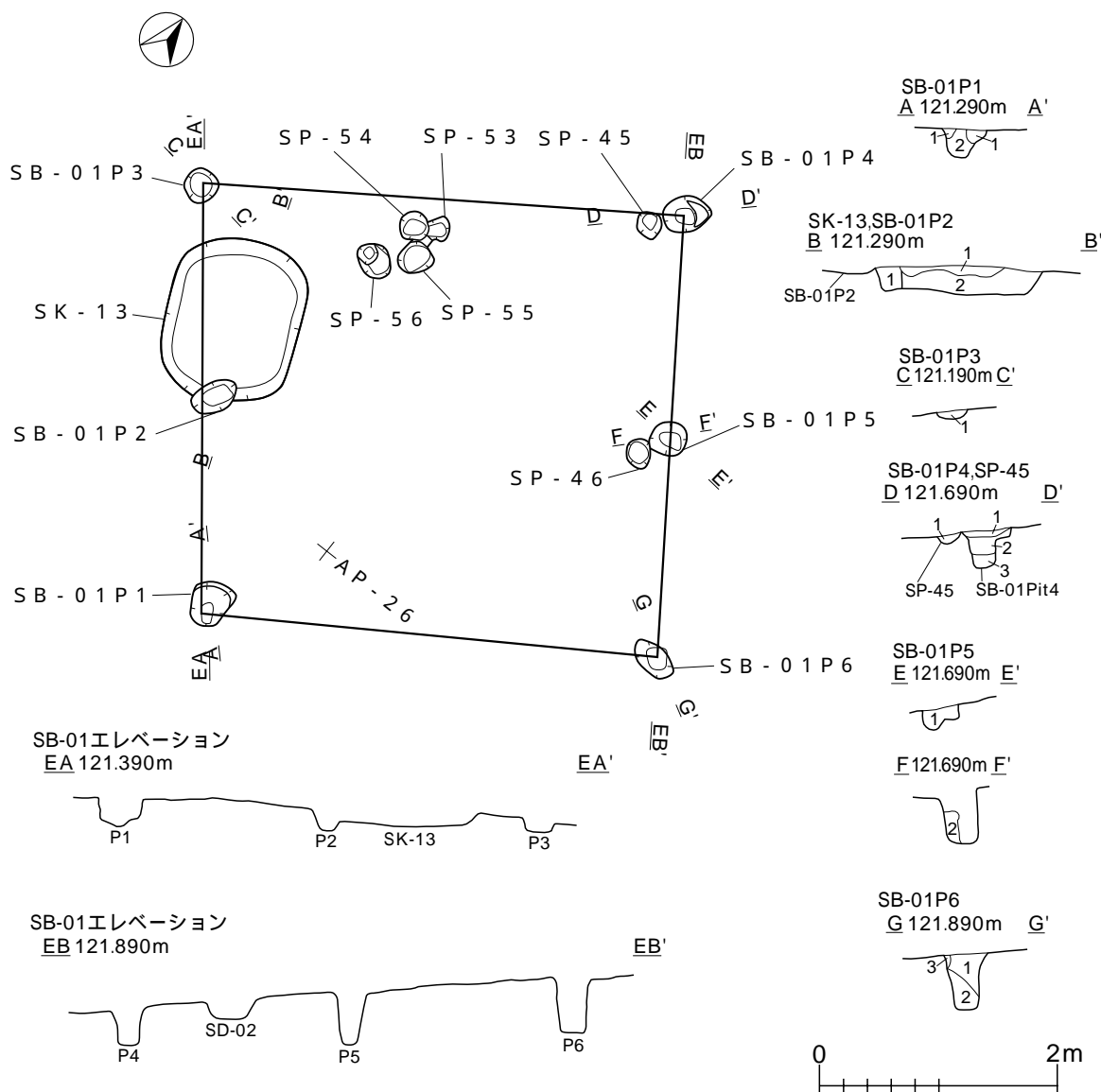
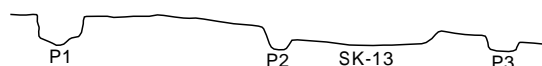


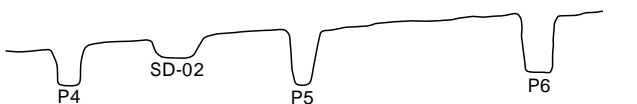
図100 S D



SB-01エレベーション
EA 121.390m

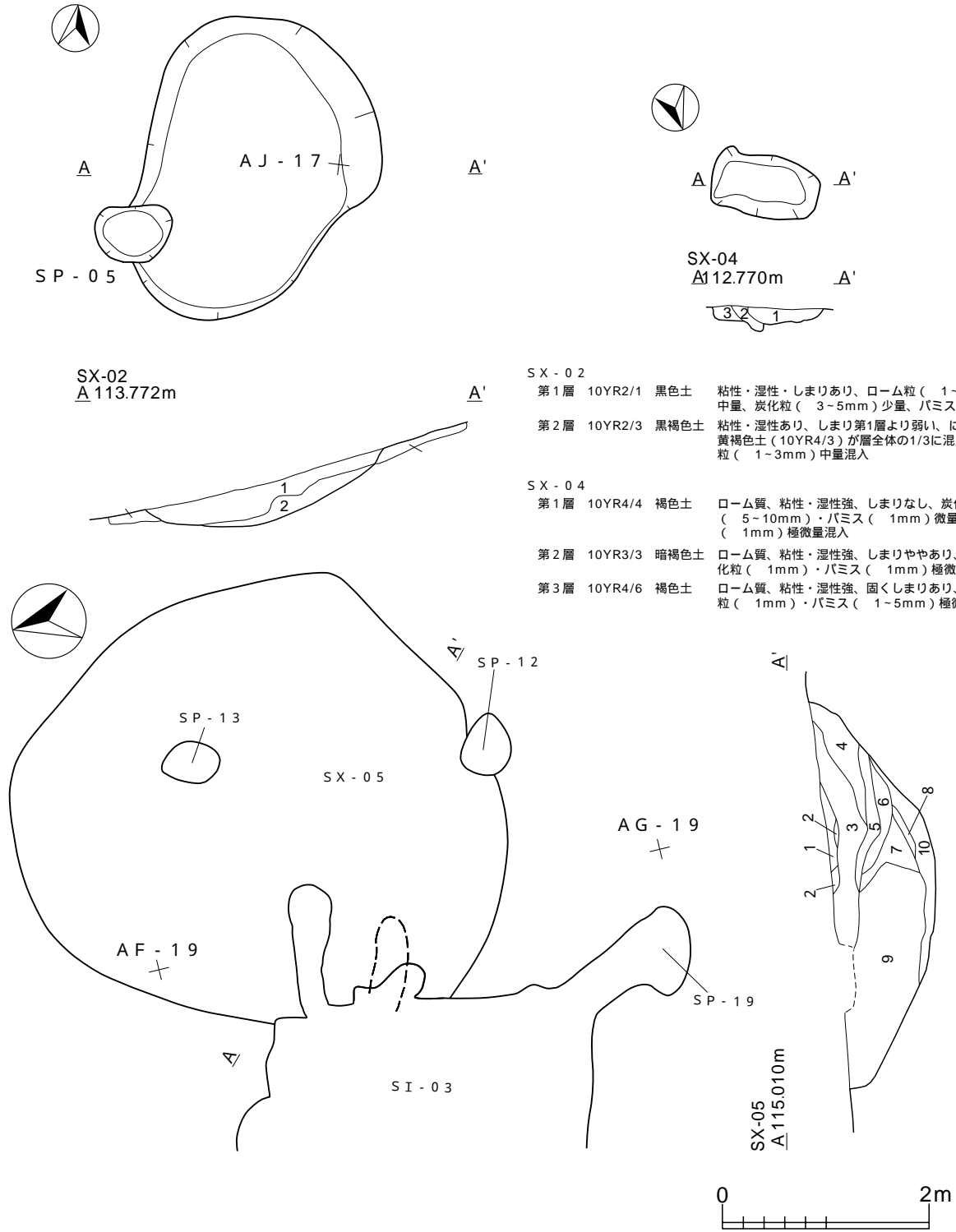


SB-01エレベーション
EB 121.890m



- SB - 01 P 1
 第1層 10YR3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒少量混入
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~2mm) 中量、ローム粒中量混入
- SB - 01 P 2
 第1層 10YR3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~3mm) 中量、炭化粒(1~2mm) 少量、焼土粒(1~2mm) 微量混入
- SB - 01 P 3
 第1層 10YR3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~3mm) 中量、ローム粒(3~4mm) 少量混入
- SB - 01 P 4
 第1層 10YR3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・炭化粒少量混入
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(3~5mm) 少量、炭化粒(1~2mm) 中量混入
 第3層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性あり、しまりやや弱、ローム粒・炭化粒(2~3mm) 中量混入
- SB - 01 P 5
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘性ややあり、湿性・しまりあり、ローム粒(1~10mm) 中量、小礫(2mm) 極微量、炭化粒(2mm) 微量混入
 第2層 10YR6/4にぶい黄褐色土と10YR3/3暗褐色土との混合土 粘性強、湿性・しまりあり
- SB - 01 P 6
 第1層 10YR3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~3mm) 中量、ローム粒(1~2mm) 少量、(4~5mm) 微量混入
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒多量、炭化粒(1~2mm) 中量混入
 第3層 10YR4/6 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~2mm) 少量混入

図101 SB



SX-02
A113.772m

SX-02

- | | | | |
|-----|---------|------|--|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(1~5mm)中量、炭化粒(3~5mm)少量、パミス微量混入 |
| 第2層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性・湿性あり、しまり第1層より弱い、にぶい黄褐色土(10YR4/3)が層全体の1/3に混入、ローム粒(1~3mm)中量混入 |

SX-04

- | | | | |
|-----|---------|------|--|
| 第1層 | 10YR4/4 | 褐色土 | ローム質、粘性・湿性強、しまりなし、炭化粒(5~10mm)・パミス(1mm)微量、焼土粒(1mm)極微量混入 |
| 第2層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム質、粘性・湿性強、しまりややあり、炭化粒(1mm)・パミス(1mm)極微量混入 |
| 第3層 | 10YR4/6 | 褐色土 | ローム質、粘性・湿性強、固くしまりあり、炭化粒(1mm)・パミス(1~5mm)極微量混入 |

SX-05

- | | | | |
|------|---------|---------|---|
| 第1層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、炭化粒(2mm)微量混入 |
| 第2層 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | シルト質、粘性なし、湿性・しまりあり、T o - aブロック(50~100mm)中量混入 |
| 第3層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | ローム質、粘性ややあり、湿性あり、しまりややあり、礫(15~20mm)少量、炭化粒(5mm)極微量混入 |
| 第4層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | シルト質、粘性なし、湿性・しまりあり、炭化粒(2mm)極微量混入 |
| 第5層 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、炭化粒(2~5mm)・炭化物(10~20mm)中量混入 |
| 第6層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム混じりシルト、粘性・しまりややあり、湿性あり、炭化粒(2mm)微量、炭化物(10mm)少量混入 |
| 第7層 | 10YR4/4 | 褐色土 | ローム質、粘性あり、湿性・しまりややあり、パミス粒(2mm)微量混入 |
| 第8層 | 10YR4/4 | 褐色土 | ローム質、粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(2mm)微量、礫(20mm)極微量混入 |
| 第9層 | 10YR4/6 | 褐色土 | ローム質、粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(2mm)微量混入 |
| 第10層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | ローム質、粘性・湿性・しまりあり、ロームブロック(30~50mm)中量、礫(50mm)微量混入 |

図102 SX

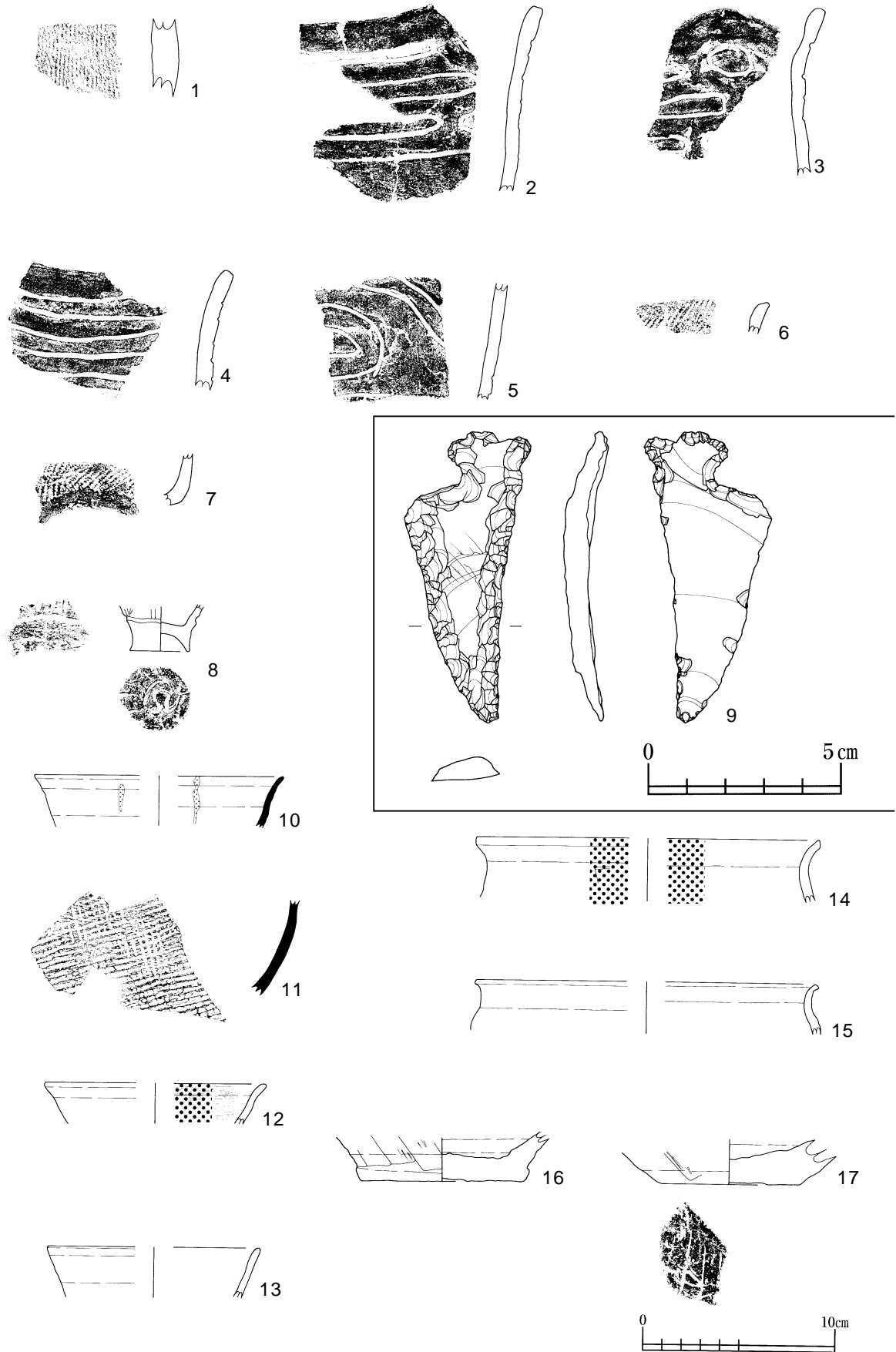


图103 遺構外出土遺物

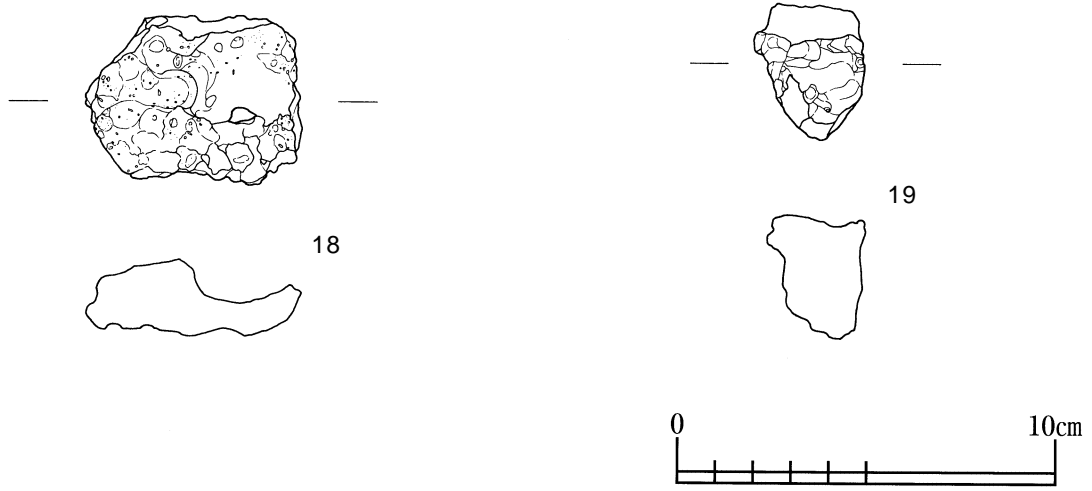


図104 遺構外出土遺物

表14 雲谷山吹(6)遺跡竪穴建物跡観察表

図版番号	遺構番号	グリッド	重複	規模 (cm)			面積 (m ²)	平面 プラン	断面 プラン	柱穴 配置	ピット	土坑	壁溝	その他	堆積 土層	堆積状況	火山灰
				長軸	短軸	深さ											
図51-54	SI-02	AI-18, AH-AI-19	SK-04・ 12SX-03	330	320	60	10.4	a	a	x	10	-	b	-	6		B-Tm
図55-59	SI-03	AF-18-19	SP-19	328	304	60	8.4	c	e	x	9	-	f	-	5	人為廃棄有	B-Tm
図60-62	SI-04	AD-AE-17-18		380	370	70	10.7	d	c	x	12	-	b	-	8	人為廃棄有	B-Tm
図63-68	SI-05	AJ-AK-22-23		476	380	53	16.4	b	a+d	a	10	-	a	-	7	人為廃棄有	B-Tm
図69-75	SI-06	AN・AO-25, AO-26		380	370	68	12.9	b	a	x	8	-	a	-	9	人為廃棄有	B-Tm
図76	SI-07	AN・AO-27		-	-	42	[6.5]	x	x	x	5	1	d?	-	6	人為要因	To-a, B-Tm
図77-82	SI-08	AK-AL-27-28		-	-	71	[25.8]	x	x	x	10	1	x	-	10	人為廃棄有	B-Tm
図83-89	SI-09	AI-AJ-25-26	SD-02	508	415	90	18.5	(b)	a+d	x	21	-	a	-	19	人為廃棄有	B-Tm

表15 雲谷山吹(6)遺跡土坑観察表

図版番号	遺構番号	グリッド	重複	規模 (cm)			平面形	断面形	特記事項	備考
				長軸	短軸	深さ				
図90	SK-03	AH-16-17	SK-03>SP-03	220	156	50	e	e		
図51	SK-04	AI-19	SK-04?SI-02	-	-	-	-	-		Secのみ、焼成の可能性
図90	SK-05	AO-26	SK-05<SD-02	107	98	26	(c)	a+d		土師器8片、鉄滓1点出土
図90	SK-06	AQ-25		80	72	14	e	a+d		焼成の可能性
図90	SK-07	AK-26		[138]	-	12	-	-		平面図未作成
図91	SK-08	AN-26-27		91	67	86	f	f	フラスコ	(底面113×103cm)縄文土器出土
図91	SK-09	AF-19		120	95	43	f	e		SP-16から変更、土師器出土
図91	SK-10	AO-AP-26		132	89	21	g	a+d		
図91	SK-11	AM-26		103	90	111	f	f	フラスコ	(底面121×110cm) Pit = 23×21×12cm
図91	SK-12	AI-19	SK-12?SI-02	-	-	-	-	f		Secのみ
図91	SK-13	AO-25	SK-13<SB-02P2	[140]	114	23	g	a		土師器出土
図92	SK-14	AK-23-24		124	112	24	e	a		
図92	SK-15	AK-27		121	65	48	g	e		
図92	SK-16	AH-28		169	126	39	f	e		
図92	SK-17	AH-27		100	85	25	e	a		
図92	SK-18	AH-27		197	110	66	e	e		

表16 雲谷山吹(6)遺跡ピット観察表

図版番号	遺構番号	グリッド	重複	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備考
図94	SP-04	AH-19		37	26	14	g	a	
図94	SP-05	AJ-16	SX-02<SP-05	71	53	33	e	a	焼土粒が混入
図94	SP-06	AH-17		43	32	10	f	d	
図94	SP-07	AH-17-18		65	50	21	e	h	
図94	SP-08	AG-18		37	33	13	c	a	
図94	SP-09	AG-18		45	37	5	e	d	土師器出土
図94	SP-10	AG-19		104	53	18	e	l	
図94	SP-11	AG-18		68	59	13	h	e	
図94	SP-12	AF-19	(SX-05<SP-12)	60	50	36	e	j	柱穴の可能性有
図94	SP-13	AF-19	(SX-05<SP-13)	57	41	13	e	d	
図94	SP-14	AE-18		39	36	11	c	d	
図94	SP-15	AH-19		44	35	16	e	e	
図94	SP-16	欠番							SK-09に変更
図94	SP-17	AF-18		34	25	12	e	h	
図95	SP-18	AF-18		39	33	13	c	a+d	土師器出土
図55-56	SP-19	AF-18	SI-03>SP-19	405	43	99	溝状	溝状	溝状土坑(T-Pit)
図95	SP-20	AF-18		29	26	8	h	d	
図95	SP-21	AJ-17		58	53	7	f	i	
図95	SP-22	AI-17		50	46	17	h	o	
図95	SP-23	AI-17		58	51	15	e	i	
図95	SP-24	AI-18		45	33	7	g	d	
図95	SP-25	欠番							
図95	SP-26	欠番							
図95	SP-27	欠番							
図95	SP-28	欠番							
図95	SP-29	欠番							
図95	SP-30	AO-27		30	28	6	e	d	
図95	SP-31	AO-27		36	28	8	e	d	
図95	SP-32	AP-27		38	32	29	f	a	柱穴の可能性有
図95	SP-33	AP-26		25	19	7	e	d	
図95	SP-34	AP-26		33	29	21	c	a	柱穴の可能性有
図95	SP-37	AO-26		33	23	9	g	e	
図95	SP-38	欠番							SB-01・P5に変更
図96	SP-39	AP-25		66	53	24	e	a	
図96	SP-40	AP-25		70	41	16	g	a+d	粒径の大きなロームブロック混入
図96	SP-41	AP-24-25		61	45	10	g	d	
図96	SP-42	AP-24		60	36	28	g	g	土師器出土
図96	SP-43	AO-25		45	40	26	c	c	斜めに掘り込み
図96	SP-44	AN-25		36	30	11	e	a+d	
図96	SP-45	AO-26		26	21	8	e	a	
図96	SP-46	AO-26		25	19	24	h	a	柱穴の可能性有
図96	SP-47	AO-26		28	19	6	e	d	
図96	SP-48	AO-26		23	22	12	e	a+d	
図96	SP-49	AO-AP-26		36	23	15	g	a+d	
図96	SP-50	欠番							
図96	SP-51	AP-26		49	37	30	g	e	柱穴の可能性大
図96	SP-52	欠番							
図96	SP-53	AO-25	SP-54-55>SP-53	[20]	19	6	(e)	h	
図96	SP-54	AO-25	SP-54>SP-53	25	25	18	h	a	
図96	SP-55	AO-25	SP-55>SP-53	27	26	6	e	a	
図97	SP-56	AO-25		33	25	9	c	e	
図97	SP-57	AO-25		35	26	14	e	a	
図97	SP-58	AO-26		31	19	17	g	a	
図97	SP-59	AO-AP-25		53	47	19	e	a	
図97	SP-60	AO-25		30	30	5	h	d	
図97	SP-61	AP-25		45	35	28	e	e	柱穴の可能性有
図97	SP-62	AP-25		39	35	14	e	h	
図97	SP-63	AP-25		34	34	13	f	d	

雲谷山吹(4)~(7)遺跡

図版番号	遺構番号	グリッド	重複	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備考
図97	SP - 64	AP - 24		55	39	19	g	e	採取痕有
図97	SP - 65	AP - 25		35	25	26	g	b	柱穴の可能性大
図97	SP - 66	AP - 25		17	17	11	h	a	
図97	SP - 67	AP - 24		18	15	13	e	g	
図97	SP - 68	AO - 24		38	37	19	f	a	
図97	SP - 69	AN・AO - 24		39	32	25	h	c	
図97	SP - 70	AO - 24		34	29	26	e	g	柱穴の可能性有
図98	SP - 71	AK・AL - 22		40	36	52	c	a	柱穴の可能性大
図98	SP - 72	AK - 22		30	28	11	c	j	
図98	SP - 73	AK - 22		30	25	8	e	a+b	
図98	SP - 74	AK - 23		35	30	10	f	d	
図98	SP - 75	AM - 25		60	52	14	e	a	
図98	SP - 76	AM - 25		56	51	12	c	a	
図98	SP - 77	AL - 25		49	47	12	h	a	
図98	SP - 78	AN - 25		25	20	15	c	a	
図98	SP - 79	AN - 26		27	25	10	e	h	
図98	SP - 80	AM - 26		43	26	13	g	d	
図98	SP - 81	AM - 26		30	27	14	e	h	
図98	SP - 82	AL・AM - 26		50	32	13	e	i	
図98	SP - 83	AK - 24		36	35	11	h	c	
図99	SP - 84	AK - 24		29	24	19	f	a	
図99	SP - 85	AK - 24		20	16	9	c	a	
図99	SP - 86	AK - 23		25	25	10	h	a+b	
図99	SP - 87	AK - 25		70	60	25	f	a	人為的埋土
図99	SP - 88	AJ - 23		30	20	35	f	c	柱穴の可能性有、粒径の大きなロームブロック混入
図99	SP - 89	AK - 24		21	20	31	e	a	柱穴の可能性有
図99	SP - 90	AK - 24		24	20	7	e	d	
図99	SP - 91	AM - 26		26	25	27	f	b	柱穴の可能性有
図99	SP - 92	AJ - 24		34	28	25	e	g	
図99	SP - 93	AJ - 24		36	35	33	e	a	柱穴の可能性有
図99	SP - 94	AJ - 24		26	18	10	g	a+b	
図99	SP - 95	AI - 24		33	29	36	e	c	柱穴の可能性有
図99	SP - 96	AL - 22		34	29	31	e	c	柱穴の可能性有
図99	SP - 97	AJ - 26		28	26	26	e	a	柱穴の可能性有
図99	SP - 98	AJ - 26		34	33	16	h	a	
図99	SP - 99	AI - 27		29	29	22	h	a	

表17 雲谷山吹(6)遺跡溝跡観察表

図版番号	遺構番号	グリッド	重複	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	断面形	備考
図100	SD - 02	AL・AM - 27, AO - 25・26, AP・AQ - 25	SD - 02>SK - 05・SI - 08	580・550・510	70	29	a	断続している。
図100	SD - 03	AN・AO - 24		910	33	17	a	

表18 雲谷山吹(6)遺跡掘立柱建物跡観察表

図版番号	遺構名	ビット番号	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
図101	SB - 01		1×2間、桁行360cm、梁行390cm、主軸：N - 43' - W				
		P1	AP - 25	39	35	23	
		P2	AO - 25	40	24	21	SK - 13と重複
		P3	AO - 25	27	25	8	
		P4	AO - 26	41	30	30	
		P5	AO - 26	30	28	45	
		P6	AO - 26	42	25	46	

表19 雲谷山吹(6)遺跡その他の遺構観察表

図版番号	遺構番号	グリッド	重複	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備考
図102	SX - 02	AI・AJ - 16・17	SP - 05<SX - 02	303	226	36	e	h	
図51	SX - 03	AH - 19	SX - 03? SI - 02	-	-	66	-	f	土師器出土
図102	SX - 04	AD - 18		105	61	13	e	a+d	
図102	SX - 05	AE・AF - 18・19	SI - 03>SX - 05	{464}	450	100	-	-	風倒木、To - a

表20 雲谷山吹(6)遺跡縄文土器観察表

図	番号	器種	出土地点	層位	部位	色調	施文文様・調整等	時期	備考	整理番号
59	11	深鉢	SI - 03	フク2	口縁部	10YR7/3	絡糸体圧痕、貼付隆帯、圧痕	縄文中期		D - 45
68	22	深鉢	SI - 05	フクP - 43	体部	7.5YR6/2	RL、綾絡文	縄文前期末 - 中期初		D - 48
68	23	深鉢	SI - 05	フクP - 49	体部	7.5YR4/3	LR、綾絡文	縄文前期末 - 中期初		D - 49
68	24	鉢	SI - 05	SN1住フク1P - X	体部	7.5YR7/2	沈線文	縄文後期		D - 50
68	25	壺	SI - 05	フクP - 31	体部	10YR7/3	LR	縄文晩期		D - 47
76	2	深鉢	SI - 07	フク4	体部	7.5YR6/6	絡糸体回転	縄文前期末	695 - 1	D - 46
81	23	深鉢	SI - 08	フク6P - 94	体部	5YR5/6	絡糸体回転	縄文前期末 - 中期初	804 - 1	D - 57
81	24	深鉢	SI - 08	フク4P - 84	体部	7.5YR7/6	絡糸体回転	縄文前期末 - 中期初	794 - 1	D - 54
81	25	深鉢	SI - 08	フク1P - 88	体部	7.5YR6/6	沈線文	縄文後期	798 - 1	D - 56
81	26	深鉢	SI - 08	フク4P - 26	体部	10YR6/4	沈線文	縄文後期	736 - 1	D - 105
81	27	深鉢	SI - 08	フク1P - 1	体部	10YR6/4	沈線文	縄文後期	711 - 1	D - 51
81	28	深鉢	SI - 08	フク1P - 4	体部	10YR6/3	沈線文	縄文後期	714 - 1	D - 52
81	29	深鉢	SI - 08	フク1P - 76	体部	10YR6/2	沈線文	縄文後期	786 - 1	D - 53
81	30	深鉢	SI - 08	フク1P - 2	体部	10YR6/4	沈線文	縄文後期	712 - 1	D - 55
88	24	深鉢	SI - 09	フクP - X	体部	7.5YR6/6	絡糸体回転	縄文前期末 - 中期初	1221 - 2	D - 58
88	25	深鉢	SI - 09	フク1P - 81	体部	7.5YR7/6	絡糸体回転	縄文前期末 - 中期初	1071 - 1	D - 59
93	1	深鉢	SK - 08	フク1上	体部	7.5YR4/6	沈線文	縄文後期	1742 - 1	D - 98
93	3	深鉢	SK - 11	フク1	体部	10YR8/1	沈線文	縄文後期	1749 - 1	D - 100
103	1	深鉢	B区頂部	包含層P - X	体部	5YR6/8	絡糸体回転	縄文前期末 - 中期初	1819 - 1	D - 86
103	2	深鉢	AM - 27・B区	層P - ・包含層	口縁部	10YR3/2	沈線文	縄文後期	1803 - 1	D - 85
103	3	深鉢	B区	包含層P - 17	口縁部	10YR4/2	沈線文	縄文後期	1802 - 1	D - 82
103	4	深鉢	B区	包含層、東壁P - X	口縁部	10YR4/2	沈線文	縄文後期	1818 - 1	D - 84
103	5	深鉢	AM - 27	層P - 16	体部	7.5YR5/4	沈線文	縄文後期	1801 - 1	D - 81
103	6	深鉢	B区	包含層P - X	口縁部	10YR6/4	LR	縄文後期	1817 - 20	D - 88
103	7	深鉢	B区	表探	底部	10YR6/4	LR	縄文後期	1815 - 3	D - 83
103	8	鉢	B区	表探	底部	10YR5/3	沈線文	縄文後期	1822 - 1	D - 87

表21 雲谷山吹(6)遺跡石器観察表

図	番号	種別	出土地点	層位	計測値	石質	備考	整理番号
103	9	石匙	B区表探	S - X	長さ7.3cm、幅3.3cm、厚さ1.1cm、重さ14.6g	珪質頁岩		T - 1

表22 雲谷山吹(6)遺跡平安時代土器観察表

Table with columns: 図版番号, 遺構番号, 部位, 器種, 口径, 器高, 底径, 色調外, 色調内, 焼成, 磯, 砂, 骨, 赤, 遺存率 (口縁), 遺存率 (底部), 外面調整, 内面調整, 底部調整, 備考, 実測者番号. Rows list various pottery types like SNフクワ4P-46, SNフクワ1P-1, etc., with detailed characteristics and measurements.



写真73 雲谷山吹（6）遺跡（真上）



写真74 雲谷山吹（5）・（6）遺跡から青森公立大学を臨む（W）



写真75 調査区遠景 (W)



写真76 雲谷山吹 (6) 遺跡調査前風景 (E)



写真77 SI-02セクション(N)



写真81 SI-02竈完掘(W)



写真78 SI-02完掘(W)

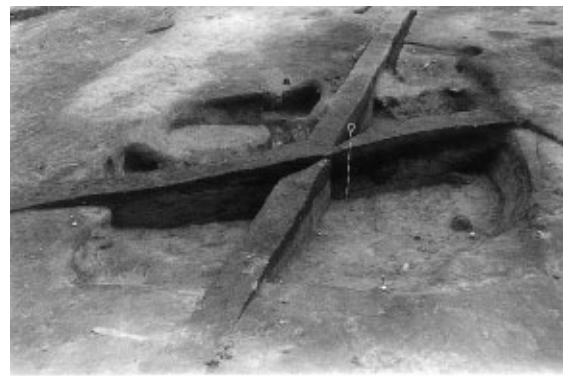


写真82 SI-03セクション(W)



写真79 SI-02竈セクション(W)



写真83 SI-03完掘(W)



写真80 SI-02竈煙道部セクション(N)



写真84 SI-03竈完掘(W)



写真85 S I - 04セクション (E)

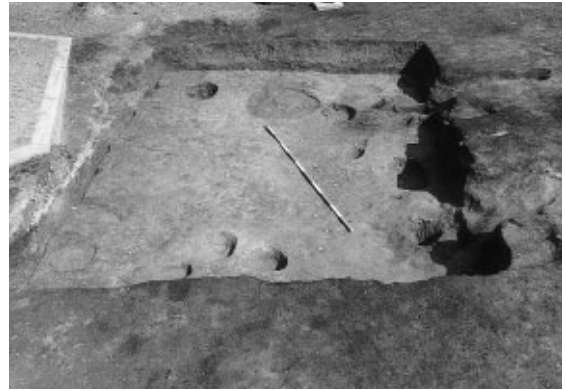


写真89 S I - 05完掘 (S)



写真86 S I - 04完掘 (N)

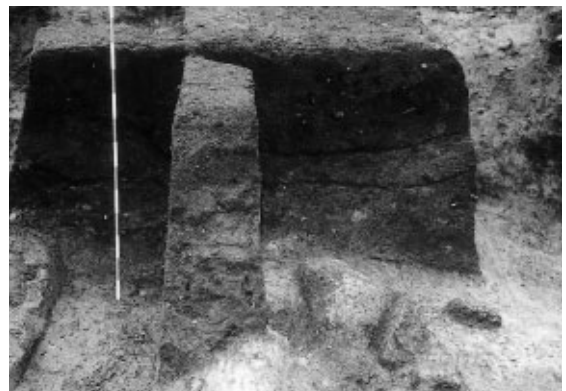


写真90 S I - 05竈1セクション (W)



写真87 S I - 05セクション (W)



写真91 S I - 05竈1炉壁検出状況 (W)



写真88 S I - 05完掘 (W)



写真92 S I - 05竈1完掘 (W)

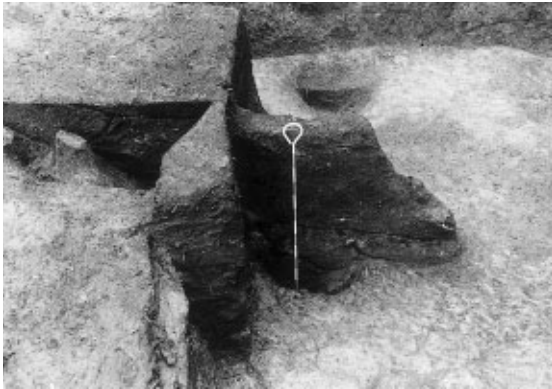


写真93 S I - 05竈 2 セクション (N)

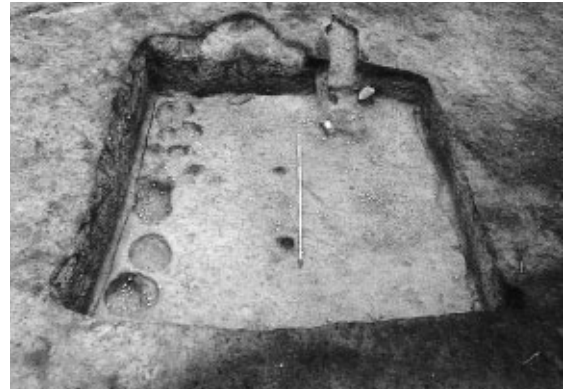


写真97 S I - 06完掘 (N)



写真94 S I - 05竈 2 完掘 (W)



写真98 S I - 06竈セクション (E)



写真95 S I - 05竈 2 掘り方 (W)



写真99 S I - 06竈遺物出土状況 (N)



写真96 S I - 06セクション (N)



写真100 S I - 06竈完掘 (N)



写真101 S I - 07セクション (W)



写真105 S I - 08P i t 7 遺物出土状況 (W)



写真102 S I - 07完掘 (S)



写真106 S I - 08斜面下粘土検出部分周辺セクション (W)



写真103 S I - 08セクション (W)



写真107 S I - 09セクション (S)



写真104 S I - 08完掘 (W)



写真108 S I - 09セクション (W)



写真109 S I - 09完掘 (W)

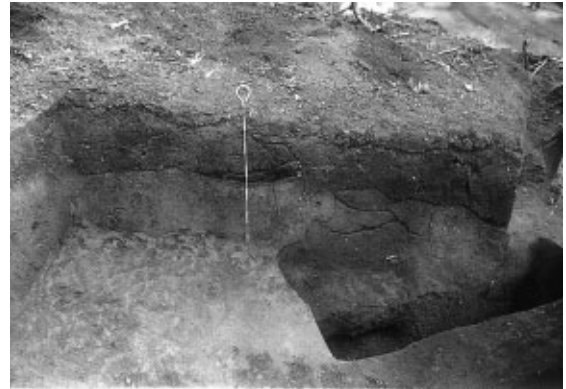


写真113 S K - 04・12セクション (N)

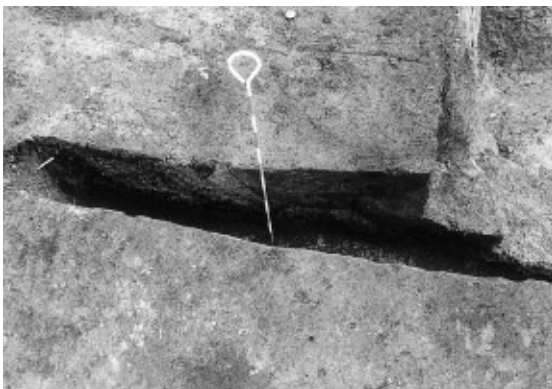


写真110 S I - 09竈煙道部セクション (N)



写真114 S K - 05, S D - 02セクション (S)



写真111 S I - 09竈完掘 (W)



写真115 S K - 06セクション (E)



写真112 S K - 03セクション (W)

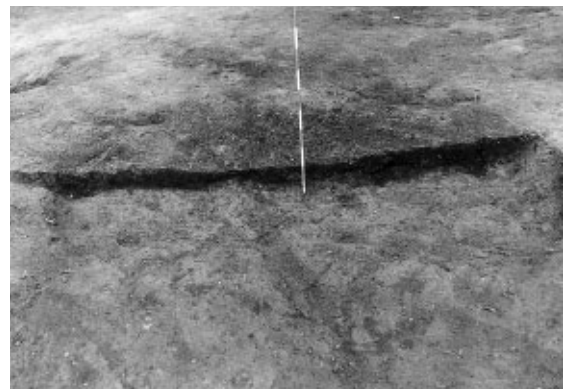


写真116 S K - 07セクション (W)

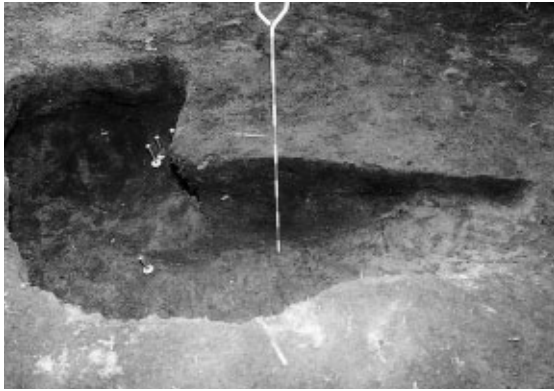


写真117 SK - 09セクション (E)

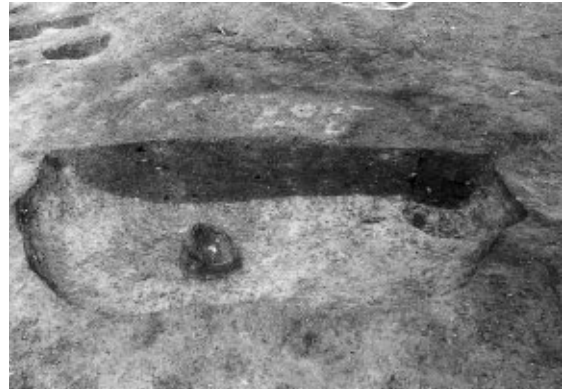


写真121 SK - 13, SB - 01P 2セクション (W)

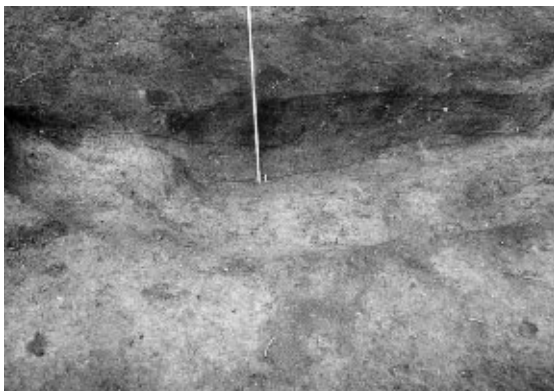


写真118 SK - 10セクション (SW)

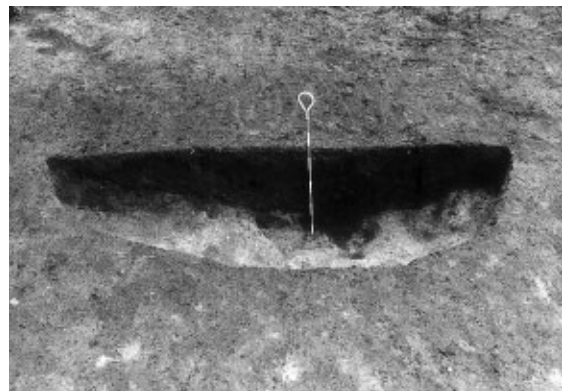


写真122 SK - 16セクション (N)



写真119 SK - 11セクション (N)

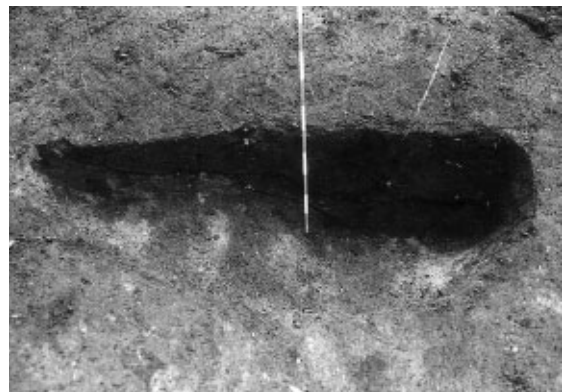


写真123 SK - 17セクション (S)

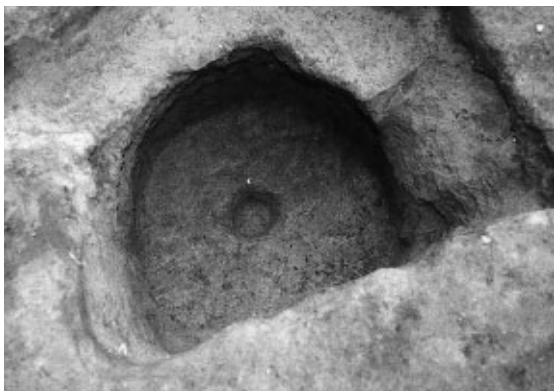


写真120 SK - 11完掘 (S)

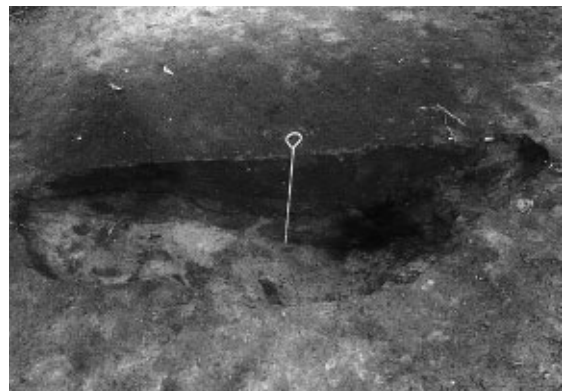


写真124 SK - 18セクション (W)

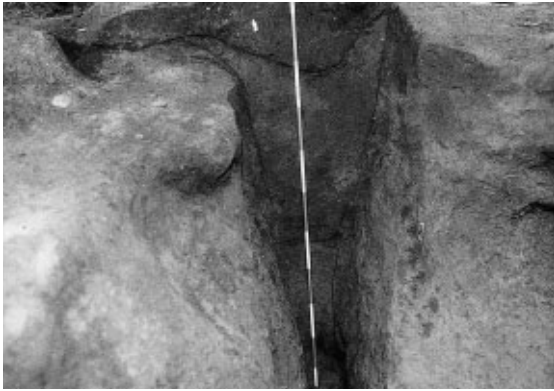


写真125 SP - 19 (T - Pit) セクション (N)



写真127 SX - 02セクション (N)

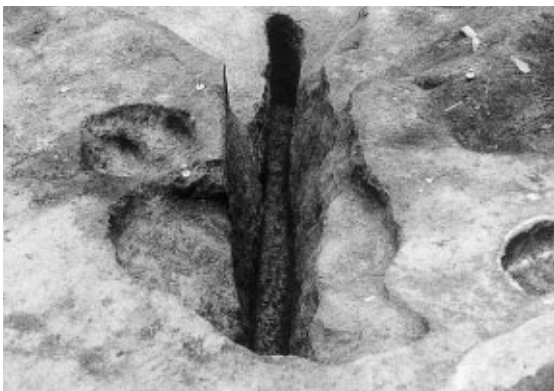


写真126 SP - 19 (T - Pit) 完掘 (S)



写真128 SX - 05セクション (S)

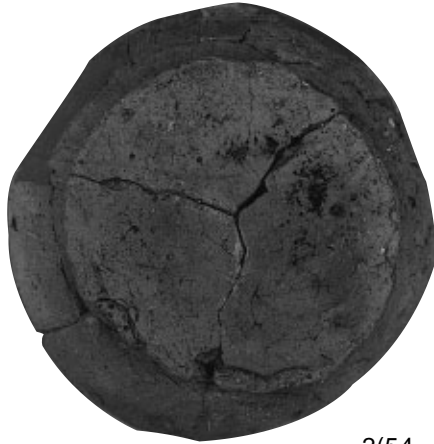


写真129 SB - 01 (SW)

SI - 02



1(54 - 1)



2(54 - 2)



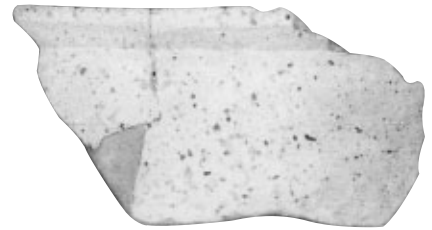
3(54 - 3)



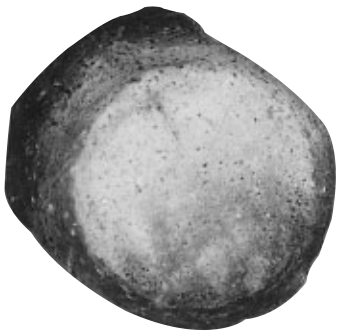
4(54 - 4)



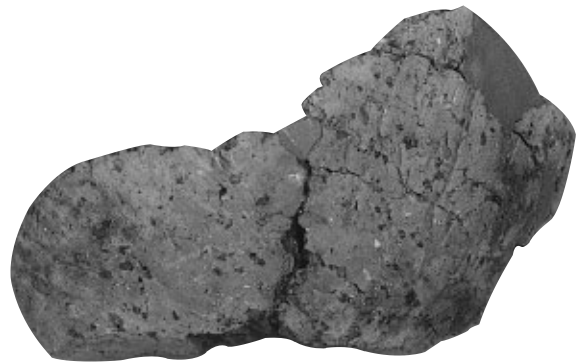
5(54 - 5)



6(54 - 6)



7(54 - 7)



8(54 - 8)

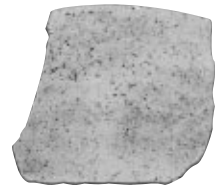
SI - 03



9(58 - 1)



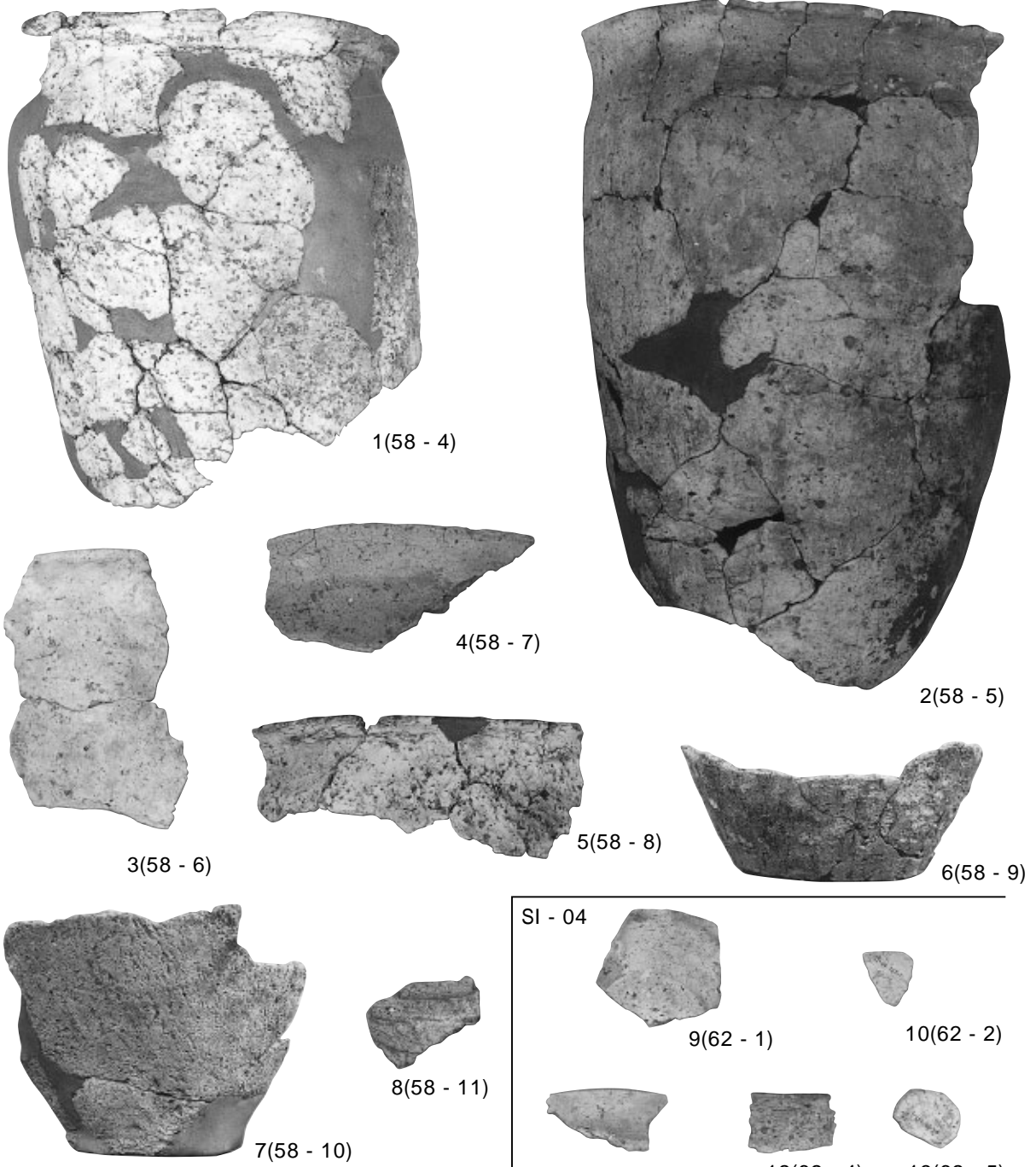
10(58 - 2)



11(58 - 3)

写真130 S I - 02・03 出土遺物

SI - 03



SI - 05

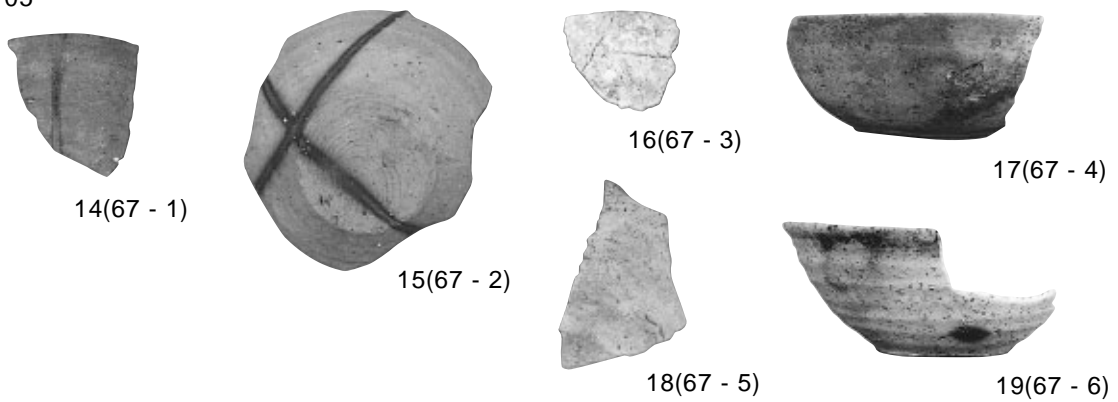


写真131 S I - 03 ・ 04 ・ 05 出土遺物

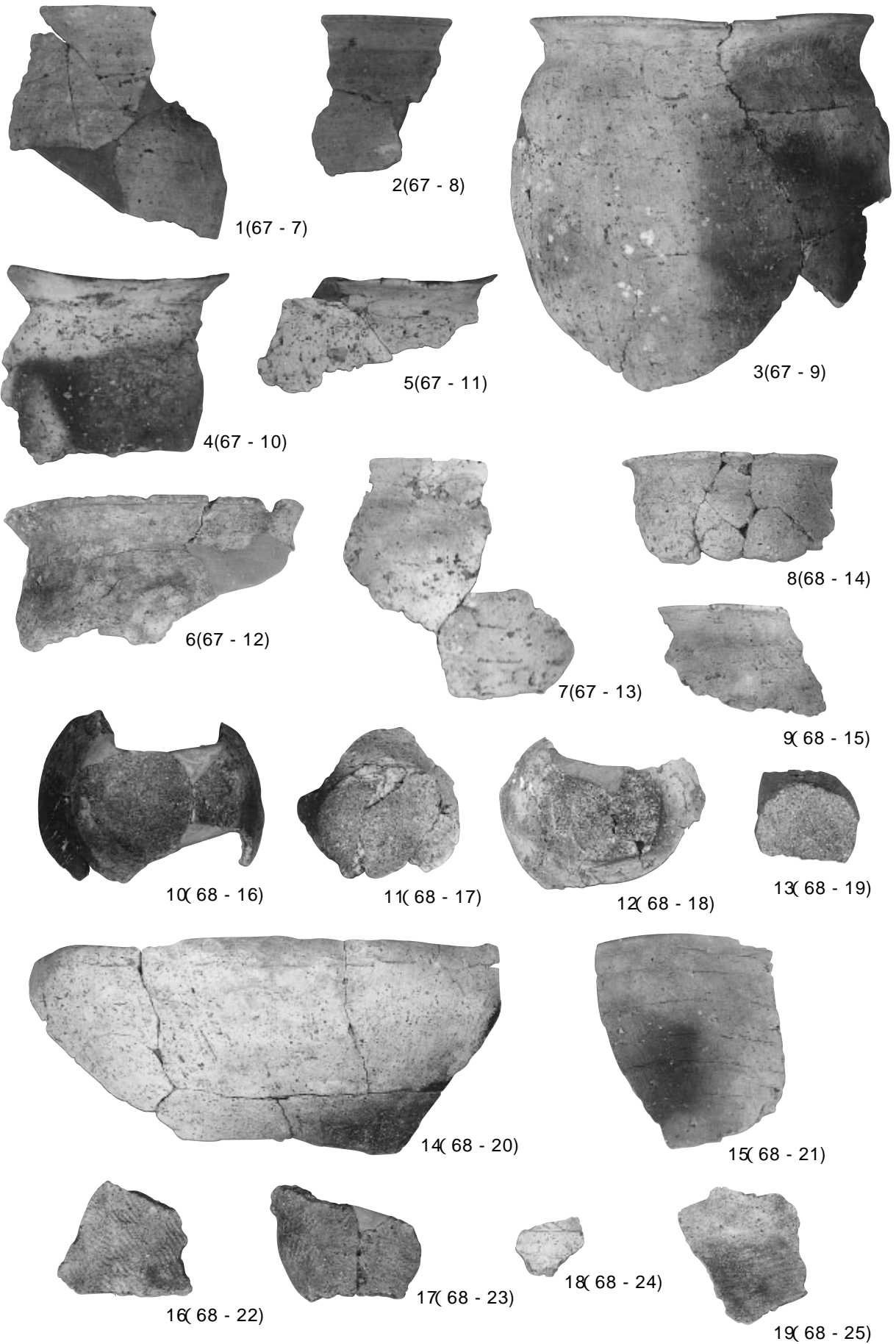


写真132 S I - 05 出土遺物



写真133 S I - 06 出土遺物

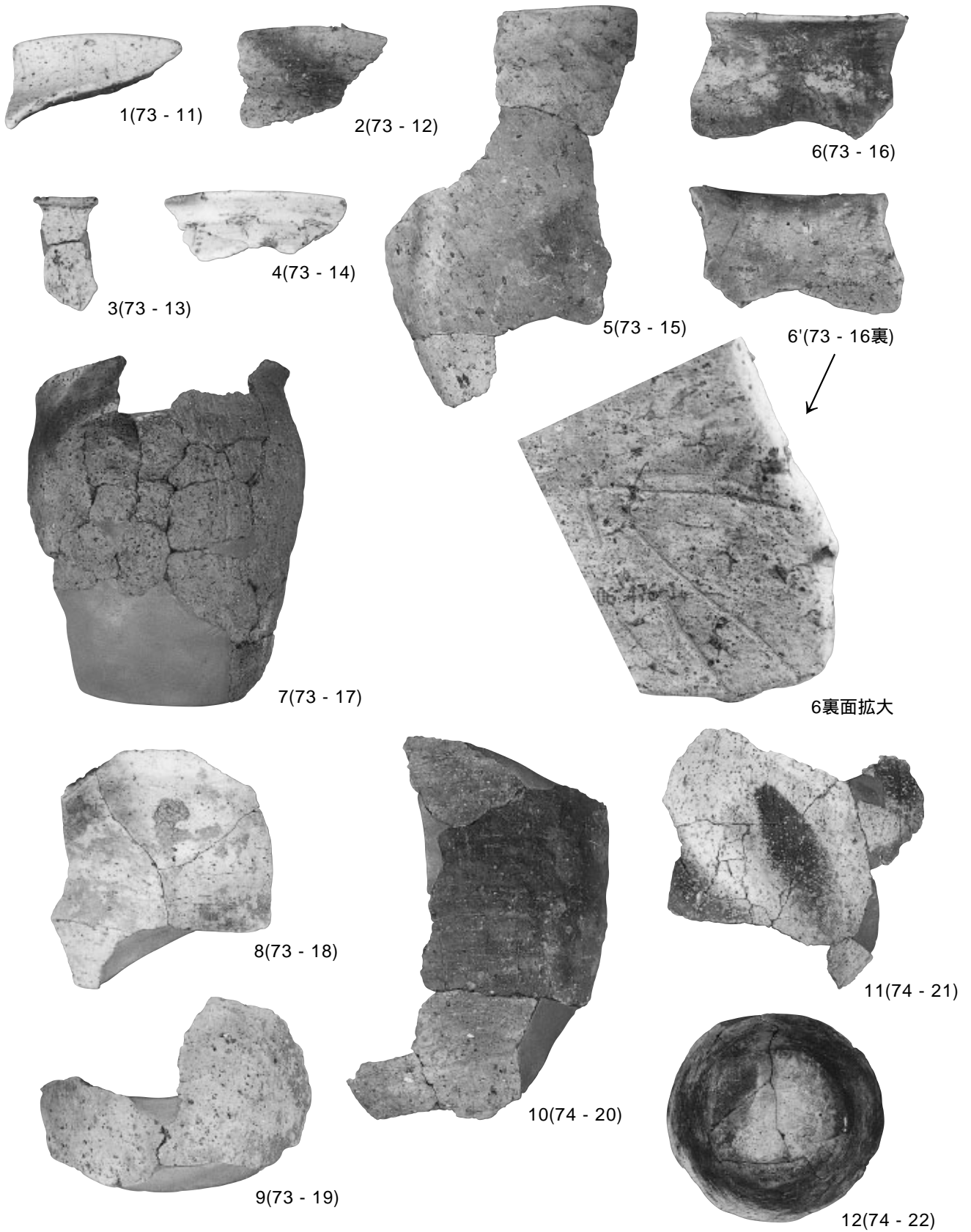
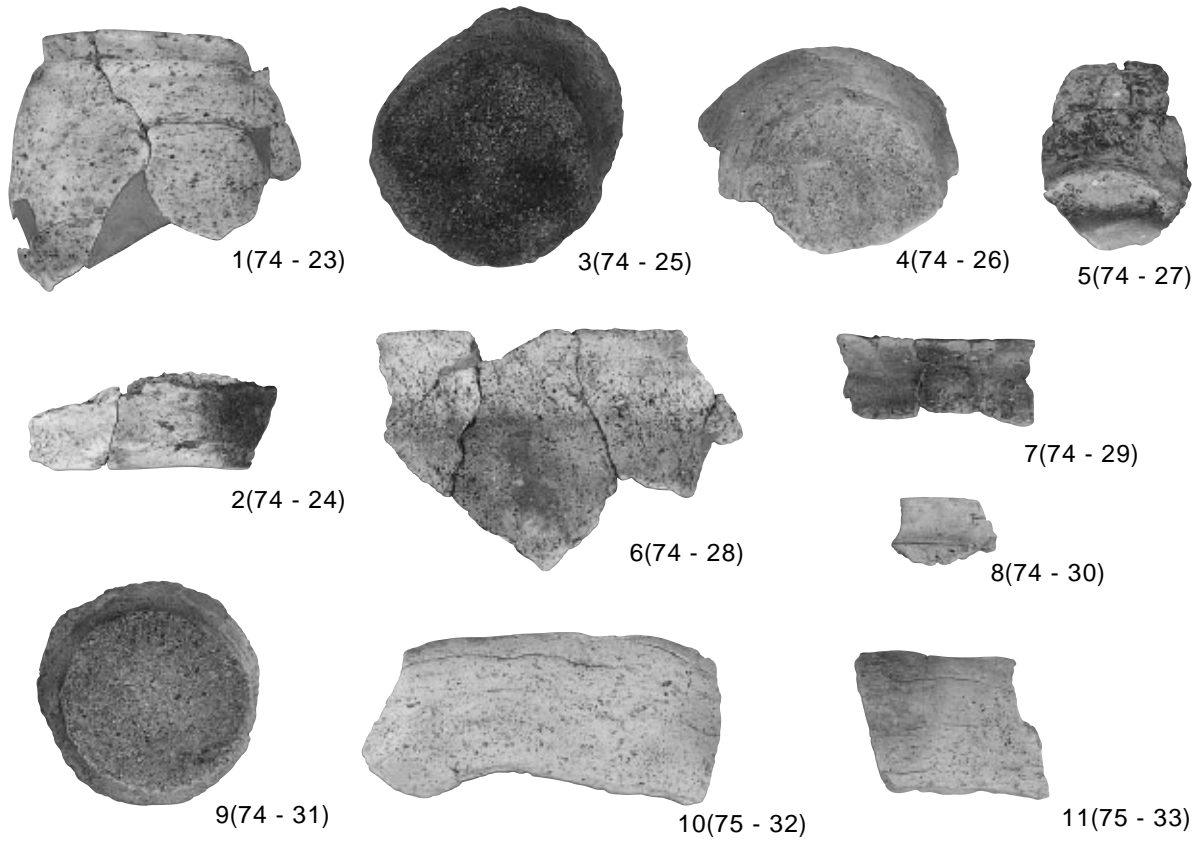


写真134 S I - 06 出土遺物



SI - 07



SI - 08

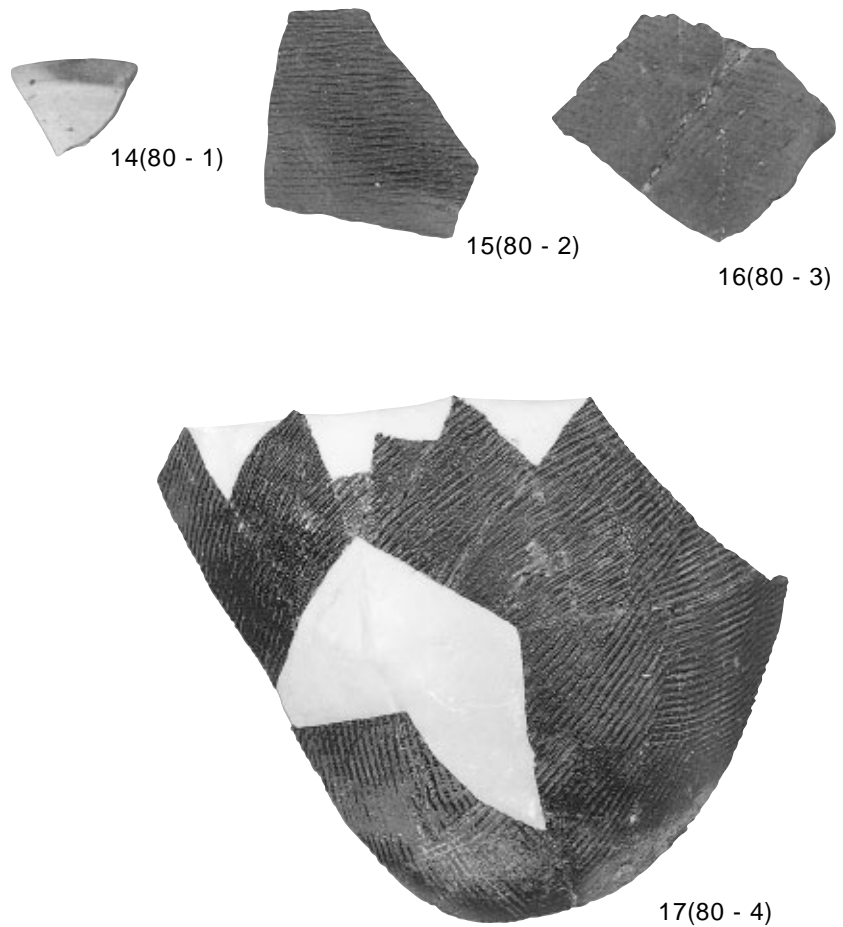


写真135 S I - 06 ・ 07 ・ 08 出土遺物

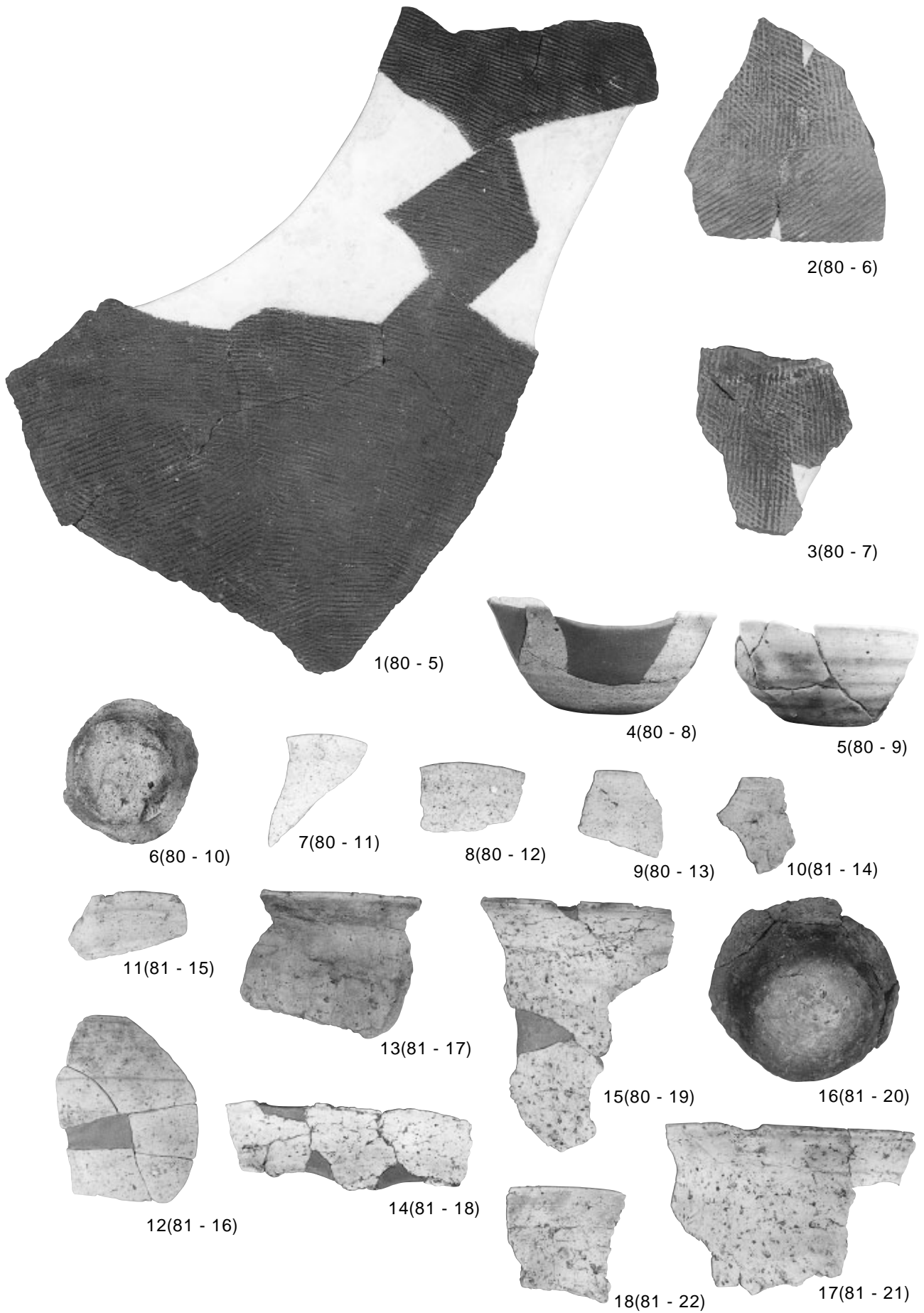
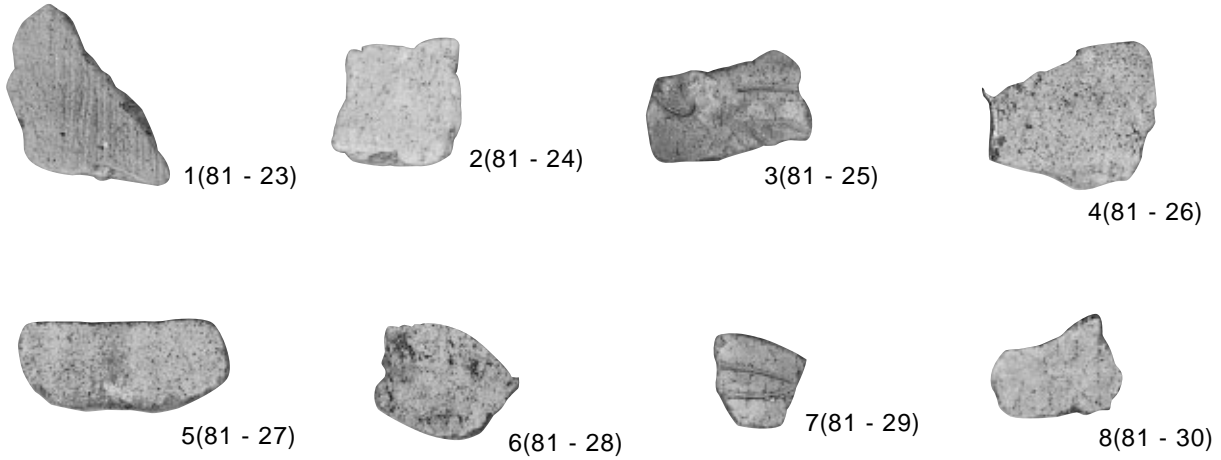


写真136 S I - 08 出土遺物

SI - 08



SI - 09

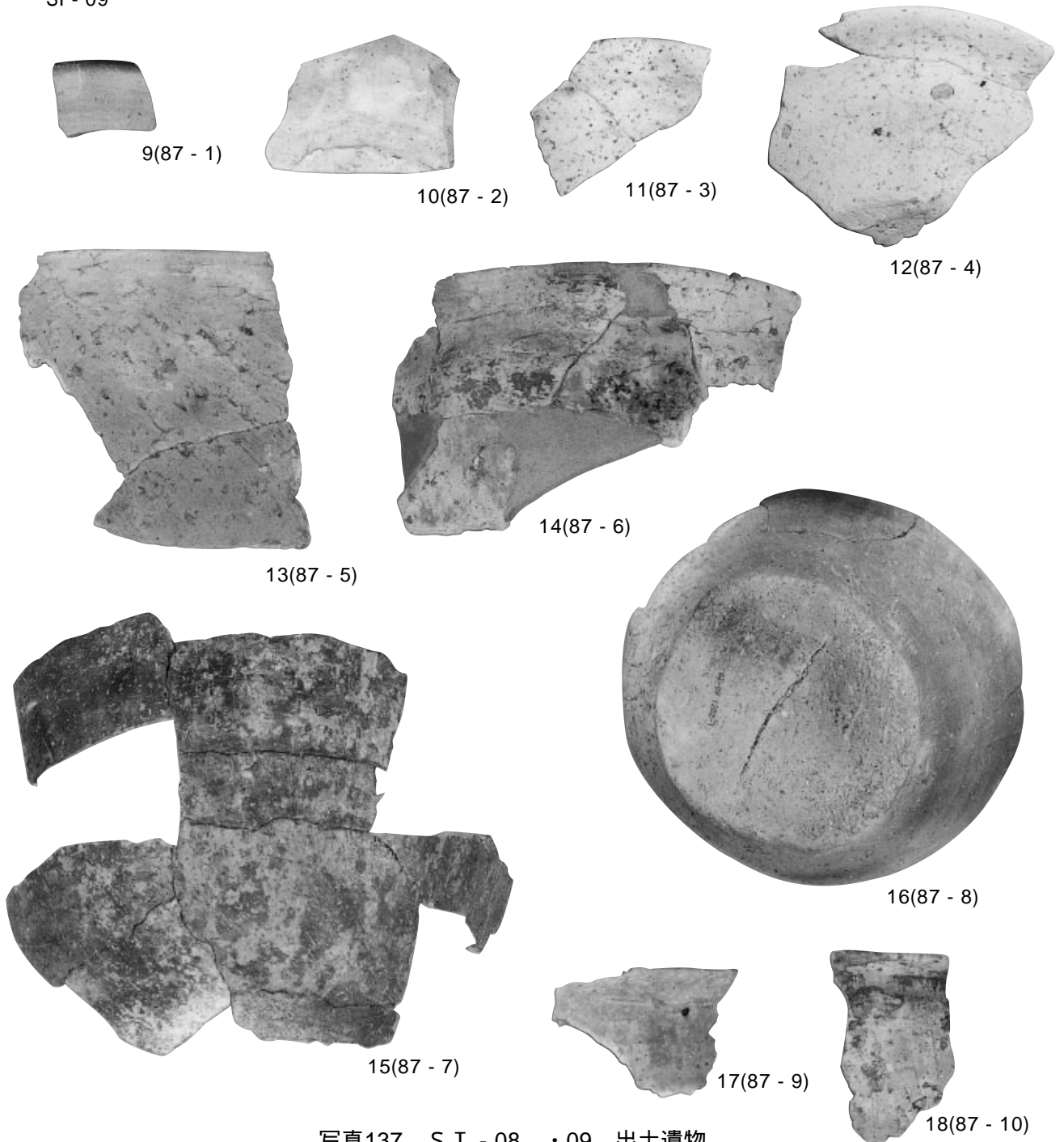
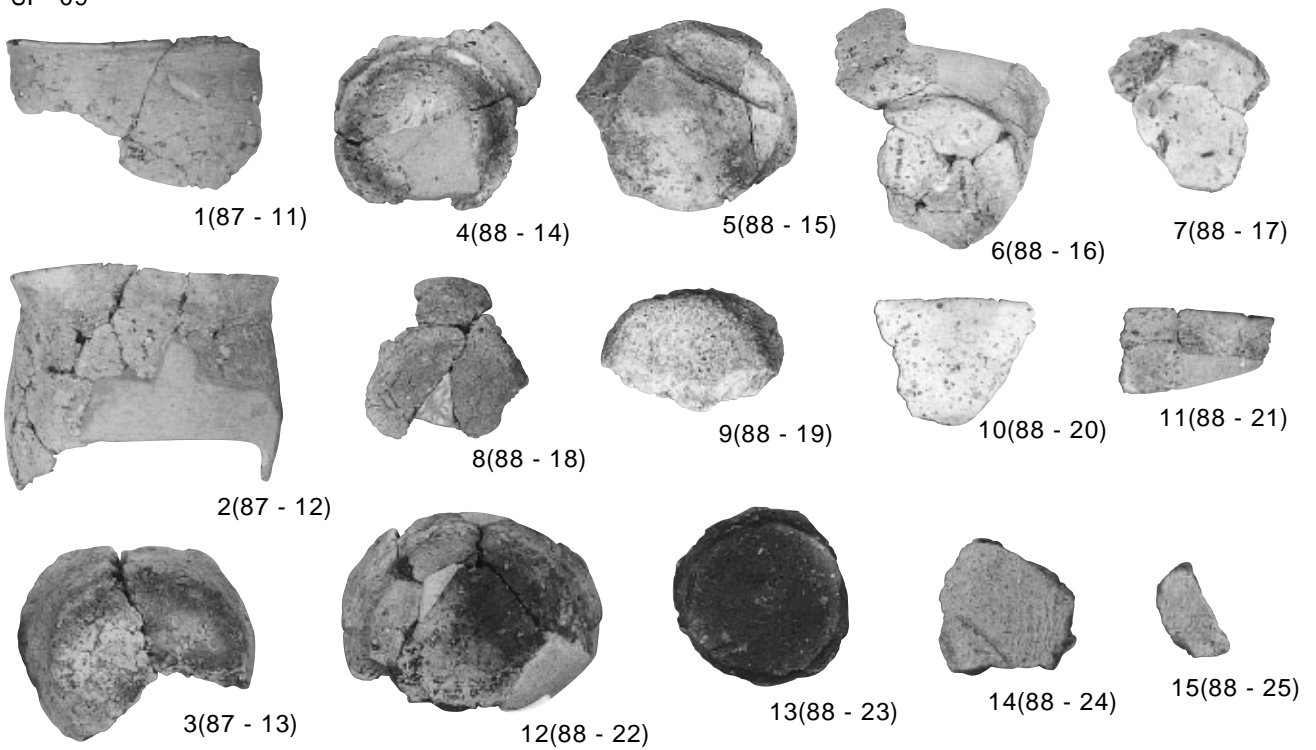


写真137 S I - 08 ・ 09 出土遺物

SI - 09



SK



遺構外

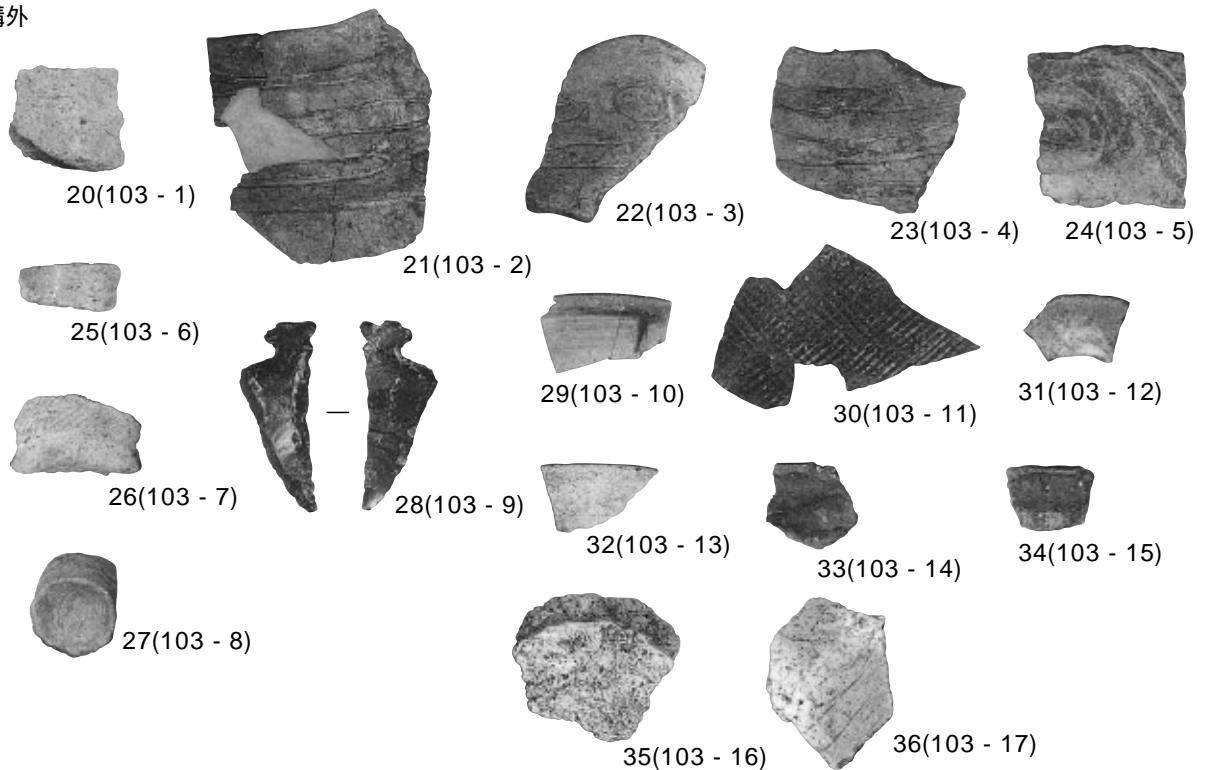


写真138 S I - 09 , S K , 遺構外出土遺物

第 章 雲谷山吹(7)遺跡

第1節 遺構と遺物

1. 竪穴建物跡

S I - 01 (図105、写真142)

グリッドAN - 14・15で検出した。調査区外へ延びるため詳細は不明であるが、調査区内では北壁のみを検出し、壁長は396cm、深さは59cm、床面積は〔0.8〕m²を測る。平面形等の詳細は不明で、竈についても調査区内から検出していないが北壁西隅からピット1基を検出している。床面は大谷火山灰層の地山をそのまま利用しており、掘り方は検出していない。また、北壁東隅でSK - 01、中央部でSD - 01と重複しており、いずれの遺構よりも本遺構の方が古い。埋土は6層に分層され、埋没後の上位に第1層が堆積しており、SD - 01はその第1層上面から掘り込みが行われている。床面直上から壁際に堆積する第4層はロームブロックが混入し、壁際の崩落等も含めた流れ込みの要素がある堆積土で、第1層起因の第3層により掘り込み部分の中位まで埋没しており、その上位の無遺物層である第2層の堆積により埋没が完了している。最上層の第1層中にはTo - a火山灰が帯状に堆積している。このTo - a火山灰は重複するSD - 01の堆積土中でもB - Tm火山灰と共に認められるが、SD - 01側のTo - a火山灰についてはS I - 01の堆積土を掘り込んだ土の再堆積によるものと判断される。出土遺物については床面から礫1点出土した以外はSD - 01の位置から3片の土器の出土(調査時には1点をS I - 01出土として取り扱ったが、出土位置の再確認によりSD - 01出土と認定)があり、そのうち2点を図106に図示した。SD - 01の掘り込みが比較的浅いこともあり、たとえS I - 01の堆積土中に含まれていたものがSD - 01の埋没により再び混入したと判断しても、少なくとも本資料の帰属はTo - a火山灰の降下後の廃棄資料であることが判断される。

2. 土坑

SK - 01 (図105・106、写真143)グリッドAN - 15で検出した。規模は96×85×21cmを測る。S I - 01と重複しており本遺構の方が新しい。東側に風倒木があり、検出時点で土圧等による影響のため変形していることが確認でき、平面形はe、断面形は(a)である。底面に薄い焼土層が確認でき、本遺構で焼成が行われたと認定できる。

SK - 02 (図107、写真144)グリッドAL - 12で検出した。検出時点でほとんど底面の炭化物と焼土化した範囲のみの検出であったため規模の詳細は不明である。第1層として取り扱った層は炭化物層で、第2層は月見野火山灰層の地山が焼土化した層である。

3. 溝跡

SD - 01 (図105・106、写真145・147)グリッドAN - 14・15で検出した。S I - 01の項目で記述したが、S I - 01と重複しており、本遺構の方が新しい。調査区外へ延びるため詳細は不明であるが、検出部分での規模は90×65×26cmを測る。堆積土は単層で、下位にTo - a火山灰、上位にB - Tm火山灰の混入が認められるが、前述のとおり、崩落等による二次的混入の要因が大きい。出土遺物は図106に須恵器坏2点図示した。1はB - Tm火山灰直下から出土した資料で、口径12.2cmを測る。

焼成はやや軟質であるが、被熱により淡黒褐色を呈する箇所が多く観察される。口唇部に打ち欠きがあり、口縁部内面に油痕が観察されることから灯明具として転用された資料であると考えられる。体部外面には倒位の状態で「卍」とヘラ書きされている。2はP-1出土の坏で口径12.8cmを測る。破片で内面の剥落と汚れが激しい。1と異なり口唇直下を意識的に撫で外反させているのが特徴で、重ね焼き痕が観察される。

4. その他の遺構

SX-01(図107、写真146)グリッドAN-15・16で検出した。調査区外へ延びるため詳細は不明であるが、検出部分の形状は不整形を呈し断面形は壁上面で緩やかな立ち上がりを持つ。第1層上面から掘り込みが行われており、一部崩落により埋没時点でも第1層の流れ込みが認められる。

5. 遺構外出土遺物(図108・109・110、写真147)

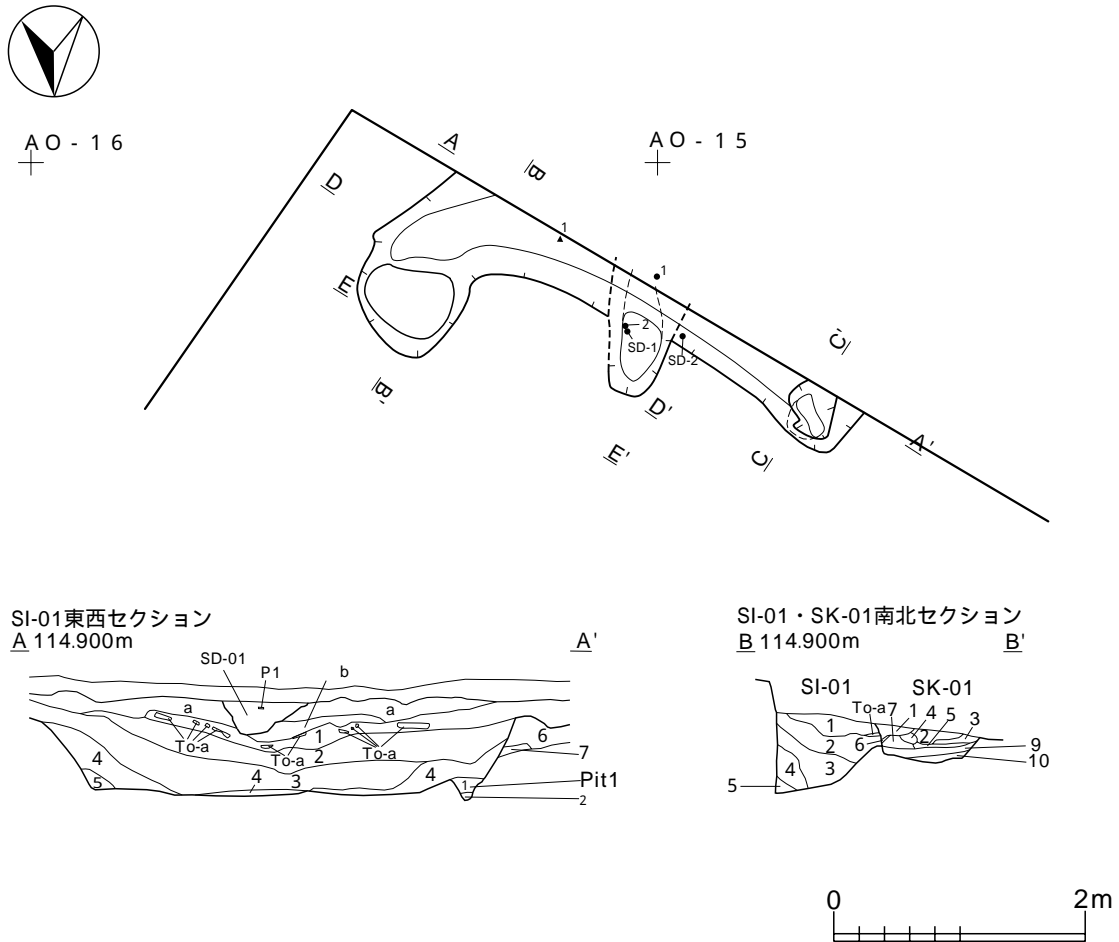
土器9点、鉄滓18点を図示した。出土位置については全て包含層一括で取り扱っている。縄文時代の帰属資料は1～8で、1は深鉢の口縁部片で、地文に羽状縄文が施される。円筒下層d₁式期に帰属するものと考えられる。2は深鉢の口縁部片で摩滅が激しいがLRとRL縄文を2本1組で側面圧痕して文様帯を形成している。縄文時代前期末～中期初頭に帰属するものと考えられる。3は口縁部直下の体部上半の資料で、地文に絡条体回転文が施された後、羽状縄文が施されている。円筒下層d₁～d₂式期に属するものと考えられる。4～6はいずれも体部資料で絡条体回転文が施されている。7は円筒土器の底部資料で、底面は精緻に磨かれている。8は縄文時代後期の深鉢形土器の体部資料で無文であるため詳細は不明であるが十腰内式期に属するものとする。9は平安時代土師器小甕の底部資料で、底径4.6cmを測る。底面は砂底で、外面は被熱を受けている。

鉄滓は試掘調査時点での出土資料であるが未掲載であったため整理し掲載した。斜面の急な地点から出土しており、本調査では調査区外であったため周辺に遺構が存在した可能性も考えられる。

第2節 小結

雲谷山吹(7)遺跡は、青森市合子沢山崎の青森公立大学の敷地内標高115～120mの山林に所在する。発掘調査は現国際芸術センター青森(仮称青森市芸術創作工房)施設の宿泊棟の最西側の敷地内378m²を調査した。調査の結果竪穴建物跡1軒、土坑2基、ピット2基、溝跡1条、その他の遺構1基を検出し、縄文時代前期～後期の土器および平安時代の土師器・須恵器ならびに鉄滓が出土した。

本遺跡は雲谷山吹(6)遺跡の立地する丘陵とは別丘陵に立地し、発掘調査では調査区そのものは最西端ではあったが、遺跡範囲そのものでは北東端の一部を調査したに過ぎない。ただ、その様相については雲谷山吹(6)遺跡よりは古相の様相を垣間見ることができた。平安時代に限ってみても、横内川と合子沢川に挟まれた丘陵上ではこれまで横内(2)遺跡から検出した竪穴建物跡1軒のみという極めて不鮮明な状況であったなか、9世紀代に廃絶された遺構が標高100mを越える地点で確認された意義は大きいと考える。



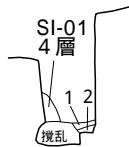
SI-01

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ブロック状のTo-aが帯状に多量、炭化粒・ローム粒少量混入
- 第2層 10YR3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~5mm)・炭化粒(1~2mm)中量混入
- 第3層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒(2~5mm)・炭化粒(1~3mm)中量混入
- 第4層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒・ロームブロック(5~30mm)がブロック状に多量、炭化粒(1~2mm)中量混入
- 第5層 10YR4/6 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- 第6層 10YR3/4 暗褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒・ローム粒(2~3mm)中量、ロームブロック(30~50mm)少量混入
- 第7層 10YR4/6 褐色土 粘性あり・湿性あまりなし・しまりかなりあり

SD-01

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、層上部にB-Tmが少量、層下部にTo-aが少量混入、炭化粒・ローム粒少量、焼土粒微量混入

Pit1
C 114.900m C'



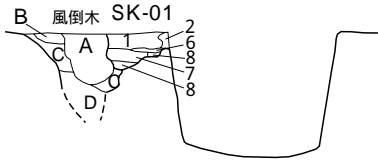
SI-01 Pit1

- 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(2~3mm)中量、ローム粒(5~10mm)多量混入
- 第2層 10YR3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量、ローム粒多量混入

図105 SI-01, SK-01・SD-01

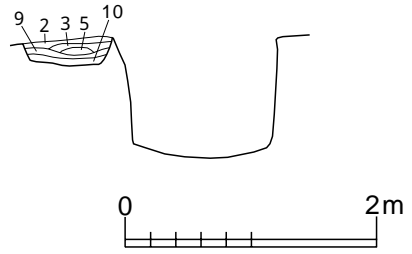
SK-01東西セクション
D 114.900m

D'



SK-01東西セクション
E 114.900m

E'



SK-01

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒・ローム粒(1~2mm)少量、焼土粒微量混入
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性ややあり、しまりあり、炭化粒中量混入
- 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(1~3mm)中量、ローム粒(2~4mm)少量混入
- 第4層 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強、湿性・しまりあり、炭化粒・ローム粒(3~5mm)少量混入
- 第5層 10YR4/4 褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒少量混入
- 第6層 10YR3/2 黒褐色土 粘性・湿性・しまりあり、炭化粒(2~3mm)・ローム粒(2~3mm)少量混入
- 第7層 10YR3/1 黒褐色土 粘性・湿性やや強、しまりあり、炭化粒(1~2mm)・ローム粒(1~5mm)少量混入
- 第8層 10YR3/3 暗褐色土 粘性・湿性強、しまりあり、炭化粒少量、ローム粒(2~5mm)微量混入
- 第9層 10YR3/2 黒褐色土 粘性・湿性かなりあり、しまりあり、炭化粒(2~3mm)中量、焼土粒(2~3mm)・ローム粒少量混入
- 第10層 10YR2/1 黒色土 粘性・しまりなし、湿性かなりあり、層全体に炭化粒(3~5mm)多量、ローム粒(3~5mm)・粘焼土粒(2~5mm)少量混入、層下部に薄い帯状の焼土がみられる

- 風倒木
- A層 10YR2/2 黒褐色土
 - B層 10YR2/3 黒褐色土
 - C層 10YR3/3 暗褐色土
 - D層 10YR2/3 黒褐色土

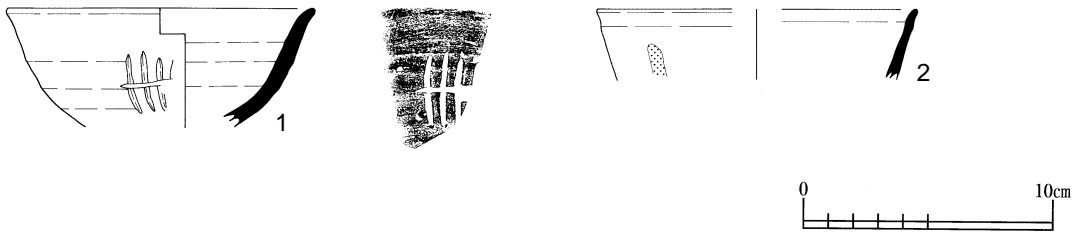
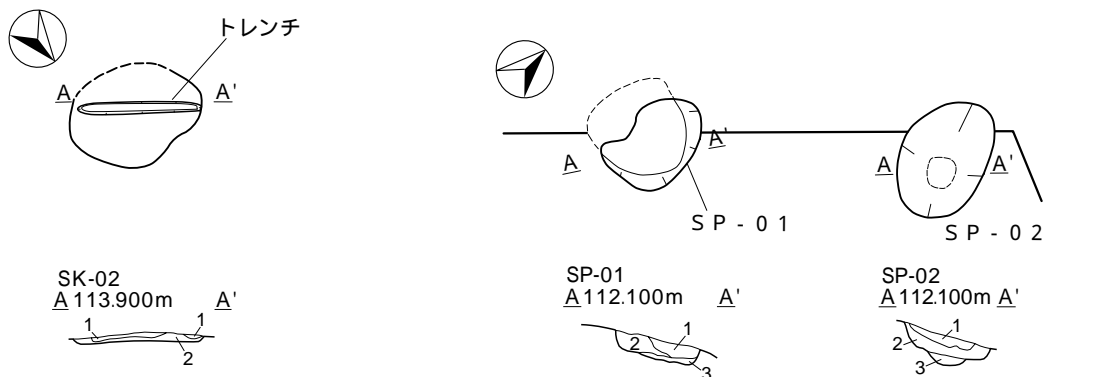
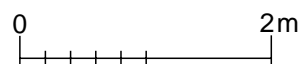
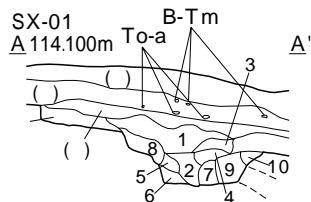
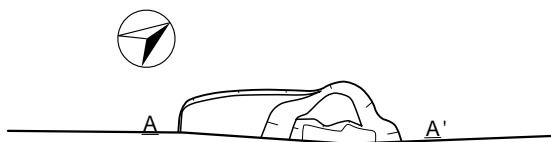


図106 SK-01・SD-01



- SK-02
A 113.900m
- | | | | |
|-----|-----------|-------|-------------------------------|
| 第1層 | 10YR1.7/1 | 黒色 | 炭化物層 |
| 第2層 | 5YR3/2 | 暗赤褐色土 | ローム質(月見野火山灰層)、粘性ややあり、湿性・しまりなし |
- SP-01
A 112.100m
- | | | | |
|-----|---------|------|---------------------------------|
| 第1層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒微量混入 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性・湿性あり、固くしまりあり、ローム粒極微量、パミス微量混入 |
| 第3層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | ローム質、粘性強、湿性あり、固くしまりあり、パミス微量混入 |
- SP-02
A 112.100m
- | | | | |
|-----|---------|------|------------------------------|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒微量混入 |
| 第2層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性・湿性・しまりあり、ローム粒少量、炭化粒極微量混入 |
| 第3層 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 粘性・湿性あり、しまりややあり、ロームブロック極微量混入 |



- SX-01
A 114.100m
- | | | | |
|------|-----------|------|--|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | シルト質、粘性・湿性弱、しまりややあり、木根混入 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | シルト質、粘性・湿性弱、しまりあり、層上面にB-Tm火山灰、層下面にTo-a火山灰混入 |
| 第3層 | 10YR2/1 | 黒色土 | シルト質、粘性なし、湿性弱、しまりややあり、炭化粒(5mm)微量、パミス粒(3mm)極微量混入 |
| 第4層 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | シルト質、粘性なし、湿性弱、しまりあり、炭化粒(2-5mm)中量混入 |
| 第1層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | シルト質、粘性なし、湿性・しまりあり、パミスブロック(10mm)微量、パミス粒(1-2mm)中量混入 |
| 第2層 | 10YR2/1 | 黒色土 | シルト質、粘性なし、湿性あり、しまりややあり、ローム粒(2-5mm)やや多量、炭化粒(2-5mm)微量混入 |
| 第3層 | 10YR2/1 | 黒色土 | シルト質、粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒(2-5mm)微量混入 |
| 第4層 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | シルト質、粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒(2-5mm)微量、炭化粒(2-5mm)少量混入 |
| 第5層 | 10YR2/1 | 黒色土 | シルト質、粘性なし、湿性・しまりあり、ローム粒(1-2mm)極微量、炭化粒(5mm)微量混入 |
| 第6層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム混じりのシルト、粘性ややあり、湿性・しまりあり、黒褐色土(10YR2/2)少量混入 |
| 第7層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ローム混じりのシルト、粘性なし、湿性・しまりあり、炭化粒(2-5mm)少量、ローム粒(5-8mm)やや多量混入 |
| 第8層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ローム混じりのシルト、粘性ややあり、湿性・しまりあり、ロームブロック(10-15mm)少量、パミス粒(10mm)微量混入 |
| 第9層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ローム混じりのシルト、粘性ややあり、湿性あり、しまりなし、ローム粒(2-5mm)多量、炭化粒(2-8mm)多量混入 |
| 第10層 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | ローム質、粘性・湿性・しまりあり、黒褐色土(10YR2/2)少量混入 |

図107 SK, SP, SX

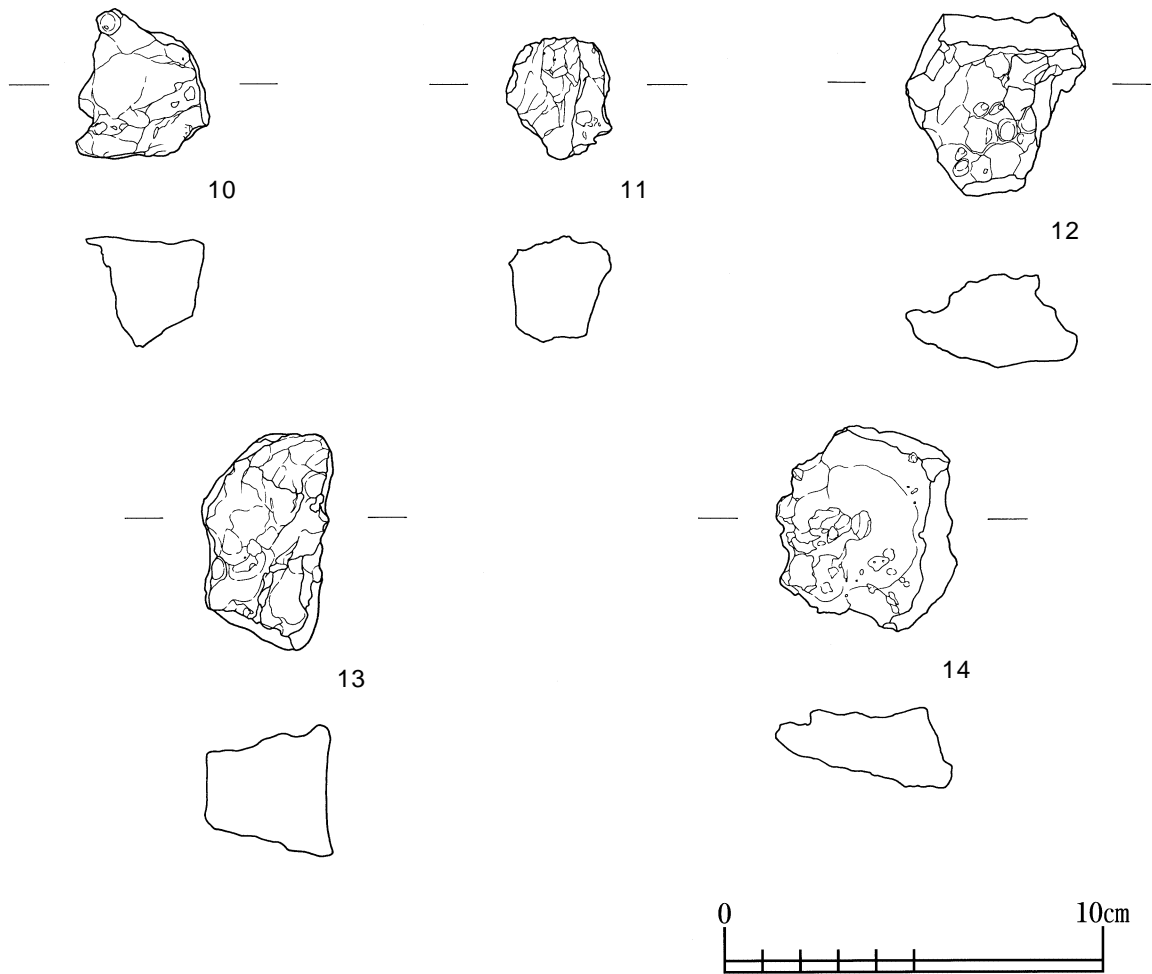
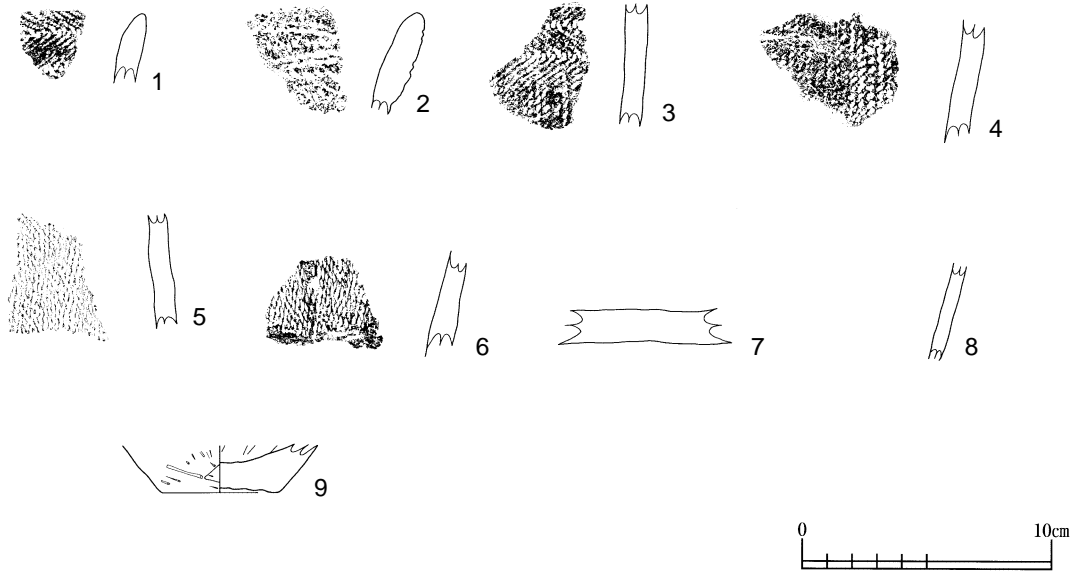


图108 遺構外出土遺物

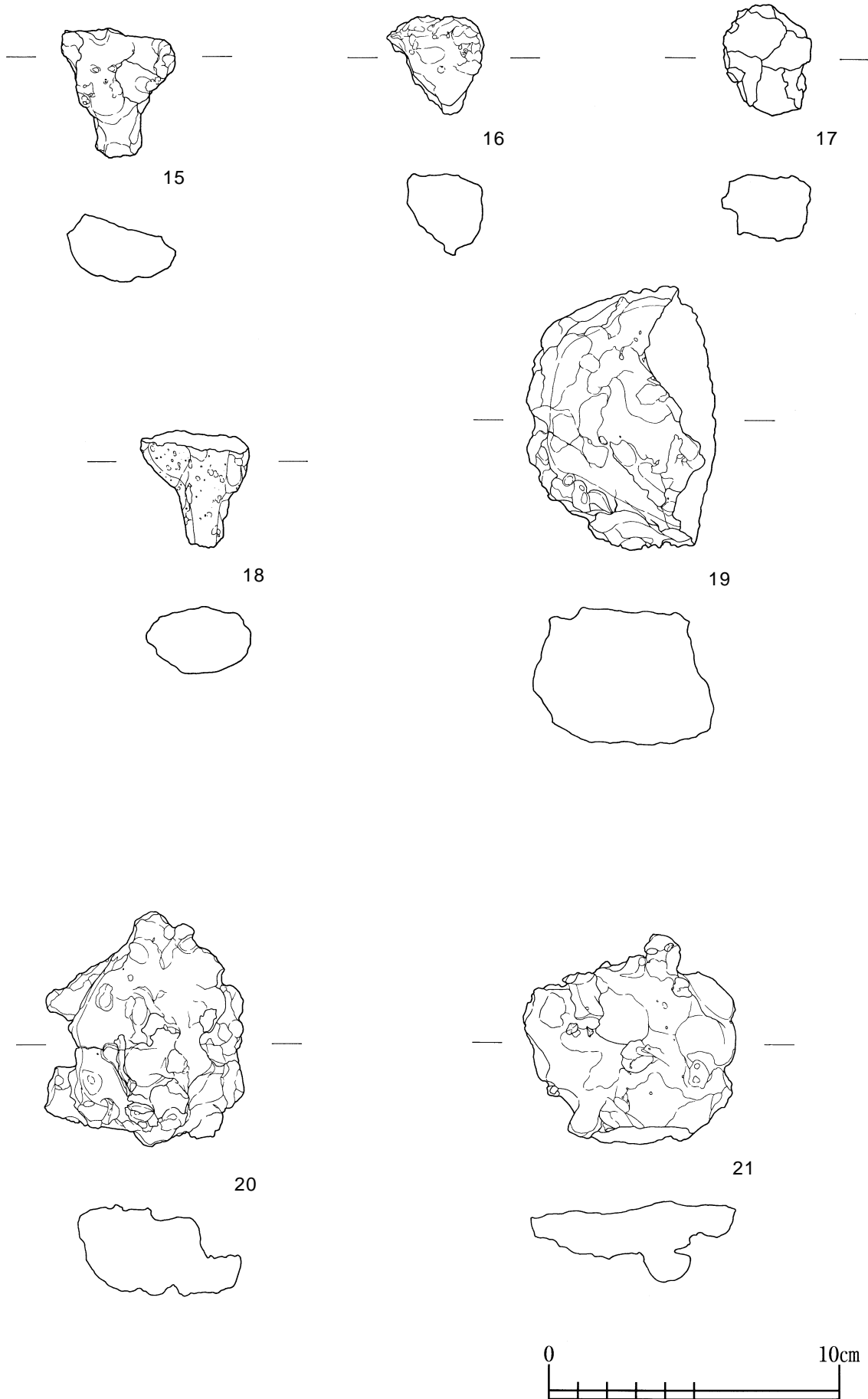


图109 遺構外出土遺物

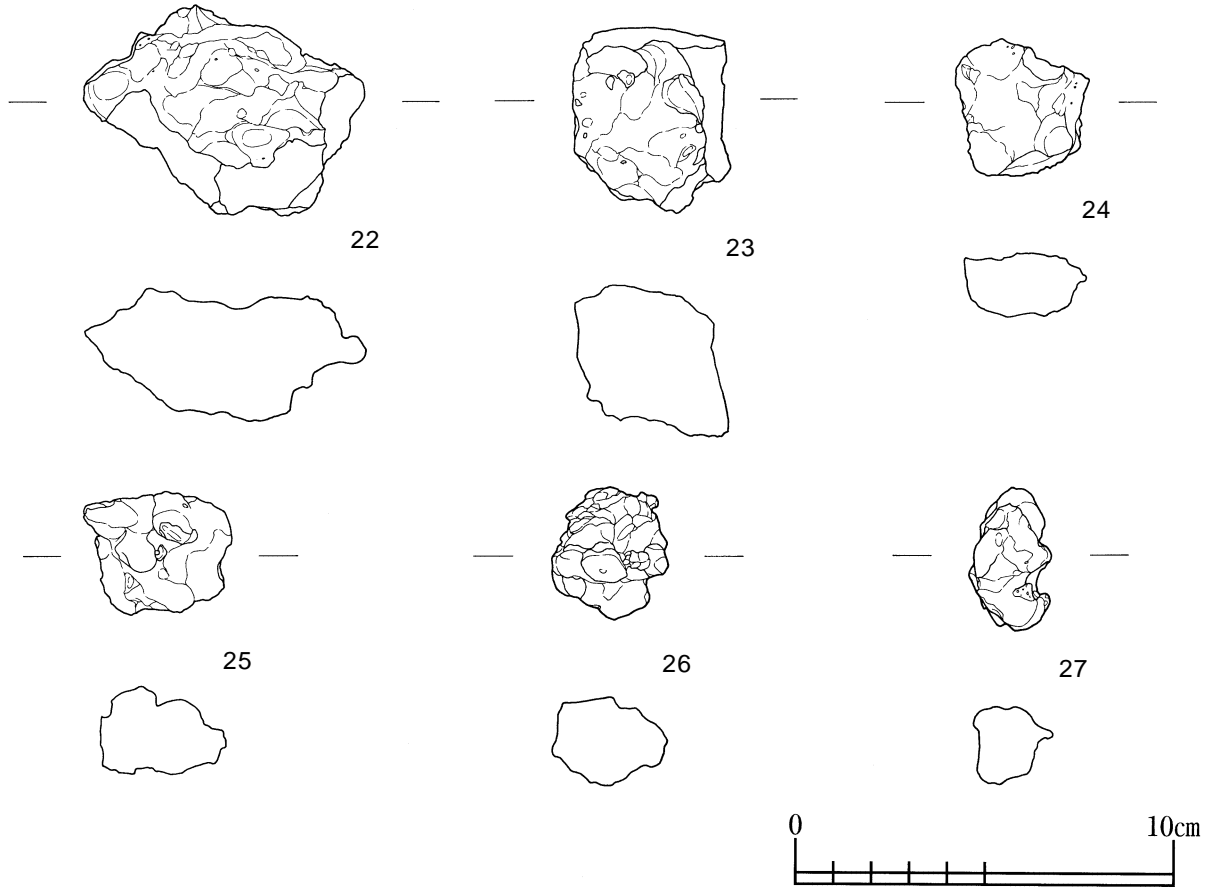


図110 遺構外出土遺物

表23 雲谷山吹(7)遺跡竪穴建物跡観察表

図版番号	遺構番号	グリッド	重複	規模 (cm)			面積 (㎡)	平面プラン	断面プラン	柱穴配置	ビット	土坑	壁溝	その他	堆積土層	堆積状況	火山灰
				長軸	短軸	深さ											
図105	SI - 01	AN - 14・15	SD - 01・SK - 01	-	396	59	[0.8]	X	d	X	1	-	X	-	5	一部崩落、自然	To - a

表24 雲谷山吹(7)遺跡土坑観察表

図版番号	遺構番号	グリッド	重複	規模 (cm)			平面形	断面形	特記事項	備考
				長軸	短軸	深さ				
図105・106	SK - 01	AN - 15	SK - 01 > SI - 01	96	85	21	e	(a)		焼成の可能性
図107	SK - 02	AL - 12		-	-	-	x	x		底面の一部のみ確認。焼成の可能性

表25 雲谷山吹(7)遺跡ピット観察表

図版番号	遺構番号	グリッド	重複	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備考
図107	SP - 02	AJ - 12		101	68	25	f	j	

表26 雲谷山吹(7)遺跡溝跡観察表

図版番号	遺構番号	グリッド	重複	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	断面形	備考

表27 雲谷山吹(7)遺跡その他の遺構観察表

図版番号	遺構番号	グリッド	重複	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備考

表28 雲谷山吹(7)遺跡縄文土器観察表

図	番号	器種	出土地点	層位	部位	色調	施文文様・調整等	時期	備考	整理番号
108	1	深鉢	A区	包含層P - 10	口縁部	10YR3/1	羽状	縄文前期	1790 - 1	D - 90
108	2	深鉢	A区	包含層P - X	口縁部	10YR6/6	LR・RL圧痕	縄文前期	1795 - 2	D - 92
108	3	深鉢	A区	包含層P - X	体部	10YR6/3	羽状、絡糸体回転	縄文前期	1794 - 1	D - 91
108	4	深鉢	A区	包含層P - 2	体部	7.5YR7/6	絡糸体回転	縄文前期	1782 - 1	D - 95
108	5	深鉢	A区	包含層P - 3	体部	10YR5/3	絡糸体回転	縄文前期	1783 - 1	D - 96
108	6	深鉢	A区	包含層P - 4	体部	5YR6/8	絡糸体回転	縄文前期	1784 - 1	D - 97
108	7	深鉢	A区	包含層P - 1	底部	10YR3/2	ミガキ	縄文前期	1781 - 1	D - 94
108	8	深鉢	A区	包含層P - 8	体部	10YR3/2	ミガキ	縄文後期	1788 - 1・2	D - 89

表29 雲谷山吹(7)遺跡平安時代土器観察表

図版番号	遺構番号	層位	種別	器種	口径	器高	底径	色調外面	色調内面	焼成	礫	砂	骨	赤	遺存率 (口縁)	遺存率 (底部)	外面調整	内面調整	底部調整	備考	整理番号
106 - 2	SD - 01	ブク1P - 1	須恵器	坏	128	-	-	25Y6/2	25Y6/1	並	-	微	-	-	0.8/12		ロクロナデ	ロクロナデ		重ね焼き痕・火障痕・ヒッチ付着	D - 126
108 - 9	MY7	表土P - X	土師器	小甕	-	-	4.6	7.5YR7/3	7.5YR8/2	並	多	中	-	微	/12	2/12	ヘラ	ヘラ+ナデ	砂底		D - 116



写真139 雲谷山吹（7）遺跡調査区（N）



写真143 SK-01セクション（W）



写真140 北西側基本土層（N）

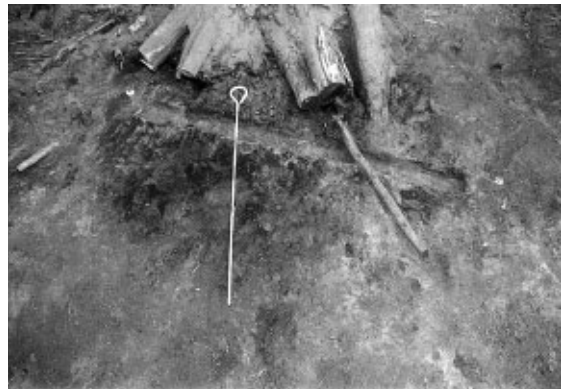


写真144 SK-02検出状況（N）



写真141 南側基本土層（N）



写真145 SD-01セクション（N）



写真142 SI-01セクション（N）

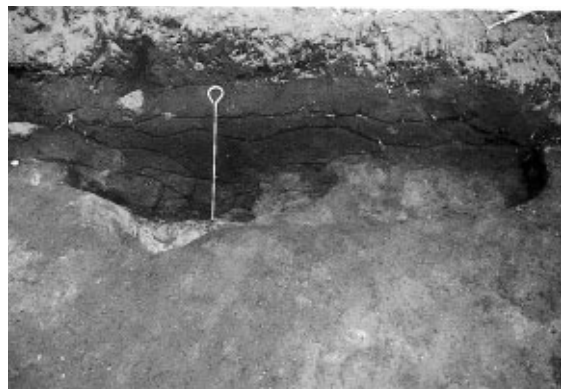
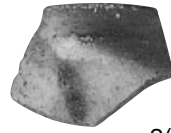


写真146 SX-01セクション（W）

SD - 01

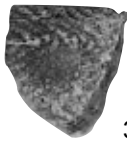


1(106 - 1)



2(106 - 2)

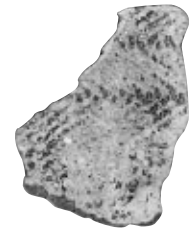
遺構外



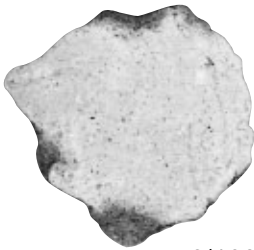
3(108 - 1)



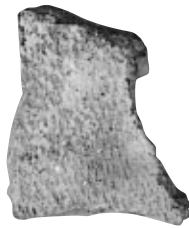
4(108 - 2)



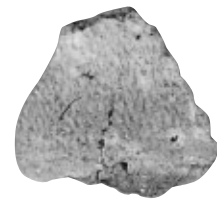
5(108 - 3)



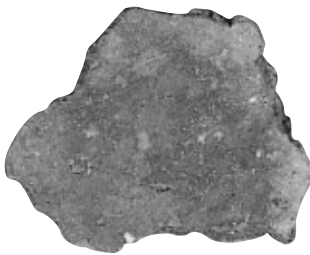
6(108 - 4)



7(108 - 5)



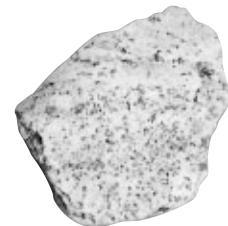
8(108 - 6)



9(108 - 7)



10(108 - 8)



11(108 - 9)

写真147 SD - 01, 遺構外出土遺物

第 章 自然科学分析

第 1 節 雲谷山吹遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

雲谷山吹遺跡は、八甲田山から北流する合子沢川と横内川に挟まれた標高115～130mの台地～丘陵地上に位置する。経済企画庁総合開発局（1970）によれば、本遺跡周辺の地形は、火山小起伏地から火山山麓地に分類されている。本遺跡では、これまでの発掘調査により、縄文時代中期～晩期の遺物（土器・石器）や平安時代の遺構（竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑など）・遺物（土師器・須恵器・鉄滓・羽口など）が検出されている。平安時代の出土土器類の特徴から、10世紀前半の段階で廃絶した可能性が指摘されている。

今回の分析調査では、竪穴住居跡から出土した炭化材の放射性炭素年代測定と樹種同定と土坑出土炭化材の樹種同定を行い、遺構の構築時期や用材選択に関する資料を得る。なお、放射性炭素年代測定は、いずれも小片であることから、少量でも測定可能な加速器質量分析法（AMS法）で行う。また、古代の土師器について胎土分析を行い、胎土の由来について検討する。この際に、平成12年度に報告した野木遺跡の胎土分析結果と今年度の小牧野遺跡の分析で使用した地山の対照試料の鉱物分析結果を再録し、比較検討を行う。金属遺物については成分分析を行い、その特徴を把握する。

・炭化材の放射性炭素年代測定と樹種同定

1．試料

試料は、土坑（SK-27）から出土した炭化材1点（試料番号13）竪穴住居跡（SI-05, 06）から出土した炭化材4点（試料番号14～17）の合計5点である。放射性炭素年代測定は、SI-05の3点（試料番号14～16）について行う。樹種同定は、試料番号16を除く全点が対象となっているが、試料番号16も同定可能な試料が採取できたため、全点について行う。

2．方法

（1）放射性炭素年代測定

測定は、株式会社加速器分析研究所（IAA）が行った。

（2）樹種同定

木口（横断面）・柱目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3．結果

放射性炭素年代測定および樹種同定結果を表1に示す。なお、試料番号16には2種類が認められたが、年代測定試料としては、相対的に量の多いクリを用いた。放射性炭素年代測定値は、1120BPと1010BPで、補正年代では1060～1130BPの値が得られた。これらの炭化材の樹種は、土坑出土材が落葉広葉樹のモクレン属、竪穴住居跡出土材が落葉広葉樹のクリとイネ科タケ亜科に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

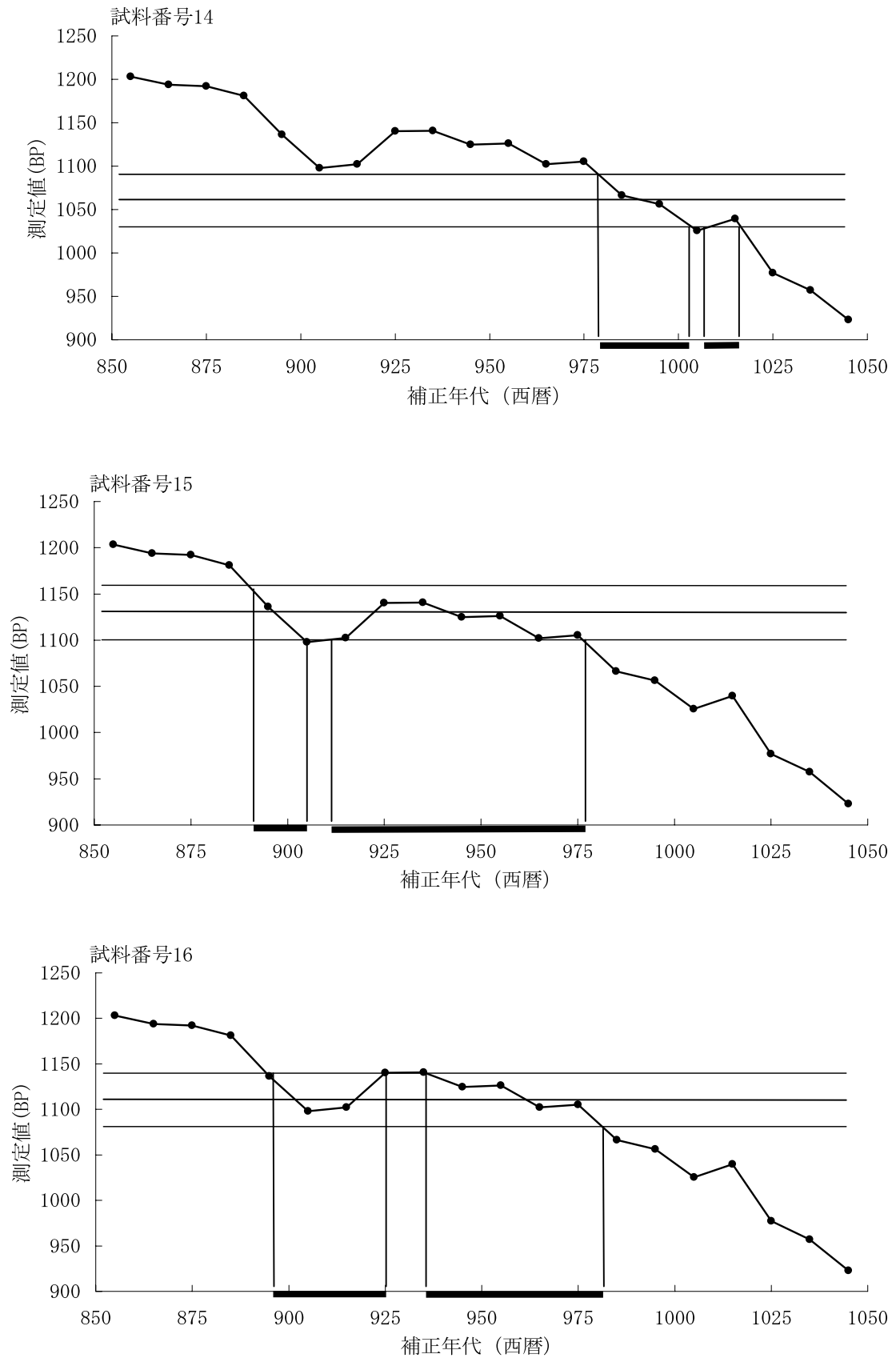


図1 放射性炭素年代測定結果の暦年補正 (inca198による)

図1 位置図1

・クリ (Castanea crenata Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は1～4列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に

表1 炭化材の放射性炭素年代測定および樹種同定結果

番号	遺構名	遺物番号	出土位置	樹種	年代	13C	補正年代	Code No.
13	SK - 27			モクレン属				
14	SI - 05	炭 - 1	床直カマド側	クリ	1010 ± 30BP	- 21.76 ± 0.91‰	1060 ± 30BP	IAAA - 10373
15	SI - 05	炭1	床直	クリ	1120 ± 30BP	- 24.03 ± 0.94‰	1130 ± 30BP	IAAA - 10374
16	SI - 05	炭2	床直	クリ	1120 ± 30BP	- 25.69 ± 1.02‰	1110 ± 30BP	IAAA - 10375
17	SI - 06	炭3	床直	イネ科タケ亜科				

1)年代測定は、加速器質量分析法 (AMS法) による。

2)年代は、1950年を基点とした年数で、補正年代は 13C の値を基に同位体補正を行った値。

3)放射性炭素の半減期は5568年を使用した。

配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・モクレン属 (Magnolia) モクレン科

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では角張った楕円形～多角形、単独および2～4個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性型、1～2細胞幅、1～40細胞高。

・イネ科タケ亜科 (Gramineae subfam. Bambusoideae)

試料は円柱状で、内部は中空となる。横断面では維管束が基本組織の中に散在する不斉中心柱が認められ、放射組織は認められない。

4. 考察

(1) 住居跡の年代

本遺跡における平安時代の遺構は、出土遺物などから10世紀前半には廃絶し、10世紀後半以降の活動は無かったと考えられている。SI - 05の炭化材は、全て床面直上から出土した構築材であり、樹種は全てクリであった。これらの年代値は、1010BP (試料番号14) と1120BP (試料番号15, 16) で、同位体補正を行った値は1060～1130BPであった。

放射性炭素年代測定では、大気中の¹⁴C濃度が一定であると仮定して年代値を産出するが、実際には大気中の¹⁴C濃度は一定でなく、経年変化がある(中村, 1998, 1999)。そのため、年代測定値から暦年代を推定するためには、年輪年代測定により歴年代が明らかになっている試料の¹⁴C濃度を測定して得られた、¹⁴C年代と暦年代との較正曲線を用いて較正する必要がある(中村, 2000)。本報告では、現在世界中で広く利用されているINCAL98 (Stuiver et al, 1998) を用いて歴年代を算出した(図1)。この結果を見ると、試料番号14の年代値は、10世紀後半～11世紀前半に相当する。試料番号15, 16の年代値は、9世紀末～10世紀初頭と10世紀中頃～後半に相当する。これらの値は、誤差や分解能などの測定の技術的な条件(東村, 1990)も含めて考慮すると、発掘調査所見とはおおむね矛盾しない。

(2) 用材

竪穴住居跡から出土した炭化材は、クリとタケ亜科であった。このうち、タケ亜科については、いずれも小径の試料であることや材質などを考慮すると、屋根や壁に利用された萱材に由来すると考えられる。一方、クリは、重硬で強度の高い材質を有し、含有成分により耐朽性にも優れる。住居構築材としての利用の背景には、これらの材質が考慮されている可能性がある。

青森県内では、これまでも古代の住居構築材について樹種同定が行われた例が報告されている(嶋倉, 1980a, 1980b, 1982, 1983a, 1983b, 1984a, 1987, 1988a, 1988b; パリノ・サーヴェイ株式会社, 1998, 2001a; 高橋, 2000)。その結果を見ると、太平洋の八戸市周辺で行われた調査では

コナラ節が多い。一方、十和田火山 - 八甲田山 - 平内町を結ぶ線より西側の地域ではクリが多く見られ、用材の傾向が大きく二分される。今回の結果も、クリが認められた点では、これまでの調査結果と一致する。このような違いは、両地域の植生の違いなどを反映している可能性があるが、コナラ節は二次林の構成種として、人里周辺で普通に見られる種類であり、本地域で見られなかったとは考えにくい。そのため、用材が異なる背景には、植生以外にも要因が考えられるが、現時点では詳細は不明である。

クリが多く見られた地域の結果を見ると、クリが圧倒的多数を占める遺跡（浪岡町山本遺跡）が見られる一方で、クリよりもカツラが多い遺跡（黒石市板留（2）遺跡）、クリとオニグルミがほぼ同数見られる遺跡（尾上町李平下安原遺跡）、クリにオニグルミ、カツラ、キハダなどが混じる例（森田村八重菊遺跡）等、遺跡によって種類構成に多少の違いが見られる。これらの違いは、周辺の植生などに起因する用材の違いを示している可能性がある。しかし、燃焼時の状況や部位の違いなどにより、燃え残り方が異なったために、見かけ上種類構成が異なっている可能性もある。とくに、クリ材は硬いために比較的燃え残りやすいことも想定される。そのため、今後さらに住居跡出土炭化材の資料を蓄積すると共に、遺存状態の良い住居跡が検出された際に細片まで含めた樹種同定を行うことで、部材と樹種との関係を明らかにしていきたい。

一方、土坑出土炭化材はモクレン属であった。土坑出土炭化材にモクレン属が多い結果は、野木遺跡などでも確認されており、遺構が炭焼き土坑とされていることから、木炭としてモクレン属を焼成したことが指摘されている（高橋，2000）。モクレン属の木炭は、比較的柔らかい木炭になり、特殊な用途としては研磨材としての利用がある（平井，1979）。しかし、今回の結果は1点のみの同定のため、選択的利用か否かの判断は困難である。また、その利用目的についても不明である。

ところで、森田村八重菊遺跡では、製鉄関連遺跡からクリを中心にモクレン属やブナ属が混じる種類構成が確認されている（パリノ・サーヴェイ株式会社，2001b）。クリ材は、生木では重硬であるが、木炭にするとガサガサした柔らかい炭になり、マツ炭と共に鍛冶用燃料材として利用される（岸本・杉浦，1980；窪田，1987）。こうした材質や民俗事例から、鍛冶用燃料としてクリやモクレン属等が利用されていた可能性が指摘されている（パリノ・サーヴェイ株式会社，2001b）。本遺跡でも鉄滓や羽口が出土しており、製鉄や鍛冶の存在が示唆される。そのため、本遺跡でもモクレン属の炭化材が鍛冶などに利用されていた可能性がある。今後、鍛冶遺構などから出土する燃料材の同定なども行って、さらに検証したい。

・古代土師器の胎土分析

1．試料

試料は、雲谷山吹遺跡の平安時代とされる住居跡から出土した土師器片11点である。発掘調査所見によれば、試料はいずれも食膳具であり、概ね10世紀の 新～ と野木遺跡で位置付けた資料と併行関係が認められるとされている。

試料には、試料番号1～11までが付され、出土遺構名、出土層位などと発掘調査者による胎土の肉眼観察所見が記載されている。これらは、分析結果を呈示した図2に併記する。

また、今回は、比較対照試料として土師器の出土した住居跡床面下の粘土1点（試料番号12とする）についても分析を行う。

2．分析方法

当社では、平成12年度に近傍の野木遺跡において、今回とほぼ同時期の土師器について胎土分析を行っている。分析方法は、目的と土器の質を考慮して重鉍物分析を用いた。今回も、野木遺跡資料との比較

を考慮し、同様の方法を用いる。以下に処理方法を述べる。

試料は、適量をアルミナ製乳鉢で粉碎、水を加え超音波洗浄装置により分散、#250の分析篩により水洗、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた1/4mm - 1/8mmの粒子をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉍物のプレパラ - トを作製した後、偏光顕微鏡下にて同定した。鉍物の同定粒数は、250個を目標とした。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものを「不透明鉍物」とし、それ以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とした。

3. 結果

各試料の分析結果を表2、図2に示す。土器試料11点は、ほとんどの試料で斜方輝石の多い組成を示すが、それに伴う単斜輝石や角閃石および不透明鉍物の量比は試料によって異なる。また、土器試料の中には、「その他」とした変質粒を多く含み、角閃石が酸化角閃石となっている組成も認められた。さらに、試料によっては、極めて微量の黒雲母、緑レン石、電気石などの鉍物が認められた。これらの微量の鉍物は、いずれも風化変質に対する抵抗性が強いために、本来含まれていた岩石から砂となって河川や風などによってかなり移動することが考えられる。したがって、現時点では、これらの極めて微量の鉍物の由来となった地質を特定することはできない。

さて、今回は、主要な鉍物の量比から、試料間で共通する点を見出し、試料の重鉍物組成を分類した。この際に、野木遺跡出土土器の胎土分析で行った分類基準を用いて、両遺跡間で胎土の状況を比較できる資料の作成に努めた。以下に分類結果を述べる。

1) 斜方輝石が多く、少量の単斜輝石と角閃石を伴う。単斜輝石と角閃石とでは、単斜輝石の方がやや多い。野木遺跡のB類に相当する。これに分類される試料は、試料番号1のみである。

2) 斜方輝石が多く、少量の単斜輝石と角閃石を伴う。単斜輝石と角閃石とでは、角閃石の方がやや多い。野木遺跡のC類に相当する。これに分類される試料は、試料番号2、4、6、11の4点である。

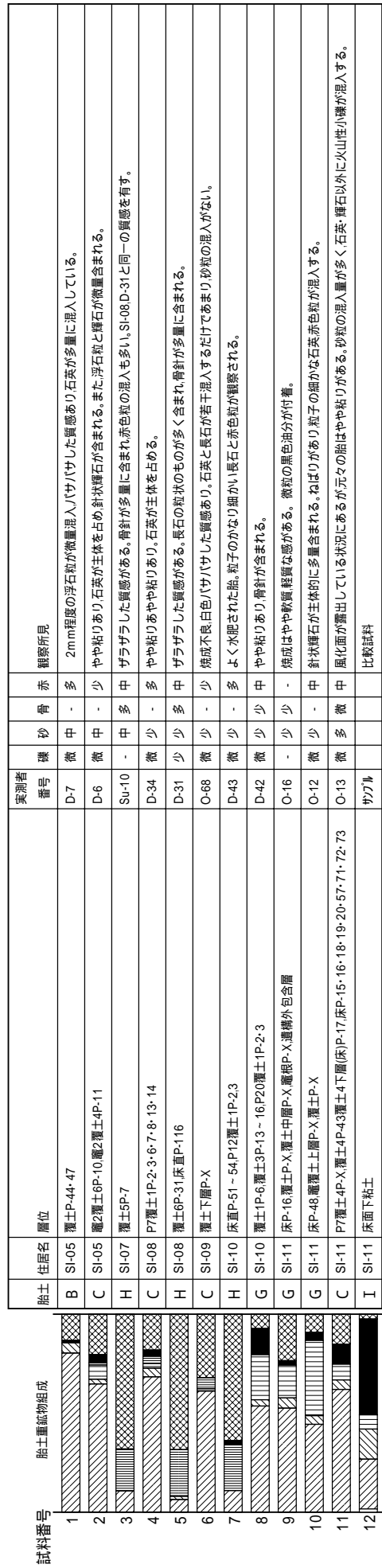
3) 斜方輝石が多く、中量の角閃石と少量の単斜輝石を伴う。斜方輝石と角閃石の量比関係は、野木遺跡のD類に近いが、D類に比べて単斜輝石の量比が低い。また、単斜輝石の量比は、野木遺跡のE類に近いが、E類に比べて不透明鉍物の量比が低い。さらに、単斜輝石と不透明鉍物の量比は、野木遺跡のF類に近いが、F類に比べて斜方輝石の量比が高い。以上のことから、本類は、野木遺跡の分類に相当するものがなく、新たにG類とする。これに分類される試料は、試料番号8、9、10の3点である。

4) 「その他」とした変質粒が多いが、それを除くと酸化角閃石が多く、少量の斜方輝石を伴う。なお、「その他」とした変質粒は、鏡下では、不定形で表面に凹凸があり、斜め上方からの落射光下では、赤褐色を呈する。これらの外見的特徴から、この変質粒は、酸化鉄の濃集した素地部分が粉碎により粒状となったものであると考えられる。本類の組成も野木遺跡では認められていないことから、新たにH類とする。これに分類される試料は、試料番号3、5、7の3点である。

5) 不透明鉍物が多く、中量の斜方輝石と単斜輝石および少量の角閃石を伴う。この組成は、粘土試料である試料番号12にのみ認められた。土器胎土の重鉍物組成ではないが、野木遺跡の分類にないことから、上記に続きI類とする。

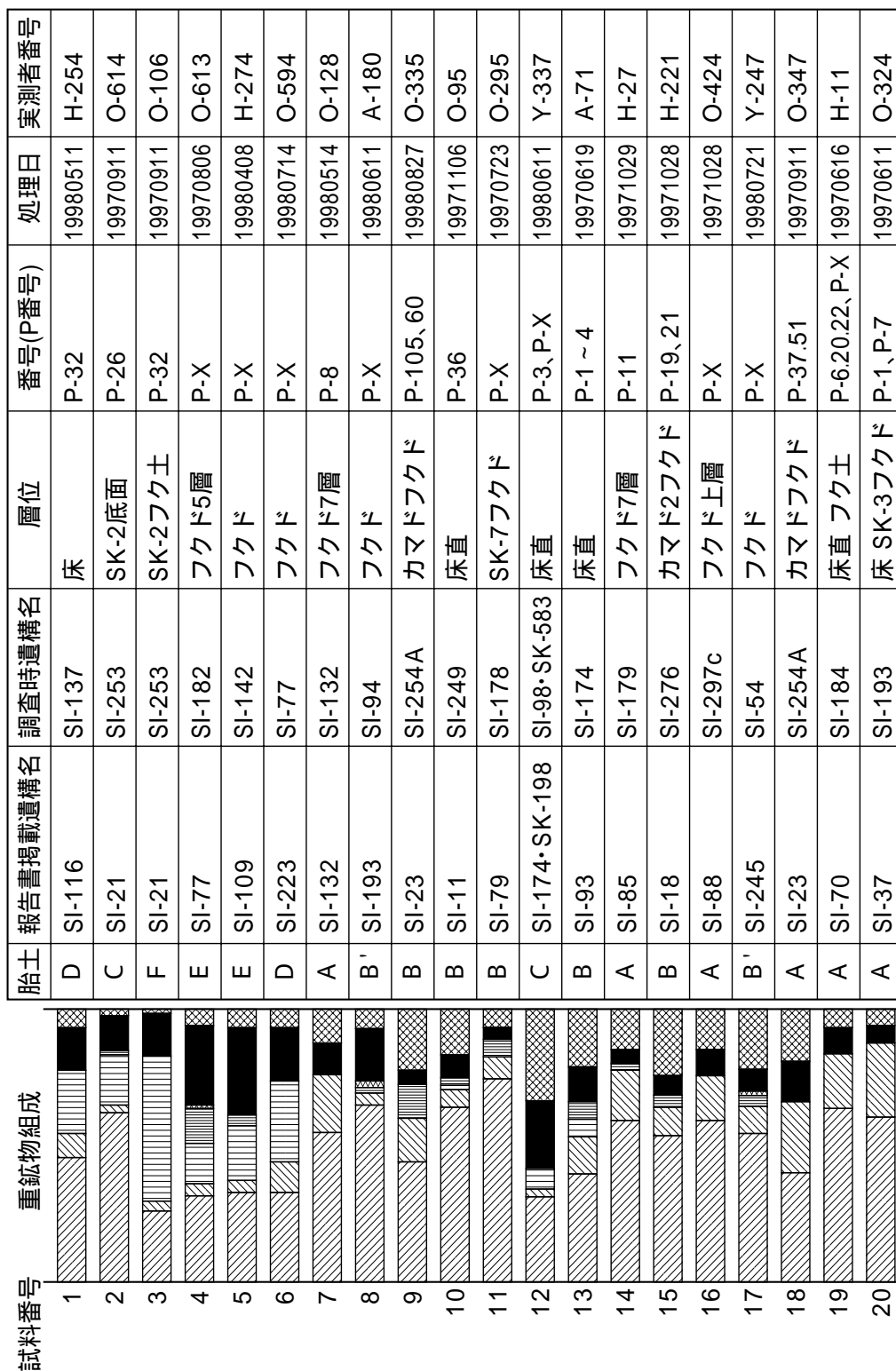
表2 重鋳物分析結果

試料番号	カラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	黒雲母	緑閃石	電気石	不透明鉱物	その他	合計	胎土	住居名	層位	実測者番号	赤	骨	砂	微	赤	骨	砂	微	観察所見
1	0	201	13	1	2	0	0	0	3	30	250	B	SI-05	覆土P-44・47	D-7	-	-	-	-	-	-	-	観察所見	
2	0	162	6	18	3	0	0	0	10	51	250	C	SI-05	覆土P-10, 覆土4P-11	D-6	-	-	-	-	-	-	-	2mm程度の浮石粒が微量混入、八ツバサした質感あり、石英が多量に混入している。やや粘りあり、石英が主体を占め、針状輝石が含まれる。また、浮石粒と輝石が微量含まれる。	
3	0	27	2	0	53	1	0	0	1	165	250	H	SI-07	覆土5P-7	Su-10	-	-	-	-	-	-	-	骨針が多量に含まれ、赤色粒の混入も多い。SI-08, D-31と同一の質感を有す。	
4	1	171	11	6	9	0	0	0	8	44	250	C	SI-08	P7覆土1P-2・3・6・7・8・13・14	D-34	-	-	-	-	-	-	-	やや粘りあり、石英が主体を占める。	
5	0	16	4	0	59	0	0	0	0	171	250	H	SI-08	覆土6P-31, 床直P-116	D-31	-	-	-	-	-	-	-	サラサラした質感がある。長石の粒状のものが多く含まれ、骨針が多量に含まれる。	
6	0	153	1	3	14	0	1	0	5	148	238	H	SI-10	床直P-X	O-68	-	-	-	-	-	-	-	焼成不良、白色八ツバサした質感あり。石英と長石が若干混入するだけであり、砂粒の混入がない。	
7	0	26	2	2	55	0	0	1	33	17	250	G	SI-10	床直P-6, 覆土3P-13~16, P12覆土P-2・3	D-42	-	-	-	-	-	-	-	焼成はやや軟質、軽質な質感がある。微粒の黒色油分が付着。	
8	0	134	8	57	0	0	0	0	4	41	175	G	SI-11	床P-16, 覆土P-X, 覆土中層P-X, 覆土下層P-X, 遺構外包含層	O-16	-	-	-	-	-	-	-	焼成はやや軟質、軽質な質感がある。微粒の黒色油分が付着。	
9	0	92	9	29	2	0	0	0	10	21	250	G	SI-11	床P-48, 覆土上層P-X, 覆土P-X	O-12	-	-	-	-	-	-	-	針状輝石が主体的に多量含まれる。ねばりがあり、粒子の細かい長石、赤色粒が混入する。	
10	0	111	11	95	2	0	0	0	25	38	250	C	SI-11	P7覆土P-X, 覆土4P-43, 覆土下層(P-17, 床P-15・16・18・19・20・57・71・72・73)	O-13	-	-	-	-	-	-	-	風化面が露出している状況にあるが、元々の胎土は粘りがある。砂粒の混入量が多く、石英・輝石以外に火性小礫が混入する。	
11	0	155	12	20	0	0	0	0	0	121	6	I	SI-11	床直下粘土	サンプル	-	-	-	-	-	-	-	比較試料	
12	4	63	38	18	0	0	0	0	0	121	6	I	SI-11	床直下粘土	サンプル	-	-	-	-	-	-	-	比較試料	



凡例 □ カラン石 ▨ 斜方輝石 ▩ 単斜輝石 ▪ 角閃石 ▧ 酸化角閃石 ■ その他

図2 雲谷山吹遺跡出土土器胎土重鋳物組成



凡例 斜方輝石 斜斜輝石 单斜輝石 角閃石 酸化角閃石 綠閃石 不透明鉱物 其他
 図3 野木遺跡出土器胎土の重鉱物組成

4. 考察

野木遺跡の土師器の胎土分析では、重鋳物組成をA～F類まで分類し、周辺の地質を考慮すると、A、B類は在地性が高く、C類以下は異地性の可能性があるとした(図3 胎土HMF2 参照)。C類以下の異地性の理由として、遺跡の位置する台地を構成している八甲田凝灰岩の重鋳物組成が、角閃石の少ないことをあげ、角閃石の量比の高いC類以下の組成を示すような地質の分布が周辺にないと考えた。しかし、その後に当社において行った、小牧野遺跡出土土器に関連する砂・粘土等の重鋳物分析により、角閃石の量比の比較的高い組成を示す粘土や砂あるいは火山灰を認めることができた(図4 胎土HMF3 参照)。また、沢田(1977)により、八甲田凝灰岩(報文中では田代平溶結凝灰岩)の台地表層に堆積する、各地各層位の火山灰層(降下テフラ層とローム層および火砕流堆積物)の重鋳物組成が報告されており、この中には層位によっては角閃石の卓越する組成が認められる。以上のことから、野木遺跡の報文中で述べた、C類以下の胎土が異地性の可能性が高いという見解は訂正しなければならない。ここで訂正が生じた原因は、野木遺跡の報告の段階では、自然堆積物の分析例が全くなかったこと、および周辺の地質として台地表層のローム層およびテフラ層の重鋳物組成を考慮していなかったためである。したがって、野木遺跡出土土器について言えば、在地という範囲を例えば八甲田凝灰岩の分布域で捉えるならば、現時点ではA類からF類まで全て在地の可能性があるとすることができる。ただし、異地性の可能性も全く否定されるものではなく、さらに今後の検討を要する。なお、小牧野遺跡関連の試料の分析結果から、「砂が混入している粘土塊」はA類、「第3号粘土埋納遺構の粘土」はB類、「第2号粘土埋納遺構の粘土」と「大谷火山灰」はD類にそれぞれ相当する組成である。現時点では、在地の自然堆積物に同様の組成が認められたのは、これら3類の胎土であるが、これらは、在地性がかなり高いと言ってよい。

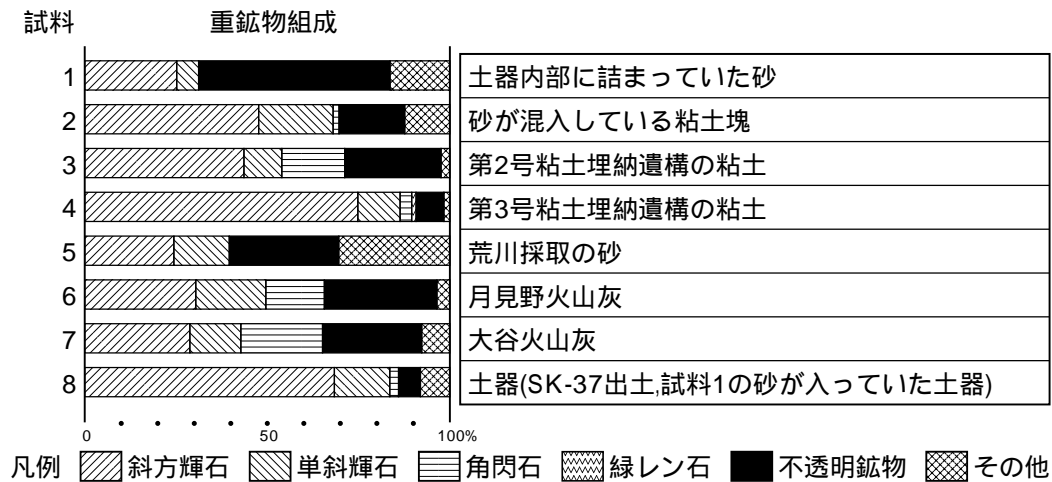


図4 小牧野遺跡関連の砂、粘土等試料の重鋳物組成

以上の野木遺跡出土土器胎土分類に従えば、雲谷山吹遺跡出土土師器では、在地性の高い試料はB類に分類される試料番号1の1点のみであり、野木遺跡試料で多数認められたA類は1点も認められず、また、上記した在地性の高い胎土であるD類も認められない。一方、雲谷山吹遺跡出土土器で多く認められるのは、野木遺跡では少数であったC類であり、また野木遺跡では認められなかったG類とH類である。この状況から、野木遺跡と雲谷山吹遺跡とでは、土師器の製作に関わる何らかの事情が異なっていた可能性が高い。

なお、上述の雲谷山吹遺跡出土土器に多い胎土は、いずれも小牧野遺跡関連試料の中に類似する組成は認められない。しかし、C類は上述のように在地の可能性があり、またG類についても、A～F類とは鉱物の量比が異なるだけで、全く異なる組成というわけではないことから、在地の可能性はある。しかし、H類については、A～G類との組成の違いは非常に明確であり、由来する地質も異なる可能性が高い。すなわち、異地性の高い胎土として指摘することができる。現時点では、H類の由来する地域を特定することはできないが、今後、周辺地域における土器の分析例や砂や粘土の分析例が増えることにより、H類に類似した組成が認められる可能性がある。H類の分布地域が明らかになれば、H類の製作地の特定も可能になるものと期待される。

・鉄滓の成分分析

鉄滓の分析は、株式会社 日鐵テクノリサーチが行った。以下に、報告を記す。

雲谷山吹遺跡出土品の調査

株式会社 日鐵テクノリサーチ

1. 目的

青森県青森市雲谷山吹遺跡から出土した鉄滓類について、金属学的調査を行う。

2. 調査資料

表3に調査に供した遺物と分析項目を示した。

表3 調査遺物と項目

遺跡名	遺構	位置	層位	遺物種類	状態	分析項目				
						外観観察	マクロ・ミクロ組織観察	成分分析	鉱物相の分析	EPMA面分析
雲谷山吹(6)	SI-09	SN	2層	椀形鍛冶滓	鉄滓					
雲谷山吹(6)	SI-09		9層	椀形鍛冶滓	鉄滓				-	-
雲谷山吹(6)	SI-09		中層	含鉄鉄滓	鉄滓				-	-
雲谷山吹(5)	SI-10	Pit20	2層	炉壁溶解物	鉄滓				-	-
雲谷山吹(5)	SI-10	SN	13層	含鉄鉄滓	鉄滓				-	-
雲谷山吹(6)	SI-02			流動滓	鉄滓					
雲谷山吹(6)	SK-03			椀形鍛冶滓(含鉄)	鉄滓					
雲谷山吹(6)	SI-03			椀形鍛冶滓	鉄滓				-	-
雲谷山吹(6)	SI-06		7層	含鉄鉄滓	鉄塊					

3. 試料調整と調査方法

試料は、外観観察後上下関係を確認するとともに、平均的な構造を有する部位についてダイヤモンドカッターを用いて切り出し、組織観察ならびに成分分析用に分割した。分析試料は、エタノールにて十分に土砂を取除き乾燥後、鉄乳鉢にて微粉碎(60メッシュ以下)し、含有する元素の定量をJIS法に準拠し行った。一方、組織観察用試料は真空下でエポキシ樹脂に埋め込み、試料を固定後、粗研磨は湿式研磨、仕上げ研磨はダイヤモンドペーストを用いて組織を現出し、光学顕微鏡およびX線マイクロアナライザー(EPMA)にやり鉱物組織の判定を行った。以下に、調査項目および方法・装置を示した。

(1) 外観観察

寸法・重量ならびに肉眼観察と外観撮影

(2) 断面マクロ・ミクロ組織観察

マクロ観察

投影機 V - 型 ; 日本電子製

ミクロ観察

光学顕微鏡 (HFX - 型; 日本光学製)

(3) 分析成分と方法

分析成分 T・Fe、M・FeO、Fe₂O₃、SiO₂、Al₂O₃、CaO、MgO、TiO₂の9成分。

T・Fe; 鉄鉱石—全鉄定量方法 (JIS - M8212)

FeO; 酸化溶性 (鉄) 定量方法 (JIS - 8213)

M・Fe; 金属鉄定量方法 (JIS - 8213)

他の金属元素; ICP発光分光分析法 ICAP757型 (日本ジャーレルアッシュ製)

(4) 鉱物相の同定

E P M A J X A 8100型 (日本電子製)

4. 調査結果

(1) 遺物の大きさと外観の特徴

各遺物の大きさと外観の特徴を表4に示した。

表4 遺物の大きさと外観の特徴

遺跡名	遺構	位置	層位	遺物種類	寸法 (mm)	重量 (gr)	外観の特徴
雲谷山吹(6)	SI - 09	SN	2層	椀形鍛冶滓	85×47×21	164	茶褐色、片側は円柱状の形状を呈する。
雲谷山吹(6)	SI - 09		9層	椀形鍛冶滓	53×38×27	64	茶褐色、一部に光沢を示す椀形破片。
雲谷山吹(6)	SI - 09		中層	含鉄鉄滓	35×23×18	13	茶褐色、凹凸のある塊状破片。
雲谷山吹(5)	SI - 10	Pit20	2層	炉壁溶解物	45×32×31	30	黒褐色、光沢のある塊状物。
雲谷山吹(5)	SI - 10	SN	13層	含鉄鉄滓	49×44×33	79	茶黄色、一部は湯玉状の形状を呈する。
雲谷山吹(6)	SI - 02			流動滓	51×41×12	52	黒灰色、光沢のある板状物。
雲谷山吹(6)	SK - 03			椀形鍛冶滓 (含鉄)	79×49×52	250	茶褐色、多数の空孔を有する塊状物。
雲谷山吹(6)	SI - 03			椀形鍛冶滓	39×33×27	29	茶褐色、小さな湯玉状物が付着する。
雲谷山吹(6)	SI - 06		7層	含鉄鉄滓	48×39×34	66	茶褐色、湯玉が数箇所に存在する。

(2) 調査試料の科学組成

表5に遺物の科学組成を示した。

表5 遺物の成分分析結果

(単位: 重量%)

遺構	位置	層位	遺物種類	T・Fe	M・Fe	FeO	Fe ₂ O ₃	TiO ₂	SiO ₂	Al ₂ O ₃	CaO	遺跡名
SI - 09	SN	2層	椀形鍛冶滓	48.3	0.67	16.2	50.1	7	18.4	4.83	1.05	2.48
SI - 09		9層	椀形鍛冶滓	39.6	0.87	31.6	20.2	13.5	21.5	5.86	1.53	3.78
SI - 09		中層	含鉄鉄滓	46.8	0.39	59	0.72	6.55	14	4.25	0.16	1.66
SI - 10	Pit20	2層	炉壁溶解物	53.7	0.72	56.4	13	2.3	16.5	4.17	1.49	0.97
SI - 10	SN	13層	含鉄鉄滓	50.1	0.3	6.48	64	0.46	10.6	3.57	0.005	0.048
SI - 02			流動滓	41.3	1.05	47.9	4.3	11.2	23.8	6	1.49	3.14
SK - 03			椀形鍛冶滓 (含鉄)	56.1	1.66	56.4	1.51	1.5	16.5	5.2	0.53	0.53
SI - 03			椀形鍛冶滓	49.8	0.74	49.7	14.9	4.19	19.6	4.85	1.41	1.62
				C	Si	Mn	P	S	Cu	Ni	Co	
SI - 06		7層	含鉄鉄滓	0.32	0.005	0.005	0.045	0.036	0.006	0.01	0.027	

凡例 T・Fe: 全鉄, M・Fe: 金属鉄, FeO: 酸化第一鉄, Fe₂O₃: 酸化第二鉄, TiO₂: 酸化チタン, SiO₂: 酸化珪素, Al₂O₃: 酸化アルミニウム, CaO: 酸化カルシウム, MgO: 酸化マグネシウム, C: 炭素, Si: 珪素, Mn: マンガン, P: 燐, S: 硫黄, Cu: 銅, Ni: ニッケル, Co: コバルト

SI - 09内SN 2層椀形鉄滓は、酸化第二鉄が50%と鉄錆の存在が窺える。また、酸化チタンが7%と始発原料に砂鉄が使用されたことが判る。SI - 09 9層椀形鉄滓の酸化チタンは13%台、SI - 09中層含鉄鉄滓の酸化チタンは6%台、SI - 02流動滓の酸化チタンは11%台と高く、SI - 09内SN 2層椀形鉄滓と同様に砂鉄の使用が窺える。また、SI - 10Pit20 2層炉壁溶解物とSK - 03椀形鉄滓の酸化チタンは2%台および1%台と低い含有量である。一方、SI - 10SN 13層含鉄鉄滓の酸化第二鉄は60%台と高く、スラグ成分 (SiO₂, Al₂O₃, MgO等) は14%台、また酸化チタンが0.4%台と低い。この鉄滓は、鉄錆主体のものであることが判る。SI - 03椀形鉄滓の酸化チタン濃度は8点の鉄滓のうちで

は中間的な値を示す。他方、S I - 06含鉄鉄滓（鉄魂）の金属鉄中の炭素量は、0.3%台の鋼、他の合金元素は低い値であった。

(3) マクロ・ミクロ断面組織観察結果

a) S I - 09内S N 2層 椀形鍛冶滓

図版3 - 2に断面マクロ組織を示した。大小の空孔が存在するが比較的緻密な鉄滓である。図版3 - 3, 4にミクロ組織を、また図5, 6にEPMA分析結果を示した。僅かに金属鉄（符号Me）が存在するが、主体はチタン化合物（符号Tu）・ファヤライト（符号F）・非晶質珪酸塩（符号S）からなる構成鉱物相である。チタン化合物は、7% Al_2O_3 ・1.6% MgO を含有するウルボスピネル（基本組成； $2FeO - TiO_2$ ）と同定された。また、非晶質珪酸塩中には高濃度のCaOが検出された。これらの鉱物相の存在から、この遺物は高温・高還元性の環境下で生成した鉄滓と考えられる。

b) S I - 09 9層 椀形鍛冶滓

図版4 - 2に断面マクロ組織を示した。丸みを帯びた空孔が存在するものの緻密な組織を呈する。図版4 - 3, 4は断面ミクロ組織を示した。構成鉱物は前記のS I - 09内S N 2層 椀形鍛冶滓と同様に、チタン化合物・ファヤライト・非晶質珪酸塩からなり、このチタン化合物はウルボスピネルと同定された。この遺物も前記と同様の成因から生成したものと考えられる。

c) S I - 09 中層 含鉄鉄滓

図版5 - 2に断面マクロ組織を示した。大きな空孔や微細空孔も存在し、脆弱な組織を呈する。図版5 - 3, 4には、断面ミクロ組織を示した。上記2試料と同様の鉱物組成を有することから、同様の成因から生成したものといえるが、緻密度からみて比較的上層部で生成した鉄滓と考えられる。

d) S I - 10Pit20 2層 炉壁溶解物

図版6 - 2に断面マクロ組織を示した。丸い空孔が僅かに存在し、緻密な鉄滓であることが判る。図版6 - 3, 4には断面ミクロ組織を示した。構成鉱物は、ウスタイト（符号W）・長柱状のファヤライト・非晶質珪酸塩からなる。上記3試料とは異なり、チタン化合物は存在しない。前記の鉄滓に比べ、高い酸素雰囲気中で生成したものと考えられる。

e) S I - 10S N 13層 含鉄鉄滓

図版7 - 2に断面マクロ組織を示した。全体にわたって鉄錆で構成されている。図版7 - 3, 4には、断面ミクロ組織を示した。図版7 - 4中の錆層にみられる網目状の白色物質は金属鉄で、組織の状況からセメントイト（鉄と炭素の個溶体 Fe_3C ；符号Ce）と判断された。この遺物の元は、炭素濃度の高い鋼であったものと考えられる。したがって、この遺物は、外観の形状ならびに断面構造から、鋼精錬工程の途中遺物と推測される。

f) S I - 02 流動滓

図版8 - 2に断面マクロ組織を示した。大小の丸い空孔が多く存在することから、生成過程で活発なガスの発生が伴っていたことが伺える。図版8 - 3, 4には断面ミクロ組織を、また図7, 8にはEPMA分析結果を示した。僅かに金属鉄が存在するが、チタン化合物と長柱状のファヤライトならびに僅かの非晶質珪酸塩からなる。このチタン化合物は33%の TiO_2 、その他に4.8%の Al_2O_3 、4.5%の MgO を含んだウルボスピネルと同定された。しかも、ウルボスピネル結晶の周囲にはAlが濃化しており、Alが周囲のスラグ融液に拡散している様子がみられる。構成鉱物から、前記S I - 09内S N 2層、9層、中層の椀形鍛冶滓や含鉄鉄滓と同様の生成過程を経たものとみられるが、空孔が多く存在することや表面は光沢を呈する状況から、この遺物は最表層で生成した鉄滓と考えられる。

g) S K - 03 椀形鍛冶滓（含鉄）

図版9-2に断面マクロ組織を示した。大小の空孔が存在するとともに、内部には金属鉄が点在する。図版9-3, 4に断面ミクロ組織を、また図9, 10にはEPMAによる分析結果を示した。構成鉱物は、金属鉄・ウスタイト・針状のファヤライトおよび非晶質珪酸塩からなる。ウスタイト中のTiO₂平均濃度は3.2%で、点在に分布する。Tiの分布状況から二次的に析出したものではなく元は砂鉄で、この鉄滓の生成過程で反応・分解したものと考えられる。また、前記のS I - 10Pit20 2層の炉壁溶解物も同様の鉱物組成で、しかもTiO₂濃度が2.3%であることから、同様の操作過程で生成したものと考えられる。

h) S K - 03 椀形鍛冶滓

図版10-2に断面マクロ組織を示した。大小の空孔と金属鉄が存在する。図版10-3, 4には断面ミクロ組織を示した。灰色の大きな粒子(数100μm; 符号O)は、鉱石でEPMAの定性分析の結果、Tiが検出されたことから砂鉄と判断された。また、小さな丸みを帯びた結晶はウスタイト・短冊状の結晶はファヤライトそして非晶質珪酸塩からなる鉱物相で、僅かにチタン化合物が存在する。鉱石粒子の周囲は細かな結晶が存在し、鉱石粒子が周囲のスラグ融液により粒界破断されている様子がみられる。前記のS I - 10Pit20 2層炉壁溶解物やS K - 03椀形鍛冶滓に比べ、前段階の反応途中遺物と考えられる。

i) S I - 06 7層 含鉄鉄滓(鉄魂)

図版11-2に断面マクロ組織を示した。金属鉄と鉄錆の混合層を形成している。図版11-3, 4および図11, 12には、塊の外側付近に存在する鉱物のEPMA分析結果を示した。灰色の大きな結晶イルメナイト(基本組成FeO - TiO₂; 符号Tl)に近い組成、この結晶から細長く伸びた明灰色結晶は、ヌードプロッカイト(基本組成FeO - 2TiO₂; 符号Tp)に近い組成と同定された。一方、図版11-5, 6および図13, 14には塊の中央部に存在する鉱物のミクロ組織とEPMA分析結果を示した。長柱状の結晶は、Al, Mgを数%含むイルメナイト組成に近い鉱物と同定された。これらのチタン鉱物の存在は、高温・高還元性雰囲気下でないと生成しえない鉱物である。この鉄魂の金属鉄中の炭素量は0.3%と、鋼組成になっていることから、炭素量の高い鉄原料から鋼を得る段階で凝固した産物と考えられる。

5. まとめ

青森県青森市雲谷山吹遺跡から出土した鉄滓類の金属学的調査を行った結果は以下の通りである。

1) S I - 09内S N 2層の椀形鍛冶滓、同9層の椀形鍛冶滓、同中層の含鉄鉄滓、S I - 02の流動滓は、チタン含有量が高く、構成鉱物相には共通してウルボスピネル(2FeO - TiO₂)が存在する。外観的特徴および構成鉱物から、これらの鉄滓は精錬過程の高還元性雰囲気下の鉄浴と接していた箇所で生成したものであると考えられた。

2) S I - 10Pit20 2層の炉壁溶解物、S K - 03椀形鍛冶滓2点は、数%のチタンを含有する砂鉄粒子や分解生成物が共通して存在していた。上記の鉄滓類と同様の過程であるが、比較的上層の酸素濃度の高い領域で生成したものと考えられた。

3) S I - 10SN13層の含鉄鉄滓の鉄錆を主体とする遺物と、S I - 06 7層の含鉄鉄滓は、炭素量の高い鉄原料を低減する過程において凝固したものと考えられた。

以上の結果から、本遺跡では始発原料に砂鉄を使用した精錬操作が行われていたものと考えられる。

引用文献

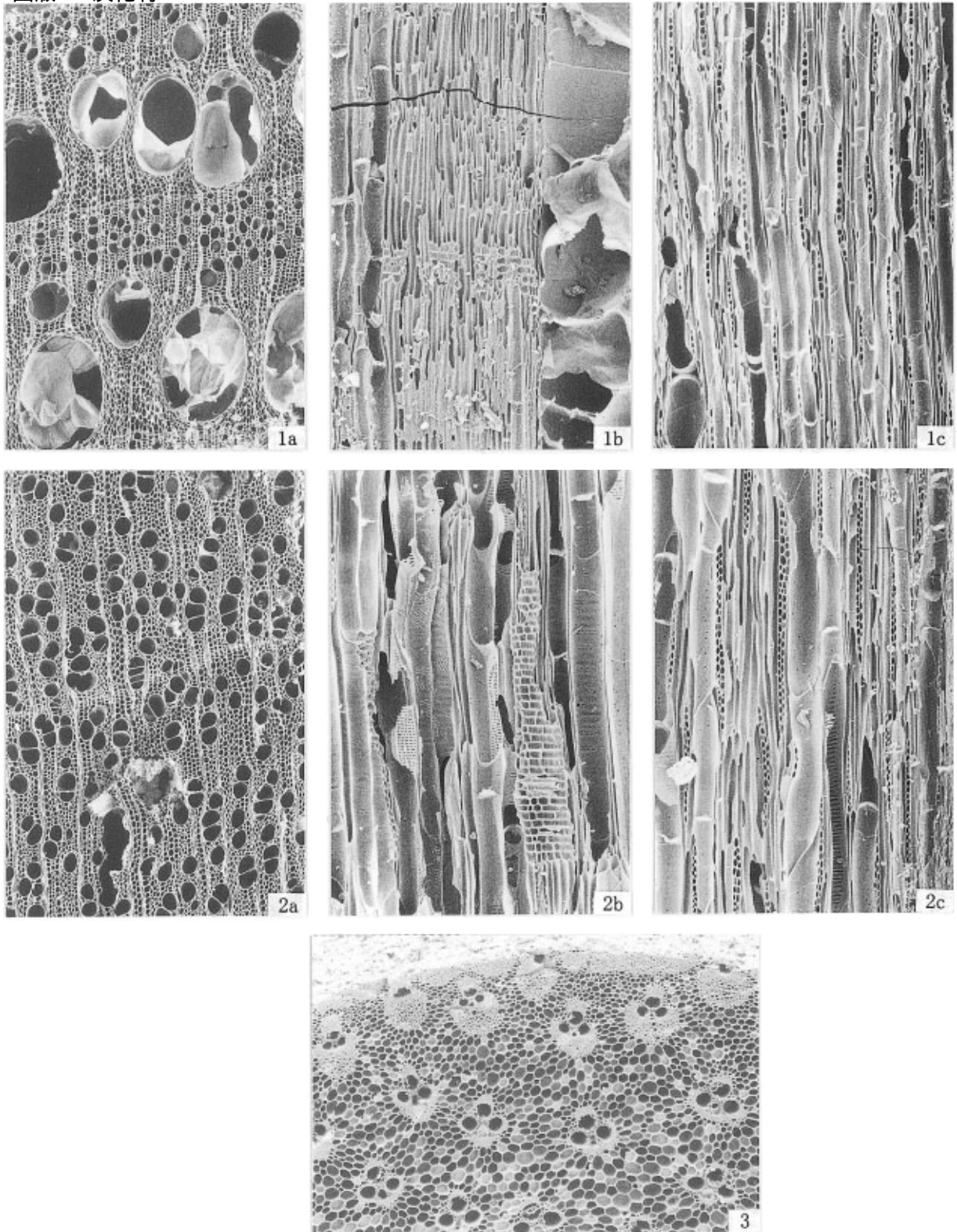
東村武信(1990)改訂 考古学と物理化学. 212p., 学生社.

平井信二(1979)木の事典 第1巻. かなえ書房.

岸本定吉・杉浦銀治(1980)日曜炭やき師入門. 250p., 総合科学出版.

- 窪田蔵郎 (1987) 改訂 鉄の考古学 . 308p. , 雄山閣 .
- 中村俊夫 (1998) 放射性炭素¹⁴Cで年代を決める . 「それは何年前のこと? 遺跡・遺物の年代決定に挑む」, p.42 - 59 , 日本文化財科学会 .
- 中村俊夫 (1999) 放射性炭素法 . 長友恒人編「考古学のための年代測定学入門」, p.2 - 36 , 古今書院 .
- 中村俊夫 (2000) ¹⁴C年代から歴年代への較正 . 「日本先史時代の¹⁴C年代」, p.21 - 40 , 日本第四紀学会 .
- パリノ・サーヴェイ株式会社 (1998) 外馬屋前田 (1) 遺跡出土植物遺体の同定 . 「青森県埋蔵文化財調査報告書第242集 外馬屋前田 (1) 遺跡 - 県営津軽中部地区広域農道整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 - 」, p.128 - 133 , 青森県教育委員会 .
- パリノ・サーヴェイ株式会社 (2001a) A区 - 1号・E区 - 1号遺構の自然化学分析 . 「八重菊 (1) 遺跡 - 森田村緊急発掘調査報告書第7集 - 」, p.180 - 186 , 森田村教育委員会 .
- パリノ・サーヴェイ株式会社 (2001b) B区12号遺構 (製鉄炉) と鉄滓の自然化学分析 . 「八重菊 (1) 遺跡 - 森田村緊急発掘調査報告書第7集 - 」, p.197 - 243 , 森田村教育委員会 .
- 沢田庄一郎 (1977) 青森市周辺に分布する第四紀火山噴出物について . 青森地学 , 29 , p.1 - 4 .
- 嶋倉巳三郎 (1980a) 永野遺跡出土の炭化材 . 「青森県埋蔵文化財調査報告書第56集 永野遺跡発掘調査報告書昭和54年度」, p.370 - 371 , 青森県教育委員会 .
- 嶋倉巳三郎 (1980b) 板留 (2) 遺跡から出土した炭化材の樹種 . 「青森県埋蔵文化財調査報告書第59集 板留 (2) 遺跡発掘調査報告書」, p.1 - 2 , 青森県教育委員会 .
- 嶋倉巳三郎 (1982) 青森県の遺跡から出土した炭化材の樹種 . 「青森県埋蔵文化財調査報告書第70集 馬場瀬遺跡発掘調査報告書」, p.284 - 285 , 青森県教育委員会 .
- 嶋倉巳三郎 (1983a) 八戸市根城跡から出土した木質物の樹種 . 「八戸市埋蔵文化財調査報告書第11集 史跡根城跡発掘調査報告書 (昭和56・57年度)」, p.211 - 216 , 八戸市教育委員会 .
- 嶋倉巳三郎 (1983b) 鶉窪遺跡の炭化材 . 「青森県埋蔵文化財調査報告書第76集 鶉窪遺跡発掘調査報告書」, p.106 , 青森県教育委員会 .
- 嶋倉巳三郎 (1984a) 和野前山遺跡から出土した炭化材の樹種 . 「青森県埋蔵文化財調査報告書第82集 和野前山遺跡 八戸北バイパス建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書」, p.318 , 青森県教育委員会 .
- 嶋倉巳三郎 (1987) 山本遺跡出土の炭化木 . 「青森県埋蔵文化財調査報告書第105集 山本遺跡 - 一般国道7号線浪岡バイパス建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書」, p.203 - 204 , 青森県教育委員会 .
- 嶋倉巳三郎 (1988a) 茶毘館遺跡出土の炭化物 . 「青森県埋蔵文化財調査報告書第110集 茶毘館遺跡」, p.239 - 240 , 青森県教育委員会 .
- 嶋倉巳三郎 (1988b) 李平下安原遺跡出土の炭化材 . 「青森県埋蔵文化財調査報告書第111集 李平下安原遺跡 - 主要地方道大鰐浪岡線道路改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 - 昭和62年度」, p.497 - 506 , 青森県教育委員会 .
- Stuiver, M., Reimer, P.J., Bard, E., Beck, J.W., Burr, G.S., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., van der Plincht, J. and Spurk, M. (1998) INTCAL98 radiocarbon age calibration, 24,000 - 0 cal BP. Radiocarbon, 40, p.1041 - 1083.
- 高橋利彦 (2000) 青森市野木遺跡出土炭化材の樹種 . 「青森県埋蔵文化財調査報告書第281集 野木遺跡 - 青森中核工業団地整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 - 第6分冊」, p.77 - 82 , 青森県教育委員会 .

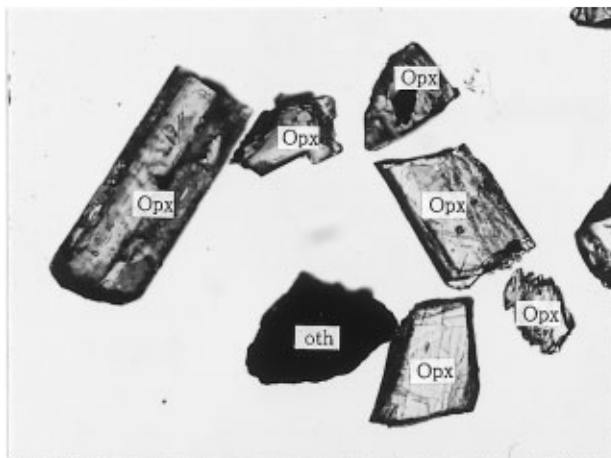
図版1 炭化材



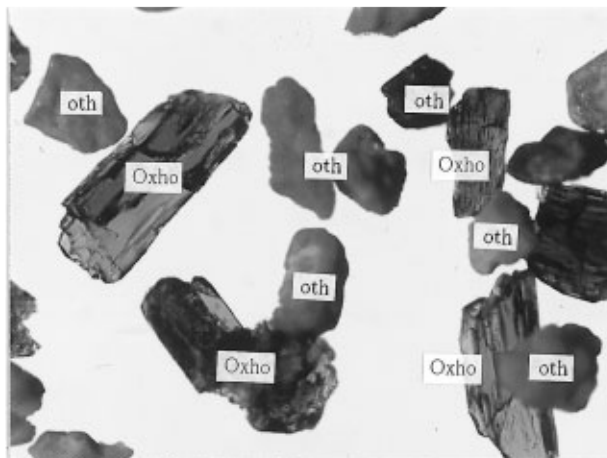
1. クリ (試料番号16)
 2. モクレン属 (試料番号13)
 3. イネ科タケ亜科 (試料番号17)
- a: 木口、b: 柁目、c: 板目

200 μm : 1、2a、3
200 μm : 1、2b、c

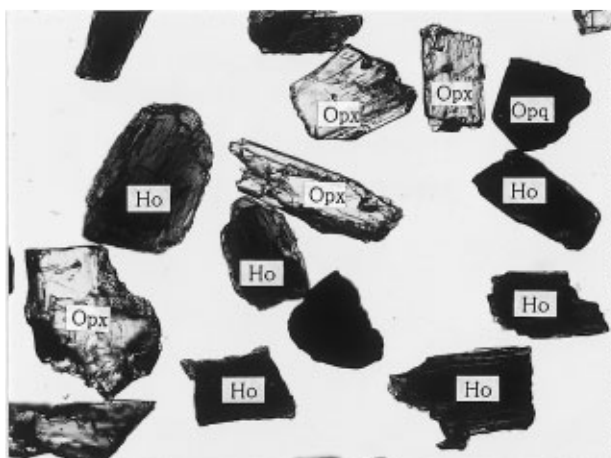
図版2 胎土中の重鉱物



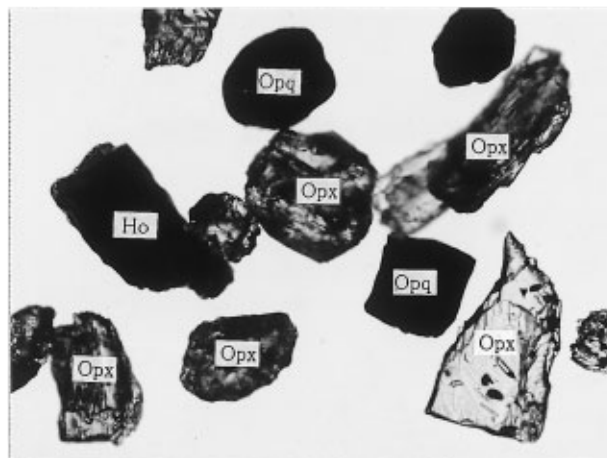
1. 試験番号1 (SI - 05 D - 7 ; B類)



2. 試験番号3 (SI - 07 Su - 10 ; G類)

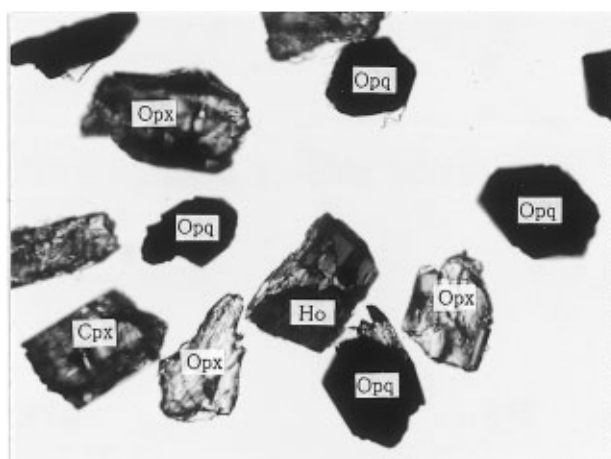


3. 試験番号10 (SI - 11 O - 12 ; D類)



4. 試験番号11 (SI - 11 O - 13 ; C類)

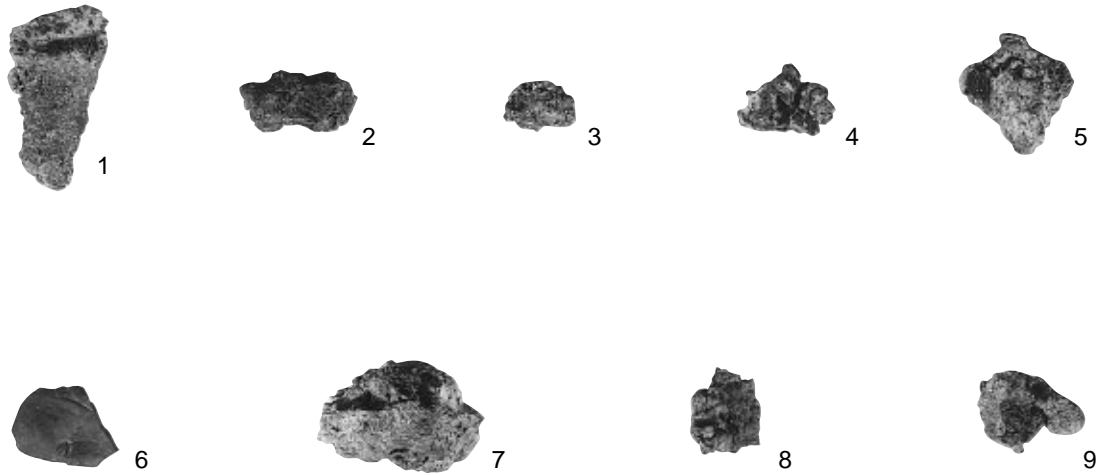
0.5mm



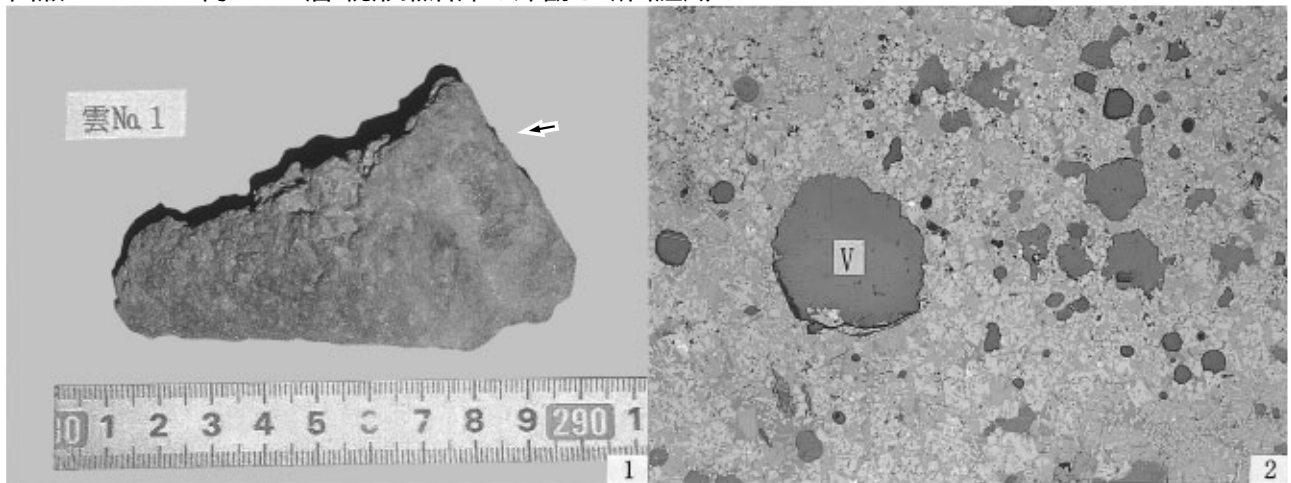
5. 試験番号12 (SI - 11 床面下粘土 ; H類)

Opx : 斜方輝石 . Cpx : 単斜輝石 . Ho : 角閃石
Oxho : 酸化角閃石 . Opq ; 不透明鉱物 . oth ; その他

写真 分析資料

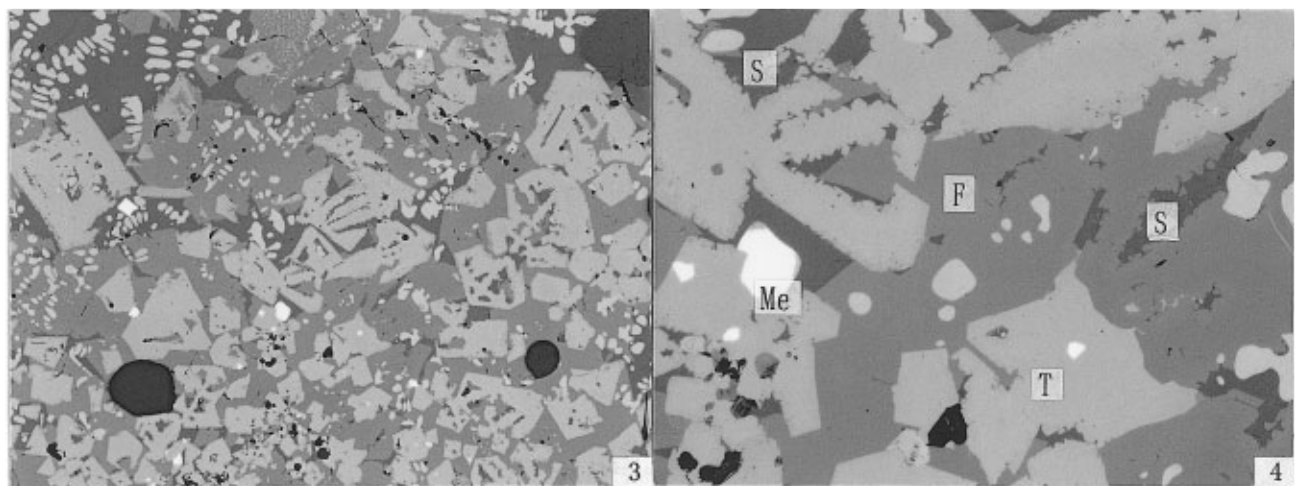


図版3 SI - 09内 SN 2層 椀形鍛冶滓の外観と断面組織



1 : 外観

2 : 断面マクロ組織



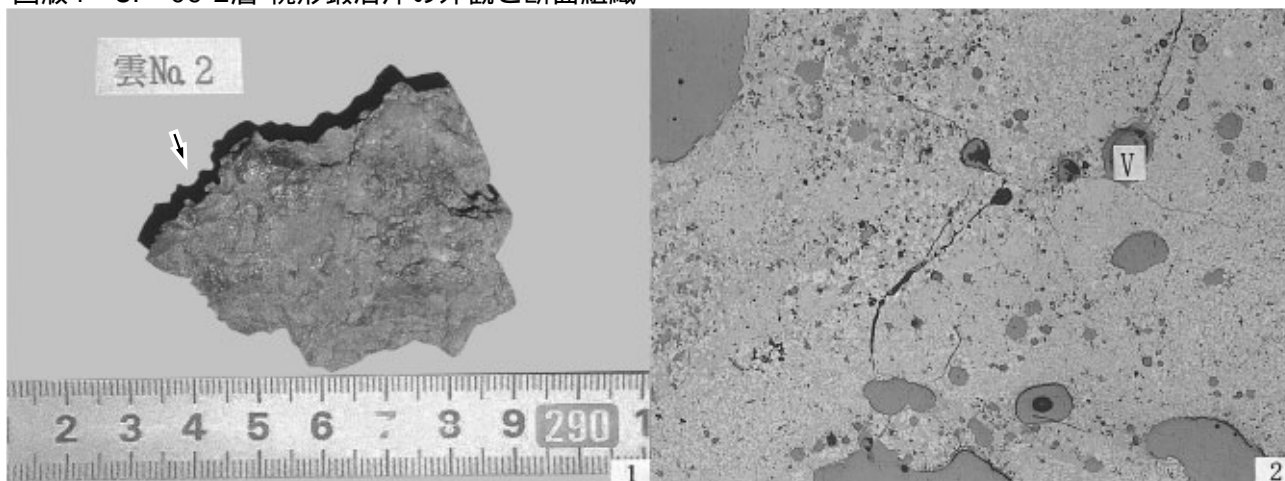
3 : 断面ミクロ組織

4 : 断面ミクロ組織

Me : 金属鉄 . T : チタン化合物 . F : ファヤライト . S : 非品質珪酸塩 . V : 空孔
 矢印は試料採取箇所を示す。

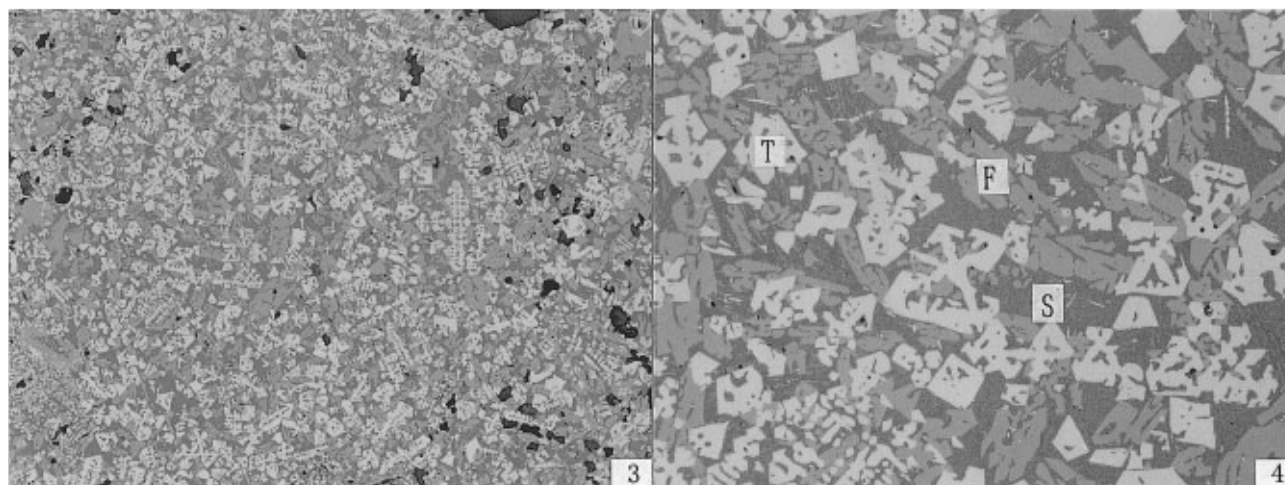
1mm : 2
 200 μm : 3
 50 μm : 4

図版4 SI - 09 2層 椀形鍛冶滓の外観と断面組織



1 : 外観

2 : 断面マクロ組織



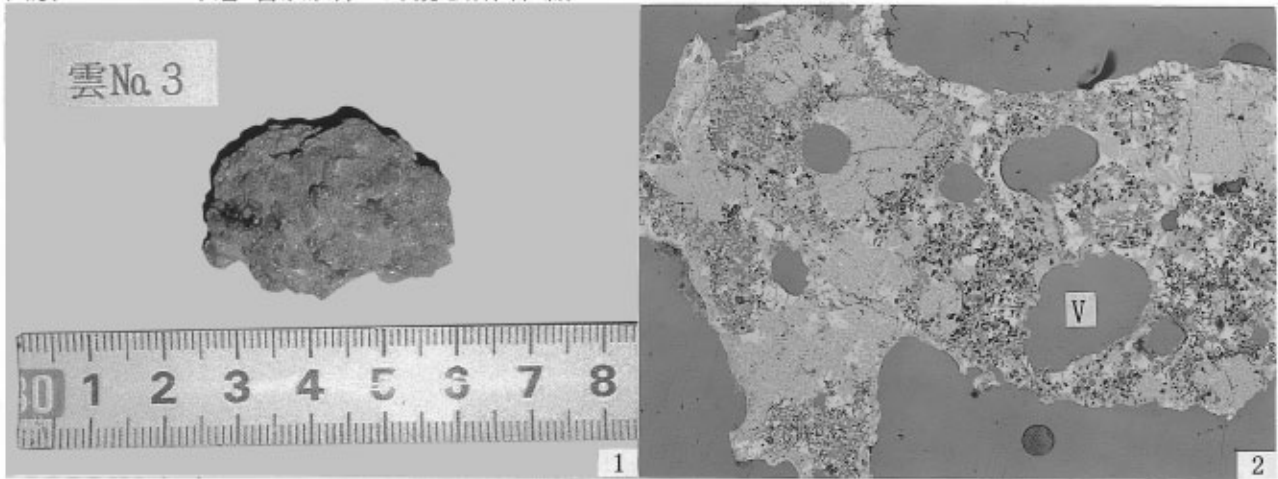
3 : 断面ミクロ組織

4 : 断面ミクロ組織

T : チタン化合物 . F : ファヤライト . S : 非品質珪酸塩 . V : 空孔
 矢印は試料採取箇所を示す。

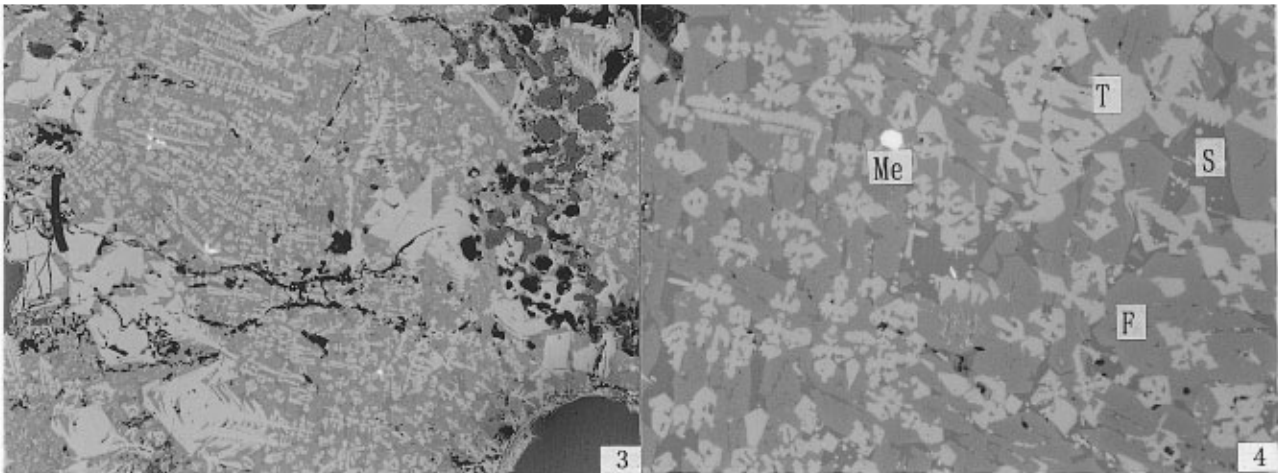
1mm : 2
 200 μm : 3
 50 μm : 4

図版5 SI - 09 中層 含鉄鉄滓の外観と断面組織



1 : 外観

2 : 断面マクロ組織



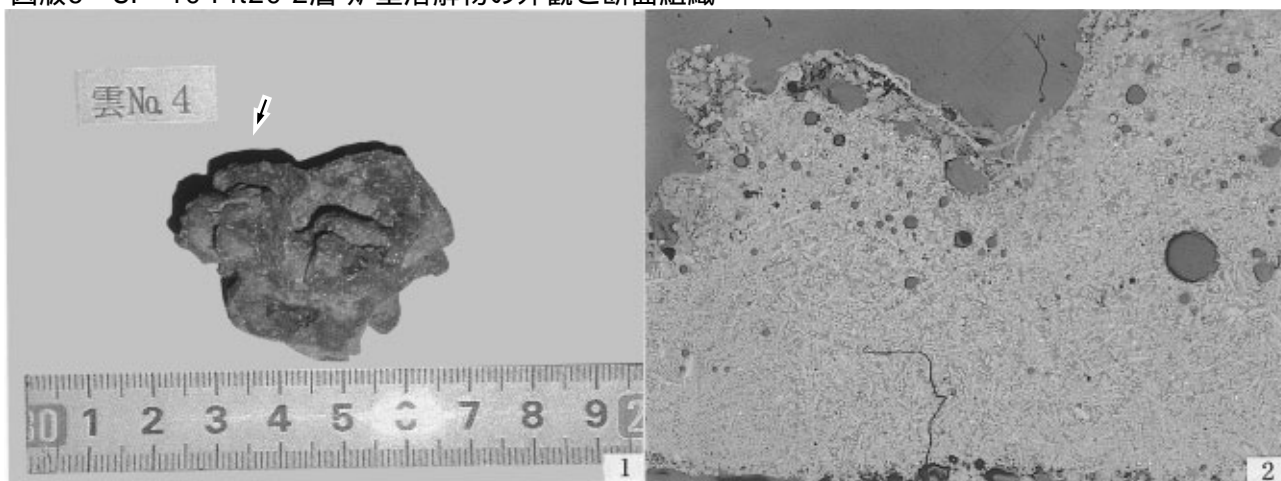
3 : 断面ミクロ組織

4 : 断面ミクロ組織

Me : 金属鉄 . T : チタン化合物 . F : ファヤライト . S : 非品質珪酸塩 . V : 空孔
矢印は試料採取箇所を示す。

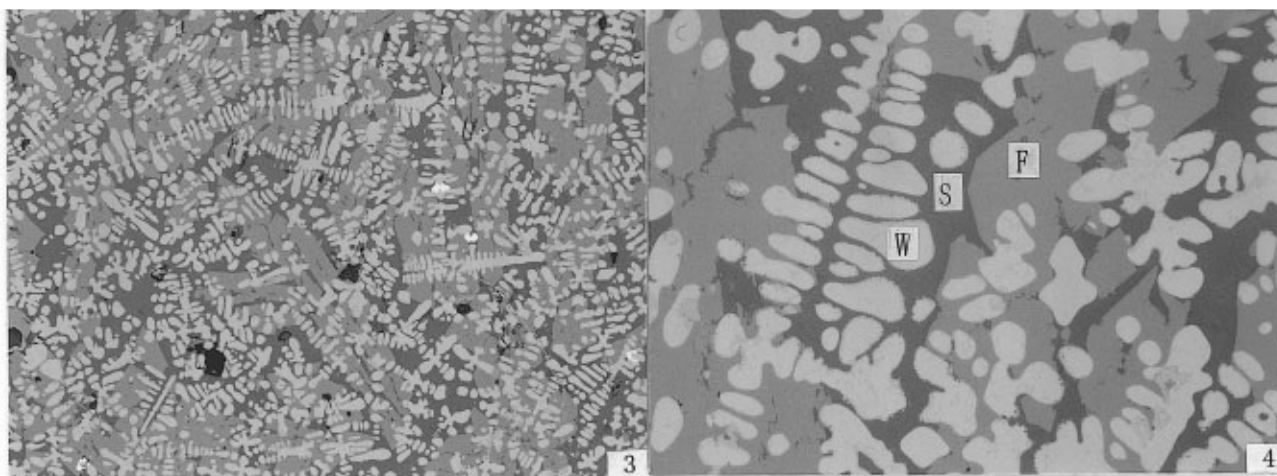
1mm : 2
200 μ m : 3
50 μ m : 4

図版6 SI - 10 Pit20 2層 炉壁溶解物の外観と断面組織



1 : 外観

2 : 断面マクロ組織



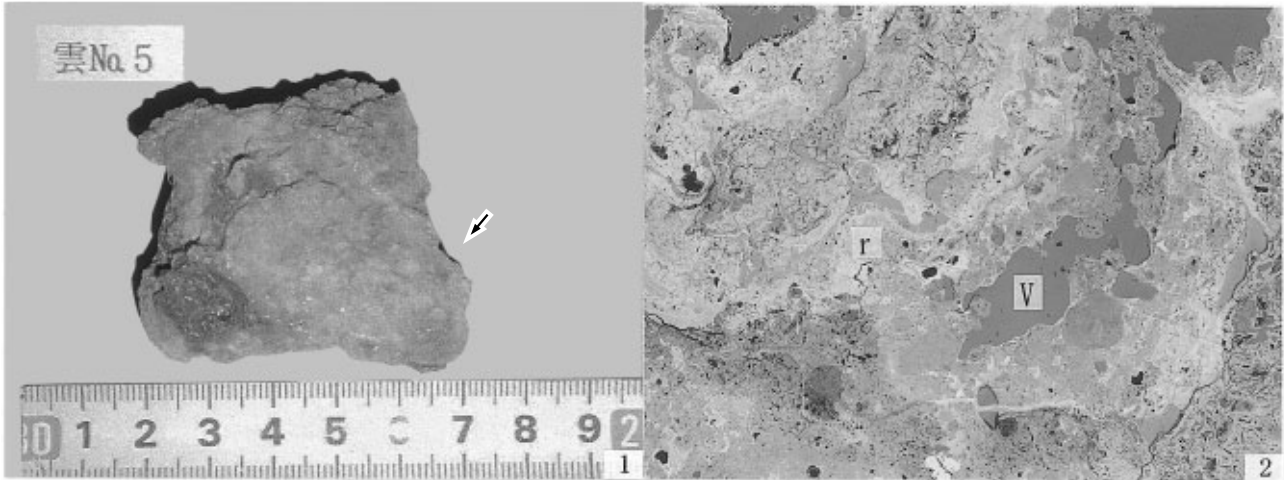
3 : 断面ミクロ組織

4 : 断面ミクロ組織

W : ウスタイト . F : ファヤライト . S : 非晶質珪酸塩 . V : 空孔
 矢印は試料採取箇所を示す。

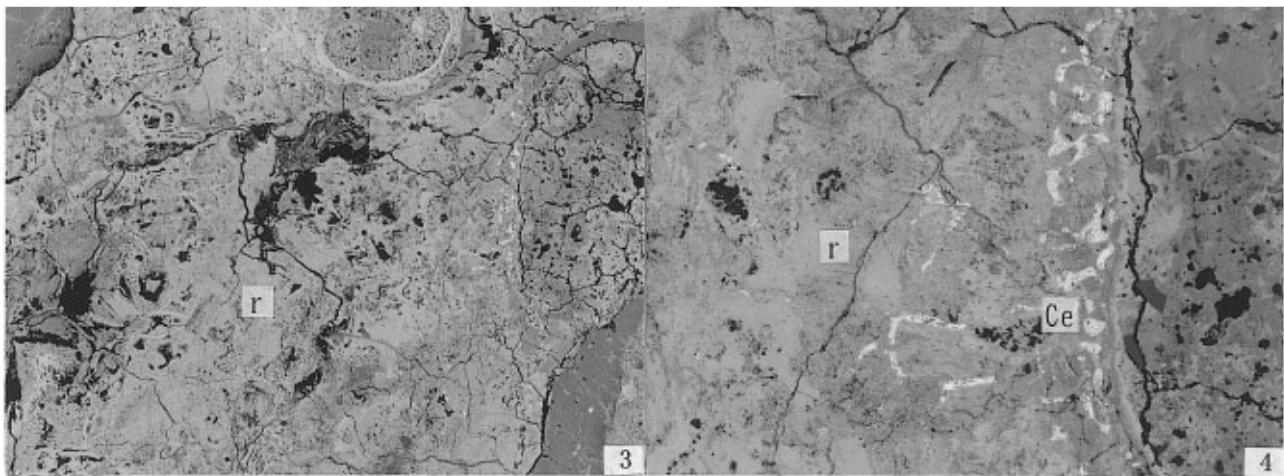
1mm : 2
 200 μm : 3
 50 μm : 4

図版7 SI - 10 SN 13層 含鉄鉄滓の外観と断面組織



1 : 外観

2 : 断面マクロ組織



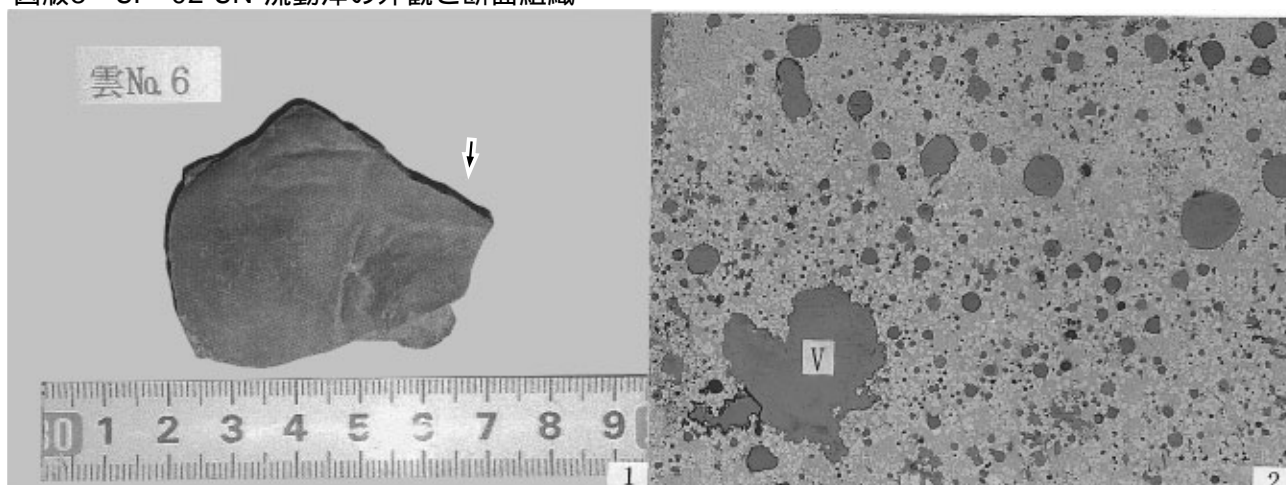
3 : 断面ミクロ組織

4 : 断面ミクロ組織

Ce : セメントタイト . r : 鉄錆 . V : 空孔
矢印は試料採取箇所を示す。

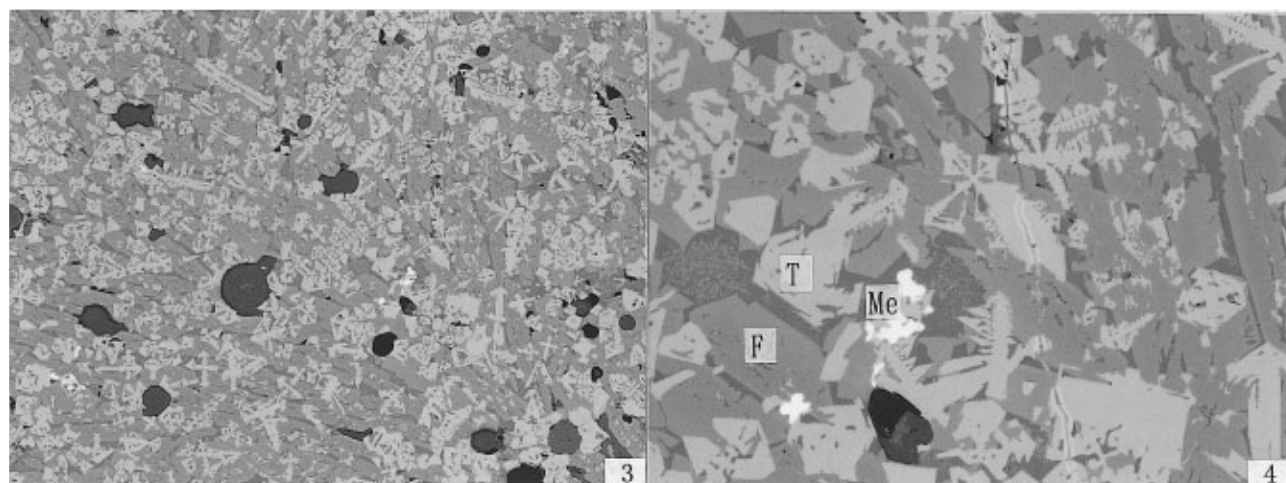
1mm : 2
200 μm : 3
50 μm : 4

図版8 SI - 02 SN 流動滓の外観と断面組織



1 : 外観

2 : 断面マクロ組織



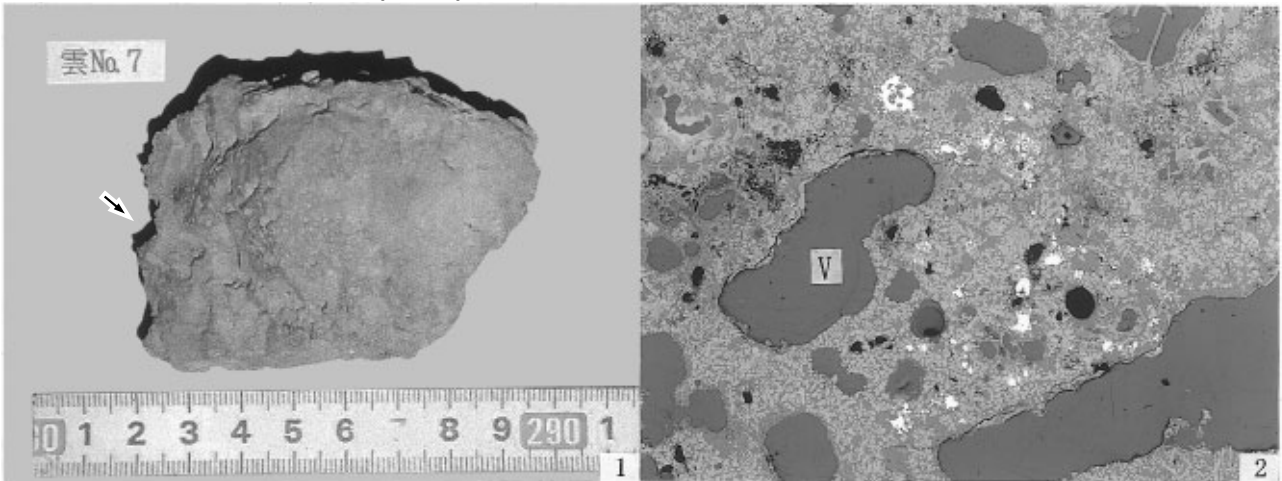
3 : 断面ミクロ組織

4 : 断面ミクロ組織

Me : 金属鉄 . T : チタン化合物 . F : ファヤライト . V : 空孔
 矢印は試料採取箇所を示す。

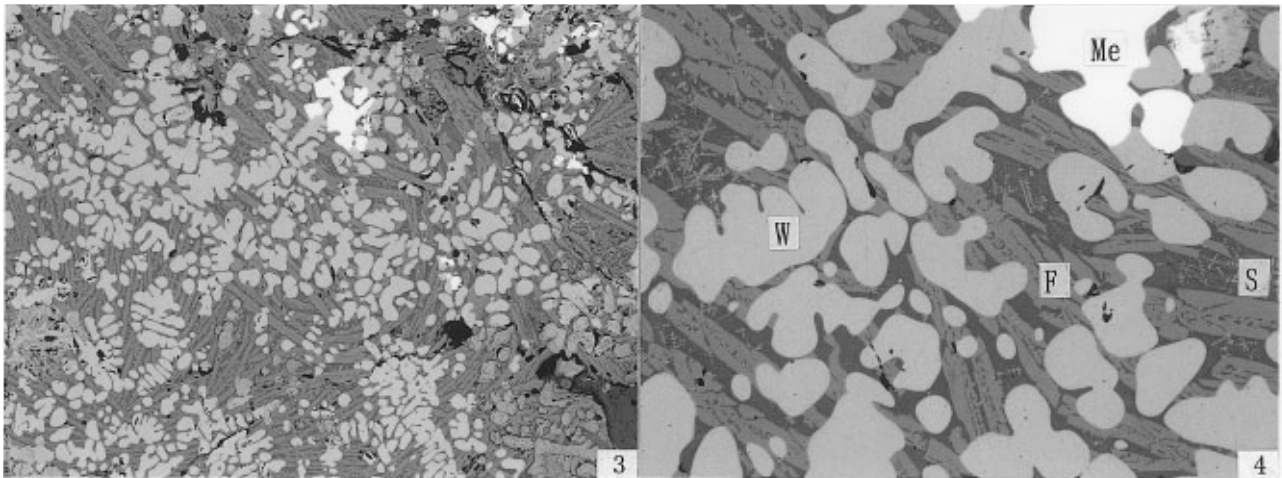
1mm : 2
 200 μm : 3
 50 μm : 4

図版9 SK - 03 椀形鍛冶滓(含鉄)の外観と断面組織



1 : 外観

2 : 断面マクロ組織



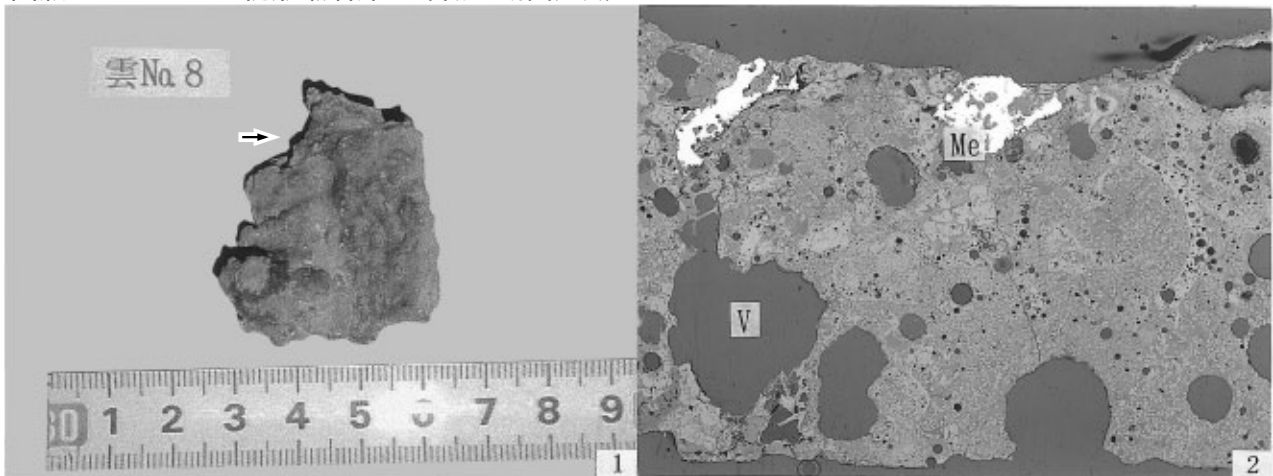
3 : 断面ミクロ組織

4 : 断面ミクロ組織

Me : 金属鉄 . W : ウスタイト . F : ファヤライト . S : 非晶質珪酸塩 . V : 空孔
矢印は試料採取箇所を示す。

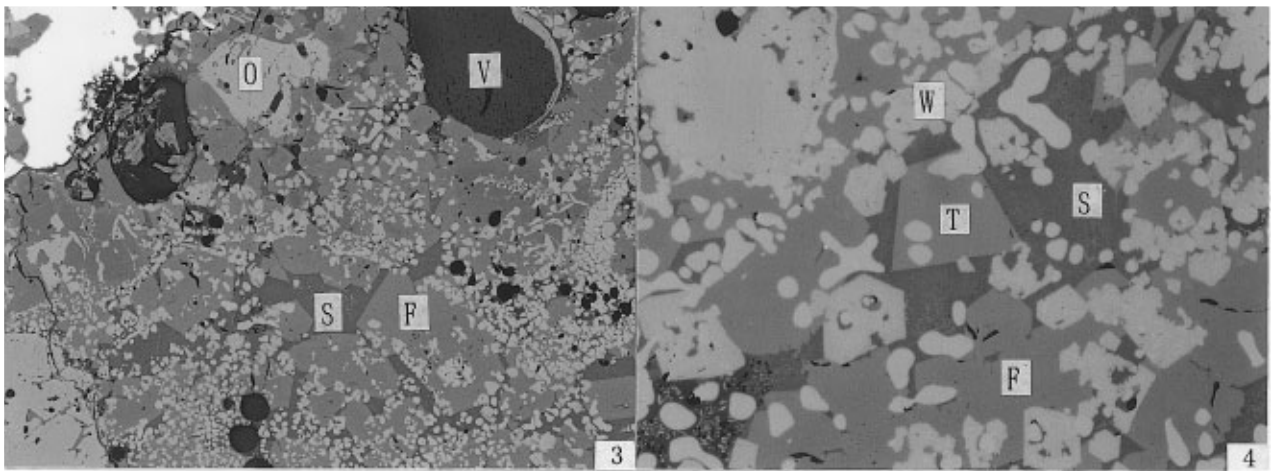
1mm : 2
200 μm : 3
50 μm : 4

図版10 SK - 03 椀形鍛冶滓の外観と断面組織



1 : 外観

2 : 断面マクロ組織



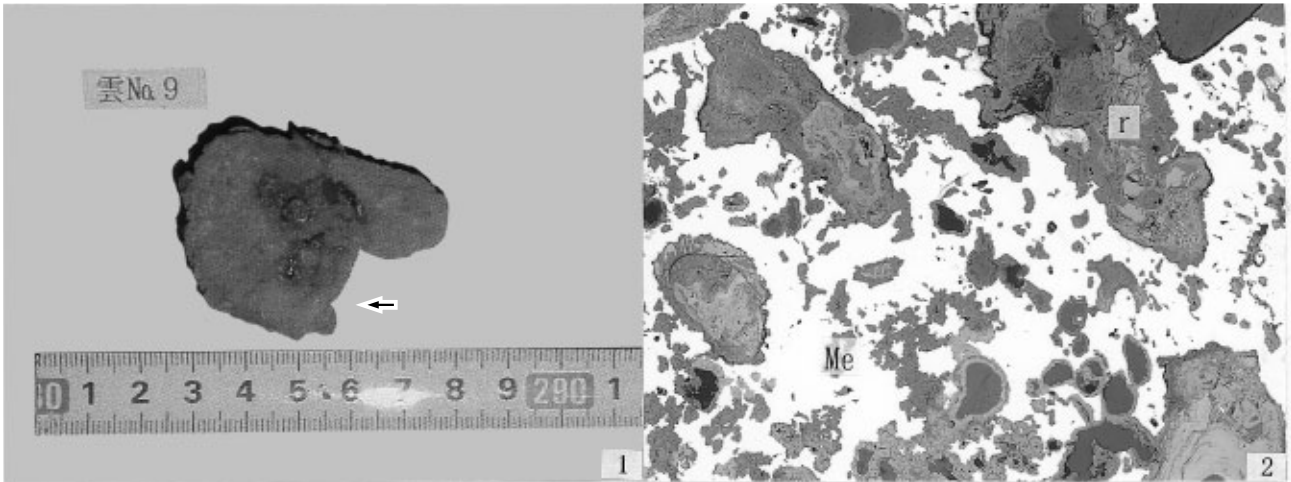
3 : 断面ミクロ組織

4 : 断面ミクロ組織

Me : 金属鉄 . W : ウスタイト . T : チタン化合物 . F : ファヤライト .
 S : 非晶質珪酸塩 . O : 粉鉄鉱 . V : 空孔
 矢印は試料採取箇所を示す。

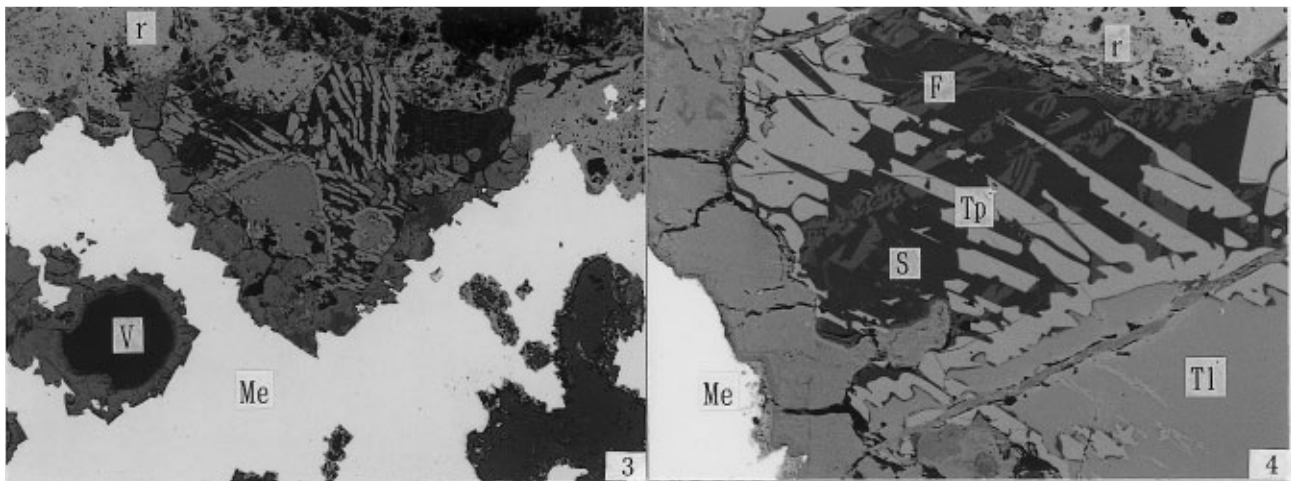
1mm : 2
 200 μm : 3
 50 μm : 4

図版11 SI - 06 7層 含鉄鉄滓の外観と断面組織



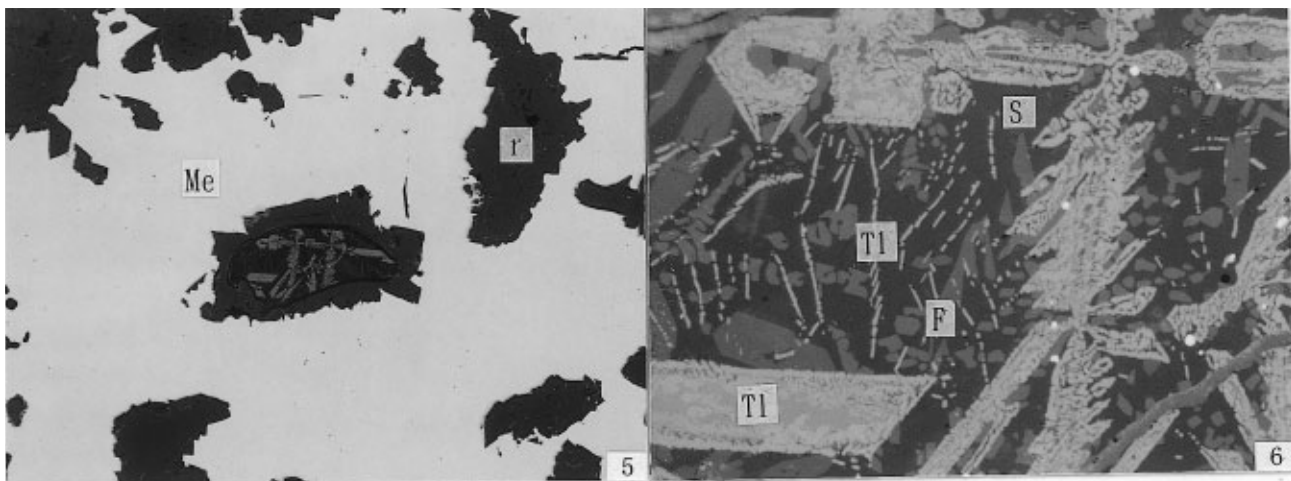
1 : 外観

2 : 断面マクロ組織



3 : 断面ミクロ組織

4 : 断面ミクロ組織

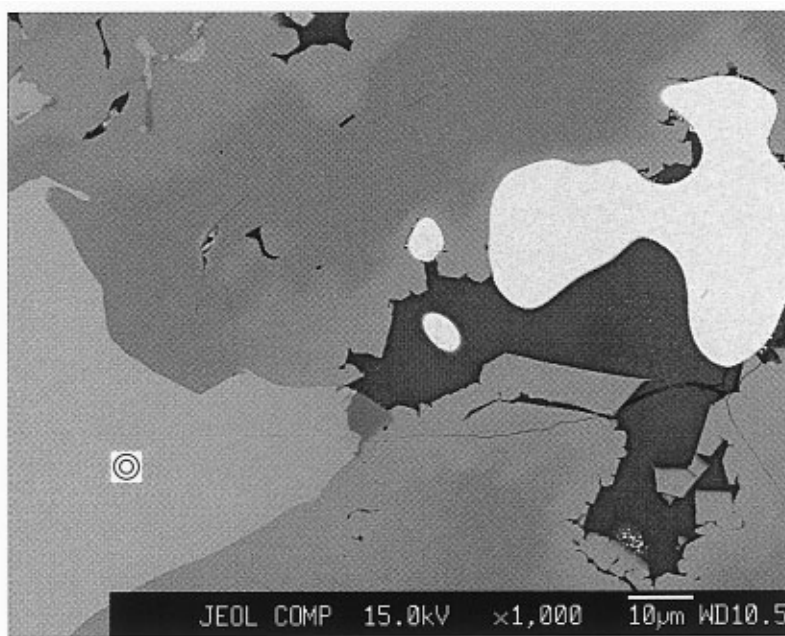


3 : 中央断面ミクロ組織

4 : 中央断面ミクロ組織

Me : 金属鉄 . T1 : イルメナイトに近い化合物 . Tp : ヌードブロッカイトに近い化合物 .
 F : ファヤライト . S : 非晶質珪酸塩 . r : 鉄錆 . V : 空孔
 矢印は試料採取箇所を示す。

1mm : 2
 200μm : 3
 50μm : 4



装置：JXA-8100

加速電圧(kV)：15.00
 写真倍率 x860
 画像：COMP

測定日：2002-03-06

印は分析箇所

写真〔雲谷山吹No.1〕の反射電子像

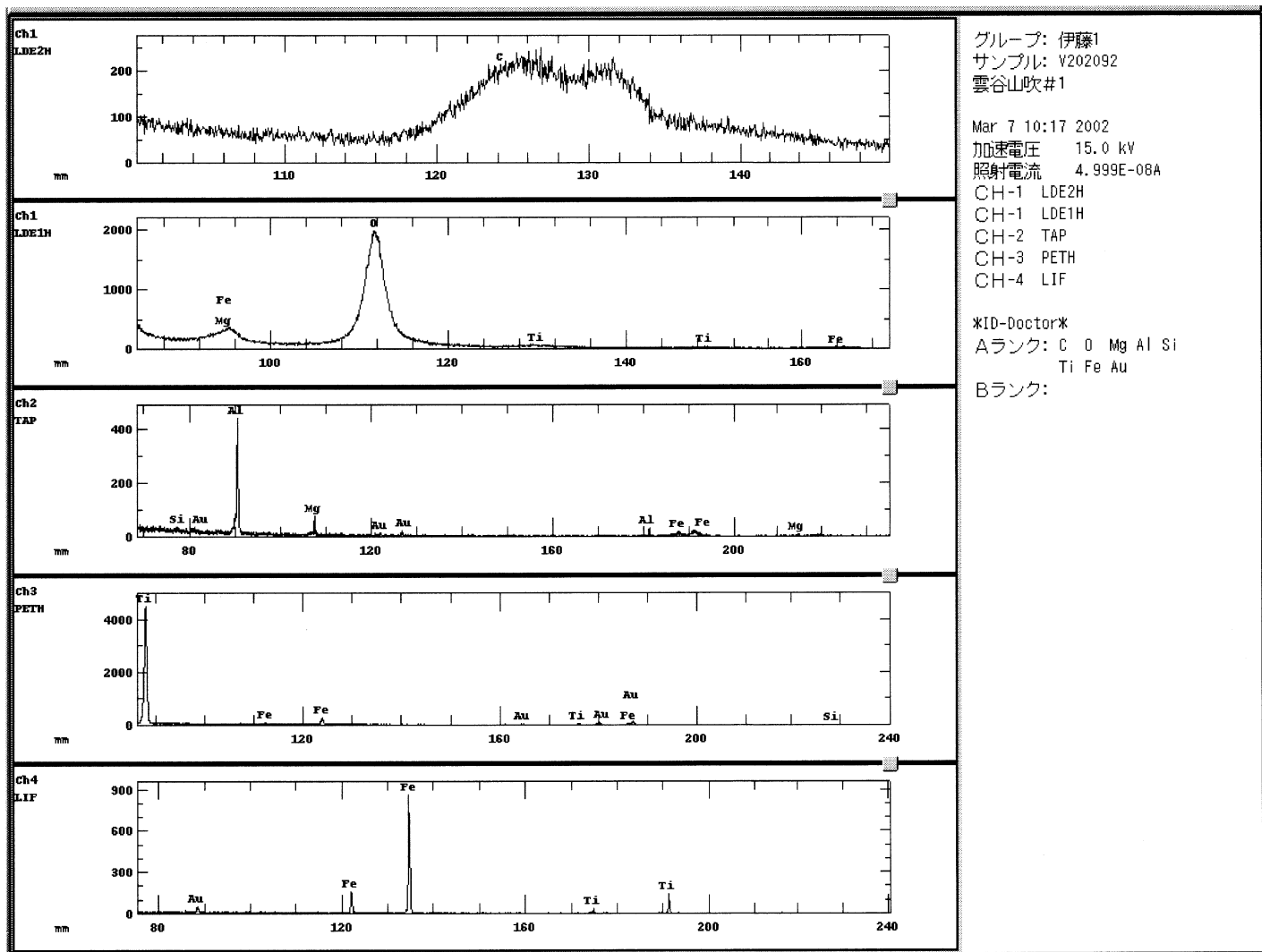


図5 SI - 09内 SN2層 椀形鍛冶滓のEPMA定性分析結果

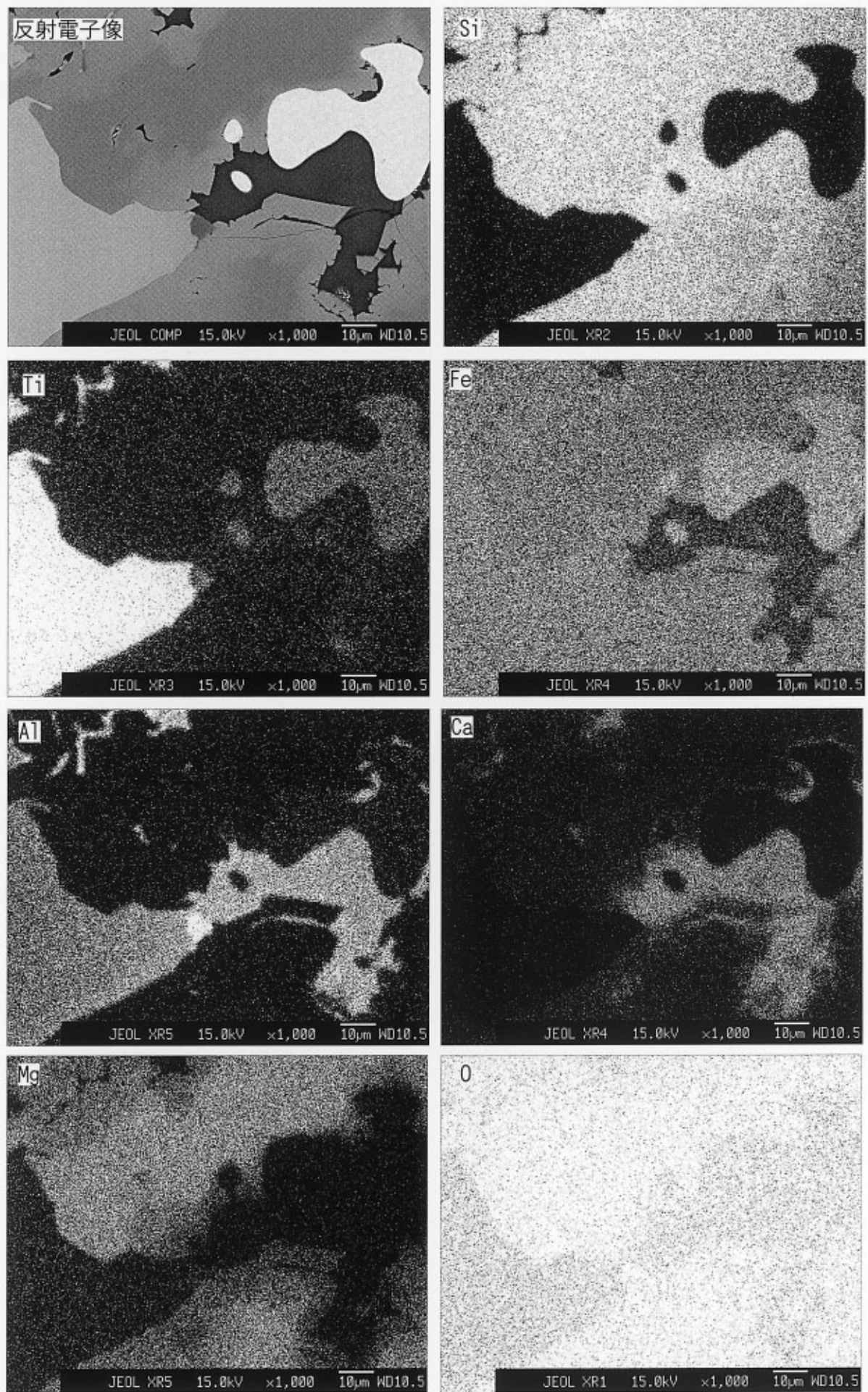


図6 SI - 09内 SN2層 椀形鍛冶滓のEPMAによる元素分布像

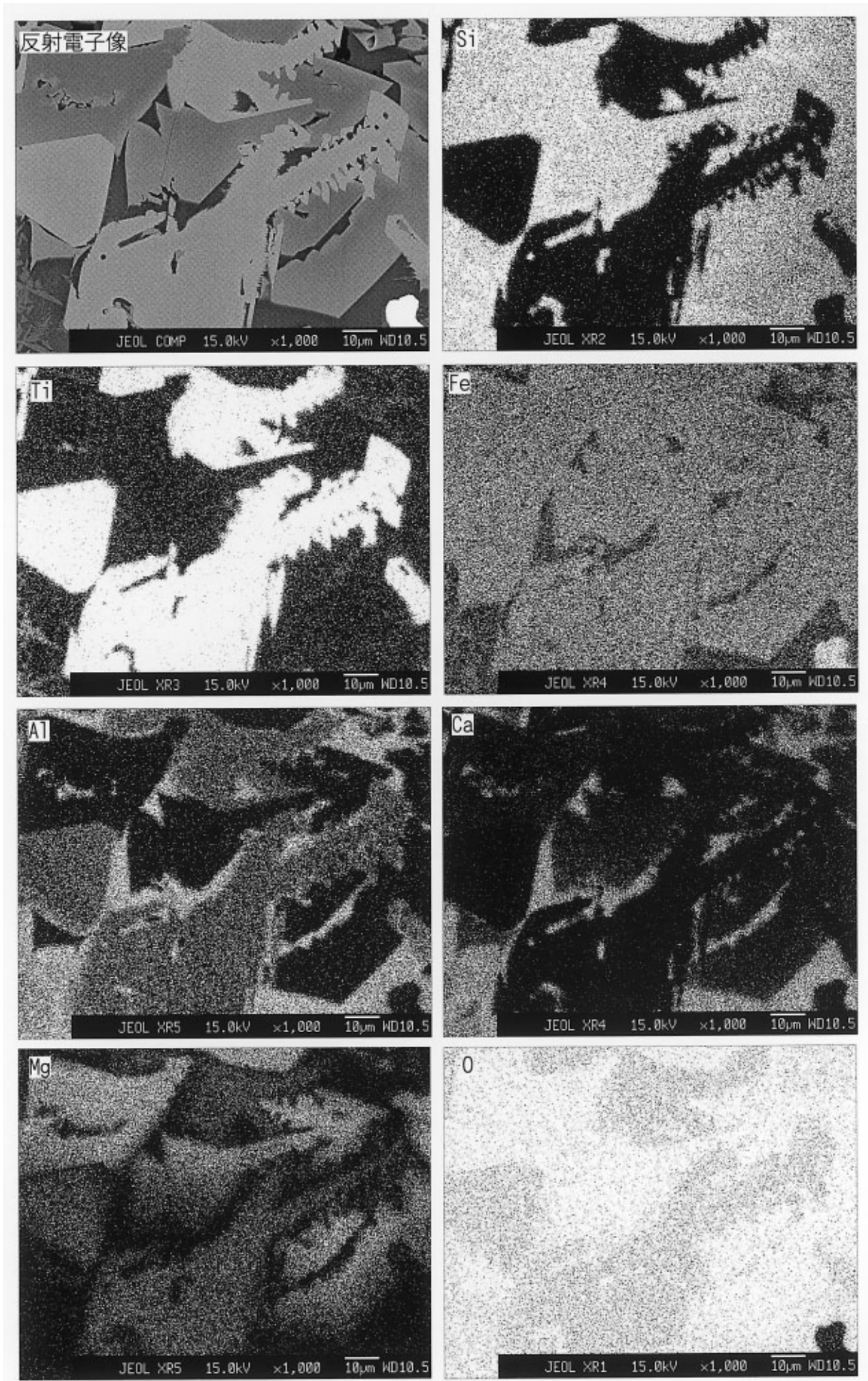
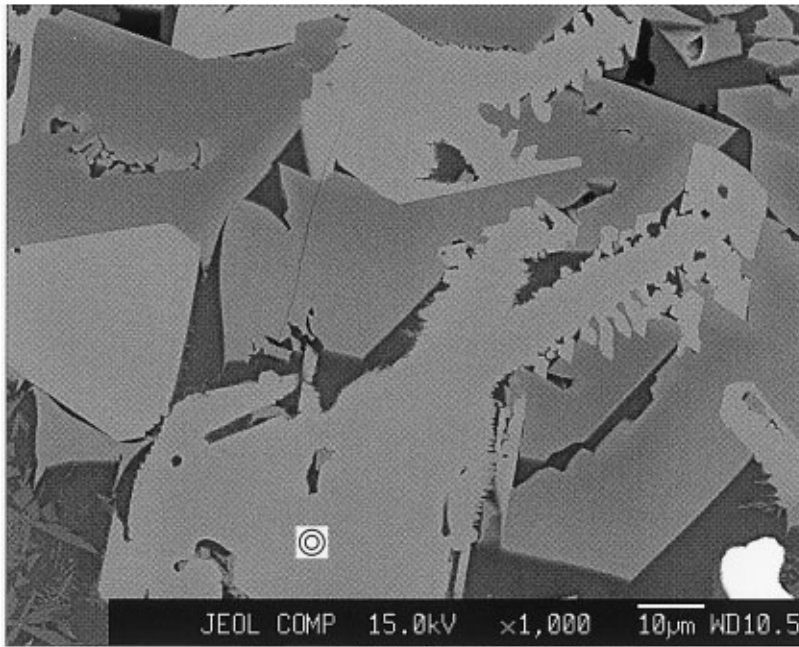


図7 SI - 02 SN2層 流動滓のEPMAによる元素分布像



写真〔雲谷山吹No.6〕の反射電子像

装置：JXA-8100

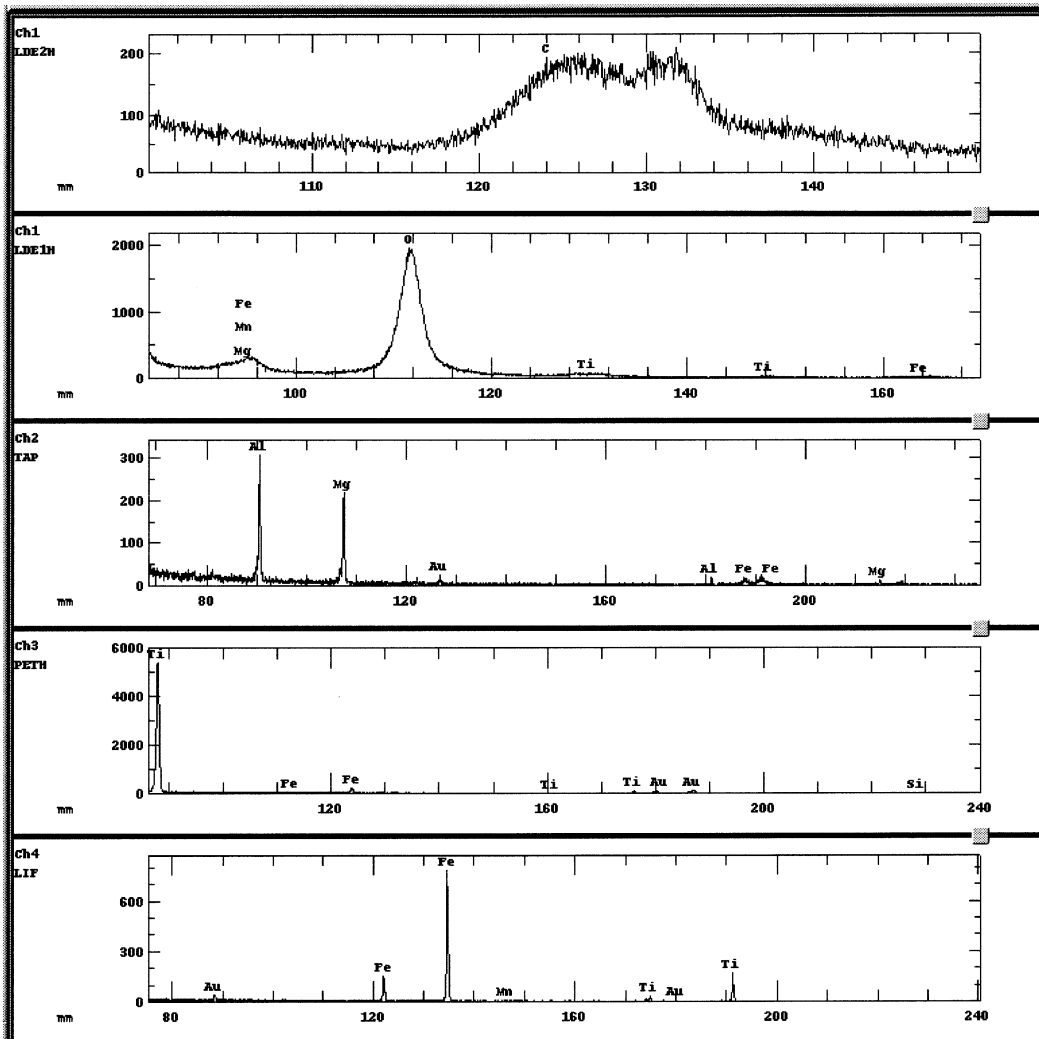
加速電圧(kV)：15.00

写真倍率 x860

画像：COMP

測定日：2002-03-06

印は分析箇所

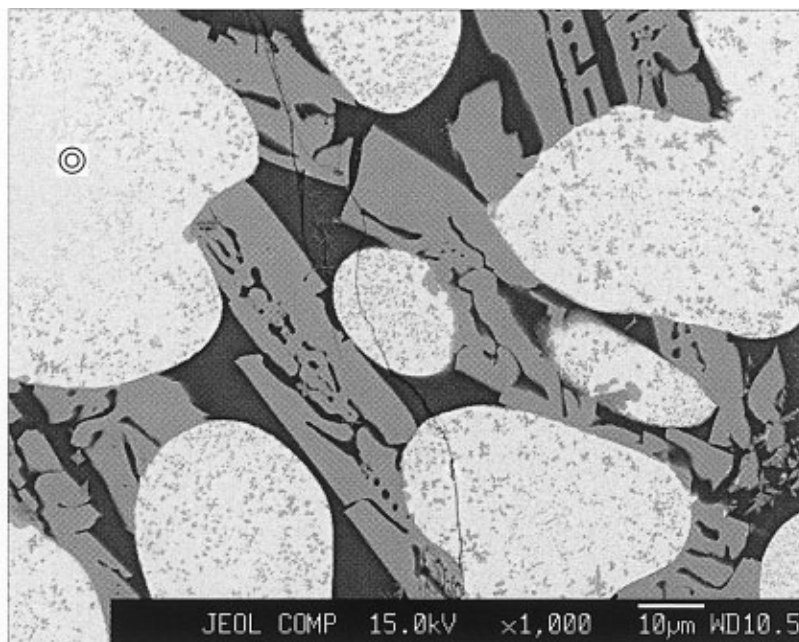


グループ: 伊藤1
サンプル: V202092
雲谷山吹#6

Mar 7 10:06 2002
加速電圧 15.0 kV
照射電流 4.999E-08A
CH-1 LDE2H
CH-1 LDE1H
CH-2 TAP
CH-3 PETH
CH-4 LIF

ID-Doctor
Aランク: C O Mg Al Si
Ti Mn Fe Au
Bランク:

図8 SI - 02 流動滓のEPMA定性分析結果



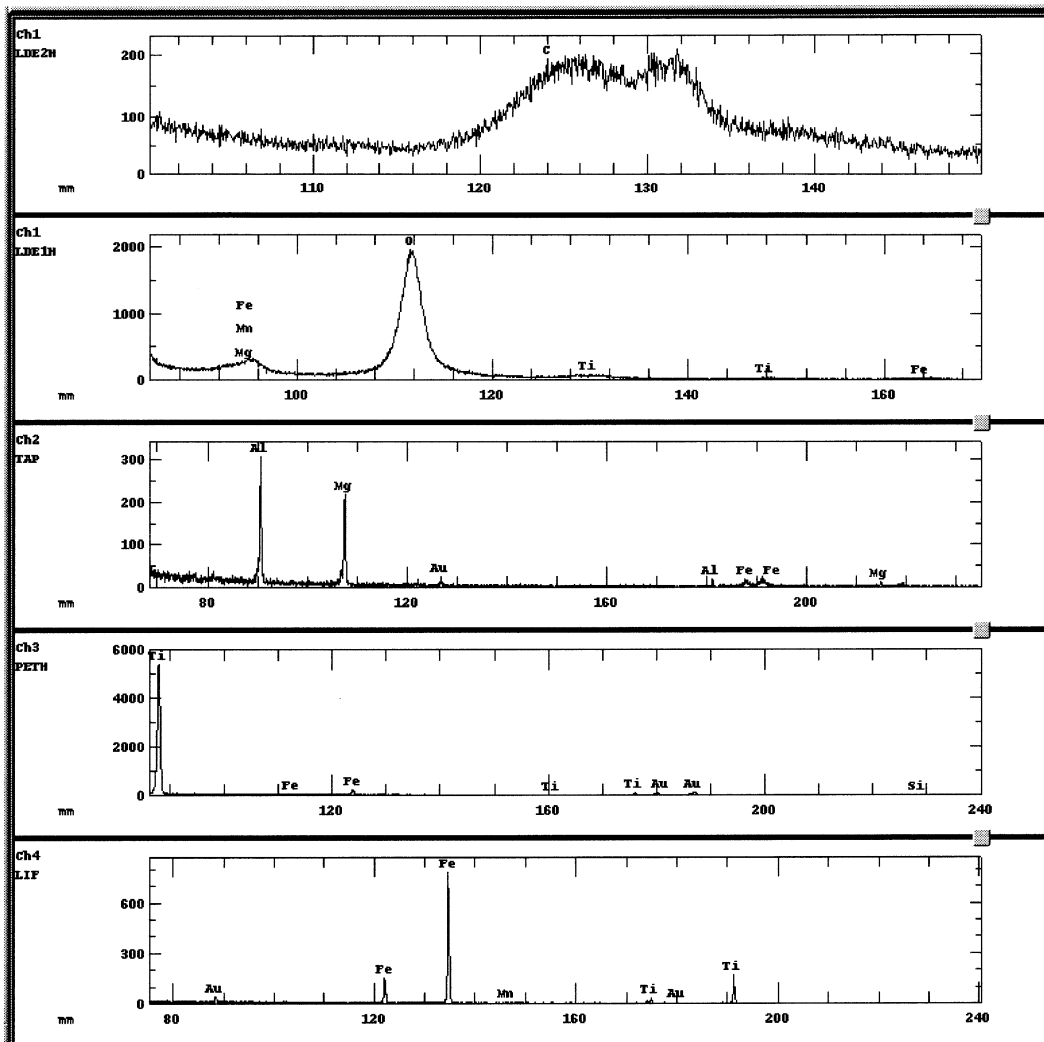
装置：JXA-8100

加速電圧(kV)：15.00
 写真倍率 x860
 画像：COMP

測定日：2002-03-06

印は分析箇所

写真〔雲谷山吹No.7〕の反射電子像



グループ: 伊藤1
 サンプル: V202092
 雲谷山吹#6
 Mar 7 10:06 2002
 加速電圧 15.0 kV
 照射電流 4.999E-08A
 CH-1 LDE2H
 CH-1 LDE1H
 CH-2 TAP
 CH-3 PETH
 CH-4 LIF
 ID-Doctor
 Aランク: C O Mg Al Si
 Ti Mn Fe Au
 Bランク:

図9 SK - 03 椀形鍛冶滓(含鉄)のEPMA定性分析結果

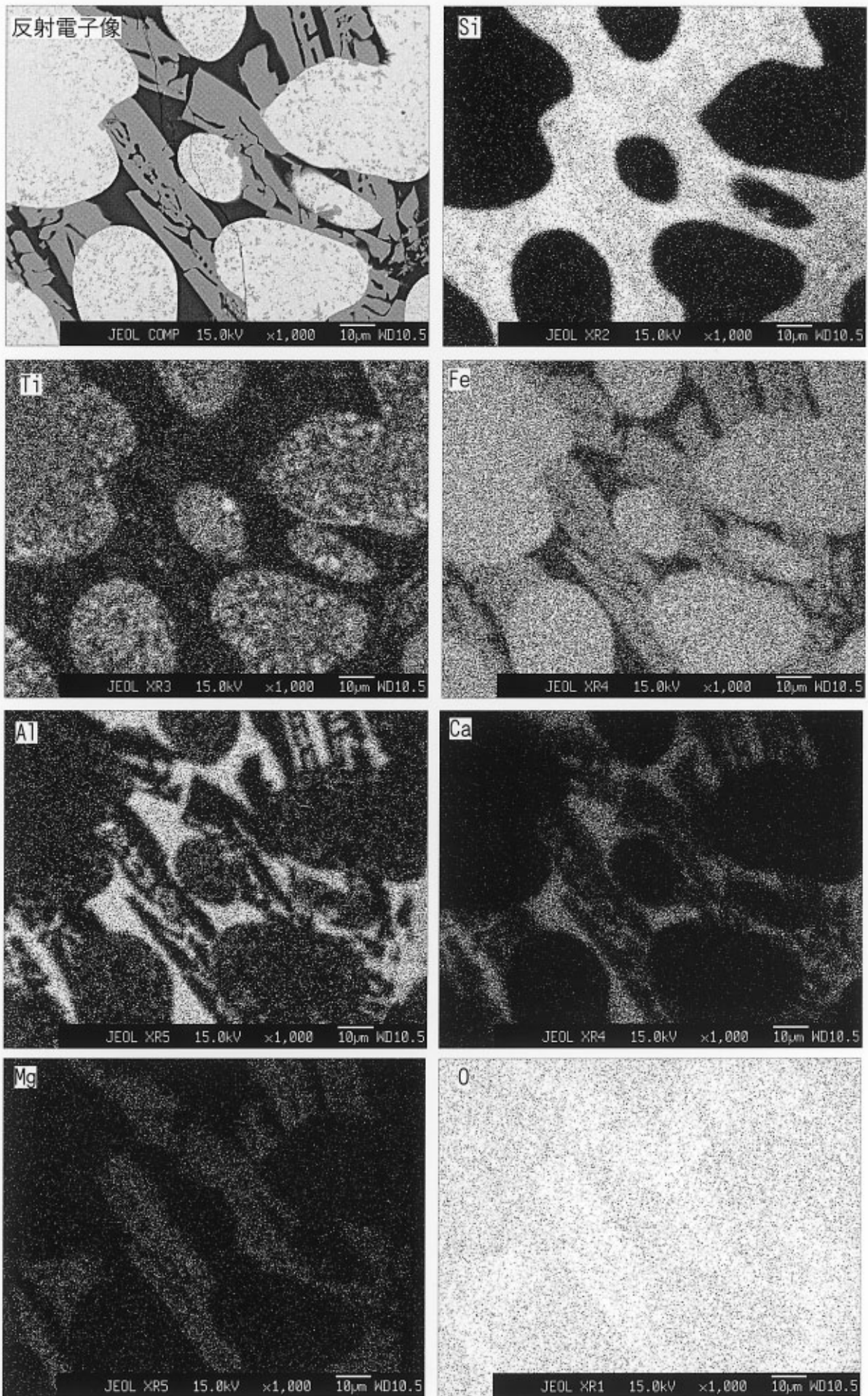
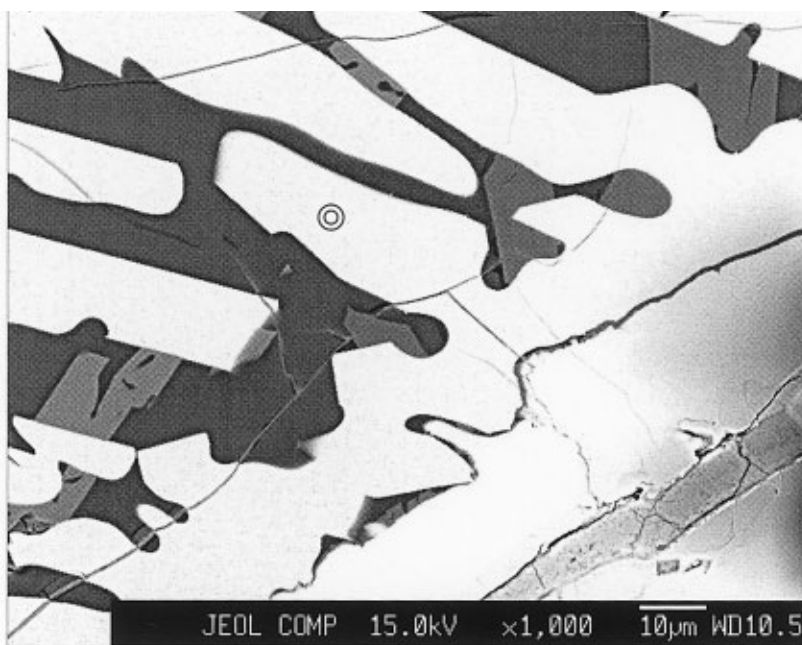


図10 SK - 03 椀形鍛冶滓(含鉄)のEPMAによる元素分布像



装置 : JXA-8100

加速電圧(kV) : 15.00

写真倍率 x860

画像 : COMP

測定日 : 2002-03-07

印は分析箇所

写真〔雲谷山吹No.9〕の反射電子像

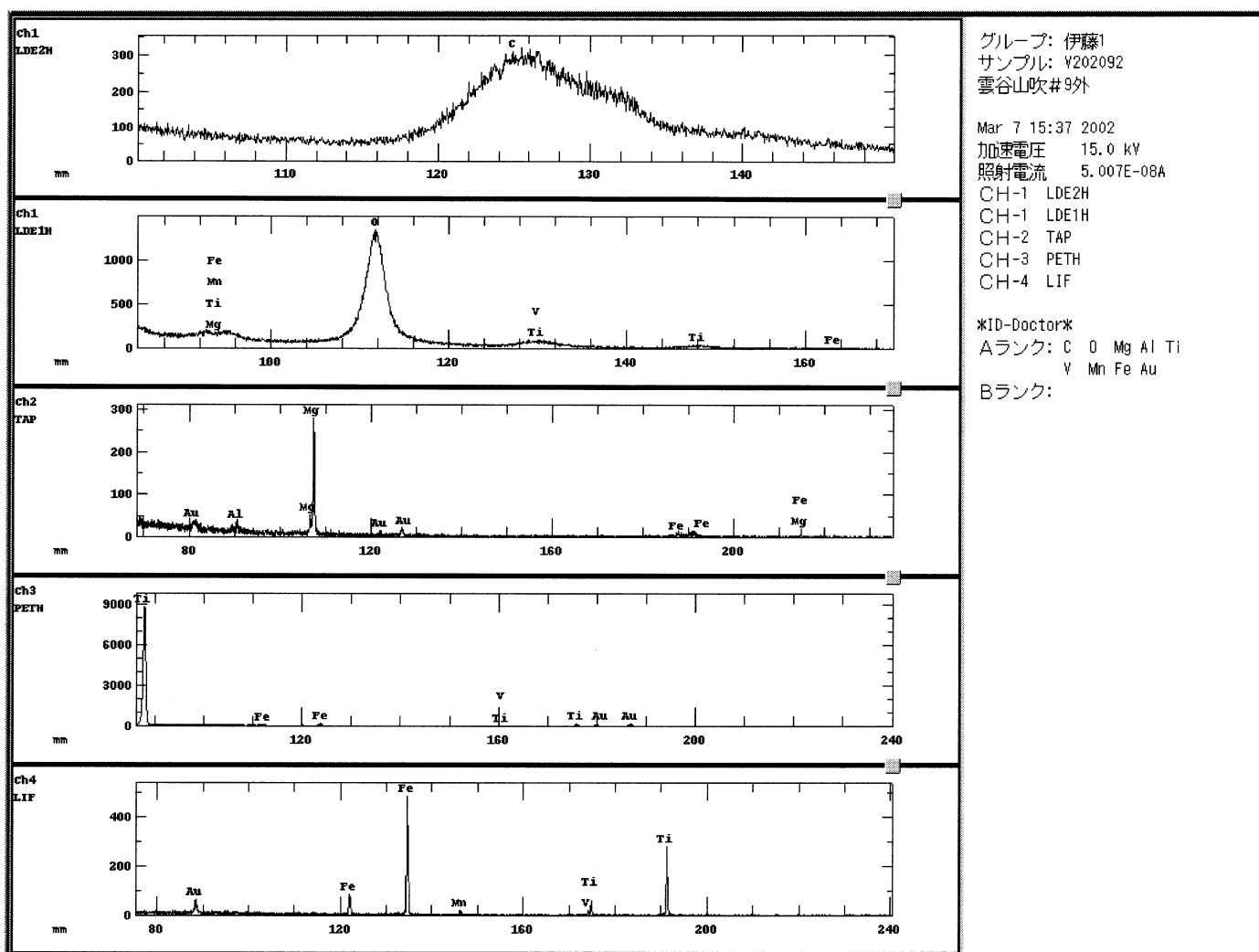


図11 SI - 06 7層 含鉄鉄滓(外)のEPMA定性分析結果

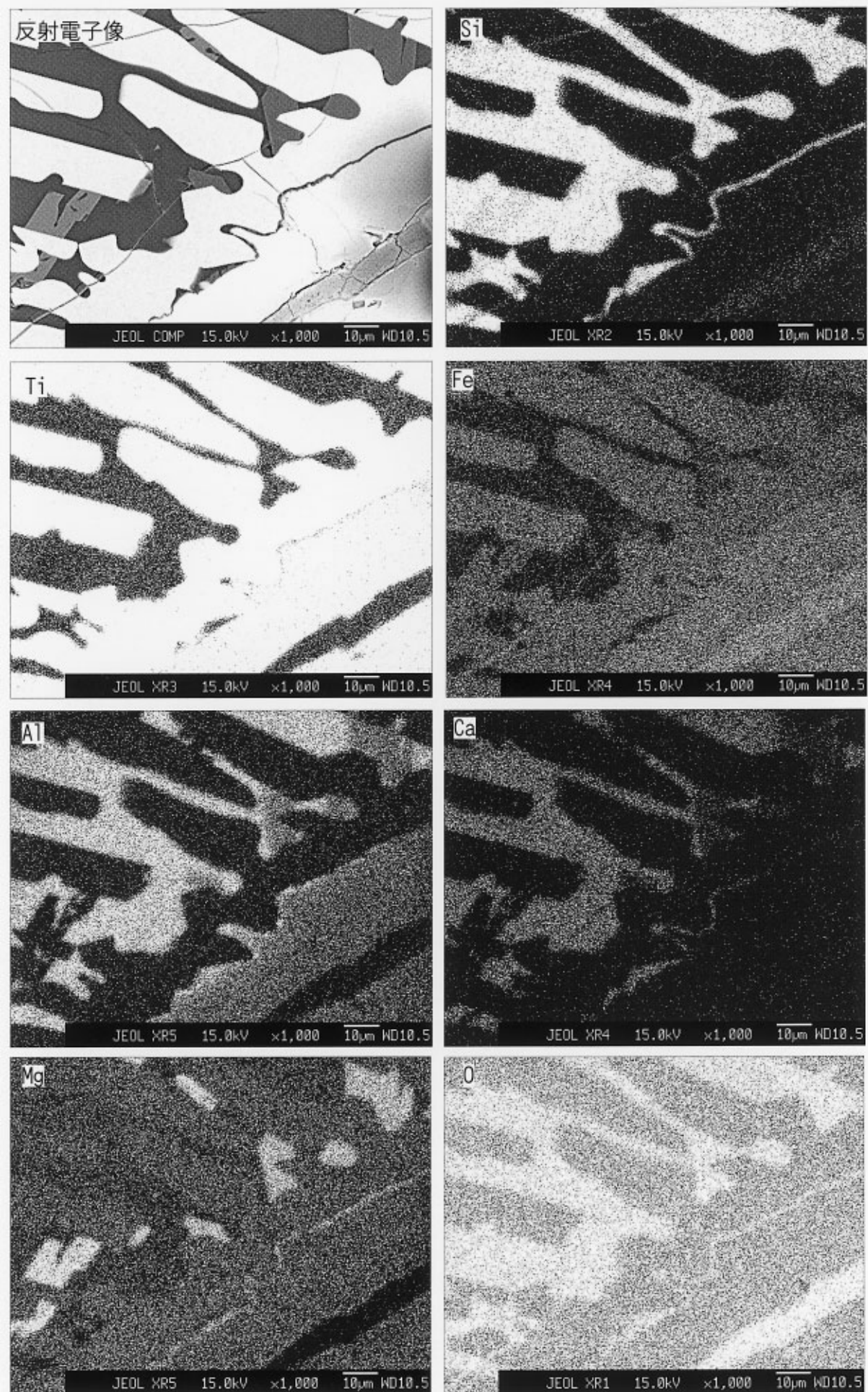
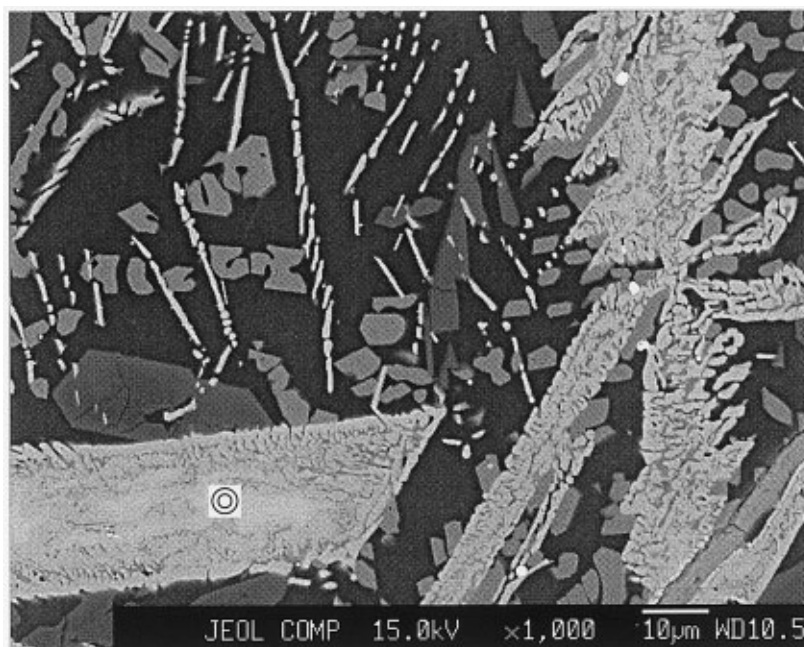


図12 SI - 06 7層 含鉄鉄滓(外)のEPMAによる元素分布像



装置：JXA-8100

加速電圧(kV)：15.00
 写真倍率 x860
 画像：COMP

測定日：2002-03-07

印は分析箇所

写真〔雲谷山吹No.9 中央〕の反射電子像

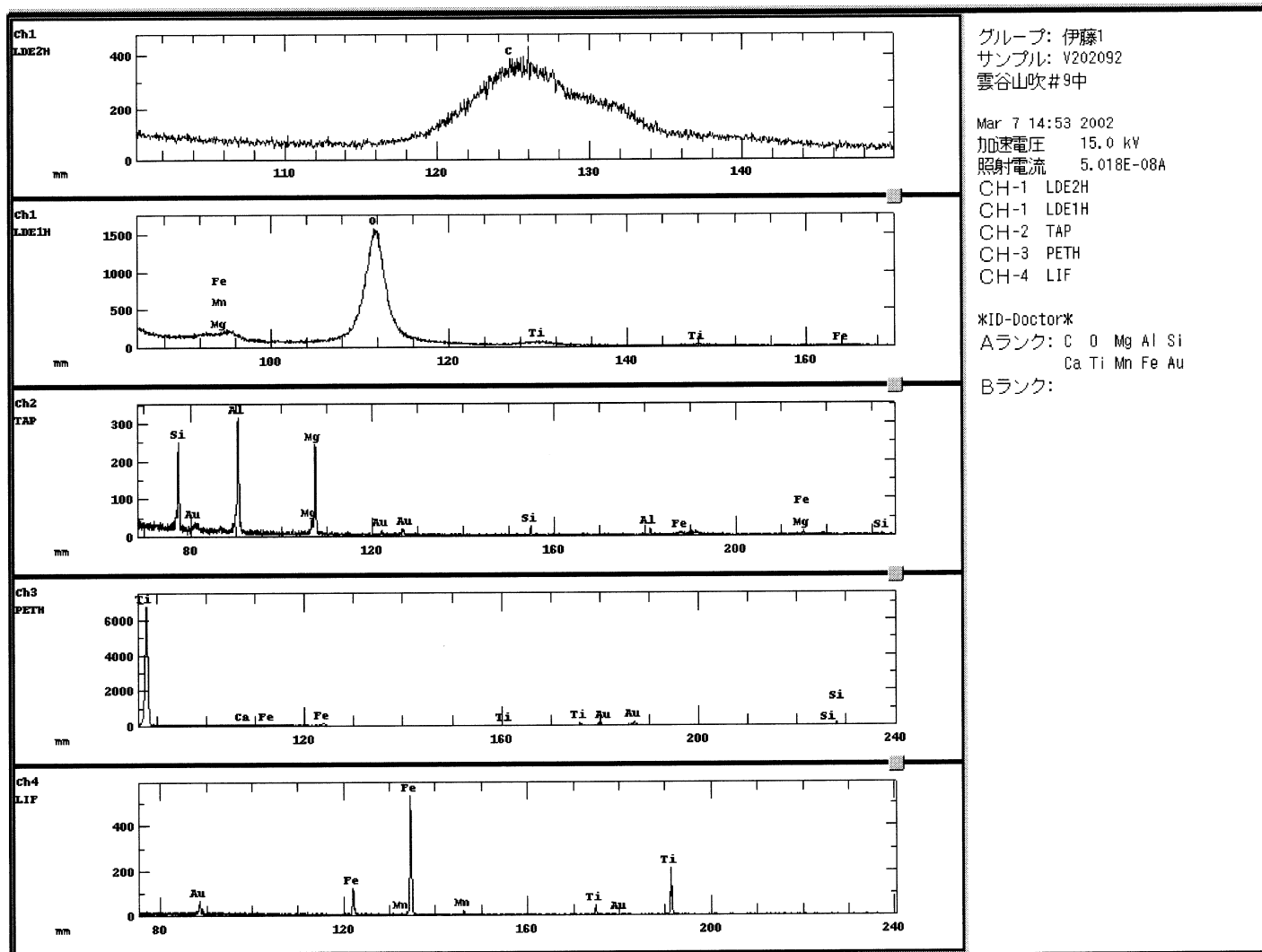


図13 SI - 06 7層 含鉄鉄滓(中央)のEPMA定性分析結果

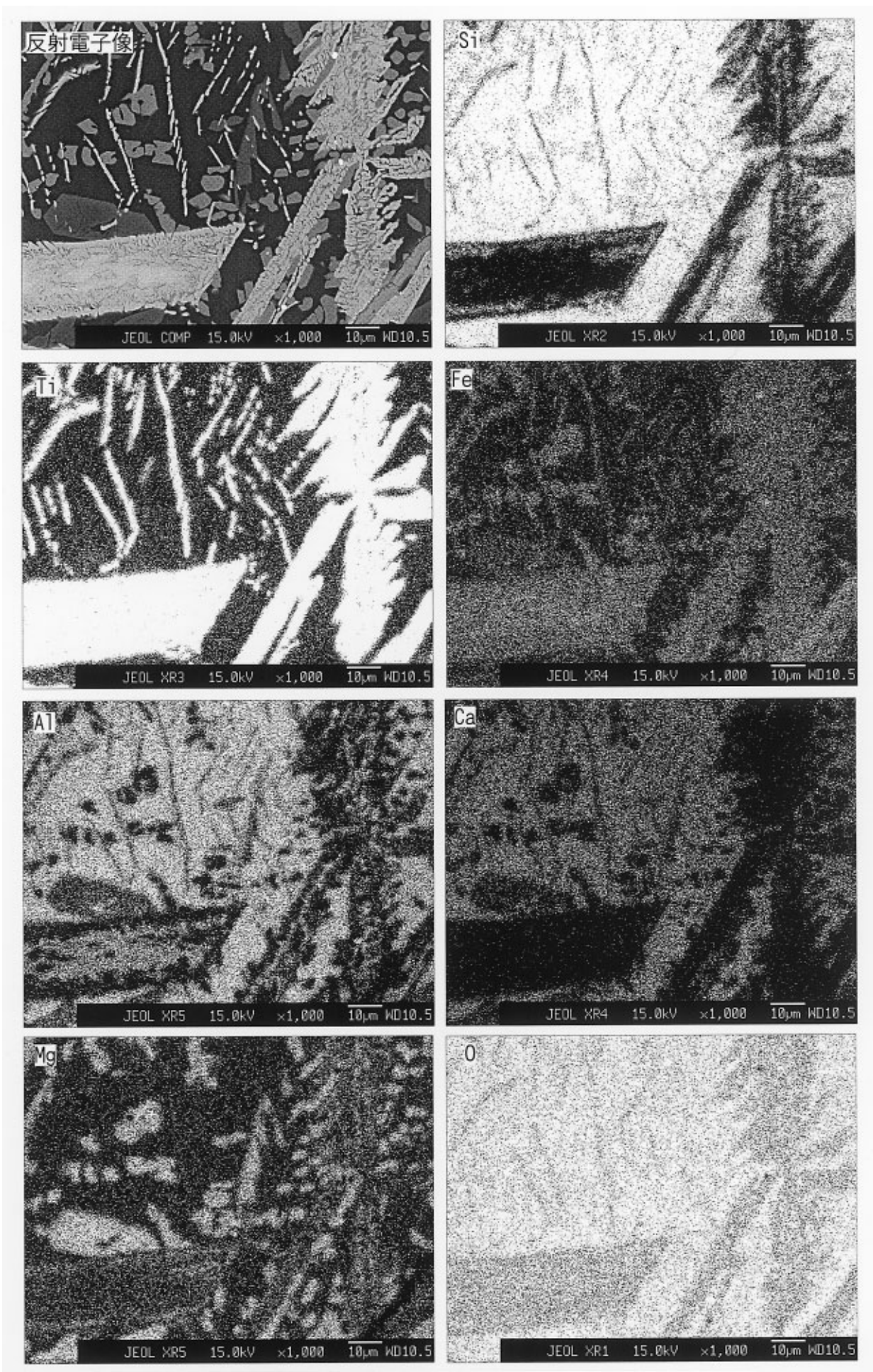


図14 SI - 06 7層 含鉄鉄滓(中央)のEPMAによる元素分布像

第 2 節 雲谷山吹遺跡出土土師器、須恵器の蛍光 X 線分析

大谷女子大学教授 三 辻 利 一

1) はじめに

三重県伊勢市にある斎宮の近くに北野遺跡がある。この遺跡は土師器の大規模な生産遺跡であり、200基を越える土師器窯跡が発見されている。全国で見つけられている土師器窯跡の大半がこの北野遺跡の窯跡である。これらの窯跡から出土した土師器片を大量に分析した結果、K - Ca、Rb - Srの両分布図上にまとめて分布することがわかった。このことから須恵器生産の場合と同様に、土師器の集中生産でも素材粘土は一定の場所ですべて採集していることがわかった。これに対して、一般の消費地遺跡から出土する土師器の分析データは両分布図上ではまとまらず、やや、ふやけた状態で分布する。このことは消費地遺跡へは何ヶ所かの生産遺跡で作られた土師器が供給されていたことを示す証拠であると考えられる。とくに、軟質土器である土師器は比較的手軽に作られたと考えられるから、土師器の製作地は多数あったと推察される。このことから、消費地遺跡から出土した土師器の産地問題を研究するには元素分析による方法だけでなく、土器形式はもちろんのこと、鉱物観察の結果も踏まえて総合的に考察するほうがより適切であると考えられる。ただ、元素分析はこれまでに出版されている窯跡出土須恵器の大量の分析データを参考にすることによって、消費地遺跡から出土した土師器の産地について比較的簡単に大筋の情報が引き出せるという利点がある。まず、土師器の胎土を元素分析してみる、それが現時点での土師器の胎土研究の方法であろう。以下に、この方法で雲谷山吹遺跡から出土した土師器の蛍光 X 線分析の結果について報告する。

2) 分析結果

今回分析した土師器の分析データを表 1 にまとめてある。全分析値は同時に測定した岩石標準試料、JG - 1 の蛍光 X 線強度を使って標準化した値で示してある。この値を使ってすべてのデータは解釈される。

まず最初に、野木遺跡焼成坑から出土した土師器のうち、市道第 1 号竪穴遺構から出土した土師器の両分布図を図 1 に示す。両図とも、分析試料はよくまとめて分布しており、窯跡出土須恵器の場合と同様、同一素材粘土を使って製作した土師器であると考えられよう。今回分析した全試料を包含するようにして A 領域を描き、他の試料の胎土と比較するうえの対照領域とした。図 2 には野木遺跡焼成坑のうち、SK - 198 遺構出土土師器の両分布図を示す。A 領域に分布する試料はほとんどなく、胎土は異なることを示した。市道第 1 号竪穴遺構と SK - 198 遺構とは 800m ほどしか離れていないが、考古学的な考察から時代は異なると考えられている。前者は 10 世紀前半、後者は 9 世紀末 ~ 10 世紀初頭と推察されている。時代が異なれば当然、粘土の採集場所が異なるのが常識的であろう。図 1, 2 の比較からわかるように、両者の分布は明らかに異なるから、粘土の採集場所が別々であったことは間違いない。ただし、共通点がある。表 1 から、ともに Fe 量が多いことである。SK - 198 遺構の土師器を包含するようにして B 領域を描いた。しかし、図 2 で SK - 198 遺構の試料集団から若干、ずれて分布する No.50、53、63、64 の 4 点の試料は別物である可能性がある。とくに、No.63、64 は Fe 量が他の試料に比べて少ない点が注目される。

次に、図 3 には雲谷山吹遺跡出土土師器の両分布図を示す。大きく散在して分布することがわかる。このうち、No.5, 7, 8 の 3 点の試料は製作技法からみて在地産の土師器とは異なることが指摘されていた。この 3 点は両分布図上でもまとめて分布しており、同一産地の製品である可能性は高い。そうだとすればこれら 3 点の土師器の分布位置は明らかに B 領域をずれる。もちろん、A 領域にも対応しないことは図 1, 2 と比較すれば分かる。表 1 を参考にすれば、Fe 量では野木遺跡の焼成坑のものと同じであるが、K、Ca、Rb、Sr の 4 因子では異なることになる。さらに注目されるのは、残りの試料はすべて、B 領域には分布しないことである。そして、重要なポイントはこれらの試料の Fe 量は少なく、野木遺跡の

焼成坑のものには全く対応しない。すなわち、雲谷山吹遺跡の土師器はすべて、野木遺跡から供給されたものではなかったのである。これらがすべて同一産地の製品かということ、両分布図でのバラツキの大きさからみて、二つ以上の集団が混ざっていると推察されるが、現時点ではその解釈は困難である。

図4には野木遺跡の遺構内および、新町野遺跡から出土した土師器の両分布図を示す。大きくばらついて分布しており、いくつもの産地からの土師器が混ざっていることを明示している。両分布図でB領域に対応するものがほとんどない点が注目される。これらの土師器も野木遺跡で作られた土師器ではなく、外部地域から持ち込まれた土師器である。表1の分析データから、これらの試料にはFe量が少ない点もこの推察を支持している。

図4のバラツキは図3の雲谷山吹遺跡の土師器のバラツキよりもさらに大きい。No.69、75、78の3点の試料のバラツキは一際大きい。いずれも、外部地域からの搬入品と推察される。No.72、74、76、77、79、80の6点の試料はとくに、Fe量の少ない白色系の土器である。野木遺跡の製品とは到底考えられない。これらを除いたとしても、残りの試料の胎土は一色にはならない。複数の胎土の土師器が混ざっていることが図4から伺われる。新町野遺跡の土師器のうち、No.81、82は同じ胎土の土師器である可能性が高い。しかし、No.83は別胎土である可能性がある。3点ともFe量は少なく、野木遺跡で作られた土師器ではない。

このように、野木遺跡の生産遺構ではない遺構から出土した土師器の胎土は意外にも、野木遺跡の焼成遺構から出土した土師器の胎土とは異なったのである。しかも、その内容は複雑で、いくつもの生産地から供給された土師器であることがK - Ca、Rb - Srの両分布図とFe量から推察された。この解釈はここであわせて結論を出すよりも、今後の研究の発展を待ちたい。

なお、元素分析の結果と鉱物分析の結果の対応は簡単ではない。例えば、雲谷山吹遺跡の土師器の例をとってみると、骨針が多く含まれるというNo.5の試料にとくに、Ca量が多いかということ必ずしも、そうではない。また、砂の含有量が多いというNo.1、2、11、14、15、19、23にはSr量が多いが、砂の含有量が少ないというNo.17、18、20の試料にもSr量が多いということで、砂の含有量とSrの含有量の間にも必ずしも共通性は認められない。現時点ではまだ、対比することはできない。今後の問題であろう。

最後に、雲谷山吹遺跡出土須恵器の分析データに触れる。分析値は表2にまとめられている。このデータにもとづいて作成した両分布図を図5に示す。G、H、Iの3点の試料を除いて他の試料は野木遺跡のB領域に分布することが注目される。まず、五所川原窯群に帰属するかどうかをみるために、 D^2 (五所川原)をK、Ca、Rb、Srの4因子を使って計算した。 D^2 (五所川原) < 10が五所川原窯群へ帰属するための必要条件である。まず、この帰属条件を満足しない限り、五所川原窯群の製品とはいえない。表2をみると、この帰属条件を満足しない試料はG、H、Iの3点である。これら3点の試料は五所川原窯群の製品ではない。同時にこれらの試料にはFe量が少ない点も注目される。Fe量からみても、これら3点の須恵器は五所川原窯群の製品ではない。外部地域からの搬入品である。とくに、GとHは両分布図でも近接して分布しており、同じ窯の製品と推定される。しかも、K、Rb量が比較的多いという点を考慮に入れると、東北地方太平洋側の製品ではなく、日本海側の生産地の製品と推察される。FもFe量が少ない試料であり、外部からの搬入品である可能性が高い。これらを除くと、奇妙なことに、他の試料はB領域に分布することである。もし、野木遺跡で須恵器を焼成した可能性があるとする、これらの須恵器は野木遺跡の製品である可能性がでてくるのである。東北地方では9世紀代の製鉄遺跡で時折、須恵器窯跡が発見されており、これらの窯跡の製品は多分、外部へは供給せず、その遺跡の周辺で消費されたものと推察されていた。しかし、その証拠が見つかった訳ではなかった。今回のケ - スはそのような例に相当するのだろうか？興味深い問題である。

表1 土師器の分析データ

			重鉱物	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na
1	14 - 665		B	0.346	0.445	1.78	0.504	0.622	0.329
2	14 - 666		C	0.400	0.352	2.39	0.475	0.525	0.300
3(欠)	14 - 667								
4	14 - 668		C	0.367	0.302	2.30	0.444	0.497	0.236
5	14 - 669		H	0.333	0.274	3.72	0.335	0.377	0.229
6(欠)	14 - 670								
7	14 - 671		H	0.301	0.189	3.14	0.363	0.322	0.159
8	14 - 672		G	0.229	0.200	3.38	0.304	0.323	0.167
9	14 - 673		G	0.430	0.234	2.43	0.571	0.459	0.196
10(欠)	14 - 674								
11	14 - 675		C	0.374	0.308	2.84	0.457	0.562	0.268
12	14 - 676	粘土	I						
13	14 - 677			0.375	0.271	1.59	0.413	0.520	0.322
14	14 - 678			0.361	0.432	2.03	0.387	0.607	0.326
15	14 - 679			0.275	0.457	1.15	0.277	0.645	0.311
16	14 - 680			0.372	0.278	2.86	0.372	0.395	0.259
17	14 - 681			0.246	0.459	2.18	0.325	0.607	0.336
18	14 - 682			0.215	0.439	1.98	0.249	0.601	0.298
19	14 - 683			0.398	0.235	1.39	0.644	0.562	0.315
20	14 - 684			0.416	0.464	1.94	0.506	0.710	0.331
21	14 - 685			0.351	0.226	1.39	0.532	0.494	0.229
22	14 - 686			0.316	0.239	2.45	0.507	0.434	0.236
23	14 - 687			0.373	0.394	2.26	0.447	0.586	0.285
24	14 - 688			0.333	0.175	4.17	0.427	0.318	0.139
25	14 - 689			0.351	0.178	4.36	0.406	0.304	0.135
26	14 - 690			0.329	0.168	4.17	0.479	0.296	0.136
27	14 - 691			0.351	0.160	4.45	0.407	0.287	0.138
28	14 - 692			0.355	0.171	4.35	0.395	0.288	0.127
29	14 - 693			0.328	0.149	4.12	0.470	0.282	0.127
30	14 - 694			0.335	0.160	4.24	0.462	0.305	0.135
31	14 - 695			0.322	0.138	4.17	0.461	0.270	0.124
32	14 - 696			0.346	0.141	4.57	0.393	0.250	0.112
33	14 - 697			0.345	0.150	4.54	0.402	0.298	0.110
34	14 - 698			0.324	0.141	4.47	0.481	0.269	0.122
35	14 - 699			0.337	0.144	4.23	0.468	0.275	0.132
36	14 - 700			0.337	0.131	4.42	0.502	0.280	0.118
37	14 - 701			0.334	0.138	4.50	0.471	0.263	0.122
38	14 - 702			0.351	0.162	4.51	0.439	0.278	0.127
39	14 - 703			0.356	0.187	3.98	0.423	0.334	0.146
40	14 - 704			0.350	0.147	4.47	0.504	0.287	0.121
41	14 - 705			0.345	0.171	4.24	0.447	0.313	0.129
42	14 - 706			0.334	0.155	4.48	0.463	0.275	0.123
43	14 - 707			0.340	0.163	4.15	0.490	0.284	0.140
44	14 - 708			0.394	0.139	4.11	0.491	0.292	0.120
45	14 - 709			0.399	0.153	4.19	0.575	0.291	0.116
46	14 - 710			0.396	0.148	4.14	0.513	0.299	0.127
47	14 - 711			0.394	0.140	4.15	0.513	0.306	0.114
48	14 - 712			0.395	0.139	4.14	0.512	0.265	0.114
49	14 - 713			0.372	0.229	4.20	0.431	0.349	0.135
50	14 - 714			0.323	0.181	3.11	0.470	0.354	0.200
51	14 - 715			0.396	0.252	3.15	0.413	0.461	0.242
52	14 - 716			0.345	0.249	3.49	0.374	0.447	0.202
53	14 - 717			0.259	0.391	3.15	0.316	0.478	0.243
54	14 - 718			0.396	0.253	3.13	0.482	0.473	0.220
55	14 - 719			0.390	0.268	3.15	0.488	0.455	0.220
56	14 - 720			0.338	0.264	3.44	0.407	0.455	0.217
57	14 - 721			0.379	0.260	3.29	0.443	0.455	0.213

			重鋇物	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na
58	14 - 722			0.361	0.268	3.34	0.422	0.449	0.211
59	14 - 723			0.363	0.275	3.22	0.416	0.475	0.226
60	14 - 724			0.346	0.258	3.27	0.388	0.443	0.217
61	14 - 725			0.325	0.268	3.41	0.398	0.439	0.207
62	14 - 726			0.346	0.270	3.30	0.374	0.441	0.222
63	14 - 727			0.351	0.370	2.58	0.475	0.492	0.245
64	14 - 728			0.270	0.219	2.64	0.417	0.365	0.157
65	14 - 729			0.346	0.215	2.93	0.435	0.444	0.191
66	14 - 730			0.259	0.264	2.20	0.399	0.427	0.209
67	14 - 731			0.281	0.386	2.98	0.350	0.494	0.245
68	14 - 732			0.406	0.388	3.05	0.459	0.574	0.287
69	14 - 733			0.498	0.356	2.30	0.584	0.616	0.414
70	14 - 734			0.387	0.462	2.70	0.484	0.564	0.282
71	14 - 735	黒色土器	D	0.353	0.237	2.91	0.508	0.438	0.218
72	14 - 736	黒色土器	C	0.290	0.279	1.61	0.318	0.509	0.235
73	14 - 737	黒色土器	F	0.351	0.198	2.62	0.478	0.395	0.207
74	14 - 738		A	0.327	0.124	1.88	0.466	0.201	0.100
75	14 - 739		B	0.453	0.662	2.42	0.636	0.748	0.432
76	14 - 740		A	0.289	0.218	1.89	0.449	0.248	0.087
77	14 - 741		A	0.320	0.350	1.52	0.476	0.421	0.171
78	14 - 742		B'	0.522	0.212	3.25	0.696	0.356	0.235
79	14 - 743		E	0.297	0.244	1.73	0.359	0.480	0.195
80	14 - 744			0.336	0.209	1.33	0.453	0.489	0.216
81	14 - 745			0.369	0.343	3.06	0.301	0.485	0.205
82	14 - 746			0.296	0.397	2.68	0.355	0.547	0.223
83	14 - 747			0.304	0.193	2.44	0.400	0.343	0.240

表2 須恵器の分析データ

		K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	D(五所川原)
A	14 - 748	0.264	0.280	3.11	0.315	0.397	0.214	21.0
B	14 - 749	0.333	0.305	3.89	0.409	0.371	0.163	1.5
C	14 - 750	0.332	0.346	3.68	0.388	0.372	0.209	3.0
D	14 - 751	0.388	0.331	3.09	0.491	0.438	0.246	0.7
E	14 - 752	0.249	0.340	3.47	0.305	0.394	0.140	10.0
F	14 - 753	0.358	0.223	2.70	0.465	0.371	0.197	5.4
G	14 - 754	0.443	0.263	2.17	0.612	0.519	0.295	16.0
H	14 - 755	0.442	0.222	2.01	0.633	0.506	0.212	21.0
I	14 - 756	0.337	0.385	1.99	0.391	0.538	0.386	28.0
J	14 - 757	0.362	0.285	2.30	0.478	0.465	0.253	10.0
K	14 - 758	0.386	0.252	3.75	0.448	0.349	0.225	5.2
L	14 - 759	0.385	0.246	3.82	0.455	0.348	0.230	4.6
M	14 - 760	0.379	0.272	3.76	0.438	0.369	0.237	4.7
N	14 - 761	0.387	0.255	3.74	0.445	0.357	0.220	6.0
O	14 - 762	0.368	0.285	3.78	0.437	0.373	0.229	2.5
P	14 - 763	0.375	0.263	3.76	0.433	0.352	0.221	5.0
Q	14 - 764	0.283	0.315	4.15	0.321	0.360	0.150	8.6

表3 土師器観察表

番号	住居名	種別	層位	実測者番号	礫	砂	骨	赤	観察所見	結果	備考
1	SI - 05	土師器椀	覆土P - 44・47	D - 7	微	中	-	多	2mm程度の浮石粒が微量混入、バサバサした質感あり、石英が多量に混入している。		重鉱物組成B類
2	SI - 05	土師器椀	竈2覆土6P - 10 竈2覆土4P - 11	D - 6	微	中	-	少	やや粘りあり、石英が主体を占め、針状輝石が含まれる。また、浮石粒と輝石が微量含まれる。		重鉱物組成C類
3	欠番										
4	SI - 08	土師器椀	P7覆土1P - 2・3・6・7・8・13・14	D - 34	微	少	-	多	やや粘りあり、石英が主体を占める。		重鉱物組成C類
5	SI - 08	土師器椀	覆土6P - 31、床直P - 116	D - 31	少	少	多	中	ザラザラした質感がある。長石の粒状のものが多く含まれ、骨針が多量に含まれる。		重鉱物組成H類
6	欠番										
7	SI - 10	土師器椀 酸化焼成の須器の可能性有)	床直P - 51 - 54、P12覆土1P - 2・3	D - 43	微	少	-	多	よく水肥された胎。粒子のかなり細かな長石と赤色粒が観察される。		重鉱物組成H類
8	SI - 10	土師器椀	覆土1P - 6、覆土3P - 13 - 16、P20覆土1P - 2・3	D - 42	微	少	少	中	やや粘りあり、骨針が含まれる。		重鉱物組成G類
9	SI - 11	土師器椀	床P - 16、覆土P - X、覆土中層P - X、竈根P - X、遺構外包含層	O - 16	-	少	少	-	焼成はやや軟質、軽質な感がある。微粒の黒色油分が付着		重鉱物組成G類
10	欠番										
11	SI - 11	土師器椀	P7覆土4P - X、覆土4P - 43、覆土4下層(床)P - 17、床P - 15・16・18・19・20・57・71・72・73	O - 13	微	多	微	中	風化面が露出している状況にあるが、元々の胎はやや粘りがある。砂粒の混入量が多く、石英・輝石以外に火山性小礫が混入する。		重鉱物組成C類
12	SI - 11	粘土サンプル	床面下粘土						大谷火山灰層		重鉱物組成I類
13	SI - 03	土師器椀	竈覆土2CP - 5 - 7、竈トレンチ覆土3	O - 1	-	少	-	少	やや粘りあり、針状輝石・石英が含まれる。また、浮石が極微量含まれる。		
14	SI - 11	土師器椀	SN覆土3P - 39	O - 30	中	多	-	少	石英が微量含まれる。やや粘りがあるが、軽質な感を持つ。		
15	SI - 11	土師器椀	SN覆土3P - 36、SN覆土5P - 44	O - 14	微	多	-	微	石英が微量含まれる。ややザラザラした質感があり、軽質な感を持つ。		
16	SI - 11	土師器椀	SN覆土3P - 34・35、P1覆土3P - X	O - 11	-	少	-	少	長石、石英が主体を占める。焼成は硬質で、しまりがある。		
17	SI - 11	土師器椀	覆土7下(床)P - 27	O - 18	-	少	-	中	赤色粒、長石、石英が多く、バサバサした質感がある。		
18	SI - 11	土師器椀	覆土6P - 61・62	O - 17	-	少	-	少	粒子の細かい石英、赤色粒、長石を多量含み、ややザラザラした質感があり、軽質な感を持つ。		
19	SI - 04	土師器椀	覆土P - 18	Su - 12	-	中	-	少	やや粘りあり、石英、針状輝石、赤色粒を含む。		
20	SI - 06	土師器椀	P1覆土2P - 7	O - 52	微	少	-	少	風化が激しい資料。浮石と石英が含まれる。		
21	SI - 06	土師器椀	覆土2P - 9	O - 47	-	少	-	少	粒子の細かい石英、浮石、長石、火山小礫が含まれる。被熱資料であるため、詳細は不明であるが、やや粘りがあつたものと考えられる。		
22	SI - 08	土師器椀	覆土7P - 69・71	D - 24	微	少	-	中	針状輝石、石英、長石、浮石が含まれ、やや粘りがある。		
23	SI - 08	土師器椀	床直P - 114	D - 22	微	中	-	中	石英、針状輝石、赤色粒が含まれるが、ザラザラした質感を有する。		
24	市道野木1壺	土師器椀	覆土一括	参考資料	-	微	-	微	土師器焼成坑からの一括資料、粘りがあり、混入物は針状輝石、長石、石英、赤色粒が含まれる。44 - 48は生焼け品、前回の分析でH - 70が本資料と同一。前回の分析結果はC類		
25	市道野木1壺	土師器椀									
26	市道野木1壺	土師器椀									
27	市道野木1壺	土師器椀									
28	市道野木1壺	土師器椀									
29	市道野木1壺	土師器椀									
30	市道野木1壺	土師器椀									
31	市道野木1壺	土師器椀									
32	市道野木1壺	土師器椀									
33	市道野木1壺	土師器椀									
34	市道野木1壺	土師器椀									
35	市道野木1壺	土師器椀									
36	市道野木1壺	土師器椀									
37	市道野木1壺	土師器椀									
38	市道野木1壺	土師器椀									
39	市道野木1壺	土師器椀									
40	市道野木1壺	土師器椀									
41	市道野木1壺	土師器椀									
42	市道野木1壺	土師器椀									
43	市道野木1壺	土師器椀									
44	市道野木1壺	土師器椀									
45	市道野木1壺	土師器椀									
46	市道野木1壺	土師器椀									
47	市道野木1壺	土師器椀									
48	市道野木1壺	土師器椀									
49	市道野木1壺	土師器椀									

番号	住居名	種別	層位	実測者番号	礫	砂	骨	赤	観察所見	結果	備考
50	野木SK - 198	土師器椀									
51	野木SK - 198	土師器椀									
52	野木SK - 198	土師器椀									
53	野木SK - 198	土師器椀									
54	野木SK - 198	土師器椀									
55	野木SK - 198	土師器椀									
56	野木SK - 198	土師器椀									
57	野木SK - 198	土師器椀	床直一括	参考資料	微	少	-	微	別地点から検出した土師器焼成坑からの一括資料。やや粘りがあり、石英、浮石、赤色粒を含む。前回の分析でH - 77 - 85・87・88・91・92が同一。前回の分析結果はa類		
58	野木SK - 198	土師器椀									
59	野木SK - 198	土師器椀									
60	野木SK - 198	土師器椀									
61	野木SK - 198	土師器椀									
62	野木SK - 198	土師器椀									
63	野木SK - 198	土師器椀									
64	野木SK - 198	土師器椀									
65	野木SI - 108	土師器椀	SK - 7P - 15ほか	A - 288	微	微	-	微	やや粘りあり、石英、針状輝石、赤色粒を含む		野木図704 - 8
66	野木SI - 108	土師器椀	SK - 2フクP - 50・53	Y - 443	微	中	-	中	やや粘りあり、石英、浮石、赤色粒以外に火山性の少礫を含む。		野木図703 - 10
67	野木SI - 108	土師器椀	SK - 7フクP - 30ほか	Y - 447	微	中	-	少	石英、浮石粒が多く含まれる。バサバサした質感を有する。		野木図704 - 5
68	野木SI - 108	土師器椀	フクP - X	Y - 442	微	中	-	中	浮石粒が多く含まれる。ややバサバサした質感を有する。		野木図703 - 11
69	野木SI - 108	土師器椀	SK - 2フクP - 21ほか	A - 286	微	微	-	多	粒径の大きな赤色粒を多量含む。ややサラサラした質感を有する。		野木図704 - 2
70	野木SI - 108	土師器椀	SK - 7フクP - X	A - 287	-	中	-	微	針状輝石、石英、長石、浮石が含まれ、やや粘りがある。		野木図703 - 6
71	野木SI - 116	黒色土器椀	床P - 32	H - 254	微	中	-	-	焼成が不良気味。浮石粒が含まれ、やや粘りがある。		野木図825 - 9 D類
72	野木SI - 21	黒色土器椀	SK - 2底面P - 26	O - 614	微	少	-	少	石英、針状輝石、浮石粒、赤色粒が含まれ、やや粘りがある。		野木図641 - 10 C類
73	野木SI - 21	黒色土器椀	SK - 2フク土P - 32	O - 106	-	-	微	少	海綿骨針が含まれ、サラサラした質感を有する。水溶性の高い胎土で異地性が高い。		野木図641 - 12 F類
74	野木SI - 132	土師器椀	フク7層P - 8	O - 128	多	多	-	中	風化が激しい資料であるが、輝石、長石、石英、赤色粒が含まれる。		野木図721 - 11 A類
75	野木SI - 23	土師器椀	カマド覆土P - 105	O - 335	多	多	-	中	粒径の大きな浮石粒が多量含まれる。硬質で、やや軽々な感がある。		野木図644 - 11 B類
76	野木SI - 88	土師器甕	フク上層P - X	O - 424	中	多	-	少	煮沸具。やや粘りがある。砂礫を多く含む。		野木図687 - 3 A類
77	野木SI - 37	土師器甕	床P - 1、SK - 3フクドP - 7	O - 324	微	中	-	少	煮沸具。石英、赤色粒、輝石をやや多く含む。やや粘りがある。		野木図655 - 3 A類
78	野木SI - 245	土師器甕	フクドP - X	Y - 247	多	中	-	多	煮沸具。やや粘りがあり、川砂等が混入する。		野木図820 - 2 B類
79	野木SD - 20	黒色土器椀	フクド5層P - X	O - 613	微	少	少	少	海綿骨針がややサラサラした質感を有する。		野木図838 - 9 E類
80	野木SI - 227	土師器椀	床P - 3ほか	O - 582	微	少	-	微	焼成が軟質で、水肥された精緻な胎土。		野木図804 - 6
81	新町野21H	土師器椀	床直P - 2ほか	参考資料	微	中	-	微	やや粘りあり、針状輝石、石英、赤色粒が含まれる。また、浮石が極微量含まれる。		新町野図96 - 2
82	新町野19H	土師器椀	フクド4層P - X	参考資料	微	多	-	少	粒径の大きな赤色粒を多量含む。ザラザラした質感を有する。		新町野図87 - 2
83	新町野19H	土師器椀	床面	参考資料	微	少	-	微	粘りあり、粒子の細かい石英、輝石、長石を含む。		新町野図87 - 1

表4 須恵器観察表

番号	住居名	種別	層位	実測者番号	礫	砂	骨	赤	観察所見	分析	備考
A	SI - 08	須恵器杯	床直P - 111	D - 119	微	微	微	微	淡灰色。断面は淡褐色		図80 - 1
B	SI - 05	須恵器杯	覆土P - 28	D - 122	微	少	少	微	淡灰色。断面は淡褐色。粒径の大きな長石混入。		図67 - 2
C	SI - 05	須恵器杯	P8覆土1P - X	D - 123	微	少	少	微	濃灰色。粘りあり。粒径の大きな長石粒が混入。		図67 - 1
D	SI - 10	須恵器杯	床直P - 1ほか	D - 44	微	微	多	-	口縁濃青灰色、体部～底部赤褐色。骨針を多量に含む。		図32 - 1
E	SI - 11	須恵器杯	覆土6P - 59	O - 15	-	中	少	-	淡灰色。軽質で、断面も灰色。器形は線段が顕著。		図37 - 3
F	SK - 35	須恵器杯	覆土1層P - X	D - 128	微	少	微	微	青緑灰色。粒径の大きな長石が混入。断面は赤紫色。		図42 - 5
G	SI - 11	須恵器杯	覆土7P - 5	D - 118	微	微	微	微	淡褐色。精緻な胎土。		図37 - 2
H	SI - 09	須恵器杯	覆土中層P - 16	D - 121	微	微	-	-	淡灰色。精緻な胎土。断面も内外面と同様の色調。		図87 - 2
I	SI - 08	須恵器壺	覆土6層P - 33		-	中	-	-	灰色。表面に石英分が多く観察される。		
J	SI - 10	須恵器鉢	覆土3層P - 20	D - 124	微	微	微	微	濃灰色。断面は中央部が緑がかった灰色を呈している。		図32 - 3
K	SI - 08	須恵器甕	覆土6層P - 98	Su - 4	-	少	微	-	青緑灰色。体部中下部。自然誘が付着。		図80 - 2
L	SI - 08	須恵器甕	覆土3層P - 50	Su - 9	微	少	少	-	淡青灰色。肩部。		図80 - 6
M	SI - 08	須恵器甕	覆土P - X	Su - 6	-	中	少	-	極濃灰色。底部。長石・石英がやや多量。		図80 - 3
N	SI - 06・08	須恵器甕	覆土6層P - 38ほか	Su - 2	少	少	微	-	濃灰色。体部中下部。粘りあり。粒径の大きな長石粒が混入。		図80 - 5
O	SI - 06・08	須恵器甕	覆土6層P - 38ほか	Su - 2	少	少	微	-	濃灰色。体部下中部。粘りあり。粒径の大きな長石粒が混入。		図80 - 5
P	SI - 06・08	須恵器甕	覆土6層P - 38ほか	Su - 2	少	少	微	-	濃灰色。底部。粘りあり。粒径の大きな長石粒が混入。		図80 - 5
Q	新町野19H	須恵器杯	床面P - 11	参考資料	微	中	微	少	酸化焼成。軟質。色調は淡赤褐色気味。		図87 - 4

図1 野木遺跡焼成坑（市道第1号堅穴遺構）出土土師器の両分布図

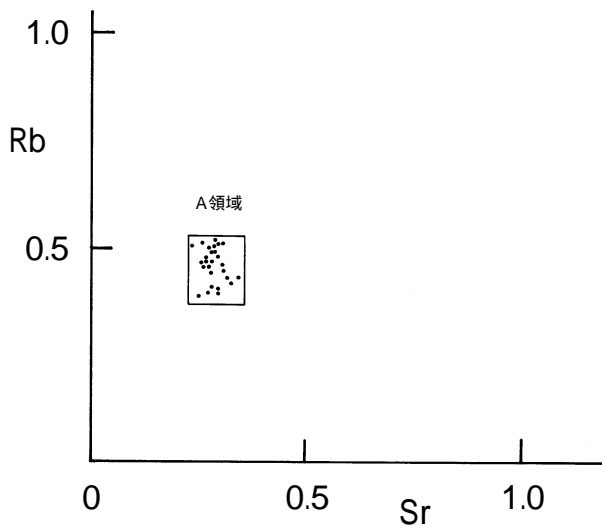
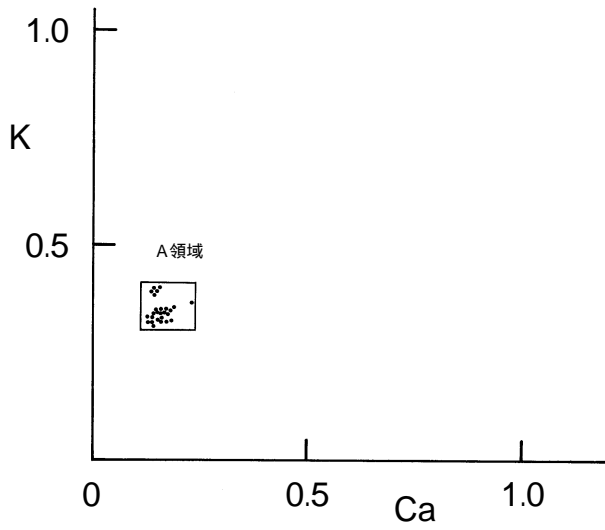
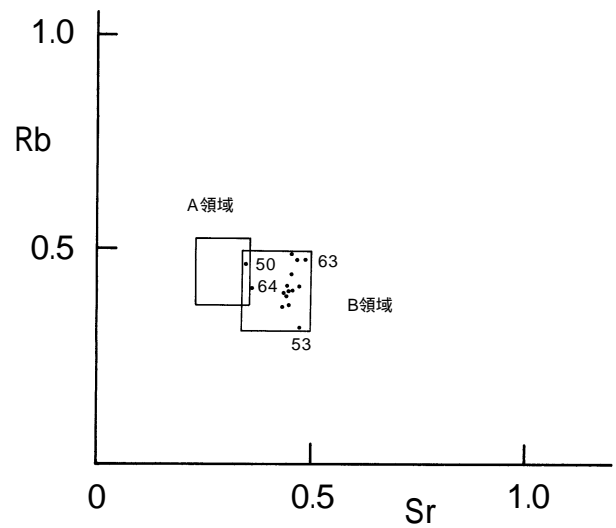
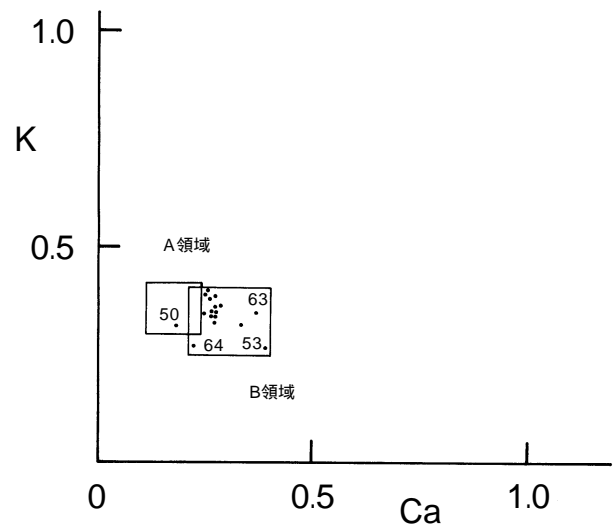
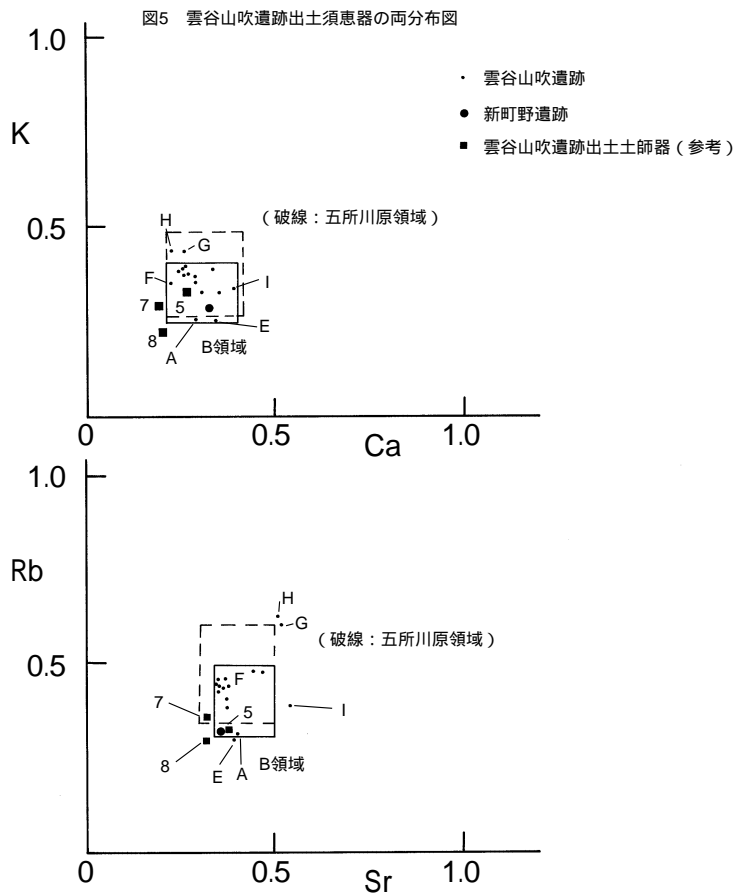
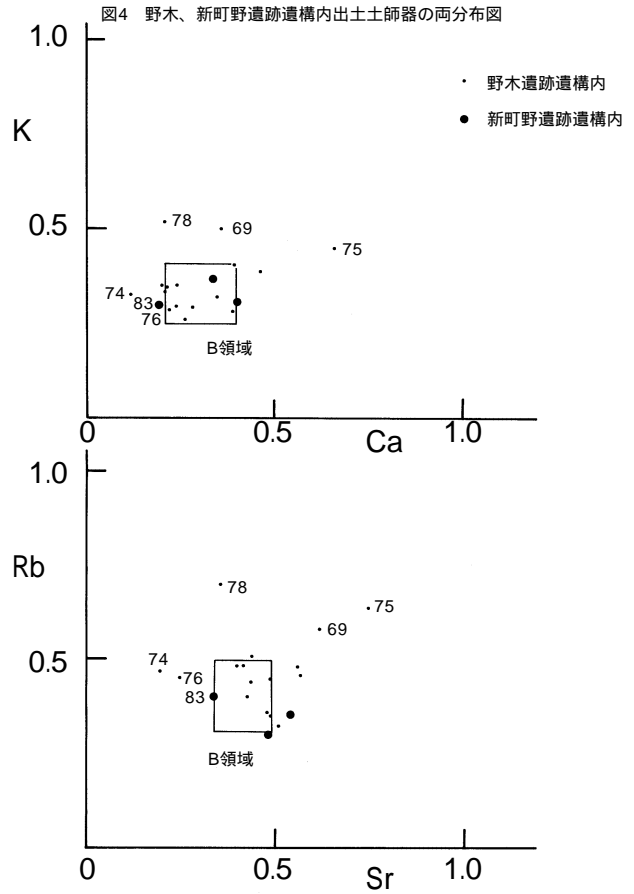
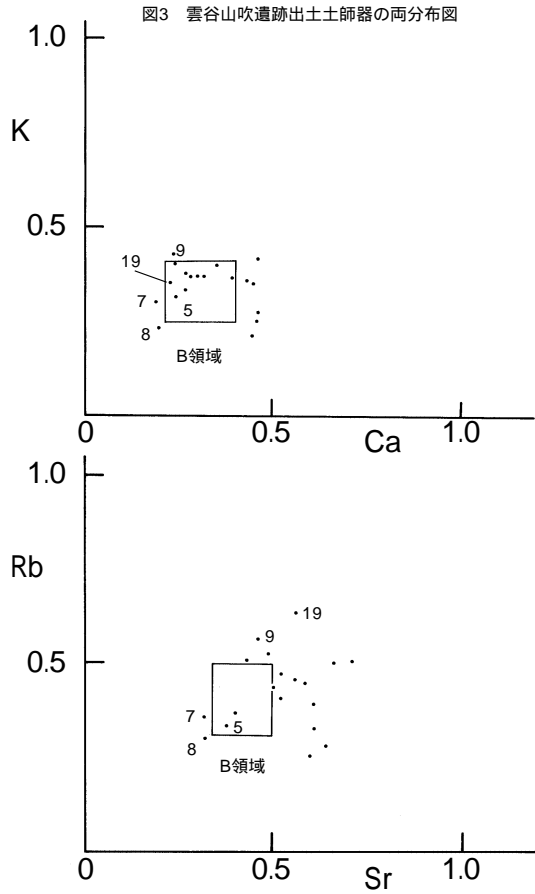


図2 野木遺跡焼成坑（SK - 198）出土土師器の両分布図





第 章 統 括

第 1 節 遺構

1. 竪穴建物跡

本調査で、雲谷山吹(5)～(7)遺跡から合計11軒の平安時代に帰属すると考えられる竪穴建物跡を検出した。調査区外へ延びる建物が4軒あり、同一丘陵上に集落が展開することが想定され、今回の調査からではその全容を掴むことはできないが、今回の調査成果をもとに以下の項目毎に統括する。

A. 立地と構成

本遺跡群は標高112～130m前後の丘陵地に位置しており、本市においてこれまで建物(住居)跡を検出した平安時代の集落としては比較的高地の部類に属する。遺跡及び周辺の地形の状況は図4・114に示しているが、雲谷山吹(4)遺跡周辺が平坦面に近い緩やかな傾斜を持つ地形である以外は、傾斜がある斜面上に立地している。建物構築の選地についてとすれば平坦面の方が利用しやすいという現代からの先入観を持ち得て見てしまうが、発掘調査の結果、土地利用において平坦面のある雲谷山吹(4)遺跡側の部分よりも傾斜を持つ雲谷山吹(5)～(7)遺跡側の地形を平安時代において利用していることが判明した。この点は本遺跡群同様青森市南部に所在する野木遺跡(青森県教育委員会1998ほか)・新町野遺跡(青森県教育委員会1998ほか)・葛野(2)遺跡(青森市教育委員会1997ほか)など、丘陵の傾斜面を利用した立地状況と同一の成果である。

また、雲谷山吹(5)遺跡および(6)遺跡内から検出した住居群はほぼ同時期に継続したと考えられる集落であるが、竈を2基持つ建物跡が3軒(SI-03・05・10)、1基のみのケースが3軒(SI-11は廃絶期の竈を検出しているが、南西壁側が未調査であるため1基のみとは確定できない)、竈無しの場合が1軒という構成のみで、建物の拡張が行われず、建物同士の重複関係が認められていない点が本遺跡群における本調査成果での特徴である。本市南部の火山性台地上の丘陵においてこのケースは当委員会で平成8・10年度に実施した葛野(2)遺跡の調査区から検出した竪穴建物跡でも同様であり、また、平成13・14年度に当委員会で調査が継続中である葛野(3)遺跡でも同一地点で建物の拡張は認められるが、軸線の異なる建物跡の重複関係が認められるのは壁際のごく一部が切り合うケースが数例認められているのみでほとんどが独立した地点に建物跡が存在している。朝日山(1)～(3)遺跡群・野木遺跡などに見られる竪穴建物跡の重複が複数にわたり、継続幅を持ちうる集村的な基幹集落とは異なり、他地点への展開という散村的な小規模集落としての位置づけが本遺跡群においてはなされる。

B. 建物の構造と構築時期

本遺跡群から検出した竪穴建物跡のうち全面調査ができた建物跡は7軒分である。床面積は雲谷山吹(5)遺跡から検出したSI-10が38㎡と中規模なクラスに入る以外は8～18㎡と比較的小規模なものが多く検出している。平面形は方形基調のものが1(+1)軒、長方形基調の2(+1)軒、隅丸方形および台形は1軒ずつで不明が3軒であった。掘り込みは斜面上に立地するものは比較的深く60～90cmほどの深さを持つが、丘陵頂部に近い側に構築されているものは廃絶後の堆積層の要素を鑑みても比較的浅く40～50cm前後の深さを持つ。第 章で触れたが、周堤ではなく建物構築時点の廃土が斜面下方に廃棄された例がSI-08で認められ、その粘土層下層部分からTo-a火山灰が検出している。よってSI-08の構築時期については10世紀初頭であることが考えられる。

周辺の建物跡について雲谷山吹(7)遺跡のSI-01は、廃絶が十和田a火山灰降灰以前で、雲谷山吹(5)遺跡の土坑からも同時期に廃絶した土坑が検出していることから少なくとも9世紀末～10世紀初頭段階では本遺跡群内で土地利用が開始していたものと考えられる。

SI-03に隣接するSX-05として本書に取り上げた風倒木痕以外にSI-01・06・09の隣接部分には風倒木が存在している。特にSI-09は斜面上方の壁面は風倒木の粘土層と黒色土層が層状に確認できる面を壁面とし、その壁面には部分的に一部粘土層を補填している箇所が確認された。

構築場所が前段の風倒木の箇所を意識したのか、それ以外の要素(開拔等による倒木)があるのか判断できないが、SX-05の堆積層上面にTo-a火山灰の堆積する落ち込みの堆積層が認められることから、建物跡の構築時点でその地点に倒木の影響による窪地状の地形が存在していたと判断できる。

主柱配置は床面積が小規模なものが多いため不明瞭なものが多く、明確に主柱穴として認定できるピットを持つ建物跡は11軒中4軒のみで、柱穴の配置竈設置壁側が壁寄りに設置されている方形および長方形配置の構造を持っている。壁溝は調査区外へ延びるSI-01と小規模なSI-03以外は検出しており、ほぼ他遺跡の検出事例と同様の構造を持つ。竈設置壁部分に壁溝が掘り込まれていない建物跡が3軒(SI-02・05・10)で、それ以外に竈の設置されていないSI-04においても竈設置可能な東壁中央部は壁溝が断続した空白部分が存在しており、これらの建物跡については壁溝掘削時点で既に竈の設置箇所を意識した構築がなされていたものと考えられる。

竈は南東軸のものが2軒(SI-06・10)以外は東軸寄りによった軸線で、東軸寄りのものについては丘陵の突出部への軸線と平行するものが多く見受けられた。本市の季節風は北西方向からであり、風向き等も踏まえて地形に沿った構築が考えられるが、野木遺跡北地区(青森市教育委員会2001)の調査区内でもほぼ同時期に建物跡の軸線の変化が生じていることから、集落における規範性である可能性も持ち得ている。煙道の構造はSI-02・11が地下式(SI-03の竈2についても地下式の可能性あり)で、SI-03・05・06・09・10の5軒は半地下式である。地下式のなかでSI-11は燃焼部に大型の板状の凝灰岩が芯材して利用されていた。半地下式のものについてSI-10の新竈が半地下式の簡易型タイプで、煙道長が49cmと比較的短い構造である。竈脇にピットを有する建物跡は6軒(SI-02・03・05・09・10・11)で、廃絶時点で開口していたものがほとんどであった。

C. 廃絶と廃棄

建物跡の埋没は堆積層からB-Tm(A.D.946・947年)火山灰の降下以前に完了しており、SI-01については十和田a火山灰(A.D.915年)の降下以前に埋没が完了している。SI-07については両火山灰が検出しているが、出土遺物が極端に少なく、周辺に建物跡が存在し、その影響も考慮され厳密にTo-a火山灰降下以前に埋没が完了しているとは明言できない。

廃絶に際し、建物跡をそのまま焼失させるような例は検出していないが、SI-05・06からは建物跡の構築材であると考えられる炭化材および炭化物が検出しており、樹種同定の結果クリ材とイネ科亜科の草本が確認されている。クリ材は柱材としての利用が考えられ、イネ科亜科は屋根の構築材や草壁の可能性が考えられ、床面および床面直上から検出していることから構築材の一部を焼成し、廃棄したものと捉えられる。ただ、廃材の焼成場所についてはSI-05の床面で局所的に被熱痕が検出しているのみである。炭化材の年代測定を実施した資料は中央部と竈側の資料で年代に差異が生じており、分析資料の誤差が含まれることも考慮されるが、直接建物内で廃絶時点で焼成が行われたとは認定できず廃棄に伴う資料である可能性を持っている。

竈は調査時の検出時点で燃焼部の破損が著しく、基部のみが残存するケース(SI-02・03)と右袖側の欠落が著しいタイプ(SI-05・06・09・11)に分かれ、前庭部周辺まで粘土が飛散して検出するケースが多く見受けられた。SI-09と11には支脚と考えられる土器が残存して出土したが、SI-09は

ほぼ設置面上で、SI - 11出土資料については崩落した竈構築材の中から出土している。ただし、SI - 09出土資料は破片が建物東壁側の壁寄りの部分から出土しており（図112 - ）その地点には他の壁側では検出しなかった土層の堆積が認められ、廃絶時点での破損が生じた投棄も伴っている可能性が考えられる。その他の竈からの出土資料は破片資料が主で、接合関係においても部分的に限られ、その接合資料については建物内の他の遺構や層位の資料と接合が認められることから直接竈を中心とした廃絶が行われたとは認定できない。むしろ廃絶後に埋土が若干堆積した時点で壁際を中心に投棄した状況と捉えられる。この点について単独の遺構内での接合関係を検討し、図111・112で一部提示したが同層の堆積面上に位置する資料以外に、床面と上層の堆積層出土資料が接合するケースも見受けられる。廃棄に際して、建物跡の落ち込み以外の周辺部にも廃棄し、周辺の土層が建物跡に流入する時点で混入したのと考えられる。接合資料は土師器甕と須恵器甕（大甕）主体で、破片数の生じやすい個体が分離し、移動や流動により、異なった出土位置から出土するようである。多量に遺物が出土する遺構が存在する反面ほとんど遺物の出土しない建物跡も存在する。SI - 04については竈を持たず、居住施設以外の施設である可能性も考えられうる。

また、野木遺跡北地区で見受けられた遺構間接合の例については土器で6例、羽口で1例が認められ、図113に図示したが、須恵器甕の破片については丘陵を隔てたSI - 05・08とSI - 11の出土資料に接合関係が認められた。

2. 土坑

本調査で、雲谷山吹（4）遺跡から30基、雲谷山吹（5）遺跡から16基、雲谷山吹（6）遺跡から17基、雲谷山吹（7）遺跡から2基、合計65基の土坑を検出した。出土遺物がない資料が多く、明確な帰属時期について判別できない資料が多いが、時代毎に統括する。

A. 縄文時代

帰属時期が明瞭なものがほとんどなく、形状による取扱いがほとんどである。フラスコ状土坑は、雲谷山吹（4）遺跡で3基、雲谷山吹（6）遺跡で2基検出したが、底面にピットを有するタイプは雲谷山吹（6）遺跡のSK - 11のみである。遺物は、雲谷山吹（6）遺跡の両土坑の堆積層上面から縄文時代後期十腰内 式期の破片が出土していることから後期以前という取扱いになる。注目される点はこれらの遺構が標高120m～125m付近からの検出例が多い点にある。図114に本遺跡群を含めた雲谷地区の発掘調査済の遺構配置図を図示したが、前述の標高は桜峯（1）遺跡（青森市教育委員会1998）で、縄文時代後期十腰内 式期の土製品が出土した土坑と縄文時代晩期大洞A式期の壺形土器が出土した土坑が同標高に位置する。桜峯（1）遺跡では前期末～中期初頭の集落を検出しているが、その標高は110m周辺に集中している。それより標高の高い部分に関してはむしろ縄文時代後期（十腰内 式期）や晩期の資料が出現する頻度が高い状況であった。今後の類似する調査例により、該期の集落展開が明らかになるものと考えられる。

B. 平安時代

出土遺物の少なさは縄文時代の土坑と同様であるが、火山灰が検出した土坑が雲谷山吹（5）遺跡内検出の2例（SK - 22 = To - a、SK - 27 = B - Tm）遺物と火山灰が検出した例が雲谷山吹（6）遺跡の1例（SK - 03 = To - a）遺物が出土した例が雲谷山吹（5）・（6）遺跡から5例（SK - 05・09・13・33・35）ある。SK - 22は第1層の下部に自然堆積状況で検出しており、A・D・915年以前に廃絶したものと考えられる。また、雲谷山吹（5）遺跡では製炭土坑が1基検出しており、出土した炭化材はモクレン属と分析された。その他焼成が行われた可能性を有する土坑が雲谷山吹（6）遺跡から3基、雲谷山吹（7）遺跡から1基検出しているが、調査時の問題や断面検出のみの状況であるため、詳細な検討には至ることができない。

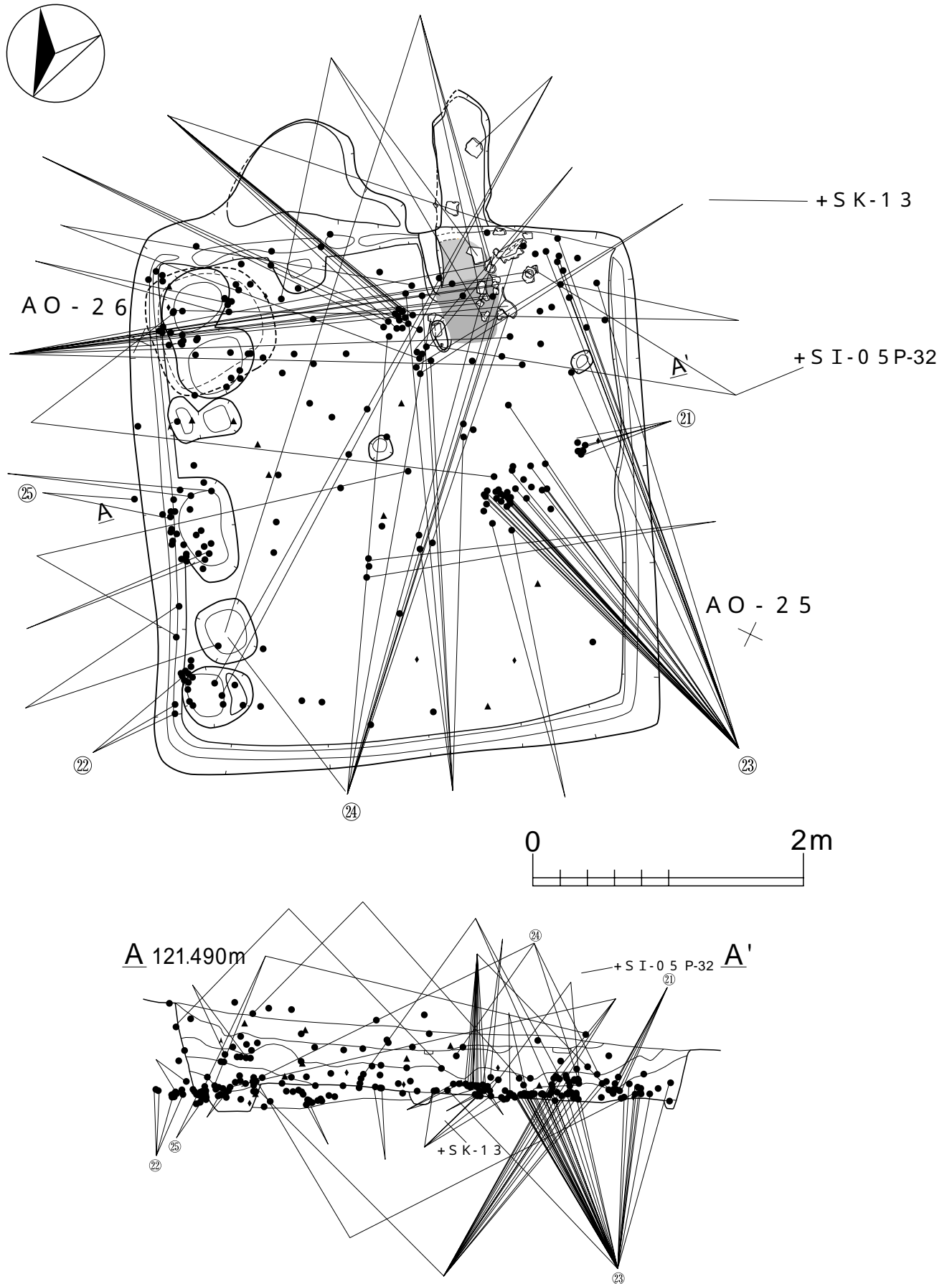
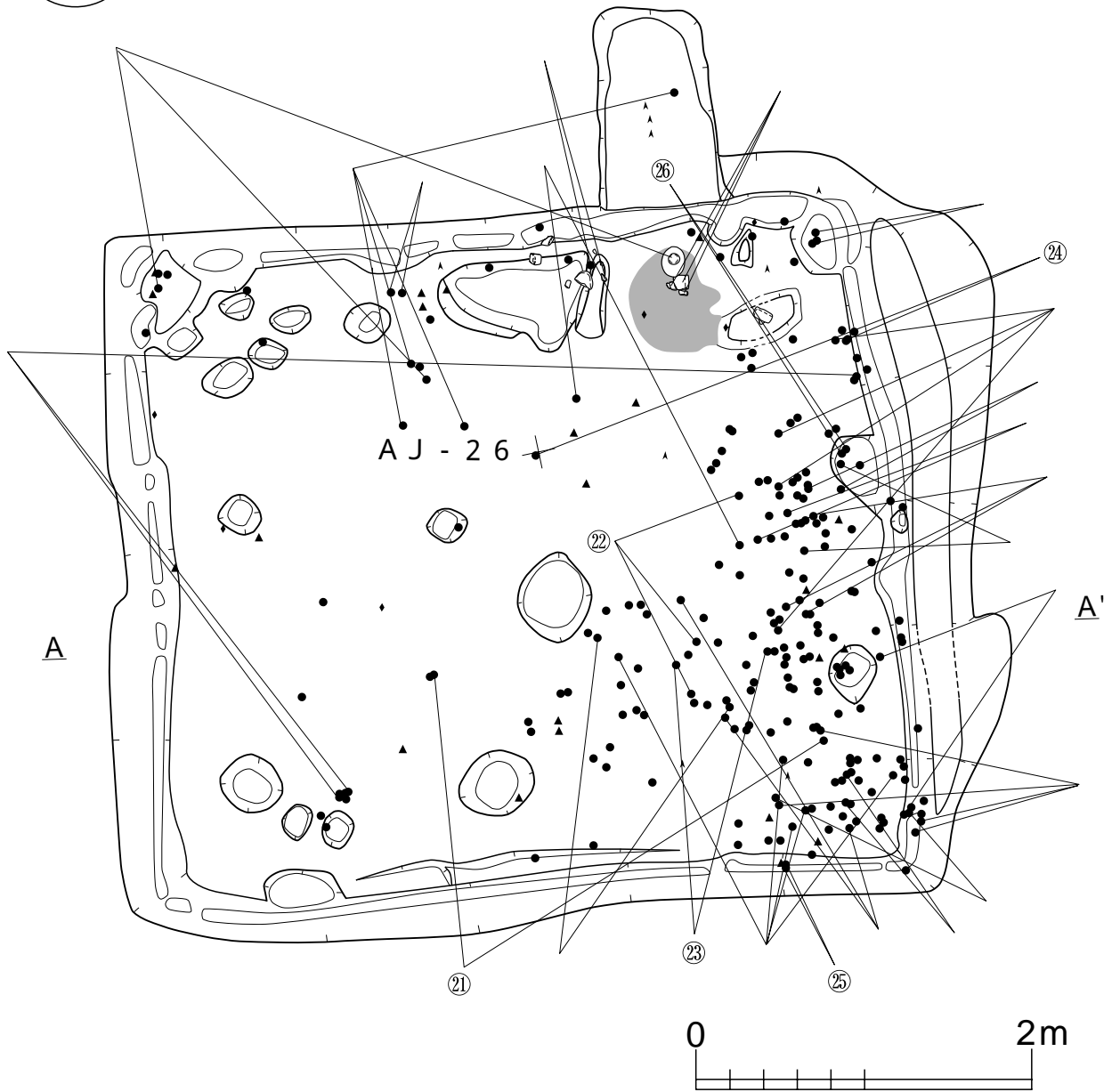
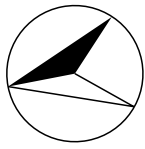


図111 S I - 06遺構内接合状況 (S = 1 / 40)

表30 SI - 06 遺構内破片接合関係表 (図111)

番号	図版番号	破片台帳番号	種別	出土位置	層位	遺物番号			
1	図74 - 29	480 - 1	土師器 小甕	SI - 06	床直	P - 80			
		482 - 1		SI - 06	床直	P - 82			
		423 - 1		SI - 06	5	P - 23			
2		559 - 1	土師器 甕	SI - 06	7	P - 159			
		524 - 1		SI - 06	床直	P - 124			
		525 - 1		SI - 06	床直	P - 125			
3	図73 - 13	471 - 1	土師器 甕	SI - 06	床	P - 71			
		634 - 1		SI - 06P1	2	P - 4			
		538 - 1		SI - 06	床直	P - 138			
4	図74 - 21	618 - 1	土師器 甕	SI - 06SN	14	P - 28			
		618 - 2		SI - 06SN	14	P - 28			
		618 - 3		SI - 06SN	14	P - 28			
		622 - 2		SI - 06SN	17	P - X			
		622 - 3		SI - 06SN	17	P - X			
		622 - 5		SI - 06SN	17	P - X			
		232 - 1		SI - 05	フク	P - 32			
		540 - 1		SI - 06	床直	P - 140			
		541 - 1		SI - 06	床直	P - 141			
		572 - 1		SI - 06	フク	P - X			
		5		図74 - 22	1750 - 1	土師器 甕	SK - 13	2	P - 1
1750 - 2	SK - 13		2		P - 1				
1750 - 3	SK - 13		2		P - 1				
1750 - 4	SK - 13		2		P - 1				
1750 - 5	SK - 13		2		P - 1				
1750 - 6	SK - 13		2		P - 1				
1750 - 9	SK - 13		2		P - 1				
421 - 1	SI - 06		2		P - 21				
428 - 1	SI - 06		7		P - 28				
6	図74 - 24	617 - 1	土師器 甕	SI - 06SN	14	P - 27			
		654 - 1		SI - 06P3	1	P - 8			
7	図73 - 19	591 - 1	土師器 甕	SI - 06SN	7	P - 1			
		627 - 1		SI - 06SN	7	P - 1			
		631 - 1		SI - 06P1	2	P - 1			
8	図74 - 20	632 - 1	土師器 甕	SI - 06P1	2	P - 2			
		531 - 1		SI - 06	床直	P - 131			
		532 - 1		SI - 06	床直	P - 132			
9	図73 - 17	533 - 1	土師器 甕	SI - 06	床直	P - 133			
		534 - 1		SI - 06	床直	P - 134			
		534 - 2		SI - 06	床直	P - 134			
		535 - 1		SI - 06	床直	P - 135			
		536 - 1		SI - 06	床直	P - 136			
		545 - 1		SI - 06	床直	P - 145			
		546 - 1		SI - 06	床直	P - 146			
		547 - 1		SI - 06	床直	P - 147			
		549 - 1		SI - 06	床直	P - 149			
		570 - 1		SI - 06	下層	P - X			
		599 - 1		SI - 06SN	19	P - 9			
		599 - 2		SI - 06SN	19	P - 9			
		599 - 3		SI - 06SN	19	P - 9			
		599 - 4		SI - 06SN	19	P - 9			
		599 - 5		SI - 06SN	19	P - 9			
		10		図74 - 28	484 - 1	土師器 甕	SI - 06	床直	P - 84
					495 - 1		SI - 06	床直	P - 95
					528 - 1		SI - 06	床直	P - 128
					548 - 1		SI - 06	床直	P - 148
					557 - 1		SI - 06	床直	P - 157
		11		図73 - 15	454 - 1	土師器 甕	SI - 06	7	P - 54
602 - 1	SI - 06SN		11		P - 12				
613 - 1	SI - 06SN		17		P - 23				
12	図73 - 18	529 - 1	土師器 甕	SI - 06	床直	P - 129			
		530 - 1		SI - 06	床直	P - 130			
		537 - 1		SI - 06	床直	P - 137			
13		537 - 2	土師器 甕	SI - 06	床直	P - 137			
		527 - 1		SI - 06	床直	P - 127			
14		550 - 1	土師器 甕	SI - 06	床	P - 150			
		539 - 1		SI - 06	床直	P - 139			
15		539 - 2	土師器 甕	SI - 06	床直	P - 139			
		544 - 1		SI - 06	床直	P - 144			
16		443 - 1	土師器 甕	SI - 06	7	P - 43			
		445 - 1		SI - 06	7	P - 45			
17		647 - 1	土師器 甕	SI - 06P3	1	P - 2			
		648 - 1		SI - 06P3	1	P - 3			
18		681 - 1	土師器 甕	SI - 06P11	1	P - 5			
		685 - 1		SI - 06P11	1	P - 9			
19	図72 - 7	603 - 1	土師器 甕	SI - 06SN	11	P - 13			
		604 - 1		SI - 06SN	11	P - 14			
		615 - 1		SI - 06SN	17	P - 25			
		645 - 7		SI - 06P2	1	P - X			
		645 - 10		SI - 06P2	1	P - X			
		645 - 11		SI - 06P2	1	P - X			
		645 - 17		SI - 06P2	1	P - X			
		645 - 24		SI - 06P2	1	P - X			
		645 - 29		SI - 06P2	1	P - X			
		645 - 31		SI - 06P2	1	P - X			
		645 - 33		SI - 06P2	1	P - X			
		645 - 37		SI - 06P2	1	P - X			
		645 - 38		SI - 06P2	1	P - X			
		645 - 42		SI - 06P2	1	P - X			
		645 - 51		SI - 06P2	1	P - X			
20	図72 - 9	441 - 1	土師器 甕	SI - 06	1	P - 41			
		475 - 1		SI - 06	床	P - 75			
		475 - 2		SI - 06	床	P - 75			
		489 - 1		SI - 06	床直	P - 89			
		490 - 1		SI - 06	床直	P - 90			
		543 - 1		SI - 06	7	P - 143			
		543 - 2		SI - 06	7	P - 143			
		543 - 3		SI - 06	7	P - 143			
		543 - 4		SI - 06	7	P - 143			

番号	図版番号	破片台帳番号	種別	出土位置	層位	遺物番号
21		575 - 22	土師器 甕	SI - 06	2	P - X
		603 - 1		SI - 06SN	11	P - 13
		605 - 1		SI - 06SN	14	P - 15
		606 - 2		SI - 06SN	14	P - 16
		607 - 1		SI - 06SN	16	P - 17
		608 - 1		SI - 06SN	10	P - 18
		610 - 1		SI - 06SN	10	P - 20
		610 - 2		SI - 06SN	10	P - 20
		614 - 1		SI - 06SN	17	P - 24
		616 - 1		SI - 06SN	13	P - 26
		621 - 1		SI - 06SN	18	P - X
		622 - 1		SI - 06SN	17	P - X
		625 - 2		SI - 06SN	フク	P - X
		625 - 3		SI - 06SN	フク	P - X
		625 - 9		SI - 06SN	フク	P - X
		463 - 1		SI - 06	7	P - 63
		463 - 2		SI - 06	7	P - 63
		463 - 3		SI - 06	7	P - 63
		463 - 4		SI - 06	7	P - 63
		464 - 1		SI - 06	7	P - 64
		465 - 1		SI - 06	7	P - 65
466 - 1	SI - 06	7	P - 66			
467 - 1	SI - 06	7	P - 67			
22	図74 - 23	468 - 1	土師器 甕	SI - 06	床	P - 68
		468 - 2		SI - 06	床	P - 68
		633 - 1		SI - 06P1	2	P - 3
		636 - 1		SI - 06P1	2	P - 6
		636 - 2		SI - 06P1	2	P - 6
23	図73 - 10	440 - 1	土師器 甕	SI - 06	7	P - 40
		485 - 1		SI - 06	床直	P - 85
		491 - 1		SI - 06	床直	P - 91
		491 - 5		SI - 06	床直	P - 91
		491 - 6		SI - 06	床直	P - 91
		492 - 1		SI - 06	床直	P - 92
		496 - 1		SI - 06	床直	P - 96
		497 - 1		SI - 06	床直	P - 97
		499 - 1		SI - 06	床直	P - 99
		501 - 1		SI - 06	床直	P - 101
		503 - 1		SI - 06	床直	P - 103
		505 - 1		SI - 06	床直	P - 105
		506 - 1		SI - 06	床直	P - 106
		507 - 1		SI - 06	床直	P - 107
		509 - 1		SI - 06	床直	P - 109
		510 - 1		SI - 06	床直	P - 110
		511 - 1		SI - 06	床直	P - 111
		512 - 1		SI - 06	床直	P - 112
		513 - 1		SI - 06	床直	P - 113
		514 - 1		SI - 06	床直	P - 114
		514 - 2		SI - 06	床直	P - 114
		515 - 1		SI - 06	床直	P - 115
		517 - 1		SI - 06	床直	P - 117
		519 - 1		SI - 06	床直	P - 119
		520 - 1		SI - 06	床直	P - 120
		521 - 1		SI - 06	床直	P - 121
		521 - 2		SI - 06	床直	P - 121
		522 - 1		SI - 06	床直	P - 122
		542 - 1		SI - 06	7	P - 142
		542 - 2		SI - 06	7	P - 142
		542 - 3		SI - 06	7	P - 142
		551 - 1		SI - 06	7	P - 151
		554 - 1		SI - 06	7	P - 154
		561 - 1		SI - 06	7	P - 161
		561 - 2		SI - 06	7	P - 161
		561 - 3		SI - 06	7	P - 161
		562 - 1		SI - 06	7	P - 162
563 - 1	SI - 06	7	P - 163			
575 - 12	SI - 06	2	P - X			
576 - 1	SI - 06	7	P - X			
24	図72 - 8	436 - 1	土師器 甕	SI - 06	2	P - 36
		594 - 1		SI - 06SN	ソデ	P - 4
		594 - 2		SI - 06SN	ソデ	P - 4
		600 - 1		SI - 06SN	14	P - 10
		601 - 1		SI - 06SN	19	P - 11
		609 - 1		SI - 06SN	16	P - 19
		611 - 1		SI - 06SN	19	P - 21
		612 - 1		SI - 06SN	19	P - 22
		625 - 1		SI - 06SN	フク	P - X
		625 - 6		SI - 06SN	フク	P - X
		644 - 2		SI - 06P1	2	P - X
		645 - 4		SI - 06P2	1	P - X
		645 - 6		SI - 06P2	1	P - X
		645 - 8		SI - 06P2	1	P - X
		645 - 9		SI - 06P2	1	P - X
		645 - 12		SI - 06P2	1	P - X
		645 - 15		SI - 06P2	1	P - X
		645 - 22		SI - 06P2	1	P - X
		645 - 25		SI - 06P2	1	P - X
		645 - 27		SI - 06P2	1	P - X
		(645 - 1)		SI - 06P2	1	P - X
(645 - 13)	SI - 06P2	1	P - X			
(645 - 19)	SI - 06P2	1	P - X			
(645 - 33)	SI - 06P2	1	P - X			
-						
25	図72 - 2	660 - 1	須恵器 甕	SI - 06P3	1	P - 15
		664 - 1		SI - 06P3	1	P - 19



A 120.230m

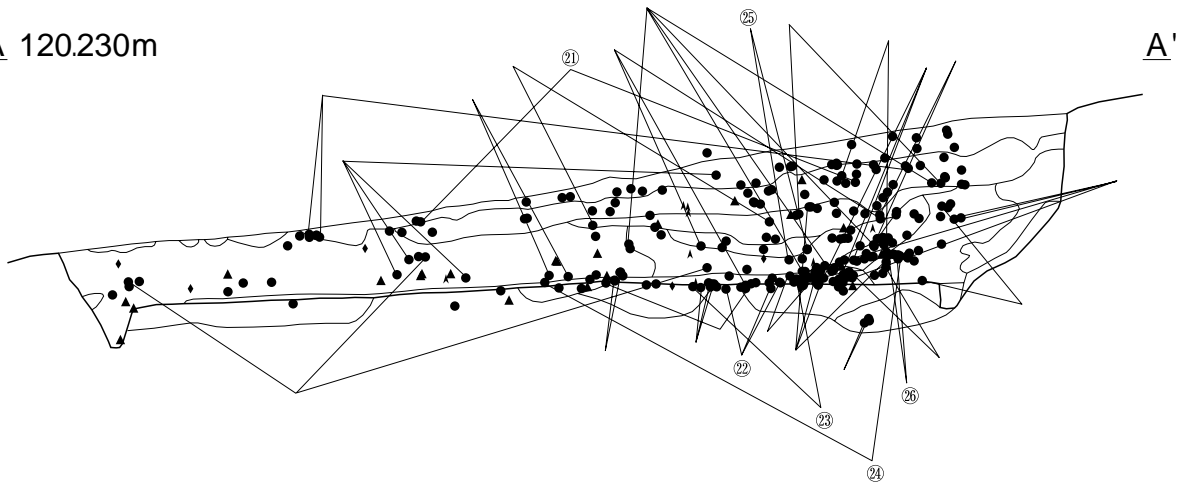


図112 S I - 09遺構内接合状況 (S = 1 / 40)

表31 SI - 09 遺構内破片接合関係表 (図112)

番号	図版番号	破片台帳番号	種別	出土位置	層位	遺物番号			
1	図87 - 6	1019 - 1	土師器 甕	SI - 09	中層	P - 29			
		1048 - 1		SI - 09	下層	P - 58			
		1132 - 1		SI - 09	下層	P - 142			
		1160 - 1		SI - 09	床直	P - 170			
		1162 - 1		SI - 09	床直	P - 172			
		1163 - 1		SI - 09	床直	P - 173			
2	図87 - 11	1100 - 1	土師器 甕	SI - 09	下層	P - 110			
		1100 - 2		SI - 09	下層	P - 110			
		1100 - 3		SI - 09	下層	P - 110			
		1150 - 1		SI - 09	床直	P - 160			
3	図87 - 7	999 - 1	土師器 甕	SI - 09	中層	P - 9			
		1002 - 1		SI - 09	中層	P - 12			
		1003 - 1		SI - 09	下層	P - 13			
		1221 - 3		SI - 09	フク	P - X			
		1221 - 6		SI - 09	フク	P - X			
		1231 - 5		SI - 09	下層	P - X			
		1231 - 8		SI - 09	下層	P - X			
		1275 - 1		SI - 09SN	7	P - 5			
		4			1005 - 1	土師器 甕	SI - 09	中層	P - 15
					1173 - 1		SI - 09	3	P - 183
5	図87 - 5	1203 - 1	土師器 甕	SI - 09	床直	P - 213			
		1213 - 1		SI - 09	床直	P - 223			
6		1057 - 1	土師器 甕	SI - 09	2	P - 67			
		1113 - 1		SI - 09	下層	P - 123			
7		1086 - 1	土師器 甕	SI - 09	中層	P - 96			
		1164 - 1		SI - 09	床直	P - 174			
8	図88 - 21	1281 - 1	土師器 鉢	SI - 09SN	16	P - 11			
		1281 - 2		SI - 09SN	16	P - 11			
		1287 - 1		SI - 09SN	19	P - 17			
9	図87 - 12	1283 - 1	土師器 小甕	SI - 09SN	火床面	P - 13			
		1283 - 2		SI - 09SN	火床面	P - 13			
		1283 - 3		SI - 09SN	火床面	P - 13			
		1283 - 4		SI - 09SN	火床面	P - 13			
		1283 - 5		SI - 09SN	火床面	P - 13			
		1283 - 6		SI - 09SN	火床面	P - 13			
		1283 - 7		SI - 09SN	火床面	P - 13			
		1283 - 8		SI - 09SN	火床面	P - 13			
		1283 - 9		SI - 09SN	火床面	P - 13			
		1284 - 1		SI - 09SN	火床面	P - 14			
		1285 - 1		SI - 09SN	火床面	P - 15			
		1285 - 2		SI - 09SN	火床面	P - 15			
		1285 - 3		SI - 09SN	火床面	P - 15			
		1285 - 4		SI - 09SN	火床面	P - 15			
1292 - 1	SI - 09SN	21	P - X						
10	図88 - 17	1030 - 1	土師器 小甕	SI - 09	中層	P - 40			
		1050 - 1		SI - 09	中層	P - 60			
11		1276 - 1	土師器 甕	SI - 09SN	17	P - 6			
		1277 - 1		SI - 09SN	17	P - 7			
12	図88 - 22	1306 - 1	土師器 鉢	SI - 09P1	2	P - 1			
		1308 - 1		SI - 09P1	2	P - 3			
		1309 - 1		SI - 09P1	1	P - X			
		1309 - 3		SI - 09P1	1	P - X			
13	図88 - 16	992a - 1	土師器 小甕	SI - 09	21	P - 2			
		992a - 2		SI - 09	21	P - 2			
		992a - 3		SI - 09	21	P - 2			
		992a - 4		SI - 09	21	P - 2			
		992a - 5		SI - 09	21	P - 2			
		992a - 6		SI - 09	21	P - 2			
		992a - 7		SI - 09	21	P - 2			
		992a - 8		SI - 09	21	P - 2			
		1001 - 1		SI - 09	中層	P - 11			
		1001 - 2		SI - 09	中層	P - 11			
		1282 - 4		SI - 09SN	火床面	P - 12			
		14		図88 - 18	1008 - 1	土師器 小甕	SI - 09	中層	P - 18
					1011 - 1		SI - 09	中層	P - 21
1074 - 1	SI - 09		2		P - 84				
15		1119 - 1	土師器 甕	SI - 09	下層	P - 129			
		1125 - 1		SI - 09	下層	P - 135			
		1148 - 1		SI - 09	床直	P - 158			
		1207 - 1		SI - 09	2	P - 217			
16		1104 - 1	土師器 甕	SI - 09	下層	P - 114			
		1216 - 1		SI - 09	床直	P - 226			
		1217 - 1		SI - 09	床直	P - 227			
17		1053 - 1	土師器 甕	SI - 09	下層	P - 63			
		1171 - 1		SI - 09	7	P - 181			
		1214 - 1		SI - 09	床直	P - 224			
18		1089 - 1	土師器 甕	SI - 09	中層	P - 99			
		1090 - 1		SI - 09	中層	P - 100			
		1159 - 1		SI - 09	床直	P - 169			
		1161 - 1		SI - 09	床直	P - 171			
19		1109 - 1	土師器 甕	SI - 09	下層	P - 119			
		1112 - 1		SI - 09	下層	P - 122			
20		1082 - 1	土師器 甕	SI - 09	下層	P - 92			
		1084 - 1		SI - 09	中層	P - 94			

番号	図版番号	破片台帳番号	種別	出土位置	層位	遺物番号
21		1013 - 1	土師器 甕	SI - 09	1	P - 23
		1045 - 1		SI - 09	2	P - 55
22		1174 - 1	土師器 甕	SI - 09	床直	P - 184
		1188 - 1		SI - 09	床直	P - 198
		1209 - 1		SI - 09	床直	P - 219
		1152 - 1		SI - 09	床直	P - 162
23		1190 - 1	土師器 甕	SI - 09	床直	P - 200
		1221 - 8		SI - 09	フク	P - X
		1004 - 1		SI - 09	下層	P - 14
24		1123 - 1	土師器 甕	SI - 09	下層	P - 133
		1221 - 35		SI - 09	フク	P - X
		1079 - 1		SI - 09	床直	P - 89
25		1080 - 1	土師器 甕	SI - 09	床直	P - 90
		1140 - 1		SI - 09	下層	P - 150
		1115 - 1		SI - 09	下層	P - 125
26		1116 - 1	土師器 甕	SI - 09	下層	P - 126

表32 遺構間接合関係表 (図113)

番号	遺構名	図版番号 (整理番号)	種別	出土位置	層位	遺物番号	破片台帳番号
1	SI - 05 SI - 09	図67 - 8 (D - 9)	土師器 甕		4	P - 85	285 - 1
					中層	P - 69	1059 - 1
2	SI - 06	図74 - 21 (O - 49)	土師器 甕		床直	P - 138	538 - 1
				SN	14	P - 28	618 - 1 ~ 3
				SN	17	P - X	622.2.3.5
3	SI - 06 SK - 13	図74 - 22 (O - 53)	土師器 甕		フク	P - 32	232 - 1
					床直	P - 140	540 - 1
					床直	P - 141	541 - 1
4	SI - 03	図58 - 5 (O - 9)	土師器 甕		2	P - 1	1750.1.6.9
				SN	2c	P - 3	77 - 1 ~ 5
				SN	2	P - 9	84 - 1.3
				SN	2	P - 10	85 - 1.2
				SN	2	P - 10	86 - 1 ~ 6
				SN	2	P - 11	87 - 1
				SN	2	P - 12	88 - 1
				SN	2	P - 13	89 - 1 ~ 8
				SN	1a	P - 18	94 - 2
				SN	7	P - 30	106 - 1
				SN	5	P - 31	107 - 1
				SN	5	P - 32	108 - 1
				SN	7	P - 34	110 - 1
				SNインドウ	2	P - X	123 - 3
SN	下層	P - X	128 - 2				
SN	床	P - X	129 - 1				
SN	フク	P - X	186 - 1				
5	SI - 08 SI - 05 SI - 11	図80 - 4 (Su - 1)	須恵器 甕		6	P - 37	747 - 1
					6	P - 41	751 - 1
					6	P - 47	757 - 1
					6	P - 48	758 - 1
					6	P - 71	271 - 1
					4下(床直)	P - 1	1541 - 1
					4下(床直)	P - 2	1542 - 1
					床	P - 66	1607 - 1
				P4	2層下	P - X	1715 - 1
					6	P - 38	748 - 1
6	SI - 08	図80 - 5 (Su - 2)	須恵器 甕		6	P - 42	752 - 1
					6	P - 43	753 - 1
					5	P - 63	773 - 1
					床直	P - 124	834 - 1
				P7	1	P - 1	914 - 1
					2	P - 14	(414 - 1)
7	SI - 06 SI - 08 SI - 09	図82 - 37 (T - 11)	羽口		床直	C - 7	867 - 1
					床直	C - 7	867 - 3
					床直	C - 11	871 - 7
		中層	C - 1	1261 - 1			

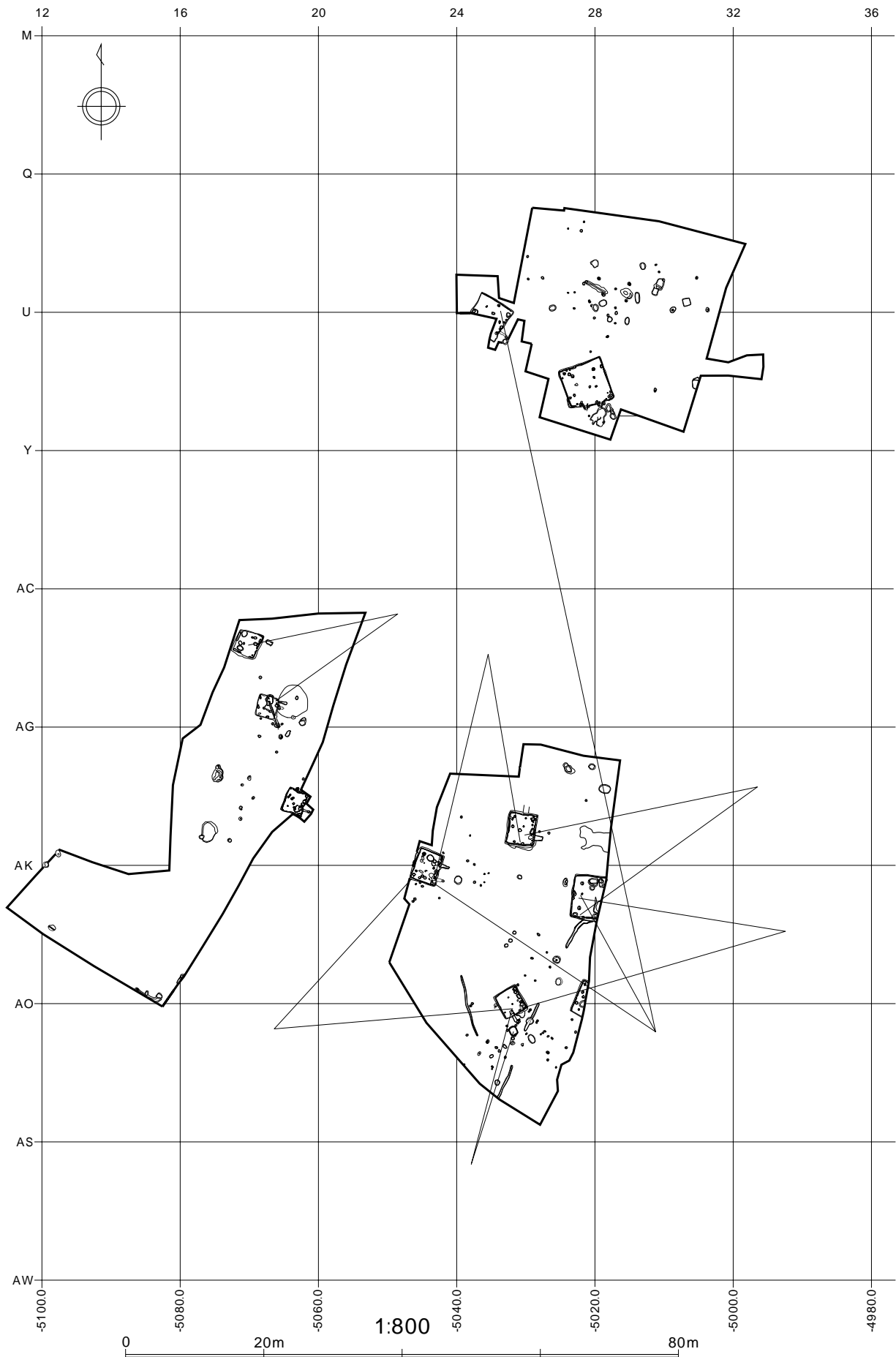
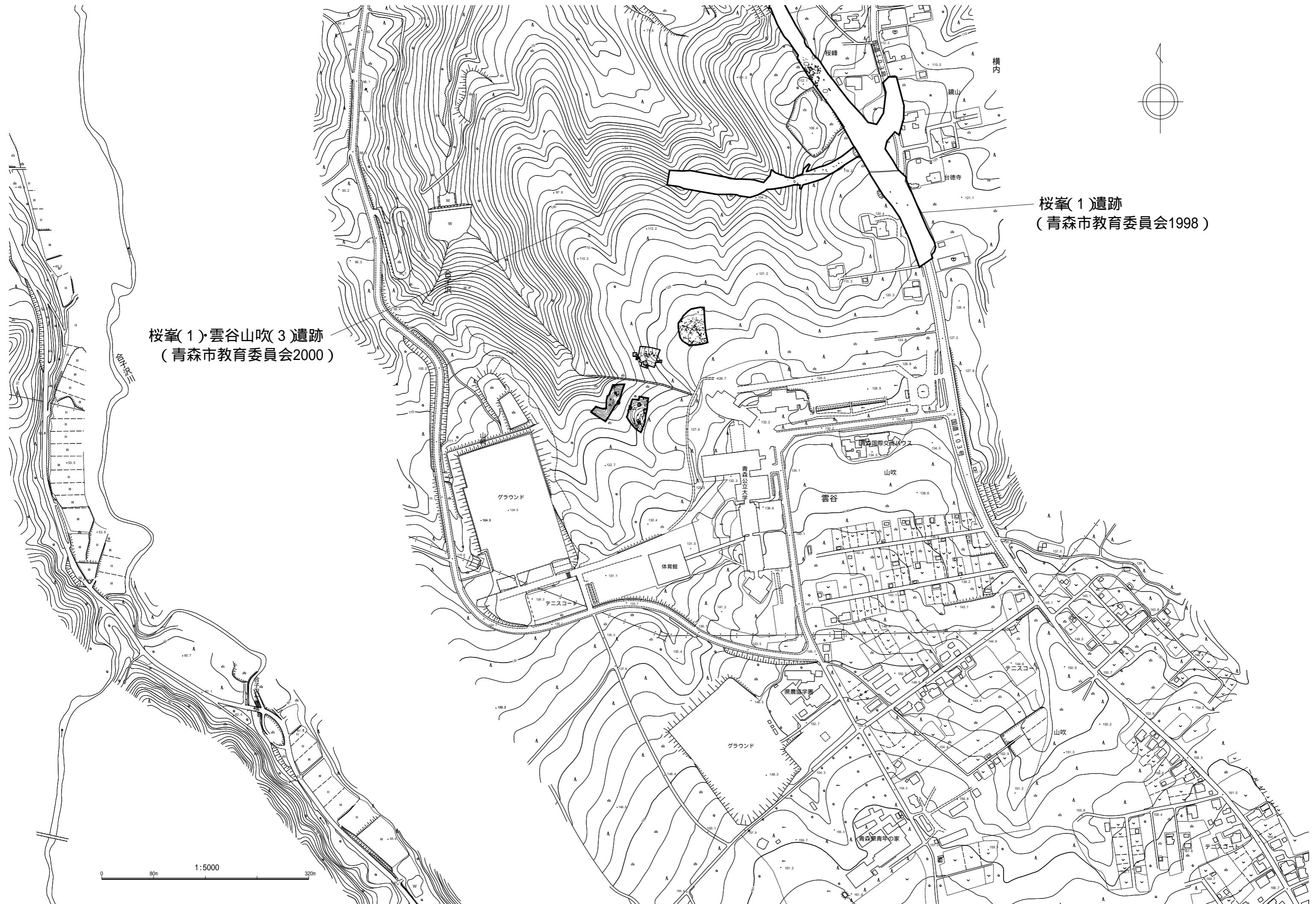


図113 遺構間接合資料



桜峯(1)・雲谷山吹3遺跡
(青森市教育委員会2000)

桜峯(1)遺跡
(青森市教育委員会1998)

図114 雲谷地区調査済遺構配置図

第 2 節 遺物

1. 土器

本調査では雲谷山吹（４）～（７）遺跡の各調査区から合計2,855片の土器片が出土し、そのうち1,276片（44.7％）が接合し、274資料が接合個体資料となった。調査成果を踏まえ、時代毎に統括する。

A. 縄文時代

遺跡毎の出土例が時期毎に構成が異なり、出土遺物は破片中心で、併せて本項では項目を設けなかったが、石器について定形石器が２点のみの出土という極めて少ないこと状況であることから本調査区内では縄文時代の主体部の検出は認められなかった。周辺に各時期の主体とする地点が存在するものと考えられるが、時期毎に生活域が異なるものと考えられる。

a. 前期末～中期初頭（図115 - 1～4）

雲谷山吹（６）・（７）遺跡から出土例が認められた。平安時代の建物跡の埋土に混入する例と、遺構外から破片の状態出土する例のみで、直接縄文時代に帰属すると考えられる遺構からの出土は認められなかった。口縁部資料は雲谷山吹（７）遺跡出土の２資料（図115 - 1・3）のみで、１については円筒下層d₁式に帰属する。この遺物の出土状況は雲谷山吹（３）遺跡（青森市教育委員会2000）などでも認められており、周辺に集落跡が存在する可能性がある。雲谷山吹（４）・（５）遺跡周辺では該期の出土例がないことから本調査区より西側の雲谷山吹（７）遺跡内に存在する可能性が想定される。

b. 中期（図115 - 5～8）

雲谷山吹（４）・（５）・（６）遺跡から出土例が認められた。前期末～中期初頭段階とほぼ同様の出土状況と内容で、平成11年度の桜峯（１）遺跡の調査区の成果（青森市教育委員会2000）と類似した結果になった。集落跡が本遺跡群周辺と桜峯（１）遺跡および雲谷山吹（３）遺跡の空閑地に未発見の遺跡が埋蔵している可能性が考えられる。

c. 後期（図115 - 9～14）

雲谷山吹（５）・（６）・（７）遺跡から出土例が認められた。十腰内 A 式、B 式の土器が出土しており、遺構もフラスコ状土坑の上層から該期の土器の破片が出土し遺構の下限時期と認定でき、さらに試掘調査の成果において雲谷山吹（６）遺跡の青森公立大学寄りの敷地内（試掘調査18トレンチ：図5参照）から多量の該期の遺物の出土が認められていることから集落の主体は雲谷山吹（６）遺跡内の青森公立大寄りの部分に存在したものと考えられる。本調査では集落の周縁部の調査にとどまったため、出土遺物についても個体とは成りえない破片資料のみであったため、具体的な遺物の検討には至れない。

d. 晩期（図115 - 15～22）

雲谷山吹（４）・（５）・（６）遺跡から出土例が認められた。古相は雲谷山吹（５）遺跡で認められた晩期前半の資料で、雲谷山吹（４）遺跡側は大洞A式期に近い遺物の出土例がある。遺構からの出土例ではないため、具体的な検討には至れないが、雲谷山吹（４）遺跡および雲谷山吹（５）遺跡の無遺物の遺構のいくつかは晩期の集落の一部である可能性も否定できない。また、石器で雲谷山吹（４）遺跡から出土した扁平片刃形の磨製石斧（図24 - 8）は本調査成果では弥生時代の資料が認められないことから該期に帰属する可能性が考えられる。

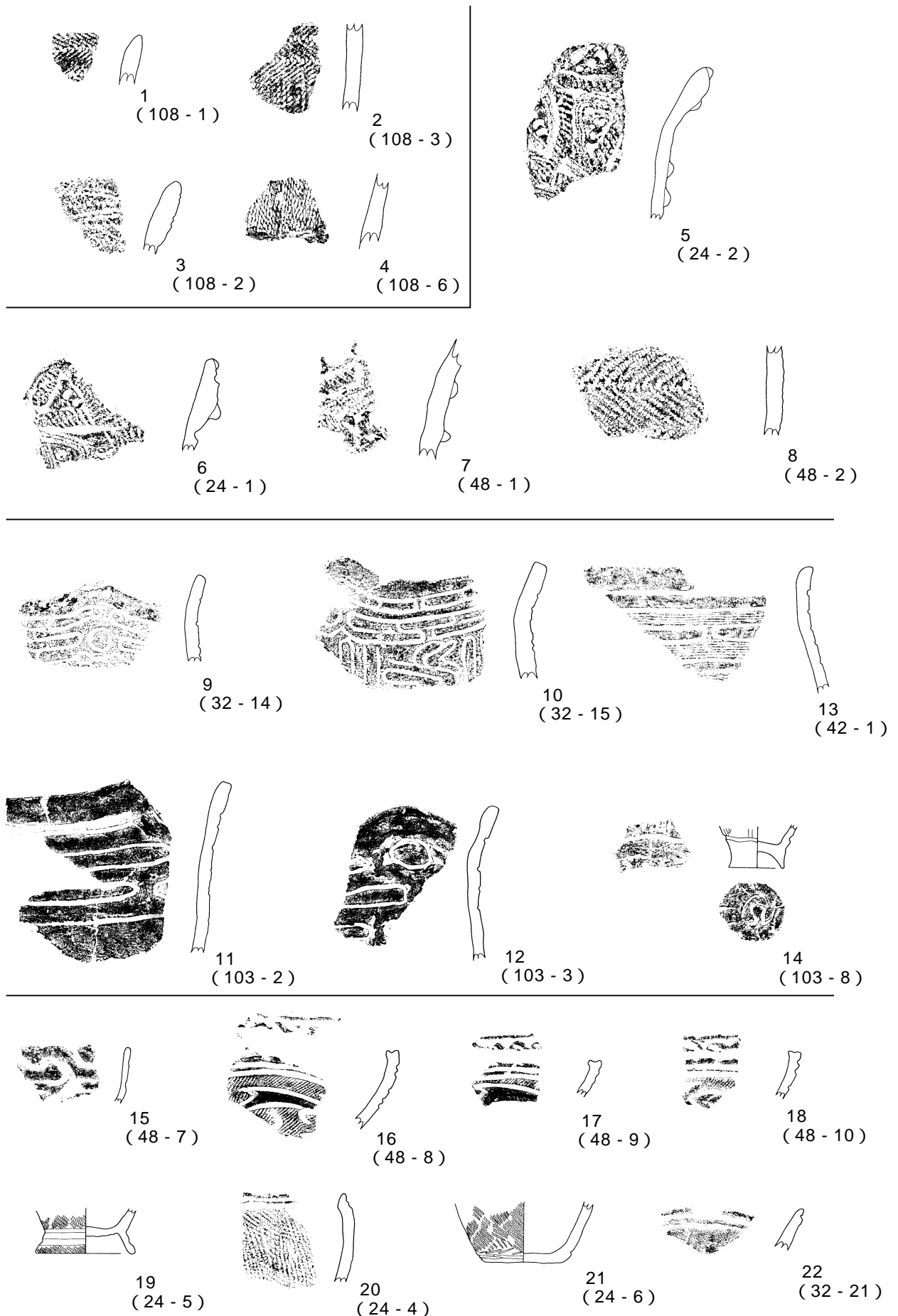


図115 縄文土器

B．平安時代

縄文時代の資料とは異なり、該期に帰属する遺構から一定量の出土が認められた。本調査は集落跡の部分的な検出であるが、その調査区内の成果で以下の項目に分け検討する。

a．構成

表33に口縁残存計測法による平安時代の全資料の組成比を提示した。この中で須恵器の甕は調査区内から体部資料の出土は認められたが口縁部の資料の出土がなかったため、純粋に組成比に反映されていない状況である。種別毎の構成は、土師器が全体の90%を占め、次いで須恵器が約9%、黒色土器が0.1%未満である。器種毎の構成について、比較資料として本遺跡群から1.5km西方に位置する野木遺跡北地区（9世紀後半～10世紀中葉）の全資料の組成比を表33 - Fに提示したが、本遺跡群出土の資料は野木遺跡の器種構成に比べ器種のバリエーションが少なく、煮沸具主体の構成であることがわかる。また、須恵器の組成比が野木遺跡に比べ増加傾向であることがわかる。野木遺跡の資料は建物跡の検出数が約200軒で、集落の継続幅も本遺跡群とは異なっており、さらに土師器の食膳具の生産施設も伴い組成比において食膳具の比率が増加している状況であるため、集落の構成として単純に比較はできないが、器種のバリエーションの差については時期差以外に基幹集落と小規模集落の構成要素の差である可能性をもち得ている。

本遺跡群における食膳具は、ロクロ土師器の無調整椀が全体の約71%を占め、須恵器坏が23.6%とそれに続く。須恵器の比率が野木遺跡のものに比べ増加傾向にある点は、五所川原窯からの供給前から集落が営まれた野木遺跡と、五所川原窯の生産が始まってからの集落である本遺跡群との差である可能性もあるが、本遺跡出土資料の中に非五所川原産の可能性のある須恵器も存在しており一概に言えない状況にある。また、本遺跡群から出土した土師器の中には野木遺跡で主体であった在地の粘土を使ったと考えられる製品以外に海綿骨針を含み野木遺跡や本遺跡群のように火山性台地上の粘土とは明らかに異なる他地域の粘土で作られた製品が多く出土しており、加えて五所川原窯の須恵器の生産技法に類似する酸化焼成の椀（図32 - 4）も出土している。第 章第1節で掲載した重鉍物組成の胎土分析結果では野木遺跡で主体を占めた遺跡の基盤層である月見野火山灰層・大谷火山灰層に関連づけられるA類とB類のうち、A類が本遺跡群の分析資料では認められず、B類についても11点中1点のみであった。逆に野木遺跡では少数派であったC類が11点中4点と多数を占める結果となり、本遺跡群出土資料には新たにG類とH類の存在が認められた。第 章第2節に掲載した蛍光X線分析において野木遺跡の焼成坑資料は本遺跡群内に供給されていないことが裏付けられており、流通経路が異なる可能性が高いと判断できる。前述の酸化焼成の椀とSI - 07とSI - 08から出土した海綿骨針を含むザラザラした質感を有する土師器椀3点については野木遺跡出土資料では認められなかった新出のH類として分類され一群のものであることが重鉍物組成の胎土分析では判断された。これらの製品は質感においてザラザラとサラサラ（須恵器の製作技法に類似した椀）という異なる特徴を有するものの肉眼的見地においても明らかに在地産と異なる性質のものであると認定でき、重鉍物組成においても在地の胎土とは明らかに異なる鉍物組成を呈することが裏付けられたことから、明確に本遺跡に搬入された製品であると言える。このH類の搬入元について重鉍物組成の分析では比較資料がないため、検討に至らなかったが、製作技法において須恵器の生産技法に類似する製品を含んでいたこともあり、五所川原窯製品との比較を三辻氏の蛍光X線分析の際に依頼した。

三辻氏の蛍光X線分析結果で文中に表記されていないが、図5の中でH類とG類の資料と五所川原産須恵器の領域には近似しているものの明確には合致していなかったが、分析値について五所川原領域の定義条件である $3 < Fe$ の条件は合致しており、さらに $D^2 < 10$ の条件について5が7.5、7が8.2、8が5.5

雲谷山吹(4)~(7)遺跡

A. 全資料

種 類	器 種	個体数	個体数%	
黑色土器	椀	0.05	0.17825312	
	椀B	0	0	
	非口口椀・坏	0	0	
	皿	0	0	
	甕	0.03	0.106895187	
	小壺	0	0	
	広口壺	0	0	
	小壺	0	0	
	小計	0.08	0.2852	
	土師器	椀	6.97	24.8484848
		椀B	0	0
		非口口椀	0.12	0.42780749
椀小鉢		0	0	
耳皿		0.13	0.46345811	
皿		0.14	0.49910873	
口口口系甕		1.16	4.13547237	
非口口口系甕	11.97	42.6737968		
口口口系小壺	0.08	0.28520499		
非口口口系小壺	3.7	13.1907308		
埴	0.69	2.45989305		
壺	0	0		
広口壺	0	0		
鉢	0.37	1.31907308		
小壺	0	0		
小計	25.33	90.3030		
須惠器	坏	2.29	8.16399287	
	皿	0	0	
	甕	0	0	
	大甕	0	0	
	長頸甕	0.25	0.8912656	
	短頸甕	0	0	
	広口壺	0	0	
	小壺	0.1	0.35650624	
	鉢	0.26	0.94118	
	鉢	28.05	100	
	小計	28.05	100	

種別計	個体数	個体数%
食膳具	9.7	34.5811
煮沸具	17.63	62.852
貯蔵具	0.72	2.56684
總計	28.05	100

E. 参考 野木遺跡北地区

種 類	器 種	個体数	個体数%	
黑色土器	椀	42.0	5.64341669	
	椀B	0.4	0.05374683	
	非口口椀・坏	0.1	0.01343671	
	皿	0.4	0.05374683	
	甕	0.6	0.08062024	
	小壺	0.8	0.10749365	
	広口壺	0.5	0.06718353	
	小壺	1.0	0.13436706	
	小計	45.8	6.1540	
	土師器	椀	291.2	39.127689
		椀B	0.6	0.08062024
		非口口椀	2.6	0.34935437
椀小鉢		0.9	0.12093036	
耳皿		0.53	0.07121454	
皿		16.6	2.23049326	
口口口系甕		54.3	7.29613157	
非口口口系甕		181.4	24.3741854	
口口口系小壺		23.7	3.18449942	
非口口口系小壺		71.9	9.6609919	
埴		13.2	1.77364524	
壺		0.7	0.09405694	
広口壺	0.8	0.10749365		
鉢	0.1	0.01343671		
小壺	1.4	0.18811389		
小計	659.93	88.6729		
須惠器	坏	21.1	2.83514505	
	皿	1.5	0.2015506	
	甕	2.0	0.26873413	
	大甕	0.4	0.05374683	
	長頸甕	10.5	1.41085417	
	短頸甕	0.1	0.01343671	
	広口壺	0.1	0.01343671	
	鉢	2.8	0.37622778	
	小計	38.5	5.1731	
	總計	744.23	100	

種別計	個体数	個体数%
食膳具	377.93	50.7813
煮沸具	345.9	46.4776
貯蔵具	20.4	2.74109
總計	744.23	100

F. 参考 野木遺跡 (To - a降下直前)

種 類	器 種	個体数	個体数%
黑色土器	椀	2.08	13.9037
	坏	0.1	0.6685
土師器	椀	2.03	13.5695
	口口口系甕	0.28	1.8717
	非口口口系甕	5.4	36.3636
	非口口口系小壺	4.7	31.4171
須惠器	壺	0.33	2.2059
	總計	14.96	100

種別計	個体数	個体数%
食膳具	4.21	28.1417
煮沸具	10.42	69.6524
貯蔵具	0.33	2.2059
總計	14.96	100

種別計	個体数	個体数%
黑色土器	2.18	14.5722
土師器	12.45	83.2219
須惠器	0.33	2.2059
總計	14.96	100

食膳具

種 類	器 種	個体数	個体数%
黑色土器	椀	0.05	0.51546392
	椀B	0	0
土師器	椀	6.97	71.8556701
	椀B	0	0
	非口口椀	0.12	1.2371134
	椀小鉢	0	0
	耳皿	0.13	1.34020619
	皿	0.14	1.44329897
須惠器	坏	2.29	23.6082474
	皿	0	0
總計		9.70	100

煮沸具

種 類	器 種	個体数	個体数%
黑色土器	甕	0.03	0.17016449
	小壺	0	0
土師器	口口口系甕	1.16	6.5796937
	非口口口系甕	11.97	67.8956324
	口口口系小壺	0.08	0.45377198
	非口口口系小壺	3.7	20.9868541
	埴	0.69	3.91378332
	總計		17.63

貯蔵具

種 類	器 種	個体数	個体数%
黑色土器	広口壺	0	0
	大甕	0	0
土師器	壺	0	0
	広口壺	0	0
	鉢	0.37	51.3888889
	鉢	0	0
	鉢	0	0
須惠器	甕	0	0
	大甕	0	0
	長頸甕	0.25	34.7222222
	短頸甕	0	0
	広口壺	0	0
	鉢	0.1	13.8888889
	鉢	0.72	100
總計		0.72	100

食膳具

種 類	器 種	個体数	個体数%	
黑色土器	椀	42.0	11.1131691	
	椀B	0.4	0.10583971	
	非口口椀・坏	0.1	0.02645993	
	皿	0.4	0.10583971	
	土師器	291.2	77.0513058	
	椀B	0.6	0.15879596	
	非口口椀	2.6	0.68795809	
	椀小鉢	0.9	0.23813934	
	耳皿	0.53	0.14023761	
	皿	16.6	4.39234779	
	須惠器	坏	21.1	5.58304448
	皿	1.5	0.39689899	
總計		377.93	100	

煮沸具

種 類	器 種	個体数	個体数%
黑色土器	甕	0.6	0.17346054
	小壺	0.8	0.23128072
土師器	口口口系甕	54.3	15.6981787
	非口口口系甕	181.4	52.4429026
	口口口系小壺	23.7	6.85169124
	非口口口系小壺	71.9	20.7863544
	埴	13.2	3.81613183
	總計		345.9

貯蔵具

種 類	器 種	個体数	個体数%	
黑色土器	広口壺	0.5	2.45098039	
	小壺	1.0	4.90196078	
土師器	壺	0.7	3.43137255	
	広口壺	0.8	3.92156663	
	鉢	0.1	0.49019608	
	小壺	1.4	6.8627451	
	須惠器	甕	2.0	9.80392157
	大甕	0.4	1.96078431	
	長頸甕	10.5	51.4705882	
	短頸甕	0.1	0.49019608	
広口壺	0.1	0.49019608		
鉢	2.8	13.7254902		
總計		20.4	100	

B. SI - 05

種 類	器 種	個体数	個体数%	
黑色土器		0	0	
土師器	椀	0.75	17.6056	
	非口口口系甕	0.12	2.8169	
	耳皿	0	0	
	口口口系甕	0	0	
	非口口口系甕	2.2	51.6432	
	非口口口系小壺	0.71	16.6667	
	埴	0.33	7.74648	
	須惠器	坏	0.15	3.52113
	總計		4.26	100

種別計	個体数	個体数%
食膳具	1.02	23.9437
煮沸具	3.24	76.0563
貯蔵具	0	0
總計	4.26	100

種別計	個体数	個体数%
黑色土器	0	0
土師器	4.11	96.4789
須惠器	0.15	3.52113
總計	4.26	100

C. SI - 06

種 類	器 種	個体数	個体数%	
黑色土器		0	0	
土師器	椀	0.11	2.9491	
	非口口椀	0	0	
	耳皿	0	0	
	口口口系甕	0	0	
	非口口口系甕	2.85	76.4075	
	非口口口系小壺	0.49	13.1367	
	埴	0.18	4.8257	
	須惠器	鉢	0.1	2.6810
	總計		3.73	100

種別計	個体数	個体数%
食膳具	0.11	2.9491
煮沸具	3.52	94.3699
貯蔵具	0.1	2.681
總計	3.73	100

種別計	個体数	個体数%
黑色土器	0	0
土師器	3.63	97.319
須惠器	0.1	2.68097
總計	3.73	100

D. SI - 09

種 類	器 種	個体数	個体数%	
黑色土器		0	0	
土師器	椀	0.19	7.14286	
	非口口椀	0	0	
	耳皿	0	0	
	口口口系甕	0	0	
	非口口口系甕	1.33	50	
	非口口口系小壺	1.06	39.8496	
	埴	0	0	
	須惠器	坏	0.08	3.00752
	總計		2.66	100

種別計	個体数	個体数%
食膳具	0.27	10.1504
煮沸具	2.39	89.8496
貯蔵具	0	0
總計	2.66	100

種別計	個体数	個体数%
黑色土器	0	0
土師器	2.58	96.9925
須惠器	0.08	3.00752
總計	2.66	100

G. 参考 野木遺跡 (B - Tm降下前)

種 類	器 種	個体数	個体数%
黑色土器	椀	0.53	4.97186
	土師器	椀	3.14
土師器	口口口系甕	0.38	3.56473
	非口口口系甕	5.46	51.2195
	非口口口系小壺	0.98	9.19325
	埴	0.03	0.28143
	壺	0.14	1.31332
總計		10.66	100

種別計	個体数	個体数%
食膳具	3.67	34.428
煮沸具	6.85	64.259
貯蔵具	0.14	1.313
總計	10.66	100

種別計	個体数	個体数%
黑色土器	0.53	4.97186
土師器	10.13	95.0281
總計	10.66	100

食膳具

種 類	器 種	個体数	個体数%
黑色土器		0	0
土師器	椀	0.75	

という数値が得られ五所川原領域に合致する結果となった。

五所川原産須恵器の胎土分析において松本達速氏は隠川（４）・（１２）遺跡（青森県教育委員会1998）と浪岡町に所在する高屋敷館遺跡（青森県教育委員会1998）出土の土師器の胎土を比較し、消費側の高屋敷館遺跡の土師器には耐火度の低い胎土が用いられ、五所川原窯の生産域である隠川遺跡では須恵器と同質の胎土が土師器にも用いられていることを指摘している（松本2001）。

このことを踏まえると現時点での解釈として本遺跡群から出土したH類の資料とG類の資料の一部は五所川原窯の生産域の土師器である可能性が高い資料である。

須恵器の貯蔵具では野木遺跡で軟質酸化焼成の甕が供給されており（青森県教育委員会2000）それ以外に硬質酸化焼成の甕については青森県六ヶ所村沖附（１）遺跡第22号住居跡出土資料（筆者実見）や北海道千歳市周辺の遺跡でも五所川原産須恵器の酸化焼成品が還元焼成品とセットで供給されている例（五所川原市教委藤原氏のご教示）があり、五所川原産の須恵器の酸化焼成品の貯蔵具については還元焼成品とセットで動くことは最低限認定できる。五所川原窯から20km圏内である青森市内ではこれまで食膳具の酸化硬質焼成品について若干の流通が認められてきたが、本市においてはこれらの製品に加えて酸化軟質焼成品である土師器食膳具がセットで供給されている可能性が考慮される。今回の分析結果はこれを実証できるものであるが、資料数が少なく十分な検討を経たものではないため再検討する余地が残されている。今後、市内の他の遺跡で土師器と取り扱われている資料の中でどの程度このような製品が存在するのか検討を加える必要がある。野木遺跡北地区の調査成果において前述の須恵器の胎土と比較し得る資料の存在は認められておらず、バラツキをもつ複数の他の系列が存在する可能性が高くなってきた。土師器焼成が存在し集落内に一定量の供給がなされているのに加えて複数の他系列の流入のバリエーションの複雑さが野木遺跡の特徴であることがはっきりしてきた。逆に本遺跡群の器種のバリエーションは単純で、胎土のバリエーションは野木とは異なるバラツキを持っていることが判明した。わずか1.5kmしか離れていない両集落間でこのような差異を招いた結果は、自家生産を伴う流通消費型の基幹集落と流通消費のみの小規模集落の差であると考えられ、流通経路に差異を持つものと判断できる。

黒色土器については組成比率が野木遺跡では11%であったのに対して0.5%と極端に少ない点が本遺跡群での特徴である。野木遺跡の組成比において個別の遺構単位で床面にTo - a火山灰が堆積していた表33 - Fに提示したSI - 59資料では黒色土器と土師器の比率が50 : 50であったのに対し、その建物跡の建て替えである資料で堆積層にB - Tmが確認されたSI - 58（表33 - G）では黒色土器と土師器の比率が14 : 76に変化していた（青森市教育委員会2001）。本遺跡群の遺構毎の組成比の一部は表33 - B ~ Dに提示したが、非黒色の土師器主体で、それに介在するのは須恵器の坏のみで、黒色土器は払拭された食膳具構成であることがわかる。

このことは野木遺跡のように前代から黒色土器を持ちうる集落は黒色土器を定量持ち続け継続するが、本遺跡群のような新興の集落では黒色土器よりむしろ五所川原産の須恵器と他地域産の土師器の流入が食膳具において大きな構成を果たした可能性がある。黒色土器の存在比が少ない集落は五所川原窯周辺の隠川（２）遺跡（五所川原市教育委員会2000）、隠川（４）・（１２）遺跡（青森県教育委員会1998）などが挙げられ、同様に須恵器の食膳具の存在率が高い状況である。ただし、これらの集落は須恵器の生産地周辺の集落であることが消費地である本遺跡群の性格とは大きく異なる点であり、他の消費型の集落においてこのような傾向を示す集落がどのくらい存在するか、具体的組成の提示がなされている事例が少ないため現時点では比較検討に至れないが、少なくとも本遺跡群は五所川原窯周辺の生産域の集落の組成状況の影響下に置かれていたようである。

一方、本市より東方に位置する上北地方の六ヶ所村域の遺跡では10世紀代になると煮沸具の出土量が極端に増加し、食膳具は減少する傾向にあるが、食膳具の構成は黒色土器主体で、非ロク口の輪積成形による粗雑な土器が定量存在し、非黒色のロク口食膳具は少ない傾向にある。煮沸具においてもロク口系が少ない傾向が認められ、本遺跡群とほぼ同様の傾向を呈している。黒色土器を抱える食膳具の構成については地域差が存在しているものと考えられる。

煮沸具は非ロク口甕が全体の約67%を占め、ロク口系は甕が6%、小甕が0.4%と低率である。野木遺跡の資料と比較してみると野木遺跡の方がロク口系の煮沸具の比率が多く、食膳具同様野木遺跡では在地で生産されていた可能性が考えられる。両遺跡で共通しているのは非ロク口小甕と埴の組成比が類似した傾向(非ロク口小甕=約20%、埴=約4%)にあり、組成において定量の構成要素であった可能性がある。

貯蔵具は本遺跡群の資料は全資料の中に占める割合は約2.6%と野木遺跡の2.7%とほぼ同率の状況であるが、個体数が少ないため検討することができない。

b. 胎土

前項で若干触れたが、本遺跡群の出土土師器については当委員会で調査を実施した野木遺跡北地区の出土資料(青森市教育委員会2001)と同様に蛍光X線分析、重鉍物組成分析による胎土分析を実施している。また、当委員会で発掘調査を実施した縄文時代後期の環状列石を主体とする小牧野遺跡でも同様の分析を実施している(青森市教育委員会2002)。これらの遺跡は本遺跡群と別丘陵に所在する遺跡であるが、全て八甲田火砕流によって形成された火山性台地上に立地する遺跡で、火砕流堆積物である田代平溶結凝灰岩の堆積層の上位には(三内火山灰)、大谷火山灰層と月見野火山灰層が堆積しており、遺跡の地山土として月見野火山灰層と大谷火山灰層が全ての遺跡で認められている。野木遺跡と本遺跡群の調査では基盤層の地山土である月見野火山灰層と大谷火山灰層のサンプルは抽出できなかったが、重鉍物分析においては参考資料として小牧野遺跡の検出資料について比較検討を依頼している。

分析結果については第 3 章 1 節に提示しているが、小牧野遺跡の大谷火山灰層及び月見野火山灰層では単斜輝石の存在率が高く、出土土器は野木遺跡で A 類と分類された資料も同様の構成を示している。野木遺跡での重鉍物組成分類を小牧野遺跡出土資料に適用した分類では、A 類が「砂が混入している粘土塊」、B 類が「第 3 号粘土埋納遺構の粘土」、D 類が「第 2 号粘土埋納遺構の粘土」と「大谷火山灰層」という結果になっており、本書においては提示されていないが小牧野遺跡出土土器の重鉍物組成の結果は A 類と B 類に近似した結果を示しており、縄文時代と平安時代という時代差は持ち得ているが、基盤となる地山は同様の火山灰からなっていることから、在地の要素として共通する普遍的要素を持ちえている。また、在地の地山の最上層である浮石粒を多く含み粘性のない月見野火山灰については単独では合致する資料は見いだされておらず、単独での胎土としての利用が想定できないことが裏付けられた。

本遺跡群の資料の分析結果については野木遺跡で主体的に認められた A 類は存在せず、B 類は 1 点のみ認められ、C 類が 4 点と多数を占める状況で、それ以外の D・E・F 類は A 類同様存在しない結果であった。また、前項でも述べたが新たに G・H 類が新分類として加わっている。肉眼観察における胎土の特徴として在地と考えられる B 類に分類された資料は、石英と赤色粒とした酸化鉄分を多量、月見野火山灰層起因と考えられる浮石粒を微量含みパサパサした質感を有しているのが特徴である。同様に赤色粒を中量～多量含む胎土は新出の H 類でも認められる特徴であるが、H 類は海成起源を示す海綿骨針を含んでおり、質感についてもザラザラした質感を有する資料や、製作技法が須恵器に類似しているなどこれまでの類型化された資料とは大きく異なる特徴を有している。

前回の野木遺跡の分析において異地性が高い資料として C～F 類が指摘されていたが、報告書中の考察において筆者は土師器焼成坑で焼成された SI - 174・SK - 198 出土資料は前述の B 類と同様に浮石粒

を含む特徴があることから、在地で生産された焼成品として在地産の認識を提示し、分析結果とは異なる見解を提示した（木村2001）。その後の小牧野遺跡及び本遺跡群の分析結果を踏まえて野木遺跡の分析結果のA～F類のうちC類以下の異地性についての判断を訂正する見解を分析実施者であるパリノ・サーヴェイ株式会社は本書内で提示しており、野木遺跡の分析結果のA～F類については全ての分類において在地産の可能性を有している。

今回の分析結果でC類と分類されたものは、前回の分析結果と同様に浮石粒を含むもの以外に海綿骨針を含む胎土も含まれており、一概に在地性を裏付けるものではなく非在地的要素を肯定する資料も含まれている。前述の焼成坑の資料は、前回と今回のC類と分類された資料の中では、不透明鉱物とその他の鉱物の構成比が極端に多い特徴を有し、この傾向は沢田庄一郎氏によって提示された青森市周辺の第四紀火山性噴出物の重鉱物組成比（沢田1977）や本遺跡群の分析資料番号12のサンプルとしてI類に認定された大谷火山灰層基盤の竪穴建物跡床面直下の粘土資料と比較できる資料であり、C類の認定について在地・非在地が混在している可能性も否定できず今後さらに検討の余地がある。

同様に今回新出の分類であるG類についても角閃石の量が極端に多い特徴を持つ一群ではあるが、胎土の特徴として海綿骨針が含まれる資料と骨針の含まれない資料があり、C類の結果と同様に今後の資料の蓄積をまたなければならない。

重鉱物分析資料の一部は同一資料に対して蛍光X線分析も実施している。その分析結果は、前項で若干触れたが、野木遺跡出土資料について今回追加資料として、前述の野木遺跡内の土師器焼成坑資料であるSK - 198と県埋文の調査区よりさらに南方に位置する市道部分の調査区の第1号竪穴遺構として取り扱った土師器焼成坑の廃棄品の一括遺物、さらに野木遺跡の遺構内出土資料と新町野遺跡遺構内出土資料の一部について再度分析を依頼し、本遺跡出土の遺物と比較を実施している。SK - 198出土資料（9世紀末～10世紀初頭）と第1号竪穴遺構（10世紀前半）については時期差が存在しており、また直線距離で500m以上離れた地点から検出しているという距離差も存在している。それを踏まえると同一の製作集団・系譜を辿ることはできないため単純に比較はできないが、同一丘陵で焼成が行われた在地の製品であることには変わりはない。前回の三辻氏の分析結果ではSK - 198出土資料が遺構内出土資料を含む分析資料の中で多数を占めたa類、第1号竪穴遺構出土資料については異地性のあるc類と判断された。ただ、重鉱物分析と同様に筆者は肉眼的観察レベルから非在地と在地の可能性のある資料が混在している点を指摘し、その在地・非在地認定については保留する見解を筆者は提示した（木村2001）。今回の分析結果において両資料は、新たにA類（第1号竪穴遺構出土資料）とB類（SK - 198出土資料）に再分類され、前回の分析結果と同様に鉄分の量比において差異が認められ時期差と集団差を含めてまとまりを持つ群であることが再認定された。このことを踏まえると野木遺跡では系譜の異なる粘土を胎土として利用した可能性が高い結果となっている。

本稿中で野木遺跡の遺構内出土資料と焼成坑出土資料について再度比較検討されているが、前回の分析結果のデータが含まれていない為、前回の分析では遺構内出土資料の多数の分析値と合致したSK - 198出土資料群と今回分析依頼した野木遺跡の遺構内出土資料が合致しない結果となり、前回の結果とは異なる見解が提示されている。これは分析サンプルの性格の違いの差（遺構内出土資料については前回分析で足りなかった資料を依頼している）である可能性が高く、焼成坑製品と遺構内出土の土器との比較については、これまでの分析結果をとりまとめなければ位置づけがなされないと判断される。よってこの問題点については、別稿で再検討を加えたいと考えている。

c. 遺物の変遷

本遺跡群は最低限To - a火山灰降下前、すなわち10世紀初頭以前に集落が開始されたものと考えら

れるが、本調査において検出した遺構はTo - a火山灰降下後に構築、B - Tm火山灰降下前に廃絶されたものが主体であり、その点については野木遺跡北地区で主体を占めた部分の様相と同様の状況である。

野木遺跡の資料は9世紀代の遺物が混入する状況が多く、報告書中で明確に土器の時期変遷まで検討するには至らなかったが、本遺跡群の資料についても廃棄の状況は量的には少ないがほぼ野木遺跡の状況と同様で、明確に遺構内の床面・床面直上資料がその遺構に帰属していない可能性を多分にも持ち得ている。

そのため、資料数が絶対的に不足した本遺跡での調査成果では詳細な検討に及ぶことができず、古相の様相を持つ遺物が新段階の遺構の中に混入している事実も否認できないことから具体的に変遷を辿ることができず、青森市内の他の遺跡を含めた時期変遷とは等価ではない。

なお、須恵器については土師器にくらべ転用等も含め継続幅を持つ資料であり、参考資料程度の記載に留めた。

食膳具のうち黒色土器は遺構外から椀の口縁部のみで、全体形が分かる資料がほとんどなく、土師器については椀・皿・耳皿が出土した。また、須恵器については坏のみの出土で皿の出土が認められなかった。

また、煮沸具についてはロクロ系・非ロクロとも甕・小甕・埴が認められたが、野木遺跡と同様羽釜は出現していない。ロクロ系の存在比が少なく、消費集落としての様相を反映しているものと考えられる。

雲谷山吹遺跡群 1 段階

食膳具

SI - 08・10・11出土資料が該当する。概ね10世紀第1四半期併行期の範疇内に捉えられる。ただし、須恵器については古相の様相があり、土師器については野木遺跡のものに比べ若干新相の主体であるのも事実である。食膳具は器高指数40～53、底径指数36～45を測る。前段からの深身のタイプが継続し、体部に綾段を有するタイプと、あまり綾段が顕著でなく体部下半に膨らみを持ち、口縁部をつまみ上げるように立ち上がるタイプがある。SI - 11では既に微高台状のタイプ(図37 - 13)が出現している。須恵器は綾段を有するタイプと陶器系統の影響を受けた口縁端部で反り返るタイプが存在する。

煮沸具

頸部の短頸化が既に生じており、外面のヘラについても頸部を通り抜け口縁部直下まで及んでいる資料が含まれる。ただし、頸部の幅についてはやや広い資料が多い状態である。

雲谷山吹遺跡群 2 段階

食膳具

本調査区内では、SI - 03・05・06・09出土資料が該当する。B - Tm火山灰降下前の10世紀第2四半期併行期の範疇に捉えられる。SI - 03・05が本資料群の中では最も新しい要素をもつ資料で、食膳具では器高指数36～41、底径指数41～46を測る。前述の2タイプとも浅身の器形に変化し、口縁部はつまみ返すように外反する。皿形の浅身の器形についても存在するが、口縁部の返しはかなり開き気味の様相を呈する。

煮沸具

体部の肥幅化が進むタイプと前段からの直胴気味のタイプが併存する。製作手法がかなり粗雑化しているものが多く、体部の肥幅化において直胴気味な部分と膨らむ部分が同一個体内で併存する資料も存在する。口縁端部の外反はさらに進みかなり平滑に外反するものが多くなる。また、短頸化したタイプで、口縁部の外反がほとんどないタイプ(図87 - 5、図67 - 13)が出現する。このタイプは10世紀中葉以降にも継続し、体部の肥幅化が進んでいくタイプに続くものと考えられる。

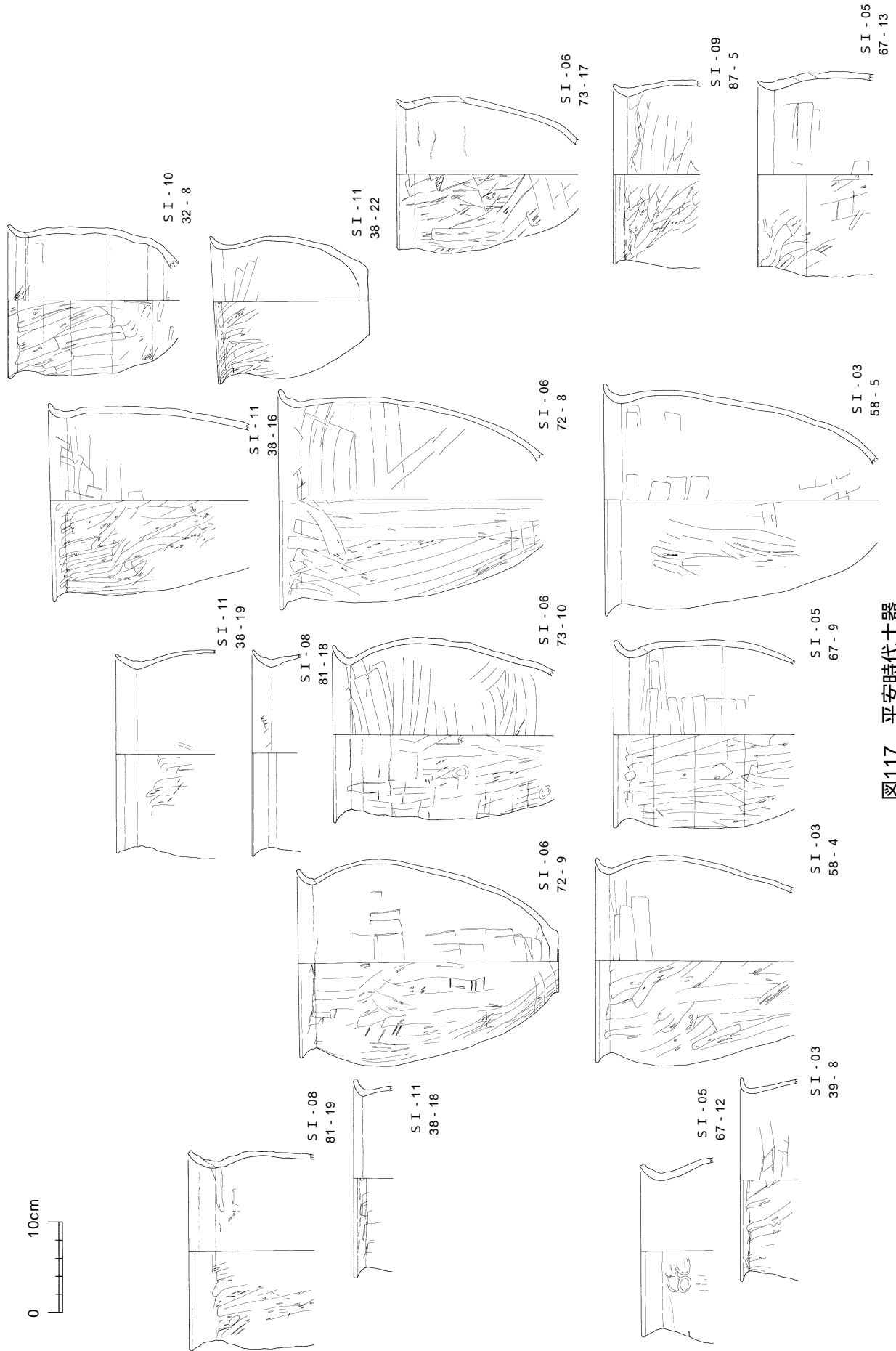


図117 平安時代土器

2. 鉄関連遺物

本遺跡群の発掘調査では、雲谷山吹(5)～(7)遺跡から、総重量にして4,171gの鉄関連遺物が出土した。肉眼観察を行い、遺物構成を整理した結果、これらはいずれも鍛冶工程に由来するものと考えられる。これらの遺物は遺構内覆土及び遺構外から散発的に出土したものであり、廃滓場的な様相は認められない。調査において鍛冶炉は検出されなかったが、遺跡内からこれらの遺物が出土していることから、近隣に鍛冶炉が存在している可能性が高い。ここでは、本遺跡群における各遺構及び遺構外から出土した鉄関連遺物について遺物の種類ごとに一括して再掲載し、その概要を記述する。

なお、図中における明朝体の番号は本節における通し番号であり、()内には図版番号と構成図番号・構成番号を示している。「分析」という文言が付してある遺物については金属学的調査を行っており、数字はその資料番号である。金属学的調査結果については第 章第1節に掲載している。

鉄関連遺物の分類は以下のとおりである。

炉壁

炉壁溶解物

流動滓

椀形鍛冶滓 (特大)

(大)

(中)

(小)

(含鉄)

含鉄鉄滓

鉄器

砥石

羽口

炉壁(図121-1～2)

鍛冶炉の炉体上部にあたる壁の破片である。1はSI-03、2はSI-04から出土したものである。いずれも溶解がみられず、内面に相当する破片ではない。

炉壁溶解物(図121-3～8)

炉壁が炉内の熱によって溶解したものである。破面からみる滓内部はスポンジ状を呈し、重量感が無い。3・4はSI-10、5・6はSI-04、7はSK-03、8は遺構外から出土した資料である。いずれも黒褐色～暗褐色のガラス質に溶解しているが、その形状をみると流動状で不整形を呈するもの(1～7)、板状を呈するもの(8)がある。

流動滓(図121-9)

流動状の滓である。9はSI-02から出土した資料である。形状は扁平な板状を呈する。

椀形鍛冶滓(図121-10～図124-41)

鍛冶の工程において、鍛冶炉の炉底や木炭層中において対象物から溶融した滓分や半溶解の鉄が重層して形成された椀形の滓である。本遺跡群から出土した椀形鍛冶滓は、いずれも原形をとどめておらず、割られているものである。推定される平面的な大きさや厚み、内在する金属鉄の有無から、椀形鍛冶滓(中):10～18・(小):19～33・(含鉄):34～41に区分できる。推定される平面形状は概ね円形～楕円形を呈するが、23・33のように部分的に棒状を呈するものも存在する。13の上面には工具痕と思われる痕跡が認められ、24の上面には大きな木炭痕がみられる。

含鉄鉄滓（図124 - 42～図125 - 54）

鉄滓中に金属鉄が含まれるものである。鉄塊系遺物との区別が困難であったため、金属鉄が内在し、椀形鍛冶滓と区別できるものを一括した。42はSI - 10、43はSK - 33、44・45はSI - 06、46～50はSI - 08、51・52はSI - 09、53・54は遺構外から出土した資料である。メタル度はL（ ）が42・45、それ以外は（ ）である。色調は概ね、黒褐色～茶褐色を呈する。45のように錆膨れがみられるものや、47～49のように小さな木炭粒が付着しているものがみられる。

鉄器（図125 - 55～57）

55・57は棒状を呈する鉄器であり、56は刀子の柄と考えられる。55・56はSI - 06、57はSI - 09から出土した資料である。

砥石（図125 - 58～60）

58・59はSI - 10、60はSI - 08から出土した資料である。いずれもスリ面のほか、鉄錆の付着がみられる。

羽口（図126 - 61～67）

鞆と連結し、送風管として用いられた筒状の土製品である。61・62はSI - 11、63はSX - 06、64はSI - 05、65・66はSI - 08、67はSI - 09から出土した資料である。断面形状は、61・62・67は不明であるが、その他は断面の一部において平坦面を有する形状であり、特に64は典型的なカマボコ形である。63～66は、炉内の挿入されていた際の被熱の痕跡がみられる。66・67は末端がラッパ状に開いている。

表34 鉄関連遺物重量計測表

遺構名	炉壁	炉壁溶解物	流動滓	椀形鍛冶滓			含鉄鉄滓				鉄器	計
				(中)	(小)	(含鉄)	L()	M()	H()	()		
SI - 02			51.8									51.8
			100%									-
SI - 03	4.7											4.7
	100%											-
SI - 04	3.3	14.7		154.6	21.5							194.1
	1.7%	7.6%		78.7%	11.0%							-
SI - 06							66.1			7.7	12.4	86.2
							76.7%			8.9%	14.4%	-
SI - 08										52.4		52.4
										100%		-
SI - 09					366.4					19.5	29.4	415.3
					88.2%					4.8%	7.0%	-
SI - 10		32.9		264.6			79.5					377.0
		8.7%		70.2%			21.1%					-
SI - 11				141.5	140.8							282.3
				50.1%	49.9%							-
SK - 03		25.2		252.5	7.8	28.8						314.3
		8.0%		80.3%	2.5%	9.2%						-
SK - 33										12.2		12.2
										100%		-
遺構外	35.8			408.7	193.8	1,758.2				36.9		2,433.4
	1.4%			16.8%	8.0%	72.3%				1.5%		-
計	43.8	72.8	51.8	1,221.9	730.3	1,787.0	145.6			128.7	41.8	4,171.9
	1.1%	1.7%	1.2%	28.9%	17.3%	42.3%	3.5%			3.0%	1.0%	-

<p>㊤ S I - 10</p>	<p>炉壁溶解物 1 2</p>	<p>椭圆形冶滓(中) 3</p>	<p>含铁滓 4</p>	<p>砥石 5 6</p>
<p>㊤ S I - 11</p>	<p>椭圆形冶滓(中) 1</p>	<p>椭圆形冶滓(小) 2 3 4</p>	<p>羽口 5 6</p>	
<p>㊤ S K - 33</p>	<p>含铁滓 1</p>	<p>㊤ S I - 02 流动滓 1</p>	<p>㊤ S I - 04 炉壁 1 炉壁溶解物 2 3</p>	<p>㊤ S I - 05 羽口 1</p>
<p>㊤ S I - 06</p>	<p>含铁滓 1 2</p>	<p>椭圆形冶滓(中) 4 椭圆形冶滓(小) 5</p>	<p>铁器 3 4</p>	
<p>㊤ S X - 06</p>	<p>羽口 1</p>	<p>㊤ S I - 03 炉壁 1</p>		

图118 雲谷山吹(5)遺跡出土鉄関連遺物構成表

①S I - 08	含鉄鉄滓	砥石	羽	口
②S I - 09	含鉄鉄滓	椀形鍛冶滓 (中)		羽
③S K - 02	含鉄鉄滓	砥石	羽	口
④遺構外	炉壁溶解物	椀形鍛冶滓 (中)	椀形鍛冶滓 (小)	椀形鍛冶滓 (小)

図119 雲谷山吹(6)遺跡出土鉄関連遺物構成表

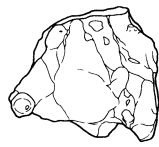

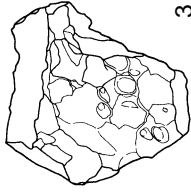
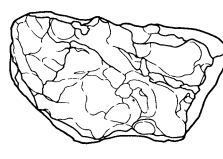
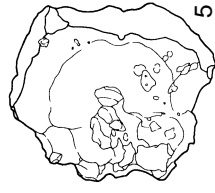
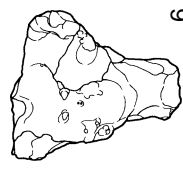

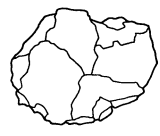
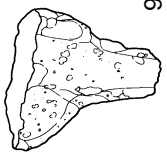
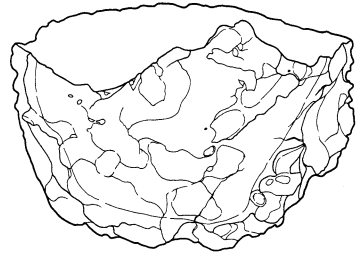
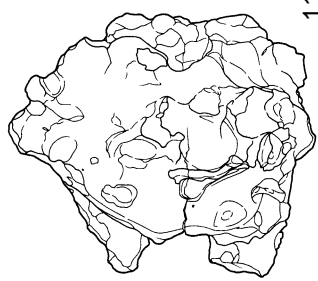
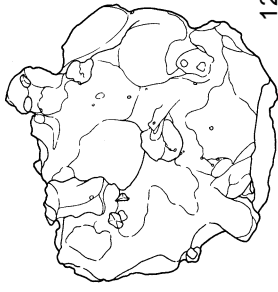
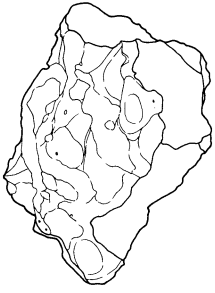





⑩遺構外	椀形鍛冶滓(中)	椀形鍛冶滓(小)	椀形鍛冶滓(含鉄)	含鉄鉄滓
	 1  2  3  4  5	 6  7  8  9	 10  11  12  13  14  15  16	 17  18

図120 雲谷山吹(7)遺跡出土鉄関連遺物構成表

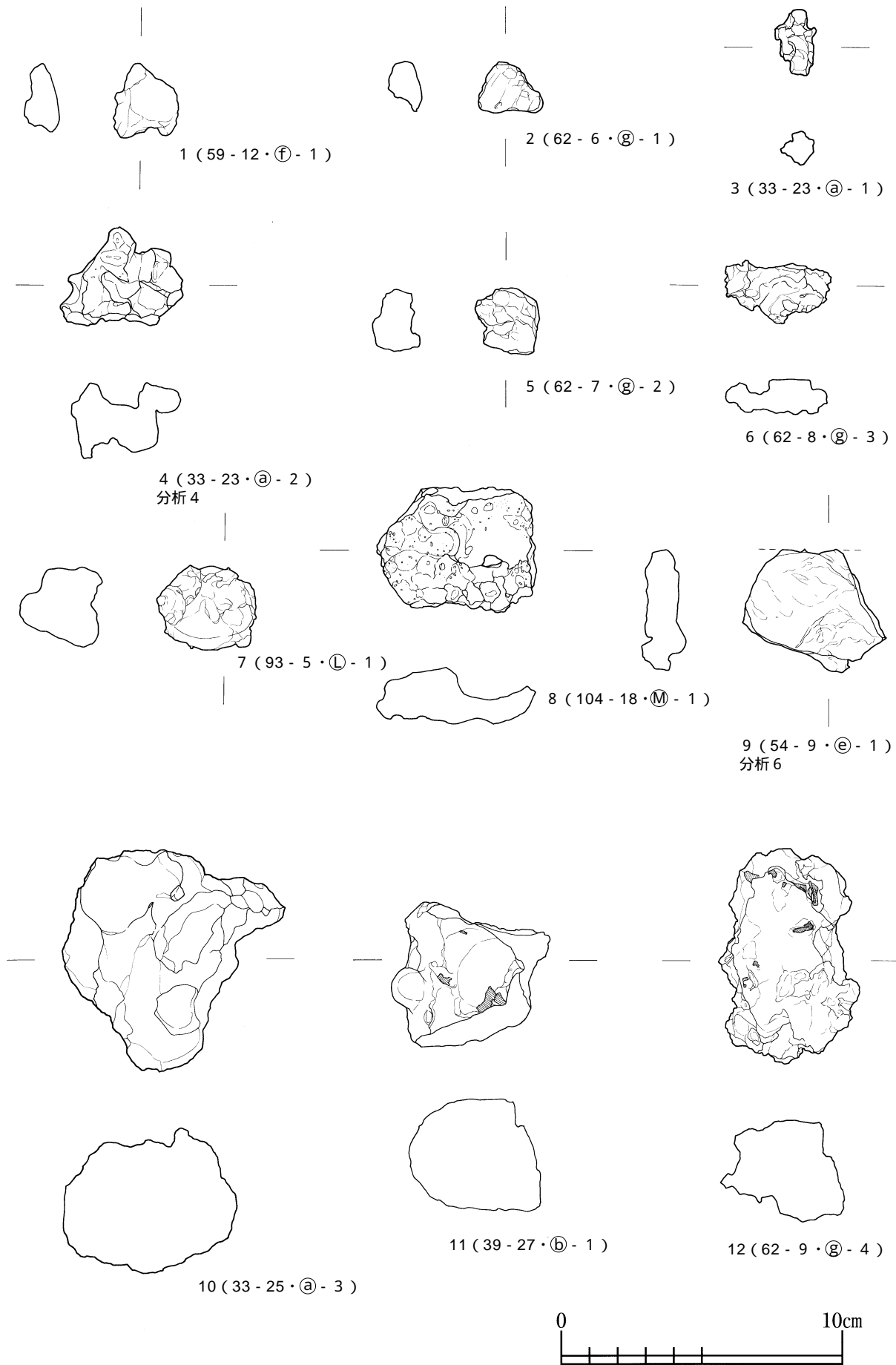


図121 鉄関連遺物

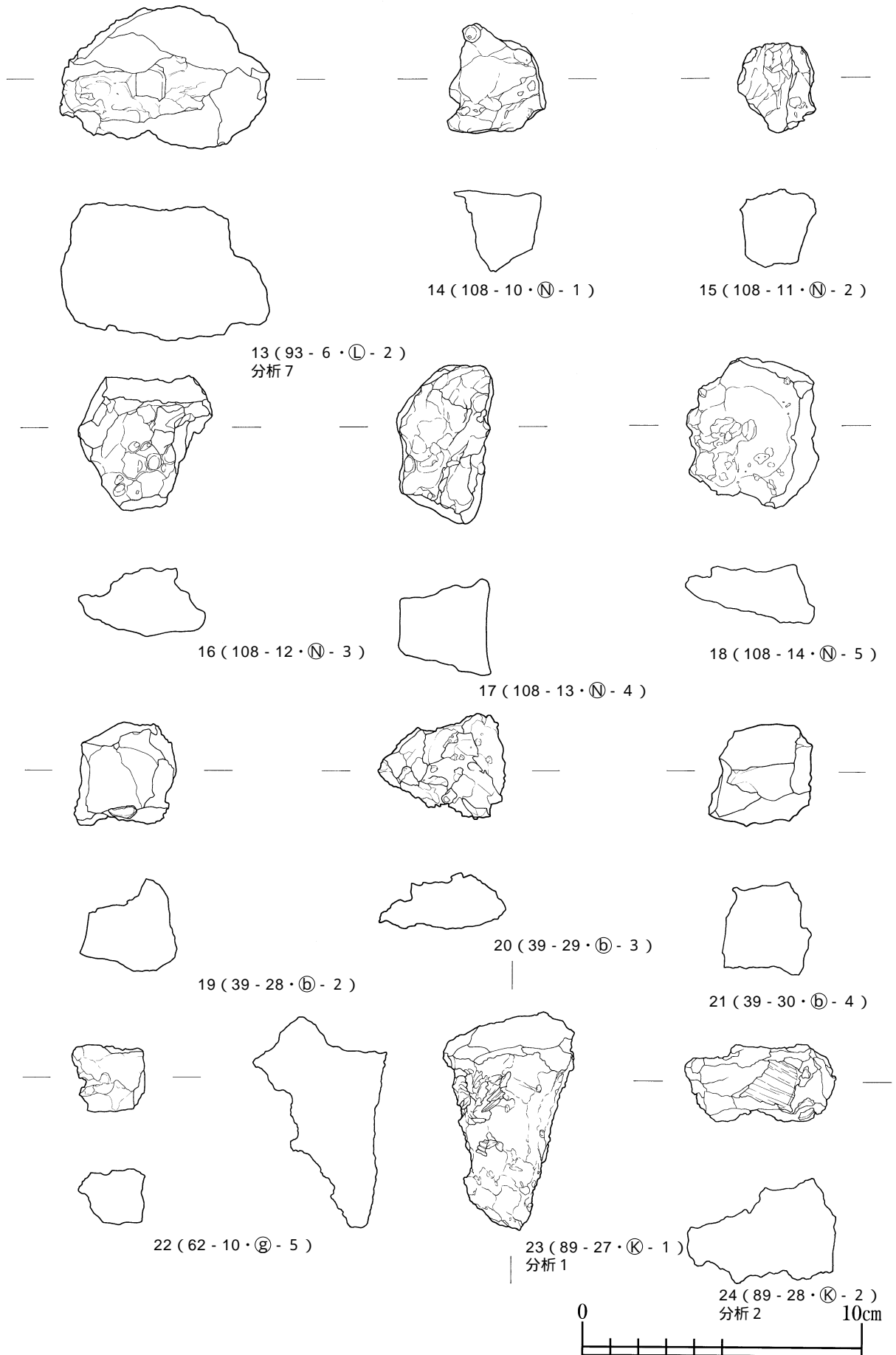


図122 鉄関連遺物

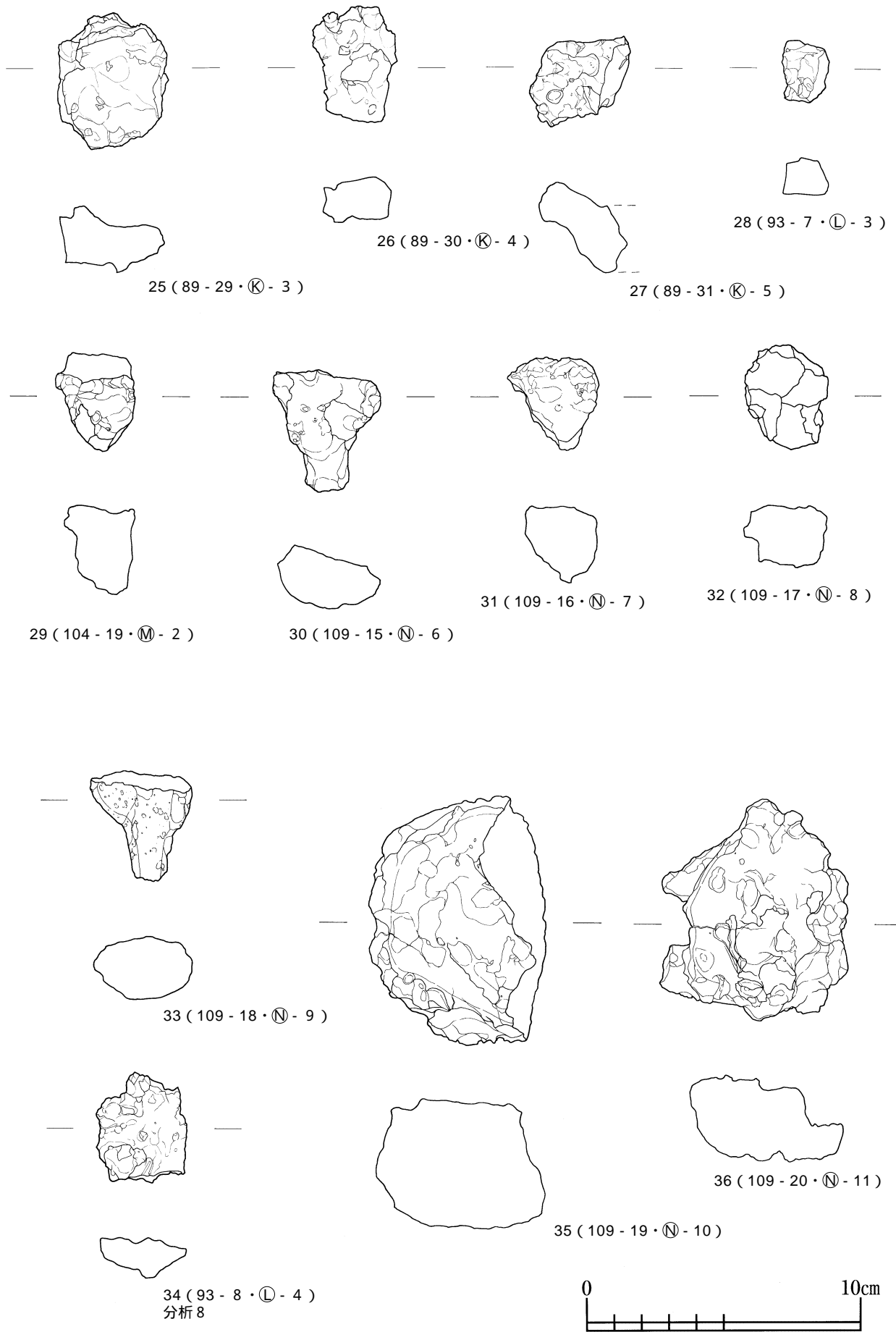


図123 鉄関連遺物

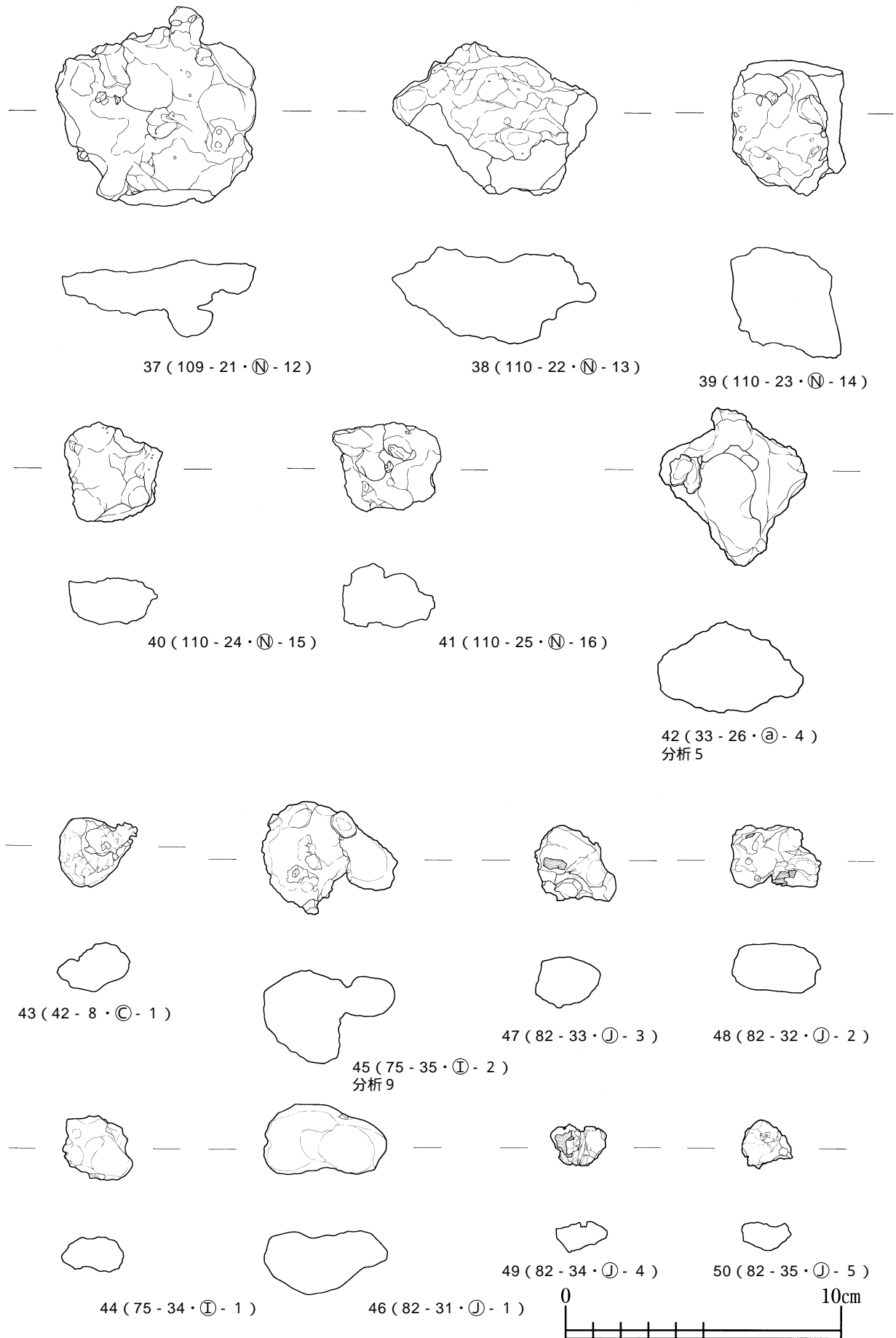


図124 鉄関連遺物

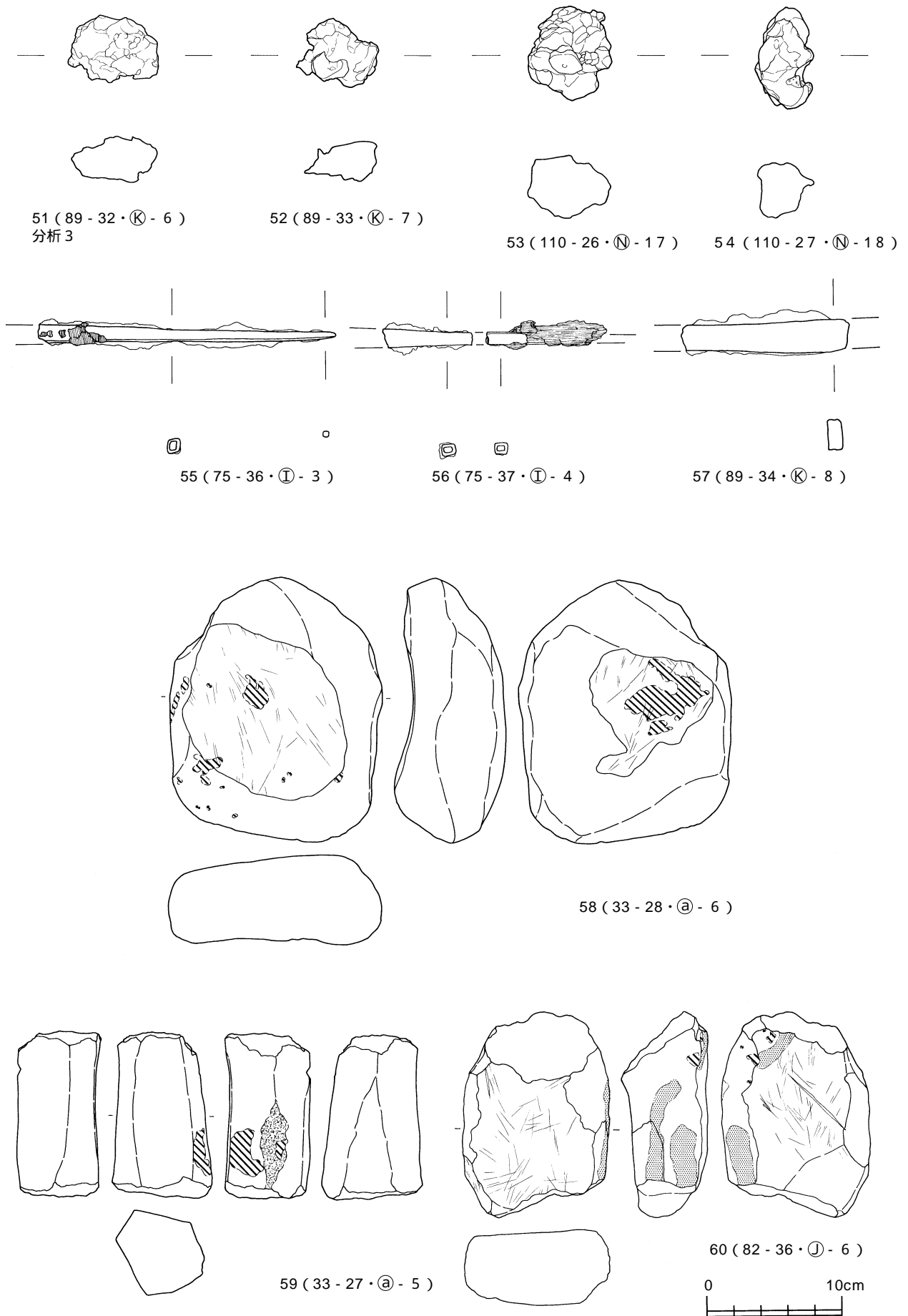


図125 鉄関連遺物

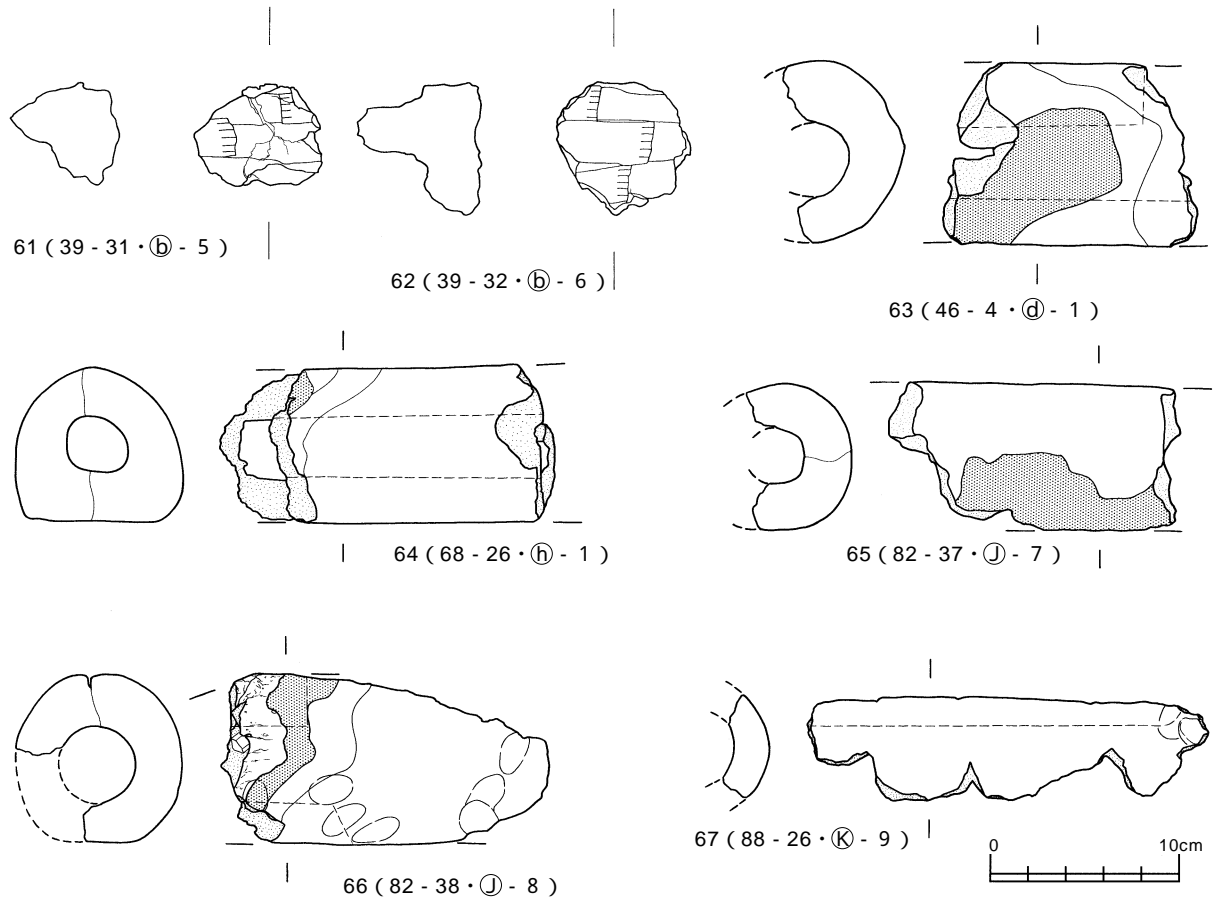


図126 鉄関連遺物

表35 雲谷山吹(4)~(7)遺跡出土鉄関連遺物観察表

番号	図版番号	遺跡名	遺構名	位置・層位	構成番号	種別	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	磁着度	メタル度	色調	特記事項
1	59-12	雲谷山吹(6)	SI-03	2層	f	1	炉壁	27×23×13	4.7	なし	黄褐色	
2	62-6	雲谷山吹(6)	SI-04		g	1	炉壁	23×18×12	3.3	なし	黄褐色	
3	33-23	雲谷山吹(5)	SI-10	床直	a	1	炉壁溶解物	23×15×12	3.2	なし	黒褐色	
4	33-23	雲谷山吹(5)	SI-10	pit20 2層	a	2	炉壁溶解物	44×35×27	29.7	なし	黒褐色~灰褐色	分析No4
5	62-7	雲谷山吹(6)	SI-04		g	2	炉壁溶解物	24×23×17	6.1	なし	黒褐色~灰褐色	
6	62-8	雲谷山吹(6)	SI-04		g	3	炉壁溶解物	38×22×12	8.6	なし	黒褐色	
7	93-5	雲谷山吹(6)	SK-03	2層	l	1	炉壁溶解物	35×30×29	25.2	なし	黒褐色~灰褐色	
8	104-18	雲谷山吹(6)	遺構外		m	1	炉壁溶解物	57×45×20	35.8	なし	黒褐色~灰褐色	
9	54-9	雲谷山吹(6)	SI-02		e	1	流動滓	52×44×16	51.8	なし	暗褐色	分析No6
10	33-25	雲谷山吹(5)	SI-10	2層	a	3	椀形鍛冶滓(中)	80×79×52	264.6	なし	茶褐色~黒褐色	
11	39-27	雲谷山吹(5)	SI-11	3層	b	1	椀形鍛冶滓(中)	56×52×40	141.5	なし	黒褐色	
12	62-9	雲谷山吹(6)	SI-04	1層	g	4	椀形鍛冶滓(中)	77×50×36	154.6	なし	黒褐色	
13	93-6	雲谷山吹(6)	SK-03	2層	l	2	椀形鍛冶滓(中)	75×51×49	252.5	なし	黒褐色	分析No7 上に工具痕あり
14	108-10	雲谷山吹(7)	遺構外		n	1	椀形鍛冶滓(中)	40×35×29	55.2	なし	黒褐色	
15	108-11	雲谷山吹(7)	遺構外		n	2	椀形鍛冶滓(中)	33×28×28	50.1	なし	黒褐色	
16	108-12	雲谷山吹(7)	遺構外		n	3	椀形鍛冶滓(中)	48×48×24	66.5	なし	黒褐色	
17	108-13	雲谷山吹(7)	遺構外		n	4	椀形鍛冶滓(中)	57×35×34	106.8	なし	黒褐色	
18	108-14	雲谷山吹(7)	遺構外		n	5	椀形鍛冶滓(中)	54×47×21	70.1	なし	黒褐色	
19	39-28	雲谷山吹(5)	SI-11	SN床	b	2	椀形鍛冶滓(小)	37×37×33	67.2	なし	黒褐色~暗褐色	
20	39-29	雲谷山吹(5)	SI-11	床	b	3	椀形鍛冶滓(小)	46×38×20	25.0	なし	黒褐色~暗褐色	
21	39-30	雲谷山吹(5)	SI-11	SN 6層	b	4	椀形鍛冶滓(小)	37×36×33	48.6	なし	黒褐色~暗褐色	
22	62-10	雲谷山吹(6)	SI-04	3層	g	5	椀形鍛冶滓(小)	26×24×20	21.5	なし	黒褐色~暗褐色	
23	89-27	雲谷山吹(6)	SI-09	SN 2層	k	1	椀形鍛冶滓(小)	79×47×47	165.3	なし	黒褐色~暗褐色	分析No1
24	89-28	雲谷山吹(6)	SI-09	9層	k	2	椀形鍛冶滓(小)	54×28×36	63.6	なし	黒褐色~暗褐色	分析No2
25	89-29	雲谷山吹(6)	SI-09	中層	k	3	椀形鍛冶滓(小)	50×40×24	79.6	なし	黒褐色~暗褐色	
26	89-30	雲谷山吹(6)	SI-09	覆土	k	4	椀形鍛冶滓(小)	43×31×16	30.0	なし	黒褐色~暗褐色	
27	89-31	雲谷山吹(6)	SI-09	SN 21層	k	5	椀形鍛冶滓(小)	37×34×33	27.9	なし	黒褐色~暗褐色	
28	93-7	雲谷山吹(6)	SK-03	2層	l	3	椀形鍛冶滓(小)	23×18×13	7.8	なし	黒褐色~暗褐色	
29	104-19	雲谷山吹(6)	遺構外		m	2	椀形鍛冶滓(小)	36×29×32	34.5	なし	黒褐色~暗褐色	
30	109-15	雲谷山吹(7)	遺構外		n	6	椀形鍛冶滓(小)	45×39×23	49.9	なし	黒褐色~暗褐色	
31	109-16	雲谷山吹(7)	遺構外		n	7	椀形鍛冶滓(小)	34×34×28	32.3	なし	黒褐色~暗褐色	
32	109-17	雲谷山吹(7)	遺構外		n	8	椀形鍛冶滓(小)	38×31×23	38.9	なし	黒褐色~暗褐色	
33	109-18	雲谷山吹(7)	遺構外		n	9	椀形鍛冶滓(小)	40×38×23	38.2	なし	黒褐色~暗褐色	

番号	図版番号	遺跡名	遺構名	位置・層位	構成番号	種別	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	磁着度	メタル度	色調	特記事項
34	93-8	雲谷山吹(6)	SK-03	覆土	i	4	40×33×14	288	4	M()	黒褐色～暗褐色	分析No.8
35	109-19	雲谷山吹(7)	遺構外		n	10	91×65×47	4292	9	L()	黒褐色～暗褐色	
36	109-20	雲谷山吹(7)	遺構外		n	11	81×68×32	2057	7	H()	黒褐色～暗褐色	
37	109-21	雲谷山吹(7)	遺構外		n	12	73×72×27	1544	7	L()	黒褐色～暗褐色	
38	110-22	雲谷山吹(7)	遺構外		n	13	74×55×35	1799	6	L()	黒褐色～暗褐色	
39	110-23	雲谷山吹(7)	遺構外		n	14	49×42×40	1232	6	H()	黒褐色～暗褐色	
40	110-24	雲谷山吹(7)	遺構外		n	15	37×36×17	276	3		黒褐色～暗褐色	
41	110-25	雲谷山吹(7)	遺構外		n	16	40×32×23	365	5	M()	黒褐色～暗褐色	
42	33-26	雲谷山吹(5)	SI-10	SN 13層	a	4	57×53×33	795	5	L()	茶褐色	分析No.5
43	42-8	雲谷山吹(5)	SK-33	1層	c	1	29×25×18	122	5		黒褐色～暗褐色	
44	75-34	雲谷山吹(5)	SI-06	pit7 2層	i	1	25×24×13	77	3		黒褐色～暗褐色	
45	75-35	雲谷山吹(5)	SI-06	7層	i	2	50×41×34	661	6	L()	黒褐色～暗褐色	分析No.9
46	82-31	雲谷山吹(6)	SI-08	床面	j	1	45×25×23	246	3		黒褐色～暗褐色	
47	82-33	雲谷山吹(6)	SI-08	pit1 1層	j	3	33×23×18	122	3		黒褐色～暗褐色	
48	82-32	雲谷山吹(6)	SI-08	pit1 1層	j	2	30×28×19	106	2		黒褐色～暗褐色	
49	82-34	雲谷山吹(6)	SI-08	pit1 1層	j	4	20×15×11	27	2		黒褐色～暗褐色	
50	82-35	雲谷山吹(6)	SI-08	pit1 1層	j	5	19×18×10	23	2		黒褐色～暗褐色	分析No.3
51	89-32	雲谷山吹(6)	SI-09	中層	k	6	33×25×17	126	3		黒褐色～暗褐色	
52	89-33	雲谷山吹(6)	SI-09	下層	k	7	30×26×14	69	3		黒褐色～暗褐色	
53	110-26	雲谷山吹(7)	遺構外		n	17	35×31×23	211	4		黒褐色～暗褐色	
54	110-27	雲谷山吹(7)	遺構外		n	18	38×22×20	158	5		黒褐色～暗褐色	
55	75-36	雲谷山吹(5)	SI-06	床直	i	3	111×10×6	76	3		黒褐色	
56	75-37	雲谷山吹(5)	SI-06	床直	i	4	78×12×6	48	2		黒褐色	
57	89-34	雲谷山吹(6)	SI-09	床直	k	8	63×17×6	294	7	L()	黒褐色	
58	33-28	雲谷山吹(5)	SI-10	床直	j	7	135×157×81	2,8350	なし	なし		
59	33-27	雲谷山吹(5)	SI-10	SN 3層	j	8	123×74×63	5741	なし	なし		
60	82-36	雲谷山吹(6)	SI-08	6層	k	9	153×110×63	1,2940	なし	なし		
61	39-31	雲谷山吹(5)	SI-11	SN 3層	a	6	34×27×24	150	なし	なし	黄褐色(一部灰褐色)	
62	39-32	雲谷山吹(5)	SI-11	SN 6層	a	5	35×35×33	208	なし	なし	黄褐色	
63	46-4	雲谷山吹(5)	SX-06		j	6	135×97×33-24	4800	なし	なし	灰褐色～黄褐色	鉄附着
64	68-26	雲谷山吹(5)	SI-05		b	5	177×84×26-26	1,0260	なし	なし	灰褐色～黄褐色	鉄附着
65	82-37	雲谷山吹(6)	SI-08		b	6	154×78×21-25	5320	なし	なし	灰褐色～黄褐色	
66	82-38	雲谷山吹(6)	SI-08		d	1	173×90×26-22	5660	なし	なし	黒褐色 灰褐色 黄褐色	末端がラッパ状に開いている 鉄附着
67	88-26	雲谷山吹(6)	SI-09		h	7	212×54×19	2400	なし	なし	黄褐色	末端がラッパ状に開いている

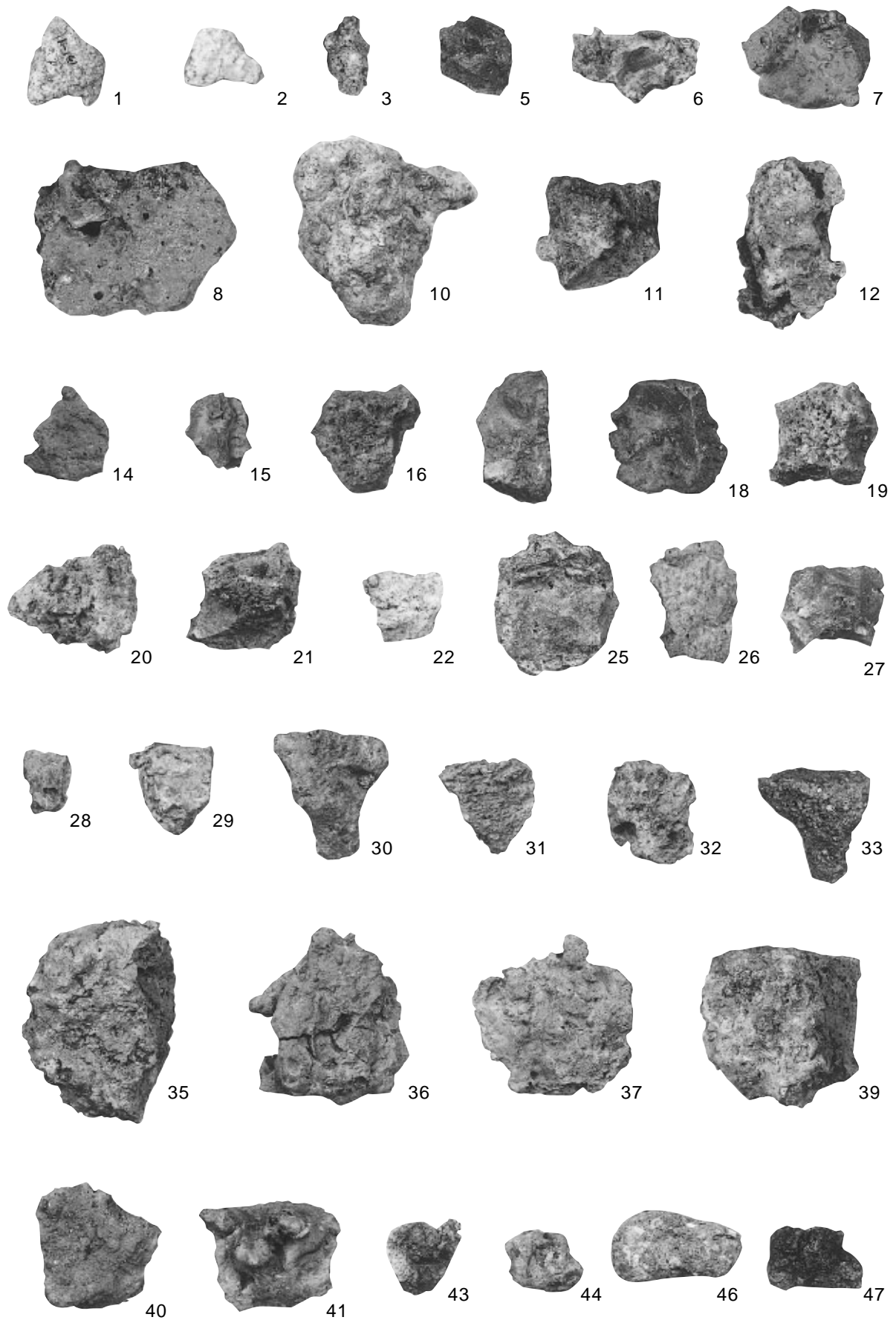


写真148 鉄関連遺物

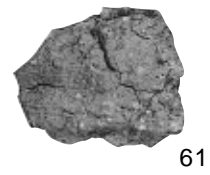
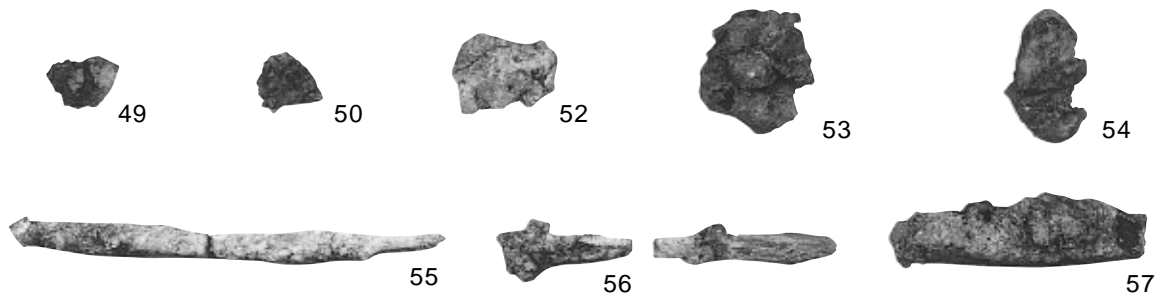
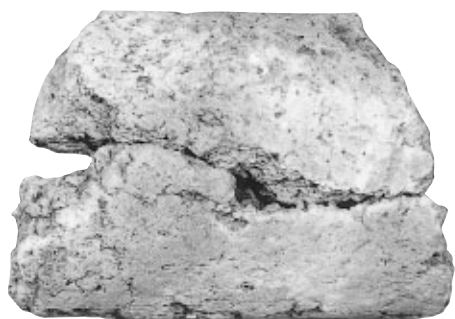


写真149 鉄関連遺物



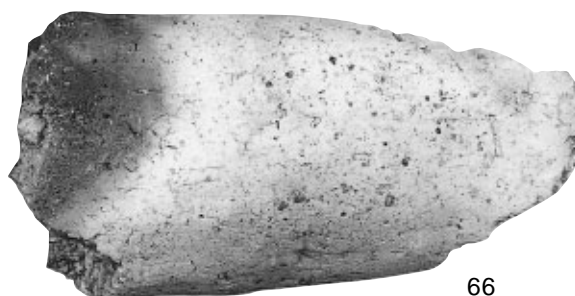
63



64



65



66



67

写真150 鉄関連遺物

結 語

雲谷山吹（４）～（７）遺跡は、平成12年度に実施した（仮称）青森市芸術創作工房（現国際芸術センター青森）予定地内試掘調査によって新規に発見された遺跡群である。周辺には、当委員会で発掘調査を実施した桜峯（１）遺跡や雲谷山吹（３）遺跡など縄文時代を主体とする遺跡が存在しており、予定地内における未発見の遺跡の所在の可能性について開発計画の具体化以前に一部の研究者によって指摘されていた。

試掘調査着手時が工事着工のわずか数ヶ月前という状況で遺跡が発見され、一般的に「埋蔵文化財保護と開発行為との円滑な調整」という理の下で行われる発掘調査が本遺跡群でも緊急的に実施された。48日間という短い期間で総調査面積5,162㎡、竪穴建物跡11軒、土坑65基、ピット316基、炉跡1基、溝跡3条、掘立柱建物跡2棟、その他の遺構5基を検出・精査という熾烈な内容となった。

決してこの調査が遺跡の記録保存としての十分な成果を得たとは認定できない状況ではあるが、これまで縄文時代の集落跡が点在すると認識されてきた雲谷地区の状況が、今回の調査で平安時代の集落跡が存在し、さらにその様相が9世紀後半以降に急増する青森市南部における平安時代の人々の集落の展開を知る上で欠くことのできない資料となり得た。

青森市南部に広がる八甲田山火砕流堆積物で構成される丘陵地は、いくつかの河川によって開析され、緩やかな丘陵となっており、本遺跡群の立地する横内川と合子沢川に挟まれた丘陵の西側には合子沢川と牛館川に挟まれた丘陵上に新町野遺跡と野木遺跡という本市を代表する集落跡が存在する。また、さらに西隣の牛館川と荒川に挟まれた丘陵上には葛野（２）遺跡及び葛野（３）遺跡が存在する。現在、葛野（３）遺跡は、青森市が造成を計画している八甲田霊園第２期工事に関連した試掘調査で、遺跡所在が判明し、平成13年度から本調査が実施され、大規模な面積を対象にした発掘調査が現在も継続されている。現時点の成果でも本市では数少ない弥生時代の遺構・遺物を検出・出土し、また、葛野（２）遺跡などと同様に平安時代においても多数の竪穴建物跡を検出しており、本市の歴史を知る上で欠くことのできない資料が今後得られるものと予想される。

本市の埋蔵文化財保護行政は、平成2年度から組織的に位置づけられたが、その施策や整備については未だ発展途上にある。現在の人々の生活の利便性をはかるための開発行為と埋蔵文化財保護との円滑な調整は、開発行為側の十分な理解を得られなければ、十分な保護の施策をはかることができないのも事実で、昨今の厳しい経済状況も伴い保護の施策において説明責任を果たしたとしても理解を得られることが難しい状況にある。

本書は調査経緯から発掘調査報告書刊行に至るまで数多くの問題が露呈した状況の報告書であるとも言える。

（木 村）

引用参考文献

- 青森県教育委員会 1980 『神明町遺跡発掘調査報告書』
- 青森県教育委員会 1987 『弥栄平(4)(5)遺跡』
- 青森県教育委員会 1988 『発茶沢(1)遺跡』
- 青森県教育委員会 1998 『新町野遺跡・野木遺跡』
- 青森県教育委員会 1998 『高屋敷館遺跡』
- 青森県教育委員会 1998 『隠川(4)・(12)遺跡』
- 青森県教育委員会 1999 『野木遺跡』
- 青森県教育委員会 2000 『野木遺跡』
- 青森県教育委員会 2001 『朝日山(2)遺跡』
- 青森県教育委員会 2002 『朝日山(2)遺跡』
- 青森県教育委員会 2002 『朝日山(2)遺跡』
- 青森県教育委員会 2002 『朝日山(2)遺跡』
- 青森県教育委員会 2002 『宮田館遺跡』
- 青森市教育委員会 1965 『四ツ石遺跡調査概報』
- 青森市教育委員会 1987 『横内城跡発掘調査報告書』
- 青森市教育委員会 1995 『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』
- 青森市教育委員会 1995 『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』
- 青森市教育委員会 1997 『市内遺跡分布調査報告書』
- 青森市教育委員会 1997 『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
- 青森市教育委員会 1998 『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』
- 青森市教育委員会 1998 『新町野遺跡発掘調査報告書』
- 青森市教育委員会 1998 『野木遺跡発掘調査報告書』
- 青森市教育委員会 1999 『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
- 青森市教育委員会 2000 『桜峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』
- 青森市教育委員会 2001 『新町野遺跡発掘調査報告書』・野木遺跡発掘調査報告書』
- 青森市教育委員会 2001 『市内遺跡発掘調査報告書』
- 青森市教育委員会 2002 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
- 五所川原市教育委員会 1998 『犬走須恵器窯跡発掘調査報告書』
- 五所川原市教育委員会 2000 『隠川(2)外遺跡発掘調査報告書』
- 五所川原市教育委員会 2002 『MZ6号窯跡』
- 伊藤武士 1997 「出羽における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第7号 pp.32 - 44
- 井上雅孝 1997 「陸奥における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第7号 pp.45 - 56
- 木村淳一 2001 「野木遺跡北地区における土師器生産」『野木遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第5分冊pp.559 - 572
- 沢田庄一郎 1977 「青森市周辺に分布する第四紀火山噴出物について」『青森地学』No.29 pp.1 - 4
- 鈴木政四郎 1955 『横内村誌』
- 中嶋友文 2002 「青森市野木遺跡のまとめ」『青森県埋蔵文化財調査センター研究紀要』第7号pp.1 - 14
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2001 「野木遺跡出土遺物の自然科学分析」『野木遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第54集第5分冊pp.501 - 510
- 松本建速 2001 「五所川原産須恵器の胎土分析」『物質文化』第71号 pp.1 - 21
- 三辻利一 2001 「野木遺跡出土土器の蛍光X線分析」『野木遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第54集第5分冊pp.441 - 452

報告書抄録

ふりがな	もやまぶきかっこよんからかっこないせきはくつちょうさほうこくしょ								
書名	雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書								
副書名									
巻次									
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ番号	第65集								
編著者名	木村淳一、設楽政健								
編集機関	青森市教育委員会								
所在地	〒030-8555 青森県青森市中央一丁目22-5 TEL 017-734-1111								
発行年月日	西暦2003年3月20日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (JGD2000)	東経 (JGD2000)	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
		市町村	遺跡 番号						
もやまぶき 雲谷山吹(4)	あおもりしおあざ 青森市大字 ごうしざわあざやまざき 合子沢字山崎 153-1	02201	303	40 (40°) 44 (44) 12 (21.6)	140 (140°) 46 (46) 35 (22.3)	20000821 ～ 20001014	2,042	公共施設 建設(国際 芸術セン ター青森 〔仮称青森 市芸術創作 工房〕)	
もやまぶき 雲谷山吹(5)	あおもりしおあざ 青森市大字 ごうしざわあざやまざき 合子沢字山崎 152-6	02201	304	40 (40°) 44 (44) 08 (17.7)	140 (140°) 46 (46) 30 (17.3)				
もやまぶき 雲谷山吹(6)	あおもりしおあざ 青森市大字 ごうしざわあざやまざき 合子沢字山崎 152-6	02201	305	40 (40°) 43 (44) 58 (7.7)	140 (40°) 46 (46) 25 (12.3)				1,883
もやまぶき 雲谷山吹(7)	あおもりしおあざ 青森市大字 ごうしざわあざやまざき 合子沢字山崎 153-1	02201	306	40 (40°) 44 (44) 00 (9.7)	140 (40°) 46 (46) 20 (7.3)				378
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
雲谷山吹(4)	集落跡	縄文	土坑 ピット	30基 198基	縄文土器 石器				
雲谷山吹(5)	集落跡	縄文 平安	竪穴建物跡 土坑 ピット 炉跡 基掘立柱建物跡	2軒 16基 30基 1 1棟	縄文土器 土師器 須恵器 羽口 鉄滓				
雲谷山吹(6)	集落跡	縄文 平安	竪穴建物跡 土坑 ピット 溝跡 掘立柱建物跡 その他	8軒 17基 86基 2条 1棟 4基	縄文土器 土師器 須恵器 羽口 鉄滓				
雲谷山吹(7)	集落跡	縄文 平安	竪穴建物跡 土坑 ピット 溝跡 その他	1軒 2基 2基 1条 1基	縄文土器 土師器 須恵器 鉄滓				

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財 1	1962「三内霊園遺跡調査概報」	”	第38集	1998「野木遺跡発掘調査報告書」
” 2	1965「四ツ石遺跡調査概報」	”	第39集	1998「市内遺跡詳細分布調査報告書」
” 3	1967「玉清水遺跡調査概報」	”	第40集	1998「小牧野遺跡発掘調査報告書」
” 4	1970「三内丸山遺跡調査概報」	”	第41集	1998「野木遺跡発掘調査概報」
” 5	1971「野木和遺跡調査報告書」	”	第42集	1998「熊沢遺跡発掘調査概報」
” 6	1971「玉清水 遺跡発掘調査報告書」	”	第43集	1999「市内遺跡詳細分布調査報告書」
” 7	1971「大浦遺跡調査報告書」	”	第44集	1999「葛野（2）遺跡発掘調査報告書」
” 8	1973「孫内遺跡発掘調査報告書」	”	第45集	1999「小牧野遺跡発掘調査報告書」
	1979「蚩沢遺跡」	”	第46集	1999「新町野・野木遺跡発掘調査概報」
	1983「四戸橋遺跡調査報告書」	”	第47集	1999「稲山遺跡発掘調査概報」
青森市の埋蔵文化財	1983「山野峠遺跡」	”	第48集	2000「熊沢遺跡発掘調査報告書」
”	1985「長森遺跡発掘調査報告書」	”	第49集	2000「稲山遺跡発掘調査概報」
”	1986「田茂木野遺跡発掘調査報告書」	”	第50集	2000「小牧野遺跡発掘調査報告書」
”	1987「横内城跡発掘調査報告書」	”	第51集	2000「桜峯（1）・雲谷山吹（3）遺跡発掘調査報告書」
”	1988「三内丸山 遺跡発掘調査報告書」	”	第52集	2000「大矢沢野田（1）遺跡調査報告書」
青森市埋蔵文化財調査報告書		”	第53集	2000「市内遺跡発掘調査報告書」
” 第16集	1991「山吹（1）遺跡発掘調査報告書」	”	第54集	2001「新町野遺跡発掘調査報告書・野木遺跡発掘調査報告書」
” 第17集	1992「埋蔵文化財出土遺物調査報告書」	”	第55集	2001「小牧野遺跡発掘調査報告書」
” 第18集	1993「三内丸山（2）遺跡発掘調査概報」	”	第56集	2001「稲山遺跡発掘調査報告書」
” 第19集	1993「市内遺跡発掘調査報告書」	”	第57集	2001「稲山遺跡発掘調査概報」
” 第20集	1993「小牧野遺跡発掘調査概報」	”	第58集	2001「大矢沢野田（1）遺跡発掘調査概報」
” 第21集	1994「市内遺跡詳細分布調査報告書」	”	第59集	2001「市内遺跡発掘調査報告書」
” 第22集	1994「小三内遺跡発掘調査報告書」	”	第60集	2002「小牧野遺跡発掘調査報告書」
” 第23集	1994「三内丸山（2）・小三内遺跡発掘調査報告書」	”	第61集	2002「大矢沢野田（1）遺跡発掘調査報告書」
” 第24集	1995「横内遺跡・横内（2）遺跡発掘調査報告書」	”	第62集	2002「稲山遺跡発掘調査報告書」
” 第25集	1995「市内遺跡詳細分布調査報告書」	”	第63集	2002「稲山遺跡発掘調査概報」
” 第26集	1995「桜峯（2）遺跡発掘調査報告書」	”	第64集	2002「市内遺跡発掘調査報告書」
” 第27集	1996「桜峯（1）遺跡発掘調査概報」	”	第65集	2003「雲谷山吹（4）～（7）遺跡発掘調査報告書」
” 第28集	1996「三内丸山（2）遺跡発掘調査報告書」			
” 第29集	1996「市内遺跡詳細分布調査報告書」			
” 第30集	1996「小牧野遺跡発掘調査報告書」			
” 第31集	1997「市内遺跡詳細分布調査報告書」			
” 第32集	1997「桜峯（1）遺跡発掘調査概報」			
” 第33集	1997「新町野遺跡試掘調査報告書」			
” 第34集	1997「葛野（2）遺跡発掘調査報告書」			
” 第35集	1997「小牧野遺跡発掘調査報告書」			
” 第36集	1998「桜峯（1）遺跡発掘調査報告書」			
” 第37集	1998「新町野遺跡発掘調査報告書」			

青森市埋蔵文化財調査報告書第65集 雲谷山吹（4）～（7）遺跡 発掘調査報告書

発行年月日 平成15年3月20日
 発行 青森市教育委員会
 〒030-8555 青森市中央一丁目22-5
 TEL 017-734-1111
 印刷 第一印刷株式会社
 〒038-0003 青森市石江字江渡3-1
 TEL 017-782-2333